上恵土城跡・浦畑遺跡　（本文編）

二〇〇六

財団法人　岐阜県教育文化財団

岐阜県教育文化財団文化財保護センター
調査報告書　第101集

上恵土城跡・浦畑遺跡

（本文編）

２００６
財団法人岐阜県教育文化財団

序

御嵩町は、岐阜県の南部、やや東寄りに位置し、濃尾平野の北東にあたる可茂盆地の一角を担う平坦地とそれを取りまく丘陵地から成ります。この町の中を清らかな可児川が西流し、その周りには緑豊かな自然と数多くの文化財が残っています。そして今なお、旧中山道周辺や宿場町として栄えた伏見宿・御嵩宿周辺には情緒ある街並みが残り、人々の暮らしにも風情と人情が感じられます。

このたび、国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所による一般国道21号可児御嵩バイパス建設に伴い、事業の範囲にかかる遺跡について記録保存をすることとなりました。本報告書は平成13・14・15年度に実施した「上恵土城跡・浦畑遺跡」の発掘調査の成果をまとめたものです。今回の調査では、鎌倉時代から江戸時代にかけて、掘立柱建物跡や井戸跡をはじめ土塁・カマド跡・柱穴列・貯蔵施設と考えられる甕の埋設穴などが見つかり、上恵土城跡の城館・集落、浦畑遺跡の集落の変遷・様相について、伺い知ることができました。

また、鎌倉時代から室町時代にかけての白瓷系陶器をはじめ、古瀬戸陶器・土師器・常滑陶器・近世陶磁器など豊富な器種の遺物が出土しました。これは、中世から近世にかけて、城館・集落の変遷を知るうえで貴重な資料となりました。

本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成にあたりまして、多大な御支援・御協力をいただいた関係諸機関並びに関係者各位、御嵩町教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成18年３月

財団法人岐阜県教育文化財団
理事長　日　比　治　男

例　言

1　本書は、岐阜県可児郡御嵩町上恵土地内に所在する上恵土城跡（岐阜県遺跡番号 21521-07317）・浦畑遺跡（岐阜県遺跡番号 21521-09631）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、一般国道21号可児御嵩バイパス建設に伴うもので、国土交通省中部地方整備局から岐阜県が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター（平成14年度までは財団法人岐阜県文化財保護センター）が実施した。

3　発掘調査は宇野隆夫国際日本文化研究センター教授の指導のもとに、平成13・14・15年度に実施した。整理作業は15・16・17年度に実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当などは、本書第１章第２節に一括掲載した。

5　本書の執筆は、第２章第１節は藤岡比呂志が、第２節は小野木学が、それ以外は鵜飼高男が行った。

6　発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削、遺物の洗浄・注記、地形測量・空中写真測量などの業務は、株式会社ＧＩＳ中部に委託して行った。

7　遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。

8　自然科学分析（放射性炭素年代測定、花粉化石群集、樹種同定）は、株式会社パレオ・ラボに委託して行った。

9　発掘調査及び報告書の作成にあたって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・五十音順）
栗谷本真、財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター、瀬戸市教育委員会、中野晴久、長屋幸二、藤澤良祐、堀正人、松岡千年、 御嵩町教育委員会

10　本文中の方位は、世界測地系の座標北を示している。

11　土層及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄1998『新版　標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。

12　調査記録及び出土遺物は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターが保管している。

目　　次（本文編）

序
例言
第１章　調査の経緯
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査の経過と方法……2
第２章　遺跡の環境
　第１節　地理的環境……8
　第２節　歴史的環境……9
第３章　遺構
　第１節　基本層序 ……14
　第２節　遺構の概要 ……16
　第３節　上恵土城跡の遺構 ……22
　第４節 浦畑遺跡東区の遺構……36
　第５節 浦畑遺跡西区の遺構……62
　　各遺構一覧 ……80
　　遺構出土遺物破片数……128
第４章　遺物
　第１節　遺物の概要……138
　第２節　土器・土製品……140
　第３節 木製品 ……173
　第４節 石器・石製品 ……175
　第５節 金属製品・銭貨 ……175
　　各遺物観察……177
第５章　自然科学分析
　第１節 放射性炭素年代測定 ……207
　第２節 花粉化石群集 ……209
　第３節 樹種同定 ……214
第６章　総括
　第１節 遺構の変遷 ……219
　第２節 遺物の分析 ……223
　第３節 まとめ ……229
引用・参考文献……230
報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第２図　調査区・グリッド設定図・・・・・・・・・・ 2
第３図　Ａ・Ｂ地区試掘トレンチ設定図 ・・・・・ 3
第４図　Ｃ・Ｅ・Ｆ地区試掘トレンチ設定図 ・・ 4
第５図　Ｇ・Ｈ地区試掘トレンチ設定図 ・・・・・ 5
第６図　周辺遺跡位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
第７図　調査区周辺の明治時代の地籍図 ・・・・・ 13
第８図　調査区周辺の小字名 ・・・・・・・・・・・・・ 13
第９図　調査区周辺の土地利用状況 ・・・・・・・・・ 13
第10図　調査区周辺の細長い地割り ・・・・・・・・・ 13
第11図　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
第12図　浦畑遺跡東区（Ｇ・Ｅ地区）遺構配置図・ 20
第13図　上恵土城跡（Ａ・Ｆ地区）遺構配置図 ・・ 20
第14図　浦畑遺跡西区（Ｈ・Ｂ・Ｃ・Ｄ地区）
遺構配置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
第15図　各地区の時期別土器出土量構成比・・・・ 138
第16図　土器・土製品の部位名称・・・・・・・・・・ 140
第17図　花粉化石分布図（上恵土城跡）・・・・・・・ 212
第18図　花粉化石分布図（浦畑遺跡）・・・・・・・・・ 213
第19図　Ⅰ期：中世前期の主な遺構 ・・・・・・・・・ 220
第20図　Ⅱ期：中世後期の主な遺構 ・・・・・・・・・ 220
第21図　Ⅲ期：中世末期の主な遺構 ・・・・・・・・・ 220
第22図　Ⅳ～Ⅵ期：近世の主な遺構 ・・・・・・・・・ 221
第23図　両遺跡調査区と上恵土城跡周辺の
細長い地割り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 222

付表目次

第１表　周辺の遺跡一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
第２表　検出した遺構数 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
第３表　土器編年対照表 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
第４表　遺構一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
第５表　掘立柱建物跡遺構一覧 ・・・・・・・・・・・・ 121
第６表　柱穴列遺構一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 121
第７表　井戸跡遺構一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 122
第８表　水溜め状遺構一覧・・・・・・・・・・・・・・・ 122
第９表　溝跡遺構一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 123
第10表　遺構出土遺物破片数 ・・・・・・・・・・・・・ 128
第11表　地区別遺物出土量・・・・・・・・・・・・・・・ 138
第12表　土器・土製品分類・・・・・・・・・・・・・・・ 139
第13表　木製品分類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 139
第14表　石器・石製品分類・・・・・・・・・・・・・・・ 139
第15表　金属製品分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 139
第16表　土器・土製品観察表 ・・・・・・・・・・・・・ 177
第17表　木製品観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 204
第18表　石器・石製品観察表 ・・・・・・・・・・・・・ 205
第19表　石製品（砥石）観察表 ・・・・・・・・・・・・ 206
第20表　石製品（石臼）観察表 ・・・・・・・・・・・・ 206
第21表　金属製品観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
第22表　銭貨観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
第23表　放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 208
第24表　花粉化石産出一覧（上恵土城跡）・・・・・ 211
第25表　花粉化石産出一覧（浦畑遺跡東区）・・・ 212
第26表　ＳＨ25掘立柱建物跡のカマド施設
から出土した炭化材の樹種同定結果 ・・ 215
第27表　出土した炭化材・木製品の樹種同定結果・ 216
第28表　白瓷系陶器（碗・皿）の地区・窯式別出土量
（底部残存率より算出）・・・・・・・・・・・・ 225
第29表　大窯の地区・段階別出土量
（口縁部残存率より算出）・・・・・・・・・・ 227
第30表　中世末期の地区別遺物・産地組成・・・・ 228
第31表　連房陶器の地区・段階別出土量
（口縁部残存率より算出）・・・・・・・・・・ 228

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

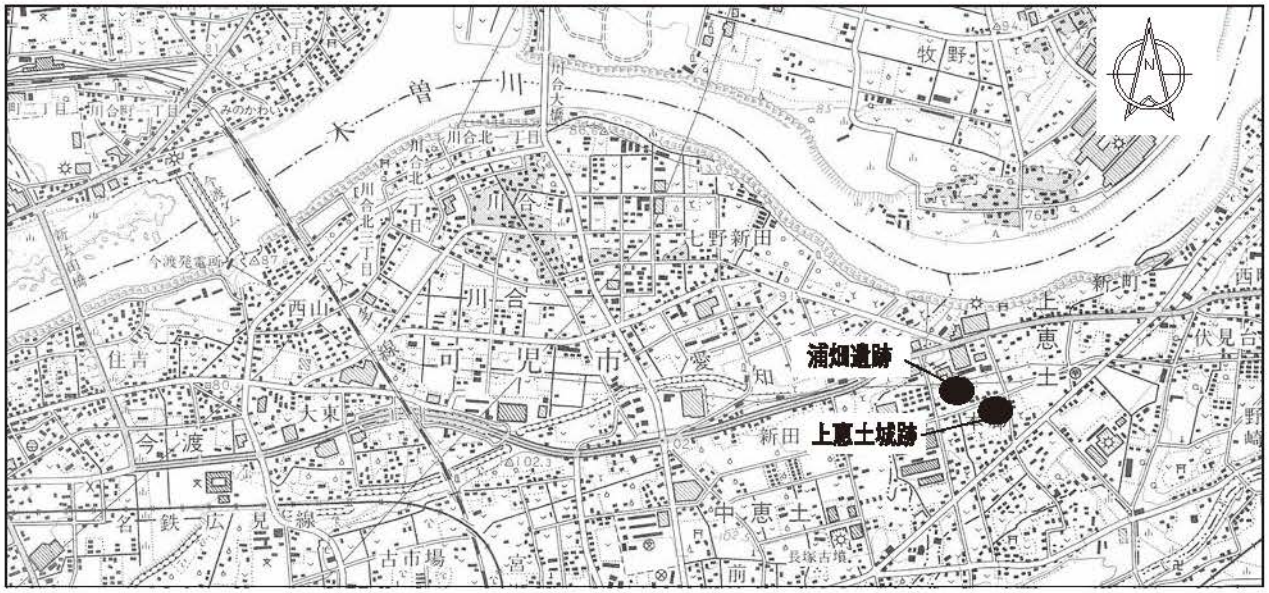
上恵土城跡・浦畑遺跡は、岐阜県可児郡御嵩町上恵土地内に所在し、北側を木曽川、南側を可児川に挟まれた河岸段丘上の中位面に位置する。両遺跡が本発掘調査の対象となったのは当地域で進められている一般国道21号可児御嵩バイパス建設に伴うことによるものである。

工事予定地内には、上恵土城跡の存在が知られており、平成12年８月・13年１月に岐阜県教育委員会社会教育文化課と当センターは、「改訂版岐阜県遺跡地図」（岐阜県教育委員会1990）に登録されている上恵土城跡の範囲、及び上恵土城跡の範囲ととらえて北西地区を試掘確認調査した。その北西地区からは、中世のカマド跡・土間状遺構・土坑・ピット・溝などの遺構や白瓷系陶器・古瀬戸陶器など13～14世紀頃の遺物を確認し、15～16世紀頃の「上恵土城跡」とは別の時期の遺跡であることが判明した。その後、岐阜県教育委員会は、上恵土城跡の北西地区を新たに「浦畑遺跡」（岐阜県遺跡番号21521-09631）として登録した。

これらの結果を踏まえて、平成12年度岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会で試掘確認調査を検討し、上恵土城跡500㎡、浦畑遺跡1,000㎡が平成13年度の本発掘調査の対象となった。

その後、平成13・14年度の試掘確認調査により、中近世の溝跡・土塁・土坑などの遺構や白瓷系陶器・古瀬戸陶器・瀬戸美濃連房陶磁器など中近世陶磁器の遺物を確認し、本発掘調査を必要とする範囲を確定した。両年度中にも、岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会を開催し、平成14年度内に上恵土城跡1,185㎡、浦畑遺跡3,515㎡を、平成15年度内に浦畑遺跡1,740㎡を、本発掘調査の対象とした。

以上の経緯により、国土交通省中部地方整備局から岐阜県が委託を受け、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターが、計7,940㎡の本発掘調査を実施することとなった。



第１図　遺跡位置図（S＝1/25,000、国土地理院発行1:25,000「美濃加茂」）　0　1000m

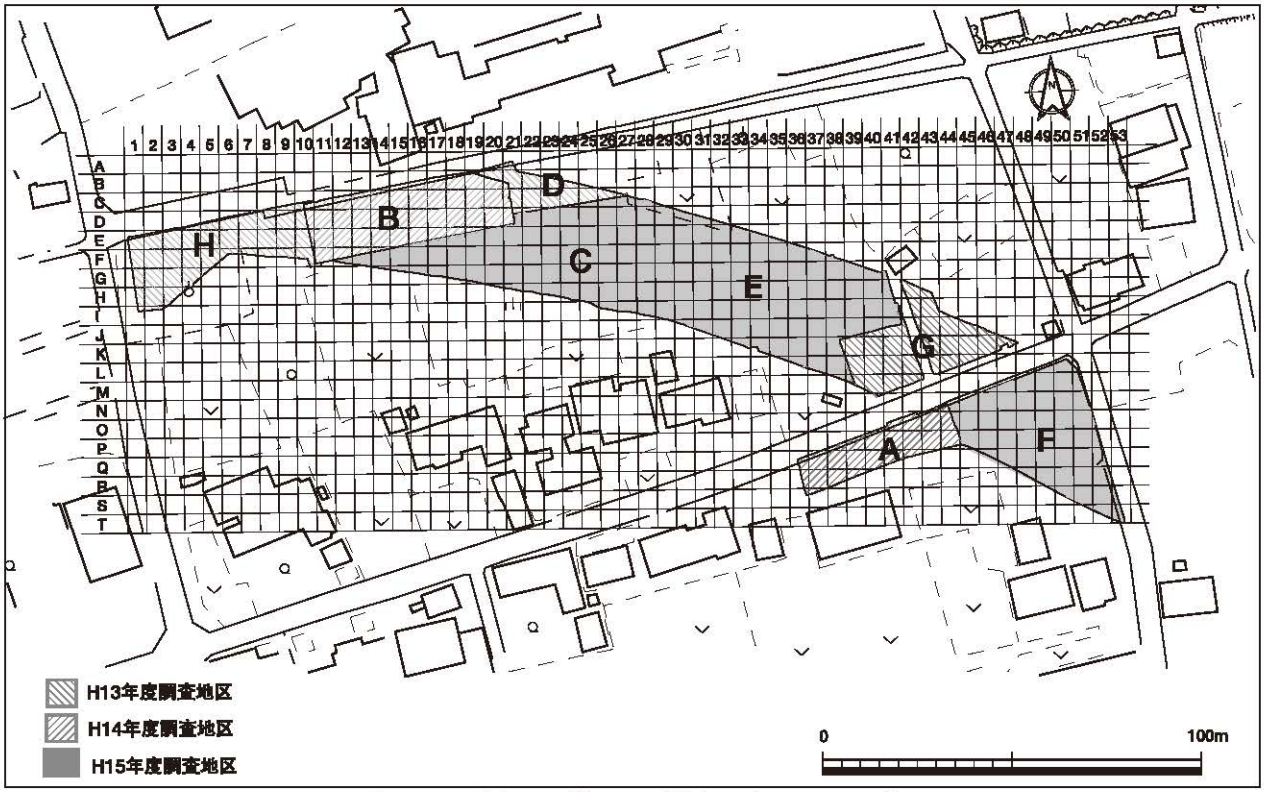
第２節　調査の経過と方法

１　調査の経過と方法の詳細

調査区は東西に長く、平成12年度の試掘確認調査から平成13年度の本発掘調査Ａ・Ｂ地区の調査区を確定した。以後、平成13年度の試掘確認調査より平成14年度の本発掘Ｃ・Ｅ・Ｆ地区を、平成14年度の試掘確認調査より平成15年度の本発掘Ｄ・Ｇ・Ｈ地区を確定した。このような経緯で、Ａ～Ｈの８地区に分けた（第２図）。Ａ・Ｂ地区の計1,500㎡の本発掘調査は、平成13年５月28日～平成13年12月26日の間に行った。Ｃ・Ｅ・Ｆ地区の計4,700㎡の本発掘調査は、平成14年５月14日～平成15年３月６日の間に行い、Ｄ・Ｇ・Ｈ地区の計1,740㎡の本発掘調査は、平成15年５月９日～平成15年12月９日の間に行った。この３箇年の本発掘調査の詳細については、後述の調査日誌抄を参照されたい。

調査区画は世界測地系に合わせて５ｍ×５ｍのグリッドを設定した。グリッドの名称は、北西端を基準として、西から東へ１～53、北から南へＡ～Ｔとした。上恵土城跡は調査区でいうと、Ａ・Ｆ地区にあたり、浦畑遺跡は、Ｈ・Ｂ・Ｄ・Ｃ・Ｅ・Ｇ地区にあたる。

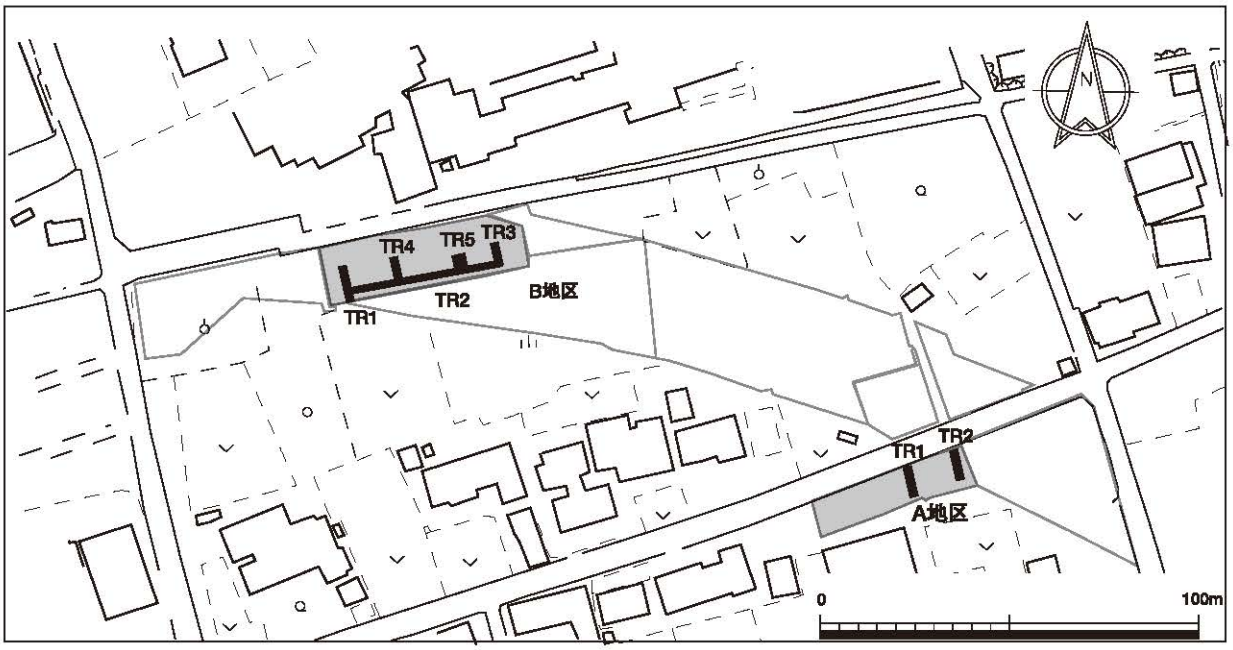
遺構掘削は、溝跡、土間状遺構、土坑など長軸が１ｍを超えるものについては土層観察ベルトを残しつつ、遺構の底まで掘り下げ、埋没状況を確認した後、ベルトを除去して完掘した。ピットなど長軸が１ｍ未満のものに対しては半割を行い、柱痕跡の有無や埋没状況を記録した後、残りを掘り下げた。遺構名は遺構検出時に、調査区名と通し番号で表した。整理段階で遺構の性格を検討し遺構番号をつけたため、欠番にした遺構名がある。出土遺物の取り上げ方法は、遺物包含層を人力で除去した際にはグリッド単位で行い、遺構内出土遺物は覆土の層位別に行った。ただし、個別遺構の情報を図化・記録する場合には極力トータルステーションによる出土位置の記録に努めた。



第２図　調査区・グリッド設定図（S=1/2,000）

平成12年度の試掘確認調査について

８月29日　Ａ(500㎡)・Ｂ(1,000㎡)の調査対象面積中、90㎡の試掘確認調査を開始する(第３図)。Ｂ地区では、中世の建物跡・集石遺構を検出した。Ａ地区では中世の溝と柱穴を確認した。溝は地籍図の地割り等により、上恵土城の堀の一部ではないかと考えた。この試掘確認調査により本発掘調査を必要とする範囲を確定した。



第３図　Ａ・Ｂ地区試掘トレンチ設定図（S＝1/2,000）

平成13年度　・・・・・・・・　Ａ・Ｂ地区：1,500㎡

本発掘調査1,500㎡

５月28日　Ｂ地区の表土掘削を開始。

６月４日　遺物包含層掘削を開始。

６月12日　Ⅲ層上面にて遺構を検出。

６月26日　カマド跡(Ｂ369)を検出。

６月28日　遺構検出全景の写真撮影。

６月29日　遺構掘削を開始。

８月６日　南半分のピット半割を終了。

８月20日　カマド跡(Ｂ369)から縁釉小皿・山茶碗・土師器等の遺物が出土。

８月29日　Ｂ地区のピットを完掘し、Ａ地区の表土掘削を開始。

９月４日　国際日本文化研究センター教授：宇野隆夫氏の指導。

９月12日　Ｂ地区の掘立柱建物跡を確認し、Ａ地区の遺構検出を開始。

９月27日　Ｂ地区の空中写真撮影を実施する。

10月３日　Ａ地区の遺構再検出を実施。

10月９日　水溜め状遺構(Ａ118)から、中近世の陶磁器が多量に出土。

10月13日　現地説明会を開催。見学者200名。

10月23日　Ｂ地区で６棟の掘立柱建物跡を確認し、新たに柱穴列２条を確認。

10月29日　Ｂ地区の埋め戻しを開始。

11月５日　Ａ地区の遺構掘削を実施。

11月12日　溝跡（Ａ１）の掘削を開始。　11月20日　水溜め状遺構（Ａ118）の北半分を掘削。

12月11日　Ａ地区の空中写真撮影を実施。（Ａ地区：水溜め状遺構の南北ベルトを残す。）

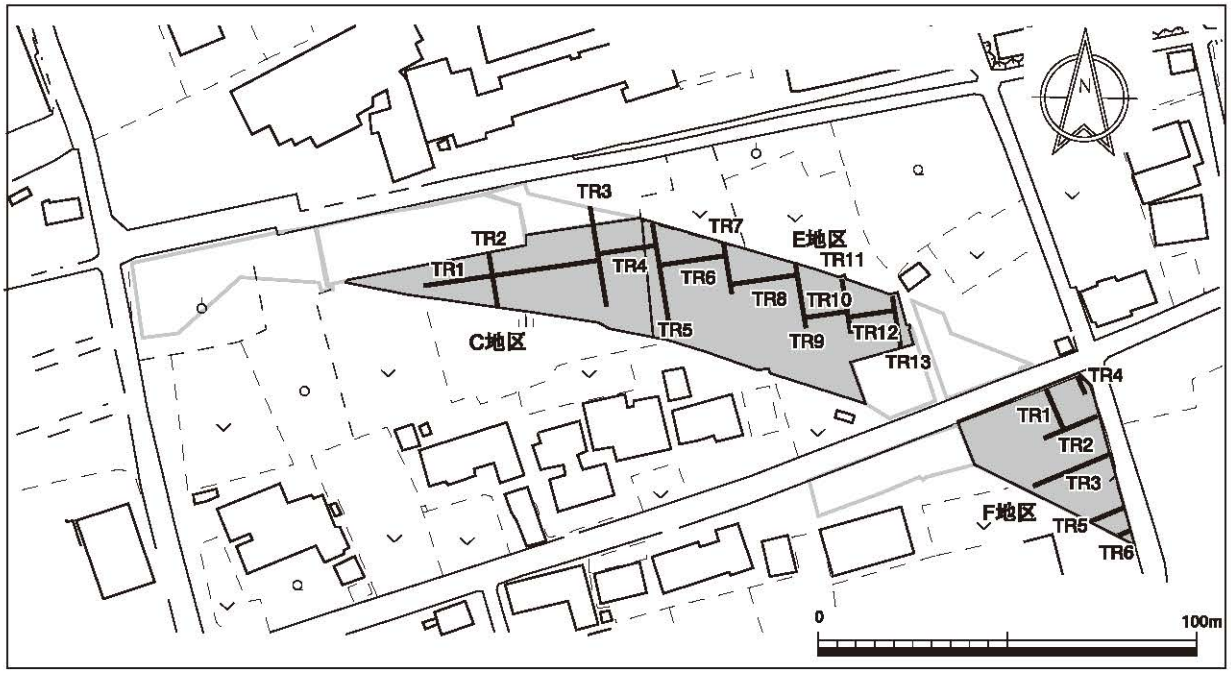
12月12日　水溜め状遺構（Ａ118）の周りの礫や南北ベルトの取り外し。

12月19日　現場発掘作業を終了。　12月26日　Ａ・Ｂ地区埋め戻し作業を終了。

試掘確認調査300㎡

６月13日　Ｅ地区の試掘トレンチの調査。　７月26日　Ｆ地区の試掘トレンチの調査。

11月５日　Ｃ・Ｅ地区の試掘トレンチの調査。



第４図　Ｃ・Ｅ・Ｆ地区試掘トレンチ設定図（S＝1/2,000）

平成14年度　・・・・・・・・　Ｃ・Ｅ・Ｆ地区：4,700㎡

本発掘調査4,700㎡

５月14日　Ｆ地区の表土掘削開始。　５月20日　遺物包含層掘削を実施。

５月23日　遺構検出。　５月27日　遺構検出全景の写真撮影。

５月29日　Ｆ地区の遺構掘削開始。

６月６日　井戸跡（F134）を検出し掘削。Ｆ地区の礫が入った溝（F50）の掘削。

６月10日　遺構再検出全景の写真撮影。　７月３日　Ｆ地区の遺構掘削開始。

７月８日　Ｅ地区の表土掘削開始。

７月26日　国際日本文化研究センター教授：宇野隆夫氏の指導。

７月31日　タイムスリップ探検隊開催。23組50名の親子が発掘体験。

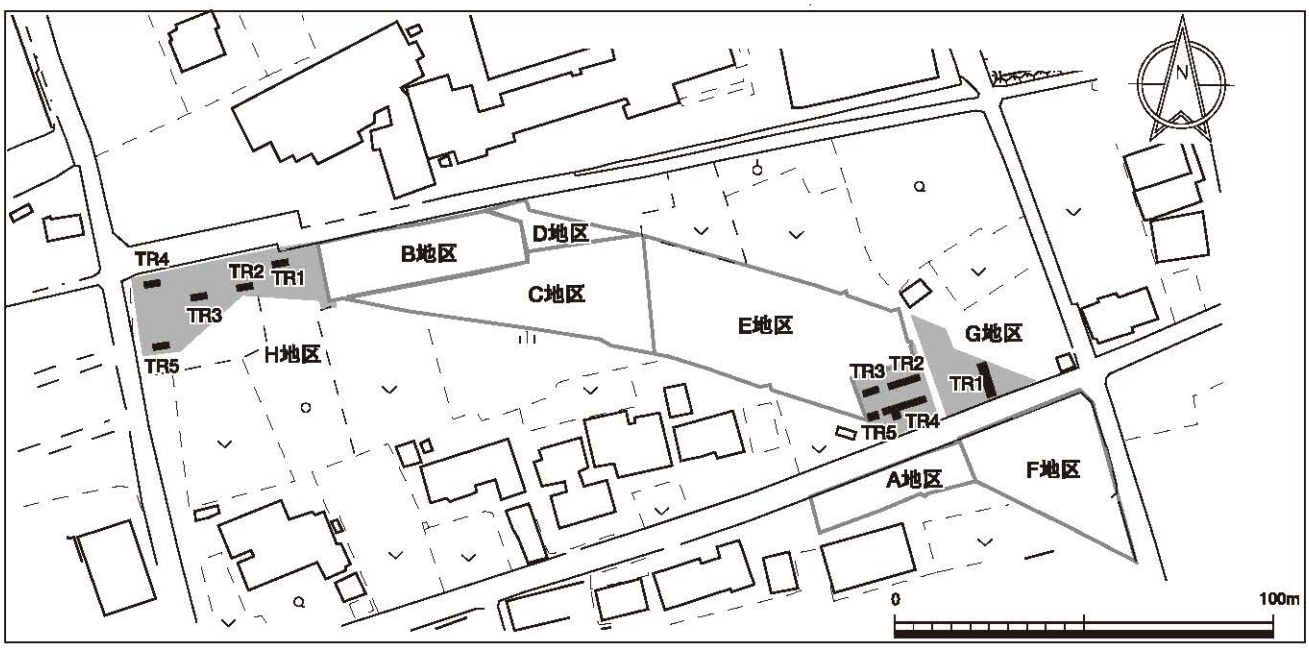
８月６日　Ｆ地区の礫が入った状態での全景を撮影。

８月22日　Ｆ地区の空中写真撮影を実施。　８月28日　Ｅ地区の遺物包含層掘削開始。

９月５日　Ｅ地区の遺構検出開始。　９月12日　遺構検出とともに攪乱掘削開始。
９月19日　礫が入った溝（Ｅ１）の掘削。　９月24日　礫が入った溝（Ｅ１）の掃除。
10月10日　各務原市立中央中学校の生徒４名、Ｅ地区にて職業体験学習に参加。
10月11日　師勝町文化課社会教育講座30名参加。Ｆ・Ｅ地区の遺構を説明。
10月15日　Ｆ地区の埋め戻しを開始。　10月24日　Ｃ地区の表土掘削開始。
11月11日　Ｅ地区、礫が入った溝（Ｅ520.521）のトレンチを設定、ベルトを残し掘削を開始。
11月19日　Ｃ地区西側より、遺構検出開始。　11月21日　Ｃ地区の遺構検出全景の写真撮影。
11月22日　Ｃ地区の遺構掘削を開始。
12月３日　国際日本文化研究センター教授：宇野隆夫氏の指導。
12月12日　礫が入った溝（Ｃ474.475）のトレンチを設定し、調査。
１月７日　礫が入った溝（Ｅ520.521）の平面実測を開始。
２月４日　Ｃ・Ｅ地区の空中写真撮影を実施。　２月８日　現地説明会を開催。見学者120名。
２月20日　現場発掘作業を終了。　２月24日　Ｃ・Ｅ地区の埋め戻し作業を開始。
３月６日　埋め戻し作業を終了。

試掘確認調査100㎡

５月29日　Ｇ地区の試掘確認調査を実施。　２月10日　Ｈ地区の試掘確認調査を実施。



第５図　Ｇ・Ｈ地区試掘トレンチ設定図（S＝1/2,000）

平成15年度　・・・・・・・・　Ｄ・Ｇ・Ｈ地区：1,740㎡

５月９日　Ｄ地区の表土掘削を開始。　５月29日　Ｄ地区の遺物包含層掘削を開始。
５月16日　Ｄ地区の遺構検出を実施。　５月21日　礫が入った溝（Ｄ32.33）を掘削。

６月11日　Ｄ地区の遺構掘削をほぼ終了。Ｇ地区の遺物包含層掘削を開始。
６月30日　Ｇ地区東の遺構検出全景の写真撮影。　７月３日　Ｇ地区東の遺構掘削を開始。
７月16日　中世井戸跡を検出し、掘削を開始。　８月２日　Ｇ地区西の遺構検出全景の写真撮影。
８月５日　瑞穂市立巣南中学校１・２年生体験学習を実施。
９月４日　Ｇ地区の礫が入った溝(Ｇ301)の掘削を開始。甕の埋設穴を検出。
９月11日　Ｈ地区の表土掘削を開始。
９月16日　国際日本文化研究センター教授：宇野隆夫氏の指導。
10月２日　Ｇ地区全景の写真撮影。礫が入った溝(Ｇ301)の礫を取り外す。
10月21日　Ｄ・Ｇ地区の空中写真撮影を実施。　10月26日　現地説明会を開催。見学者99名。
10月27日　Ｈ地区の遺構検出の写真撮影。　11月７日　土墨上層部分まで掘削。
11月26日　土墨本体まで下げ、検出全景の写真撮影。土墨本体掘削開始。
12月２日　土墨の完掘。　12月４日　Ｈ地区の空中写真撮影を実施。
12月９日　Ｇ地区の埋め戻し作業を終え、現場作業終了。

２　遺跡・遺物の公開・広報

発掘調査期間が３箇年に及ぶ中、その期間における主な遺跡・遺物の公開・広報について示す。

平成13年度については、平成13年10月９日に、Ｂ地区についての記者発表を行い(可児記者クラブ・多治見市政記者クラブ)、10月13日に現地(Ｂ地区)において、現地説明会を行い200名の見学者があった。

平成14年度については、平成15年２月４日に、Ｃ・Ｅ地区についての記者発表を行い(県政記者クラブ・可児記者クラブ・多治見市政記者クラブ)、２月８日に現地(Ｃ・Ｅ地区)において、現地説明会を行い120名の見学者があった。

平成15年度については、平成15年10月21日に、Ｄ・Ｇ地区についての記者発表を行い(県政記者クラブ・可児記者クラブ・多治見市政記者クラブ)、10月26日に現地(Ｄ・Ｇ地区)において、現地説明会を行い99名の見学者があった。

平成17年度については、平成17年11月15日～12月18日に、岐阜県博物館にて開催した「発掘速報展～発掘された飛騨・美濃の歴史～」において主要な遺物の展示と解説を行った。

平成15年２月８日：現地説明会

平成15年10月26日：現地説明会

3　遺物・調査記録の整理作業

平成16年１月～18年３月までに、出土遺物・調査記録の整理作業を行った。作業の流れは次の通りである。

遺物の洗浄→遺物の注記→土器の接合・補強・補修→遺物の実測・観察表の作成→

遺構・遺物実測図の製図→遺物の写真撮影→図版作成→遺物・調査記録の収納・保管

なお、本報告書本文の執筆・編集は、上記の作業と並行して行い、自然科学分析については適宜実施した。

4　発掘調査及び整理作業の体制

理事長	服部卓郎（平成13・14年度）、日比治男（平成15～17年度）
副理事長	髙橋宏之（平成15～17年度）
副理事長	平光明彦（平成15～17年度）
専務理事兼事務局長	成戸宏二（平成13・14年度）
常務理事兼センター所長	福田安昭（平成13～16年度）、田口久之（平成17年度）
経営部次長兼経営課長	福田照行（平成13・14年度）
経営課長	川瀬崇敏（平成15～17年度）
調査部長	武藤貞昭（平成13～15年度）、川部誠（平成16・17年度）
調査次長	片桐隆彦（平成13・14年度）
担当調査課長	柘植卓伸（平成13年度）、藤岡比呂志（平成14～16年度） 大熊厚志（平成17年度）
担当調査員	野村元次（平成13・14年度）、鵜飼高男（平成14～17年度）
整理作業従事者	今尾さち子、今津理、國井悦子、菅原祐子、常富由美子、杉原麻記、林浩美、山下恭子、渡辺泉

遺物取り上げ作業

遺構掘削作業

遺構・遺物実測作業

遺構デジタル計測作業

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

上恵土城跡・浦畑遺跡は、可児市市街地から北東へ約1.8㎞のところにある。遺跡は、木曽川及び飛騨川によって形成された平地が広がり、木曽川と飛騨川の合流部が北西へ約２㎞のところにある。遺跡の標高はおよそ106～108ｍで、木曽川の水面からの比高差は30ｍ程である。

遺跡がある平地には、木曽川(飛騨川も含む)によって形成された河岸段丘が何段も存在する。そして、それらの段丘は主に西南西ー東北東に長く広がっている。平地を取り囲むようにして山地が存在するが、木曽川と飛騨川の合流部付近は、平地を除いた南及び北側において、比較的なだらかな山を形成している。平地の南側の山地は150～220ｍ、北側の山地は150～200ｍの山頂を持つ山々である。合流部から10km上流部では、木曽川、飛騨川いずれの近辺にも400～500ｍの山頂を持つ山々が存在する。

美濃加茂市～可児市、御嵩町伏見に広がる平地は、約30万年前より後の時代に古木曽川や古飛騨川によって運搬された礫層や砂層でできている。その地層は、侵食と堆積が繰り返した結果，何段もの河岸段丘を形成した。一方、平地の周囲において、北部及び西部は主に美濃帯堆積岩類のチャート・砂岩・泥岩よりなる。北部の一部と南部は、新第三紀堆積岩類である瑞浪層群よりなり、主に北部の一部に広がる蜂屋累層を除いては、侵食を受けやすい岩相からなっている。つまり、平地部は木曽川や飛騨川が、美濃帯堆積岩類から新第三紀堆積岩類である瑞浪層群の分布域に流下している部分であり、侵食しやすいところである。

平地に何段も段丘が存在することは述べたが、大きく高位段丘、中位段丘、低位段丘に分けられる。そして、それぞれの段丘においてさらに何段か細分される。当遺跡は、その中の中位段丘面上にある。当遺跡周辺に分布する段丘面は恵土面と呼ばれ、西北西にある美濃加茂市加茂野に広がるもう１つの中位段丘面より２～３ｍ低い。恵土面を構成するのは、恵土礫層とその上位に載る凝灰角礫岩層（木曽川泥流堆積物）である。恵土礫層は円礫層よりなり、まれに薄い砂層を挟む。層厚は５～８ｍである。礫は巨礫～大礫で、礫の種類は濃飛流紋岩を主体とし、ほかに美濃帯堆積岩類のチャートや砂岩、泥岩、花こう岩、安山岩、花こう斑岩などを含む。

木曽川泥流堆積物は層厚３～５ｍである。基質(礫岩以外の部分)はシルト～粘土質で、なかの礫が取り出せないくらいよくしまっており、火山性の鉱物を豊富に含む。なかに含まれる礫は、径が５～40㎝で、乱雑に混じり合っている。礫の種類は安山岩を主体とし、亜角礫である。他には濃飛流紋岩や美濃帯堆積岩類の岩石が入るが、いずれも円礫で、量的に少ない。本層はほぼ現在の木曽川に沿って144㎞にわたって点々と分布する。木曽川泥流堆積物の年代は、^{14}C年代より約５万年前の値を出している。

段丘面は、本来砂礫層からなっているため水はけはよいのであるが、遺跡がある中位段丘面には上位に木曽川泥流堆積物が載るため、水はけが悪い。ただし、その木曽川泥流堆積物の中にも地下水の通りやすい場所があるため、井戸を掘ることによって水を得ることができたようだ。ただし、基本的

には木曽川泥流堆積物は不透水層であり、その下の砂礫層(恵土礫層)は透水層であるため、常に水を得るためには木曽川泥流堆積物を貫く必要がある。

参考文献

鹿野勘次 1989　『美濃加茂周辺地域の第四系．岐阜県地学教育、Vol.26』P11～24.

吉田史郎・脇田浩二 1999　『岐阜地域の地質．地域地質研究報告』地質調査所、P71.

第２節　歴史的環境

１　周辺の遺跡

上恵土城跡・浦畑遺跡周辺には周知の遺跡が数多く存在している(第１表・第６図)。そのうち、発掘調査によって性格が明らかとなった遺跡も多く、ここでは、それらを中心に時代順に概略を述べる。なお、第６図は『改訂版岐阜県遺跡地図』(岐阜県教育委員会1990・2001)を基に作成し、遺跡の説明は各市町村史や発掘調査報告書を参考とした。また、以下の遺跡番号は、第１表、第６図に対応する。

旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡は、主に木曽川流域と可児川流域に分布している。このうち牧野小山遺跡(15)、宮之脇遺跡(16)では、縄文時代中期を中心とする竪穴住居跡が多数検出され、貴重な成果を得た。

弥生時代の遺跡は、主に木曽川流域と可児川流域、飛騨川流域に分布している。このうち牧野小山遺跡(15)では、弥生時代中期の竪穴住居跡が多数検出され、良好な状態で土器や石器が出土している。また、神崎山古墳(106)は、弥生時代の墳丘墓とされている。

古墳時代になると遺跡数が増加し、その分布は河川の流域以外に沖積地や丘陵地周辺にまで及ぶ。古墳については、前期から後期にかけての可児地域の首長墓が分布する。具体的には、前方後方墳である高倉山古墳(46)、西寺山古墳(61)、東寺山１号古墳(75)、東寺山２号古墳(76)、全長72ｍの前方後円墳である長塚古墳(60)、大正年間に滅失した全長63ｍの前方後円墳とされる伏見狐塚古墳(70)、内行花文鏡やだ龍鏡、鍬形石、石製模造品等、豊富な遺物が出土した身隠御嶽古墳・身隠白山古墳(78)、一つの古墳に複数の石室が築かれた次郎兵衛塚１号古墳(20) などであり、当遺跡周辺には地域の有力者が長期間存在していたと思われる。一方、集落跡については、牧野小山遺跡(15)、宮之脇遺跡(16)、欠ノ上遺跡(62)等で発掘調査が行われており、牧野小山遺跡と宮之脇遺跡では前期から後期までの竪穴住居跡が多数検出されている。

古代の遺跡は、再び木曽川流域と可児川流域、飛騨川流域に分布が限られる。そのうち宮之脇遺跡(16)は、焼塩土器・製塩土器の出土総個体数が439個体と極めて多く、当遺跡が地域の流通拠点であったことを裏付ける資料として注目される。

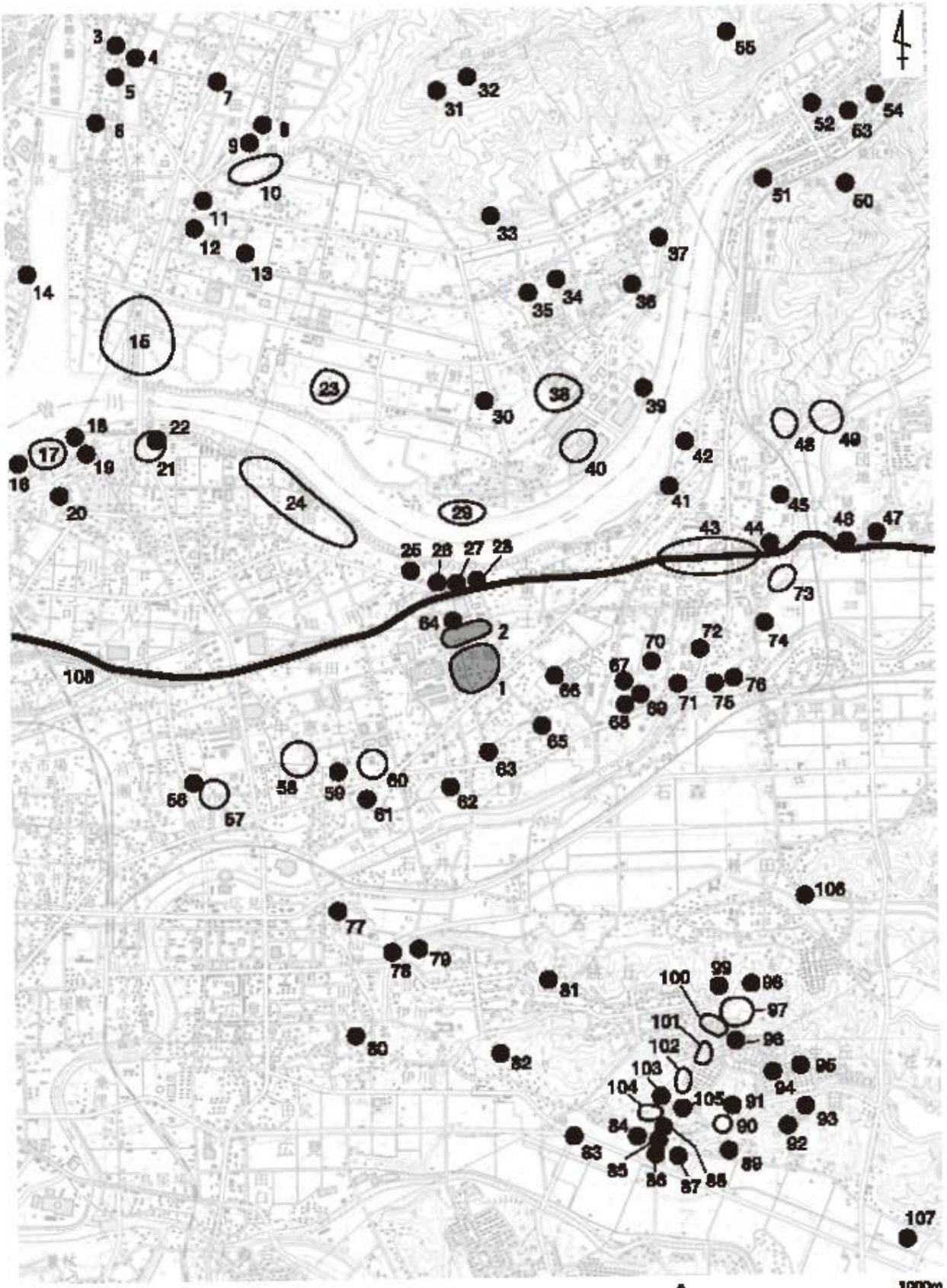
中世の遺跡の分布は河川の流域以外に沖積地や丘陵地周辺にまで及び、集落跡、城館跡、川湊跡、墓などが存在する。集落跡の遺跡は今遺跡(７)、牧野小山遺跡(15)、宮之脇遺跡(16)などがあり、今遺跡と宮之脇遺跡では居住域の区画溝が検出されている。特に宮之脇遺跡では南北約85ｍ、東西約55ｍの方格地割内に、14～15世紀前半の側柱建物跡が複数検出され、当遺跡との関連が注目される。城館跡は馬串砦跡(10)、前野城城館跡呼称地(55)、長山城跡(97)がある。馬串砦跡は『兼山記』等に

よれば金山城主森長可が天正10年(1582)に築いた陣城とされている。前野城は城館跡呼称地とされている。城館跡呼称地とは、「確実な史料がなく、現状からも城館跡と判断できないもの」(岐阜県教育委員会2004)という意味である。なお、長山城は近年の調査によると「少なくとも現況から長山城とされる場所に城館遺構を見出すことは困難である」(岐阜県教育委員会2004) とされている。川湊跡である兼山湊跡(51)は、天文６年(1537)に金山城が築城された頃から発達し、以後城下町の川湊として栄え、東濃地方の物資集散地の役割を果たした。しかし、慶長５年(1600)に城主の庇護がなくなり、４㎞上流に黒瀬湊が兼山湊に代わって木曽川の終航地となったことなどから、次第に衰退していった。中世墓は、牧野小山遺跡、宮之脇遺跡、次郎兵衛塚１号古墳(20)、清水経塚(56)、長塚古墳(60)、欠ノ上遺跡(62) などで検出されている。このうち、清水経塚では古瀬戸有耳壺など33個体の蔵骨器が出土した。

近世の遺跡も少ないが、その分布は金山城城下町付近、木曽川流域、中山道沿いとなり、中世以前の遺跡とは異なった場所に分布する。中山道(108)は東西に通過し、その宿場町として伏見宿(43)が造営される。伏見宿は元禄７年(1694)の開宿とされ、天保年間(1830～1843)には約570ｍの町並みがあり、家数は82軒で、そのうち旅籠屋は29軒であった。また、木曽川沿いには新村湊跡(42)がある。新村湊は伏見宿の近くに位置し、17世紀末にはすでに利用されていた。

第１表 周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	時代
1	上恵土城跡	中世
2	浦畑遺跡	中世
3	長福北遺跡	古墳
4	長福遺跡	弥生
5	長福古墳	古墳
6	小山観音北遺跡	弥生
7	今遺跡	弥生～古代
8	坂下１号古墳	古墳
9	坂下２号古墳	古墳
10	馬串砦跡	中世
11	廻間１号古墳	古墳
12	廻間２号古墳	古墳
13	下牧野古墳	古墳
14	川合東遺跡	弥生
15	牧野小山遺跡	縄文～中世
16	宮之脇遺跡	縄文～中世
17	宮之脇東遺跡	古墳～中世
18	稲荷塚古墳	古墳
19	稲荷塚２号古墳	古墳
20	次郎兵衛塚古墳	古墳
21	川合遺跡	縄文～古墳
22	東畑遺跡	古墳
23	岐大農場遺跡	縄文
24	東野遺跡	縄文～古墳
25	狐塚古墳	古墳
26	長畑１号古墳	古墳
27	長畑２号古墳	古墳
28	新町墓地古墳	古墳
29	花之下遺跡	古代・中世
30	小貝戸２号古墳	古墳
31	白山山頂１号古墳	古墳
32	白山山頂２号古墳	古墳
33	白山古墳	古墳
34	トヤノ木古墳	古墳
35	火塚古墳	古墳
36	下屋古墳	古墳
37	東中国古墳	古墳
38	小貝戸遺跡	縄文・弥生
39	小貝戸１号古墳	古墳
40	神明遺跡	縄文・弥生
41	生沢古墳	古墳
42	新村湊跡	近世
43	伏見宿跡	近世
44	伏見廃寺跡	白鳳
45	伏見白山神社古墳	古墳
46	高倉山古墳	古墳
47	山本藤九郎屋敷跡	近世
48	新発知１～６号古墳	古墳
49	山田横穴１～７号古墳	古墳
50	妙向尼墓	近世
51	兼山湊跡	近世
52	下渡遺跡	縄文・弥生
53	円山古墳	古墳
54	山本藤九郎墓	近世
55	前野城城館跡呼称地	中世
56	清水経塚	中世
57	山神古墳	古墳
58	中恵土新屋敷遺跡	縄文
59	野中古墳	古墳
60	長塚古墳	古墳・中世
61	西寺山古墳	古墳・中世
62	欠ノ上遺跡	縄文～中世
63	上野稲荷古墳	古墳
64	浦畑古墳	古墳
65	桐野古墳	古墳
66	上恵土本郷古窯跡	平安
67	大塚１・２号古墳	古墳
68	土居田古墳	古墳
69	観現山古墳	古墳
70	伏見狐塚古墳	古墳
71	堂根古墳	古墳
72	女郎塚	近世
73	伏見東坂南遺跡	縄文・古墳
74	伏見寺東古窯跡	奈良・平安
75	東寺山１号古墳	古墳
76	東寺山２号古墳	古墳
77	村出古墳	古墳
78	身隠御嶽古墳・身隠白山古墳	古墳
79	身隠古墳	古墳
80	熊野古墳	古墳
81	桧下古墳	古墳
82	羽崎北洞古墳	古墳
83	不孝寺塚古墳	古墳
84	羽崎中洞古墳	古墳
85	羽崎中洞横穴古墳	古墳
86	羽崎中洞２号古墳	古墳
87	羽崎山寺古墳	古墳
88	羽崎日吉古墳	古墳
89	大洞ため池南古墳	古墳
90	羽崎山寺横穴２号古墳	古墳
91	羽崎山寺横穴１号古墳	古墳
92	羽崎大洞１～３号横穴墓	古墳
93	中央ヶ峯横穴古墳	古墳
94	寺洞１号古墳	古墳
95	羽崎大洞１号古墳	古墳
96	大洞白山塚古墳	古墳
97	長山城跡	中世
98	巣本古墳	古墳
99	しゃもじ塚古墳	古墳
100	七ツ塚２～５号古墳	古墳
101	羽崎中洞２号古墳	古墳
102	中央ヶ峯５号横穴墓	古墳
103	羽崎寺山５号横穴墓	古墳
104	羽崎１～４号横穴墓	古墳
105	羽崎寺山６・７号横穴墓	古墳
106	神崎山古墳	弥生
107	久々利西山古墳	古墳
108	中山道	近世



国土地理院発行 1:25,000地形図「美濃加茂」・「小泉」より

第6図　周辺遺跡位置図

２　上恵土城跡・浦畑遺跡の様相

上恵土城跡については、『御嵩町史　通史編　上』（御嵩町1992）に詳しく記載されており、以下の記述はそれを参考とした。

当遺跡が位置する地域は、中世において荏戸荘という荘園に含まれており、室町時代には上郷と下郷に分かれていた。応仁２年（1468）には、荏戸上郷より美濃国守護所比定地である革手城（現：岐阜市）の堀を掘削するために人夫が徴用された記録が残っている。

上恵土城は、15世紀末頃荏戸城と呼ばれていた。八百津町の大仙寺開山の僧東陽英朝の語録「少林無孔笛」の中の法語「下火（あこ）」によると、明応から文亀年間頃（1492～1504）に、極玄周玄という僧が荏戸城において戦死し、後日これを聞いた東陽英朝が葬儀の導師をつとめたとされる。16世紀中頃より、荏戸城は上恵土城と呼ばれ、天正10年（1582）頃の城主は長谷川五郎右衛門であった。

「金山記」によると、天正10年６月に本能寺の変で織田信長が死ぬと、織田信長の命令で信濃を攻めていた金山城（現：可児市兼山町）の城主森長可は、速やかに帰国し、金山城の守りを固めた。上恵土城主長谷川五郎右衛門と、大森城（現：可児市大森）の城主奥村氏が金山城を攻めようとする動きがあることを察知した森長可は、同年６月25日に上恵土・大森両城に向かい、同日に大森城、翌日に上恵土城を攻略したとされている。

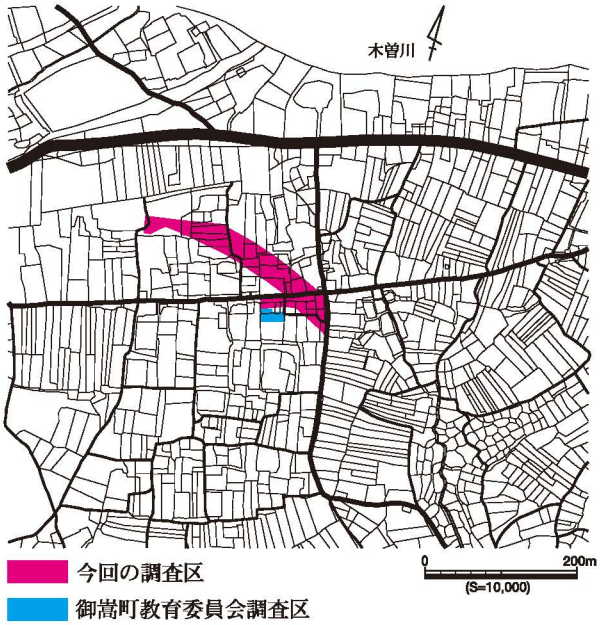
また、『岐阜県中世城館跡総合調査報告書　第３集』（岐阜県教育委員会2004）では、上恵土城跡は「上恵土城跡（新村城跡）」、浦畑遺跡は「浦畑屋敷城館跡呼称地」と記載されている。そして、当遺跡周辺の地籍図から、上恵土城跡は複数の居館から構成されていたことを指摘し、浦畑遺跡の区画溝等は上恵土城跡に隣接する中世集落の遺構と推定されている。

なお、今回の上恵土城跡調査区（Ａ地区）の南側では、平成14年度に御嵩町教育委員会により発掘調査（279㎡）が行われている（御嵩町教育委員会2003）。発掘調査では、掘立柱建物跡４棟、井戸跡１基、土坑18基などを含む遺構361基が検出され、白瓷系陶器、古瀬戸、大窯などを含む遺物3,049点が出土した。掘立柱建物跡はいずれも総柱建物跡であり、柱穴底面に礫を据えるものが多い。また、土坑では中世の銭貨約30枚が、平たく円形にまとまって出土している。これは、銭貨が木製曲物等により保管されており、木製遺物が腐ってなくなったため、銭貨のみがまとまって出土したと推測される。出土遺物の８割以上は白瓷系陶器であり、14～15世紀のものが主体である。また、出土遺物の時期から想定できる遺構の存続期間は、14世紀末～16世紀末までとされている。

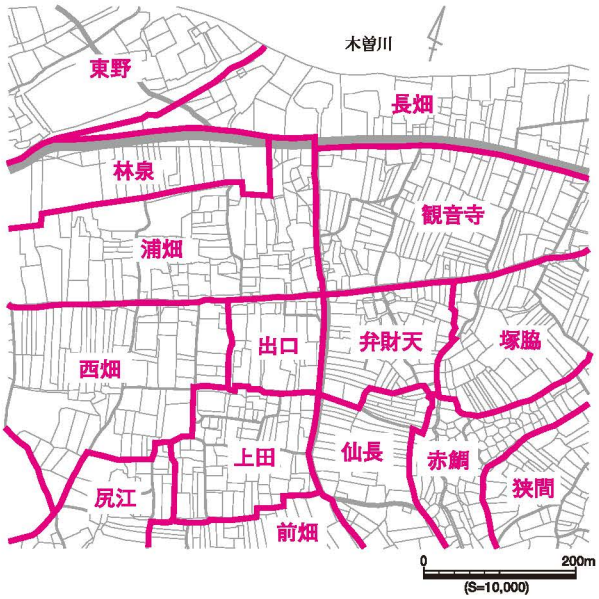
両遺跡が所在する大字上恵土周辺の地籍図のうち、最も古いものは明治時代まで遡る。明治時代の地籍図の地割りはそれ以前の旧地形を反映していることがあり、調査で検出した遺構と関連付けられる場合がある。そのため、ここでは両遺跡周辺の明治時代の地籍図を掲載し、その様相を概観する。

地籍図は岐阜地方法務局美濃加茂支局所蔵のものを利用した（第７～９図）。今回の調査区は字浦畑、出口に位置する。両遺跡周辺の地割りのうち、字浦畑、出口、西畑、上田付近は、方一町から一町半の方格地割が認められるが、字観音寺、弁財天、塚脇、仙長、赤鯛、狭間付近はその規模や方向に規則性がみられない。なお、両遺跡周辺の小字名の中では、特に城館に関連する字名はなかった。

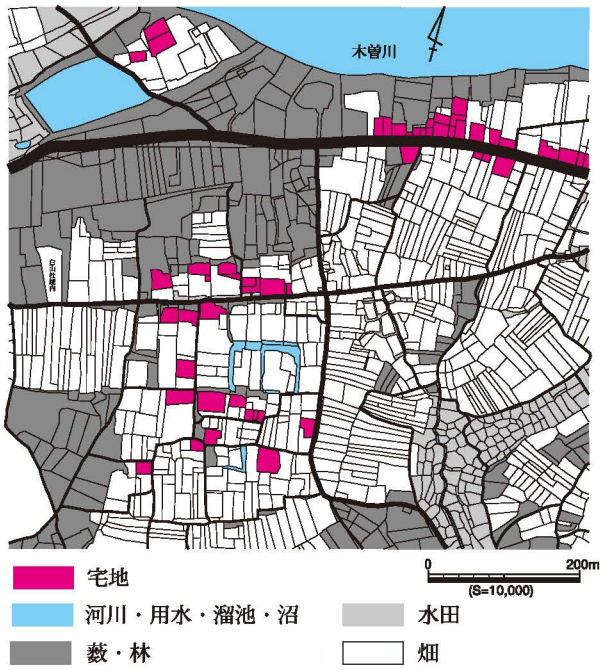
土地利用状況（第９図）をみると、木曽川沿いに藪・林が広がり、その南側は広い範囲が畑として利用されている。また、字赤鯛は水田として利用されており、その範囲は湾曲して帯状に延びていることから、旧河川の痕跡と推定される。宅地は旧中山道沿いと、字上田、西畑、浦畑付近の２箇所に集



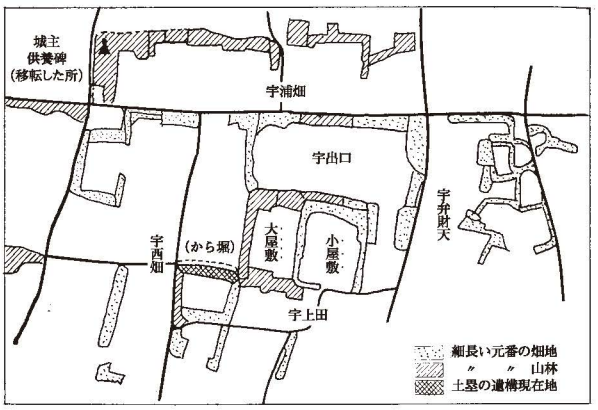
第７図　調査区周辺の明治時代の地籍図



第８図　調査区周辺の小字名



第９図　調査区周辺の土地利用状況



『御嵩町史　通史編　上』より引用

第10図　調査区周辺の細長い地割り

中している。なお、『御嵩町史　通史編　上』では、明治時代の地籍図に記載された地割りのうち、上恵土城の遺構と想定される地割りを抜粋しており(第10図)、その範囲は字浦畑、出口、西畑、上田、弁財天まで広範囲に及ぶ。また、『伏見町史』によると上恵土城跡は俗称「大屋敷」と呼ばれる場所に比定され、第９図では大屋敷と小屋敷が明治時代まで堀で囲まれていたことが明瞭にわかる。

第３章　遺構

第１節　基本層序

上恵土城跡・浦畑遺跡は、先述のとおり恵土面と呼ばれる中位段丘面上にあり、恵土礫層とその上層にある凝灰角礫岩(木曽川泥流堆積物：層厚３～５ｍ)で構成されている。この厚く硬い層の上で、人々の生活が営まれてきた。今回の調査範囲は、耕地や宅地として利用されていたところである。

上恵土城跡(Ａ・Ｆ地区)の表土層は昭和30年代の土地改良事業の際に、大きく削られたが、浦畑遺跡(Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｇ・Ｈ地区)は、行われていないので、近現代の攪乱が及ぶところを除けば、比較的層序は安定している。両遺跡の層序の相違により、各調査区境の土層断面図(第11図)の一部を掲載し、以下Ⅰａ層より順に概述する。

Ⅰａ層

黒褐色土シルト(10ＹＲ2/2)　層厚10～50㎝。近現代の耕作土であり、調査区内全域で確認できた。

Ⅰｂ層

黒褐色土シルト(10ＹＲ2/2)　色調がⅠａ層より若干明るい。層厚10㎝～40㎝。近世遺物包含層である。調査区内では部分的に確認できなかった。

Ⅱ層

黒色土シルト(10ＹＲ2/1)　層厚10～30㎝。中世～近世遺物包含層である。Ａ地区では、昭和30年代の土地改良事業によるためか、確認できなかった。Ｆ地区でも確認できるところと確認できないところがあった。Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｇ・Ｈ地区については、Ｇ地区以外や近現代の攪乱が及ぶところを除けば、ほぼ確認できた。Ｇ地区の西では以前宅地として利用されていたため、かなりの攪乱が及んだ。Ｈ地区の西端よりＧ地区の東にかけて層厚が薄い。

Ⅲ層

暗褐色土シルト(10ＹＲ3/3)　層厚10～30㎝。中世遺物包含層である。Ａ・Ｆ地区では、確認できなかった。Ｈ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｇ地区については、確認できるところが多かったが、Ｇ地区では東に向かうにつれ堆積が薄くなる傾向が確認できた。

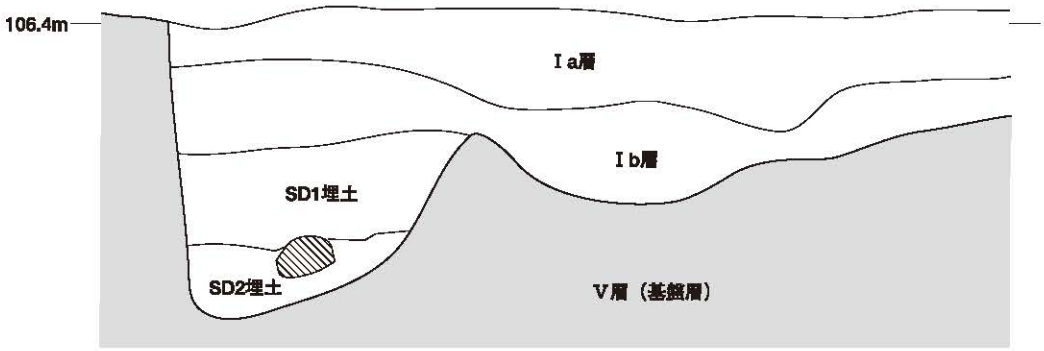
Ⅳ層

褐色土砂礫層(10ＹＲ4/6)　層高10～30㎝。Ⅴ層の堆積土壌を含み、Ⅴ層(基盤層)が土壌化したものである。上恵土城跡では、Ｆ地区の東側の一部で確認した。浦畑遺跡では、Ｈ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ地区について確認でき、Ｇ地区の東側に行くに従ってⅣ層は確認できなかった。

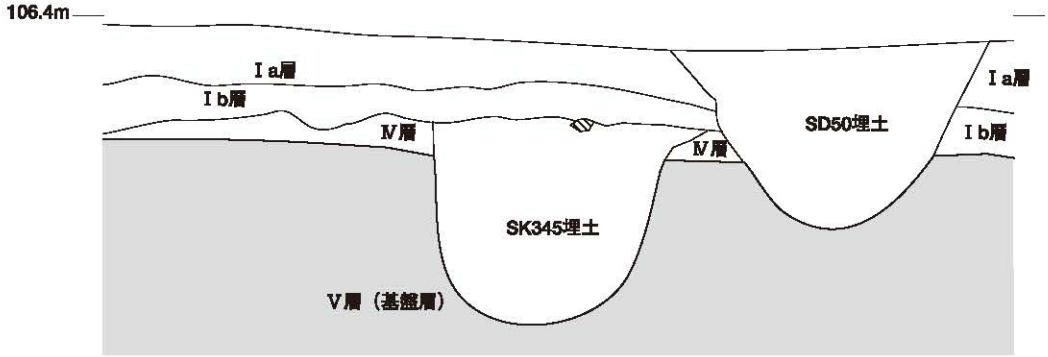
Ⅴ層

黄褐色土砂礫層(10ＹＲ5/8)　中位段丘面形成層：Ⅴ層(基盤層)である。このⅤ層(基盤層)は、岩盤のような硬い層である。この地山Ⅴ層を１～２ｍ下げていくとシルト質砂礫層にあたり、澄んだ水が豊富に湧いてくる。台地上にあってこの地域に水がよく湧くというのは、この地層構造のためである。

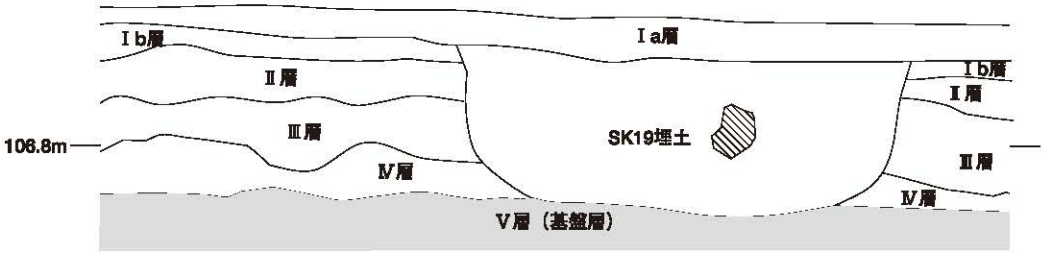
上恵土城跡（Ａ地区）調査区東壁土層



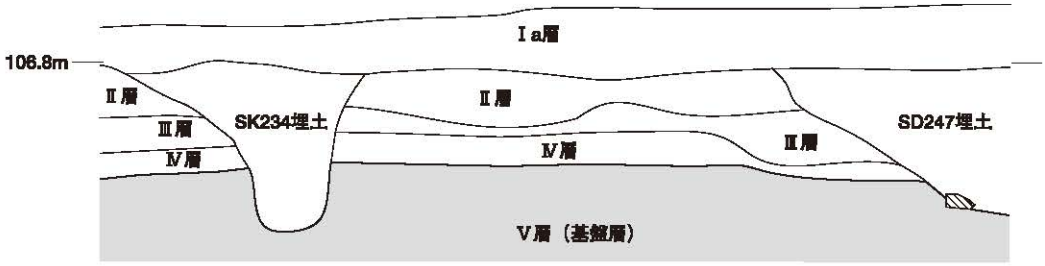
上恵土城跡（Ｆ地区）調査区東壁土層



浦畑遺跡（Ｄ地区）調査区北壁土層



浦畑遺跡（Ｅ地区）調査区北壁土層



(S=1/25)

第11図　基本層序

第２節　遺構の概要

今回の調査で検出された遺構は、中世～近世の大きく２時期にわたった。基盤層(Ⅳ・Ⅴ層)の直上の同一面で、両時期の遺構が確認できた。両時期の埋土は、色調が若干異なるもののやはり同一面で検出しているため、時代の認識は、遺物の出土や遺構の切り合い関係での判断で行った。中には帰属時期の不明な遺構も存在するが、各遺構の時期判断根拠については、後述する。以下、１.各地区の遺構の状況、２．遺構名称・表記について、３．各遺構年代について概述する。

１　各地区の遺構の状況

上恵土城跡(Ａ・Ｆ地区)では、主に掘立柱建物跡５棟や堀跡と考えられる溝跡など中世(15世紀～16世紀)の遺構と、掘立柱建物跡１棟や井戸跡・水溜め状遺構など近世（17世紀～19世紀)の遺構を確認した。

浦畑遺跡東区(Ｇ・Ｅ地区)の遺構は、同様に主に掘立柱建物跡11棟や井戸跡６基・土間状遺構８基など中世(15世紀～16世紀)の遺構と、掘立柱建物跡３棟や井戸跡３基、礫の入った溝跡７条など近世(17世紀～19世紀)の遺構を確認した。

浦畑遺跡西区(Ｃ・Ｄ・Ｂ・Ｈ地区)は、主に掘立柱建物跡９棟やカマド跡・土塁など、中世(13世紀～15世紀)が多く、Ｅ地区との境に近い地境溝の近世の遺構を確認した。

浦畑遺跡を東区と西区に分けた根拠は、当遺跡の中でも東西の境で地割りがなされていることや(第10図)、西区は12世紀末～15世紀にかけての遺構が確認され、近世の遺構はほとんど確認できなかったことに対し、東区は14世紀～19世紀にかけての中世から近世までの遺構が確認でき、双方の遺構の時期が異なっていることからである。

両遺跡の遺構は、掘立柱建物跡29棟、井戸跡15基、溝跡155条などすべての遺構を含めると3,000基近く確認できた。各地区において確認できた各遺構数は第２表の通りである。

第２表　検出した遺構数

種　別	上恵土城跡		浦畑遺跡東区		浦畑遺跡西区				合　計
	Ａ地区	Ｆ地区	Ｇ地区	Ｅ地区	Ｃ地区	Ｄ地区	Ｂ地区	Ｈ地区	
掘立柱建物跡	2	4	5	9	4	0	5	0	29
柱穴列	2	0	0	0	1	0	3	0	6
盛土状遺構･土塁	0	0	0	0	1	0	0	1	2
井戸跡	1	5	3	5	0	0	0	1	15
水溜め状遺構	2	4	0	3	0	0	0	0	9
カマド跡	0	0	0	0	0	0	1	0	1
土間状遺構	0	0	2	7	0	0	1	0	10
溝跡	11	19	23	47	16	11	10	18	155
集石遺構	1	0	1	8	1	1	0	1	13
土坑	28	73	69	283	130	29	96	26	734
ピット	164	201	321	683	345	27	379	100	2,220

２　遺構名称・表記について

今回の調査で確認した遺構を、掘立柱建物跡、柱穴列、盛土状遺構、井戸跡、水溜め状遺構、土間状遺構、溝跡、集石遺構、土坑、ピット、性格不明遺構に分類した。また、その場の詳細な状況によって、柱穴列で柵跡に、盛土状遺構で土塁に、土坑で埋設穴に、ピットで柱穴に判断したものがある。

遺構表記については、原則として調査時の番号を使用し、初めに遺構名称、地区番号そして遺構番号を付した(例：井戸跡Ａ228、溝跡Ｇ301など)。ただし、下記のように掘立柱建物跡と柱穴列はＳＨ・ＳＡの略号と遺構番号で表記した(例：ＳＨ４、ＳＡ５など)。その他の遺構については、遺構一覧表のみ略号を用いた。

掘立柱建物跡(ＳＨ)

一定の間隔、あるいは規則的に配置されたピットで対をなして並ぶものを掘立柱建物跡とした。

柱穴列(ＳＡ)

一列に規則的に配置されたピットで並ぶものを柱穴列とした。その中で、柱根や埋土に柱痕跡があったり、底部に柱の痕跡が確認できたりした場合、柵跡とした。

盛土状遺構(ＳＱ)

基底土層の上に、人為的に土を盛ったもので、細長い形状を持つものを盛土状遺構とした。また、土にしまりがあり、硬化面を確認し、建物・集落を囲んでいる状況を確認した場合、土塁とした。

井戸跡(ＳＥ)

平面形が円形の土坑のうち、深さが1.5ｍ以上あるものについて井戸跡とした。井戸跡は湧水層を掘り抜く土坑で、水を汲み出すための遺構である。

水溜め状遺構(ＳＰ)

平面形が円形の土坑のうち、深さが１～1.5ｍ程であり、溝の排水や水を貯水するための遺構と判断できるものは、水溜め状遺構とした。ただし深さが１ｍに満たなくても溝の排水や常時水が貯まり水を貯水するための遺構と明らかに判断できるものについては水溜め状遺構とした。上恵土城跡や浦畑遺跡Ｅ地区の東側に多く確認した。

カマド跡(ＳＦ)

周囲よりしまりある硬化面や焼土が存在し、石組みや土でつくられた調理施設と考えられる遺構をカマド跡に分類した。

土間状遺構（ＳＴ）

周囲より少し掘り窪められた、しまりある硬化面が存在する方形状の遺構を土間状遺構に分類した。掘立柱建物跡の敷地内に確認できたものが多い。

溝跡(ＳＤ)

ほぼ一定の幅で細長く掘り込まれた遺構を溝跡とした。地境の機能を有したり、埋土の中に礫が出土したりする溝を多く確認した。

集石遺構(ＳＩ)

礫が人為的に積まれた遺構を集石遺構とした。Ａ地区で平面状に敷き詰められたものや、Ｅ地区で１ｍの方形状に礫が積まれたものを確認した。

土坑（ＳＫ）

地面に掘り込まれた深さが1.5ｍ以下の穴のうち、平面の径が0.6ｍ以上のものを土坑とした。Ｅ・Ｃ地区では方形の土坑が多く出土した。土坑のうち、底面が平らで甕が埋められていた可能性がある穴を確認した遺構を、埋設穴とした。浦畑遺跡東区に確認できた。用途は墓や遺物を埋納する穴、近世ゴミ穴等が考えられる。ただし、若干0.6ｍを超えていても、掘立柱建物跡の柱穴と判断できる場合はピットに分類した。

ピット（Ｐ）

径0.6ｍ未満で、平面はほぼ円若しくは楕円を呈する穴をピットとした。後述する掘立柱建物跡や柱穴列を構成するものは柱穴とした。

性格不明遺構（ＳＸ）

形態が特殊なもので上記の遺構に該当しないとき、性格不明遺構とした。

３　各遺構の年代

遺構の年代観は、中世・近世ともに同一の調査面であり、主に出土遺物、遺構の切り合いの関係、ならびに遺構埋土の判断による。時期判断する際には、以下の点に配慮した。

①掘立柱建物跡・柱穴列は、遺構に所属する柱穴や土間から出土した遺物をもって判断した。しかし、柱穴からの遺物出土量が少ないものもあるため、近くに位置する溝跡、井戸跡や屋敷地としての遺構配置、主軸方位、規模や柱穴の切り合いによる判断も参考に行った。

②土塁・盛土状遺構は、上層から下層にかけて、出土遺物から時期判断を行った。また、出土遺物が存在しない場合には、相対的な年代判定のみに止めざるを得なかった。

③井戸跡・水溜め状遺構は、他の遺構と比較すると出土遺物が多く、時期判断の材料には恵まれている。基本的には、埋土の下層に近いほど成立年代近いと考えた。遺構として機能していた際の時期が判断できるからである。上層のものと時期幅は溝に比べ、小さいためほぼ同一時期である。

④土間状遺構は、出土した遺物をもって判断した。また、当遺構が掘立柱建物跡の敷地内に入っていたり、ごく近くに存在する場合、その建物跡の時期も参考にした。

⑤溝跡は他の遺構と比較すると出土遺物が多いが、遺構の存続期間が長いためか出土する遺物の時期幅が大きい。基本的には、埋土の下層に近いほど成立年代近く、上層のものほど廃絶年代に近いと考えられる。層位ごとに分層できないときは、出土量の多い遺物群の時期幅をもって存続期間とした。また、出土遺物が存在しない場合には、相対的な年代判定のみに止めざるを得なかった。

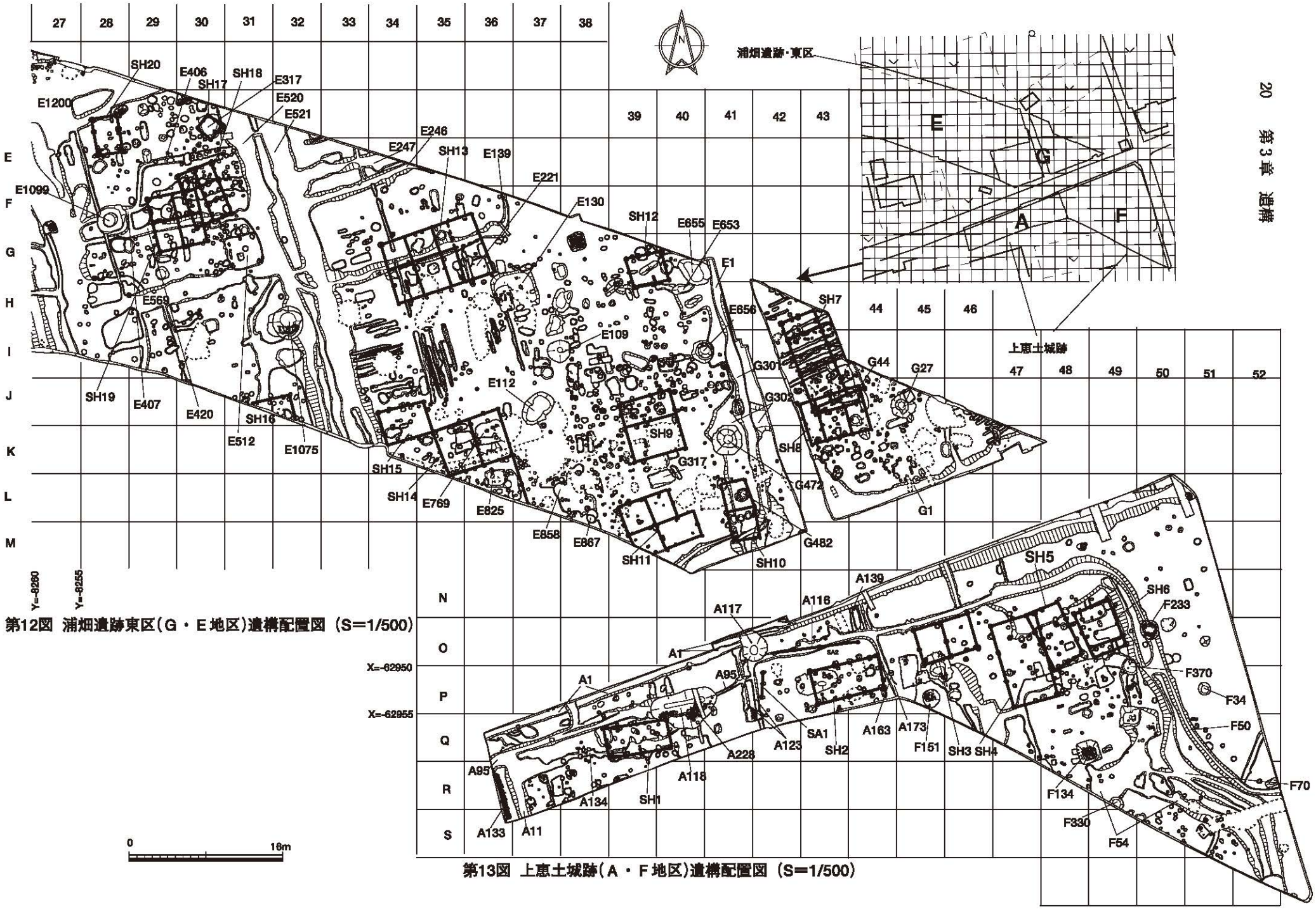
⑥集石遺構・土坑・ピットから出土した遺物は、出土遺物から時期を判断した。ただ出土遺物の時期幅があるとき全体での割合が多い遺物の時期をもって年代を判断した。

遺構時期は前述したように大きく中世と近世の２時期である。さらに遺構・遺物の詳細時期区分を、既存の編年や遺物の型式時期をもとに、中世を３時期（Ⅰ期：中世前期、Ⅱ期：中世後期、Ⅲ期：中世末期）、近世を３時期（Ⅳ期：近世前期、Ⅴ期：近世中期・Ⅵ：近世後期）に分け、遺構時期について、述べていくことにする。遺構から出土する遺物の状況を踏まえて第３表のように細分した。

第３表　土器編年対照表

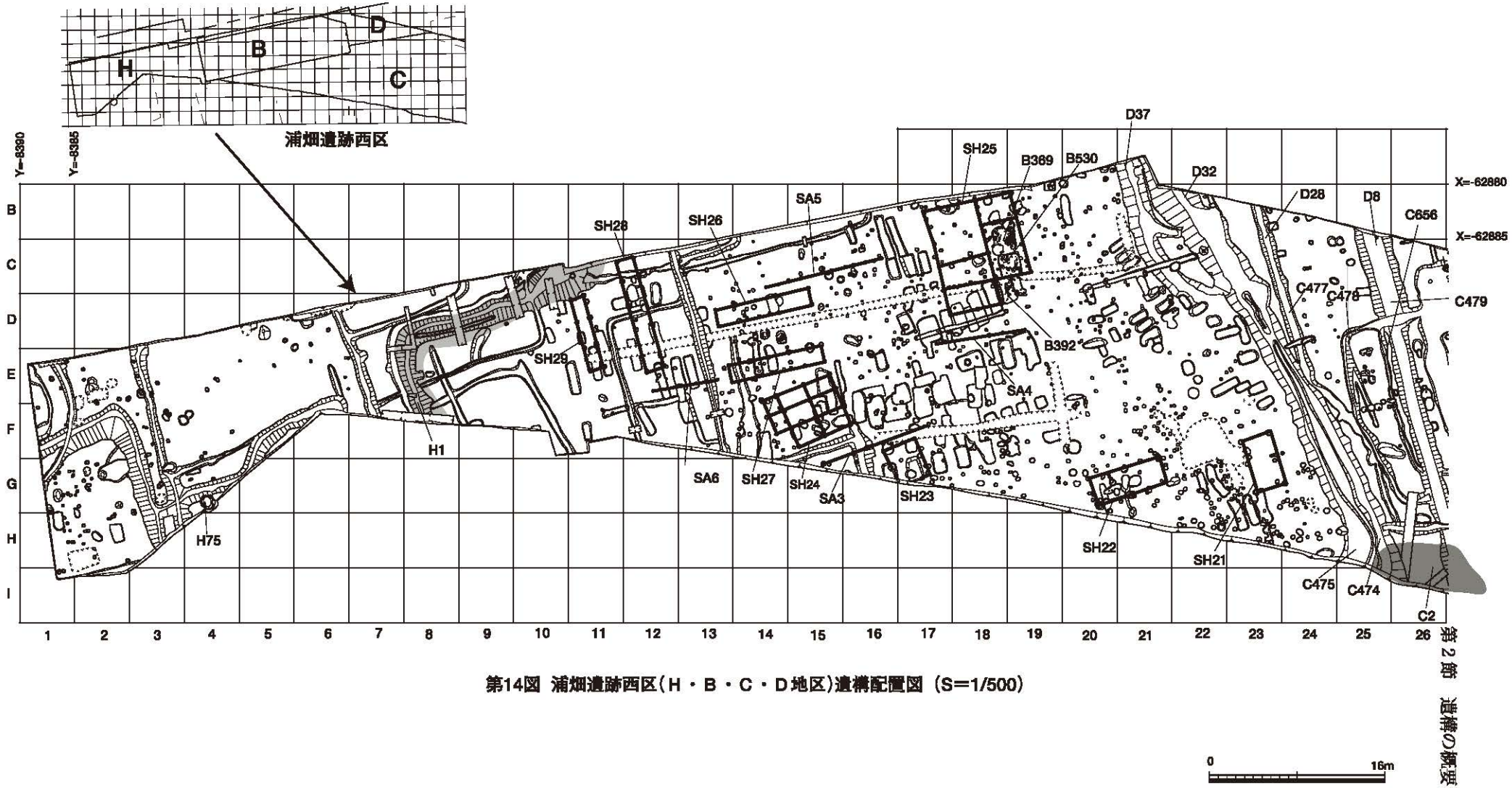
時期区分名称・西暦	当遺跡遺構時期区分	各種別編年観							西暦	時代区分（2001年版・高等学校日本史B教科書より）
古代（7世紀中葉～11世紀前半）									700	奈良時代
									1000	平安時代
		白瓷系陶器								
		東濃型（均質手・K）	尾張型（荒肌手・A）							
中世前期（11世紀後半～14世紀中葉）	Ⅰ期	西坂１号窯式	第３型式	常滑					1100	
				１ａ型式						
		谷迫間２号窯式	第４型式	１ｂ型式						
				２型式	古瀬戸					
		浅間窯下１号窯式	第５型式	３型式	（草創期）				1200	鎌倉時代
		丸石３号窯式		４型式	前Ⅰａ					
		窯洞１号窯式			前Ⅰｂ					
		白土原１号窯式	第６型式	５型式	前Ⅱ					
中世後期（13世紀後半～15世紀中葉）	Ⅱ期	明和１号窯式	第７型式	６ａ型式	前Ⅲ				1300	
				６ｂ型式						
		大畑大洞４号窯式	第８型式	７型式	前Ⅳ					
					中Ⅰ					
					中Ⅱ					
					中Ⅲ					
		大谷洞14号窯式	第９型式	８型式	中Ⅳ					南北朝時代
					後Ⅰ					
		大洞東１号窯式	第10型式		後Ⅱ					室町時代
				９型式	後Ⅲ				1400	
		島之島３号窯式	第10型式		後Ⅳ古					
中世末期（15世紀末～16世紀後半）	Ⅲ期	生田２号窯式		10型式	後Ⅳ新	大窯			1500	戦国時代
						大窯第１段階				
				11型式		大窯第２段階				
				12型式		大窯第３段階				
						大窯第４段階			1600	安土・桃山時代
							連房			
近世前期（17世紀前半～後半）	Ⅳ期						第１段階			江戸時代
近世中期（17世紀末葉～18世紀中葉）	Ⅴ期						第２段階		1700	
近世後期（18世紀後葉～19世紀後葉）	Ⅵ期						第３段階		1800	
近現代（19世紀末葉～現在）									1900	明治時代
										大正時代
										昭和時代
									2000	平成時代

→　100年の幅



第12図 浦畑遺跡東区(G・E地区)遺構配置図 (S=1/500)

第13図 上恵土城跡(A・F地区)遺構配置図 (S=1/500)



第14図 浦畑遺跡西区(H・B・C・D地区)遺構配置図 (S=1/500)

第３節　上恵土城跡の遺構

上恵土城跡は、標高106ｍ前後の中位段丘面の平坦な土地に、城館跡と考えられる中世(15～16世紀)の掘立柱建物跡や堀跡と考えられる溝跡が建物跡の北側に確認できた。建物跡は同時期のものが５棟あり、溝に沿って立てられている屋敷の様相を示している。また建物跡のすぐ近くに溝や、硬い岩盤を掘り抜いた井戸跡も確認し、堀跡と考えられる溝跡と建物跡を囲む溝との間には遺構がほとんどなかった。これは土塁の基底部にあたるものではないかと考えられる。近世には、枝分かれしていた溝が収束しまとまり、建物跡をより囲んでいた様相を示すなど、中世から近世にかけての遺構を確認した。以下、各遺構の種類別に、詳細を述べていくことにする。

１　掘立柱建物跡（ＳＨ）

掘立柱建物跡は、中世のものが５棟、近世のものが１棟確認できた。また、建物に伴う柱穴内には根石・支え石を有するものがいくつかみられた。６棟の掘立柱建物跡を図示し、その他の詳細について掘立柱建物跡遺構一覧(第５表)に記載した。

ＳＨ１（第13図・第24図・写真図版３）

位置・検出状況　Ａ地区のＱ38～Ｑ40グリッドにかけて位置し、Ｖ層上面で検出した。北西隅にある柱穴Ａ180は、土坑Ａ105に、柱穴Ａ221・Ａ150・Ａ112は、近世溝Ａ134に切られている。また、北東隅Ａ232も、近世の水溜め状遺構Ａ118に切られて検出した。検出面において、掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行２間×梁行１間の東－西方向を主軸（Ｎ81°Ｅ）とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行6.60ｍ、梁行3.12ｍ、床面積20.59㎡である。

形態　東－西方向に位置する柱穴Ａ221・Ａ150・Ａ112は、線状に並んでいるが、南－北方向の北西隅に位置する柱穴Ａ180は若干、外側に位置する。

柱穴　６基の柱穴が見つかった。平面形は円形状のものが多く、0.3～１ｍの深さを測る。Ａ221・Ａ150・Ａ112には柱根が残存していた。Ａ221・Ａ150・Ａ112の間にあるＡ156やＡ155に関しても深さが0.5m以上あるが、柱間が狭すぎるため柱穴と判断できなかった。また南－北方向の東側に並ぶＡ232・Ａ112の間にあるＡ204を柱穴ともとらえることもできるが、対面の柱穴列ではみられず、これを柱穴とする判断はできなかった。

出土遺物・時期　Ａ112より白瓷系陶器(碗)２点、木製品１点、Ａ232より白瓷系陶器(碗)３点、瀬戸美濃大窯１点の７点出土した。そのうち、Ａ112より白瓷系陶器・大洞東１号窯式(碗・番号31)が出土し、Ａ232より大窯第３段階(天目茶碗・番号136)が出土しており、図示した(第152図・157図)。

出土遺物や近世の遺構に切られていた状況から考えると、本遺構は中世後期から末期のものと考えられる。ただ、瀬戸美濃連房の遺物については、近世溝に切られている事実から、後に混入したものと判断した。

ＳＨ２（第13図・第25図）

位置・検出状況　Ａ地区のＰ43～Ｐ44グリッドにかけて位置し、Ｖ層上面で検出した。北東隅にある柱穴Ａ195は、近世溝Ａ173に切られている。掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行２間×梁行１間の東－西方向を主軸（Ｎ72°Ｅ）とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行7.08ｍ、梁行3.48ｍ、床面積25.06㎡である。

形態　東－西方向に位置する柱穴Ａ187・Ａ93・Ａ195は、線状に並んでおり、その並びにＡ194が位置するが、対面に相当する柱穴が検出できないことと、柱の間隔幅が適切でないことからこれを柱穴と判断することはできなかった。

柱穴　６基の柱穴が見つかった。平面形は円形状のものが多く、0.2～0.5ｍの深さを測る。柱穴Ａ90には礎石と判断できる川原石が残存し、Ａ195には支え石と判断できる石が柱穴の周りに残存していた。

出土遺物・時期　Ａ164より白瓷系陶器（碗）１点、瀬戸美濃連房１点、Ａ187より土師器皿（ロクロ）１点、瀬戸美濃連房２点の５点出土した。出土遺物や近世前期溝跡Ａ173に切られていた状況から考えると、本遺構は中世後期から末期のものと考えられる。

ＳＨ３（第13図・第26図）

位置・検出状況　Ｆ地区のＯ45～46グリッドにかけて位置し、Ｖ層上面で検出した。北側に並ぶ柱穴Ｆ351・Ｆ362・Ｆ364は、近世溝Ｆ50に切られている。中央に１柱がある総柱建物である。また、北西隅のＦ314は、水溜め状遺構Ｆ380の北側に位置しており、若干切られていた。検出面において、掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行２間×梁行２間の東－西方向を主軸（Ｎ72°Ｅ）とする総柱の掘立柱建物跡であり、桁行5.88ｍ、梁行3.72ｍ、床面積21.87㎡である。

形態　東－西方向に位置する柱穴Ｆ351・Ｆ362・Ｆ364・Ｆ314・Ｆ350・Ｆ192は、線状に並んでいるとともに、中央に１柱とみられる柱穴Ｆ199が位置する。

柱穴　８基の柱穴が見つかった。平面形は円形状のものが多く、硬い基盤層のＶ層を掘り抜いている。中央に位置する柱穴Ｆ199には、支え石と判断できる石を柱穴の周りに確認した。

出土遺物・時期　Ｆ314より白瓷系陶器（碗）１点、Ｆ350より白瓷系陶器（碗）１点、瀬戸美濃大窯１点、Ｆ364より須恵器１点、瀬戸美濃連房１点の５点出土した。いずれも破片の状態で出土したため図示を略した。白瓷系陶器や土師器皿（ロクロ）・大窯期の出土遺物から、本遺構は中世後期から末期のものと考えられる。

ＳＨ４（第13図・第27・28図）

位置・検出状況　Ｆ地区のＯ46～Ｐ48グリッドにかけて位置し、Ｖ層上面で検出した。北側に位置する柱穴Ｆ294・Ｆ386は、近世溝Ｆ128に切られている。中央に２柱がある総柱の掘立柱建物跡である。また、柱穴Ｆ335は近世溝Ｆ146に切られていた。検出面で、掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行３間×梁行２間の南－北方向を主軸（Ｎ17°Ｗ）とする総柱の掘立柱建物跡であり、桁行8.82ｍ、梁行4.68ｍ、床面積40.84㎡である。

形態　南－北方向に位置する柱穴Ｆ293・Ｆ185・Ｆ290・Ｆ335、Ｆ386・Ｆ99・Ｆ230・Ｆ147は、それぞれ線状に並んでいる。

柱穴　10基の柱穴が見つかった。平面形は円形状のものが多く、硬い基盤層のⅤ層を掘り抜いている。柱穴において、礎石・支え石と判断できる石は確認できなかった。

出土遺物・時期　Ｆ99より瀬戸美濃大窯１点、Ｆ147より白瓷系陶器（碗）５点、Ｆ290より白瓷系陶器（碗）１点、Ｆ294より白瓷系陶器（碗）１点、Ｆ335より白瓷系陶器（碗）１点の９点出土した。そのうち、Ｆ99より生田２号窯式の皿（番号258）を図示した（第164図）。

大窯期・白瓷系陶器10点の出土やＦ128とＦ146に切られていることから、本遺構は中世末期のものと考えられる。

ＳＨ５（第13図、第29・30図）

位置・検出状況　Ｆ地区のＮ47～Ｏ48グリッドにかけて位置し、Ⅴ層上面で検出した。北側に位置する柱穴Ｆ385・Ｆ372は、近世溝Ｆ128に切られている。検出面で掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行３間×梁行２間の南－北方向を主軸（Ｎ26°Ｗ）とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行6.42ｍ、梁行3.48ｍ、床面積22.34㎡である。

形態　南－北方向に位置する柱穴Ｆ216・Ｆ274・Ｆ286・Ｆ385と柱穴Ｆ82・Ｆ333・Ｆ142・Ｆ372は、それぞれ線状に並んでいる。

柱穴　８基の柱穴が見つかった。平面形は円形状のものが多く、底部はやや尖って一部柱痕跡を確認した。0.3～0.6ｍの深さを測る。硬い基盤層のⅤ層を掘り抜いている。Ｆ216・Ｆ82の間にあるＦ218に関して位置的に並びが線状にある。しかし、若干柱穴の間隔が狭く、深さが0.3ｍ程であるため、柱穴ととらえることもできるが、対面の柱穴も浅くこれを柱穴とする判断はできなかった。

出土遺物・時期　Ｆ82より白瓷系陶器（碗）３点、瀬戸美濃連房の灰釉丸碗２点の５点出土した。いずれも破片の状態で出土したため図示を略した。ＳＨ４と位置が重なることと、瀬戸美濃連房の出土や埋土の状況から、本遺構は近世前期のものと考えられる。

ＳＨ６（第13図、第31・32図）

位置・検出状況　Ｆ地区のN48～O49グリッドにかけて位置し、Ⅵ層上面で検出した。東側に位置する柱穴Ｆ334・Ｆ244・Ｆ243は、近世溝Ｆ128とほぼ並行している状態で検出した。

規模　桁行２間×梁行２間の南－北方向を主軸（Ｎ24°Ｗ）とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行4.98ｍ、梁行3.78ｍ、床面積18.82㎡である。

形態　南－北方向に位置する柱穴Ｆ334・Ｆ244・Ｆ243と柱穴Ｆ141・Ｆ81・Ｆ221は、それぞれ線状に並んでいる。

柱穴　７基の柱穴が見つかった。平面形は円形状のものが多く、底部はやや尖って一部柱痕跡を確認した。0.3～0.9ｍの深さを測る。Ⅳ層及び硬い基盤層のⅤ層を掘り抜いている。柱穴Ｆ243からは、

クリの木と推定される柱根が出土した。

出土遺物・時期　Ｆ81より白瓷系陶器(碗) １点、Ｆ136より白瓷系陶器(碗) １点、古瀬戸１点、瀬戸美濃連房１点、Ｆ243より白瓷系陶器(碗) １点、瀬戸美濃連房１点、木製品１点の７点出土した。いずれも破片の状態で出土したため図示を略した。出土遺物７点中、５点が中世遺物という状況と埋土の状況から、本遺構は中世後期から末期のものと考えられる。

２　柱穴列(ＳＡ)

柱穴列(ＳＡ)は、ＳＨ２の北側と西側に、中世の時期のものを２条確認した。

ＳＡ１(第13図・第33図)

位置・検出状況　Ｐ42グリッドに位置し、硬い基盤層のＶ層上面で検出した。

規模　柱間２間の南北柱穴列であり、検出した長さは2.65ｍで、北側は水溜め状遺構Ａ117に削平されている可能性が高い。当遺跡の柱穴列の中ではやや短いが、ＳＡ２の西に延びる線状に位置する柱穴がある可能性があることから、柵跡であった可能性が高い。

柱穴　３基の柱穴が線状に並んで見つかった。平面形は、円形状を呈しているものが多く、硬い基盤層のＶ層を掘り抜いている。柱穴の深さは、0.2～0.4ｍである。

出土遺物・時期　Ａ160より白瓷系陶器(碗) １点が出土した。ＳＡ２が近世溝に切られていることや埋土の状況から、本遺構は中世後期のものと判断した。

ＳＡ２(第13図・第34図)

位置・検出状況　Ｏ42～Ｏ44グリッドにかけて位置し、硬い基盤層のＶ層上面で検出した。柱穴Ａ125・Ａ192・Ａ206は近世溝Ａ116に切られている。

規模　柱間３間の東西柱穴列であり、検出した長さは8.75ｍを測る。西端で、水溜め状遺構Ａ117に削平されている可能性が高く、延びている可能性がある。ＳＡ１と同じ時期に存在した可能性もあることから、ＳＡ１と同様に柵跡の可能性が高い。

柱穴　４基の柱穴が線状に並んで見つかった。平面形はＡ69を除いて円形状を呈し、硬い基盤層のＶ層を掘り抜いている。柱穴の深さは、0.2～0.4ｍである。

出土遺物・時期　出土遺物はなかったが、近世溝Ａ116に切られていることやＳＡ１との関連から、中世後期の柵跡の可能性が高い。

３　井戸跡・水溜め状遺構

井戸跡は、中世のもの１基と近世のものを５基確認し、全て図示・記述する。水溜め状遺構は、中世のものが５基と近世のものを１基確認した。そのうち４基を図示・記述する。その他は一覧表(第７・８表) に記載した。

Ａ228（第12図・第35図・写真図版３）

位置・検出状況　Ｐ40・Ｑ40グリッドに位置し、水溜め状遺構Ａ118の最深部よりやや南付近から検出した。平面形は、長軸1.24ｍ、短軸1.16ｍでほぼ円形状を呈し、硬い岩盤のＶ層上面をほぼ垂直に掘り抜いた素堀り井戸跡である。検出上面からは、廃棄する際に埋めたと考えられる径0.2～0.3ｍの円形の礫が出土した。検出面から1.5ｍ程の深さでは、硬い岩盤のＶ層と木曽川泥流堆積物の層を掘り抜き、常時水が溜まる状態である。井戸跡Ａ228の西側には中世後期の掘立柱建物跡（ＳＨ１）が確認されたが、この井戸跡の時期と対応する建物跡は、確認できなかった。しかし、周辺には柱穴と考えられる遺構があり、建物跡があったかもしれない。底部埋土から瀬戸美濃連房の菊皿・天目茶碗など17世紀の遺物が出土し、少なくとも近世前期には本遺構が存在していたと考えられる。

出土遺物・時期　接合後の破片数は、白瓷系陶器（碗・皿）５点、古瀬戸１点、中世常滑陶器３点、瀬戸美濃大窯３点、土師器皿１点、瀬戸美濃連房14点、木製品２点など、30点出土した。そのうち、白瓷系陶器（碗・皿、番号126・127）、瀬戸美濃大窯（番号128）、土師器皿（番号129）、瀬戸美濃連房（番号130～135）の10点を図示した（第157図）。

白瓷系陶器など中世遺物が出土しているものの、底部より出土した遺物が近世前期の瀬戸美濃連房で、近世の水溜め遺構Ａ118（後述参照）の下から検出したことから、本遺構は近世前期のものと考えられる。

Ｆ134（第13図・第36図・写真図版５）

位置・検出状況　Ｒ48・49グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。平面形は、長軸2.3ｍ、短軸2.24ｍで隅丸方形を呈し、検出面より0.36ｍまで、特に北側では緩やかに掘り込む素掘り井戸跡である。石組みはかなり崩れており、径10～30㎝程の礫を確認した。さらに、内径1.16ｍ程の円形状を呈しながら、硬い基盤層のＶ層をほぼ垂直に掘り抜いている。検出上面から１ｍ程の深さに、組木として使用したと推定される木製品を確認した。この上の埋土から崩落したと推測される20～30㎝の円礫が、多くみられた。検出面から断ち割りを行い調査した結果、最下部で内径0.88ｍ、深さ1.88ｍを確認した。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）13点、古瀬戸１点、土師器皿１点、瀬戸美濃連房11点など、31点を出土している。そのうち、瀬戸美濃連房（擂鉢・番号267）を図示した（第164図）。

出土遺物は破片が多く、時期を推測するのが難しい。底部付近の埋土から瀬戸美濃連房第２段階の遺物破片が出土したことから、本遺構は近世中期以降に存在していた可能性が高い。白瓷系陶器など中世遺物も出土しているが、これらは後に混入したものと判断した。

Ｆ151（第13図・第36図・写真図版６）

位置・検出状況　Ｐ45グリッドに位置し、Ⅳ層上面で長軸1.9ｍ、短軸1.3ｍのやや楕円形の状態で検出した。硬い基盤層のＶ層をほぼ垂直に掘り抜いた素掘り井戸跡である。検出面は楕円形を呈し、0.4ｍ下まで緩やかに掘り込んでいる。石組みは、やや崩れているものの２段から３段にわたって径5～20㎝程の礫を確認した。さらに、内径0.8ｍ程度の円形を呈しながら掘り抜いている。井戸の埋土からは径10～20㎝程の礫が多くみられたことから、上部に存在していたと思われる礫が崩落したと推測される。検出面から断ち割りを行い調査した結果、最下部で内径0.72ｍ、深さ４ｍを確認した。検

出した最下部では18世紀の遺物が多いため、少なくとも近世中期には井戸が存在し、その後、水溜め・ゴミ穴として機能していたと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)46点、古瀬戸26点、中世常滑陶器１点、瀬戸美濃大窯５点、土師器皿３点、瀬戸美濃連房64点など、159点出土した。そのうち、土師器皿(番号271)、瀬戸美濃大窯(灯明皿・番号272)、瀬戸美濃連房(番号273～276)の６点を図示した(第165図)。

白瓷系陶器・大窯など中世遺物や瀬戸美濃連房の遺物がそれぞれ同じ程度出土していることから、中世末期に本遺構が存在し、近世の長きにかけて存続していたと考えられる。

Ｆ233(第13図・第37図・写真図版６)

位置・検出状況　Ｏ50グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。平面形は長軸2.1ｍ、短軸1.88ｍの円形を呈しており、溝跡Ｆ50を切った状態であった。掘形は垂直よりやや斜めに、0.7ｍ下まで掘り込んでいる。石組みはやや崩れているものの、木材(径0.1ｍ・長さ平均1.6ｍ)８本を使用して井桁に組んだ木組み上に、５段から６段にわたって径20㎝程の礫が組んである形状を確認した。さらに、内径１ｍ程の円形状を呈しながら、硬い基盤層のⅤ層をほぼ垂直に掘り抜いている。検出面から断ち割りを行い調査した結果、最下部で内径0.96ｍ、深さ2.52ｍを確認した。最下部では19世紀の遺物が多いため、近世後期には本遺構が存在していたと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)８点、古瀬戸５点、中世常滑陶器２点、土師器皿２点、瀬戸美濃連房20点など、49点出土した。そのうち、瀬戸美濃連房(銚子・番号309)を図示した(第166図)。

底部付近の埋土から瀬戸美濃連房の遺物破片など、全体に瀬戸美濃連房が多いことや近世溝Ｆ50を切っていることから、本遺構は近世溝Ｆ50があった時期以降のものと考えられる。

Ｆ34(第13図・第37図・写真図版５)

位置・検出状況　Ｐ51グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。平面形は長軸1.36ｍ、短軸1.3ｍの円形を呈している。検出面より0.3ｍ程下の埋土から径5～10㎝の礫や近世後期の遺物を確認した。前述の井戸跡でみられた径20㎝程の礫は存在しなかった。検出面より近世後期の遺物を取り上げた0.6ｍ程の深さでは常時水が溜まる状態であった。検出面から断ち割りを行った結果、Ⅳ層・Ⅴ層上層をほぼ垂直に掘り抜き、礫混じりの粘土質の埋土を確認した。最下部で内径0.72ｍ、深さ1.6ｍを測る。夏の時期に数日降水がないにもかかわらず、0.6ｍ程の深さで常時水が溜まることから、この程度の深さの井戸でも、十分に水が得られたと考えられる。検出した最下部では18～19世紀の瀬戸美濃連房の片口など近世後期の遺物が出土した。また、0.3ｍ程下の埋土にも同時期の遺物を確認したことから、その時期に本遺構を廃棄したと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)28点、古瀬戸２点、土師器皿22点、瀬戸美濃連房528点、近代陶磁器５点など、594点出土した。そのうち、土師器皿(番号140～142)、瀬戸美濃連房(番号143～165)、木製品(番号2006)１点の26点を図示した(第158・159・214図)。

前述のように底部付近の埋土から瀬戸美濃連房の遺物が出土し、全体に瀬戸美濃連房の遺物が大部分を占めることから、本遺構は近世中期以降のものと考えられ、近世末から近代初期にかけて絶えた可能性が高い。

Ｆ370（第13図・第38図・写真図版５）

位置・検出状況　Ｏ49～Ｐ49グリッドに位置し、Ｖ層上面で検出した。平面形は長軸1.7ｍ、短軸1.5ｍの円形を呈している。東西には井戸の覆屋と推測される柱穴Ｆ267・Ｆ268を検出した。検出面より0.3ｍ程下の埋土に径５～10㎝の礫を確認した。0.5ｍ程の深さでは常時水が溜まる状態であった。検出面から硬い基盤層のＶ層を掘り抜き、最下部で内径0.8ｍ、深さ1.2ｍを測った。井戸跡Ｆ34と同じく、0.5ｍ程の深さで常時水が溜まる状態から、この程度の深さの井戸でも十分に水が得られたのであろう。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）４点、古瀬戸１点、土師器皿１点など11点出土した。そのうち、白瓷系陶器（碗・番号314）を図示した（第166図）。

全体の出土遺物は少ないものの白瓷系陶器（碗・皿）が多いことや北側に位置するＳＨ６との配置から、本遺構は中世後期以降のものと考えられ、井戸跡北側に位置するＳＨ６と時期がほぼ同じである。

Ａ118（第13図・第35図・写真図版３）

位置・検出状況　Ｐ40・Ｑ40グリッドに位置し、溝跡Ａ95を切った状態で検出した。平面形は、長軸6.98ｍ、短軸3.58ｍの不定形を呈している。埋土３層から径４～30㎝の礫層や、埋土６層から粘土質の黒褐色土を検出し、検出面から0.6ｍ程の深さから常時水が溜まる状態であった。底部は、溝状に細長く、検出面から1.2ｍ程の深さである。検出した最下部では18世紀の近世陶器が多いため、少なくとも近世中期以降には本遺構が存在し、その後、遺物の量が他の井戸跡等の遺構に比べ多いことから、近代にかけてゴミ穴として機能したかもしれません。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）345点、古瀬戸61点、土師器皿51点、瀬戸美濃連房152点、近代陶磁器252点など、1,441点出土した。そのうち、白瓷系陶器（碗・皿・番号43～45）、古瀬戸（番号46・47）、中世常滑陶器（番号48・49）、瀬戸美濃大窯（番号50）、土師器皿（番号51・52）、瀬戸美濃連房（番号53～84、86～98）など、58点を図示した（第153～155図）。

出土遺物は前述のように底部付近の埋土から瀬戸美濃連房の遺物が出土し、全体に瀬戸美濃連房が大部分を占めることから、本遺構は近世中期以降のものと考えられる。

Ａ117（第13図・第40図・写真図版２）

位置・検出状況　Ｏ41・42グリッドに位置し、溝跡Ａ１と北側で接し、南側で近世の溝跡Ａ123・Ａ116に切られている状態で検出した。平面形は、長軸3.2ｍ、短軸2.7ｍのやや楕円形を呈している。埋土１～３層に径５～20㎝の礫が混入しており、検出面から0.6ｍ程の深さで常時水が溜まる状態であった。底部は、内径0.88mの円形を呈し、深さ1.2ｍを測る。井戸にしては浅く、開口していることを考えると水溜め状遺構としての機能を有していると判断した。検出した最下部では白瓷系陶器・大洞東１号窯式の碗が出土し、中世後期から水溜めが存在し、廃棄する中で埋まっていったと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）546点、古瀬戸11点、瀬戸美濃大窯13点、土師器皿15点、瀬戸美濃連房1,386点など、2,012点出土した。そのうち、白瓷系陶器（皿・碗・番号38・40）、古瀬戸（番号39）、瀬戸美濃連房（番号37・41）、瓦器（番号42）の６点を図示した（第152図）。

出土遺物は底部付近の埋土から白瓷系陶器・大洞東１号窯式の碗が出土し、中世後期の遺物や近世

の遺物が出土していることから、本遺構は中世末期から近世にかけてのものと考えられる。

Ｆ175（第13図・第39図・写真図版６）

位置・検出状況　Ｐ49・50、Ｑ49・50グリッドの中央に位置し、Ⅴ層上面で検出した。平面形は、長軸4.1ｍ、短軸3.4ｍのやや長方形を呈している。東側では、掘形は底部から緩やかに立ち上がり底部から0.24ｍで一度平坦な中段となる。また、北西角1.6ｍ方形部分で、硬い基盤層のⅤ層を掘り抜いた0.55ｍ程の深さの平坦な底面を確認した。水溜め状遺構Ａ118・Ａ117に比べ比較的浅いが、0.25ｍ程の深さで常時水が溜まる状態であった。水はけが悪い土地のため、水溜め状遺構としての機能を有していたと推測できる。検出した最下部では脇之島３号窯式の白瓷系陶器の碗や片口鉢が出土したことから、中世後期の水溜め状遺構が存在し、その後埋まっていったと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）60点、瀬戸美濃連房７点など、97点出土した。そのうち、白瓷系陶器（碗・片口鉢・番号290・291）、須恵器（番号292）、瀬戸美濃連房（番号293）の４点を図示した（第165図）。

出土遺物は前述のように底部付近の埋土から白瓷系陶器・脇之島３号窯式の碗が出土し、中世後期の遺物が出土していることから、中世後期から水溜め状遺構が存在していたと考えられる。そして、近世遺物も多いことから、近世末までに廃絶した可能性が高い。

Ｆ330（第13図・第38図・写真図版６）

位置・検出状況　Ｒ49グリッドの調査区南境に位置し、Ⅳ層上面で、長軸1.5ｍ、短軸0.9ｍの北半分を検出した。南半分は調査区外となり調査できなかった。埋土は黒色土の粘土質で、検出上面から漏斗状にⅣ層を掘り込んでいた。0.3ｍ程の深さになると常時水が湧いてくる状態であった。底部は、内径0.6mの円形を呈し、深さ1.2ｍを測る。井戸にしては浅く、開口していることから、水溜め状遺構としての機能を有していると判断した。

出土遺物・時期　須恵器１点、白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）７点など、９点出土した。そのうち、白瓷系陶器（碗・片口鉢・番号312・316）２点を図示した（第166図）。

出土遺物は前述のように底部付近の埋土から白瓷系陶器である明和１号窯式の碗や第６型式の片口鉢が出土していることから、中世後期から水溜めとして存在していたと考えられる。近世遺物は少ないことから、近世中期までに絶えていった可能性が高い。

４　溝跡

溝跡は、Ａ地区11条、Ｆ地区19条の30条である。城館屋敷の区画にかかわる東西・南北の溝は長く、性格がわかるものがあるが、方向が一定していない溝跡も存在し、性格が不明なものもある。Ａ地区では３条、Ｆ地区では４条について図示・記述し、その他は一覧表に記載した（第９表）。

Ａ１（第13図・第41図・写真図版２）

位置・検出状況　Ｑ36～Ｎ44グリッドにかけてＡ地区北側のほぼ東西に位置する。調査区北側の浦

畑遺跡Ｇ地区の調査区南境と並行して存在し、東－西方向を主軸（Ｎ76°Ｅ）とする溝跡である。東端はＦ地区溝跡Ｆ65に続き、検出面で最大幅約0.95ｍ、深さ約0.4ｍを測る。溝の断面は緩いＵ字縦半分の形をしており、溝の底は若干平坦になるものの調査区外でもっと深くなる可能性がある。溝の断面断面を観察すると溝の底部分はよくしまっており、水が流れた形跡がある。底部付近で10～30㎝の礫を確認した。この溝跡の南側の２～３ｍ幅は、比較的遺構が少なく、調査区周辺の細長い地割り（第10図）や御嵩町史から土塁想定部分にあたるものと推測される。従って、この溝跡は、堀跡の可能性もある。また、土塁想定部分南側の建物跡を区画する溝としても機能を有していたのだろう。その後、近世から近代にかけて土塁がなくなり、林・畑地になっていったと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）435点、古瀬戸15点、中世常滑陶器７点、中国磁器３点、瀬戸美濃大窯10点、土師器皿16点、土師器鍋２点、瀬戸美濃連房109点など、621点出土した。そのうち、白瓷系陶器 碗８点、皿４点、片口鉢３点（番号1～15）、古瀬戸（番号16・18）、瀬戸美濃大窯（番号17）、土師器皿（番号19）、土師器鍋（番号20）の20点を図示した（第151図）。

出土遺物の中に、白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）の遺物が多くを占めており、底部計測による時期分類では明和１号窯式・大畑大洞４号窯式・大谷洞14号窯式の遺物が出土していることから中世後期～近世後期まで溝が機能し、その後次第に溝がなくなり林地・畑地になっていったと推測される。

Ａ95（第13図・第41図）

位置・検出状況　Ｑ36～Ｐ41グリッドにかけて、溝跡Ａ１の南側を並行して、東西に位置する。北東－南西方向を主軸（Ｎ63°Ｅ）とする溝跡で、中央で水溜め状遺構Ａ118に切られている。東端は溝跡Ａ123を切っており、幅約0.9ｍ、深さ約0.3ｍを測る。溝の断面は肩から底面まで緩やかにつながる皿状を呈している。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）181点、古瀬戸８点、中世常滑陶器２点、瀬戸美濃大窯７点、土師器皿８点、土師器鍋４点、瀬戸美濃連房350点など、612点出土した。そのうち、瀬戸美濃連房（番号25～27）の３点を図示した（第152図）。

出土遺物に、白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）の遺物があるものの、瀬戸美濃連房の遺物も白瓷系陶器より多く存在することから、中世後期の時期に溝跡が存在したと考えられる。近代以降になくなり林地・畑地になっていったと推測される。

Ａ116（第13図・第41図）

位置・検出状況　Ａ116はＱ42～Ｏ42グリッド、Ｏ43グリッド～Ｐ44グリッドにかけてＳＨ２を囲むように位置する。ＳＨ２の西側に位置する部分は、南－北方向を主軸（Ｎ10°Ｗ）とし、北側に位置する部分は、東－西方向を主軸（Ｎ78°Ｅ）とし、東側に位置する部分は南－北方向を主軸（Ｎ15°Ｗ）としている。検出面でいずれも幅約0.6～1.5ｍ、深さ0.1～0.2ｍを測り、溝跡の中では浅い。溝の断面は肩から底面まで緩やかにつながる皿状を呈している。本溝跡の内側には、中世後期～末期の掘立柱建物跡（ＳＨ２）が確認できたことから、区画溝としての機能があったものと考えられる。

出土遺物・時期　Ａ116から白瓷系陶器（碗・皿）43点、古瀬戸３点、中世常滑陶器２点、瀬戸美濃大窯７点、土師器皿３点、土師器鍋４点、瀬戸美濃連房46点、近世常滑陶器８点など126点出土した。

そのうち、瀬戸美濃連房(番号32～36)の５点を図示した(第152図)。

出土遺物に、白瓷系陶器(碗・皿)や大窯など中世遺物と同様に、瀬戸美濃連房の遺物も存在することや掘立柱建物跡(ＳＨ２)の遺構時期から判断すると中世後期～末期から長い間存続し、近世後期まで続いたと推測される。

Ｆ50(第13図・第42～44図・第47図・写真図版７)

位置・検出状況　Ｏ44グリッドからＦ区東北東に向けて延び、Ｎ49グリッドで直角に曲がって南南東に向けて延びながら、ＳＨ３～６の建物跡を囲むように位置する。西側から、東ー西方向を主軸(Ｎ73°Ｅ)とし、ほぼ直角に南南東に曲がってから、南ー北方向を主軸(Ｎ25°Ｗ)とする溝跡である。検出面で最大幅約2.0ｍ、深さ約0.43ｍを測る。溝の断面は緩いＵ字形を呈しており、溝の底は若干平坦になる。溝の断面を観察すると溝の底部分はよくしまっており、水が流れた形跡がある。埋土中央部から上部にかけては、10～20㎝の礫や近世陶磁器の破片が多く出土した。この溝跡の北側の３～５ｍ幅周辺や東側の７～８ｍ幅において、遺構が極端に少ないことから、溝跡Ａ１で前述したように、土塁がＡ地区から延び、本遺構と並行し南南東に延びて存在していた可能性がある。また、第33～35図でも分かるように10～20㎝の礫や近世陶磁器の破片が多く出土した。ＳＨ３～６の建物跡を区画する溝で、居住地域の水はけをよくするための排水機能も有していたと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)335点、古瀬戸55点、中世常滑陶器18点、中国磁器１点、瀬戸美濃大窯17点、土師器皿50点、瀬戸美濃連房368点、近世常滑陶器340点、近代陶磁器107点など1,455点出土した。そのうち、白瓷系陶器(碗・番号166～168)、土師器皿(番号171・172)、中国磁器(番号170)、瀬戸美濃連房(番号169・173～184・186)、肥前磁器(番号185)、近世常滑陶器(番号188・189)、瓦器(番号187)の24点を図示した(第159・160図)。

出土遺物の中に、白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)の遺物から、近世陶磁器まで遺物が出土しているが、全体の1,455点中、815点が近世陶磁器である。白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)、大窯、土師器皿など中世末期の陶器が多く出土している。埋土上層は近世陶磁器、特に18～19世紀の連房第２～３段階の遺物が大部分を占めることから、中世末期から近世末期に続く区画溝と考えられる。

Ｆ65(第13図・第45図・第47図・写真図版７)

位置・検出状況　溝跡Ａ１東端から続くように、Ｆ区東北東に延び、Ｌ51グリッドまで延びる。Ａ１と同じく東ー西方向を主軸(Ｎ70°Ｅ)とする溝跡である。検出面で最大幅約3.0ｍ、深さ約1.0ｍを測る。溝の断面はＵ字形を呈しており、溝の底は若干平坦になる。溝の断面を観察すると底部分はよくしまっており、水が流れていた形跡がある。埋土中央部から上部にかけて0.1～0.3ｍの礫を確認した。この溝跡の南側(３～５ｍ幅)も遺構が少なく、土塁想定部分にあたるものと推測される。従って、Ａ１東端から続くこの溝跡は、堀跡と考えられる。

出土遺物・時期　灰釉陶器１点、白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)308点、古瀬戸63点、中世常滑陶器13点、瀬戸美濃大窯19点、土師器皿70点、瀬戸美濃連房519点、近世常滑陶器486点など1,680点出土している。そのうち、古代土師器(番号192)、灰釉陶器(番号193)、白瓷系陶器(碗・皿・番号194～205)、古瀬戸(番号206～209・211)、中国磁器(番号210)、瀬戸美濃大窯(番号212)、土師器皿(番号

213～217)、瀬戸美濃連房(番号218～220・222～231・233～238)、連房窯磁器(番号221・232)、近世常滑陶器(番号239)の48点を図示した(第161～163図)。

出土遺物の中に、古代の遺物も出土しているが、白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)と瀬戸美濃連房が多くを占めていることや遺構の切り合いから、中世後期以降続いて存在したと考えられる。近世後期まで溝が機能し、その後、次第になくなり林地・畑地になっていったと推測される。

Ｆ70(第13図・第44図・第46図・第47図)

位置・検出状況　Ｐ50グリッドから南南東に延び、途中で分かれながらＴ52グリッドでまたつながる形で検出した。溝跡Ｆ128(遺構配置図・第148図)から続く溝跡である。南東ー北西方向を主軸(Ｎ30°Ｗ)とし、検出面は、最大幅約1.0ｍ、深さ約0.4ｍを測る。溝の断面はＵ字形を呈しており、溝の底は水はけが悪いためかすぐ湧いてくる状態である。埋土底部から中央部にかけては、10～20㎝の礫が出土し、中世陶器の破片も多く出土した。溝跡の方向が氾濫によるためか様々な方向に枝分かれしており、時期ごとに変化していたと推測される。Ｒ51グリッド付近の底部では白瓷系陶器(碗・皿)が集中して出土した。建物跡を区画する溝として機能していたとも考えられるが、方向が枝分かれしていることやＦ65に比べ浅いこともあり、自然流路の可能性が高いと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)223点、古瀬戸28点、中世常滑陶器５点、瀬戸美濃大窯６点、土師器皿７点、瀬戸美濃連房16点など333点出土した。

そのうち、白瓷系陶器(碗・片口鉢・番号240～249)、古瀬戸(番号250～253・256)、中世常滑陶器(番号257)、瀬戸美濃大窯(番号254)、土師器皿(番号255)の18点を図示した(第163・164図)。

出土遺物・遺構の切り合いから中世後期から末期まで存在し、近世に入って、瀬戸美濃連房の出土が全体の量に比べ大変少ないことから、やがて溝跡Ｆ50につながり、絶えていったと考えられる。

５　集石遺構

集石遺構は、Ａ133の１基で、この１基について図示、詳細を記述し、その他については遺構一覧表(第４表)・地区別遺物出土量(第11表)に記載した。

Ａ133(第48図・写真図版３)

位置・検出状況　Ａ133はＲ39グリッドに、溝跡Ａ11と並行して西側に位置する。南ー北方向を主軸(Ｎ14°Ｗ)とする細長い集石遺構で北端は溝Ａ95の手前まで存在する。溝跡Ａ11より高い位置で礫が集まっていたため、集石遺構と判断した。中央検出面で幅約0.5ｍ、長さ約5ｍを測り、径５～20㎝の礫が平坦に敷き詰められている。この調査区(Ａ地区)の南側では、掘立柱建物跡が５棟確認できており(御嵩町教育委員会によって平成14年９月25日から平成15年３月25日の期間に発掘調査を実施。中世時期の掘立柱建物跡４棟でそのうち１棟は16世紀末の時期。)ＳＨ１・ＳＨ２など絶えた後も、近世の時期にも建物跡が存在していた可能性が高いことを考慮すれば、居住及び畑地において、遺物廃棄のためや水はけをよくするための機能を有していたと考えられる。また、東側に溝跡134が存在し、土塁として役目があるかもしれないが、盛り土は確認できなかったこと、地割り図からも形跡が

ないこと、近世末期の遺物が多いことから、土塁としての判断はできなかった。

出土遺物・時期　Ａ133から白瓷系陶器（碗・皿）９点、古瀬戸２点、中世常滑陶器５点、土師器皿１点、瀬戸美濃連房41点など65点出土した。そのうち、土師器皿（番号109）、古瀬戸（番号107）、常滑陶器（番号108・114）、瀬戸美濃連房（番号110～113）の８点を図示した（第156図）。

出土遺物に、白瓷系陶器（碗・皿）などの中世の遺物が出土しているものの、瀬戸美濃連房の遺物が多くを占めるため、近世前期から存在し、後に中世の遺物が混入したと判断した。また瀬戸美濃連房第３段階の時期の遺物が出土しており、近世末頃まで存在していたと考えられる。その後絶え、林地・畑地になっていったと推測される。

６　土坑

土坑は、100基を確認した。その中には、礫を伴ったものや帰属時期・性格不明なものも多い。遺物や礫が確認できたものについて、Ａ地区６基、Ｆ地区７基の土坑を図示、詳細を記述した。その他については遺構一覧表（第４表）・地区別遺物出土量（第11表）に記載した。

Ａ12（第49図）

位置・検出状況　Ｒ37グリッド南端に位置する。長軸0.8ｍ、短軸0.77ｍ、深さ0.3ｍを測り、平面形は不定形を呈している。検出面からやや垂直に掘り込み徐々に緩やかになる。底面は円形状を呈しながら平坦となる。ピットＡ13に切られ、溝跡Ａ11を切っている。埋土は単層である。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）16点、瀬戸美濃連房５点の21点出土した。大窯期の遺物が出土した溝跡Ａ11を切っていることや白瓷系陶器（碗・皿）が多いことから、本遺構は、中世後期～末期のものと考えられる。

Ａ27（第49図）

位置・検出状況　Ｒ38グリッド西端に位置する。長軸0.8ｍ、短軸0.77ｍ、深さ0.3ｍを測り、平面形態は不定形を呈している。検出面から皿状に緩やかに掘り込み、底面は平坦となる。埋土は単層で、径10～15㎝ほどの礫が埋土より出土した。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）４点、瀬戸美濃連房１点の５点出土した。本遺構は、出土遺物より中世後期～末期のものと考えられる。

Ａ36（第49図）

位置・検出状況　Ｑ40グリッド南端に位置する。長軸0.62ｍ、短軸0.48ｍ、深さ0.14ｍを測り、平面形は不定形を呈している。検出面から皿状に緩やかに掘り込み、底面は平坦となる。溝跡Ａ134を切っている。埋土は単層である。

出土遺物・時期　近世常滑陶器６点を出土した。近世溝Ａ134を切っていることと出土遺物から、本遺構は、近世後期のものと考えられる。

Ａ136（第49図）

位置・検出状況　Ｐ44グリッド北端に位置する。長軸1.04ｍ、短軸0.9ｍ、深さ0.2ｍを測り、平面形は円形を呈している。検出面からほぼ垂直に掘り込み、底面は平坦である。ピットＡ174に切られている。埋土は単層で、径10～20㎝程の礫を確認した。ＳＨ２内に位置する。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）５点、瀬戸美濃大窯１点、瀬戸美濃連房１点の７点出土した。本遺構は、出土遺物やＳＨ２との関連から中世末期のものと考えられる。

Ａ144（第49図）

位置・検出状況　Ｒ38グリッド中央に位置する。長軸0.65ｍ、短軸0.98ｍ、深さ0.32ｍを測り、平面形は楕円形を呈している。検出面からほぼ垂直に掘り込み、底面はやや傾いている。埋土は単層で、径10～20㎝程の礫を確認した。ＳＨ２内に位置する。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗）１点、瀬戸美濃連房２点の３点出土した。本遺構は、中世後期以降のものと考えられる。

Ａ153（第49図）

位置・検出状況　Ｒ37グリッド中央に位置する。長軸1.1ｍ、短軸0.9ｍ、深さ0.59ｍを測り、平面形は不定形を呈している。検出面からやや垂直に掘り込み、底面は２段でやや平坦となる。ピットＡ179・溝跡Ａ20を切っている。埋土は単層で、径10～20㎝程の礫を確認した。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）18点、土師器皿１点、瀬戸美濃連房１点の20点出土した。本遺構は、出土遺物から中世後期以降のものと考えられる。

Ｆ62・Ｆ63（第50図）

位置・検出状況　Ｏ50グリッドに位置する。Ｆ62は、長軸0.86ｍ、短軸0.8ｍ、深さ0.1ｍを測り、平面形は楕円形を呈している。検出面から皿状に緩やかに掘り込み、底面は平坦となる。Ｆ63に切られている。Ｆ63は、長軸1.06ｍ、短軸0.76ｍ、深さ0.13ｍを測り、平面形は楕円形で、溝跡Ｆ50に切られている。

出土遺物・時期　近世常滑陶器２点など10点出土した。本遺構は出土遺物の時期幅があり、推測するのは難しい。少なくとも近世溝に切られているため溝跡Ｆ50の存在以前のものと考えられる。

Ｆ64（第51図）

位置・検出状況　Ｏ50グリッドに位置する。Ｆ64は、長軸3.6ｍ、短軸1.5ｍ、深さ0.11ｍを測り、平面形は不定形を呈している。検出面から皿状に緩やかに掘り込み、底面は平坦となる。Ｆ136・Ｆ137・Ｆ295・Ｆ334に切られ、Ｆ258・Ｆ382を切っている。

出土遺物・時期　Ｆ64から 白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）13点、瀬戸美濃大窯２点、土師器皿４点、瀬戸美濃連房８点、近代陶磁器１点の28点出土した。本遺構は、出土遺物から中世末期以降のものと考えられる。

Ｆ161（第51図）

位置・検出状況　Ｏ48グリッドに位置する。長軸0.6ｍ、短軸0.58ｍ、深さ0.11ｍを測り、平面形はやや円形を呈している。検出面から皿状に浅く緩やかに掘り込み、底面は平坦となる。検出面に径20㎝程の礫を確認した。近世ＳＨ５の敷地内にあり、掘立柱建物跡の柱穴の礎石・根石かと推定されたが、調査を進めた結果、柱穴として位置がずれるため確定できなかった。

出土遺物・時期　近世常滑陶器１点出土した。本遺構は、出土遺物から、近世後期のものと考えられる。

Ｆ193（第51図）

位置・検出状況　Ｏ48グリッドに位置する。長軸2.9ｍ、短軸0.98ｍ、深さ0.09ｍを測り、平面形は不定形を呈している。検出面から皿状に緩やかに掘り込み、底面は平坦となる。埋土は単層でしまりがあり、ＳＨ６の敷地内に位置しているため、土間状の遺構とも考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）３点、瀬戸美濃連房１点などの６点出土した。本遺構は、出土遺物やＳＨ６との関連から中世後期のものと考えられる。

Ｆ211・Ｆ213（第51図）

位置・検出状況　Ｆ211はＳ51グリッドに位置する。長軸1.42ｍ、短軸0.9ｍ、深さ0.15ｍを測り、平面形はやや長方形を呈している。検出面から皿状に緩やかに掘り込み、底面は平坦となる。攪乱に切られ、Ｆ377を切っている。埋土は単層である。Ｆ213はＰ47グリッドに位置する。長軸0.7ｍ、短軸0.68ｍ、深さ0.13ｍを測り、平面形は不定形を呈している。Ｆ213もＦ211と同様な検出面からの掘り込み、底面の様相を確認した。Ｆ291を切っている。埋土は単層であるが、上層にしまりがある粘土層を確認した。

出土遺物・時期　Ｆ211は、白瓷系陶器（碗・皿）５点など、７点出土した。本遺構は、出土遺物から、中世前期以降のものと考えられる。Ｆ213は瀬戸美濃連房１点、近世常滑陶器４点の５点を出土した。本遺構は、出土遺物や切り合い関係から、近世後期のものと考えられる。

第４節　浦畑遺跡東区の遺構

浦畑遺跡東区は、前節で述べた上恵土城跡の北側に位置する。中世(14～16世紀)の掘立柱建物跡、井戸跡、埋設穴が見つかり、建物跡の中や周囲に土間状遺構を確認した。また、地境溝が南北・東西に走り、集落が存在していた様相を示している。近世(17～19世紀)は、細かく区画された溝跡、掘立柱建物跡、井戸跡を確認するなど、中世から近世にかけての綿々と続く遺構を確認した。以下、第３節と同様に、各遺構の種類別に詳細を述べていく。

１　掘立柱建物跡（ＳＨ）

掘立柱建物跡（ＳＨ）は、中世の時期のものが11棟、近世の時期のものが３棟確認できた。また、建物に伴うピット内には根石・支え石を有するものがいくつかみられた。14棟の掘立柱建物跡を図示・記述した。その他の詳細について、掘立柱建物跡遺構一覧(第５表)に記載した。

ＳＨ７（第12図・第52・53図、写真図版８）

位置・検出状況　Ｇ地区のＨ42～Ｊ44グリッドの調査区北側に位置し、Ⅳ層上面で検出した。北東隅柱穴Ｇ211の北東部分は調査区外になり、柱穴Ｇ270・Ｇ259は溝状遺構Ｇ205に切られている。柱穴Ｇ277は近世の土坑Ｇ268に、柱穴Ｇ272は土間状遺構Ｇ44に切られて検出した。検出面で、掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。東側一部にしまりのある硬化面が確認できたが、混じり土層とコンクリート状の破片の存在を確認したことから攪乱によるものと判断した。

規模　桁行５間×梁行３間の南－北方向を主軸（Ｎ18°Ｗ）とする総柱の掘立柱建物跡であり、桁行9.48ｍ、梁行5.64ｍ、床面積53.47㎡である。

形態　北側に位置する柱穴Ｇ226・Ｇ228・Ｇ211や、西側に位置する柱穴Ｇ226・Ｇ217・Ｇ187・Ｇ150、南側に位置する柱穴Ｇ150・Ｇ279・Ｇ272・Ｇ94は、線状に並んでいる。建物跡内にも線状に並ぶ柱穴Ｇ226・Ｇ259・Ｇ263・Ｇ189・Ｇ277・Ｇ179を確認した。東側は調査区外となり、建物跡がさらに延びている可能性が高いと考えられる。

柱穴　15基の柱穴が見つかった。平面形は全て円形状を呈しており、柱穴は0.3～0.6ｍの深さがあり、Ｇ179・Ｇ187には川原石が出土した。Ｇ217とＧ187やＧ187とＧ150の間にも柱穴があると推測し調査を実施したが、確認できなかった。攪乱によって削平されたかもしれない。

出土遺物・時期　柱穴Ｇ94より白瓷系陶器(碗・皿)７点をはじめ、柱穴15基の中で13基で白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)が出土し、計53点出土した。そのうち、Ｇ187・Ｇ211・Ｇ228・Ｇ279より白瓷系陶器の碗(番号335・336・337・340)やＧ259より白瓷系陶器の皿(番号338)、Ｇ272より古瀬戸の擂鉢(番号339)の６点を図示した(第167図)。

脇之島３号窯式、生田２号窯式の白瓷系陶器や古瀬戸後Ⅳ期の擂鉢の出土遺物や近世の遺構に切られていた状況から考えると、本遺構は中世後期のものと考えられる。ただ、瀬戸美濃連房の遺物１点については、近世溝に切られている事実やその埋土が上層に堆積していることから、後に混入したものと判断した。

ＳＨ８（第12図・第54・55図）

位置・検出状況　Ｇ地区のＪ43～Ｋ44グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。北西隅柱穴Ｇ158はＧ159を切っており、Ｇ152は溝状遺構Ｇ281に切られている。柱穴Ｇ136はＧ137に切られて検出した。検出面の北東部分において、炭の破片が混入し、硬くしまった硬化面を検出し、長軸2.6ｍ短軸1.5ｍの長方形を呈した土間状遺構Ｇ44を確認した（後述参照）。

規模　桁行３間×梁行２間の東－西方向を主軸（Ｎ75°Ｅ）とする総柱の掘立柱建物跡であり、桁行6.36ｍ、梁行4.32ｍ、床面積27.48㎡である。

形態　北側に位置する柱穴Ｇ158・Ｇ162・Ｇ164・Ｇ271と南側に位置する柱穴Ｇ123・Ｇ122・Ｇ92・Ｇ78は、ほぼ線状に並ぶ。柱穴Ｇ152・Ｇ136・Ｇ41も、線状に並んでいる。

柱穴　12基の柱穴が見つかった。平面形はＧ122を除いて、ほぼ円形状を呈しており、深さが0.2～0.5ｍの柱穴であった。

出土遺物・時期　柱穴Ｇ122より白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）４点、柱穴Ｇ123より白瓷系陶器（碗・皿）５点、柱穴Ｇ158より白瓷系陶器（碗）１点、柱穴Ｇ271より白瓷系陶器（碗）１点、Ｇ136とＧ41から瀬戸美濃連房２点の６基の柱穴から13点出土した。そのうち、Ｇ122より白瓷系陶器（片口鉢・番号333）が出土しており図示した（第167図）。

白瓷系陶器の片口鉢など出土遺物や土間状遺構の時期ならびに、近世の遺構に切られていた状況から考えると本遺構は、中世後期のものと考えられる。ただ、ＳＨ７を切っているため、ＳＨ７が絶えた後、その後で本遺構が存在したものと考えられる。

ＳＨ９（第12図・第56・57図）

位置・検出状況　Ｇ・Ｅ地区のＪ39～Ｋ40グリッドにかけて位置し、硬い基盤層のＶ層上面で検出した。柱穴Ｇ497は、Ｇ395を切った状態で検出した。本遺構の中央から南付近でも、柱穴など建物の痕跡があると推測されたが、攪乱によってかなり削平され、南側に並ぶ中央の柱穴は確認できなかった。検出面において、掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行３間×梁行２間の南－北方向を主軸（Ｎ18°Ｗ）とする総柱の掘立柱建物跡であり、桁行6.18ｍ、梁行5.40ｍ、床面積33.37㎡である。

形態　北側に位置する柱穴Ｅ1004・Ｅ917・Ｅ16や、中央東西に位置する柱穴Ｇ386・Ｇ451・Ｇ497は線状に並んでいる。しかし、東側の中央に位置する柱穴Ｇ497は、若干ずれて位置する。

柱穴　８基の柱穴が見つかった。その平面形は円形状を呈しているものが多く、深さが0.2～0.5ｍの柱穴であった。やや浅い柱穴Ｅ1004・Ｇ382もあるが、現代の攪乱によって上層が削平されたと推測される。

出土遺物・時期　Ｅ1004・Ｅ1007、Ｇ361・Ｇ497より白瓷系陶器（碗・皿）が８点出土した。いずれも破片の状態で出土したため、図示を略した。出土遺物や切り合いから、本遺構は中世後期のものと考えられる。

ＳＨ10（第12図・第58図・写真図版８）

位置・検出状況　Ｇ地区のＬ・M41グリッドに位置し、Ｖ層上面で検出した。北側西隅に位置する柱穴Ｇ501は、土坑Ｇ341に切られている。柱穴Ｇ481･Ｇ487･Ｇ495は溝跡Ｇ302に、柱穴Ｇ515は溝跡Ｇ301に切られて検出した。検出面において、掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行２間×梁行１間の南－北方向を主軸（Ｎ16°Ｗ）とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行6.12ｍ、梁行2.82ｍ、床面積約17.26㎡である。

形態　西側に位置する柱穴Ｇ501・Ｇ336・Ｇ487は、それぞれ線状に並んでいるが、東側に位置する柱穴Ｇ481・Ｇ495・Ｇ515は、若干ずれて並んでいる。

柱穴　６基の柱穴が見つかった。平面形は円形や楕円状を呈しているものが多く、0.2～0.3ｍの柱穴であり、基盤層のＶ層を掘り抜いている。柱穴Ｇ336・Ｇ495において、支え石と考えられる石を確認した。敷地内に中世井戸跡Ｇ482や甕の埋設穴があり（後述参照）、時期が同一と推定されるため、作業場のような建物であった可能性が高い。

出土遺物・時期　Ｇ336より古瀬戸１点、Ｇ481より白瓷系陶器（碗・皿）５点、土師器皿７点、瀬戸美濃連房２点の15点出土した。そのうち、Ｇ336より古瀬戸（番号439）、Ｇ481より白瓷系陶器（碗・番号471）、土師器皿（番号472・473）を図示した（第172・173図）。

出土遺物や近世の溝跡Ｇ301・Ｇ302に切られていることから、中世井戸跡Ｇ482や甕の埋設穴の時期を考慮すると、本遺構は中世後期のものと考えられる。

ＳＨ11（第12図・第59・60図）

位置・検出状況　Ｇ地区のＬ39～M40グリッドにかけて位置し、Ｖ層上面で検出した。中央に位置する柱穴Ｇ453はＧ415を切り、Ｇ455はＧ454・Ｇ456を切っている。検出面において、掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行３間×梁行３間の北西－南東方向を主軸（Ｎ22°Ｗ）とする総柱の掘立柱建物跡であり、桁行7.2ｍ、梁行5.82ｍ、床面積41.90㎡である。

形態　北側に位置する柱穴Ｇ427・Ｇ441・Ｇ332や中央東西に位置する柱穴Ｇ414・Ｇ453・Ｇ326・Ｇ322、南側に位置する柱穴Ｇ458・Ｇ307は、それぞれ線状に並んでいる。

柱穴　12基の柱穴が見つかった。平面形は円形状を呈しているものが多く、0.1～0.3ｍの深さの柱穴であり、基盤層のＶ層を掘り抜いている。建物の構造上、北側に位置する柱穴Ｇ427・Ｇ441・Ｇ332の東端に柱穴がある可能性があったが確認できなかった。攪乱によって削平されたかもしれない。また、南側に位置する柱穴Ｇ458・Ｇ307の西の延長上に柱穴があると推測されたが、調査区外のため確認できなかった。

出土遺物・時期　Ｇ307・Ｇ310・Ｇ328・Ｇ441・Ｇ453・Ｇ458より白瓷系陶器（碗・皿）７点、土師器皿１点、瀬戸美濃連房２点の10点出土した。そのうち、Ｇ328より白瓷系陶器・生田２号窯式（碗・番号438）、Ｇ441より白瓷系陶器（碗・番号446）、Ｇ453より土師器皿（番号447）を図示した（第172図）。

全体に比べて少ないが瀬戸美濃連房の出土遺物や、柱穴で切り合いのあるものは全て切られているため、本遺構は中世末期から近世前期頃のものと考えられる。

ＳＨ12（第12図・第61図）

位置・検出状況　Ｅ地区のＧ39・40グリッドにかけて位置し、Ⅵ層上面で検出した。柱穴Ｅ659はＥ60に、Ｅ661はＥ54に、Ｅ695はＥ614に切られている。Ｅ1150はＥ50を切っている状態で検出した。

規模　桁行３間×梁行２間の東ー西方向を主軸（Ｎ75°Ｅ）とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行3.84ｍ、梁行3.06ｍ、床面積11.75㎡である。

形態　北側に位置する柱穴４基は、それぞれ線状に並んでいるものの若干間隔がせまい。南側の中央部分に位置するＥ1150に対応する柱穴は確認できなかった。

柱穴　８基の柱穴が見つかった。平面形は円形状を呈しているものが多く、0.2～0.6ｍの深さの柱穴である。

出土遺物・時期　柱穴Ｅ53・Ｅ65・Ｅ659・Ｅ661より白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）など、19点出土した。いずれも破片の状態で出土したため、図示を略した。時期を判断するのは難しいが、白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）が大部分を占めていることから、本遺構は中世後期以降のものと考えられる。

ＳＨ13（第12図、第62・63図、写真図版11）

位置・検出状況　Ｅ地区のＧ34～36グリッド付近に位置し、Ⅳ層上面で検出した。中央の東西に位置する柱穴Ｅ704・Ｅ735・Ｅ697は近世溝跡Ｅ139に、柱穴Ｅ1156は近世溝跡（耕作跡）Ｅ211に切られて検出した。検出面の南東部分において、掘立柱建物跡の柱穴以外に土間状遺構Ｅ221が存在し、埋土に炭や焼土があり、しまりのある硬化面を確認した（後述・第84図参照）。

規模　桁行４間×梁行３間の東ー西方向を主軸（Ｎ70°Ｅ）とする総柱の掘立柱建物跡であり、桁行10.50ｍ、梁行6.48ｍ、床面積68.04㎡で、当遺跡の中で大きな建物跡である。

形態　北側に位置する柱穴Ｅ1218・Ｅ1167・Ｅ186・Ｅ187・Ｅ133は、ほぼ線状に並んでいるが、南側に位置する柱穴Ｅ182・Ｅ1156・Ｅ1155・Ｅ725・Ｅ728・Ｅ730は、若干ずれて並んでいる。南東角には、先述のように土間状遺構Ｅ221があると考えられるため、広い間取りとなっている。

柱穴　15基の柱穴が見つかった。平面形は全て円形状を呈しており、0.1～0.5ｍの深さのある柱穴であり、Ｅ735・Ｅ1155には礎石と考えられる川原石が出土した。Ｅ187とＥ133やＥ133とＥ730の間にも柱穴があると推定し調査したが、確認できなかった。

出土遺物・時期　柱穴Ｅ184・Ｅ187・Ｅ730・Ｅ735より白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）など、17点出土した。いずれも破片の状態で出土したため、図示を略した。時期を判断するのは難しいが、近世溝跡Ｅ139に切られ、出土遺物が破片ながらも白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）が大部分を占めていることや、土間状遺構Ｅ221と同時期である可能性が高いことから、本遺構は中世後期のものと考えられる。

ＳＨ14（第12図・第64・65図、写真図版11）

位置・検出状況　Ｅ地区のＫ35～Ｌ37グリッド付近に位置し、Ⅳ層上面で検出した。西側南Ｅ799と東側南Ｅ849は、調査区境目において南西半分は調査区外であったため確認できなかった。柱穴Ｅ986はＥ769・Ｅ845・Ｅ985に切られて検出した。また南側は調査区外になり、確認できなかった。検出面の北東部分や南東部分において、土間状遺構Ｅ769・825が存在し、埋土にしまりのある硬化面を確認した（後述、第86・87図参照）。

規模　桁行３間（４間の可能性あり）×梁行３間の南－北方向を主軸（N17° W）とする総柱の掘立柱建物跡であり、桁行7.80ｍ、梁行5.16ｍ、床面積40.25㎡である。

形態　北側に位置する柱穴Ｅ779・Ｅ954・Ｅ815・Ｅ834、及び東側に位置する柱穴Ｅ834・Ｅ838・Ｅ847・Ｅ849は、ほぼ線状に並んである。北東角には、先述のように土間があると考えられるため、広い間取りとなっている。

柱穴　11基の柱穴が見つかった。平面形はほぼ円形状を呈しており、0.2～0.5ｍの深さのある柱穴である。中央の軸上に位置するＥ986に対応するＥ834とＥ838の間にも柱穴があると推測し調査を実施したが、確認できなかった。

出土遺物・時期　柱穴Ｅ779・Ｅ799・Ｅ809・Ｅ820・Ｅ847・Ｅ849より白瓷系陶器（碗・Ⅲ）20点、瀬戸美濃連房１点の21点出土した。いずれも破片の状態で出土したため、図示を略した。時期を判断するのは難しいが、出土遺物や土間状遺構Ｅ769・825や埋土にしまりのある硬化面の出土遺物から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

ＳＨ15（第12図・第66図）

位置・検出状況　Ｅ地区のＪ34～Ｋ35グリッド付近に位置し、Ⅳ層上面で検出した。検出面で掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行１間×梁行１間の東－西方向を主軸（N77° E）とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行4.80ｍ、梁行3.42ｍ、床面積16.42㎡である。

形態　長方形状を呈した建物跡である。北西隅の柱穴は若干外側に開いている。

柱穴　４基の柱穴が見つかった。Ｅ779とＥ1173の平面形は楕円形で、Ｅ560とＥ199は円形状を呈しており、0.3～0.4ｍの深さのある柱穴である。南北の軸上の間にも柱穴があると推定し調査したが、確認できなかった。

出土遺物・時期　柱穴Ｅ779・Ｅ560より白瓷系陶器（碗・Ⅲ）５点が出土した。いずれも破片の状態で出土したため、図示を略した。時期を判断するのは難しいが、ＳＨ14と同じ柱穴Ｅ779埋土の上層にあることから、ＳＨ14より後に構築されたと考えられる。本遺構は、中世末期から近世前期のものと考えられる。

ＳＨ16（第12図・第67図）

位置・検出状況　Ｅ地区のＪ31～32グリッドに位置し、Ⅴ層上面で検出した。検出面で掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行１間×梁行１間の東－西方向を主軸（N75° E）とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行3.90ｍ、梁行2.40ｍ、床面積9.36㎡である。

形態　北東角部分にあたり、調査区外となるが、実際は方形状の建物跡と推測される。掘立柱建物跡と判断したのは、延長上に柱穴がある可能性があること、柱穴Ｅ235に柱痕跡や柱穴Ｅ1175・Ｅ759の深さが0.7ｍ程あること、今まで検出した中でもかなりしっかりしたものであることの３点からである。

柱穴　３基の柱穴が見つかった。基盤層のⅤ層を堀り抜いており、平面形については、Ｅ759は若干楕円形を呈しているものの、他の２基は円形状を呈している。0.4～0.8ｍの深さのある柱穴である。

出土遺物・時期　柱穴Ｅ235より白瓷系陶器(碗) １点出土した。破片の状態で出土したため、図示を略した。時期を判断するのは難しいが、敷地内に近世溝Ｅ519が切っていることから、近世溝以前に形成されていた。このことから本遺構は中世後期から末期のものと考えられる。

ＳＨ17（第12図・第68図、写真図版11）

位置・検出状況　Ｅ地区のＤ30グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。柱穴Ｅ1025・Ｅ1041・Ｅ1022は、Ｅ317土間状遺構の下で確認した。建物跡内にある土間状遺構の埋土は、しまりがあり、灰色粘土を粒状に含んだ硬化面であった(後述、第84図参照)。

規模　桁行１間×梁行１間の北西ー南東方向を主軸(Ｎ48°Ｗ)とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行1.86ｍ、梁行1.80ｍ、床面積3.35㎡の小規模な建物跡である。

形態　４基の柱穴は方形の四隅角に並び、作業場や小屋としての機能を有していたと考えられる。

柱穴　４基の柱穴が見つかった。平面形はほぼ円形状を呈しており、0.3～0.6ｍの深さのある柱穴である。４基の柱穴はともにＥ317土間状遺構の周囲を囲むように位置している。

出土遺物・時期　柱穴Ｅ1022より白瓷系陶器(碗)が１点出土したが、破片の状態で出土したため図示を略した。Ｅ317土間状遺構と柱穴の配置位置が一致することから、土間状遺構と建物跡と同じ時期に形成されたと考えられる。土間状遺構には近世前期の遺物が出土していることから、本遺構は近世前期のものと考えられる。白瓷系陶器の破片は後に混入したものと判断した。

ＳＨ18(第12図・第69・70・71図・写真図版12)

位置・検出状況　Ｅ地区のＥ30～F31グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。北側に位置するＥ753はＥ340に切られ、Ｅ955・Ｅ1052・Ｅ931は、近世溝Ｅ407に切られて検出した。また南側に位置するＥ296・Ｅ933も近世溝Ｅ420に切られて検出した。検出面で掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行３間×梁行２間の南ー北方向を主軸(Ｎ21°Ｗ)とする総柱の掘立柱建物跡であり、桁行5.76ｍ、梁行3.78ｍ、床面積21.77㎡である。

形態　北側から一列目に位置する柱穴Ｅ399・Ｅ753・Ｅ310や二列目に位置する柱穴Ｅ955・Ｅ1052・Ｅ931、ならびに一番南側に位置する柱穴Ｅ296・Ｅ1035・Ｅ933は、ほぼ線状に並んでいる。南西角のＥ955とＥ296の間のＥ1209は等間隔には位置しておらず、広い間取りとなっている。

柱穴　15基の柱穴が見つかった。平面形はほぼ円形状を呈しており、0.2～0.9ｍの深さのある柱穴である。Ｅ399には、礎石と考えられる川原石が出土した。Ｅ296の底部にも川原石を確認したが、若干軸上からずれているため礎石と判断できなかった。南東角隅にも、柱穴があるかもしれないと推測し調査したが、確認できなかった。

出土遺物・時期　柱穴Ｅ296・Ｅ310・Ｅ347・Ｅ753・Ｅ1035・Ｅ1203・Ｅ1208・Ｅ1209より白瓷系陶器(碗・皿)29点、古瀬戸２点、瀬戸美濃大窯２点、土師器皿10点、土師器鍋10点、瀬戸美濃連房３点の56点出土した。そのうち、Ｅ1035より出土した白瓷系陶器(碗・番号845)、古瀬戸(縁釉小皿・番号848)の２点を図示した(第192図)。出土遺物・遺構の切り合いから、本遺構は中世後期のものと考えられる。

ＳＨ19（第12図・第72・73図、写真図版12）

位置・検出状況　Ｅ地区のＦ29～Ｇ30グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。北側に位置するＥ952・Ｅ1053は、近世溝Ｅ407に切られ、中央部に位置するＥ999・Ｅ751・Ｅ745は近世溝Ｅ420に切られて検出した。検出面で掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行２間×梁行２間の南ー北方向を主軸（Ｎ13°Ｗ）とする総柱の掘立柱建物跡であり、桁行5.58ｍ、梁行5.04ｍ、床面積28.12㎡である。

形態　北側から一列目に位置する柱穴Ｅ408・Ｅ952・Ｅ1053や二列目に位置する柱穴Ｅ999・Ｅ751・Ｅ745、ならびに一番南側に位置する柱穴Ｅ574・Ｅ1201・Ｅ277は、全て東西南北ともにほぼ線状に並んでいる。

柱穴　９基の柱穴が見つかった。平面形はほぼ円形状を呈しており、0.3～0.6ｍの深さのある柱穴であり、どの柱穴の断面も先の尖ったV字状を呈していた。礎石・支え石と考えられる川原石は、確認できなかった。

出土遺物・時期　柱穴Ｅ277・Ｅ745・Ｅ952・Ｅ999・Ｅ1201より白瓷系陶器（碗・皿）11点、瀬戸美濃連房１点の12点出土した。そのうち、Ｅ999より出土した白瓷系陶器（碗・番号842）を図示した（第192図）。出土遺物・遺構の切り合いから、本遺構は、中世末期のものと考えられる。

ＳＨ20（第12図、第74図）

位置・検出状況　Ｅ地区のＤ・Ｅ28グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。柱穴Ｅ1228は溝跡Ｅ371に、柱穴Ｅ761は土坑Ｅ392に切られて検出した。同様にＥ1263は土坑Ｅ1113に切られ、Ｅ764は土坑Ｅ417に切られて検出した。検出面において、掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行２間×梁行１間の南ー北方向を主軸（Ｎ12°Ｗ）とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行3.84ｍ、梁行2.34ｍ、床面積8.99㎡の建物跡である。

形態　東側に位置する柱穴Ｅ761・Ｅ1143・Ｅ764や西側に位置する柱穴Ｅ1228・Ｅ1193・Ｅ1263はほぼ線状に並び、長方形状の建物跡で、作業場のような機能をもっていたと考えられる。

柱穴　６基の柱穴が見つかった。平面形はほぼ円形状を呈しており、0.3～0.8ｍの深さのある柱穴である。柱穴Ｅ1143には礎石と考えられる川原石が確認できた。Ｅ1263は、土坑Ｅ1113の埋土の下から検出し、深さ0.7m以上あり深いものである。

出土遺物・時期　柱穴Ｅ1228より白瓷系陶器（碗）が１点出土したが、破片の状態であるため、図示を略した。時期を判断するのは難しいが、柱穴が近世溝Ｅ371を切っていることや他の柱穴の切り合い関係から、本遺構は中世後期以降のものと考えられる。

２　井戸跡・水溜め状遺構

井戸跡は、中世（６基）と近世（３基）のものを合わせて９基であり、そのうち８基について図示・記述する。水溜め状遺構については、中世３基を検出し、そのうち全てを図示、詳細を記述する。その他は井戸跡・水溜め状遺構の遺構一覧（第７・８表）に記載した。

Ｇ27（第12図・第75図、写真図版９）

検出状況・形態　Ｊ44・45グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。平面形は長軸2.64ｍ、短軸2.00ｍでほぼ円形状を呈し、そのままⅣ層やⅤ層をやや斜めに掘り抜いていた。検出面からは、廃棄する際に埋めたと考えられる径10～50㎝の礫や白瓷系陶器（碗・皿）など中世陶器の破片を確認した。検出面から0.6ｍ程の深さでは、Ⅴ層と木曽川泥流堆積物の層を掘り抜き、常時水が溜まる状態であった。最下部の内径確認面では、長軸0.84ｍ・短軸0.64ｍ、深さ1.44ｍを測った。井戸跡Ｇ27の周囲には中世の掘立柱建物跡ＳＨ７・８を確認し、この井戸跡の時期とほぼ対応するため関連があると考えられる。底部埋土から出土した遺物は、白瓷系陶器（碗・皿）がほとんど占め、近世遺物は上層にわずかしか出土していないことから、中世から井戸が存在し、近世に絶えたものと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）205点、古瀬戸４点、中世常滑陶器３点、瀬戸美濃大窯１点、土師器皿４点、瀬戸美濃連房６点など、237点出土した。そのうち、白瓷系陶器（碗）の大谷洞14号窯式１点、大洞東１号窯式５点、脇之島３号窯式１点（番号320～326）、古瀬戸（折縁深皿・番号327）の８点を図示した（第167図）。

底部埋土から大洞東１号窯式の白瓷系陶器が多くを占めることなど中世遺物が出土したことから、本遺構は中世後期のものと考えられる。

Ｇ472（第12図・第76図、写真図版９）

検出状況・形態　Ｋ38グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。平面形は長軸3.2ｍ、短軸3.12ｍで円形を呈していた。検出面からⅣ・Ⅴ層上面をやや斜めに掘り抜き、一段平らな面を持ちながら、内径２ｍ前後のところでほぼ垂直に掘り抜いている。今まで述べてきた井戸跡に比べ一番内径・深さともに大きい井戸跡である。埋土の中に礫は確認できなかった。調査途中、埋土に水分を多く含むため、崩落しそうな状況がたびたびあったことから、一気に廃絶されたことが考えられる。検出上面から断ち割りを行い調査した結果、最下部で内径約0.7ｍ、深さ約4.7ｍを確認した。深さが２ｍもあれば十分水がわき出るのにこのように深く掘ったのは、よりきれいな水を確保したかったのではないかと推測される。またこのことは、高度な掘り方の技術を要することから近世の時期につくられたものと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）64点、古瀬戸17点、瀬戸美濃連房300点、近世常滑陶器62点など、494点出土した。そのうち白瓷系陶器（碗・皿・番号448～450）をはじめ、古瀬戸（番号451）、中世常滑陶器（番号454）、瀬戸美濃連房（番号452・453・455～470）の23点を図示した（第172・173図）。

出土遺物は瀬戸美濃連房が300点と６割以上を占め、底部に瀬戸美濃連房の丸碗・鉄絵丸碗・擂鉢

等の江戸中期～後期の遺物が出土したことや内径の規模・掘り方の大きさから、本遺構は近世中期のものと考えられる。

Ｇ482（第12図・第75図・写真図版９）

検出状況・形態　Ｌ41グリッドに位置し、Ⅴ層上面で検出した。平面形は長軸1.50ｍ、短軸1.29ｍでやや楕円形を呈し、Ⅴ層をほぼ垂直に掘り抜いていた。硬い基盤層だからこそ掘り抜いた周りの部分が崩壊しないで残存したと考えられる。検出面から約0.7ｍのところで、径10～30㎝程の円礫が並んだ状態で確認することができた。検出面から0.8ｍ程のところで滞水層にあたるためか湧き水が出て、常時水が溜まる状態を確認した。深さ1.5ｍで今までの井戸跡に比べ深いとはいえないが、地下水位が高く、この深さでも十分水を得ることができたのであろう。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)123点、古瀬戸４点、瀬戸美濃大窯１点、土師器皿４点、瀬戸美濃連房７点など、142点出土した。そのうち、白瓷系陶器(碗・片口鉢・番号474～478)、土師器皿(番号479)の６点を図示した(第173図)。

明和１号窯式の白瓷系陶器の碗が多く出土し、全体の遺物破片数の87％を占めていることから、本遺構は中世前期～後期のものと考えられる。また、近世の遺物はほとんど確認できなかったことから、中世末期には絶えていったと考えられる。

Ｅ109(第13図・第77図・写真図版12)

検出状況・形態　Ｉ37グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。平面形は長軸2.3ｍ、短軸2.2ｍの円形を呈していた。検出面からやや斜めに0.3ｍ下まで掘り込み、深さ0.4ｍ辺りからほぼ垂直に掘り抜いている素堀り井戸跡である。埋土の７層辺りから、径10～30㎝程の円礫を確認した。最下部で内径の長軸0.8ｍ・短軸0.7ｍ、深さ1.5ｍを測った。底面から0.5ｍ辺りから湧き水が出て、常時水が溜まる状態であった。この深さでも十分に水が得られたのであろう。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)64点、古瀬戸２点、中世常滑陶器３点、瀬戸美濃連房１点、近世常滑陶器17点の87点出土した。そのうち、白瓷系陶器(碗・番号539・540)、古瀬戸(縁釉小皿・番号541)の３点を図示した(第177図)。

白瓷系陶器(碗・皿)64点という出土や、脇之島３号窯式の碗が出土したこと、ならびに瀬戸美濃連房の遺物破片がほとんど確認されなかったことから、本遺構は中世後期以降のものと考えられ、近世に至る前に絶えていった可能性が高いと考えられる。

Ｅ112(第12図・第78図・写真図版12)

検出状況・形態　Ｊ37グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。平面形は、長軸3.70ｍ、短軸2.50ｍの楕円形を呈していた。Ⅳ層やⅤ層をやや斜めに掘り抜き、南東方向から廃棄する際に埋めたと考えられる径10～30㎝の円礫が流れ込むように埋まっている状態を確認した。埋土からは、白瓷系陶器や古瀬戸、常滑陶器など多くの中世陶器が見つかり、底部付近では、４枚の大谷洞14号窯式の白瓷系陶器の碗のうち３枚は重ねられた状態で確認した。これは井戸を廃絶する際に埋納されたものと考えられる。検出上面から断ち割りを行い調査した結果、最下部で内径約0.6ｍ、深さ約2.9ｍを測った。

井戸跡Ｅ112の西側には中世の掘立柱建物跡ＳＨ14を確認していることから、この井戸跡と関連があるかもしれない。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)777点、古瀬戸11点、中世常滑陶器29点など、838点出土した。そのうち、白瓷系陶器(碗・皿・陶丸・片口鉢・番号543～567)、土師器の羽釜(番号542)、古瀬戸(折縁深皿・番号571・574)、中世常滑陶器(番号575)の29点を図示した(第177図)。

埋納された大谷洞14号窯式の白瓷系陶器・碗をはじめ、白瓷系陶器・碗の時期計測結果において、大谷洞14号窯式の時期・型式が多くを占めたことから、本遺構は中世後期頃のものと考えられる。また、838点の総遺物数に比べ瀬戸美濃連房７点のみという事実から、中世末期までには、井戸跡が絶えたものと考えられ、瀬戸美濃連房の遺物は後に混入した可能性が高いと判断した。

Ｅ656(第12図・第77図・写真図版12)

検出状況・形態　Ｉ40グリッドに位置し、Ⅳ層上面で溝跡Ｅ２に切られて検出した。平面形は長軸2.30ｍ、短軸2.10ｍでほぼ円形状を呈している。検出面から、Ⅳ層やＶ層を緩やかに掘り込み、内径1.4ｍあたりからほぼ垂直に掘り抜いていた。最下部で内径の長軸0.88ｍ・短軸0.8ｍ、深さ1.6ｍを測る。検出面より一段下がった平坦な北面に径10～30㎝の円礫が並んで確認した。埋土からは、廃棄する際に埋めたと考えられる径10～50㎝の礫や中近世陶器の破片が見つかった。この井戸跡Ｅ656の周囲には多くのピットが存在しているため、おそらく掘立柱建物跡が存在していた可能性が高く、井戸跡と関連があると推定される。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)19点、古瀬戸４点、中世常滑陶器１点、瀬戸美濃大窯１点、瀬戸美濃連房９点、木製品・漆器椀１点など、41点出土した。そのうち、瀬戸美濃大窯(天目茶碗・番号819)、木製品(漆器椀・番号2009)の２点を図示した(第191・215図)。

底部埋土から、瀬戸美濃大窯、瀬戸美濃連房の遺物や漆器椀の出土と溝跡Ｅ２に切られていることから、本遺構は中世末期～近世前期のものと考えられる。

Ｅ1075(第12図・第79図・写真図版13)

検出状況・形態　Ｈ32グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。平面形は長軸3.70ｍ、短軸3.50ｍでほぼ円形を呈し、溝跡Ｅ520に切られていた。検出面から、Ⅳ・Ｖ層上面を斜めに掘り抜き、内径1.2ｍ辺りからほぼ垂直に掘り抜いていた。井戸跡Ｅ472と同様の規模で大きい井戸跡である。また、検出面から1.4ｍ深さの埋土から木組みが見つかり、その上に径10～50㎝の円礫が並んで出土した。木組みを巧みに使用したことが伺える。埋土からは、多くの礫が見つかった。これは、崩れ落ちたものと考えられる。検出上面から断ち割りを行い調査した結果、最下部で内径約0.8ｍ、深さ約3.8ｍを確認した。先述のように、深く掘ったのはよりきれいな水を確保したかったのではないかと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)54点、古瀬戸13点、瀬戸美濃大窯７点、土師器皿12点、瀬戸美濃連房65点、木製品３点など、167点出土した。そのうち、白瓷系陶器(碗・番号850)をはじめ、古瀬戸(番号851)、土師器皿(番号849・852)、瀬戸美濃大窯(番号859)、瀬戸美濃連房(番号853～858、860～862)、木製品(曲物・番号2012～2014)の17点を図示した(第192・215・216図)。

底部付近14層埋土から、瀬戸美濃連房の折縁鉄絵皿・菊皿・赤織部向付等の江戸前期～中期の遺物や近世の木製品曲物(番号2012～2014)が出土したことから、本遺構は近世前期～中期頃のものと考えられる。白瓷系陶器など中世遺物の破片も出土しているが、上層から出土したものが多いため、後に混入したものと判断した。

Ｅ1099(第12図・第80図、写真図版13)

検出状況・形態　Ｆ28グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。平面形は長軸3.70ｍ、短軸2.70ｍで楕円形を呈し、溝跡Ｅ407・1135を切っていた。検出面からⅣ層を斜めに掘り抜き、内径2.4ｍ辺りから一段平坦になり、さらに内径1.3ｍ辺りからほぼ垂直に掘り抜いている。今までの井戸跡にみられた円礫は確認できなかった。かなりの深さがあり底部まで確認できなかったため、重機による断ち割りを行い調査した結果、最下部で内径約0.8ｍ、深さ約5.6ｍを確認した。先述のように、このように深く掘ったのはよりきれいな水を確保するためと考えられる。これだけ深く掘るには、技術を要すると考えられることから、近世後期につくられたものと推測される。

出土遺物・時期　古瀬戸３点、瀬戸美濃大窯２点、瀬戸美濃連房199点、近代陶磁器36点、木製品13点など、286点出土した。そのうち、古瀬戸(縁釉小皿・番号869)、瀬戸美濃連房の20点(番号867～868、870～887)、木製品(番号2015～2020)の34点を図示した(第193・194・216・217図)。

瀬戸美濃連房第３段階の出土遺物が多いことや手桶側板など近世木製品が出土していることから、本遺構は江戸後期・幕末から近代にかけてのものと考えられる。

Ｅ653(第12図・第81図)

検出状況・形態　Ｈ40グリッドに位置し、溝跡Ｅ２の埋土の下で検出した。平面形は長軸2.00ｍ、短軸0.80ｍの楕円形を呈している。検出面から0.3ｍ程の深さで湧き水が出て、常時水が溜まる状態であった。底部は溝状に細長く、検出面から0.84ｍの深さを測る。この辺りでは地下水位が高く、水溜め遺構として機能していたと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)７点、古瀬戸２点、中世常滑陶器１点など、11点出土した。そのうち、中世常滑陶器(番号815)を図示した(第191図)。

底部付近の埋土から中世常滑陶器が出土し、全体に中世陶器が大部分を占めることから、本遺構は中世後期のものと考えられる。後に近世になり溝跡Ｅ２に切られたと判断した。

Ｅ655(第12図・第81図)

検出状況・形態　Ｇ40グリッドに位置し、Ｅ653と同様に溝跡Ｅ２の埋土の下で検出した。平面形は、長軸3.56ｍ、短軸2.40ｍの不定形を呈している。埋土１層から径５～20㎝の礫が混入しており、検出面から0.3ｍ程の深さでは、常時水が溜まる状態であった。底部は、長軸2.52ｍ、短軸1.32ｍのやや楕円形を呈し、深さ0.88ｍを測る。井戸にしては浅く、開口していることを考えると水溜め遺構としての機能を有していると考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)22点、古瀬戸２点、瀬戸美濃大窯１点、土師器皿１点、瀬戸美濃連房５点など、37点を出土している。そのうち、脇之島３号窯式の白瓷系陶器(番号816)、

古瀬戸(天目茶碗・番号817・818)の３点を図示した(第191図)。

出土遺物は白瓷系陶器をはじめ中世陶器が多く、特に中世後期の遺物が出土していることから、中世後期から存在していたと考えられる。そして、近世遺物も存在していることから、本遺構は近世も引き続き存在し、溝跡Ｅ１・Ｅ２との関連から、近世末までに絶えていったと考えられる。

Ｅ867(第12図・第81図)

検出状況・形態　Ｌ38グリッドに位置し、北側を土間状遺構Ｅ858に切られている状態で検出した。平面形は長軸1.10ｍ、短軸0.88ｍの楕円形を呈している。検出面から、Ⅳ層及びⅤ層をほぼ垂直に掘り抜いている。底部の内径は0.8ｍ程で、深さは1.20ｍを測る。検出面から0.4ｍ程の深さから常時水が溜まる状態であった。井戸にしては浅く、内径も今までの井戸跡より小さく、近くに建物跡が存在することから、水溜め遺構としての機能を有していたと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)28点など、30点出土している。そのうち、白瓷系陶器・白土原１号窯式、明和１号窯式（碗・番号835・837)の２点を図示した(第192図)。

出土遺物は白瓷系陶器(碗・皿)が主で、その時期・型式から本遺構は中世前期のものと考えられる。そして、近世遺物は確認できなかったことから、中世末期までに絶えた可能性が高い。

３　土間状遺構

検出された土間状遺構は、中世８基と近世１基のものを合わせて９基であり、その９基について図示・記述する。当遺構は、掘立柱建物跡周辺や敷地内に存在することが多いので、建物跡と関連させて記述する。

Ｇ44(第12図・第82図・写真図版９)

検出状況・形態　Ｇ地区のＪ43～44グリッドに位置し、ＳＨ８のⅣ層上面で検出した。北西角隅は攪乱に、南西角は土坑Ｇ139に切られていた。中央部の埋土下には柱穴Ｇ272を確認した。これは、ＳＨ８の柱穴列とは対応せず、しかも土間の中央に柱穴をつくる必然がないことから、当遺構とは別の性格のものと判断した。平面形は、長軸2.64ｍ、短軸1.44ｍのほぼ長方形を呈し、土間の面積は3.8㎡である。埋土４・５層には焦げた跡や炭が存在し、白瓷系陶器の破片を多く確認することができた。また灰色粘土土のしまりある硬化面の存在やＳＨ８の敷地内に位置することから、カマドがあった可能性が考えられる。

出土遺物・時期　須恵器２点、白瓷系陶器(碗・皿)86点など、92点出土した。そのうち、白瓷系陶器・大洞東１号窯式(碗・皿・番号328～330)の３点を図示した(第167図)。

出土遺物や遺構の切り合い状況から考えると、本遺構は中世後期から末期のものと考えられる。

Ｇ317(第12図・第82図・写真図版９)

検出状況・形態　Ｇ地区のＬ39～40グリッドに位置し、ＳＨ11のすぐ北側のⅤ層上面を0.2mほど掘り窪める状態で検出した。南東角に径0.5ｍ程の川原石が出土し、本遺構との関連を考えたが、周り

に若干のコンクリート破片が見られたため攪乱と判断した。平面形は、長軸2.48ｍ、短軸1.44ｍのほぼ長方形を呈し、土間の面積は約3.5㎡である。埋土１～３層には焦げた跡や炭が存在し、硬くしまりがある灰色粘質土の硬化面を確認した。四方角に柱穴の存在を考え、調査を進めたが確認できなかった。南にＳＨ11、北側にＳＨ９を確認したことから何らかの関連があるかもしれない。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)７点、瀬戸美濃連房４点など、14点出土した。いずれも破片で出土したため図示を略した。時期を判断することは難しいが、埋土・切り合い状況や出土遺物から、本遺構は中世末期以降のものと考えられる。

Ｅ130(第12図・第83図・写真図版13)

検出状況・形態　Ｅ地区のＨ36～37グリッドに位置し、Ⅳ層上面をやや緩やかに掘り窪める状態で検出した。南側の一部は攪乱に、南西角は土坑Ｅ153に切られていた。平面形は長軸4.5ｍ、短軸４ｍのほぼ方形を呈し、土間の面積は切られた部分を除くと、約９㎡である。床面と考えられる埋土は硬くしまっており、焦げた土や炭が部分的に混じった硬化面を確認した。その炭(炭化材)について放射性炭素年代測定調査を行った結果、推定年代は1425年から1455年のものであると結果が出た(第５章にて後述、第23表)。カマド施設があったかもしれない。

本遺構内に建物跡が存在する可能性があったため、調査を行ったが確認できなかった。土坑Ｅ153は近世陶器の出土遺物から近世後期～幕末時期と推定され、本遺構とは時期が異なり、別の性格のものと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(12碗・皿)４点、古瀬戸・折縁皿１点など、６点出土した。そのうち白瓷系陶器(番号568・570・572・573)４点と古瀬戸(折縁皿・番号569)の５点を図示した(第178図)。出土遺物や遺構の切り合い状況から考えると、本遺構は中世後期のものと考えられる。

Ｅ221(第12図・第84図・写真図版14)

検出状況・形態　Ｅ地区のＧ36グリッドに位置し、Ⅳ層上面で溝状遺構222・土坑Ｅ175・176や柱穴Ｅ675に切られた状態で検出した。東側隅角の埋土下には土坑Ｅ142・135を確認した。平面形は、長軸3.2ｍ、短軸1.9ｍのほぼ長方形を呈し、土間の面積は約6.1㎡である。床面と考えられる埋土１・２層は硬くしまっており、焦げた土や炭が部分的に混じった硬化面を確認した。その部分にはカマドなど火どころがあったかもしれない。また、白瓷系陶器の破片を多く確認することができた。ＳＨ13の敷地内に位置することから、土間としての機能を有していたと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)19点をはじめ、瀬戸美濃連房２点の21点出土している。そのうち白瓷系陶器(皿・番号589)を図示した(第179図)。

出土遺物や遺構の切り合い状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

Ｅ317(第12図・第84図・写真図版14)

検出状況・形態　Ｅ地区のＤ30グリッドに位置し、ＳＨ17内のⅣ層で検出した。平面形は長軸2.64ｍ、短軸2.00ｍのほぼ方形を呈し、土間の面積は約5.44㎡である。埋土１層には炭跡や一部白粘土状のしまりある硬化面を確認した。これは焼けた灰が固まってできたものかもしれない。Ⅳ層上

面に床面が存在していたと考えられる。埋土１層から近世陶器が出土した。比較的小さなＳＨ17内に位置することから、何かの作業場や調理場などがあったかもしれない。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)９点をはじめ、瀬戸美濃連房２点など14点出土した。そのうち、瀬戸美濃連房(志野丸皿・番号627)を図示した(第182図)。

出土遺物や遺構の切り合い状況から、本遺構は近世前期のものと考えられる。白瓷系陶器(碗・皿)９点は小さな破片状態で出土し、後に混入したものと判断した。

Ｅ512（第12図・第85図・写真図版14）

検出状況・形態　Ｅ地区のＧ31グリッドに位置し、東側の肩部分は溝跡Ｅ520と接し、南側の肩部分が溝跡Ｅ569に切られⅣ層上面で検出した。平面形は、長軸3.8ｍ、短軸2.8ｍのほぼ長方形を呈し、土間の面積は約10.6㎡である。埋土７層には特に焦げた跡や炭が存在し、白灰色粘土質のしまりある硬化面を確認することができた。また所々に円礫や白瓷系陶器の破片が出土し、中央やや北側には焼石を確認した。このことからカマドがあったものと考えられる。硬化面が中央から北側にかけて広がりをみせている。出土した炭(炭化材)について、放射性炭素年代測定調査を行った結果、推定年代は1400年から1425年のものであると結果が出た(第23表参照)。なお、本遺構の周りに建物跡が存在したのではと調査を進めたが、確認できなかった。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)181点をはじめ、古瀬戸７点など241点出土した。そのうち、白瓷系陶器・脇之島３号窯式(碗・皿・番号642～645、647・648)、そして古瀬戸(天目茶碗・直縁大皿・擂鉢・番号646・649・650)の９点を図示した(第182・183図)。炭(炭化物)や出土遺物・遺構の切り合い状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

Ｅ769（第12図・第86図）

検出状況・形態　Ｅ地区のＫ36グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。東側の一部分と南側の端は攪乱によって削平され、中央は土坑Ｅ845に切られていた。平面形は、長軸3.2ｍ、短軸3.0ｍのほぼ方形を呈し、土間の面積は約９㎡である。埋土から炭が存在し、しまりある硬化面を確認することができた。また所々に白瓷系陶器の破片が多く出土し、南側では遺構が複雑に切り合っていた。ＳＨ14の北東隅内に位置し、おそらく敷地内の土間と考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)148点をはじめ、古瀬戸３点、瀬戸美濃大窯１点、瀬戸美濃連房１点など、157点出土した。そのうち、白瓷系陶器・明和１号窯式以降(皿・番号822～824)、白瓷系陶器・大畑大洞４号窯式(碗・番号826)、古瀬戸(天目茶碗・番号827)、瀬戸美濃大窯(番号828)、瀬戸美濃連房(番号825)の７点を図示した(第191図)。

掘立柱建物跡の時期、出土遺物・遺構の切り合い状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。瀬戸美濃連房１点の出土は、後に混入したと判断した。

Ｅ825（第12図・第87図・写真図版14）

検出状況・形態　Ｅ地区のＬ36グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。中央部分は攪乱に、南両端肩部分は、Ｅ824・Ｅ830に切られていた。平面形は、長軸2.1ｍ、短軸1.8ｍのほぼ方形を呈し、土

間面積は約3.8㎡である。埋土１層は黒色土で粘土質の非常にしまりある硬化面を確認することができた。ＳＨ14の東隅内に位置し、おそらくＥ769と同様に敷地内の土間と考えられる。焼石や炭破片は確認できなかった。同じ敷地内に火どころと考えられるＥ769が存在しているため、本遺構は火どころではないと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)48点、古瀬戸２点の50点出土した。そのうち、白瓷系陶器(皿・番号831)を図示した(第192図)。出土遺物・遺構の切り合い状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

Ｅ858(第12図・第87図・写真図版14)

検出状況・形態　Ｅ地区のＬ38グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。北東側は攪乱によって削平されていた。平面形は、長軸4.0ｍ、短軸2.8ｍで不定形を呈し、土間の面積は約11.2㎡である。埋土は黒褐色シルト質の土で、しまりある硬化面を確認することができた。また所々に白瓷系陶器の破片が多く出土し、南側では遺構が複雑に切り合っていた。今までの土間状遺構の検出状況から、掘立柱建物跡の敷地内にある可能性が考えられたが、本遺構の周囲に掘立柱建物跡の遺構は確認できなかった。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)64点をはじめ、土師器皿２点、瀬戸美濃連房２点の68点出土した。そのうち、白瓷系陶器・脇之島３号窯式(碗・番号840)が出土しており、図示した(第192図)。

出土遺物・遺構の切り合い状況から、本遺構は中世後期から末期のものと考えられる。瀬戸美濃連房について１点の出土であるが、後に混入したと判断した。

４　埋設穴遺構

埋設穴遺構は、中世のものが５基あり図示した。ＳＨ10掘立柱建物跡の敷地内に位置し、建物跡と関連させて記述する。

Ｇ483・484・489・490・491(第88図、写真図版10)

検出状況・形態　埋設穴遺構Ｇ483・Ｇ484は、Ｇ地区のＭ41グリットに、Ｇ489・Ｇ490・Ｇ491は、Ｌ41グリッドに位置する。５基ともに、近世溝Ｅ302の埋土の下、基盤層のＶ層上面で検出した。平面形は、径約0.7ｍの円形を呈していた。Ｇ483・Ｇ484は北西～南東方向にならび、検出面から、硬いＶ層を甕の体部から底部にかけてのラインのように緩やかに掘り込み、底部付近で平坦になる。Ｇ489・Ｇ490・Ｇ491は、東西に一列にならび、同様に硬いＶ層を緩やかに掘り込み、底部付近で平坦となっている。５基の平均の深さは0.35ｍを測る。底部付近の３層は、甕の底部の形のように粘土層で硬く締まる。Ｇ484からは中世常滑陶器の破片が出土した。このように、硬いＶ層を削って並んでつくられていることや底部の平坦さ、埋土の状況、中世遺物の出土、ＳＨ10の敷地内に存在することから、穴の中に甕を置いて、醤油・味噌・酒・油等を貯蔵した施設ではないかと考えられる。福井の一乗谷の屋敷跡からも、中世の甕の埋設穴の出土例があるが、岐阜県内では初めてである。

出土遺物・時期　５基の中から白瓷系陶器(碗・皿)14点、中世常滑陶器２点、土師器皿２点、瀬戸

美濃連房５点の23点出土した。そのうち、Ｇ484から出土した中世常滑陶器(番号480)、Ｇ490の白瓷系陶器・大谷洞14号窯式(碗・番号482)の２点を図示した(第173図)。

出土遺物・遺構の切り合い状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。瀬戸美濃連房４点は、後に混入したと判断した。

５　溝跡

溝跡は、Ｇ地区23条、Ｅ地区47条の70条である。集落の区画にかかわる東西・南北の溝は長く、性格がわかるものは多いが、長さが比較的短いものや、方向が一定していない溝跡も存在し、性格が不明なものもある。ここでは、Ｇ１、Ｇ301・Ｅ１、Ｇ302・Ｅ２、Ｅ139、Ｅ246、Ｅ247、Ｅ406、Ｅ407、Ｅ420、Ｅ520、Ｅ521、Ｅ569、Ｅ1100について、図示・記述し、その他は溝跡遺構一覧(第９表)に記載した。

Ｇ１(第12図・第89図)

位置・検出状況　Ｌ43～Ｋ43グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。調査区南側の上恵土城跡のＦ65溝跡と並行して、東－西方向を主軸(Ｎ70°Ｅ)とする溝跡である。さらに東端は調査区外にも続き、西端はほぼ直角におれ北側に延びている。検出面で最大幅約3ｍ、深さ約0.5ｍを測る。溝の断面は緩いＵ字形を呈しており、溝の底は若干平坦になる。溝の断面を観察すると溝の底部分はよくしまっており、水が流れた形跡がある。北側にはＳＨ７・８が存在することから、住居の区画溝としての機能があった可能性が高い。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)239点、古瀬戸13点、中国磁器１点、瀬戸美濃大窯５点、土師器皿３点、瀬戸美濃連房36点など、315点出土した。そのうち、白瓷系陶器・脇之島３号窯式(番号317)、古瀬戸（擂鉢・卸皿・番号318・319)の３点を図示した(第167図)。

出土遺物の中に、白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)の遺物が多くを占めており、南側の溝跡Ｆ65と時期が同様なことから、本遺構は中世後期のものと考えられる。

Ｇ301(第12図・第89・90図・写真図版10)

位置・検出状況　Ｊ41～Ｍ42グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。南－北方向を主軸(Ｎ12°Ｗ）とする溝跡で、溝跡Ｇ302などの遺構を切っている。北端はＥ区の溝跡Ｅ１からの続きである。検出面で最大幅約1.0ｍ、深さ約0.4ｍを測る。溝の断面は肩から底面までゆるやかにつながる皿状を呈し、溝の底は若干平坦で硬いＶ層の基盤層にあたる。埋土中央部から上部にかけては、第81図でも分かるように10～20㎝の礫、近世陶磁器の破片が大変多く出土した。この溝跡の西側には前述したＳＨ９～11の建物跡を確認したことから、居住地域の水はけをよくするための排水機能や居住地域の区画溝としての機能を有していたと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)237点、古瀬戸31点、瀬戸美濃大窯18点、土師器皿71点、土師器鍋７点、瀬戸美濃連房816点、近世常滑陶器221点など1,527点出土した。そのうち、瀬戸美濃連房(番号363～427)の65点、白瓷系陶器・古瀬戸など、92点を図示した(第168～171図)。

出土遺物に、白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)の遺物があるものの、瀬戸美濃連房の遺物が多くを占めており、遺構の切り合いの状況から中世末期から区画溝としての溝跡が存在し、それ以後近世後期にかけて区画溝として機能していたと考えられる。

Ｇ302(第12図・第89図・写真図版10)

位置・検出状況　Ｊ41～Ｍ42グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。溝跡Ｇ301とほぼ同様な南ー北方向を主軸(Ｎ15°Ｗ)とする溝跡で、溝跡Ｇ301等に切られている。中央より、南東に分かれ、検出面で幅約3.5ｍ、深さ約0.3ｍを測る。溝の断面は肩から底面まで非常にゆるやかな形状を呈し、溝の底はＶ層の基盤層で凹凸がある。埋土から、溝跡Ｇ301よりはかなり少ないが、近世陶磁器の破片が出土した。溝跡Ｇ301が形成された後、水はけがよくなり絶えていったと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)39点、古瀬戸5点、瀬戸美濃大窯１点、瀬戸美濃連房62点など、114点出土した。そのうち、白瓷系陶器(番号433・434)、瀬戸美濃大窯(番号436)、瀬戸美濃連房(番号435・437)の５点を図示した(第172図)。

出土遺物に、白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)遺物があり、瀬戸美濃連房の遺物も同じ程度出土していることと、Ｇ301に切られている状況から、本遺構は、中世末期から溝跡が存在し、それ以後近世前期にかけて絶えたものと考えられる。

Ｅ１(第12図・第91図・写真図版15)

位置・検出状況　Ｇ41～Ｊ41グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。南ー北方向を主軸(Ｎ13°Ｗ)とする溝跡で、溝跡Ｅ２などの遺構を切っている。南端は溝跡Ｇ301に続いている。検出面で最大幅約1.0ｍ、深さ約0.6ｍを測る。溝の断面は肩から底面までゆるやかにつながる皿状を呈し、溝の底は若干平坦で硬い基盤層のＶ層にあたる。埋土中央部から南にかけて、第82図でも分かるように10～20㎝の礫、近世陶磁器の破片が平坦状に敷き詰められていることが確認できた。この溝跡の西側には前述したＳＨ９～14の建物跡を確認したことから、居住地域の水はけをよくするための排水機能や居住地域の区画溝としての機能を有していたと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口)64点、古瀬戸12点、中世常滑陶器20点、瀬戸美濃大窯15点、土師器皿６点、瀬戸美濃連房212点、木製品１点など、451点出土した。そのうち、白瓷系陶器(碗・皿、番号487～489)、瀬戸美濃連房(番号496～521)の25点、白瓷系陶器、古瀬戸など37点図示した(第174～176図)。

出土遺物に、白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)や大窯期の遺物をはじめ、瀬戸美濃連房の遺物まであることと、遺構の切り合いの状況から、中世末期から区画溝としての溝跡が存在し、それ以後近世後期にかけて区画溝として機能していたと考えられる。

Ｅ139(第12図・第91図)

位置・検出状況　Ｆ36～Ｇ33グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。Ｇ36グリッドで直角に曲がって西南西に延び、ＳＨ13の建物跡敷地内を切っている。東側から、南ー北方向を主軸(Ｎ９°Ｅ)とし、ほぼ直角に西南西に曲がり、東ー西方向を主軸(Ｎ67°Ｅ)とした溝跡である。検出面で最大幅

約2.5ｍ、深さ約0.32ｍを測る。溝の断面は緩いＵ字形を呈しており、水分が多い埋土で水が流れた形跡がある。ＳＨ13の敷地内を切って流れていることから、この建物跡以降につくられたものと考えられる。礫や遺物の破片は、今までの溝跡のように多くは確認できなかった。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)20点、瀬戸美濃大窯２点、瀬戸美濃連房２点など28点出土した。いずれも破片の状態で出土したため図示を略した。出土遺物や切り合いの状況から、ＳＨ13が消失した後、中世末期から近世にかけて存在していたと考えられる。

Ｅ246・247(第12図・第91図)

位置・検出状況　両遺構ともＥ34～Ｆ32グリッドにかけて溝跡Ｅ521につながるように位置し、Ⅳ層上面で検出した。溝跡Ｅ246は東ー西方向を主軸(Ｎ70°Ｅ)、Ｅ247も東ー西方向を主軸(Ｎ80°Ｅ)とする溝跡である。溝跡Ｅ246は、検出面で最大幅約1.5ｍ、深さ約0.31ｍ、溝跡Ｅ247は、最大幅約2.0ｍ、深さ約0.31ｍを測る。溝の断面は緩いＵ字形を呈しており、底部は硬いＶ層にあたる。埋土から若干の10～20㎝の礫を確認した。また、本遺構の遺物とＥ520・Ｅ521遺構内出土遺物が接合できたことから、溝跡Ｅ520・Ｅ521と同じ時期にあったものと考えられる。

出土遺物・時期　両遺構合わせて白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)100点、瀬戸美濃大窯４点、瀬戸美濃連房96点、近代陶磁器70点など290点出土した。そのうちＥ246は、瀬戸美濃連房(番号616～618・623・624)の５点、土師器皿(番号614・615)、肥前磁器(番号619)、連房窯磁器(番号620～622)の11点、Ｅ247は連房窯磁器(番号625)の１点を図示した(第181・182図)。

出土遺物に、白瓷系陶器の破片が出土したものの、瀬戸美濃連房の遺物、遺構の切り合いの状況から、中世末期から区画溝としての溝跡が存在し、それ以降、近世後期にかけて区画溝として機能していたと考えられる。

Ｅ406（第12図・第93図）

位置・検出状況　Ｅ31～Ｆ29グリッドにかけて溝跡Ｅ407につながるように位置し、Ⅳ層上面で検出した。東ー西方向を主軸(Ｎ78°Ｅ)とし、Ｅ29グリッドから、南南西に曲がり、南ー北方向を主軸(Ｎ13°Ｅ)とした溝跡である。検出面で最大幅約0.9ｍ、深さ約0.29ｍを測る。溝の断面は緩いＵ字形を呈しており、底部はＶ層にあたる。埋土から礫は確認できなかった。北側にＳＨ17、南側にＳＨ18・19が存在し、区画溝としての機能を有していたと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(片口鉢)１点、土師器皿２点、瀬戸美濃連房１点の４点出土した。破片の状態で出土したため、図示を略した。周囲の遺構や切り合いの状況から、中世後期から中世末期にかけて存在していたと考えられる。

Ｅ407(第12図・第93図)

位置・検出状況　Ｅ31～Ｆ29グリッドにかけて溝跡Ｅ406につながるように位置し、Ⅳ層上面で検出した。東ー西方向を主軸(Ｎ63°Ｅ)とした溝跡である。検出面で最大幅約0.9ｍ、深さ約0.17ｍを測る。溝の断面は緩いＵ字形を呈しており、底部はＶ層にあたる。埋土から礫は確認できなかった。当遺構内にＳＨ18・19が存在することから、この建物跡が消失した後、存在した溝跡と考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)23点、古瀬戸２点、土師器皿３点、瀬戸美濃連房４点など53点出土した。そのうち白瓷系陶器(番号628・629)の２点を図示した(第182図)。

瀬戸美濃連房の遺物も出土しており、また、溝跡内にＳＨ18・19が存在し、中世後期から近世にかけての溝跡Ｅ1200と同じ時期であることから、中世末期から近世前期にかけて存在していたと考えられる。

Ｅ420（第12図・第93図）

位置・検出状況　Ｆ32～Ｇ28グリッドにかけて溝跡Ｅ1200につながるように位置し、Ⅳ層上面で検出した。東ー西方向を主軸(Ｎ81°Ｅ)とした溝跡である。検出面で最大幅約1.5ｍ、深さ約0.37ｍを測る。溝の断面は緩いＵ字形を呈しており、底部はⅤ層にあたる。当遺構内にＳＨ18・19が少し重なって存在することから、本遺構も同様にこの建物跡が消失した後、存在した溝跡と考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)18点、瀬戸美濃大窯１点、瀬戸美濃連房１点など、22点出土した。そのうち、白瓷系陶器(番号631・637)の２点を図示した(第182図)。

前述のように当遺構内にＳＨ18・19が存在することから消失した後の中世末期から近世前期にかけて存在していたと考えられる。

Ｅ520(第12図・第94～97図・写真図版15)

位置・検出状況　Ｄ31～Ｊ32グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。南ー北方向を主軸(Ｎ19°Ｗ)とする溝跡で、溝跡Ｇ521と並行し、一部井戸跡Ｅ1075を切っていた。検出面で最大幅約3.0ｍ、深さ約0.4ｍを測った。溝の断面は肩から底面まで緩やかにつながる皿状を呈し、溝の底は硬い基盤層のⅤ層にあたる。北端の３ｍ付近、埋土上部から中央部にかけては、10～20㎝の礫、近世陶磁器の破片が大変多く出土した。本遺構北側では、箱形湯呑み・丸碗・天目茶碗・反皿など近世中期から後期の遺物が出土した(第95図参照)。中央部では、刷毛目茶碗・合子・有耳壺・仏飼具・練鉢などの遺物(第96図参照)が、南側では大窯期の香炉・緑釉天目茶碗・丸碗などの遺物(第97図参照)が出土した。この溝跡の西側にはＳＨ17～19の建物跡を確認したことから、居住地域の水はけをよくするための排水機能や区画溝Ｅ１と当溝跡の間およそ40ｍにわたることから、集落の区画溝としての機能を有していたと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)334点、古瀬戸130点、瀬戸美濃大窯79点、土師器皿51点、土師器鍋14点、瀬戸美濃連房749点など、1,775点出土した。そのうち、白瓷系陶器(番号656～660)、古瀬戸(番号661～668)、瀬戸美濃大窯(番号669～682)、瀬戸美濃連房(番号686～765)など111点を図示した(第183図～第188図)。

出土遺物、遺構の切り合いの状況から、近世前期から区画溝としての溝跡が存在し、それ以後近世後期にかけて区画溝として機能していたと考えられる。

Ｅ521(第12図・第94～97図・写真図版15)

位置・検出状況　Ｄ32～Ｋ33グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。南ー北方向を主軸(Ｎ16°Ｗ)とする溝跡で、溝跡Ｇ520と並行していた。途中、溝跡Ｅ139・Ｅ246・Ｅ247とつながって

いた。検出面で最大幅約2.7ｍ、深さ約0.5ｍを測った。溝の断面は肩から底面までゆるやかにつながるⅢ状を呈し、溝の底は基盤層のⅤ層にあたる。中央部から南端にかけて、埋土から10～20㎝の礫、近世陶磁器の破片が大変多く出土した。本遺構北側では、擂鉢など近世中期の近世陶磁器が出土した(第95図参照)。中央部から南側では、仏　具・練鉢・反り皿の遺物など近世陶器が出土した(第96・97図参照)。この溝跡の西側にはＳＨ17・18の建物跡を確認したことから、建物跡の区画溝としての機能を有していたと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)352点、古瀬戸30点、瀬戸美濃大窯28点、土師器皿39点、瀬戸美濃連房461点など、1,400点出土した。そのうち、古瀬戸(番号769～772)、瀬戸美濃大窯(番号773・775・776)、瀬戸美濃連房(番号778～794・797・798)など、32点を図示した(第189図・第190図)。出土遺物、遺構の切り合いの状況から、前述の溝跡Ｅ520より先に存在し、中世末期から近世後期にかけて区画溝として機能していたと考えられる。

Ｅ569(第12図・第93・94図・写真図版15)

位置・検出状況　Ｇ31～Ｈ28グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。東－西方向を主軸(Ｎ75°Ｅ)とした溝跡で、溝跡Ｅ1200につながっていた。検出面で最大幅約3.0ｍ、深さ約0.32ｍを測る。溝の断面は肩から底面まで緩やかにつながるⅢ状を呈し、底部は基盤層のⅤ層にあたる。

Ｅ520・521でみられた礫は西側のみ確認した。本遺構の北側にＳＨ18・19、ならびに土間状遺構Ｅ512が存在することから、区画溝としての機能を有していたと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)57点、瀬戸美濃大窯２点、瀬戸美濃連房300点など、596点出土した。そのうち、白瓷系陶器(皿・番号802)、瀬戸美濃大窯(番号804)、瀬戸美濃連房(番号803・805～813)など、12点を図示した(第191図)。

白瓷系陶器の出土が多いものの、前述のように当遺構内にＳＨ18・19が存在することから、本遺構は、中世末期から近世前期にかけて存在していたと考えられる。

Ｅ1100(第12図・第93図・写真図版16)

位置・検出状況　Ｅ26～Ｉ28グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。南－北方向を主軸(Ｎ16°Ｗ)とした溝跡で本遺構の北端と溝跡Ｅ1200とつながっていた。検出面で最大幅約4.0ｍ、深さ約0.4ｍを測る。溝の断面は肩から底面まで緩やかにⅢ状につながる形を呈し、底部は基盤層のⅤ層にあたる。Ｅ520・521でみられた礫は中央部のみ若干確認した。南側の調査区外にも、排水路のような跡が確認されるため、排水の機能や、区画溝としての機能を有していたと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)55点、古瀬戸９点、瀬戸美濃連房78点など、174点出土した。そのうち白瓷系陶器(碗・番号888)、古瀬戸(番号889・890)、瀬戸美濃大窯(番号891・892)、土師器皿(番号893・894)、瀬戸美濃連房(番号895～903)16点を図示した(第194図・第195図)。

周辺の遺構の状況や白瓷系陶器から近世陶磁器まで時期幅をおいて出土している状況から、中世後期から脈々と存在していたと考えられ、近代になって絶え、畑地などになっていったと推測される。

６　集石遺構

集石遺構は、Ｇ485・Ｅ159・Ｅ233の３基である。この３基について図示、記述し、その他は遺構一覧表(第４表)・地区別遺物出土量(第11表)に記載した。

Ｇ485(第98図)

位置・検出状況　M41グリッドの中心に位置し、溝跡Ｇ302の検出面の上で検出した。長軸0.70ｍ、短軸0.60ｍを測り、平面形は楕円形を呈している。径5～20㎝程の礫が集まり、近世陶磁器とともに検出した。用途は不明である。

出土遺物・時期　瀬戸美濃連房17点、連房窯磁器１点の18点出土した。そのうち、瀬戸美濃連房(番号484～486)、連房窯磁器(番号483)の４点を図示した(第173図)。出土遺物や溝跡Ｇ302の検出面の上で確認したことなどから近世後期の頃に存在したと考えられる。

Ｅ159(第99図・写真図版16)

位置・検出状況　Ｇ38グリッドに位置し、遺物包含層(Ⅱ層)から径10～30ｍ程の礫が敷き詰められる状態で検出した。長軸1.70ｍ、短軸1.55ｍを測り、平面形はほぼ正方形を呈している。礫の周辺の埋土を削平すると、Ⅵ層上面に石が方形に並んで敷き詰められる状態を確認した。南半分の石を取り除くと、近世後期の陶器(染付皿)が出土した。この状態からすると、近世墓とも考えられるが、確かではない。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿)37点、瀬戸美濃連房17点など、62点出土した。そのうち瀬戸美濃連房の染付皿(番号582)、灯明皿(番号583)の２点を図示した(第179図)。出土遺物や遺構の切り合いから、近世後期のものと考えられる。

Ｅ233(第92図・写真図版16)

位置・検出状況　Ｅ33～34グリッドにかけて位置し、溝跡Ｅ246・Ｅ247検出面の上で検出した。長軸7.00ｍ、短軸0.80ｍを測り、平面形は不定形を呈している。径5～20㎝程の礫と近世陶磁器が多量に検出した。用途は不明である。

出土遺物・時期　瀬戸美濃連房258点、肥前１点、近世常滑陶器32点、連房窯磁器157点など、506点出土した。そのうち、瀬戸美濃連房(番号591～606、608、610)、肥前磁器(番号611)、近世常滑陶器(番号613)、連房窯磁器(番号607・609)の22点を図示した(第179図・第180図)。出土遺物や溝跡Ｅ246・247の検出面の上で確認したことなどから近世後期～幕末・近代初期の頃に存在したと考えられる。

７　土坑

土坑は、Ｇ地区で70基、Ｅ地区で280基検出した。その中には、礫や遺物の出土を確認できたものがあった。また、一方で礫や遺物の出土が確認できなかったものや性格が不明なものも存在する。そのうち、遺物や礫が確認できたものについて、Ｇ地区10基、Ｅ地区10基の土坑を図示、記述した。その他は遺構一覧表（第４表）・地区別遺物出土量（第11表）に記載した。

Ｇ２（第100図）

位置・検出状況　Ｋ47グリッド北西端に位置し、中世の溝跡Ｅ１と溝跡Ｅ３・４を切った状態でⅣ層上面で検出した。長軸2.04ｍ、短軸0.68ｍ、深さ0.23ｍを測り、平面形は不定形を呈している。検出面から、皿状に緩やかに掘り窪み、底面は円形状を呈しながら平坦となる。埋土は単層である。径0.4ｍ程の川原石が６つ並んで敷き詰められていた。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）６点出土した。いずれも破片の状態で出土したため図示を略した。出土遺物、遺構の切り合いから、本遺構は、中世後期から近世にかけてのものと考えられる。

Ｇ50（第102図）

位置・検出状況　Ｒ38グリッド西端に位置し、中世井戸跡Ｇ27、Ｇ250に切られた状態でⅣ層上面で検出した。長軸2.60ｍ、短軸0.82ｍ、深さ0.07ｍを測り、平面形態は不定形を呈している。検出面から緩やかに掘り込み、底面は平坦となる。埋土は単層の黒色土で、その中に白瓷系陶器（碗・皿）の破片を確認した。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）12点、中世常滑陶器１点の13点出土した。そのうち、白瓷系陶器・大洞東１号窯式（碗・番号331・332）の２点を図示した（第167図）。本遺構は出土遺物より、中世後期のものと考えられる。

Ｇ68（第100図）

位置・検出状況　Ｋ44グリッドに東端に位置し、Ⅳ層上面で検出した。長軸0.74ｍ、短軸0.70ｍ、深さ0.23ｍを測り、平面形は隅丸方形を呈している。埋土の中に長径0.6ｍ、短径0.2ｍ程の川原石など３つの石が出土した。石の周りに鉄製品と考えられる付着物を確認した。調査区北側に住む80代古老の聞き取りによると、「この鉄製品の付着物は、私の祖父が建物の屋根・柱等が風によって飛ばされないようくくった跡と聞いている。」ということであるが、確かではない。

出土遺物・時期　本遺構から、近世陶器２点出土した。破片の状態で出土したため、図示を略した。埋土の状況、遺物から近世後期から近代にかけて存在していたと考えられる。

Ｇ81（第100図）

位置・検出状況　Ｋ44グリッドの中央部に位置し、Ⅳ層上面で検出した。長軸1.00ｍ、短軸0.77ｍ、深さ0.40ｍを測り、平面形は楕円形を呈している。埋土の中に長径0.7ｍ、短径0.4ｍ程の川原石など３つの石が出土した。Ｇ68と同様に、石の周りに鉄製品と考えられる付着物を確認した。用途は不明である。

出土遺物・時期　遺物の出土は確認できなかった。埋土の状況、Ｇ68との関連から近世後期から近代にかけて存在していたと考えられる。

Ｇ182（第101図）

位置・検出状況　Ｉ43グリッドに東端に位置し、Ⅳ層上面で検出した。長軸1.32ｍ、短軸0.80ｍ、深さ0.33ｍを測り、平面形は楕円形を呈している。埋土の中に長径0.45ｍ、短径0.25ｍ程の川原石の２つの石と径0.1ｍの石が出土した。本遺構の大きな２つの川原石に、鉄製品と考えられる付着物を確認した。前述と同様に建物跡等が風によって飛ばされないようくくった跡とも考えられるが、確かではない。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）７点、瀬戸美濃連房３点の10点出土した。いずれも破片の状態で出土したため、図示を略した。白瓷系陶器が出土しているが、後に混入したものと考えられる。Ｇ68・Ｇ81との関連、埋土の状況、遺物から考えると、近世後期から近代にかけて存在していたと考えられる。

Ｇ256（第101図）

位置・検出状況　Ｋ43・Ｌ43グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。長軸1.38ｍ、短軸1.02ｍ、深さ0.15ｍを測り、平面形は楕円形を呈している。埋土の中に長径0.6ｍ、短径0.4ｍ程の川原石をはじめ大小の石が出土した。本遺構も石の周りに鉄製品と考えられる付着物を確認した。

出土遺物・時期　遺物の出土は確認できなかった。埋土の状況、Ｇ68・Ｇ81・Ｇ182との関連から近世後期から近代にかけて存在していたと考えられる。

Ｇ268（第101図）

位置・検出状況　Ｉ43グリッド南東端に位置し、Ⅳ層上面で検出した。溝跡Ｇ186に切られ、柱穴Ｇ277を切っていた。長軸2.20ｍ、短軸0.90ｍ、深さ0.20ｍを測り、平面形は楕円形を呈している。検出面からほぼ垂直に掘り込み、底面は平坦となる。埋土は単層の黒褐色土で、黒色土がマダラ状に混じる状態で、近世陶器・火鉢の破片や銭貨・天保通寶を確認した。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）38点、瀬戸美濃大窯１点、瀬戸美濃連房５点、近代陶磁器７点、銭貨１点、木製品１点など、57点出土した。そのうち銭貨・天保通寶（弘化２年以降：1846年～、番号4006）を図示した（第228図）。出土した遺物や遺構の切り合いから本遺構の時期は、出土遺物より近世後期と考えられる。

Ｇ269（第101図）

位置・検出状況　Ｋ44グリッドに東端に位置し、Ⅳ層上面で検出した。長軸0.90ｍ、短軸0.52ｍ、深さ0.28ｍを測り、平面形は楕円形を呈している。埋土の中に長径0.55ｍ、短径0.22ｍ程の川原石など４つの石が出土した。石の周りに鉄製品と考えられる付着物は確認できなかった。

出土遺物・時期　遺物の出土は確認できなかったが、埋土の状況、Ｇ68・Ｇ81・Ｇ182・256との関連から近世後期から近代にかけて存在していたと考えられる。

Ｇ356（第101図）

位置・検出状況　Ｋ39グリッド南東端に位置し、Ⅴ層上面で検出した。長軸0.66ｍ、短軸0.44ｍ、深さ0.17ｍを測り、平面形は円形を呈している。検出面から碗状に掘り込み、底面は若干平坦となる。埋土は単層の黒褐色土で、近世常滑陶器の破片を確認した。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）２点、瀬戸美濃連房２点、近世常滑陶器46点など、51点出土した。いずれも破片の状態で出土したため、図示を略した。出土遺物から、本遺構は近世後期のものと考えられる。白瓷系陶器は、後に混入したものと判断した。

Ｇ436（第101図）

位置・検出状況　Ｌ39グリッド中央部に位置し、Ｅ435・Ｅ437を切り、Ⅴ層上面で検出した。長軸0.70ｍ、短軸0.42ｍ、深さ0.14ｍを測り、平面形は円形を呈している。検出面から、ほぼ垂直に掘り込み、底面は平坦となる。埋土は単層の黒褐色土で、古瀬戸の卸皿が出土した。

出土遺物・時期　古瀬戸（卸皿・番号445）１点を出土し、図示した（第172図）。出土遺物から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

Ｅ５（第104図）

位置・検出状況　Ｉ41グリッド南端に位置し、溝跡Ｅ２を切った状態でⅣ層上面で検出した。長軸0.70ｍ、短軸0.50ｍ、深さ0.15ｍを測り、平面形は円形を呈している。検出面から、緩やかに掘り窪み、底面は一部平坦となる。埋土より、近世常滑陶器（赤物）を出土した。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗）１点、瀬戸美濃連房５点、近世常滑陶器143点の149点を出土した。いずれも破片の状態で出土したため、図示を略した。出土した遺物から、本遺構は近世後期のものと考えられる。

Ｅ40・Ｅ623・Ｅ627（第104図）

位置・検出状況　Ｅ40・Ｅ623・Ｅ627いずれもＩ38・39グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。Ｅ40はＥ39・Ｅ623・Ｅ627に切られていた。長軸2.30ｍ、短軸0.62ｍ、深さ0.30ｍを測り、平面形は長方形を呈している。Ｅ623は、Ｅ40を切っていた。長軸2.10ｍ、短軸0.54ｍ、深さ0.07ｍを測り、平面形は長方形を呈している。Ｅ627は、Ｅ40を切り、Ｅ626・Ｅ628・Ｅ671に切られていた。長軸2.44ｍ、短軸0.60ｍ、深さ0.12ｍを測り、平面形は長方形を呈している。３つの遺構ともに検出面から、皿状に緩やかに掘り窪み、底面は楕円形を呈していた。

出土遺物・時期　Ｅ40は白瓷系陶器（碗）１点を出土した。Ｅ623も白瓷系陶器（碗）３点を出土した。Ｅ627は白瓷系陶器（碗）３点、古瀬戸１点を出土した。いずれも破片の状態で出土したため、図示を略した。Ｅ40・Ｅ623・Ｅ627は、いずれも中世後期以降のものと考えられる。

Ｅ153（第103図・写真図版14）

位置・検出状況　Ｈ36グリッドに位置し、土間状遺構Ｅ130の南西部分を切り、Ⅳ層上面で検出した。長軸2.10ｍ、短軸1.10ｍ、深さ0.44ｍを測り、平面形は長方形を呈している。埋土の周辺部分に

は、径10～30㎝程の礫が遺構の肩を崩さないように積んであり、中央部には見当たらなかった。その中央や北側には近世常滑陶器の甕が２つ重なるように出土した。甕の内側から南側にかけて黒く締まった土が広がっていた。前述したように、この礫は遺構の肩を崩さないためや甕を置くための機能を有していると考えられる。また、便所としての機能を持っていた可能性もあったため、自然科学分析の調査を行ったが、断定することはできなかった。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)41点、瀬戸美濃連房19点、近世常滑陶器83点、近代陶磁器22点など167点出土した。そのうち白瓷系陶器(碗・番号580)、瀬戸美濃連房(向付蓋・番号576)、肥前(番号581)、近世常滑陶器（番号577・578)の５点を図示した(第178図)。

出土遺物や遺構の切り合いから、近世後期から近代にかけて存在していたと考えられる。

Ｅ178(第104図・写真図版16)

位置・検出状況　Ｇ35グリッド南西端に位置し、ＳＨ13の敷地内のⅣ層上面で検出した。長軸1.20ｍ、短軸1.10ｍ、深さ0.53ｍを測り、平面形はほぼ正方形を呈している。検出面から、Ⅳ層・Ⅴ層をほぼ垂直に掘り込み、底面は平坦となる。埋土は３層構造に成っており、主に黒色土が主体で、底部付近の３層からは、明和１号窯式の白瓷系陶器の碗が出土した。南東隅角からは石組みを確認した。人為的によるものと考えられるが、石組みの用途・意図は、堀形が崩れないように配慮したためと推測できるが、確かではない。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿）５点、瀬戸美濃連房１点の６点出土した。そのうち明和１号窯式の白瓷系陶器(碗・番号585～587)の３点を図示した(第179図)。出土遺物、ＳＨ13との関連から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

Ｅ349(第104図)

位置・検出状況　Ｅ30グリッドに位置し、溝跡Ｅ406上面で検出した。長軸0.70ｍ、短軸0.60ｍ、深さ0.15ｍを測り、平面形は楕円形を呈している。埋土の中に長径0.35ｍ、短径0.22ｍ程の川原石が出土した。検出面から斜めに掘り込み、底面は平坦となる。埋土は単層の黒褐色土であった。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗）１点を出土したが、破片の状態で出土したため、図示を略した。中世末～近世前期頃の溝跡Ｅ406を切っていることから、本遺構は溝跡Ｅ406が絶えた近世前期以降のものと考えられる。

Ｅ392(第105図)

位置・検出状況　Ｄ28グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。長軸1.60ｍ、短軸0.60ｍ、深さ0.23ｍを測り、平面形は楕円形を呈している。埋土の中に径５～20㎝程の礫が出土した。検出面から斜めに掘り込み、底面は凹凸がある。埋土は黒褐色土に褐色土が斑点状に混じっていた。

出土遺物・時期　出土遺物は確認できなかったが、中世末期頃の柱穴Ｅ761を切っていることから本遺構は近世以降のものと考えられる。

Ｅ415（第105図）

位置・検出状況　Ｅ28グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。長軸1.30ｍ、短軸0.60ｍ、深さ0.3ｍを測り、平面形は長方形を呈している。埋土の中に長径0.40ｍ、短径0.25ｍ程の川原石が出土した。検出面から斜めに掘り込み、断面形はＵ字形となる。埋土は黒褐色土に褐色土がブロック状に混じっていた。

出土遺物・時期　出土遺物は確認できなかったことと、遺構の切り合いもないことから、時期の判断はできなかった。

Ｅ423（第105図）

位置・検出状況　Ｆ29グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。溝跡Ｅ406・407・420やＥ1072を切っていた。長軸2.10ｍ、短軸0.60ｍ、深さ0.28ｍを測り、平面形は不定形を呈している。埋土の中に径５～30㎝程の川原石が出土した。検出面から斜めに掘り込み、底面は平坦となる。埋土は黒褐色土に褐色土が斑点状に混じっていた。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗）４点、瀬戸美濃連房４点など10点を出土したが、いずれも破片状態で出土したため、図示を略した。 中世末～近世前期頃の溝跡Ｅ406・407・420を切っていることから、本遺構は近世前期以降のものと考えられる。白瓷系陶器（碗）は後に混入したと判断した。

Ｅ899（第105図）

位置・検出状況　Ｊ38グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。長軸0.80ｍ、短軸0.60ｍ、深さ0.45ｍを測り、平面形は楕円形を呈している。埋土の中に径30㎝程の川原石が出土した。検出面からほぼ垂直に掘り込み、底面は平坦となる。埋土は黒褐色土に褐色土がブロック状に混じっていた。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗）４点、古瀬戸１点の５点を出土したが、いずれも破片状態で出土したため、図示を略した。 出土遺物から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

第５節　浦畑遺跡西区の遺構

浦畑遺跡西区では、中世前期(13～15世紀)の掘立柱建物跡、柱穴列(柵跡)、土塁、カマド施設、土間状遺構などが見つかった。また地境溝が南北に存在し、土塁に囲まれた建物跡や上恵土城跡に通じる道跡の可能性がある硬化面を確認した。今までの上恵土城跡や浦畑遺跡東区より早い時期の遺構である。中世前期のはじめ頃(12世紀末～13世紀)から中世末にかけて続く検出した遺構について、前節と同様に述べていく。

１　掘立柱建物跡(ＳＨ)

掘立柱建物跡(ＳＨ)は、中世の時期のものが９棟確認でき、建物に伴うピット内には根石・支え石を有するものやカマド跡・土間状遺構がみられた遺構も若干確認できた。

ＳＨ21(第14図・第106図)

位置・検出状況　Ｃ地区のＦ23～Ｇ23グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。東側中央の柱穴Ｃ390は、Ｃ389に切られ、柱穴Ｃ588は、Ｃ364に切られて検出した。検出面において、掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行２間×梁行１間の南ー北方向を主軸(Ｎ18°Ｗ)とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行4.80ｍ、梁行2.76ｍ、床面積13.25㎡である。

形態　南ー北方向に位置する柱穴Ｃ384・Ｃ390・Ｃ379、Ｃ343・Ｃ382・Ｃ588は、ほぼ線状に並んでいる。

柱穴　６基の柱穴が見つかった。平面形は円形状を呈しているものが多く、0.3～0.4ｍの深さがある柱穴である。柱穴から柱根は確認できなかった。この南や西側に柱穴がまだ延びていた可能性があると考えられ、調査をしたが攪乱によって削平され確認できなかった。

出土遺物・時期　どの柱穴からも遺物の出土はなかった。遺構の切り合いや周辺の遺構と埋土の状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

ＳＨ22(第14図・第107図・写真図版17)

位置・検出状況　Ｃ地区のＧ20～21グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。北東隅に位置する柱穴Ｃ219はＣ220に切られ、南西隅に位置する柱穴578は、Ｅ194に切られて検出した。掘立柱建物跡の柱穴以外で、敷地内の土坑Ｃ629で炭の一部破片を確認したが、硬化面については確認できなかった。

規模　桁行２間×梁行１間の東ー西方向を主軸(Ｎ72°Ｅ)とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行6.60ｍ、梁行2.52ｍ、床面積16.63㎡である。

形態　東ー西方向に位置する柱穴Ｃ188・Ｃ331・Ｃ219と柱穴Ｃ578・Ｃ628・Ｃ213は、線状に並んでいる。東側に位置する柱穴Ｃ219・Ｃ213の延長線上の南に続く柱穴Ｃ267が存在したが、Ｃ213との柱間が４ｍあり、本遺構(ＳＨ22)との関連はないと判断した。

柱穴　６基の柱穴が見つかった。平面形は円形状を呈しているものが多く、Ｃ219・Ｃ331・Ｃ578・Ｃ628は0.3～0.6ｍの深さがある。なお、礎石と判断できる川原石らしき跡があるものの確認はできなかった。

出土遺物・時期　どの柱穴からも遺物の出土はなかった。敷地内土坑Ｃ629から明和１号窯式の白瓷系陶器（碗）や非ロクロ土師器皿（かわらけ）が出土している状況から考えると、本遺構は中世後期でも13世紀から14世紀にかけてのものと考えられる。

ＳＨ23（第14図・第108図、写真図版17）

位置・検出状況　Ｃ地区のＦ16～Ｆ17グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。北西隅に位置するＣ40は土坑Ｃ41に、柱穴Ｃ542は土坑Ｃ43に、柱穴Ｃ540は土坑Ｃ39に切られて検出した。検出面において、掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行２間×梁行２間の南－北方向を主軸（Ｎ22°Ｗ）とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行3.48ｍ、梁行3.00ｍ、床面積10.44㎡である。

形態　北側、東－西方向の軸上に位置する柱穴Ｃ40・Ｃ44・Ｃ542は、線状に並んでおり、さらに延長上にＣ552が柱間2.5ｍ延長上に位置していた。そのＣ552は、ＳＨ23の柱穴と推定されたが、Ｃ552の南に続く柱穴は調査区外になるため確認できず、ＳＨ23の柱穴とは判断できなかった。

柱穴　６基の柱穴が見つかった。平面形は円形状を呈しているものが多く、0.2～0.5ｍの深さがある柱穴であり、Ⅳ層を掘り抜いている。柱穴Ｃ40から中世常滑陶器（番号927）が出土した（第196図）。なお柱穴から、礎石・支え石と判断できる石は確認できなかった。

出土遺物・時期　Ｃ40より白瓷系陶器（碗）５点、中世常滑陶器３点の８点出土した。そのうち中世常滑陶器（番号927）を図示した（第196図）。出土遺物や遺構の切り合い、周辺の遺構の状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

ＳＨ24（第14図・第109・110図・写真図版17）

位置・検出状況　Ｃ・Ｂ地区のＥ14～Ｆ16グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。北東隅に位置するＢ402は土坑Ｂ94（Ｃ33）に、柱穴Ｃ564は土坑Ｃ25に、柱穴Ｃ536は土坑Ｃ30に、柱穴Ｃ551は土坑Ｃ35に切られて検出した。検出面において、掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行３間×梁行３間の東－西方向を主軸（Ｎ68°Ｅ）とする総柱の掘立柱建物跡であり、桁行6.60ｍ、梁行5.16ｍ、床面積34.06㎡である。

形態　北側、東－西方向に位置する柱穴Ｂ76・Ｂ77・Ｂ92・Ｂ402は、それぞれ線状に並んでいるものの、北東隅角のＢ402だけは、若干外側に位置する。

柱穴　15基の柱穴が見つかった。平面形は円形状を呈しているものが多く、0.2～0.5ｍの深さのある柱穴である。礎石・支え石と判断できる石は確認できなかった。南西隅角にも、構造上柱穴がある可能性があり調査を進めたが、その柱穴をＣ14と考えるとずれて位置するため、それがＳＨ24の一部と判断できなかった。

出土遺物・時期　Ｂ401・Ｂ402・Ｂ77・Ｃ18より白瓷系陶器（碗）１点ずつの４点出土した。いずれ

も破片の状態で出土したため、図示を略した。出土遺物、遺構の切り合いの状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

ＳＨ25（第14図・第111・112図・写真図版23）

位置・検出状況　Ｂ地区のＢ17～Ｃ19グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。北東隅に位置する柱穴Ｂ486は、土坑Ｂ164に切られ、南西隅に位置する柱穴Ｂ500は、土坑Ｂ328・Ｂ466に、Ｂ329は土坑Ｂ469に切られて検出した。検出面において掘立柱建物跡の柱穴以外に、東側にはカマド跡Ｂ392が存在し、カマドに使用したと考えられる石やその痕跡である焼土を確認した。また、南東隅には、土間状遺構Ｂ530が存在し、しまりのある硬化面を確認した。

規模　桁行４間×梁行３間の南ー北方向を主軸（Ｎ13°Ｗ）とする総柱の掘立柱建物跡であり、桁行7.32ｍ、梁行6.00ｍ、床面積43.92㎡ほどである。

形態　中央部、南ー北方向に位置する柱穴Ｂ160・Ｂ244・Ｂ243・Ｂ241・Ｂ178は、それぞれ線状に並んでいる。西側に位置する柱穴Ｂ308・Ｂ141・Ｂ145・Ｂ314・Ｂ500は、線状に並んでいるが、北西隅角のＢ500が若干外側に位置する。また、東側に位置する柱穴Ｂ486・Ｂ373・Ｂ246・Ｂ507も、線状に並んでいるが、Ｂ246のみ若干内側に位置する。

柱穴　17基の柱穴が見つかった。平面形は円形状を呈しているものが多い。南東隅角にも、建物跡の構造上、柱穴が存在する可能性が高く、調査を進めたが確認できなかった。Ｂ308とＢ160の間にも、柱穴がある可能性が高いと考えたが、これも確認できなかった。

出土遺物・時期　柱穴Ｂ160・Ｂ168・Ｂ178・Ｂ241・Ｂ246・Ｂ308・Ｂ329・Ｂ347・Ｂ500より白瓷系陶器（碗・皿）15点、常滑陶器４点の19点出土した。そのうち柱穴Ｂ246の大洞東１号窯式の白瓷系陶器（番号1133）と柱穴Ｂ329の大畑大洞４号窯式の白瓷系陶器（番号1139）や常滑陶器（番号1141・1142・1143）の５点を図示した（第205図）。

出土遺物や遺構の切り合い、周辺の遺構の状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

ＳＨ26（第14図・第113図・写真図版23）

位置・検出状況　Ｂ地区のＤ13～15グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。北側中央に位置する柱穴Ｂ423・柱穴Ｂ421は土坑Ｂ66に切られて検出した。検出面において、掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行４間×梁行１間の東ー西方向を主軸（Ｎ78°Ｅ）とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行6.54ｍ、梁行1.14ｍ、床面積7.46㎡である。

形態　北側、東ー西方向に位置する柱穴Ｂ256・Ｂ58・Ｂ270・Ｂ423・Ｂ86や、南側に位置する柱穴Ｂ106・Ｂ51・Ｂ64・Ｂ421・Ｂ87は、それぞれ線状に並んでいる。

柱穴　10基の柱穴が見つかった。平面形は円形状を呈しており、0.3～0.6ｍの深さがある柱穴である。柱穴Ｂ421で礎石を確認した。

出土遺物・時期　柱穴Ｂ64・Ｂ86・Ｂ87・Ｂ106・Ｂ256・Ｂ421より白瓷系陶器（碗・皿）３点、古瀬戸１点、常滑陶器２点の６点出土した。そのうちＢ106の白瓷系陶器（皿・番号1129）を図示した（第205図）。出土遺物、遺構の切り合いの状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

ＳＨ27（第14図・第114図・写真図版23）

位置・検出状況　Ｂ地区のＥ13～15グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。北側中央に位置する柱穴Ｂ428は土坑Ｂ72に切られて検出した。検出面において、掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行４間×梁行１間の東－西方向を主軸（Ｎ77°Ｅ）とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行6.48ｍ、梁行1.20ｍ、床面積7.78㎡である。

形態　北側、東－西方向に位置する柱穴Ｂ537・Ｂ44・Ｂ428・Ｂ78・Ｂ280や、南側に位置する柱穴Ｂ38・Ｂ42・Ｂ74・Ｂ263・Ｂ282は、それぞれ線状に並んでいる。

柱穴　10基の柱穴が見つかった。平面形は円形状を呈しており、0.4ｍ～0.6ｍの深さで底部は尖っている。桁行４間×梁行１間とＳＨ26とほぼ同じであり、柱間も同じであることから、ＳＨ26と同じ建物跡の可能性もある。しかし、両建物跡の間に位置する柱穴がＢ87とＢ280間では、柱穴と考えられるＢ536が確認できたが、それ以外のＳＨ26の南側に位置する柱穴とＳＨ27の北側に位置する柱穴との間には確認できなかったため、ＳＨ26とＳＨ27という２つの建物跡が存在する判断をした。

出土遺物・時期　柱穴Ｂ44・Ｂ78より白瓷系陶器（碗・Ⅲ）２点出土した。いずれも破片の状態で出土したため、図示を略した。出土遺物、遺構の切り合いの状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

ＳＨ28（第14図・第115図）

位置・検出状況　Ｂ地区のＣ12～Ｅ12グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。北東隅角に位置する柱穴Ｂ406の北半分は調査区外にあたり、検出できなかった。また、柱穴Ｂ450は土坑Ｂ437に、柱穴Ｂ405は土坑Ｂ29に、柱穴Ｂ30はＢ28に切られて検出した。検出面において、掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行５間×梁行１間の南－北方向を主軸（Ｎ14°Ｗ）とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行10.32ｍ、梁行1.68ｍ、床面積17.34㎡である。

形態　東側に位置する柱穴Ｂ406・Ｂ413・Ｂ405・Ｂ30や、西側に位置する柱穴Ｂ249・Ｂ551・Ｂ450・Ｂ442・Ｂ279・Ｂ25は、それぞれ線状に並んでいる。規模・形態から南北に細長い建物跡であることから、馬屋等の建物であったかもしれない。

柱穴　10基の柱穴が見つかった。平面形は円形状を呈しており、0.2～0.8ｍの深さがある。柱穴の位置からＢ450とＢ279に対応する柱穴が確認できなかった。攪乱ならびに他の遺構に切られた可能性もある。

出土遺物・時期　柱穴Ｂ30・Ｂ442より白瓷系陶器（碗・Ⅲ）３点出土した。いずれも破片の状態で出土したため、図示を略した。出土遺物、遺構の切り合いの状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

ＳＨ29（第14図・第116図）

位置・検出状況　Ｂ地区のＤ11～Ｅ11グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。南東隅角に

位置する柱穴Ｂ408は土坑Ｂ252に切られて検出した。検出面において、掘立柱建物跡の柱穴以外に焼土や硬化面は確認できなかった。

規模　桁行３間×梁行１間の南ー北方向を主軸（Ｎ14°Ｗ）とする側柱の掘立柱建物跡であり、桁行6.72ｍ、梁行1.26ｍ、床面積8.47㎡である。

形態　東側に位置する柱穴Ｂ453・Ｂ12・Ｂ11・Ｂ408や、西側に位置する柱穴Ｂ452・Ｂ13・Ｂ９・Ｂ６は、それぞれ線状に並んでいる。規模・形態から南北に細長い建物跡であることから、ＳＨ28と同様に、馬屋等の建物であったかもしれない。

柱穴　８基の柱穴が見つかった。平面形は円形状を呈しており、0.3～0.6ｍの深さがある。

出土遺物・時期　柱穴Ｂ12・Ｂ13より白瓷系陶器（碗・皿）３点、常滑陶器１点の４点出土した。いずれも破片の状態で出土したため、図示を略した。出土遺物、遺構の切り合いの状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

２　柱穴列（ＳＡ）

柱穴列（ＳＡ）は、掘立柱建物跡の周囲に、位置し、中世の時期のものが４条確認できた。

ＳＡ３（第14図・第117図）

位置・検出状況　Ｆ17～Ｇ15グリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出した。

規模　柱間４間以上の東西に並ぶ柱穴列であり、検出した長さは8.8ｍで西側は、調査区外でまだまだ続く可能性が高い。

柱穴　５基の柱穴が見つかった。平面形は円形状を呈しているものが多く、0.2～0.5ｍの深さがあった。一部柱穴554・535は検出面からやや急に掘り込み、底面が尖っており、柱痕跡がみられた。Ｃ28において、支え石と考えられる石を確認した。Ｃ577は、深さ0.2ｍ程度で他と比べ浅いが、すでに深さ0.2ｍの土坑Ｃ541に削平されており、実際は0.4ｍ程度の深さであると考えられる。

出土遺物・時期　５基の柱穴から出土した遺物は確認できなかった。埋土の状況、遺構の切り合いから、中世後期のものと考えられる。

ＳＡ４（第14図・第118図・写真図版24）

位置・検出状況　Ｄ19～17グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。

規模　柱間５間の東西に並ぶ柱穴列であり、検出した長さは8.1ｍで、西端で、まだまだ柱穴が続くが、内外に若干ずれる位置にあるため、ＳＡ４の一部と判断するには至らなかった。

柱穴　６基の柱穴が見つかった。平面形は全てほぼ円形状を呈し、0.2～0.5ｍの深さがある。
どの柱穴も検出面からほぼ垂直に掘り込み、底面は尖っていた。柱痕跡がみられたことや、北側にカマド跡・土間状遺構をともなった総柱の掘立柱建物跡（ＳＨ25）が存在することから柵跡と考えられる。

出土遺物・時期　柱穴Ｂ151・Ｂ333より白瓷系陶器（碗）１点、瀬戸美濃連房１点の２点出土した。いずれも破片の状態で出土したため、図示を略した。出土遺物、遺構の切り合いの状況から、本遺構

は中世後期のものと考えられる。

ＳＡ５（第14図・第119図・写真図版24）

位置・検出状況　Ｃ16～14グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。

規模　柱間11間の東西に並ぶ柱穴列で、検出した長さは10.8ｍである。

柱穴　12基の柱穴が見つかった。平面形は全てほぼ円形状を呈し、0.3～0.5ｍの深さである。どの柱穴も検出面からほぼ垂直に掘り込み、底面は尖っていた。柱痕跡がみられたことや、南側に掘立柱建物跡（ＳＨ26・ＳＨ27)が存在することから柵跡と考えられる。

出土遺物・時期　柱穴Ｂ103より白瓷系陶器(碗）１点を出土したが、破片の状態で出土したため、図示を略した。出土遺物、遺構の切り合いの状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

ＳＡ６（第14図・第120図）

位置・検出状況　Ｅ12～13グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。柱穴Ｂ409は土坑Ｂ32に切られて検出した。

規模　柱間３間の東西に並ぶ柱穴列であり、検出した長さは６ｍである。東端には、柱穴が並んで続くとも思われたが、内外に若干ずれる位置にあるため、本遺構の一部と判断するには至らなかった。

柱穴　４基の柱穴が見つかった。平面形は全てほぼ円形状を呈し、0.2～0.3ｍの深さである。
どの柱穴も検出面からほぼ垂直に掘り込み、底面は尖っていた。柱痕跡がみられたことや、周辺に細長い作業場か馬屋とも考えられる掘立柱建物跡が４棟存在することから柵跡と考えられる。

出土遺物・時期　柱穴Ｂ411より白瓷系陶器(碗）１点を出土したが、破片の状態で出土したため、図示を略した。出土遺物、遺構の切り合いの状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

３　土塁

土塁は、Ｃ地区の近世土塁(Ｃ２)とＨ区の中近世土塁(Ｈ１)である。

Ｃ２（第14図・第121図・写真図版20）

位置・検出状況　Ｃ地区のＨ25～26グリッドにかけて位置する。Ｃ地区南東隅に位置しながら、調査区外の南側に盛土の続きと考えられる遺構が存在し、さらに西側に盛土が続いている。残存する盛土の断面形はややなだらかな傾きの台形を呈する。盛土の高さは、残存高で0.6ｍ程度で、盛土はⅡ層上面に築かれており、ＴＲ１(土層確認溝)・ＴＲ２・ＴＲ３では、ほぼ層序が対応する。ＴＲ１(Ａ～Ａ')の層位図から分かるように、土塁構築土として３層確認し、１層から近世陶器の遺物を出土した。しまりがあることや、積み上げられていることから、近世の土塁と判断した。なお、近世以前の中世には区画溝跡Ｃ479が存在しており、廃絶後、本遺構が構築されたものと考えられる。ＴＲ２（Ｂ～Ｂ')から、土塁構築土として４層確認し、１・３層から近世陶器の遺物が出土した。なお「長谷川氏」と墨書が入った（瓶掛・番号921)はこの１層盛土と同じ層から出土した

(写真図版20)。４層においては、しまりがある層であった。また、ＴＲ３(Ｃ～Ｃ')から、土塁構築土として同じく４層確認できた。２層においてもしまりある層であった。中世では、区画溝Ｃ474が存在しており、当溝跡が絶えた後、土塁が構築されたものと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)７点、瀬戸美濃連房32点など40点出土した。そのうち前述した瀬戸美濃連房(広東碗・合子・瓶掛・番号919～921)３点を図示した(第196図)。

出土遺物、遺構の切り合いの状況から、本遺構は近世前期から存在していたものと考えられる。

Ｈ１(第14図・第122図・写真図版26・27)

位置・検出状況　Ｈ地区のＦ８グリッドから北へ延び、Ｄ７グリッド南東隅からほぼ直角に東北東に延びＣ10グリッドに至る位置で検出した。検出した南端から北へ延び直角に曲がる箇所までの長さは8.5ｍ、そこから東端までの長さは16ｍを測る。本遺構の盛土が調査区外の南側にも続き、林地となっており１ｍほどの高さが認められる。残存する盛土の断面形はなだらかな傾きの台形を呈しており、上部は近現代耕作土によって削平された状態であった。盛土の高さは、残存高で0.5ｍ程度で、盛土はⅣ層上面に築かれている。ＴＲ１(土層確認溝)・ＴＲ２・ＴＲ３・ＴＲ４では、若干層序が詳細で対応しづらいが９・10層は硬くしまりがある同じ盛土である。白瓷系陶器、中世常滑陶器や中国磁器の出土遺物や調査区外の南に続く盛土(御嵩町史では土塁想定位置と考えている)の続きから、中世の土塁と判断した。中世土塁構築土の上部盛土にもしまりある硬い１層～８層の盛土を確認した。この盛土から近世陶器の遺物を確認した。近世の時期に混入したものと考えられる。

土塁の外側(北・西側)には溝跡を確認した。おそらく、この掘削土を積み上げたか、他から運んで構築したと思われるが、それは判断できない。少なくとも土塁の外側は溝跡として機能していたと考えられる。そのさらに外側に溝跡Ｈ128・147を確認した。なぜ、土塁の北・西側を外側と判断したかというと、北・西側には、遺構の密度が極端に少ないとともに、東側では建物跡が存在しているからである。本遺構の形成された中世以降、さらに土塁を積み上げていった形跡がある。そして、近現代になって、上部が削平され耕作地としての機能を有したと考えられる。

出土遺物・時期　灰釉陶器２点、白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)222点、中世常滑陶器10点、中国磁器２点、瀬戸美濃連房11点など254点出土した。そのうち、白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢・番号1178～1184・1186)や中国磁器(番号1185)・中世常滑陶器(番号1187・1188)・瀬戸美濃連房(番号1189・1190)の３点を図示した(第207図)。

出土遺物、遺構の切り合いの状況から、本遺構は中世後期から存在し、近世まで続き、近現代より上部が削平されたものと考えられる。

４　井戸跡

井戸跡（ＳＥ）は、中世の時期のものが１基確認できた。

Ｈ75（第14図・第123図・写真図版28）

位置・検出状況　Ｇ４グリッドに位置し、溝跡Ｈ79に切られ検出した。平面形は、長軸1.34ｍ、短軸1.30ｍでほぼ円形状を呈し、そのままＶ層上面の硬い岩盤をほぼ垂直に掘り抜いた素掘り井戸跡である。検出上面からは、廃棄する際に埋めたと考えられる径0.2～0.3ｍの円礫が出土した。検出上面から1.5ｍ程の深さでは、Ｖ層の硬い岩盤と木曽川泥流堆積物の層を掘り抜く状態で、常時水が溜まる状態であった。本遺構は、前述した土塁の外側に位置し、同じ時期と対応する建物跡は、確認できなかった。埋土２層から青磁や白瓷系陶器・丸石３号窯式の碗を、４層からは中世常滑陶器を確認した。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）24点、灰釉陶器１点、常滑陶器12点、中国磁器１点など57点出土した。そのうち、白瓷系陶器（碗・皿・番号1203～1210・1213）、灰釉陶器（番号1211）、中世常滑陶器（番号1212）、中国磁器（番号1215）、瀬戸美濃大窯（番号1214）の13点を図示した（第207・208図）。

白瓷系陶器の中でも丸石３号窯式・窯洞１号窯式の碗・皿が多くを占めており、その他の中世遺物、及び周辺の遺構の状況から、本遺構は中世前期のものと考えられる。

５　カマド跡・土間状遺構

カマド跡・土間状遺構は、Ｃ地区でカマド跡１基、土間状遺構２基を確認した。３基ともに、掘立柱建物跡内に位置するので、建物跡と関連させながら記述する。

Ｂ369（第14図・第124図・写真図版24）

検出状況・形態　カマド跡Ｂ369は、Ｂ地区のＢ18グリッド内の南東端に位置し、ＳＨ25の敷地内東側のⅣ層上面で検出した。北東角隅は土坑Ｂ527に、南西角は土坑Ｂ529に切られていた。平面形は、長軸2.5ｍ、短軸2ｍのほぼ長方形を呈し、カマド跡の面積は約５㎡である。中央部の埋土は黒褐色土シルト質でしまりがある。炭の破片も確認し、川原石やサバ石であろうかと思われる切石が集中して30数点を出土した。切石から焦げた煤を確認できたことから、おそらく切石を積んでカマドをつくっていた可能性が高い。焚き口は南側であると推測され、その南側Ｂ530は、土間・作業場として機能を有したと考えられる。埋土上層からは、白瓷系陶器・古瀬戸の破片を確認することができた。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）237点をはじめ、古瀬戸４点、土師器皿15点など265点出土した。そのうち、白瓷系陶器（碗・皿・番号1145～1151）、古瀬戸（番号1152～1154）、中世常滑陶器（番号1155）の11点を、図示した（第206図）。出土遺物や遺構の切り合い状況から、本遺構は中世後期（14世紀～15世紀）のものと考えられる。

Ｂ392（第14図・第124図・写真図版25）

検出状況・形態　土間状遺構Ｂ392は、Ｂ地区のＣ18グリッド内の南東端に位置し、ＳＨ25の敷地

からすぐ南側のⅣ層上面で検出した。北東側はＢ530に切られて検出した。平面形は、長軸2.4ｍ、短軸1.2ｍのほぼ長方形を呈し、土間の面積は約2.9㎡である。中央部の埋土は黒褐色土シルト質で、ややしまりがあるものの、Ｂ369でみられた程ではない。川原石などカマド跡に付随するものが出土しており、作業場、入り口のようなものと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)155点をはじめ、古瀬戸３点、土師器９点など182点出土した。そのうち、白瓷系陶器(碗・番号1160)と、土師器皿(非ロクロ・番号1159)の２点を図示した(第206図)。出土遺物や上記の遺構とのかかわりから、本遺構は中世後期のものと考えられる。

Ｂ530(第14図・第124図・写真図版25)

検出状況・形態　土間状遺構Ｂ530は、Ｂ地区のＣ18～19グリッド内に位置し、ＳＨ25の敷地内南東側のⅣ層上面で検出した。南西側はＢ369に切られていた。平面形は、長軸3.8ｍ、短軸1.9ｍのほぼ長方形を呈し、土間面積は約７㎡である。中央部の埋土は黒褐色土シルト質でしまりがあり、炭の破片を確認した。Ｂ369でみられた川原石やサバ石を確認し、カマド跡の南側に位置するため、土間や作業場であったかと思われる。埋土上層からは、白瓷系陶器・中世常滑陶器などの破片を確認することができた。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)21点をはじめ、古瀬戸１点、常滑陶器２点、土師器皿２点など29点出土した。そのうち、白瓷系陶器(碗・皿・番号1171～1175)、古瀬戸(番号1176)、土師器皿(番号1170)の７点を図示した(第206図)。出土遺物や遺構の切り合い状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

６　溝跡

溝跡は、Ｃ地区16条、Ｄ地区11条、Ｂ地区10条、Ｈ地区18条の55条である。集落の区画にかかわる東西・南北の溝は長く、性格がわかるものが多いが、方向が一定していない溝跡も存在し、性格が不明なものもある。ここに19条図示し、その他は溝跡の遺構一覧表(第９表)に記載した。

Ｃ474(第14図・第125・126図・写真図版18)

位置・検出状況　Ｄ23～Ｈ25グリッドにかけて位置し、南－北方向を主軸(Ｎ24°Ｗ)とする溝跡である。さらに北端はＤ地区溝跡Ｄ32・33に続くものであり、調査区南へと続く。検出面で最大幅約2.0ｍ、深さ約0.9ｍを測る。溝の断面は肩から底面まで緩いＵ字形を呈しており、溝の底は若干平坦で、基盤層であるⅤ層を掘り窪めている。溝の断面の切り合いから、西隣の溝跡Ｃ475よりも古い時期に形成され、溝の底部分は水が湧き出る状態であった。西隣の溝跡Ｃ475の方は、礫や遺物破片が多く出土したが、本溝跡は上層において、礫や遺物破片が出土しただけであった。中世から近世後期にかけて徐々に絶えてなくなり、最後に西隣の溝跡Ｃ475が残ったと考えられる。本遺構と後述する溝跡Ｃ479との間は、遺構密度が少なく、ややしまりある硬化面を確認した(第125図参照)。道跡だった可能性が高い。この点については、周辺の遺構との関連で記述する必要があり、後に総括で述べることにしたい。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)82点、古瀬戸12点、中世常滑陶器30点、瀬戸美濃大窯６点、土師器皿24点、瀬戸美濃連房161点など370点出土した。そのうち、白瓷系陶器(碗・皿・番号940・941)、中世常滑陶器(番号949)、瀬戸美濃連房(番号942～948)の10点を図示した(第197図)。

出土遺物や西隣の溝跡Ｃ475より古く形成されていることから、本遺構は中世後期より存在し、近世中期まで溝が機能したと考えられる。

Ｃ475(第14図・第125・126図・写真図版18)

位置・検出状況　前述のＣ474と同様にＤ23～Ｈ25グリッドにかけて位置し、南ー北方向を主軸(Ｎ24°Ｗ)とする溝跡である。さらに北端はＤ地区溝跡Ｄ32・33に続くものであり、調査区南へと続く。検出面で最大幅約2.0ｍ、深さ約0.42ｍを測る。溝の断面は肩から底面まで緩いＵ字形を呈しており、溝の底は若干平坦である。埋土上層中央部分においては、北端から南端まで、約25ｍにわたって礫や遺物破片が出土した(第126図)。中世陶器の遺物も出土しているものの近世陶磁器の遺物が多くを占め、近世から幕末・近代にかけてまで溝が機能していたと考えられる。約25ｍという長きにわたって礫や遺物破片が積んであることから、区画溝の機能と水はけ・排水の機能を有していたと考えられる。その後、畑地の通り道の側溝として機能を有していたかもしれない。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)109点、古瀬戸28点、中世常滑陶器103点、中国磁器１点、瀬戸美濃大窯７点、土師器皿18点、瀬戸美濃連房442点、近世常滑陶器401点など1,236点出土した。そのうち、白瓷系陶器(碗・皿・番号950～953)、土師器皿(番号954)、中国磁器(番号955)、中世常滑陶器(番号957)、瀬戸美濃連房(番号956・958～1000)、肥前磁器(番号1001・1003)、近世常滑陶器(番号1002)、瓦(番号1004)の55点を図示した（第198～200図)。

出土遺物に、白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)の遺物が若干あるものの、瀬戸美濃連房や近世常滑の遺物が多くを占めることから、本遺構は中世後期より溝跡Ｃ474と同じ時期に存在し、それ以後近世になり、区画溝・水はけ・排水としての機能を有していたと考えられる。それが近世後期から近代初めにかけて存在していたと考えられる。

Ｃ477（第14図・第125図)

位置・検出状況　Ｄ24～Ｇ25グリッドにかけて位置し、南ー北方向を主軸(Ｎ30°Ｗ)とする溝跡である。さらに北端はＤ地区の溝跡Ｄ28に続くものである。検出面で最大幅約1.10ｍ、深さ約0.37ｍを測る。溝の断面は肩から底面までＵ字形を呈しており、溝の底は若干平坦である。Ｃ474・475の両溝跡と比べると小さく、区画溝というより大きい溝跡から分かれた溝と考えられる。埋土から、上層において所々に礫や遺物破片が出土した。土師器皿・白瓷系陶器など中世の遺物を確認した。溝の肩付近や周辺では、ややしまりがある硬化面を確認した。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)14点、古瀬戸１点、中世常滑陶器１点、瀬戸美濃大窯１点、瀬戸美濃連房19点など43点出土した。そのうち、白瓷系陶器(碗・皿・番号1006・1007)の２点を図示した(第200図)。出土遺物や埋土の状況、北側でつながる溝跡Ｄ28の出土遺物から、本遺構は中世後期より存在していたと考えられる。瀬戸美濃連房の遺物は後に混入したものと判断した。

Ｃ478（第14図・第125図）

位置・検出状況　溝跡Ｅ1200のＤ26グリッド付近から分かれ、溝跡479の上層を切りながら西に向かい、すぐに南南東に向きをかえ、溝跡Ｃ479に統合する。南南東に向かって位置する部分が主流で、南ー北方向を主軸（Ｎ18°Ｗ）とする溝跡である。検出面で最大幅0.70ｍ、深さ約0.34ｍを測る。溝の断面は肩から底面までＵ字形を呈しており、溝の底は若干平坦である。前述した溝跡477と同じ性格のもので、区画溝というより大きい溝跡（Ｅ1200）からの分かれたものと考える。黒褐色と黒色の混じり層の埋土で、所々に礫や遺物破片が出土した。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）15点、中世常滑陶器３点、瀬戸美濃大窯５点、瀬戸美濃連房54点など87点出土した。そのうち、白瓷系陶器（陶丸・番号1008）、瀬戸美濃連房（番号1009～1011・1013）、肥前磁器（番号1012）の６点を図示した（第200図）。

出土遺物や埋土の状況、遺構の切り合いから、中世末期から近世前期にかけて形成され、近世後期まで存在していたと考えられる。

Ｃ479（第14図・第125・127・128図・写真図版19）

位置・検出状況　Ｃ25～Ｉ27グリッドにかけて位置し、南ー北方向を主軸（Ｎ23°Ｗ）とする溝跡である。北端はＤ地区の溝跡Ｄ８に続くものであり、途中溝跡Ｃ478などに切られ、調査区南へとつながる。検出面で最大幅約2.0ｍ、深さ約0.9ｍを測る。溝の断面は肩から底面までほぼ垂直に近いほどの掘りこみがあり、逆さの台形状を呈しており、溝の底は平坦で、底幅約１ｍを測る。埋土上層中央部分においては、北端から南端まで、約25ｍにわたって径10～20㎝の礫や近世の遺物破片が出土した（第126図）。底部付近においては、白瓷系陶器（碗・皿）など中世陶器の遺物が多く出土し、一番南端付近では、白瓷系陶器・明和１号窯式の碗がほぼ完形で９点出土した（第128図）。検出面から0.6ｍから0.3ｍ幅では、硬い基盤層であるＶ層を掘り抜いてつくったものと考えられる。30ｍ程続くなか、よほどの労力が必要と推測されるが、それをしてまでもつくるべき重要な溝跡だったと思われる。このことから一集落単位の区画溝としての様相が強い。また、周辺の遺構と関連しながら総括の部分で詳細を記述したい。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）109点、古瀬戸17点、中世常滑陶器92点、中国磁器１点、瀬戸美濃大窯22点、土師器皿28点、瀬戸美濃連房147点など474点を出土した。そのうち、白瓷系陶器（碗・皿・番号1014～1031）、古瀬戸（番号1032～1034）、中国磁器（番号1035）、瀬戸美濃大窯（番号1036・1037）、土師器皿（番号1038～1044）、瀬戸美濃連房（番号1045～1061）の48点を図示した（第200～202図）。底部付近の出土遺物から、白瓷系陶器・明和１号窯式の碗や古瀬戸・中世常滑陶器の遺物が出土したことから、本遺構は中世後期初めに存在したものと考える。中世末期まで、集落の区画溝の機能を有しながら、近世になりやがて、衰退し浅くなり、近世後期にかけて礫が入った区画溝・水はけ・排水の機能を有したものと考えられる。

Ｄ８・Ｄ15（第14図・第129図・写真図版21）

位置・検出状況　Ｂ25～Ｃ25グリッドにかけて位置し、南ー北方向を主軸（Ｎ14°Ｗ）とする溝跡である。南端は溝跡Ｃ479に続くもので、調査区南へとつながる。検出面で最大幅約3.2ｍ、深さ約0.9ｍ

を測る。溝の断面は、Ｃ479と同様に肩から底面までほぼ垂直に近いほどの掘り込みがあり、逆さの台形状を呈しており、溝の底は平坦で、底幅約１ｍを測った。埋土上層中央部分においては、北端から南端まで、径10～20㎝の礫や近世の遺物破片が出土した（この近世の溝部分のみをＤ地区では溝跡Ｄ15と解釈）。底部付近では、白瓷系陶器（碗・皿）など中世陶器の遺物が出土した。検出面から0.6ｍから0.3ｍ幅では、Ｃ479の時と同じようにＶ層を掘り抜いた跡を確認した。このＤ８より、西側７ｍ幅では遺構が少なく、硬化面が確認できた。前述した道跡だと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）５点、中世常滑陶器２点、瀬戸美濃大窯１点、瀬戸美濃連房４点など12点出土した。そのうち、瀬戸美濃大窯（番号1077）の１点を図示した（第203図）。

上層にあたる溝跡Ｄ15は、出土遺物から近世以降のもので、下層にあたる溝跡Ｄ８は、白瓷系陶器などの出土遺物から中世後期のものと考える。

Ｄ28（第14図・第129・131図・写真図版21）

位置・検出状況　Ｂ23～Ｃ23グリッドにかけて位置し、南ー北方向を主軸（Ｎ14°Ｗ）とする溝跡である。南端は溝跡Ｃ477に続くもので、調査区南へとつながる。検出面で最大幅約1.38ｍ、深さ約0.46ｍを測る。溝の断面は、Ｃ477と同様に肩から底面まではＵ字形を呈しており、溝の底は若干平坦である。埋土中央部分では、径10～20㎝の礫や土師器皿（非ロクロ）、常滑陶器など中世の遺物破片が出土した。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）17点、中世常滑陶器３点、土師器皿１点、瀬戸美濃連房１点など24点出土した。そのうち、中世常滑陶器（番号1078・1079）、土師器皿（番号1082）の３点を図示した（第203図）。出土遺物から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

Ｄ33・32（第14図・第129・130・131図・写真図版21・22）

位置・検出状況　両溝ともにＢ22～Ｃ23グリッドにかけて位置し、南ー北方向を主軸（Ｎ24°Ｗ）とする溝跡である。上層の黒色土埋土部分にて、溝跡Ｄ33（近世）を検出し、その周りを取り囲む下層部分にて溝跡Ｄ32（中世）を検出した。南端は溝跡Ｃ475・Ｃ474に続くものであり、調査区南へとつながる。検出面で、溝跡Ｄ33では最大幅約1.20ｍ、深さ約0.32ｍを、溝跡Ｄ32では最大幅約3.60ｍ、深さ約0.55ｍを測る。溝跡Ｄ32の断面は肩から底面まで皿状に緩やかな形を呈しており、溝の底は硬いでこぼこしたＶ層で、長さは約12ｍ程を確認した。溝跡Ｄ33（近世）の埋土中央部分においては、黒色土でしまりがあり、礫や近世の遺物破片を出土した（第130・131図）。その礫は、上層と下層にも確認できた。排水・水はけという機能を有していたに違いない。溝跡Ｄ33（近世）の下には、中世陶器の遺物が出土し、特に北東部において白瓷系陶器（碗・皿）を多く確認した。

出土遺物・時期　溝跡Ｄ33（近世）において、白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）153点、古瀬戸24点、瀬戸美濃大窯７点、瀬戸美濃連房74点、近世常滑陶器36点、陶磁器52点など399点出土した。そのうち、白瓷系陶器（碗・番号1097）、古瀬戸（番号1096）、瀬戸美濃大窯（番号1098～1100）、土師器皿（番号1101）、瀬戸美濃連房（番号1102～1112）、肥前磁器（番号1113・1114）の19点を図示した（第204図）。

出土遺物、遺構の切り合いから、本遺構は近世前期からのものと考えられる。白瓷系陶器など中世陶器については、後に混入したと判断した。

溝跡Ｄ32(中世)において、白瓷系陶器(碗・皿)123点、古瀬戸９点、中世常滑陶器12点、土師器皿３点、瀬戸美濃大窯７点など237点出土している。そのうち、白瓷系陶器(碗・皿・番号1083～1091)、古瀬戸(番号1092)、瀬戸美濃大窯(番号1093)、瀬戸美濃連房(番号1094～1095)の13点を図示した(第203図)。出土遺物、遺構の切り合いから、本遺構は中世後期から末期にかけてのものと考えられる。瀬戸美濃連房の遺物については、上層の溝跡Ｄ33から混入したと判断した。

Ｄ36・37(第14図・第129図)

位置・検出状況　両溝ともにＡ21～Ｃ22グリッドにかけて位置し、溝跡Ｄ36は南ー北方向を主軸(Ｎ19°Ｗ)とし、溝跡Ｄ37は南ー北方向を主軸(Ｎ24°Ｗ)とする溝跡である。溝跡Ｄ37の方が時期が古く、後に枯れて二手に分かれたのが溝跡Ｄ36である。南端は溝跡Ｃ475・Ｃ474につながりながら、やがて絶えていた。検出面で、溝跡Ｄ36では最大幅約1.14ｍ、深さ約0.30ｍを、溝跡Ｄ37では最大幅約2.80ｍ、深さ約0.44ｍを測る。溝跡Ｄ36・37の断面は肩から底面まで皿状に緩やかな形を呈しており、溝跡Ｄ36の上層に溝跡Ｄ37が切っている状態である。右隣に流れる溝跡Ｄ33でみられた礫は検出しなかった。

出土遺物・時期　溝跡Ｄ36において、白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)126点、古瀬戸７点、常滑陶器４点、瀬戸美濃連房3点など153点を出土した。そのうち、白瓷系陶器(碗・皿・番号1115～1117)の３点を図示した(第204図)。溝跡Ｄ37において、白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)107点、古瀬戸３点、中世常滑陶器７点、土師器皿６点、瀬戸美濃連房５点など132点出土している。そのうち、白瓷系陶器(碗・番号1118)、古瀬戸(番号1119)、中世常滑陶器(番号1120)の３点を図示した(第204図)。

溝跡Ｄ36の時期は、出土遺物、遺構の切り合いから、溝跡Ｄ37より新しい時期に存在し、中世後期から末期にかけてのものと考えられ、溝跡Ｄ37の時期は、出土遺物、遺構の切り合いから、溝跡Ｄ36より古い時期に存在し、中世後期のものと考えられる。両遺構の瀬戸美濃連房の遺物については、後に混入したと判断した。

Ｈ42(第14図・第132図・写真図版28)

位置・検出状況　Ｅ１～Ｇ１グリッドに位置し、南ー北方向を主軸(Ｎ12°Ｅ)とする溝跡である。調査区最西端から、若干西方面にカーブを描きながら調査区南西へと続く。検出面で最大幅約0.70ｍ、深さ約0.43ｍを測る。溝の断面は、Ｃ477と同様に肩から底面までは、Ｕ字形を呈しており、溝の底は若干尖っている。埋土底部においては、若干の径10～20㎝の礫や常滑陶器など中世の遺物破片が出土した。

出土遺物・時期　白瓷系陶器(碗・皿)９点、中世常滑陶器２点の11点出土した。そのうち、中世常滑陶器(番号1195・1196)の２点を図示した(第207図)。出土遺物から、本遺構は、中世後期のものと考えられる。

Ｈ43・44(第14図・第132図・写真図版28)

位置・検出状況　両遺構ともＧ１～Ｉ３グリッドに位置し、西端からＦ２グリッドでほぼ直角に南に曲がった溝跡である。この直角に曲がる部分が標高が106.25ｍと一番高い位置にある。直角に曲

がる部分から西端にかけては東－西方向を主軸（N70°W）とし、南端にかけて南－北方向を主軸（N16°W）とする溝跡である。溝跡H43が古い時期から存在し、やがて後の時期にその埋土上層に、溝跡H44が出現する。溝跡H43の検出面は、最大幅約2.50ｍ、深さ約0.50ｍを測る。溝の断面は、肩から底面までは、緩やかな皿状な形を呈しており、溝の底は若干尖っている。その上層に存在する溝跡H44は、最大幅約1.10ｍ、深さ約0.40ｍを測る。溝の断面は、肩から底面までは、緩やかな皿状な形を呈している。溝跡H44埋土の底部では、土師器皿（ロクロ）や古瀬戸の天目茶碗などを出土した。本溝跡の南部には柱穴を検出し、建物跡が存在する可能性があり、調査を進めたが確認できなかった。意図的に掘り込んだ建物跡の区画溝であった可能性が高いと考えられる。

出土遺物・時期　溝跡H43において、白瓷系陶器（碗・皿）24点、古瀬戸１点、中世常滑陶器３点、瀬戸美濃大窯１点の29点出土した。いずれも破片の状態で出土したため、図示を略した。溝跡H44においては、白瓷系陶器（碗・皿）47点、古瀬戸３点、中世常滑陶器６点など62点出土した。そのうち、古瀬戸（天目茶碗・折縁鉢・番号1197・1199・1200）や土師器皿（ロクロ・番号1198）の４点を図示した（第207図）。出土遺物から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

H61（第14図・第132図）

位置・検出状況　Ｅ３～Ｈ３グリッドに位置し、南－北方向を主軸（N15°W）とする溝跡である。検出面は、最大幅約0.85ｍ、深さ約0.50ｍを測る。溝の断面は、肩から底面までは、緩やかな皿状な形を呈しながら、若干西側に溝の底部が位置していた。規模が小さく、区画溝としての機能はないと考えられる。自然発生的な流路と考えた。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）22点、常滑陶器２点、瀬戸美濃大窯１点など26点出土した。そのうち白瓷系陶器（碗・番号1201）１点、瀬戸美濃大窯（番号1202）１点の２点を図示した（第207図）。

出土遺物から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

H79（第14図・第132図）

位置・検出状況　Ｆ６～Ｇ３グリッドに位置し、東－西方向を主軸（N57°W）とする溝跡である。検出面は、最大幅約1.80ｍ、深さ約0.48ｍを測る。溝の断面は、肩から底面までは、皿状な形を呈しており、溝の底は若干尖っている。東角端の南側には、まだ延びている可能性があったが、調査区外のため確認できなかった。西側端の南側には、中世前期と考えられる井戸跡を確認していることから、この周辺に建物跡や耕作地など存在していたかもしれない。このことから、本溝跡は区画溝としての機能を有していたと考えられる。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）50点、古瀬戸２点、中世常滑陶器10点など65点出土した。そのうち、白瓷系陶器（碗・番号1213）、古瀬戸（番号1216）の２点を図示した（第208図）。

出土遺物から、本遺構は、中世前期～後期のものと考えられる。

H128（第14図・第132図・写真図版28）

位置・検出状況　Ｄ６～Ｅ７グリッドに位置し、北端が攪乱に切られ、南－北方向を主軸（N18°W）とする溝跡である。検出面は、最大幅約1.05ｍ、深さ約0.35ｍを測る。溝の断面は、肩から底面まで

は、U字状な形を呈しており、溝の底は若干尖っている。また、東側２ｍ幅の位置には、同じ向きの土塁を確認したことから、構築するときの測量としての機能があったかもしれない。

出土遺物・時期　出土遺物は確認できなかったが、遺構の切り合い・埋土の状況から、本遺構は中世後期のものと考えられる。

Ｈ147（第14図・第132図・写真図版28）

位置・検出状況　Ｃ８～Ｃ６グリッドに位置し、北端は調査区外の東北東に延び、西端は前述した溝跡Ｈ128とつながる。東一西方向を主軸（Ｎ71°Ｅ）とする溝跡である。検出面は、最大幅約0.70ｍ、深さ約0.40ｍを測る。溝の断面は、肩から底面までは、U字状な形を呈しており、溝の底は若干尖っている。また、同じ主軸方向の南の位置には、土塁を確認したことから、Ｈ128と同様に、測量としての機能があったかもしれない。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・Ⅲ）２点出土した。いずれも破片の状態で出土したため、図示を略した。出土遺物・遺構の切り合い・溝跡Ｈ128との関連から、本遺構は、中世後期のものと考えられる。

７　土坑

土坑は、Ｃ地区130基、Ｄ地区29基、Ｂ地区96基、Ｈ地区26基の281基である。その中には、礫を伴ったものや帰属時期、性格不明なものある。そのうち、遺物や長径が１ｍ以上あるもの、土坑が集中的に存在しているものについて極力詳細図を掲載し、Ｃ地区の14基、Ｄ地区の５基、Ｂ地区の７基を図示した。その他は遺構一覧表（第４表）・地区別遺物出土量（第11表）に記載した。

Ｃ38・Ｃ645・Ｃ646・Ｃ59（第133図）

位置・検出状況　４基ともに、Ｅ16・Ｆ16・Ｅ17グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。土坑Ｃ38は、長軸2.90ｍ、短軸1.26ｍ、深さ0.15ｍを測り、平面形は不定形である。検出面から緩やかに掘り込み、底面はやや楕円状を呈しながら平坦となる（ａ～ａ’層位参照）。埋土は単層である。

土坑Ｃ646は、長軸2.40ｍ、短軸1.80ｍ、深さ0.20ｍを測り、平面形は不定形である。検出面からⅢ状に緩やかに掘り込み、底面は不定形を呈しながら平坦となる（ａ～ａ’・ｂ～ｂ’層位参照）。埋土は単層である。

土坑Ｃ645は、長軸1.46ｍ、短軸1.20ｍ、深さ0.22ｍを測り、平面形は不定形である。検出面からⅢ状に緩やかに掘り込み、底面は不定形を呈しながら平坦となる（ａ～ａ’層位参照）。埋土は単層である。

土坑Ｃ59は、長軸2.20ｍ、短軸1.94ｍ、深さ0.09ｍを測り、平面形は不定形である。検出面からの掘形は前述の３基と同様である（ｂ～ｂ’層位参照）。埋土は単層である。

出土遺物・時期　土坑Ｃ38より、白瓷系陶器（碗・Ⅲ）13点、中世常滑陶器１点、中国磁器１点など16点出土した。土坑Ｃ646より、白瓷系陶器（碗・Ⅲ）27点、古瀬戸１点、中世常滑陶器１点、土師器Ⅲ１点など31点出土した。土坑Ｃ645より、白瓷系陶器（碗・Ⅲ）４点出土した。 土坑Ｃ59より、白瓷

系陶器(碗・皿)22点、中世常滑陶器３点、中国磁器１点の26点出土した。

４基ともに、白瓷系陶器(碗・皿)が多くを占めていることから、いずれの遺構も中世後期のものと考えられる。

Ｃ63・Ｃ639・Ｃ642(第133図)

位置・検出状況　３基ともに、Ｅ17・Ｆ17グリッドにかけて位置し、Ⅳ層上面で検出した。土坑Ｃ63は、長軸2.80ｍ、短軸1.50ｍ、深さ0.19ｍを測り、平面形はやや長方形を呈している。検出面から皿状に掘り込み、底面はやや長方形を呈しながら平坦となる(ｃ～ｃ'層位参照)。埋土は２層である。

土坑Ｃ639は、長軸2.50ｍ、短軸1.80ｍ、深さ0.20ｍを測り、平面形は不定形を呈している。検出面から皿状に緩やかに掘り込み、底面は不定形を呈しながら平坦となる(ｃ～ｃ'層位参照)。埋土は単層である。

土坑Ｃ642は、長軸1.96ｍ、短軸1.00ｍ、深さ0.09ｍを測り、平面形は長方形を呈している。検出面から皿状に緩やかに掘り込み、底面は長方形を呈しながら平坦となる(ｆ～ｆ'層位参照)。埋土は単層である。

出土遺物・時期　土坑Ｃ63より、白瓷系陶器(碗・皿)24点出土した。土坑Ｃ639より、白瓷系陶器(碗・皿)25点、古瀬戸１点、常滑陶器１点など28点出土した。土坑Ｃ642より、白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)13点、古瀬戸１点、常滑陶器１点など16点出土した。

３基ともに、白瓷系陶器(碗・皿)が多くを占めていることから、遺構の時期は中世後期のものと考えられる。

Ｃ638・Ｃ85・Ｃ86（第133図）

位置・検出状況　３基ともに、Ｅ17・18、Ｆ17・18グリッドの中心部分に位置し、Ⅳ層上面で検出した。土坑Ｃ638は、長軸1.00ｍ、短軸0.80ｍ、深さ0.06ｍを測り、平面形は長方形を呈している。検出面から皿状に緩やかに掘り込み、底面はやや長方形を呈しながら平坦となる(ｄ～ｄ'層位参照)。埋土は単層である。

土坑Ｃ85は、長軸4.20ｍ、短軸2.60ｍ、深さ0.23ｍを測り、土坑Ｃ86に切られ、平面形は不定形である。検出面から皿状に緩やかに掘り込み、底面は不定形を呈しながら平坦となる(ｅ～ｅ'層位参照)。埋土は単層である。

土坑Ｃ86は、長軸2.14ｍ、短軸1.30ｍ、深さ0.11ｍを測り、平面形は長方形である。検出面から皿状に緩やかに掘りこみ、底面は長方形を呈しながら平坦となる(ｅ～ｅ'層位参照)。埋土は単層である。

出土遺物・時期　土坑Ｃ638より、出土遺物はなかった。土坑Ｃ85より白瓷系陶器(碗・皿・片口鉢)58点、古瀬戸２点、中世常滑陶器７点、土師器皿(非ロクロ)３点など71点出土した。土坑Ｃ86より、白瓷系陶器(碗・皿)９点、中世常滑陶器２点、土師器皿(非ロクロ)１点の12点出土した。２基から、白瓷系陶器(碗・皿)や非ロクロの土師器皿が出土していることから、遺構の時期は中世後期のものと考えられる。

Ｃ41（第134図）

位置・検出状況　Ｆ16グリッドに位置し、北側は試掘トレンチによって切られ、Ⅳ層上面で検出した。長軸1.10ｍ、短軸0.90ｍ、深さ0.17ｍを測り、平面形は不定形である。検出面から皿状に緩やかに掘り込み、底面は平坦となる。埋土は単層である。本土坑内から古瀬戸の折縁深皿が出土した。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）３点、古瀬戸１点の４点出土した。そのうち、古瀬戸（折縁深皿・番号928）を図示した（第196図）。出土遺物・遺構の切り合いから、遺構の時期は中世後期のものと考えられる。

Ｃ200（第134図）

位置・検出状況　Ｇ20・21グリッドに位置し、Ｃ202・Ｃ627・Ｃ628・Ｃ635を切った状態で、Ⅳ層上面で検出した。長軸2.26ｍ、短軸1.30ｍ、深さ0.30ｍを測り、平面形は正方形を呈している。検出面から緩やかに掘り込み、底面はやや凹凸があり、ほぼ方形状を呈している。埋土は、単層で灰色粘土が混じっていた。若干しまりがあるものの、Ｅ地区でみられたような土間状遺構のしまりまでには至らなかったことや、ＳＨ22の敷地内の可能性が低いことから、土間状遺構とは判断できなかった。本遺構の北側にはＳＨ22が存在し、建物跡と関連した土坑であったかもしれない。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）30点、中世常滑陶器２点など39点出土した。そのうち、白瓷系陶器（碗・片口鉢・番号936・937）の２点を図示した（第196図）。出土遺物・遺構の切り合いから、本遺構は中世後期のものと考えられる。

Ｃ629（第134図）

位置・検出状況　Ｇ21グリッドに位置し、Ｃ635を切り、Ｃ199・Ｃ203に切られた状態で、Ⅳ層上面で検出した。長軸1.70ｍ、短軸0.54ｍ、深さ0.08ｍを測り、平面形は楕円形を呈している。検出面から碗状に掘り込み、底面は平坦となる。埋土から、非ロクロの土師器皿や白瓷系陶器の碗が出土した。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）５点、中世常滑陶器３点、土師器皿（非ロクロ）１点、の９点出土した。そのうち、白瓷系陶器（碗・番号1073）と土師器皿（非ロクロ・番号1072）の２点を図示した（第202図）。出土遺物・遺構の切り合いから本遺構の時期は、中世後期のものと考えられる。

Ｄ41（第135図）

位置・検出状況　Ｃ22グリッドに位置し、Ｄ40・Ｄ37を切った状態で、Ⅳ層上面で検出した。長軸1.06ｍ、短軸0.83ｍ、深さ0.17ｍを測り、平面形は楕円形を呈している。検出面から皿状に緩やかに掘り込み、底面は平坦となる。埋土から、和鋏らしき鉄製品・近世陶器・瓦が出土した。性格は、不明である。

出土遺物・時期　白瓷系陶器（碗・皿）８点、瀬戸美濃連房３点、近代陶磁器２点の13点出土した。いずれも破片状態で出土したたため、図示を略した。出土遺物・遺構の切り合いから、本遺構は近世後期から近代にかけてのものと考えられる。

Ｄ46・47・48（第135図）

位置・検出状況　３基ともにＣ21グリッドに位置し、Ｄ46はＤ47を切りＤ48に切られた状態で、Ｄ47は、Ｄ46・Ｄ48に切られた状態で、Ｄ48は、Ｄ46・Ｄ47を切った状態で、ともにⅣ層上面で検出した。 土坑Ｄ46は、長軸1.33ｍ、深さ0.06ｍを測り、平面形は隅丸方形を呈している。検出面から皿状に緩やかに掘り込み、底面はやや長方形を呈しながら平坦となる（ｂ～ｂ’、ｃ～ｃ’層位参照）。埋土は単層である。土坑Ｄ47は、長軸1.20ｍ、短軸0.59ｍ、深さ0.39ｍを測り、平面形は不定形を呈している。検出面から、やや急に掘り込み、底面はやや尖った状態となる（ｂ～ｂ’層位参照）。埋土は単層である。土坑Ｄ48は、長軸1.85ｍ、短軸0.63ｍ、深さ0.13ｍを測り、平面形は隅丸方形を呈している。検出面から皿状に緩やかに掘り込み、底面は平坦となる（ｃ～ｃ’層位参照）。埋土は単層である。性格は不明である。

出土遺物・時期　Ｄ46・Ｄ48より、白瓷系陶器（碗・皿）７点など８点出土した。出土遺物から、本遺構の時期は中世後期のものと考えられる。

Ｂ150・Ｂ328・Ｂ466・Ｂ171・Ｂ176・Ｂ469・Ｂ177（第136図・写真図版25）

位置・検出状況　７基は、Ｄ17・18グリッドにかけて位置し、東西に並びながらⅣ層上面で検出した。Ｂ150をはじめ、どれも長軸およそ２～３ｍ、短軸１～1.5ｍ程の長方形を呈した方形土坑である。深さはほぼ0.2ｍを測る。検出面からほぼ垂直に浅く掘り込み、底面は平坦となる（ａ～ａ’層位参照）。埋土は単層である。

出土遺物・時期　土坑Ｂ171より、白瓷系陶器（碗・皿）19点、中世常滑陶器１点、土師器皿３点の23点出土した。土坑Ｂ176より、白瓷系陶器（碗・皿）21点、瀬戸美濃連房１点の22点出土した。

土坑Ｂ177より、灰釉陶器１点、白瓷系陶器（碗・皿・片口鉢）92点、中世常滑陶器１点、土師器皿９点の103点出土した。土坑Ｂ328より、須恵器１点、白瓷系陶器（碗・皿）28点、中世常滑陶器２点、土師器皿２点、瀬戸美濃連房３点の36点出土した。土坑Ｂ467より、白瓷系陶器（碗）１点出土した。

７基の中で５基の土坑から、遺物を出土したが、どれも白瓷系陶器（碗・皿）が多くを占めていることから、遺構の時期は中世後期のものと考えられる。

第4表　遺構一覧

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（清）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
A	1	SD	Q36·37 P38～40 O40～43 N43·44	(1600)	95	40	N76°E	>9·225 <50·147·185	F65
A	3	P	Q36	16	12	19	円　形	—	
A	4	P	Q36	18	18	23	円　形	—	
A	9	SK	Q37	(150)	140	15	不定形	<1	
A	10	SK	Q38	108	62	12	不定形	—	
A	11	SD	R36	(610)	170	36	N15°W	>134 <12·14·95	
A	12	SK	R37	93	80	55	不定形	>11 <13	
A	13	P	R37	(40)	26	20	不定形	>12	
A	14	P	R37	38	32	13	円　形	>11	
A	15	P	R37	18	18	11	円　形	—	
A	16	P	R37	18	18	25	円　形	—	
A	17	P	R37	18	14	19	楕円形	—	
A	18	P	R37	28	18	20	楕円形	—	
A	19	P	R37	24	22	21	円　形	—	
A	20	SD	R37	(270)	24	4	N15°W	<21·153	
A	21	P	R37	58	40	29	N15°W	>20	
A	22	P	R37	30	24	12	円　形	—	
A	23	P	R38	22	(18)	10	不定形	—	
A	25	P	R38	(46)	40	22	不定形	—	
A	26	P	R38	20	20	6	円　形	—	
A	27	SK	R38	80	77	30	不定形	>138	
A	28	SK	R38	68	30	10	不定形	—	
A	29	P	R38	30	30	11	円　形	—	
A	31	P	R38	54	54	37	不定形	—	
A	32	P	R39	40	30	22	不定形	—	
A	34	P	Q39·R39	38	22	23	不定形	>134	
A	35	P	Q40	42	34	71	楕円形	<134	
A	36	SK	Q40	62	48	14	不定形	>134	
A	38	P	R39	20	18	13	円　形	—	
A	42	P	P38	38	32	15	楕円形	—	
A	43	P	P38	32	32	20	楕円形	—	
A	44	SK	P38	70	50	32	楕円形	—	
A	45	SK	P39	68	48	32	不定形	—	
A	46	P	P39	42	30	69	不定形	—	
A	47	P	P40	50	44	12	不定形	>48	
A	48	SK	P40	(196)	76	17	不定形	<47·118	
A	50	P	P40	50	40	9	楕円形	>1	
A	53	SX	Q41	110	76	38	不定形	—	
A	55	SK	Q42	76	76	32	不定形	—	
A	58	P	P43	30	30	12	楕円方形	—	
A	59	SK	P43	96	70	37	不定形	—	
A	60	P	P43	48	38	12	不定形	—	
A	61	P	P43	44	28	11	楕円形	—	
A	63	P	P44	28	20	13	不定形	—	
A	64	P	P44	34	34	24	不定形	—	
A	65	P	P44	50	38	32	不定形	>171	
A	67	SK	P44	64	50	23	円　形	—	
A	68	P	O44	52	50	35	楕円形	—	
A	69	P	O44	(50)	40	22	不定形	—	SA2
A	71	P	O43	30	30	10	不定形	—	
A	72	P	O43	20	20	18	円　形	—	
A	74	P	O43	30	18	10	不定形	—	
A	75	P	O43	28	18	12	楕円形	—	
A	76	P	O43	38	28	19	楕円形	—	
A	77	P	P42	56	36	21	不定形	—	SA1
A	78	P	P42	50	40	31	不定形	—	SA1
A	79	P	R38·Q38	50	45	15	円　形	<134	
A	81	P	P43	30	28	63	楕円形	—	
A	82	SK	P43	70	28	41	不定形	—	
A	83	P	P44	46	40	38	不定形	—	
A	84	P	P43	48	38	31	不定形	—	
A	85	P	Q37	50	39	10	楕円形	<95	
A	86	P	Q38	28	22	20	不定形	—	
A	87	P	Q39	50	48	46	楕円形	>217 <201	
A	88	SD	P39	(158)	66	5	N10°W	<95·186	
A	89	P	P43	50	38	39	不定形	—	SH2
A	90	P	P43·44	56	56	23	楕円形	—	SH2
A	91	P	P43	40	40	68	円　形	>124	
A	92	P	P43	—	—	30	—	—	
A	93	SK	O43·P43	80	60	42	楕円形	—	SH2
A	94	P	P43	30	20	27	楕円形	—	
A	95	SD	Q36～39 P39～41	(800)	90	30	N63°E	>11·47·85·88·105·202 <118·183	
A	96	P	Q38	40	36	10	楕円形	<134	
A	97	P	Q38	48	26	20	不定形	<134	
A	98	P	Q38	26	20	30	不定形	<134	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
A	99	P	Q38	48	48	32	円　形	>134	
A	100	P	Q38	28	26	33	楕円形	—	
A	101	P	Q38·R38	28	20	36	楕円形	—	
A	102	P	R38	48	36	39	楕円方形	—	
A	103	P	Q39	(20)	(30)	12	楕円形	<221	
A	104	P	Q38·39	50	42	32	楕円形	—	
A	105	SK	Q38·39	192	160	32	楕円形	>180·181 <95	
A	106	P	Q39	40	28	12	楕円形	—	
A	107	P	Q39	44	29	26	楕円方形	—	
A	108	P	Q39	36	46	32	楕円形	—	
A	109	P	Q38·39	50	48	14	楕円形	—	
A	110	P	Q39	50	(48)	44	楕円形	<234	
A	112	P	Q40	40	32	52	楕円形	<134	SH1
A	113	P	Q39	40	38	10	楕円形	—	
A	114	P	Q39	40	32	47	楕円方形	>134	
A	115	P	Q39	32	28	28	円　形	—	
A	116	SD	O42～44	(1370)	75	13	N78°E	>92·125·139·173·190 206·238	F50
A	117	SP	O41·42	320	270	104	楕円形	—	
A	118	SP	P39·40·O39·40 Q40	698	358	120	不定形	>48·95·134·196·282·232 <122	
A	119	SK	Q39	(60)	30	23	不定形	<220	
A	121	P	Q40	30	26	21	楕円形	—	
A	122	SK	Q41	96	60	64	不定形	>118	
A	123	SD	O41·42· P41· 42 Q42	(1370)	60	9	N10°W	<177	
A	124	SK	P43	430	228	51	不定形	>130·131·132·165·166·175 176·215 <91·129·161·187	
A	125	P	O43	42	42	32	円　形	<116	SA2
A	127	P	P43	30	30	25	楕円形	—	
A	129	P	P43	56	50	13	不定形	>124	
A	130	P	P43	40	38	5	楕円形	<124·131	
A	131	P	P43	28	26	8	楕円形	>130 <124	
A	132	P	P43	50	44	22	円　形	<124	
A	133	SI	R36·37· S36·37	500	50	—	楕円形	—	
A	134	SD	R37·Q37～41	(760)	50	28	N80°E	>35·79·96·97·98·112·137·149 150·151·152·156·200·221·235 <11·34·36·99·114·118·155·236	
A	136	SK	P44	104	90	20	円　形	<174	
A	137	P	Q40	40	36	28	楕円形	<134	
A	138	SK	R37·38	200	112	22	不定形	>27·141 <142	
A	139	SD	N44·O44	(500)	50	3	N10°W	<116	
A	140	P	P44	40	32	24	楕円方形	—	
A	141	P	R37	48	40	33	円　形	<138	
A	142	P	R37	20	18	12	円　形	>138	
A	143	P	R38	32	28	13	楕円形	—	
A	144	SK	R38	65	50	32	不定形	—	
A	145	P	R38	24	(20)	37	楕円形	>146	
A	146	SX	R38	100	(20)	18	不定形	<145	
A	147	SD	P38·Q38	(260)	86	10	N10°W	>1 <95	
A	148	P	Q39	30	26	28	楕円形	—	SH1
A	149	P	Q39	38	30	35	不定形	>150 <134	
A	150	P	Q39	(35)	58	80	不定形	<134·149·150·151	SH1
A	151	P	Q39	34	(30)	7	楕円形	>150 <134	
A	152	P	Q39	44	38	30	楕円形	<134	
A	153	SK	R37	110	90	59	不定形	>20·179	
A	155	SK	Q40	72	50	34	不定形	>134	
A	156	P	Q39	72	48	44	不定形	<134	
A	158	SX	R38	110	60	40	不定形	>191	
A	159	P	P42	30	26	25	円　形	—	
A	160	P	P42	54	32	34	不定形	—	SA1
A	161	P	P42	50	38	64	楕円形	>166 <124	
A	162	P	P44	32	32	14	楕円方形	—	
A	163	P	P44	50	34	76	楕円形	>173	F231
A	164	P	P44	54	40	25	楕円形	<213	SH2
A	165	P	P43	40	30	20	楕円形	<124	
A	166	P	P42	(20)	20	11	円　形	<124·161	
A	167	P	P43	64	(10)	43	不定形	—	
A	168	P	P44	50	40	55	不定形	>214	
A	169	P	P44	—	—	12	—	—	
A	170	P	P44	—	—	4	—	—	
A	171	P	P44	30	(20)	11	不定形	<65·172	
A	172	P	P44	32	30	49	楕円形	>171·214	
A	173	SD	N44·P44· O44	(660)	50	5	N15°W	>195 <116·163	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
A	174	P	O44·P44	46	44	43	楕円方形	>136	
A	175	SK	P43	60	28	8	不定形	<124	
A	176	P	P43	20	20	33	円　形	<124	
A	177	SI	P41·42 ·Q41·42	190	126	110	不定形	>123·178	
A	178	P	Q42	20	18	10	円　形	<177	
A	179	P	R37	28	18	31	楕円形	<153	
A	180	P	Q38	40	38	61	円　形	<105	SH1
A	181	P	Q38	22	22	17	円　形	<105	
A	182	SK	R39	162	(35)	10	不定形	—	
A	183	P	P39	26	24	52	円　形	>95	
A	184	P	P39	30	28	11	円　形	—	
A	185	P	P39	33	30	24	楕円形	>1	
A	186	P	P39	20	18	17	円　形	>88	
A	187	P	P43	50	50	35	不定形	>124	SH2
A	188	P	P43·44	34	30	39	不定形	—	
A	189	SK	P44	60	50	18	不定形	—	
A	190	P	O43	30	26	26	楕円形	<116	
A	191	P	R38	38	20	40	楕円形	<158	
A	192	P	O42	40	38	40	円　形	<116	SA2
A	193	P	O44	48	38	31	不定形	—	
A	194	P	O43·44	58	58	37	不定形	—	
A	195	SK	O44	60	42	26	不定形	<173	SH2
A	196	P	Q40	30	28	18	楕円形	<118	
A	197	P	Q40	—	—	18	—	—	
A	198	P	Q40	32	24	25	楕円形	—	
A	199	P	Q39	38	32	34	円　形	—	
A	200	P	Q39	58	30	24	不定形	<134	
A	201	P	Q39·40	50	(20)	30	不定形	>87 <217	
A	202	P	Q38	54	30	20	不定形	<95	
A	203	P	Q40	54	48	15	楕円形	—	
A	204	P	Q40	42	24	14	不定形	—	
A	206	P	O42	40	36	20	円　形	<116	SA2
A	207	P	N44	28	28	20	楕円形	—	
A	208	P	Q42	30	24	18	楕円形	—	
A	209	P	P42	38	30	36	不定形	—	
A	210	P	P42	48	40	33	不定形	—	
A	211	SK	P42	80	52	41	不定形	—	
A	212	P	P43	28	24	24	円　形	—	
A	213	SK	P44	60	(38)	7	不定形	>164	
A	214	P	P44	50	36	32	不定形	<168·172	
A	215	P	P43	40	30	8	不定形	<124	
A	216	P	O42	26	22	16	円　形	—	
A	217	P	Q39	20	11	30	不定形	>201	
A	218	P	Q39	42	38	76	楕円形	—	
A	219	P	Q39	50	48	43	不定形	—	
A	220	P	Q39	36	(30)	30	円　形	>119	
A	221	P	Q39	38	38	100	円　形	>103 <134	SH1
A	222	P	Q38	14	12	28	円　形	—	
A	223	P	Q38	16	16	35	円　形	—	
A	224	P	R38	20	16	36	円　形	—	
A	225	P	Q37	38	33	10	円　形	<1	
A	226	P	Q36	24	20	16	円　形	—	
A	227	P	P39	30	24	21	楕円形	—	
A	228	SE	O40·P40	124	116	268	円　形	<118	
A	229	P	Q40	34	30	16	円　形	—	
A	230	P	Q40	30	20	8	楕円形	—	
A	231	P	Q40	34	34	34	円　形	—	
A	232	P	Q40	40	40	40	楕円形	<118	SH1
A	233	P	Q39	20	20	16	円　形	—	
A	234	P	Q39	50	40	21	不定形	>110	
A	235	P	Q40	50	40	5	楕円形	<134	
A	236	P	Q40	46	40	34	楕円形	>134	
A	237	P	P43	52	28	28	楕円形	—	
A	238	P	O42	50	40	12	楕円形	<116	
F	1	P	S52	28	24	15	円　形	—	
F	2	P	S51	26	26	20	円　形	—	
F	3	P	S51	26	26	12	円　形	—	
F	4	P	S51·T51	56	36	55	不定形	—	
F	5	P	S51	(40)	32	46	円　形	>16	
F	6	P	S51	40	30	54	楕円形	>16	
F	8	P	S50·51	38	28	24	円　形	—	
F	9	P	S50	(18)	18	45	円　形	—	
F	10	P	S50	44	22	53	不定形	—	
F	11	P	S50	34	32	50	楕円形	—	
F	12	P	S50	30	20	40	楕円形	—	
F	13	P	R51	38	30	16	楕円形	—	
F	14	P	R52	50	40	19	楕円形	—	
F	15	SD	Q52·R52	(520)	70	14	N20°E	<50	
F	16	SD	S51	(280)	48	12	N25°E	<5·6	
F	17	SK	Q51·52	60	50	16	楕円形	—	
F	19	P	Q51	42	30	17	楕円形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
F	21	P	Q51	52	40	15	楕円形	—	
F	22	P	Q51	44	44	14	楕円形	—	
F	23	P	Q51	54	20	28	楕円形	—	
F	24	P	Q51	30	24	18	楕円形	>25	
F	25	P	Q51	40	30	21	楕円形	<24	
F	27	P	Q51	40	30	20	不定形	—	
F	30	P	R49	31	30	43	円　形	>54	
F	31	P	S50	40	(28)	11	正方形	—	
F	34	SE	P51	136	130	160	円　形	—	
F	35	P	O51	26	26	21	円　形	—	
F	36	P	O50	42	36	9	楕円形	—	
F	37	SK	O50	146	120	39	楕円形	—	
F	39	P	N50	36	36	18	円　形	—	
F	40	P	L50	30	34	12	楕円形	—	
F	41	SK	M51·N51	60	50	25	楕円形	—	
F	44	P	O50	50	50	26	楕円形	—	
F	46	P	R50·51	40	38	13	楕円形	—	
F	47	SK	S49·50	(98)	70	46	不定形	—	
F	48	P	S51	40	24	40	不定形	—	
F	50	SD	O44·45·50 N45～50 M48·49·P50 Q50·51·R51·52	(WE 2500) (SN 3000)	200	43	N73°E N25°W	>15·63·70·128·129·351·362 364 <176·206·233·363·379·406	A116
F	51	P	S52	34	30	36	楕円形	—	
F	52	P	S51·52	40	38	13	楕円形	—	
F	53	P	S51	30	24	12	円　形	—	
F	54	SD	R49～51 S51·52·T52	(2200)	170	21	N65°W	>110·174·261·316·325·326 327·356·358 <30·105·297·317·330	
F	55	P	M49	50	40	42	楕円形	—	
F	56	P	L50	30	26	12	楕円形	—	
F	57	P	M50	42	34	9	楕円形	—	
F	58	SK	M51	74	70	41	楕円形	—	
F	59	P	M50	50	42	36	楕円形	—	
F	60	SK	M50	60	50	29	楕円形	—	
F	61	P	M50	50	40	12	楕円形	—	
F	62	SK	O50	86	80	10	楕円形	<63	
F	63	SK	O50	106	(76)	13	楕円形	>62 <50	
F	64	SK	N48·49· O48·49	(360)	(150)	11	不定形	>128·258·382 <136·137·295·334	
F	65	SD	M45～48 L48～50 N44·45	(3700)	(300)	100	N70°E	>203 <206・375・406	A1
F	69	P	R50	30	16	24	不定形	—	
F	70	SD	P50 Q50·51 R50～52 S52·T52	(3700)	(200)	40	N30°W	<50·105·176·177	
F	72	P	S50	38	24	19	長方形	—	
F	74	P	P50	54	50	9	楕円形	—	
F	76	P	O49	30	20	21	楕円形	—	
F	77	SK	O49	60	40	20	楕円形	—	
F	78	P	O49	40	28	74	楕円形	—	
F	80	P	O49	40	30	16	楕円形	—	
F	81	P	O49	60	50	96	楕円形	—	SH6
F	82	P	O48	110	70	43	不定形	—	SH5
F	89	SK	M48	100	80	19	不定形	—	
F	91	SK	M48	66	58	11	楕円形	—	
F	93	P	O48	40	40	37	円　形	—	
F	96	P	O48	40	38	53	楕円形	—	
F	97	SK	O47·48	60	60	18	楕円形	>274	
F	98	P	O47·48	44	38	11	不定形	—	
F	99	P	O47·48	70	58	44	楕円形	—	SH4
F	100	P	O48	56	54	37	楕円形	—	
F	102	P	O47	38	38	14	楕円形	—	
F	103	P	N46	40	36	20	不定形	—	
F	104	P	S50	42	42	31	不定形	—	
F	105	SK	T52	(210)	(140)	22	楕円形	>54·70	
F	107	P	S50	42	36	61	不定形	—	
F	108	SK	S49	60	40	19	不定形	—	
F	110	P	R49	40	30	12	楕円形	<54	
F	111	P	M49	46	28	14	不定形	—	
F	113	P	M49	40	30	11	楕円形	—	
F	115	P	P49	36	30	33	不定形	—	
F	116	P	P49	40	38	16	円　形	—	
F	117	SK	P49	66	48	38	不定形	—	
F	118	P	P49	20	20	13	円　形	—	
F	119	P	P49	30	30	14	円　形	—	
F	121	P	P49	34	32	32	楕円形	—	
F	123	SK	P49	68	60	14	楕円形	—	
F	124	SK	P49	60	50	11	不定形	—	
F	125	SK	P48·49 Q48·49	106	100	12	不定形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
F	128	SD	N47～49 O47～50	(WE 1150) (NS 950)	120	23	N68°E N15°W	>269·294·321·335·370·371·372 373·374·383·384·385·386 387·396·399 <50·64·176·181·182·183 243·244·283·284·285 286·334	
F	129	SK	Q51	(85)	(46)	15	不定形	<50	
F	131	SK	N46	60	50	13	楕円形	—	
F	132	SD	Q49·50 R49·50	420	300	14	N35°E	>360·365 <175	
F	134	SE	Q48·49	230	188	188	隅丸方形	>308・312	
F	135	P	N49	34	20	11	楕円形	—	
F	136	P	N49	48	46	49	円　形	>64	SH6
F	137	P	O48	40	40	22	楕円形	>64	
F	138	P	O48	40	(20)	28	不定形	<139	
F	139	P	O48	40	30	28	不定形	>138	
F	141	P	N48	50	48	70	不定形	—	SH6
F	142	P	N48·O48	50	44	66	楕円形	—	SH5
F	144	P	O48	38	30	33	楕円形	—	
F	145	P	O48	40	38	62	楕円形	—	
F	146	SD	P47·48·Q47	(200)	120	10	N20°W	>245·259·268·300·340·343 344·347·352· 389·390 <178·267·370·397	
F	147	P	P48	60	60	32	不定形	—	SH4
F	148	P	P48	36	36	14	円　形	—	
F	149	P	P48	40	40	19	円　形	—	
F	150	SK	P46	146	144	36	楕円形	>166	
F	151	SE	P45	190	130	400	楕円形	—	
F	153	P	O49	22	20	14	楕円形	—	
F	154	SK	O49	68	36	21	不定形	—	
F	156	SK	P48	80	66	18	円　形	—	
F	157	SK	O48	110	80	11	不定形	—	
F	159	P	O48	24	24	19	円　形	—	
F	160	SK	O48	70	70	14	不定形	—	
F	161	SK	O48	60	58	11	円　形	—	
F	162	SD	P49	(330)	51	6	N15°W	<163·175·267·370	
F	163	SK	P49	64	40	20	N30°W	>162	
F	164	P	P49	40	38	31	N15°W	—	
F	165	SD	P46·Q46	(290)	38	7	N30°W	<166	
F	166	SD	P45～47 Q46·47	(956)	220	14	N15°W	>165·380 <150·315	
F	167	SD	P47·Q47	(170)	110	13	N70°E	<335	
F	168	P	Q48	30	30	9	円　形	—	
F	170	SK	P49·Q49	64	40	20	長方形	—	
F	171	SK	P48·49	248	66	8	不定形	—	
F	172	P	P48	54	50	48	楕円形	—	
F	173	SK	Q48	90	28	18	不定形	—	
F	174	SD	R50	(290)	(230)	26	N80°W	<54·320	
F	175	SP	P49·50 Q49·50	410	340	55	正方形	>132·162 <367	
F	176	SD	O50·P50	(210)	116	15	N60°E	>70·50·128·268 <370	
F	177	SK	P50	60	34	14	楕円形	>70	
F	178	SK	O49	70	64	13	楕円形	>146 <272	
F	179	P	O49	38	38	62	楕円形	<193	
F	181	P	O47	58	56	14	不定形	>128	
F	182	SK	O47	70	58	16	楕円形	>128	
F	183	P	O47	50	50	36	楕円形	>128	
F	185	SK	O47	60	40	35	不定形	—	SH4
F	186	P	O46	50	50	45	楕円形	—	
F	187	SK	O46·47	68	60	11	楕円形	—	
F	191	P	O46	50	48	28	楕円形	—	
F	192	SK	O46	64	(50)	41	楕円形	<196	SH3
F	193	SK	O49	290	98	9	不定形	>179·245 <242·244	
F	195	P	O46	56	40	27	不定形	—	
F	196	P	O46	40	30	42	不定形	>192	
F	197	P	O46	52	50	24	不定形	—	
F	199	P	O45·46	38	50	32	楕円形	—	SH3
F	200	SK	O46	(60)	44	11	楕円形	—	
F	202	P	O46	38	30	21	不定形	—	
F	203	SD	L50	(60)	50	6	N20°W	<65	
F	206	SD	N46	(190)	80	33	N10°W	>50·65	
F	211	SK	S51	142	90	15	長方形	>377	
F	212	SK	Q49	100	50	19	長方形	—	
F	213	SK	P47	70	68	13	不定形	>291	
F	215	SK	P46·47	68	60	21	楕円形	—	
F	216	P	O48·P48	46	34	39	楕円形	—	
F	217	P	O48	46	40	30	正方形	—	
F	218	P	O48	58	40	33	不定形	—	
F	219	P	N51	36	34	15	楕円形	—	
F	220	SD	P49·50	(260)	30	7	N15°W	<370	
F	221	P	Q49	34	34	58	円　形	>352	SH6

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
F	222	P	O49	22	20	46	楕円形	—	
F	223	SK	O48	70	54	10	楕円形	—	
F	224	P	P49	30	30	11	円　形	—	
F	225	SK	P48	82	46	37	不定形	>352	
F	226	P	P48	50	38	55	不定形	—	SH5
F	229	P	P47	38	38	33	円　形	—	
F	230	P	P48	36	34	42	正方形	—	SH4
F	233	SE	O50	210	188	252	円　形	>50	
F	238	P	P47	50	(40)	9	楕円形	—	
F	239	SK	O47 P47·48	150	80	6	長方形	>271	
F	242	P	O49	34	30	10	円　形	>193	
F	243	P	O49	54	50	41	円　形	>128	SH6
F	244	P	O49	52	50	40	円　形	>128·193	SH6
F	245	SK	O49	(126)	60	15	長方形	<146·193	
F	246	SK	S50	66	40	64	長方形	—	
F	248	SK	S50	70	44	22	不定形	—	
F	252	P	S51	28	28	50	楕円形	—	
F	253	P	S51	54	46	22	楕円形	—	
F	255	P	O46	40	34	30	不定形	—	
F	256	SK	N51	120	80	13	長方形	—	
F	258	P	N49	40	36	24	円　形	<64	
F	259	SK	P48	142	90	6	長方形	>344 <146	
F	260	P	P50	34	30	42	円　形	—	
F	261	P	R49	56	40	17	正方形	<54	
F	262	P	S50	28	24	13	楕円形	—	
F	263	P	S50	36	34	35	円　形	—	
F	264	P	S50·51	34	34	45	円　形	—	
F	267	P	P49	38	26	29	楕円形	>162·146 <370	
F	268	P	P50	40	(32)	37	円　形	<146·176·370	
F	269	P	O49	50	38	22	円　形	<128	
F	271	P	P47	30	24	17	楕円形	<239	
F	272	P	O49	28	20	13	円　形	>178	
F	273	P	O48	40	30	42	楕円形	—	
F	274	P	O48	50	46	58	楕円形	<97	SH5
F	275	P	Q49	34	30	20	楕円形	—	
F	276	P	Q47	40	28	25	楕円形	—	
F	277	P	Q48	34	26	29	楕円形	—	
F	278	P	P47	44	40	24	楕円形	—	SH4
F	279	SK	P47·48	70	50	22	不定形	—	
F	281	SK	P48	70	28	15	長方形	—	
F	283	SK	N48	90	56	32	楕円形	>128	
F	284	P	O48	50	48	29	楕円形	>128	
F	285	P	O47·48	42	40	42	円　形	>128	
F	286	P	O47	50	50	50	楕円形	>128	SH5
F	287	P	O48	30	28	37	不定形	—	
F	289	P	P47	38	38	13	円　形	—	
F	290	P	P47	48	34	30	楕円形	—	SH4
F	291	P	P47	(30)	30	8	不定形	<213	
F	293	P	O46	50	40	20	楕円形	—	SH4
F	294	P	N47·O47	42	40	26	楕円形	<128	SH4
F	295	P	N48	30	28	58	円　形	>64	
F	296	P	N48	20	16	15	楕円形	—	
F	297	P	R48·49	40	40	22	円　形	>54	
F	299	P	O48	36	20	13	不定形	—	
F	300	SK	R48·Q48	(80)	(70)	20	不定形	<146	
F	301	P	Q48	40	34	34	不定形	—	
F	302	P	Q48	50	28	27	不定形	—	
F	303	P	R48·Q48	56	46	12	不定形	—	
F	304	P	R48	26	26	26	円　形	—	
F	305	P	R48	30	28	16	円　形	—	
F	306	P	R48	34	(28)	20	円　形	—	
F	307	P	R48	56	34	22	楕円形	—	
F	308	SK	Q48·R48	(90)	50	14	長方形	<134	
F	310	P	Q49·R49	34	24	9	楕円形	—	
F	311	P	Q48	(28)	28	10	円　形	—	
F	312	SK	Q48	(56)	50	21	長方形	<134	
F	313	P	O45	44	42	12	楕円形	<380	
F	314	P	O45·P45	58	46	55	楕円形	<380	SH3
F	315	SK	P45	140	128	12	不定形	>166·353·380	
F	316	P	R49	40	34	67	楕円形	<54	
F	317	P	R50	28	24	8	楕円形	>54	
F	318	P	R50	40	40	38	円　形	—	
F	319	P	R50	28	24	12	円　形	—	
F	320	P	R50	24	18	23	不定形	>174	
F	321	SK	N47	60	50	11	楕円形	<128	
F	322	P	O47	24	24	24	楕円形	—	
F	324	SK	O51	100	98	31	楕円形	—	
F	325	P	S51	30	28	14	楕円形	<54	
F	326	P	S51	26	26	13	楕円形	<54	
F	327	P	S51	50	38	12	円　形	<54	
F	330	SP	R49	150	(90)	100	不定形	>54	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
F	333	P	O48	50	48	50	円形	—	SH5
F	334	SK	N49	62	62	34	円形	>64·128	SH6
F	335	P	P47	50	44	45	楕円形	>167 <146	SH4
F	337	P	Q47	46	38	9	楕円形	—	
F	340	SK	P49	196	160	14	正方形	>146·341·352·394	
F	341	P	P49	56	54	50	円形	<340	
F	343	P	P48	40	34	23	楕円形	<146·352	
F	344	P	P48	34	36	11	楕円形	<146·259	
F	345	SK	R52	(120)	70	62	長方形	—	
F	347	P	P47	20	20	21	円形	<146	
F	349	P	O46	30	26	21	不定形	—	
F	350	SK	O46	60	50	45	楕円形	—	SH3
F	351	P	O45	50	50	35	円形	<50	SH3
F	352	SK	O48·49 P48·49	470	296	12	不定形	>343·393·395·400·409 <146·221·225·340	
F	353	SK	O45·P45	340	174	14	長方形	<315	
F	354	P	O44	44	40	32	楕円形	—	
F	355	P	O47	50	50	26	不定形	—	
F	356	P	S51	42	30	28	楕円形	<54	
F	358	P	S52	30	26	25	楕円形	<54	
F	360	P	Q49	22	22	20	円形	<132	
F	361	P	O45	50	46	35	楕円形	—	
F	362	P	O45	40	30	18	楕円形	<50	SH3
F	363	P	O45	30	16	14	不定形	>50	
F	364	P	N46	50	50	38	円形	<50	SH3
F	365	P	R49·50	34	30	24	楕円形	<132	
F	366	SX	N44	(146)	90	—	不定形	—	
F	367	P	Q50	40	24	15	不定形	<175	
F	368	P	O45	40	30	29	楕円形	<380	
F	370	SE	O49·P49	170	150	120	円形	>146·162·176·220·267·268 <128	
F	371	P	N48	40	28	41	楕円形	<128	
F	372	P	N48	42	42	58	円形	<128	SH5
F	373	P	N48	40	28	21	円形	<128	
F	374	P	N47	40	36	21	不定形	<128	
F	375	SX	L51	98	(60)	30	楕円形	>65	
F	377	P	S51	34	34	48	円形	<211	
F	379	P	O46	28	20	30	不定形	>50	
F	380	SP	O45·46 P45·46	324	310	51	不定形	>313·314·368 <166·315	
F	382	P	O49·N49	20	20	23	円形	<64	
F	383	P	O49	34	30	20	不定形	<128	
F	384	P	N49	30	(28)	6	楕円形	>383 <128·384	
F	385	P	N47	50	40	33	楕円形	<128	SH5
F	386	SK	N47	66	54	30	不定形	<128	SH4
F	387	SK	N47·48	60	40	19	不定形	<128	
F	388	P	S51	38	30	38	円形	—	
F	389	P	Q47	26	(26)	53	楕円形	<146·390	
F	390	P	Q47	30	22	24	不定形	>389 <146	
F	393	P	P48	30	30	19	円形	<352	
F	394	P	P49	30	20	41	楕円形	<340	
F	395	P	O49	38	30	45	円形	<352	
F	396	SP	N49	168	84	54	不定形	<128	
F	397	P	O49	28	22	38	楕円形	>146	
F	398	P	O48	38	36	27	楕円形	—	
F	399	P	N48	30	26	27	円形	<128	
F	400	P	P48	24	24	29	楕円形	<352	
F	401	P	S50	30	14	30	楕円形	—	
F	406	SD	M47·N47	(250)	34	16	N15°W	>50·65·408	
F	408	SK	M47·N47	100	(50)	11	正方形	<406	
F	409	P	P48	38	34	53	楕円形	<352	
F	410	P	O45	42	40	45	楕円形	—	SH3
G	1	SD	K43·46·47 L43～46	(2250)	300	50	N70°E	<1·2·19·20·21	
G	2	SK	K46·47	204	68	23	不定形	>1·3·4	
G	3	SD	K46·47	(280)	68	11	N50°E	<2	
G	4	SD	J47·K46·47	(220)	30	8	N56°E	<2	
G	5	P	K46	44	29	16	楕円形	—	
G	6	P	J47	20	20	10	楕円形	<7	
G	7	SD	J46·47	(74)	21	9	N63°E	<8 >6	
G	8	SD	J46·47	(70)	40	15	N60°E	>7	
G	9	P	K44	29	23	17	楕円形	—	
G	10	SD	J46	(110)	33	6	N52°E	—	
G	11	P	J46	—	34	17	—	—	
G	12	SD	J46	(72)	31	7	N45°E	—	
G	13	P	K45	22	22	20	円形	—	
G	15	P	J46	52	29	7	楕円形	—	
G	16	SK	J46	—	—	8	—	—	
G	17	P	K46	42	32	28	楕円形	—	
G	18	SK	K45·46	159	104	17	隅丸方形	>19	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
G	19	SD	K46	(380)	70	16	N18°W	>1 <18	
G	20	SK	K45·L45	100	51	30	楕円形	>1	
G	21	SK	L45	79	75	31	不定形	>1	
G	22	SK	K45	81	19	9	楕円形	—	
G	23	SK	K45	80	46	25	楕円形	—	
G	24	P	K45	59	45	8	楕円形	—	
G	25	P	K45	54	47	10	楕円形	—	
G	26	P	J45·K45	35	25	41	楕円形	—	
G	27	SE	J44·45	264	200	154	円　形	>50·250 <28·33	
G	28	SK	J45	117	95	12	隅丸方形	>27	
G	29	P	J45	45	39	20	楕円形	—	
G	30	P	J45	43	30	32	楕円形	<32·33	
G	31	SD	J45	(100)	20	12	N65°E	>31	
G	32	P	J45	35	27	16	楕円形	>31	
G	33	P	J45	43	28	12	楕円形	>27	
G	34	P	J44	59	28	7	不定形	—	
G	35	P	J44	42	35	9	楕円形	—	
G	37	P	J44	49	41	50	楕円形	—	
G	38	P	J44	31	27	33	楕円形	—	
G	39	P	J44	39	31	69	楕円形	—	
G	40	P	J44	28	26	12	円　形	—	
G	41	P	J44	22	21	24	円　形	—	SH8
G	42	P	J44	42	34	43	楕円形	>43·44	
G	43	P	J44	39	—	39	—	>44 <42	
G	44	ST	J43·44	264	147	8	不定形	>272·276 <42·43·139	土間状
G	45	P	J46	—	—	10	—	—	
G	46	SK	J46	—	—	27	—	—	
G	48	P	J44	34	27	19	楕円形	—	
G	50	SK	J44·45·K44	260	82	7	不定形	<27·250	
G	51	P	L45	—	27	20	—	—	
G	52	P	L45	29	28	12	円　形	—	
G	53	SK	K44·45·L44·45	73	36	19	不定形	—	
G	56	P	K45	40	35	11	楕円形	—	
G	57	P	K44·45	27	26	12	円　形	—	
G	58	SK	K44	—	19	3	楕円形	<59	
G	59	SK	K44·45	71	27	12	楕円形	>58	
G	60	P	K44	38	20	11	楕円形	—	
G	61	P	K44	35	32	6	楕円形	—	
G	62	P	K44	27	26	6	円　形	—	
G	63	P	K44	—	28	32	円　形	<64	
G	64	P	K44	44	40	4	楕円形	>63	
G	66	P	K44	26	23	15	円　形	—	
G	67	P	K44	40	34	11	楕円形	—	
G	68	SK	K44·45	74	70	23	隅丸方形	—	玉石あり
G	69	P	K44	40	26	67	楕円形	>70	
G	70	SK	K44	—	75	7	隅丸方形	<69	
G	71	P	K44	24	24	10	円　形	—	
G	72	P	K44	24	24	10	円　形	—	
G	73	P	K44	28	22	19	楕円形	>74	
G	74	P	K44	—	35	6	楕円形	<73	
G	75	P	K44	22	17	9	楕円形	—	
G	76	P	K44	25	20	22	楕円形	—	
G	77	P	K44	28	23	17	楕円形	—	
G	78	P	K44	24	23	23	円　形	—	SH8
G	79	SK	K44	132	110	21	楕円形	—	
G	80	P	K44	30	28	18	円　形	—	
G	81	SK	K44	100	77	40	楕円形	—	玉石あり
G	82	P	K44	50	35	11	不定形	—	
G	83	P	K44	47	39	32	楕円形	—	
G	85	P	K44	40	32	14	楕円形	—	
G	86	SK	K44·L44	134	75	14	楕円形	>87·88	
G	87	P	L44	40	—	21	楕円形	<86	
G	88	P	L44	—	—	8	楕円形	<86	
G	89	SK	K44	94	72	11	楕円形	—	
G	90	SK	K44	108	68	10	楕円形	<284	
G	91	P	K44	50	42	8	楕円形	—	
G	92	P	K44	34	32	20	円　形	—	SH8
G	93	SK	J44	122	118	11	不定形	<280	
G	94	P	J44	54	53	29	円　形	—	SH7
G	95	P	J44	34	26	10	楕円形	—	
G	96	P	J44	26	26	20	円　形	—	
G	97	P	J44	24	15	25	楕円形	—	
G	98	P	J44	20	17	16	円　形	—	
G	99	SK	I44·J44	61	38	7	不定形	—	
G	100	P	I44	30	22	17	楕円形	—	
G	101	P	I44	19	18	14	円　形	—	
G	102	P	I44	28	26	28	楕円形	—	
G	103	P	K43·44	36	30	38	楕円形	—	
G	104	SK	K43	96	72	15	隅丸方形	<105	
G	105	P	K43	34	34	19	円　形	>104	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
G	106	P	K43	27	22	22	楕円形	>107	
G	107	P	K43	55	37	8	不定形	>108 <106	
G	108	SK	K43	110	—	16	楕円形	<107	
G	109	SK	K43	94	88	10	不定形	—	
G	110	P	K43	—	18	15	楕円形	<111	
G	111	P	K43	36	33	49	楕円形	>110·112	
G	112	P	K43	—	15	20	楕円形	<111	
G	113	P	K43	24	21	37	円　形	—	
G	114	P	K43	33	28	34	楕円形	>115·116	
G	115	P	K43	—	22	22	楕円形	<114	
G	116	P	K43	26	—	9	楕円形	<114·117	
G	117	SK	K43	90	—	7	隅丸方形	<119	
G	119	P	K43	42	34	33	楕円形	>117	
G	120	P	K43	23	19	7	楕円形	—	
G	121	P	K43	40	30	22	楕円形	—	
G	122	P	K43	45	30	26	楕円形	—	SH8
G	123	P	K43	34	33	47	円　形	—	SH8
G	124	P	K43	24	18	12	楕円形	—	
G	125	SK	K43	70	62	15	楕円形	—	
G	126	P	K43	33	30	22	楕円形	—	
G	128	P	K43	27	24	8	楕円形	—	
G	129	P	J43	—	15	16	楕円形	<130	
G	130	P	J43	32	23	44	楕円形	>129	
G	131	P	J43	55	52	13	楕円形	—	
G	132	P	J43	38	28	13	楕円形	—	
G	133	P	J43	28	24	34	楕円形	—	
G	134	P	J43	33	31	31	円　形	>135	
G	135	P	J43	—	70	16	円　形	<134	
G	136	P	J43	—	32	33	不定形	<137	SH8
G	137	P	J43	24	23	5	円　形	>136	
G	139	SK	J43	158	15	9	不定形	>44	
G	142	P	J43	36	—	42	—	<143	
G	143	P	J43	46	38	59	円　形	>142	
G	145	P	J43·K43	30	22	22	円　形	—	
G	148	P	J43	24	24	24	円　形	>149	
G	149	P	J43	—	28	7	—	<148·150	
G	150	P	J43	52	52	43	円　形	>149·151·243	SH7
G	151	P	J43	—	32	12	円　形	<150	
G	152	P	J43	—	28	28	楕円形	<153·281	SH8
G	153	P	J43	30	—	26	楕円形	<152	
G	154	P	J43·K43	42	32	18	円　形	—	SH8
G	155	P	J42·43	40	30	20	円　形	—	
G	158	P	J42·43	40	34	15	円　形	>159	SH8
G	159	P	J42	—	30	10	円　形	<158·160	
G	160	P	J42	36	36	23	円　形	>159	
G	161	P	J42·43	30	26	28	円　形	—	
G	162	P	J43	34	30	13	円　形	—	SH8
G	163	P	J43	30	26	28	円　形	—	
G	164	P	J43	30	28	16	円　形	—	SH8
G	165	SK	J43	—	24	12	楕円形	—	
G	166	SK	J43	84	26	12	楕円形	—	
G	167	P	J43	18	16	11	円　形	—	
G	169	P	J43	24	16	10	円　形	—	
G	170	P	J43	30	26	42	円　形	—	
G	171	P	J43	30	26	20	円　形	—	
G	172	P	I43·J43	36	22	13	円　形	>186	
G	173	P	J43	38	26	12	円　形	—	
G	175	P	J43	40	28	11	楕円形	—	
G	176	P	J43	34	—	19	楕円形	—	
G	177	P	J43	25	—	14	円　形	<178	
G	178	SK	I43·44·J43·44	162	50	8	不定形	>177·179	
G	179	P	I43·J43	50	50	23	円　形	>180 <178	SH7
G	180	P	I43	22	—	20	円　形	<179	
G	182	SK	I43·J43	132	80	33	楕円形	—	玉石あり
G	184	P	I43	18	18	14	円　形	—	
G	185	P	I43	38	28	16	円　形	>186	
G	186	SD	I43·J43	(430)	50	25	N66°E	<172·185·189·268	
G	187	P	I42·43	50	46	25	円　形	—	SH7
G	188	P	I43	40	40	28	円　形	—	
G	189	P	I43	50	50	45	円　形	>186	SH7
G	190	SD	I43	(520)	28	33	N65°E	<191·192·262·283	
G	191	P	I42·43	30	28	23	円　形	>190	
G	192	P	I43	24	24	20	円　形	>190	
G	193	SD	I42·43	568	30	17	N68°E	—	
G	194	P	I42·43	36	26	42	円　形	—	
G	195	SD	I42·43	(630)	21	29	N68°E	>260·261·263·264·267	
G	196	SD	I43	600	22	22	N67°E	>265 <197	
G	197	P	I43	28	26	12	円　形	>196	
G	198	P	I43	24	24	12	円　形	—	
G	199	P	I43	30	20	19	円　形	—	
G	200	P	I42	54	30	12	楕円形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
G	201	SK	I43	60	30	10	楕円形	—	
G	202	SK	H43·I43	52	24	8	楕円形	—	
G	203	P	I43	20	18	7	円　形	—	
G	204	P	I43	20	16	25	円　形	—	
G	205	SD	I42·43·H43	(440)	30	12	N67°E	>219·259 <217·218·258·270	
G	206	P	H43	—	—	35	N65°E	—	
G	207	P	H43	34	30	26	円　形	>208	
G	208	SD	H42·43	300	30	26	N65°E	<207·258	
G	210	P	H43	—	—	15	—	>211	
G	211	P	H43	—	58	35	円　形	<210	SH7
G	212	SK	H42	—	30	11	楕円形	<232	
G	215	P	I42	30	30	5	円　形	—	
G	217	P	I42	56	56	38	円　形	>205	SH7
G	218	P	I42	44	42	30	円　形	>205	
G	219	P	I42	20	—	17	円　形	>258 <205	
G	220	P	H42·I42	24	24	16	円　形	—	
G	221	SD	H42·I42	(190)	20	6	N63°E	>258	
G	222	P	H42	28	24	28	円　形	—	
G	223	P	I42	24	24	31	円　形	—	
G	226	P	H42	56	56	41	円　形	—	SH7
G	227	P	H42	30	26	8	円　形	—	
G	228	P	H42	60	52	41	円　形	—	SH7
G	229	P	H42	28	26	18	円　形	—	
G	231	P	H42	42	40	28	円　形	—	
G	232	SD	H42	(224)	26	11	N69°E	>212	
G	233	SK	H42	74	32	7	楕円形	—	
G	235	P	H42	38	24	7	円　形	—	
G	236	P	H42	—	—	8	—	—	
G	237	SD	H42	(240)	24	14	N65°E	<238	
G	238	SK	H42	—	—	15	—	>237 <239	
G	239	SK	H42	—	—	9	—	>238	
G	241	SK	H42	—	—	4	—	—	
G	242	P	H42	46	36	6	楕円形	—	
G	243	P	J43	—	—	9	—	<150	
G	244	P	J44	40	30	20	楕円形	—	
G	246	P	K43	38	20	19	楕円形	—	
G	247	P	K43	26	26	23	円　形	—	
G	248	P	K43	30	24	10	楕円形	—	
G	249	P	J 43	28	—	11	楕円形	—	
G	250	SK	J 45	—	70	44	楕円形	>50 <27	
G	251	P	K43	32	24	14	円　形	—	
G	252	P	K43	28	28	35	円　形	—	
G	253	P	K43	24	18	41	円　形	—	
G	254	P	K43	24	16	10	円　形	—	
G	255	P	J44	28	28	40	円　形	—	
G	256	SK	K43·L43	138	102	15	楕円形	—	玉石あり
G	258	SK	H42·43·I42·43	106	20	8	不定形	>205·208·218·219·270 <221	
G	259	P	H43	56	56	36	円　形	<205	SH7
G	260	P	I43	—	—	25	—	<195	
G	261	P	I43	20	20	37	円　形	<195	
G	262	P	I43	36	34	49	円　形	>190	
G	263	P	I43	58	52	40	円　形	<195	SH7
G	264	P	I43	48	42	39	円　形	<195	
G	265	P	I42	30	24	24	円　形	<196	
G	266	P	I42	40	30	13	楕円形	—	
G	267	P	I42	26	26	42	円　形	<195	
G	268	SK	I43	220	90	8	楕円形	>186·277	
G	269	SK	J42·43	90	52	28	楕円形	—	玉石あり
G	270	P	I43	54	52	30	円　形	<205·258	SH7
G	271	P	J44	24	20	23	円　形	—	SH8
G	272	P	J43	54	54	70	円　形	<44	SH7
G	273	P	H42	30	20	35	楕円形	—	
G	274	P	I43	28	28	37	円　形	—	
G	276	P	J44	24	20	20	円　形	<44	
G	277	P	I43	50	48	63	円　形	<268	SH7
G	278	SK	K45	70	30	19	不定形	—	
G	279	P	J 43	50	50	28	円　形	—	SH7
G	280	P	J44	16	16	20	円　形	>93	
G	281	SK	J43	158	22	9	不定形	>152	
G	283	P	I43	24	22	16	円　形	>190	
G	284	SK	K44	70	62	28	隅丸方形	>90	
G	285	P	J43	20	16	10	円　形	—	
G	286	P	I43	50	48	26	円　形	—	柱根跡出土
G	301	SD	J41·K41·42·L43	(2100)	100	40	N12°W	>302·493·503·504·505·506 509·511·515·516	
G	302	SD	J41·42·K41 L41·42·M41	(2150)	350	30	N15°W	>303·481·482·485·486·490 491·492·495·496·507·508 510·511·512·517 <301·341·472·484·487 489·493	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
G	303	SD	M40·41	(700)	22	22	N67°E	<302	
G	307	P	M40	38	24	14	楕円形	—	SH11
G	309	P	M40	26	18	18	円形	—	
G	310	P	M40	44	22	23	楕円形	—	SH11
G	311	P	M40	36	28	11	楕円形	—	
G	317	ST	K39·40·L39·40	488	320	23	隅丸方形	<318	土間状
G	318	P	K40	32	36	25	円形	>317 <319	
G	319	SK	K40·L40	322	52	9	不定形	>318	
G	321	P	L40	18	18	15	円形	—	
G	322	P	L40	32	18	28	楕円形	—	SH11
G	323	P	L40	22	20	14	円形	—	
G	325	P	L40	32	24	22	楕円形	>326	
G	326	P	L40	32	26	22	円形	<325	SH11
G	327	P	L40	18	18	15	円形	—	
G	328	P	L40	38	34	14	円形	—	SH11
G	330	P	L40	28	28	7	円形	—	
G	331	P	L40	26	18	7	円形	—	
G	332	P	L40	26	22	9	円形	<333	SH11
G	333	P	L40	28	22	11	円形	>332	
G	336	SK	L41	70	48	22	円形	—	SH10 埋設穴
G	337	P	L41	48	28	23	円形	—	
G	338	P	L41	38	—	16	円形	—	
G	339	P	L41	34	34	18	円形	—	
G	340	P	L41	26	24	12	円形	—	
G	341	SK	L41	82	104	9	円形	>302·501 <488	
G	342	SK	K40	—	—	15	円形	>343	
G	343	SK	K40	—	—	15	円形	<342	
G	348	P	K40	42	42	35	円形	—	SH9
G	354	SK	K39	70	50	5	楕円形	—	
G	356	SK	K39	66	44	17	円形	—	
G	358	P	K39	26	20	18	円形	—	
G	359	P	K39	24	22	5	円形	—	
G	360	P	K39	34	26	17	円形	—	
G	361	P	K39	44	34	23	楕円形	—	SH9
G	363	P	K39	22	—	24	円形	<364	
G	364	P	K39	32	28	20	円形	>363	
G	365	P	K39	20	18	22	円形	—	
G	366	P	K39	26	26	17	円形	—	
G	367	P	K39	18	16	15	円形	<368	
G	368	P	K39	20	12	15	楕円形	>367	
G	369	P	K39	22	18	5	円形	>373	
G	370	P	K39	34	28	18	円形	>373	
G	371	P	K39	14	—	13	円形	<372	
G	372	P	K39	34	26	25	楕円形	>371	
G	373	SK	K39	—	—	14	円形	<369·370	
G	374	P	K39	28	18	17	円形	—	
G	375	P	K39	18	16	11	円形	—	
G	376	P	K39	34	28	16	円形	—	
G	377	P	K39	26	22	11	円形	—	
G	378	P	K39	24	22	19	円形	—	
G	379	P	K39	48	28	14	楕円形	—	
G	380	P	K39	18	—	25	円形	<381	
G	381	P	K39	26	22	19	円形	>380	
G	382	P	K39	26	20	15	円形	—	SH9
G	383	P	K39	34	32	19	円形	—	
G	384	P	K39	36	28	33	円形	—	
G	385	P	K39	44	42	23	円形	>386	
G	386	P	K39	—	32	30	円形	<385	SH9
G	387	P	K39	22	18	14	円形	—	
G	388	P	K39	44	44	31	円形	—	
G	389	P	K39	28	22	19	円形	—	
G	390	P	K39	28	18	17	円形	—	
G	392	P	K39	24	20	27	円形	—	
G	393	P	K39	34	32	19	円形	—	
G	395	SK	J40	—	64	42	円形	<497·498	
G	396	P	J40	38	36	6	円形	—	
G	401	P	J40	48	26	36	楕円形	—	
G	403	P	J40	42	30	35	円形	—	
G	404	P	J40	48	38	27	楕円形	—	
G	405	P	J40	34	32	12	円形	—	
G	408	P	J40	22	12	13	円形	—	
G	409	P	L42	38	32	16	楕円形	—	
G	410	P	L42	36	22	22	円形	—	
G	412	P	K42	32	26	23	円形	—	
G	413	P	M39	28	22	7	円形	—	
G	414	P	M39	54	52	23	円形	—	SH11
G	415	SK	M39·40	76	—	14	楕円形	<453	
G	418	P	M39	26	26	20	円形	—	
G	419	P	M39	22	22	15	円形	—	
G	420	P	L39·M39	60	32	9	楕円形	—	
G	421	P	L39	16	14	14	円形	—	
G	422	P	M39	32	24	12	楕円形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
G	423	P	M39·40	32	26	20	楕円形	—	
G	424	P	M39	38	26	15	楕円形	—	
G	425	P	L39	24	22	10	円　形	—	
G	426	P	L39	48	32	8	楕円形	—	
G	427	P	L39	42	38	10	円　形	—	SH11
G	428	P	L39	22	22	20	円　形	—	
G	430	P	L39	46	30	25	楕円形	<431	
G	431	P	L39	52	40	31	楕円形	>430	
G	433	P	L39	38	32	11	円　形	—	
G	434	P	L39	26	18	20	円　形	—	
G	435	P	L39	32	—	25	円　形	<436	
G	436	SK	L39	70	42	14	楕円形	>435·437	
G	437	P	L39	38	—	15	円　形	<436	
G	438	P	L39	20	20	15	円　形	—	
G	439	P	L39	34	24	29	円　形	—	
G	440	P	L39	26	22	33	円　形	—	
G	441	P	L39	38	36	13	円　形	—	SH11
G	442	P	L39	20	18	23	円　形	—	
G	443	P	K39·L39	26	22	33	円　形	—	
G	444	P	L39	24	22	16	円　形	—	
G	445	P	J39	34	32	19	円　形	>446	
G	446	P	J39	38	—	16	円　形	<445·447	
G	447	P	J39	34	30	17	円　形	>446	
G	448	P	J39	38	32	23	円　形	—	
G	449	P	J39	24	20	21	楕円形	—	
G	450	P	J39	26	24	19	円　形	—	
G	451	P	J39	40	34	42	円　形	—	SH9
G	452	P	J39	24	24	26	円　形	—	
G	453	P	M39·40	30	22	30	円　形	>415	SH11
G	454	P	M40	—	—	15	円　形	<455	
G	455	P	M40	48	40	17	円　形	>454·456	SH11
G	456	P	M40	—	—	13	円　形	<455	
G	457	P	M40	22	20	26	円　形	<458	
G	458	P	M40	28	26	22	円　形	>457	SH11
G	459	P	K41	20	18	14	円　形	—	
G	460	P	K41	40	30	25	円　形	—	
G	462	P	K41	24	22	20	円　形	—	
G	464	P	K40·41	36	26	17	楕円形	—	
G	466	P	J41	28	26	20	円　形	—	
G	470	P	K38	28	26	22	円　形	—	
G	471	P	K38	18	16	7	円　形	—	
G	472	SE	K41	320	312	460	円　形	>302	
G	473	SE	M42·43	—	—	—	円　形	—	
G	474	P	L38	26	24	25	円　形	—	
G	475	P	K38	28	24	29	円　形	—	
G	476	SK	K38	94	58	20	不定形	—	
G	477	P	K38	42	40	24	円　形	—	
G	478	P	K38	28	26	22	円　形	—	
G	479	P	K38	36	32	85	円　形	—	
G	480	SK	K38·39	78	62	22	円　形	—	
G	481	P	L41	36	34	30	円　形	<302	SH10
G	482	SE	L41	150	129	150	楕円形	<302	
G	483	SK	M41	72	62	40	円　形	>484	埋設穴
G	484	SK	M41	62	50	30	不定形	<483	埋設穴
G	485	SI	M41	70	60	—	楕円形	<302	
G	486	SK	L41	68	56	27	円　形	<302	
G	487	P	M41	28	24	20	円　形	>302	SH10
G	488	P	L41	18	16	12	円　形	>341	
G	489	SK	L41	100	72	34	不定形	>302	埋設穴
G	490	SK	L41	78	70	38	円　形	<302	埋設穴
G	491	SK	L41	89	—	33	不定形	<302·492	埋設穴
G	492	P	L41·42	32	26	24	円　形	>491 <302	
G	493	SD	M41·42	(550)	40	18	N58°E	>302 <301	
G	494	P	L41	22	22	20	円　形	—	
G	495	P	L42	—	38	21	—	<302·496	SH10
G	496	SK	L42	62	58	14	円　形	>495 <302	
G	497	P	J40	46	44	30	円　形	>395	SH9
G	498	P	J40	44	36	60	円　形	>395	
G	501	P	L41	28	26	28	円　形	<341	SH10
G	502	P	K39	22	20	18	円　形	<301	
G	503	P	K42	28	24	32	円　形	<301	
G	504	P	L42	16	16	31	円　形	<301	
G	505	P	L42	24	22	23	円　形	<301	
G	506	SK	J41	162	92	7	楕円形	<301	
G	507	P	J41	32	24	10	円　形	<302	
G	508	P	K41	28	22	15	円　形	<302	
G	509	P	M42	30	16	34	楕円形	<301	
G	510	P	K41	30	24	30	円　形	<302	
G	511	P	J41	34	28	17	楕円形	<301·302	
G	512	P	L41·M41	28	20	45	円　形	<302	
G	513	P	J39·K39	22	20	17	円　形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
G	514	P	J39	20	20	20	円形	—	
G	515	P	M42	24	20	22	円形	<301	SH10
G	516	P	M42	28	22	20	円形	<301	
G	517	P	K41	24	24	16	円形	<301	
E	1	SD	G41·H41·I41 J41	(1400)	100	60	N13°W	>2 <655	G301
E	2	SD	G41·H40·41 I41・J41	(1200)	(110)	9	N12°W	>652·653 <1·5·655·656·668	G301
E	3	SK	J41	100	(70)	13	楕円形	<683	
E	4	SX	I41	46	42	14	楕円形	—	
E	5	SK	I41	(70)	(50)	15	円形	>2	
E	7	SK	J41	70	62	26	楕円形	—	
E	8	SK	I40·41	60	50	22	楕円形	—	
E	9	P	J41	32	26	9	楕円形	—	
E	10	SK	J40	62	40	16	不定形	>588	
E	15	P	J40	50	50	21	楕円形	—	
E	16	P	J40	44	34	25	楕円形	—	SH9
E	17	P	J40	38	34	20	楕円形	—	
E	18	P	J40	40	26	13	不定形	—	
E	19	P	J40	50	24	44	楕円形	<693	
E	21	P	J40	30	20	27	楕円形	—	
E	22	P	I40	50	32	11	楕円形	—	
E	24	P	I40	50	34	9	楕円形	—	
E	25	SK	I40	212	150	14	長方形	>689·690 <603	
E	27	SK	I39·40	80	64	27	不定形	—	
E	28	SK	I39·40 J39	70	40	16	不定形	—	
E	30	P	I39·J39	36	30	9	円形	—	
E	32	P	J39	28	24	11	楕円形	>34	
E	33	SK	I39	240	140	20	不定形	>605	
E	34	SK	I39·J39	150	130	6	楕円形	<32	
E	35	P	J39	40	40	24	楕円形	—	
E	36	SK	J38·39	174	120	7	不定形	—	
E	38	SK	I39	70	70	19	楕円形	>650	
E	39	P	I39	40	24	16	不定形	>40	
E	40	SK	I38·39	(230)	62	30	長方形	<39·623·627	
E	41	P	I39·40	54	54	9	楕円形	—	
E	42	P	H39·I39	48	40	26	楕円形	—	
E	43	SK	H39	80	68	52	楕円形	—	
E	44	SK	H39·40	60	24	8	楕円形	—	
E	45	SK	H39	110	60	22	楕円形	<672	
E	46	P	H39	40	30	37	楕円形	—	
E	47	SK	H39	60	30	21	楕円形	—	
E	48	SK	H39	116	40	6	楕円形	—	
E	49	P	H39	40	30	14	楕円形	—	
E	50	SD	H39·40	(524)	40	14	N78°E	<51·66·614·615·668·1012·1150	
E	51	SK	G39·H39·40	118	20	18	長方形	>50	
E	53	P	G40	40	38	38	楕円形	—	SH12
E	54	SK	G40	140	130	8	楕円形	>55·661	
E	55	SK	G40	214	(138)	14	不定形	>1184·1185 <54·655	
E	56	SK	G39·40	220	60	48	不定形	—	
E	57	P	G39·40	46	32	14	不定形	—	
E	58	P	G39	(40)	28	14	不定形	—	
E	59	P	G39	50	44	12	不定形	—	
E	60	SK	G39	140	110	7	正方形	>659	
E	61	P	G39	30	30	9	楕円形	—	
E	62	P	G39	38	36	8	楕円形	—	
E	64	SK	G39	110	30	15	不定形	—	
E	65	P	G39	46	44	45	不定形	—	SH12
E	66	SK	H38·39	234	120	33	不定形	>50·67 <74	
E	67	SK	H39	94	50	35	長方形	>66	
E	68	SK	G39	90	30	37	不定形	—	
E	69	P	G39	50	40	37	楕円形	—	
E	72	P	G38	(46)	40	8	不定形	<674	
E	74	P	H38	40	40	10	楕円形	>66	
E	75	P	H38	40	40	8	楕円形	—	
E	76	P	H38	48	48	13	楕円形	—	
E	77	P	G38	50	50	34	楕円形	—	
E	79	SK	H38	60	50	33	楕円形	—	
E	80	SK	G38·H38	62	48	37	楕円形	—	
E	81	SK	G37·38	170	140	25	不定形	>731	
E	82	P	G37·38	26	24	30	楕円形	—	
E	83	P	G37	28	28	24	楕円形	—	
E	85	P	G39	48	42	10	楕円形	—	
E	86	P	G38	52	48	14	楕円形	—	
E	87	SK	G38	63	46	17	楕円形	—	
E	88	P	G38	38	30	7	楕円形	—	
E	90	P	G38	30	28	12	楕円形	—	
E	92	P	G37	34	30	16	楕円形	—	
E	93	P	G37	42	36	33	楕円形	—	
E	94	P	G37	50	36	43	不定形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
E	96	P	J38	40	24	26	楕円形	—	
E	97	SK	J38	60	30	19	楕円形	—	
E	98	SK	J38	68	60	17	不定形	>629	
E	99	P	I38	34	30	15	楕円形	<629	
E	100	SK	I38·J38	246	110	15	長方形	>673 <101·108·686	
E	101	SK	I38	60	38	20	不定形	>100・651	
E	102	P	I38	40	40	12	楕円形	—	
E	103	SK	J38	70	50	32	不定形	—	
E	104	SK	J38	80	66	10	不定形	—	
E	106	P	J38	30	30	35	楕円形	—	
E	107	P	J38	40	30	13	楕円形	—	
E	108	P	I38·J38	36	30	35	楕円形	>100	
E	109	SE	I37·38	230	220	150	円　形	—	
E	110	P	J37	34	30	41	楕円形	—	
E	111	P	I36·37	48	40	11	楕円形	—	
E	112	SE	J37	370	250	290	楕円形	—	
E	113	P	G37	24	20	41	楕円形	—	
E	114	P	F37	40	28	36	不定形	—	
E	115	SK	H38	90	50	22	不定形	—	
E	117	P	I38	40	30	8	楕円形	—	
E	118	P	I38	32	30	12	楕円形	—	
E	119	P	I38	40	40	8	円　形	—	
E	120	SK	I38	110	60	5	不定形	—	
E	122	P	I37	50	44	19	楕円形	—	
E	123	P	H37	30	30	8	楕円形	—	
E	124	P	F36	32	30	42	楕円形	—	
E	126	SK	I37	126	126	16	楕円形	>127·131	
E	127	SK	I37	128	(118)	9	長方形	<126·128·131	
E	128	SK	I37	138	50	8	不定形	>127	
E	129	SK	G37	130	60	18	不定形	>130	
E	130	ST	G36·37·H36·37	456	(440)	8	正方形	>732·733·734 <129·153	土間状
E	131	SK	I37	90	76	6	楕円形	>126·127	
E	132	SK	F36	64	54	12	楕円形	—	
E	133	P	F36	28	28	23	楕円形	—	SH13
E	134	SK	G36	136	86	4	正方形	—	
E	135	SK	G36	110	(100)	9	正方形	<221·730	
E	136	P	I37	30	30	9	楕円形	—	
E	137	SK	H37·I37	120	70	8	—	—	
E	139	SD	G33～36·F36	(WF 1160) (NS　450)	250	32	N67°E N09°W	>185·697·702·703·705·735 <174·211·696·704·1074·1269	
E	140	P	G36	48	40	49	楕円形	—	
E	141	SK	G36	60	48	18	楕円形	—	
E	142	SK	G36	(140)	70	12	長方形	<221	
E	143	SK	G37	70	50	44	楕円形	—	
E	144	P	F35·36	40	40	5	楕円形	—	
E	145	P	F35	24	22	36	楕円形	—	
E	146	SK	F35	140	80	5	長方形	<158	
E	150	P	F35	26	20	26	楕円形	—	
E	151	SK	F35	80	70	6	楕円形	>679	
E	152	P	G36	24	(18)	26	楕円形	<729	
E	153	SK	H36·37	210	110	44	長方形	>130·669	集石
E	158	P	F35	46	20	20	楕円形	>146	
E	159	SI	F38·G38	170	155	—	正方形	—	
E	161	P	H36	28	20	—	楕円形	>669	
E	163	P	H36	44	40	9	楕円形	—	
E	164	P	H36	56	44	14	楕円形	—	
E	165	SK	H36	70	40	15	不定形	—	
E	166	SK	I36·H36	250	20	5	不定形	<168	
E	168	SK	I36·H36	60	40	10	楕円形	>166·169	
E	169	SK	I36·H36	280	28	15	不定形	<168	
E	170	SK	F35	220	78	5	長方形	<231	
E	172	P	E35	50	30	30	円　形	—	
E	174	SK	G34·35	140	110	8	不定形	>139	
E	175	SK	G35·36	120	120	14	楕円形	>221·736 <222	
E	176	SK	G35	100	98	11	楕円形	>221	
E	177	SK	I36	240	38	15	不定形	—	
E	178	SK	G35	120	110	53	正方形	—	
E	179	P	H35	30	24	21	楕円形	—	
E	180	P	H34	36	24	29	楕円形	—	
E	182	P	H34	34	30	11	不定形	—	SH13
E	183	P	H34	30	20	6	不定形	<184	
E	184	P	H34	30	30	14	不定形	>183	SH13
E	185	SK	G34	(116)	(84)	14	不定形	<139·211·704	
E	186	P	F35	40	38	15	楕円形	—	SH13
E	187	P	F35	34	30	56	不定形	—	SH13
E	188	P	F35	48	38	12	楕円形	—	
E	189	SI	F35	80	50	—	不定形	—	
E	190	SK	H35·36	80	54	18	不定形	—	
E	191	P	F35	24	24	22	楕円形	—	
E	192	SK	F34	60	30	11	長方形	—	
E	193	P	G36	30	30	58	楕円形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
E	194	SK	J36	(140)	90	16	不定形	—	
E	196	P	E35·F35	50	40	35	楕円形	—	
E	197	SK	F34·35	80	70	14	楕円形	—	
E	199	P	J35	40	38	30	楕円形	—	SH15
E	200	P	J35	30	24	25	楕円形	—	
E	201	P	J34	34	34	18	楕円形	—	
E	202	P	J34	24	20	15	楕円形	—	
E	203	P	J34	34	30	11	不定形	—	
E	204	P	J34	40	34	38	楕円形	—	
E	206	P	J34	54	44	34	楕円形	—	
E	207	P	J34	38	30	15	楕円形	—	
E	208	P	J34	24	24	25	楕円形	—	
E	209	P	J34	28	20	8	楕円形	—	
E	210	SD	I34·35·J35	780	52	12	N17°W	>541	
E	211	SD	G34·H34	610	40	6	N15°W	>139·185·1156	
E	212	SK	F34	70	70	8	楕円形	—	
E	213	SD	F34·G34	580	40	16	N18°W	—	
E	214	SK	F34	100	90	8	楕円形	—	
E	215	SK	G34·35·H34·35	110	90	10	不定形	—	
E	216	SD	H35·I35	(510)	40	15	N15°W	<1261	
E	218	P	G35	30	28	31	楕円形	—	
E	219	SK	G34·35	80	60	14	楕円形	—	
E	220	SK	G36	70	42	17	不定形	—	
E	221	ST	G35·36	220	190	6	長方形	>135·142·736·1156 <176·222·175·675·728·1123 1270	土間状
E	222	SD	G35·36·H36	390	50	14	N16°W	>221 <175·675·676	
E	225	SK	H33·34	200	90	12	長方形	<242	
E	226	SK	H33·34	60	40	14	楕円形	—	
E	227	P	I34	40	46	115	不定形	—	
E	228	SD	H34·I34	280	30	11	N73°E	—	
E	231	SI	F35	50	44	—	不定形	>170	
E	232	SK	E34·F34	150	40	10	不定形	>246	
E	233	SI	E33	(700)	80	—	不定形	>234·247	
E	234	SD	E33	(330)	50	31	N16°W	<233	
E	235	P	J32	54	44	46	楕円形	—	SH16
E	236	P	F34	50	40	10	楕円形	—	
E	238	SD	H34·I33·34	340	50	11	N72°E	—	
E	239	P	H34	16	16	10	楕円形	—	
E	240	P	H33	24	20	11	円　形	—	
E	241	P	H33	20	20	11	円　形	—	
E	242	P	H33·34	50	40	20	不定形	>225	
E	244	SK	G33·34	116	80	4	長方形	—	
E	246	SD	E33～35 F32·33	(1500)	150	31	N70°E	<232	
E	247	SD	E32～34·F32	(730)	200	31	N80°E	>248 <233	
E	248	SK	E33	230	(110)	14	不定形	<247	
E	249	SK	G32	70	58	17	楕円形	—	
E	250	SK	F31·G31	100	90	24	不定形	>512 495	
E	251	SK	J32	(100)	70	8	不定形	—	
E	253	SK	J32	60	38	24	楕円形	—	
E	254	P	J32	40	24	36	楕円形	—	
E	255	P	J32	30	20	16	楕円形	—	
E	256	P	J32	30	24	10	楕円形	—	
E	257	P	J32	30	20	8	楕円形	—	
E	260	P	J32	34	30	13	楕円形	—	
E	261	P	J31	50	44	15	楕円形	—	
E	262	SK	J31	(80)	(50)	16	不定形	<718	
E	263	P	J31	50	44	59	楕円形	—	
E	266	P	J30	26	(18)	22	不定形	<271	
E	268	P	I29	58	50	7	楕円形	—	
E	270	P	I29	50	50	22	楕円形	—	
E	271	SD	I30·J30	(530)	28	4	N12°W	>266 <748·749	
E	273	P	G30	50	44	22	楕円形	—	
E	274	P	G30	48	40	24	楕円形	—	
E	275	P	G30	30	28	35	楕円形	—	
E	276	P	G30	(30)	30	39	楕円形	<277	
E	277	P	G30	40	38	32	楕円形	>276	SH19
E	278	P	G30	50	28	52	楕円形	—	
E	279	P	G30	30	30	41	楕円形	—	
E	281	SD	H33·34·I33	350	40	8	N75°E	—	
E	282	P	F30·G30	30	20	36	楕円形	—	
E	283	P	G30	40	28	13	円　形	—	
E	284	P	G31	14	12	13	円　形	>513	
E	285	P	G31	28	28	28	円　形	—	
E	286	P	F31	50	30	17	不定形	—	
E	288	P	F30·31	40	20	17	楕円形	—	
E	289	P	F30·31	54	40	17	不定形	—	
E	290	P	F31	40	34	29	楕円形	—	
E	292	P	F31	30	20	24	不定形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
E	293	P	F31	28	24	10	円形	<420	
E	294	SK	F30	120	90	43	長方形	>420·1035	
E	295	P	F30	36	30	26	楕円形	—	
E	296	SK	F30	90	50	36	不定形	>420	SH18
E	297	P	F30	30	30	32	円形	—	
E	298	P	F30	40	40	20	円形	>299	
E	299	P	F30	48	40	59	不定形	<298·1209	
E	300	P	F30	30	30	30	楕円形	—	
E	301	P	F31	30	20	9	楕円形	—	
E	302	P	F30	46	(20)	18	不定形	<420	
E	303	P	E31	46	42	30	楕円形	—	
E	304	P	E31	40	34	38	楕円形	—	
E	307	P	E30	50	50	55	楕円形	—	
E	308	P	E30	36	34	35	楕円形	—	
E	309	P	E30	26	26	17	楕円形	—	
E	310	SK	E30	70	50	56	楕円形	—	SH18
E	311	P	E30	30	28	44	円形	—	
E	312	P	E30	30	28	9	楕円形	—	
E	313	P	E30	26	24	12	楕円形	<406	
E	314	P	E30	40	30	17	楕円形	<406	
E	315	P	E30	50	44	27	楕円形	—	
E	316	P	E30	38	38	43	楕円形	—	
E	317	ST	D30·E30	264	200	15	正方形	>1068·1069 <1022·1025·1026·1041	土間状
E	318	SK	D30	110	(100)	28	不定形	>938·939	
E	319	P	D30·E30	44	42	43	楕円形	—	
E	320	P	D30	24	24	41	楕円形	—	
E	321	P	G29	24	24	23	円形	—	
E	322	P	F30	36	36	10	楕円形	<407	
E	323	P	F30	28	26	16	楕円形	<407	
E	324	P	F30	38	30	30	楕円形	—	
E	325	P	E30	30	30	24	楕円形	>326	
E	326	P	E30	24	20	12	楕円形	<325	
E	327	P	E30	30	20	8	楕円形	—	
E	329	P	G29	40	(28)	15	楕円形	<1275	
E	330	P	G29	40	36	38	楕円形	—	
E	331	P	G29	50	42	15	楕円形	—	
E	332	P	G29	24	20	19	楕円形	—	
E	333	P	G29	30	28	24	楕円形	—	
E	334	P	G29	36	34	10	円形	—	
E	335	P	G29	34	30	13	楕円形	—	
E	336	P	E30	40	34	47	楕円形	—	
E	337	P	E30	34	30	41	楕円形	—	
E	338	P	E30	30	24	29	楕円形	—	
E	339	SK	E29·30	69	50	65	不定形	—	
E	340	SK	E30	140	30	4	不定形	<753	
E	341	P	E30	40	34	62	円形	—	
E	342	P	E30	31	28	38	楕円形	—	
E	343	P	E30	28	28	28	楕円形	—	
E	344	P	E30	28	20	22	楕円形	—	
E	345	P	E30	34	28	5	楕円形	—	
E	346	P	E31	40	28	21	楕円形	>407·1036	
E	347	P	E31	28	28	17	楕円形	—	
E	348	P	E31	20	20	—	楕円形	—	
E	349	SK	E30	70	60	15	楕円形	>406	
E	350	P	E30	40	38	29	楕円形	<406	
E	351	SK	E30	130	76	18	不定形	>406	
E	352	P	E30	30	30	9	楕円形	—	
E	353	P	F30	40	38	8	楕円形	—	
E	354	P	E30	38	34	7	楕円形	—	
E	355	SK	D30·E30	60	44	65	楕円形	—	
E	356	P	E30	46	36	36	不定形	—	
E	357	SK	D30	80	80	41	不定形	—	
E	358	P	D30	34	30	26	楕円形	—	
E	359	SK	D30	80	70	11	楕円形	—	
E	361	SK	D30	80	30	32	不定形	—	
E	362	P	D30	40	30	10	楕円形	—	
E	364	P	F29	34	30	29	楕円形	<407	
E	365	P	E29	24	20	10	楕円形	—	
E	366	SK	E29	70	50	38	楕円形	<406	
E	367	P	E29·30	34	26	30	楕円形	—	
E	368	P	E29	40	36	38	楕円形	—	
E	369	P	E29	24	24	30	楕円形	—	
E	370	SK	D30	150	90	13	不定形	>940 <936·937	
E	371	SD	C29·D27～29	(850)	130	35	N74°E	<1228·1144	
E	372	SK	D29	74	70	13	不定形	—	
E	373	P	D29	50	40	55	楕円形	—	
E	374	P	D29	30	30	18	楕円形	—	
E	375	P	D29	52	40	70	楕円形	—	
E	376	P	D29	40	34	80	楕円形	—	
E	377	P	D29·30	42	38	60	楕円形	—	
E	378	P	D29	26	24	48	楕円形	—	
E	380	P	D29	50	50	61	楕円形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
E	381	SK	D29	80	70	41	不定形	—	
E	382	SK	D29·E29	90	70	47	楕円形	—	
E	383	SK	D29	50	44	37	楕円形	—	
E	384	P	D29	42	34	42	不定形	—	
E	385	P	D29	40	30	41	楕円形	—	
E	386	SK	D29	80	60	15	不定形	—	
E	388	SK	D29	100	98	10	楕円形	—	
E	389	P	F31	28	20	5	楕円形	<407	
E	391	SK	D29	128	108	46	楕円形	>977	
E	392	SK	D28	80	160	23	楕円形	>761	
E	393	SD	C27～29	(650)	(270)	25	N73°E	>1230	
E	394	SK	D29·E29	200	78	13	長方形	>979	
E	395	P	D29	30	30	43	楕円形	—	
E	396	P	D28·29	20	20	42	円　形	>397	
E	397	P	D28·29	28	22	25	楕円形	<396	
E	398	P	D28	30	26	24	楕円形	—	
E	399	P	D28	43	28	65	不定形	—	SH18
E	401	P	D28	40	38	25	楕円形	—	
E	402	SK	E29	90	80	11	楕円形	>765	
E	403	SK	E29	140	80	56	長方形	>406	
E	404	P	E29	20	18	29	円　形	—	
E	405	P	E29	30	26	8	楕円形	—	
E	406	SD	F28·29 E29～31	(NS650) (WE700)	90	29	N13°E N78°E	>313·314·335·350·366·767 768·934·935 <349·351·403·423·762·1021 1042·1099	
E	407	SD	E29～31 F29～31	(1800)	200	17	N63°E	>322·323·364·389·408·409 932·942·944·946·950·952 955·956·965· 966·967·1052 1053·1054·1055·1056·1208 1272·1273 <346·421·423·931·1036·1099	
E	408	P	F29	50	46	32	楕円形	—	SH19
E	409	P	F29	40	30	47	楕円形	<407	
E	410	SK	F29	80	64	28	楕円形	—	
E	411	P	F28·29	34	30	44	円　形	—	
E	413	P	E28	46	30	15	長方形	—	
E	414	P	E28	30	26	16	楕円形	—	
E	415	SK	E28	130	60	30	長方形	—	
E	417	SK	E28	80	(80)	18	不定形	<764	
E	418	P	E28	(28)	(22)	9	不定形	<757	
E	419	P	E28	20	20	12	円　形	—	
E	420	SD	F29～31·G28	(750)	150	37	N81°E	>293·302·745·751·752·933·999 1033·1034 <294·296·423·1134·1209	
E	421	SK	F29	150	110	13	不定形	>407・747	
E	423	SK	F29	210	160	28	不定形	>406·407·420·1072	
E	424	P	G29·30	40	30	10	楕円形	—	
E	425	P	G29	30	26	26	円　形	—	
E	426	P	G29·H29	56	56	59	楕円形	—	
E	427	SK	H29	60	58	37	楕円形	—	
E	428	SK	H29	60	28	17	不定形	—	
E	429	P	H29	29	26	9	円　形	—	
E	430	P	I29	56	30	9	不定形	—	
E	432	SK	H31	80	56	43	楕円形	—	
E	433	SK	H29·30	80	77	9	不定形	<569	
E	436	SK	H29 I29·30	320	90	5	不定形	<723	
E	439	SD	H29·30	(316)	70	10	N66°E	>741·743·744 <742	
E	442	P	H30	56	50	23	楕円形	—	
E	443	P	G30	40	34	19	楕円形	<522	
E	444	P	G30	50	44	27	楕円形	—	
E	445	P	G30	40	38	37	楕円形	—	
E	446	SK	H30·I30	138	130	10	正方形	—	
E	448	SK	I31	110	28	15	不定形	—	
E	449	P	J31	40	28	13	楕円形	—	
E	450	P	I31	30	30	11	円　形	—	
E	451	P	I35	38	28	10	楕円形	—	
E	452	P	I35	42	32	14	楕円形	—	
E	453	P	I35	24	24	22	円　形	—	
E	455	P	I35	26	24	29	楕円形	—	
E	456	P	I35	30	20	27	楕円形	—	
E	457	P	I35	26	26	13	楕円形	—	
E	459	P	I34·35	50	44	29	楕円形	—	
E	460	P	I34	40	20	30	不定形	—	
E	462	SK	G33	80	50	7	楕円形	—	
E	463	SK	G33	146	86	7	長方形	—	
E	469	P	H33	30	30	10	楕円形	—	
E	470	P	H33	30	24	12	楕円形	—	
E	473	SK	F30·31	100	90	31	楕円形	—	
E	474	SD	I33·34	420	36	27	N77°E	>521	
E	475	SD	I33·34	466	28	29	N72°E	—	
E	476	SD	I33·34	(240)	38	16	N78°E	>521	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
E	477	SD	I34	100	30	28	N77°E	—	
E	478	SD	I34	120	30	23	N66°E	—	
E	479	P	F33	30	20	5	楕円形	—	
E	481	P	F33·G33	48	30	15	長方形	—	
E	482	P	F33	56	32	10	長方形	—	
E	483	SK	G33	106	30	11	長方形	—	
E	484	P	F33	30	30	10	楕円形	—	
E	485	P	G33	48	38	15	楕円形	—	
E	486	P	G33	44	30	10	楕円形	—	
E	487	P	G33	50	46	20	楕円形	—	
E	490	P	G34	26	24	13	楕円形	—	
E	491	SK	G33·34	110	50	26	長方形	—	
E	492	P	G33·34	48	40	14	不定形	—	
E	493	P	G31	50	40	22	不定形	<512	
E	495	SK	F31·G31	80	50	33	不定形	>250·513	
E	498	P	G31	40	20	16	不定形	<512	
E	499	P	G30	30	28	19	楕円形	>512	
E	500	P	G30	30	20	34	楕円形	—	
E	501	P	G30	40	36	29	楕円形	—	
E	508	P	G30	34	34	16	楕円形	—	
E	509	P	G30	40	36	9	楕円形	—	
E	512	ST	G31	370	350	14	正方形	>250·493·498·513·1231·1233 1234·1235 <499·569·1061·1238·1239	土間状
E	513	SK	F31·G31	(110)	(70)	11	不定形	<284·495·512	
E	514	SK	G31·H31	120	80	11	不定形	>569	
E	517	SK	H30	70	54	12	楕円形	<518	
E	518	P	H30	30	28	16	楕円形	>517	
E	519	SD	G31·32·H31·32 I31·32·J31·32	(NS 1459) (WE 426)	120	6	N06°E	>1077·1177 <520·1076·1176	
E	520	SD	D30·31·E31 F31·32·G31·32 H32·I32·J32·33	3500	300	40	N19°W	>519·1075·1220 <762·1076·1239· 1264	
E	521	SD	D31·32·E31·32 F32·G32·33 H32·33·I32· J33·K33·34	3470	270	50	N16°W	>561·1067 <474·476·562·563·566·567	
E	522	SK	G30·31	90	60	13	楕円形	>443	
E	524	P	H31	40	38	14	楕円形	—	
E	526	P	G35	20	20	20	円　形	—	
E	527	P	H30	38	34	18	楕円形	—	
E	528	P	I31	50	34	19	楕円形	—	
E	529	SK	I30	76	44	14	不定形	—	
E	531	P	H30	50	44	20	楕円形	—	
E	532	P	H31	30	28	9	不定形	—	
E	533	P	F30	(30)	24	30	不定形	<534	
E	534	P	F30	50	40	49	楕円形	>533	
E	537	SD	I35·J35	476	40	13	N16°W	—	
E	538	SD	I35·J35	(650)	36	17	N15°W	<1262	
E	539	SD	I35·J35	420	40	14	N16°W	—	
E	540	P	J35	24	24	11	楕円形	—	
E	541	P	J35	40	36	18	楕円形	>210	
E	542	SD	I35·J35	700	28	15	N18°W	—	
E	543	SK	I35·J35	190	80	11	長方形	<544	
E	544	P	J35	22	20	25	楕円形	>543	
E	545	P	J35	24	20	10	楕円形	—	
E	546	P	I34·J34	40	30	13	楕円形	—	
E	547	SD	J34	450	56	11	N76°W	>551·708·709 <1171	
E	548	P	J34	54	50	37	不定形	<550	
E	549	P	J34	30	24	22	楕円形	—	
E	550	SK	J34·35	70	50	40	不定形	>548·552 <551	
E	551	P	J34	54	48	20	不定形	>550 <547	
E	552	SK	J34	(200)	62	29	長方形	<550	
E	553	SK	J34	60	50	27	楕円形	<554	
E	554	SK	J34	120	100	18	楕円形	>543	
E	555	P	J34	46	(30)	11	楕円形	<556	
E	556	P	J34	30	30	23	楕円形	>555	
E	557	SK	K34	180	75	5	不定形	<713	
E	558	P	J34·K34	48	40	27	不定形	<10	
E	559	SK	J34·K34	90	50	12	不定形	—	
E	560	P	J34	54	44	29	楕円形	—	SH15
E	561	P	J33	50	40	13	楕円形	<521	
E	562	SK	J33	60	40	20	楕円形	>521 <563	
E	563	P	J33	42	40	20	楕円形	>521·562	
E	564	SK	I34·J34	(70)	38	16	不定形	—	
E	566	SD	I33·34	(210)	38	16	N74°E	>521	
E	567	SD	I33·34	(170)	40	18	N78°E	>521	
E	569	SD	G30·31 H29～31	(1000)	300	32	N75°E	>433·512·1038·1049·1100·1133 1135·1223·1232·1237 <514·1236	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
E	570	P	G29	50	40	29	楕円形	—	
E	571	SD	G29	138	60	7	N06°E	—	
E	572	P	G29	38	36	13	楕円形	—	
E	573	SK	G29	156	80	26	不定形	>750	
E	574	P	H40·41	22	20	42	円　形	—	SH19
E	576	SK	G29	50	46	13	楕円形	—	
E	577	SK	G29	70	60	18	楕円形	—	
E	578	SK	G29	100	60	11	楕円形	—	
E	579	P	G29·30	30	29	10	楕円形	—	
E	581	SD	G30	260	60	3	N09°W	>1201·1202	
E	582	P	G30	24	20	14	楕円形	—	
E	583	P	I40	30	28	8	楕円形	—	
E	584	P	J41	30	22	22	楕円形	—	
E	585	P	J40	40	38	22	楕円形	—	
E	588	SK	J40	170	76	5	不定形	>19 <10	
E	590	P	I40·J40	42	34	19	楕円形	—	
E	591	P	I40	28	26	14	楕円形	—	
E	592	SK	I40	64	50	17	不定形	—	
E	595	P	H40·41	46	30	10	楕円形	—	
E	599	P	H40	42	40	47	楕円形	—	
E	600	P	I40	46	26	10	楕円形	—	
E	601	P	H40	58	54	24	楕円形	—	
E	602	P	I40	40	30	32	楕円形	—	
E	603	SK	I40	124	80	10	不定形	>25·687 <1153	
E	604	P	I39	38	30	46	楕円形	>605	
E	605	SK	I39	(60)	(50)	37	不定形	>33 <604	
E	606	SK	H38	110	70	12	不定形	—	
E	607	SK	H37·38	224	190	24	不定形	—	
E	608	P	H37	56	56	25	楕円形	—	
E	609	SK	H37	64	60	12	楕円形	—	
E	610	SK	H37·38·I37·38	220	140	20	不定形	—	
E	612	P	G36·H36	50	40	41	楕円形	—	
E	613	SK	I35·36	68	40	29	楕円形	—	
E	614	SK	H39	140	50	13	長方形	>50·695	
E	615	SK	H39	130	60	11	長方形	>50	
E	616	P	I41	26	26	8	楕円形	—	
E	617	P	I40	38	28	11	楕円形	—	
E	618	SK	I40	70	56	9	正方形	—	
E	619	SK	I40	104	50	13	不定形	—	
E	621	SK	H40	60	30	19	不定形	—	
E	622	P	I40	38	34	14	楕円形	—	
E	623	SK	I38	210	54	7	不定形	>40	
E	624	P	G39	48	44	20	不定形	—	SH12
E	626	SK	I38	70	50	—	不定形	>627·671	
E	627	SK	I38	244	60	12	長方形	>40·628 <626·671	
E	628	P	I38	40	30	20	楕円形	<627	
E	629	SK	I38·J38	160	140	28	不定形	>99·691·692 <98	
E	631	P	H38	40	40	12	楕円形	—	
E	634	P	H39	24	22	9	楕円形	—	
E	635	P	H39	40	36	14	楕円形	—	
E	637	P	I39·40	50	40	23	楕円形	—	
E	639	P	J41	42	40	32	楕円形	—	
E	640	P	H38·I38	66	50	25	楕円形	—	
E	641	SK	I38	74	56	15	楕円形	—	
E	642	SK	H38	70	70	25	楕円形	—	
E	644	P	H38	32	22	16	楕円形	—	
E	645	P	H38	30	30	9	楕円形	—	
E	647	SK	H39	64	42	18	不定形	—	
E	650	SK	I39	124	90	66	正方形	<38·706·707	
E	651	P	I38	40	30	33	不定形	<101	
E	652	P	H40	30	30	34	円　形	<2	
E	653	SP	H40	200	80	84	長方形	<2	
E	654	P	H40	44	40	26	楕円形	—	
E	655	SP	G40·41·H40·41	356	240	88	不定形	>1·2·55	
E	656	SE	I40·41	230	210	160	円　形	>2	
E	658	P	I39	28	24	11	不定形	—	
E	659	P	G39	44	48	30	楕円形	<60	SH12
E	660	SK	G39·40	356	20	10	楕円形	—	
E	661	P	G40	40	34	27	楕円形	<54	SH12
E	662	P	I39	28	20	16	楕円形	—	
E	663	P	J40	50	40	9	楕円形	<558	
E	665	SK	J40	60	48	21	不定形	<588	
E	666	P	H39	30	20	37	楕円形	>667	
E	667	P	G39·H39	18	20	10	楕円形	<666	
E	668	SK	H40	136	90	71	不定形	>2·50	
E	669	SD	H36·37·I36·37	(640)	40	12	N15°W	>161 <153·166	
E	670	SK	I37	160	54	6	不定形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
E	671	P	I38	34	30	20	楕円形	>627 <626	
E	672	P	H39	48	48	42	楕円形	>45	
E	673	P	J38	46	38	24	不定形	<100	
E	674	P	G38	48	44	37	円　形	>72	
E	675	P	G36	30	28	47	楕円形	>221·222	
E	676	P	H36	28	26	22	楕円形	<222	
E	678	P	F35	30	28	38	楕円形	—	
E	679	P	F35	30	30	24	楕円形	<151	
E	681	SK	F36	110	74	11	正方形	—	
E	682	P	F35	40	38	13	楕円形	—	
E	683	SK	J41	110	70	14	不定形	>3	
E	686	SK	J38	96	58	47	不定形	>100	
E	687	P	I40	34	30	17	楕円形	<603	
E	689	SK	I40	88	64	20	不定形	<25	
E	690	SK	I40	68	58	24	不定形	<25	
E	691	P	I38·J38	50	50	52	楕円形	<629	
E	692	SK	I38	70	70	30	楕円形	<629	
E	693	P	J40	46	40	44	楕円形	>19	
E	694	P	G36·37	30	24	54	楕円形	—	
E	695	P	H39	30	26	31	楕円形	<614	SH12
E	696	P	G35	30	26	6	楕円形	>139	
E	697	P	G35	28	24	22	楕円形	<139	SH13
E	698	P	H40	50	6	10	楕円形	—	
E	699	SK	H37	80	22	13	不定形	—	
E	700	SK	H37	116	58	25	長方形	—	
E	701	SK	H37	100	50	16	不定形	>710	
E	702	P	G34	20	20	11	円　形	<139	
E	703	P	G34	20	18	9	円　形	<139	
E	704	P	G34	34	30	12	楕円形	>139·185	SH13
E	705	P	G34	30	28	19	楕円形	<139	
E	706	P	I39	50	60	52	楕円形	>650	
E	707	P	I39	40	50	52	楕円形	>650	
E	708	P	J34	34	24	22	不定形	<547	
E	709	P	J34	30	30	15	楕円形	<547	
E	710	SK	H37	32	28	13	不定形	<701	
E	711	SK	D32·E32	(110)	(38)	17	不定形	—	
E	712	SK	D32·33	(230)	44	8	不定形	—	
E	713	P	K34	32	30	26	楕円形	>557	
E	714	P	I41	34	24	10	楕円形	—	
E	715	P	I40	40	40	23	楕円形	—	
E	716	P	H35	30	28	52	楕円形	—	
E	718	P	J31	48	18	40	不定形	>262	
E	719	P	J31	(40)	40	26	楕円形	—	
E	720	P	J31	20	16	11	楕円形	—	
E	723	SK	I29·30	150	70	26	不定形	>436	
E	724	SK	G29	130	124	23	正方形	—	
E	725	P	H35	24	24	35	楕円形	—	SH13
E	726	P	G35	20	18	31	楕円形	>727	
E	727	P	G35	20	(18)	41	楕円形	<726	
E	728	P	G35·36·H35·36	30	30	47	楕円形	>221	SH13
E	729	P	G36	20	18	32	楕円形	>152	
E	730	P	G36	20	20	32	楕円形	>135	SH13
E	731	P	G37	20	18	37	楕円形	<81	
E	732	P	H37	58	30	17	不定形	<130	
E	733	P	H37	40	38	19	楕円形	<130	
E	734	P	G37	30	20	34	楕円形	<130	
E	735	P	G35	28	28	18	楕円形	<139	SH13
E	736	SK	G36	104	(60)	15	正方形	>221 <175	
E	738	P	G35	40	30	27	楕円形	—	
E	740	P	G34	34	28	32	楕円形	—	
E	741	P	H30	24	22	25	楕円形	>439	
E	742	P	H30	50	42	44	楕円形	>439	
E	743	P	H30	46	30	15	楕円形	<439	
E	744	P	H30	28	24	8	楕円形	<439	
E	745	P	F30	50	40	30	楕円形	<420	SH19
E	747	P	F29	40	30	13	楕円形	<421	
E	748	SK	I30	68	54	15	楕円形	>271	
E	749	P	J30	50	(30)	20	楕円形	>271	
E	750	P	G29	30	26	34	楕円形	<573	
E	751	P	F29·30	44	36	35	楕円形	<420·752	SH19
E	752	SK	F29·30	(90)	90	13	不定形	<420 >751	
E	753	SK	E30	80	64	85	楕円形	<340	SH18
E	754	P	D29	40	35	49	円　形	—	
E	756	SK	E29	82	76	42	楕円形	—	
E	757	P	E28	44	38	64	楕円形	>418	
E	759	P	J32	54	34	74	楕円形	—	SH16
E	760	SK	I29	66	46	14	楕円形	—	
E	761	P	D28	56	50	35	円　形	<392	SH20
E	762	P	E31	48	48	57	楕円形	>406·520	
E	764	SK	E28	60	40	56	楕円形	<417	SH20
E	765	P	E29	40	32	36	楕円形	<402	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
E	766	P	E28	30	22	17	楕円形	—	
E	767	P	E30	30	30	14	楕円形	<406	
E	768	P	E30·31	30	30	15	楕円形	<406	
E	769	ST	J36·K36	(200)	(80)	14	不定形	>982·986·1195·1196·1197 1225 <845·984·1199·1221	土間状
E	770	P	K34	38	32	25	楕円形	—	
E	771	P	K34	30	30	18	楕円形	—	
E	772	P	K34	40	40	20	楕円形	—	
E	773	P	K34	40	28	31	不定形	—	
E	774	P	K34	24	24	8	楕円形	—	
E	775	P	K34	40	30	14	楕円形	—	
E	776	P	K35	32	30	30	楕円形	—	
E	777	P	K34·35	54	44	31	楕円形	—	
E	778	SK	K35	130	90	11	不定形	—	
E	779	SK	K35	70	50	32	不定形	—	SH14·SH15
E	780	P	K35	40	38	38	楕円形	—	
E	781	SK	K35	60	46	12	不定形	—	
E	782	SK	K35	70	34	20	不定形	—	
E	783	P	K35	48	40	14	不定形	—	
E	787	P	K35	20	20	27	楕円形	—	
E	788	P	K35	30	28	27	楕円形	—	
E	790	P	K35	34	30	27	楕円形	—	
E	791	P	K35	38	30	37	楕円形	—	
E	792	P	K35	56	50	16	不定形	—	
E	795	SK	K35	70	(50)	15	不定形	<814·1065	
E	796	P	K35	34	28	17	楕円形	—	
E	797	P	K35	30	24	11	楕円形	—	
E	798	P	K35	34	30	29	楕円形	—	
E	799	P	L35	(30)	(10)	36	不定形	—	SH14
E	800	P	L35	15	15	12	円　形	—	
E	802	P	K35	38	34	31	楕円形	—	
E	806	P	K35	30	28	20	楕円形	—	
E	807	SK	L36	(60)	40	8	不定形	<808	
E	808	P	L36	30	24	40	円　形	>807	
E	809	P	K35·36	40	40	20	円　形	—	SH14
E	810	P	K35	32	30	15	円　形	—	
E	812	P	J35	40	30	17	楕円形	—	
E	813	SK	J35·36 K35·36	210	70	13	長方形	>953·1169·1194 <954	
E	814	SK	K35·36	174	(103)	9	不定形	>795 <845·1065	
E	815	P	J36	38	30	44	楕円形	—	SH14
E	816	P	K35·36	36	30	34	楕円形	—	
E	818	P	K36	36	36	32	楕円形	—	
E	820	P	K36	50	34	28	楕円形	—	SH14
E	822	P	L36	56	24	50	不定形	—	
E	823	P	L36	24	24	27	円　形	—	
E	824	SI	L36	100	60	37	楕円形	>825	
E	825	ST	K36·L36	210	180	13	正方形	>827·1015·1084·1123 <824·830	土間状
E	827	P	K36	30	20	16	楕円形	<825	
E	828	P	L36	30	22	40	不定形	—	
E	829	SK	L36	60	56	13	正方形	—	
E	830	SI	L36	90	80	16	楕円形	>825·831	
E	831	SK	K36·37·L36·37	320	110	12	不定形	>969·971·975 <830·970·972·973·974	
E	832	P	J36	40	34	24	楕円形	—	
E	833	P	J36	40	38	38	楕円形	—	
E	834	P	J36	40	34	26	楕円形	—	SH14
E	835	P	J36	34	30	19	楕円形	—	
E	837	P	K36	30	28	33	楕円形	>838	
E	838	P	K36·37	34	30	12	楕円形	<837	SH14
E	839	P	K37	30	28	17	楕円形	—	
E	840	SK	K37	60	50	7	楕円形	>987	
E	841	P	K37	38	34	9	楕円形	—	
E	842	P	K37	40	38	10	楕円形	—	
E	843	P	K37	30	28	30	楕円形	—	
E	844	P	K37	30	30	6	楕円形	—	
E	845	SD	K36	(300)	74	19	N80°E	>769·814·985·986 <1065·1198	
E	846	P	L36	30	24	17	不定形	—	
E	847	P	L37	30	30	27	楕円形	—	SH14
E	848	P	L37	36	34	40	楕円形	—	
E	849	P	L37	40	(20)	40	不定形	—	SH14
E	850	P	L37	40	(34)	13	楕円形	—	
E	851	P	L37	20	20	21	円　形	—	
E	854	P	L37	30	14	11	不定形	—	
E	855	P	L37	40	26	38	不定形	—	
E	857	SK	L37	(120)	(30)	5	長方形	>1009	
E	858	ST	L37·38	(400)	(280)	20	不定形	>862·867·1029·1030·1031 1048·1058·1062·1063·1064 <865·1051	土間状
E	859	SK	L37	60	48	15	楕円形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
E	860	P	L37·38	56	50	14	円形	—	
E	861	P	K38·L38	34	30	63	不定形	—	
E	862	P	L38	44	36	14	楕円形	<858	
E	863	SK	L38	68	(24)	36	楕円形	—	
E	864	P	L38	32	24	28	楕円形	—	
E	865	P	L38	38	24	12	楕円形	>858	
E	866	SI	L38·M38	110	76	17	楕円形	>867·868	
E	867	SP	L38	110	88	120	楕円形	>1030 <858	
E	868	SK	L38·M38	112	(80)	11	不定形	<866	
E	871	P	M39	26	24	24	楕円形	—	
E	872	P	M39	20	20	21	円形	—	
E	873	P	L39	24	24	19	楕円形	—	
E	874	P	L39	22	22	18	楕円形	—	
E	875	P	L39	14	14	18	円形	—	
E	876	P	L38	30	30	64	楕円形	—	
E	877	P	L39	14	14	12	円形	—	
E	878	P	L39	20	20	17	円形	—	
E	879	P	L38	20	20	21	円形	—	
E	880	P	K38·L38	40	34	24	楕円形	—	
E	881	P	K38·L38	40	40	38	楕円形	—	
E	882	P	K38	30	30	16	楕円形	—	
E	884	P	K38	46	30	31	楕円形	—	
E	886	P	K38	26	20	24	円形	—	
E	888	P	K38	22	18	10	楕円形	—	
E	889	P	K38	36	28	24	楕円形	—	
E	890	SK	K38	(110)	(60)	10	不定形	>1059	
E	891	P	K38	28	(16)	17	不定形	—	
E	892	SK	K38	212	60	12	楕円形	>1018	
E	893	P	K38	30	30	27	楕円形	—	
E	894	SK	K38	156	60	10	長方形	—	
E	895	P	K38	32	26	22	楕円形	—	
E	896	P	J38	36	28	15	楕円形	—	
E	897	P	J38	40	38	19	楕円形	—	
E	898	P	J38	18	10	16	楕円形	—	
E	899	SK	J38	80	60	45	楕円形	—	
E	902	SI	J38	70	56	12	楕円形	—	
E	903	P	J39	40	40	18	楕円形	—	
E	904	P	J39	40	40	27	楕円形	—	
E	905	P	J39	30	30	20	楕円形	—	
E	908	P	J39	34	26	22	楕円形	—	
E	911	P	J39	40	30	23	楕円形	<912	
E	912	P	J39	42	40	44	楕円形	>911	
E	913	P	J39	36	34	29	楕円形	>963·964	
E	914	P	J39	52	40	28	楕円形	—	
E	916	SK	J40	(130)	92	46	不定形	—	
E	917	P	J39	54	40	37	楕円形	—	SH9
E	919	P	J39	36	32	34	楕円形	—	
E	920	P	J39	34	30	9	楕円形	—	
E	921	SK	J40	60	46	44	不定形	<922	
E	922	P	J40	46	(24)	16	不定形	>921	
E	924	P	J40	56	50	28	楕円形	—	
E	925	P	J40	30	30	38	楕円形	—	
E	926	P	J39·40	26	24	32	楕円形	—	
E	927	P	J39·40	30	30	18	楕円形	—	
E	928	P	K36	38	34	40	楕円形	—	
E	930	P	K36	48	40	40	楕円形	—	
E	931	SK	E30	60	50	30	楕円形	>407	SH18
E	932	P	F30	50	48	40	楕円形	<407	
E	933	P	F31	50	40	38	楕円形	<420	SH18
E	934	P	E29	50	40	36	楕円形	<406	
E	935	P	E30	26	24	18	楕円形	<406	
E	936	SK	D29·30	70	60	34	不定形	>370	
E	937	SK	D30	80	60	67	不定形	>370	
E	938	SK	D30	110	30	27	不定形	—	
E	939	P	D30	34	30	15	楕円形	<318	
E	940	P	D30	40	30	13	不定形	<370	
E	942	P	E31·F31	34	26	20	楕円形	<407	
E	943	P	J38	40	44	27	楕円形	—	
E	944	P	F30	40	40	32	楕円形	<407	
E	945	P	J38	50	40	26	楕円形	—	
E	946	P	F30	30	28	22	楕円形	<407	
E	947	P	K35	40	38	34	楕円形	—	
E	948	P	K36	30	30	28	楕円形	—	
E	949	P	K35	26	24	25	楕円形	—	
E	950	P	F29	34	30	37	楕円形	<407	
E	951	P	F28	46	40	12	楕円形	—	
E	952	P	F29	40	34	46	楕円形	<407	SH19
E	953	P	K35	38	32	35	楕円形	<813	
E	954	P	K35	32	30	30	楕円形	>813	SH14
E	955	SK	F30	70	58	30	楕円形	<407	SH18
E	956	SK	E30·F30	(90)	74	9	不定形	<407·966·1054	
E	957	P	K38	50	48	35	不定形	—	
E	958	P	K38	24	20	23	楕円形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形	切り合い関係	備考
				長さ	幅	深さ	方位（溝）	（>切る、<切られる）	
E	959	P	K38	40	38	21	楕円形	—	
E	960	P	G28	38	28	31	楕円形	—	
E	961	P	G28	50	46	35	楕円形	—	
E	962	P	J38	30	30	25	楕円形	—	
E	963	P	J39·40	42	40	48	楕円形	<913	
E	964	P	J40	40	38	51	楕円形	<913	
E	965	SK	E30·F30	70	58	55	楕円形	<407	
E	966	P	E30	30	26	13	楕円形	>956 <407	
E	967	P	E31	30	28	32	楕円形	<407	
E	969	SK	L36·37	(70)	50	16	不定形	<831	
E	970	P	L36	38	38	28	不定形	>831	
E	971	P	L37	30	20	15	楕円形	<831	
E	972	P	L37	46	34	25	楕円形	>831	
E	973	P	K36·L36	30	24	19	楕円形	>831	
E	974	P	K36	30	30	21	楕円形	>831	
E	975	P	K36·L36	40	30	23	楕円形	<831	
E	977	P	D29	30	28	33	楕円形	<391	
E	978	SK	D29	64	48	75	楕円形	—	
E	979	P	D29	22	22	15	楕円形	>394	
E	982	P	K36	30	30	32	楕円形	<769	
E	983	SK	K35	60	48	50	不定形	<1065	
E	984	P	K36	30	20	28	楕円形	>769	
E	985	P	K36	44	34	25	楕円形	>986 <845	
E	986	P	K36	48	34	50	楕円形	<769·845·985	SH14
E	987	P	K37	28	26	21	楕円形	>840	
E	988	SK	J38	70	50	24	不定形	—	
E	990	P	J38	50	44	18	不定形	—	
E	991	SK	J38	60	40	24	楕円形	—	
E	992	P	J38·K38	40	36	21	楕円形	—	
E	993	P	J38·K38	30	24	9	楕円形	—	
E	994	SK	J38	60	30	18	不定形	—	
E	995	P	J39	30	(20)	8	不定形	—	
E	996	P	J38·K38	30	26	11	楕円形	—	
E	997	P	J38·K38	38	30	30	楕円形	—	
E	999	P	F29	46	40	52	楕円形	<420	SH19
E	1001	SK	J37·K37	70	50	35	不定形	—	
E	1003	SK	J39	70	44	9	楕円形	—	
E	1004	P	J39	34	30	20	楕円形	>1005	SH9
E	1005	P	J39	26	24	27	楕円形	<1004	
E	1006	SK	J39	60	30	23	不定形	—	
E	1007	P	J39	40	28	30	不定形	—	SH9
E	1008	SK	L37	60	30	22	不定形	—	
E	1009	P	L37	40	28	9	楕円形	<857	
E	1010	P	L37	34	24	37	楕円形	—	
E	1011	P	K37	36	24	16	楕円形	—	
E	1014	SK	K36·37	(65)	(30)	20	不定形	—	
E	1015	P	L36	30	24	37	楕円形	<825·1123	
E	1016	SK	J39	80	60	34	楕円形	—	
E	1017	SK	J39	74	(50)	50	不定形	<1081	
E	1018	SK	K38	210	60	12	長方形	<892	
E	1020	P	K37	30	30	9	楕円形	—	
E	1021	P	E31	30	30	9	楕円形	>406	
E	1022	P	E30	40	40	30	楕円形	>317	SH17
E	1023	P	E30	40	30	32	楕円形	—	
E	1024	P	D30	28	20	60	楕円形	>1027	SH17
E	1025	P	D30	40	40	48	楕円形	>317	SH17
E	1026	P	D30	40	40	49	楕円形	>317·1027	
E	1027	P	D30	30	28	60	楕円形	<1024·1026	
E	1028	P	L37	40	40	53	楕円形	—	
E	1029	P	L38	18	18	9	円　形	<858	
E	1030	P	L38	56	46	44	楕円形	<858·867	
E	1031	P	L38	30	30	34	楕円形	<858	
E	1033	P	F30	36	36	18	楕円形	<420	
E	1034	P	F29	40	34	38	不定形	<420	
E	1035	P	F30	56	(30)	40	不定形	<294	SH18
E	1036	SK	E30·31	80	50	24	不定形	>407 <346	
E	1037	P	E31	30	30	14	不定形	—	
E	1038	P	H30	44	40	14	楕円形	<569	
E	1040	P	L38	46	(36)	22	不定形	—	
E	1041	P	D30	28	24	38	楕円形	>317	SH17
E	1042	P	E31	44	40	22	楕円形	>406	
E	1043	P	L38	50	34	18	楕円形	>1044	
E	1044	SK	L38	156	24	13	不定形	<1043	
E	1045	P	L38	26	26	26	円　形	—	
E	1046	P	L38	14	14	15	円　形	—	
E	1048	P	L38	24	40	13	楕円形	<858	
E	1049	P	G30	34	30	22	楕円形	<569	
E	1050	P	J32	50	34	21	楕円形	—	
E	1051	P	L38	36	26	19	楕円形	>858	
E	1052	P	E30·F30	60	50	40	不定形	<407	SH18

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
E	1053	P	F30	40	38	30	楕円形	>1055 <407	SH19
E	1054	P	F30	40	40	35	楕円形	>956 <407	
E	1055	P	E30・F30	(40)	30	13	不定形	<407・1053	
E	1056	P	F30	24	24	33	楕円形	<407	
E	1058	P	L38	28	28	30	楕円形	<858	
E	1059	P	K38・L38	58	50	56	楕円形	<890	
E	1060	P	K36	26	24	44	円　形	>1065	
E	1061	P	G31	46	34	13	楕円形	<512	
E	1062	P	L38	40	26	9	楕円形	<858	
E	1063	P	L38	28	18	7	不定形	<858	
E	1064	P	L38	22	18	10	不定形	<858	
E	1065	SK	K35・36	178	100	13	不定形	>795・814・983 <845・1060	
E	1067	P	K34	40	40	29	楕円形	<521	
E	1068	P	D30	24	18	3	不定形	<317	
E	1069	P	D30	30	28	38	楕円形	<317	
E	1070	P	D30	20	20	24	楕円形	—	
E	1072	SK	F29	60	30	12	不定形	<423	
E	1073	P	H31	40	30	19	楕円形	—	
E	1074	P	H32	56	50	14	楕円形	—	
E	1075	SE	H32・I32	370	350	383	円　形	<520	
E	1076	SK	I32	290	180	25	不定形	>519・520	
E	1077	P	J31	50	40	26	楕円形	>519	
E	1078	SK	J32	80	(20)	18	不定形	—	
E	1079	P	J36	46	44	37	楕円形	—	
E	1081	SK	J39	96	64	52	楕円形	>1017	
E	1083	SK	H28	100	73	9	楕円形	>1100	
E	1084	P	K36	30	26	37	楕円形	>1123 <825	
E	1086	SK	H29	60	40	10	不定形	—	
E	1087	P	H29	50	50	32	楕円形	—	
E	1088	P	H29	34	30	20	楕円形	—	
E	1090	P	I29	50	50	31	楕円形	—	
E	1091	SD	H29・I29	(590)	46	10	N06°W	—	
E	1092	SD	I28・29	(320)	70	8	N75°E	<1240	
E	1095	P	G28	20	18	21	円　形	—	
E	1096	P	G28	20	20	26	円　形	—	
E	1097	P	G28	36	24	15	不定形	—	
E	1098	SK	G28	60	38	21	不定形	—	
E	1099	SE	F28	370	270	560	不定形	>117・406・407・1134・1135	
E	1100	SD	D26・E26・27 F26～28・G27・28 H27・28・I27・28	2200	400	40	N16°W	>1210・1212・1213・1214・1215 1216・1219・C662・C665・C666 <1083・1142	
E	1101	SK	G28	150	140	20	不定形	>1224	
E	1102	P	F28	20	18	10	円　形	—	
E	1103	P	F28	18	18	12	円　形	—	
E	1106	SK	E28	150	120	27	楕円形	—	
E	1107	P	E28	30	30	17	楕円形	—	
E	1108	SK	E28	60	40	8	不定形	—	
E	1109	P	E28	30	30	21	円　形	—	
E	1111	P	E28	38	28	8	楕円形	—	
E	1112	P	E28	30	(16)	12	不定形	<1113	
E	1113	SK	E28	190	60	25	不定形	>1112・1263	
E	1115	P	E28	46	30	18	楕円形	—	
E	1116	P	E28	26	24	22	楕円形	—	
E	1117	SK	F28	150	130	256	楕円形	<1099	
E	1118	P	G29	32	26	8	楕円形	—	
E	1119	P	G29	30	30	9	楕円形	—	
E	1120	P	G29	36	30	21	楕円形	—	
E	1121	P	G29	40	26	30	不定形	—	
E	1123	P	K36・L36	28	(20)	20	不定形	<825・1015・1084	
E	1124	P	L38	28	20	28	楕円形	—	
E	1125	P	K38	32	24	9	楕円形	—	
E	1129	P	J38	40	40	28	正方形	>1130	
E	1130	P	J38	38	(30)	48	楕円形	<1129	
E	1132	SK	G28	70	68	25	楕円形	—	
E	1133	SD	G28・29・H28・29	(600)	70	21	N80°W	>1226 <569・1142	
E	1134	SK	G28	70	40	26	不定形	>420 <1099	
E	1135	SD	D27・E27・28 F28・G28・H28	(1800)	38	17	N15°W	>1099 <569	
E	1137	P	G28	38	40	12	楕円形	—	
E	1140	SK	G28	60	40	13	不定形	—	
E	1141	SK	G28	60	34	14	不定形	—	
E	1142	SK	H28	100	100	13	正方形	>1100・1133	
E	1143	P	D28	58	58	60	楕円形	—	SH20
E	1144	P	D28	50	(30)	8	長方形	>371	
E	1145	P	L37	26	20	26	楕円形	>1146	
E	1146	P	L37	20	20	10	不定形	<1145	
E	1148	P	G28	36	26	10	楕円形	—	
E	1149	P	G40	58	42	54	不定形	—	SH12

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
E	1150	P	H39	60	34	28	不定形	>50	SH12
E	1152	SK	I40	68	54	25	楕円形	—	
E	1153	SK	I40	64	50	54	楕円形	>603	
E	1154	P	I37	30	30	12	楕円形	—	
E	1155	P	H35	40	28	19	楕円形	—	SH13
E	1156	P	H34	26	20	10	楕円形	<221	SH13
E	1159	P	F34	28	24	12	楕円形	—	
E	1160	P	F36	38	30	40	楕円形	—	
E	1161	P	F36	28	24	26	楕円形	—	
E	1162	SK	F35·G35	100	90	40	楕円形	—	
E	1163	P	G35	20	18	15	楕円形	—	
E	1164	P	H35	24	20	13	楕円形	—	
E	1165	P	H35	20	20	31	楕円形	—	
E	1166	P	H36	36	36	25	楕円形	—	
E	1167	P	G34	34	30	34	楕円形	—	SH13
E	1169	P	K35	26	26	25	楕円形	<813	
E	1170	P	H35	40	40	36	楕円形	—	
E	1171	P	J34	24	24	11	楕円形	>547	
E	1172	SK	H35·I35	70	44	24	楕円形	—	
E	1173	P	K34	40	24	40	不定形	—	SH15
E	1174	P	J34	40	36	13	楕円形	—	
E	1175	P	J31	30	30	56	楕円形	—	SH16
E	1176	P	J31	34	30	40	楕円形	>519	
E	1177	P	J32	48	40	67	楕円形	<519	
E	1178	P	J32	50	50	54	楕円形	—	
E	1179	P	J32	30	24	12	楕円形	—	
E	1180	SK	I29	60	40	12	楕円形	—	
E	1184	P	G40	30	28	9	楕円形	<55	
E	1185	P	G40	24	24	16	楕円形	<55	
E	1186	P	I39	(28)	26	11	楕円形	<1188	
E	1187	SK	I39	60	60	25	楕円形	<1188	
E	1188	P	I39	46	30	23	楕円形	>1186·1187	
E	1189	P	I28	40	40	8	楕円形	<1100	
E	1191	SK	H39·I39	62	42	51	楕円形	—	
E	1192	P	L38	30	28	12	楕円形	<858	
E	1193	P	D28	50	50	27	楕円形	—	SH20
E	1194	P	K35	20	20	13	楕円形	<813	
E	1195	P	J36·K36	30	26	13	楕円形	<769	
E	1196	P	K36	38	30	23	楕円形	<769	
E	1197	P	K36	34	20	28	楕円形	<769·1199	
E	1198	P	K36	38	38	8	楕円形	<845	
E	1199	P	K36	26	18	33	楕円形	>97·1197 <769	
E	1200	SD	C26·27 D26·27 E27	(600)	500	120	N16°W	<C616	
E	1201	P	G30	40	36	40	楕円形	>1202 <581	SH19
E	1202	P	G30	40	(20)	40	楕円形	<581·1201	
E	1203	SK	F30	70	70	66	楕円形	—	SH18
E	1204	P	F30	48	42	13	楕円形	>1205	
E	1205	P	F30·31	50	40	23	楕円形	<1204	SH18
E	1206	P	F31	24	24	15	円　形	—	
E	1207	P	F31	40	30	16	楕円形	—	
E	1208	P	F31	28	26	19	楕円形	<407	
E	1209	P	F30	40	40	42	楕円形	>299·420	SH18
E	1210	P	I28	40	40	33	楕円形	<1100	
E	1212	P	H27·28	40	40	18	楕円形	<1100	
E	1213	P	H28	40	34	20	楕円形	<1100	
E	1214	P	H28	50	30	28	不定形	<1100	
E	1215	P	H28	50	38	8	楕円形	<1100	
E	1216	P	G27·28 H27·28	46	42	38	楕円形	<1100	
E	1218	P	G34	60	60	18	楕円形	—	SH13
E	1219	P	I28	54	50	43	楕円形	<1100	
E	1220	P	F31	28	24	10	楕円形	<520	
E	1221	P	K36	42	(20)	24	不定形	>769·1227	
E	1223	P	H28	50	50	29	楕円形	<569	
E	1224	SK	G28·29	146	(100)	18	楕円形	<1101	
E	1225	SK	K36	100	80	22	不定形	>769 <1227	
E	1226	P	G28	50	46	33	楕円形	<1133	
E	1227	SK	K36	60	24	24	不定形	>1225 <1221	
E	1228	P	D28	56	50	28	楕円形	>371	SH20
E	1230	P	C28	50	34	11	不定形	<393	
E	1231	SK	G31	60	60	25	楕円形	<512	
E	1232	P	G31	30	22	32	楕円形	>569	
E	1233	SK	G31	76	62	13	楕円形	<512	
E	1234	SK	G31	100	18	5	長方形	<512	
E	1235	P	G31	30	28	53	楕円形	<512	
E	1236	P	H28·29	50	48	33	楕円形	>569	
E	1237	P	H29	40	38	17	楕円形	<569	
E	1238	P	G31	50	24	20	不定形	<512	
E	1239	P	G31	30	30	24	楕円形	>512·520	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
E	1240	P	I28	40	36	21	楕円形	>1092	
E	1241	SK	I29	60	58	22	楕円形	—	
E	1244	P	F28	36	32	25	楕円形	—	
E	1245	P	I35·J35	30	28	31	楕円形	—	
E	1246	P	J36	46	40	11	楕円形	—	
E	1247	P	J35	30	30	30	楕円形	—	
E	1248	P	J35	40	40	38	楕円形	—	
E	1249	P	J35	50	40	28	楕円形	—	
E	1250	P	J35	34	30	27	楕円形	—	
E	1252	P	J35	28	22	24	楕円形	—	
E	1254	P	I36	58	20	8	不定形	—	
E	1255	P	J35	40	38	27	楕円形	—	
E	1261	P	H35	48	46	—	楕円形	>216	
E	1262	P	I35	30	22	—	楕円形	>538	
E	1263	SK	E28	(74)	(40)	77	不定形	<1113	SH20
E	1264	P	D30	28	24	36	円　形	>520	
E	1265	P	E30	34	24	27	楕円形	—	
E	1266	P	K35	40	30	11	楕円形	—	
E	1267	P	J35	30	26	23	楕円形	—	
E	1268	P	I35	26	24	18	楕円形	—	
E	1269	P	G34	30	30	38	楕円形	>139	
E	1270	P	G35	56	30	13	不定形	>221	
E	1271	P	F35	40	30	34	楕円形	—	
E	1272	P	E31	56	50	42	楕円形	<407	
E	1273	SK	E31	60	44	17	楕円形	<407	
E	1274	P	E31	40	38	21	楕円形	—	
E	1275	P	G29	50	42	44	楕円形	>329	
E	1276	P	D28·E28	50	24	11	不定形	>221	
E	1277	P	E28	50	42	12	不定形	—	
C	1	SD	F12	(70)	50	30	N15°W	—	
C	2	SQ	I27·28	124	(470)	160	不定形	<595·666	土墓
C	7	SD	F13	(NS 220) (WE 120)	60	8	N85°E N15°W	<10·B159	
C	9	P	F13	20	20	17	円　形	—	
C	10	SD	F13	(400)	56	44	N120°W	>7	B310
C	11	SK	F13	76	70	19	楕円形	—	
C	12	SK	F14	(240)	100	28	長方形	—	
C	13	P	F14	44	40	47	楕円形	—	SH24
C	14	P	F14	28	26	34	楕円形	—	
C	15	P	F14	28	24	20	楕円形	—	
C	16	P	F14	30	28	47	楕円形	—	
C	17	P	F14	30	28	17	楕円形	—	
C	18	P	F14	30	28	20	楕円形	—	SH24
C	19	P	F14	34	30	21	楕円形	—	
C	20	P	F14	22	22	31	楕円形	—	
C	21	P	F14	40	40	30	円　形	—	SH24
C	22	P	F14	24	24	28	円　形	—	
C	23	P	F15	26	26	22	円　形	—	
C	24	P	F15	38	36	30	楕円形	—	SH24
C	25	SK	F15	130	90	11	長方形	<564	
C	26	P	G15	28	28	21	円　形	>27	
C	27	SD	F14～16 G14～16	(NS 450) (WE 750)	90	54	N74°E N14°W	>552·553 <26·35·537·551	
C	28	P	G15	40	40	33	円　形	—	SA3
C	29	P	F15	38	38	36	円　形	—	SH24
C	30	SK	F15	(170)	78	18	長方形	>32 <77·536	
C	31	P	E15	40	38	36	楕円形	—	SH24
C	32	SK	E15·F15	110	90	13	不定形	<30	
C	33	SK	E15·F15	(250)	96	11	不定形	>402	B94
C	35	SK	F15·16	190	100	8	不定形	>27 <551	
C	36	P	F15·16	40	36	22	楕円形	—	SH24
C	37	P	G16	56	(14)	16	楕円形	—	
C	38	SK	E16·F16	290	126	15	不定形	>646·647	
C	39	SK	G16	(136)	120	17	長方形	>540·634	
C	40	P	F16	34	24	21	不定形	>41	SH23
C	41	SK	F16	(110)	90	17	不定形	>556 <40·535	
C	42	SK	E17·G17	220	120	20	長方形	<633	
C	43	SK	F17	(120)	106	7	長方形	>542	
C	44	P	F16	26	20	23	不定形	—	SH23
C	45	P	F17	31	31	31	楕円形	—	
C	46	P	F17	44	44	46	楕円形	—	SH23
C	47	P	G17	34	30	36	楕円形	—	
C	48	P	G17	48	30	21	楕円形	—	
C	49	P	G17	42	40	34	楕円形	—	SH23
C	50	SK	G17	70	40	23	不定形	—	
C	51	P	G17	34	34	23	楕円形	—	
C	52	P	G17	40	30	26	楕円形	—	
C	53	SK	F17·G17	190	120	19	長方形	>558 <54	
C	54	P	F17	30	30	33	円　形	>53	
C	55	P	F17	32	32	30	楕円形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
C	56	P	G17	24	24	25	楕円形	—	
C	58	P	G17	34	24	21	楕円形	—	
C	59	SK	E16 F16·17	220	194	9	不定形	>644·646·653 <645	
C	61	SK	F17	100	(70)	6	長方形	<632	
C	62	P	F17	50	42	30	不定形	—	
C	63	SK	E17·F17	(280)	150	19	不定形	>657 <639·641·642	
C	66	P	F14	34	34	26	楕円形	—	
C	67	P	F14	40	36	14	楕円形	>72	
C	68	P	F14	30	28	35	楕円形	—	
C	69	P	F14	40	32	25	楕円形	—	
C	70	P	F13	30	30	25	楕円形	—	
C	72	SD	E14·F14	(490)	110	12	N9°W	>538 <67·539·B39	B46
C	73	SK	F15	94	60	12	楕円形	—	
C	75	SK	F15	118	50	60	長方形	>77	
C	76	P	G15	36	30	42	楕円形	—	
C	77	SK	F15	160	78	52	不定形	>30 <75	
C	79	SD	E15·16·F16	(214)	24	8	N9°W	—	B111
C	81	P	F16	38	38	29	楕円形	>646	
C	83	P	G18	30	26	21	楕円形	—	
C	84	SK	F18·G18	124	120	17	長方形	>85	
C	85	SK	E18·F17·18	420	260	23	不定形	>557·638·651 <84·86·93	
C	86	SK	E18·F18	214	130	11	長方形	>85·637 <87	
C	87	SK	E18	204	120	11	長方形	>86·88·B326	
C	88	SK	E18·F18	190	90	3	長方形	<87·655	
C	89	SK	F18	120	120	19	正方形	—	
C	90	P	F18	36	26	19	楕円形	—	
C	91	SK	F18	114	40	7	長方形	—	
C	92	P	F18	50	34	32	楕円形	—	
C	93	SK	F18·G18	226	120	9	不定形	>85·149	
C	94	P	G18	30	26	23	楕円形	—	
C	95	SK	G18	70	48	12	楕円形	—	
C	97	P	G18	46	44	16	楕円形	—	
C	98	P	G18	30	28	22	楕円形	—	
C	100	P	G18	36	36	10	楕円形	—	
C	101	P	G19	28	18	22	楕円形	—	
C	103	P	F18	40	34	18	楕円形	—	
C	104	P	F18	40	38	15	楕円形	—	
C	105	SK	F18	70	50	49	楕円形	—	
C	106	SK	F18·19	62	58	23	不定形	—	
C	107	SK	F18·19	106	100	15	正方形	—	
C	108	SK	E18	120	80	9	長方形	<128	
C	109	SK	E18·19	120	(110)	14	長方形	>512·B133·B331·B512·B518	
C	110	P	F18	38	28	29	不定形	—	
C	111	P	F18·19	46	36	19	楕円形	>113	
C	112	SK	G18·19	60	40	17	不定形	—	
C	113	SK	F18·19	180	100	17	不定形	<111	
C	117	P	G19	50	44	45	楕円形	—	
C	118	P	G19	30	24	9	不定形	—	
C	119	P	G19	54	34	54	楕円形	—	
C	120	P	G19	40	30	51	楕円形	—	
C	123	P	G19	40	36	21	楕円形	—	
C	124	P	G19	50	44	23	楕円形	—	
C	125	SK	E19·F19	122	100	14	正方形	—	
C	126	P	F19	20	20	14	楕円形	—	
C	127	SK	E19·F19	108	104	18	正方形	—	
C	128	P	E18	30	26	8	円　形	>108	
C	131	P	E19	20	18	20	円　形	—	
C	133	SK	E19	120	120	20	不定形	>B330·B331 <109	
C	134	P	E19	38	24	22	楕円形	—	
C	135	P	E19	40	38	36	楕円形	—	
C	136	P	E19	36	34	48	楕円形	—	
C	137	P	G17	30	30	17	円　形	—	
C	141	P	F20	(40)	40	35	楕円形	<142	
C	142	P	E20·F20	36	32	27	楕円形	>141	
C	143	SK	F19	140	100	14	長方形	—	
C	144	P	G19	30	30	14	楕円形	—	
C	149	SK	F18	60	30	14	不定形	<93	
C	152	P	G18	34	34	20	楕円形	—	
C	153	P	G18	30	30	9	円　形	—	
C	154	P	F18	34	20	12	不定形	—	
C	155	SK	F18	90	60	18	不定形	—	
C	156	P	F19	36	30	19	楕円形	—	
C	157	P	G19	30	20	10	楕円形	—	
C	158	P	G20	30	24	11	楕円形	—	
C	159	SK	G20	54	50	20	不定形	—	
C	160	SK	G20	70	70	31	楕円形	—	
C	161	P	G20	40	30	13	楕円形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
C	162	SK	F20	126	118	8	楕円形	—	
C	164	SK	D20·E20	(100)	64	4	長方形	<B188	
C	165	SK	E20	126	60	13	不定形	—	
C	166	SK	E20	150	48	15	不定形	—	
C	167	P	E21	28	24	20	楕円形	—	
C	169	P	E21	28	20	16	不定形	—	
C	170	P	E21	20	20	9	楕円形	—	
C	171	P	E20·21	28	24	35	楕円形	—	
C	173	P	E21	20	18	28	楕円形	—	
C	174	P	E21	22	20	17	楕円形	—	
C	180	P	E21	30	20	18	不定形	—	
C	182	P	E20	30	20	13	楕円形	—	
C	183	P	E20	30	24	25	楕円形	—	
C	184	P	E20	28	20	10	楕円形	—	
C	185	SK	E20·F20	70	30	28	不定形	—	
C	187	SK	G20	60	48	12	楕円形	—	
C	188	P	G20	46	40	32	楕円形	—	SH22
C	189	P	G20	36	36	17	楕円形	—	
C	190	P	G20	36	30	26	不定形	—	
C	191	P	G20	40	26	20	不定形	—	
C	192	P	G20	30	28	19	楕円形	—	
C	193	P	G20	36	32	19	楕円形	—	
C	194	P	G20	54	(40)	13	楕円形	>578	
C	195	P	F20	30	30	19	楕円形	—	
C	196	P	F20	36	34	20	楕円形	—	
C	197	P	G20	24	20	23	楕円形	—	
C	198	P	G20	36	30	26	楕円形	—	
C	199	SK	G20·21	68	50	11	楕円形	>629	
C	200	SK	G20·21·H20·21	226	(130)	30	正方形	>202·627·628·635·668	
C	201	P	G20	30	24	14	楕円形	—	
C	202	P	G21	30	30	35	楕円形	<200	
C	203	SK	G20	60	56	23	楕円形	>629	
C	207	P	G21	40	30	37	楕円形	—	
C	208	P	G21	40	30	34	楕円形	—	
C	209	P	G21	24	20	24	楕円形	—	
C	210	P	G21	54	40	24	楕円形	—	
C	212	P	G21	24	22	30	不定形	—	
C	213	P	G21	34	30	22	円　形	—	SH22
C	216	P	G21	34	30	38	楕円形	—	
C	217	P	G21	30	24	20	楕円形	—	
C	218	P	F21·G21	40	30	32	楕円形	—	
C	219	SK	F21·G21	72	40	58	不定形	<220	SH22
C	220	P	F21	30	(24)	14	不定形	>219	
C	221	P	F21	34	34	28	楕円形	—	
C	222	P	G21	40	24	33	楕円形	—	
C	224	SK	F19	66	34	24	楕円形	—	
C	225	P	F21	24	22	27	楕円形	—	
C	226	P	F21	28	22	11	楕円形	—	
C	227	P	F21	32	30	30	不定形	—	
C	229	P	F21	34	28	10	不定形	<231	
C	230	P	F21	24	20	24	楕円形	—	
C	231	P	F21	34	24	13	楕円形	>229	
C	232	P	F21	28	24	33	楕円形	—	
C	233	P	F21	24	24	23	円　形	—	
C	234	P	F21	28	28	34	不定形	—	
C	236	P	F21	20	20	17	円　形	—	
C	237	P	F21	26	20	35	楕円形	—	
C	238	P	F21	28	20	28	楕円形	—	
C	239	P	F21	24	20	16	楕円形	—	
C	241	P	F21	24	24	29	楕円形	—	
C	242	P	F21	28	28	29	楕円形	—	
C	243	P	F21	22	20	31	楕円形	—	
C	244	P	F21	30	26	27	楕円形	—	
C	245	P	F21	46	40	36	楕円形	—	
C	246	P	E21	26	24	35	楕円形	—	
C	250	P	F20	34	30	20	楕円形	—	
C	251	P	F21	30	28	13	楕円形	—	
C	252	P	F21	28	28	21	楕円形	—	
C	254	P	F22	30	24	24	楕円形	—	
C	255	P	F22	30	26	29	楕円形	>284	
C	256	P	G22	20	20	13	楕円形	—	
C	257	P	G22	24	20	32	円　形	—	
C	258	P	G22	36	24	23	不定形	—	
C	259	P	G22	34	30	24	楕円形	—	
C	261	P	G22	40	34	28	楕円形	—	
C	262	P	G22	38	30	28	楕円形	—	
C	263	P	H22	40	20	23	不定形	—	
C	264	P	F21	26	20	30	楕円形	—	
C	266	P	G21	26	26	12	楕円形	—	
C	267	P	H22	42	40	37	楕円形	—	
C	268	P	H22	34	24	27	楕円形	—	
C	273	P	E21·F21	22	20	28	楕円形	—	
C	274	P	E21	40	38	28	楕円形	—	
C	275	P	E21	20	20	26	円　形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
C	276	P	E21	20	18	12	楕円形	—	
C	278	P	F22	24	24	28	楕円形	—	
C	279	P	F22	24	24	16	楕円形	—	
C	281	P	F22	52	22	28	不定形	—	
C	282	P	F22	28	20	9	楕円形	—	
C	283	P	F22	30	30	12	円　形	—	
C	284	P	F22	30	(26)	12	楕円形	<255	
C	285	P	F21	24	24	19	円　形	—	
C	290	P	H22	50	44	14	楕円形	—	
C	293	P	G22·H22	36	34	34	楕円形	—	
C	294	P	G22	20	20	29	楕円形	—	
C	295	P	G22	34	30	10	楕円形	—	
C	296	P	G22	28	26	23	楕円形	—	
C	297	P	G22	50	40	16	楕円形	—	
C	298	P	G22	34	30	23	楕円形	<300	
C	299	P	G22	30	(20)	12	楕円形	<582	
C	300	SK	G22	200	70	11	不定形	>298 <302·582	
C	301	P	G22	28	26	9	楕円形	—	
C	302	P	G22	50	30	39	楕円形	>300	
C	303	P	G22	40	24	27	不定形	—	
C	305	P	E21	36	34	34	円　形	—	
C	306	SK	E22	100	100	11	円　形	—	
C	308	P	G20	44	24	25	不定形	—	
C	309	P	G22	28	28	32	円　形	—	
C	310	P	H22	38	30	28	楕円形	—	
C	312	P	H22	48	40	26	楕円形	—	
C	313	P	H22	50	42	16	楕円形	—	
C	314	SK	H22	86	70	23	楕円形	<315	
C	315	P	H22	40	30	38	楕円形	>314	
C	316	P	H22	30	28	48	楕円形	—	
C	317	P	H22	30	28	9	楕円形	—	
C	318	P	H22·23	28	20	23	楕円形	—	
C	319	P	H23	40	38	21	楕円形	—	
C	320	SK	G22·23	330	80	14	不定形	>618	
C	322	P	G22·23	24	20	31	楕円形	—	
C	323	P	G22	24	20	28	楕円形	—	
C	324	P	G22	40	22	28	不定形	—	
C	325	P	G22	28	28	33	楕円形	—	
C	326	P	G22	24	24	32	楕円形	—	
C	327	P	G22	20	20	24	楕円形	—	
C	328	P	G22	34	26	28	楕円形	—	
C	329	P	G22	24	20	26	楕円形	—	
C	331	SK	G21	70	54	47	不定形	—	SH22
C	336	P	F21	20	20	23	円　形	—	
C	339	P	F23	28	28	39	円　形	—	
C	340	P	F23	50	34	30	楕円形	—	
C	342	P	F23	30	28	33	楕円形	—	
C	343	P	F23	46	44	39	楕円形	—	SH21
C	344	P	G22	24	18	31	楕円形	—	
C	345	P	G22·23	24	24	30	楕円形	—	
C	346	P	G23	30	26	30	楕円形	—	
C	347	P	G23	26	20	40	楕円形	—	
C	348	P	G23	26	20	36	楕円形	—	
C	349	P	G23	40	18	36	不定形	—	
C	351	P	G23	36	30	31	楕円形	—	
C	353	P	G23	24	20	31	楕円形	—	
C	354	P	G23	36	30	38	楕円形	>363	
C	355	P	G23·H23	30	18	45	楕円形	—	
C	357	P	G23	24	24	37	楕円形	>364	
C	362	SK	G23·H23	294	90	13	長方形	>581 <593	
C	363	SK	G23·H23	290	90	8	長方形	>590 <354	
C	364	SD	G23·H23	(500)	36	13	N12°W	>583·584·586·587·588·625 <357	
C	367	P	H23	(40)	40	18	不定形	—	
C	368	P	H23	32	20	47	楕円形	—	
C	369	P	H23	36	36	9	楕円形	—	
C	370	P	H23	40	28	34	楕円形	—	
C	372	P	H23	30	20	38	楕円形	>374	
C	373	P	H23·24	24	20	36	円　形	>374	
C	374	P	H23	30	20	49	円　形	<372·373	
C	375	P	G23	44	40	21	楕円形	—	
C	376	P	G23·24	30	26	35	楕円形	—	
C	377	P	G24	40	38	39	円　形	—	
C	378	P	G24	40	34	28	楕円形	—	
C	379	P	G24	50	42	31	楕円形	—	SH21
C	380	SK	F23	68	50	49	不定形	—	
C	381	P	F23	44	38	41	楕円形	—	
C	382	P	G23	52	50	41	楕円形	—	SH21
C	384	P	F23	58	52	27	不定形	—	SH21
C	387	P	G20	26	20	27	楕円形	—	
C	388	P	G23	34	30	44	楕円形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
C	389	P	F23	(56)	20	8	不定形	>390	
C	390	P	F23	36	30	37	楕円形	<389	SH21
C	391	P	F23·24	32	28	10	楕円形	—	
C	392	P	G23	38	38	17	楕円形	—	SH20
C	393	P	G24	18	18	25	円　形	—	
C	394	SK	G24	60	24	21	不定形	—	
C	395	P	G24	42	30	29	楕円形	—	
C	396	P	G24	38	30	15	円　形	—	
C	397	P	G24	24	24	15	円　形	—	
C	398	P	G24	26	20	11	楕円形	—	
C	399	P	H24	24	20	33	円　形	—	
C	400	SK	H24	70	50	37	楕円形	—	
C	401	P	H24	58	56	42	楕円形	—	
C	402	P	H24	40	38	38	楕円形	—	
C	403	P	H24	58	50	34	楕円形	—	
C	407	SK	D21·E21	100	90	7	楕円形	—	
C	408	P	D21	20	18	9	楕円形	—	
C	410	SK	D21·22	180	100	13	不定形	—	
C	412	P	E21	22	20	17	楕円形	—	
C	416	P	E22	20	18	9	不定形	—	
C	418	SK	E22	134	110	8	長方形	—	
C	419	SK	E22	80	76	19	楕円形	—	
C	422	SK	D22	70	(40)	13	不定形	—	
C	423	SK	D22	180	90	30	長方形	—	
C	426	SK	E22	70	80	39	不定形	—	
C	428	SK	D22	130	100	7	正方形	—	
C	429	SK	D22·23	240	90	7	長方形	>450	
C	430	P	E22	30	24	20	楕円形	—	
C	433	P	D23	20	16	9	楕円形	—	
C	436	P	E22	26	26	8	楕円形	—	
C	437	P	E22	22	22	12	楕円形	—	
C	439	P	E23	40	30	12	楕円形	—	
C	440	P	E23	24	24	28	楕円形	—	
C	441	SK	E22·23	270	100	8	長方形	—	
C	442	SK	E23	146	76	15	長方形	—	
C	444	SK	E23	160	90	9	長方形	—	
C	448	SK	E23	190	110	23	長方形	<449	
C	449	P	E23	30	30	12	円　形	>448	
C	450	SK	D23	280	80	9	長方形	<429	
C	451	SK	F22·G22	60	40	27	楕円形	—	
C	453	SK	F23·E23	160	86	27	長方形	—	
C	454	P	F23	24	24	38	楕円形	—	
C	458	P	G24	50	46	40	楕円形	—	
C	459	P	G24	36	30	30	楕円形	—	
C	460	P	G24	38	24	30	楕円形	—	
C	461	P	G24	30	24	30	楕円形	—	
C	462	P	G24	34	30	13	不定形	—	
C	463	P	G24	54	50	39	楕円形	—	
C	464	P	H24	40	36	32	楕円形	—	
C	465	P	H24	42	36	47	楕円形	—	
C	466	P	H24	44	38	41	楕円形	—	
C	467	P	H24	28	28	32	楕円形	—	
C	468	SK	H24	106	(70)	35	楕円形	—	
C	470	P	H23	48	20	40	不定形	—	
C	473	SK	H26	(140)	90	24	不定形	—	
C	474	SD	C23·D23·D24 E23·24·F24·25 G25·H25·26 I26	(2900)	200	90	N24°W	>477 <510	D32
C	475	SD	D22·24·E23·24 F24·G24·25 H25	(2650)	200	42	N24°W	<661	
C	477	SD	C23·24·D23· D24·E24·F25· G25·26·H25·26	(2325)	110	37	N30°W	<474·478·485·595·610·656	D28
C	478	SD	D25·26·E25·26 F25·26·G25·26	(WE900) (NS1650)	70	34	N75°E N18°W	>477·479 <515	
C	479	SD	C25·26·D25·26 E25·26·F26 G26·27·H26·27 I26·27	(2950)	200	90	N23°W	>521·522·524 <478·526·529·595·656	D8
C	481	P	E24·25	28	24	39	楕円形	—	
C	484	P	E24	22	18	24	楕円形	—	
C	485	SK	D24	138	50	37	不定形	>477·610 <609	
C	488	P	D24	40	30	13	楕円形	—	
C	489	P	D24	28	24	17	楕円形	—	
C	492	P	D24	30	26	19	楕円形	—	
C	493	P	D24	54	30	14	不定形	—	
C	496	P	C25	26	26	10	円　形	—	
C	497	P	D24	20	16	11	楕円形	—	
C	498	P	D24·25	18	16	13	楕円形	—	
C	501	SK	E25	64	46	35	不定形	<502	
C	502	SK	D25·E25	76	44	53	不定形	>501	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
C	504	P	E25	30	30	10	楕円形	—	
C	505	P	E25	28	24	10	楕円形	—	
C	506	SK	E25	84	50	38	不定形	—	
C	507	SK	E25	80	78	49	楕円形	—	
C	508	P	E25	38	24	12	楕円形	—	
C	510	SK	F25	68	68	40	楕円形	>511·514	
C	511	SK	F25	(68)	60	41	楕円形	<510	
C	512	P	E25	50	40	12	不定形	—	
C	514	SD	E25·F25	(550)	50	10	N97°E	<510	
C	515	SK	F25·26	254	110	44	楕円形	>478	
C	516	P	F26	24	20	10	円　形	—	
C	517	P	F25	56	30	12	楕円形	—	
C	518	SK	E25·26	80	38	23	不定形	>656	
C	521	SK	D25	140	—	65	正方形	>479	
C	522	SK	C25·D25	128	76	8	長方形	>479	
C	523	SK	E26·F26	120	80	17	楕円形	>526	
C	524	SK	F26	84	(48)	8	不定形	<479	
C	526	SK	E26	106	(86)	38	楕円形	>479 <523·527	
C	527	P	E26	40	36	20	不定形	<526	
C	529	SK	E26	64	34	17	楕円形	>479	
C	531	P	F23	40	30	41	楕円形	—	
C	533	P	F22	46	44	9	楕円形	—	
C	535	P	F16	40	40	48	楕円形	>41	SA3
C	536	P	F15	30	30	20	円　形	<30	SH24
C	537	P	F14	22	20	21	楕円形	>27	
C	538	P	F14	36	36	33	楕円形	<72	
C	539	P	F14	20	20	32	楕円形	>72	
C	540	P	G16	50	30	28	不定形	<39	SH23
C	541	SK	F17	130	100	24	楕円形	>577 <542	
C	542	P	F17	40	36	43	楕円形	>541 <43	SH23
C	543	P	F17	20	18	13	楕円形	—	
C	544	P	F16·17	34	30	33	楕円形	—	
C	545	P	F17	26	26	17	円　形	—	
C	546	P	F16	40	16	11	不定形	—	
C	547	P	F16	36	30	32	楕円形	—	
C	548	P	F16	40	34	32	楕円形	—	
C	549	P	F17	30	24	10	楕円形	—	
C	551	P	F16	34	34	30	楕円形	>27·35	SH24
C	552	P	F16	48	(28)	26	不定形	<27	SA3
C	553	P	G16	24	(24)	43	不定形	<27	
C	554	P	F17	34	34	29	楕円形	—	SA3
C	555	P	F17	30	24	21	不定形	—	
C	556	P	F16	30	24	47	不定形	<41	
C	557	P	F18	60	44	8	楕円形	<85	
C	558	P	G17	26	22	32	楕円形	<53	
C	560	P	F19	46	30	11	不定形	—	
C	561	P	F19	30	20	8	不定形	—	
C	562	P	F19	26	20	12	楕円形	—	
C	563	P	F19	44	20	12	楕円形	—	
C	564	P	F15	40	34	56	楕円形	>25	SH24
C	566	P	E19	30	30	43	楕円形	—	
C	567	P	E19	50	46	53	楕円形	—	
C	568	P	F20	44	28	18	楕円形	—	
C	569	P	F20	50	20	24	不定形	—	
C	570	P	F20	40	30	32	楕円形	—	
C	571	P	F20	40	30	18	楕円形	—	
C	572	P	F21	34	28	16	楕円形	—	
C	573	P	F21	30	24	25	楕円形	—	
C	574	P	F21	30	30	25	楕円形	—	
C	575	SK	F20	70	30	17	不定形	—	
C	577	P	F17	50	42	21	円　形	<541	SA3
C	578	P	G20	54	30	46	不定形	<194	SH22
C	579	P	F22	46	30	18	不定形	—	
C	580	P	H22	54	50	19	楕円形	—	
C	581	P	H23	40	30	14	楕円形	<362	
C	582	P	G22	48	42	30	楕円形	>299·300	
C	583	P	H23	30	28	40	楕円形	>364	
C	584	P	H23	40	20	28	楕円形	>364	
C	586	P	H23	24	20	23	楕円形	<364	
C	587	P	G23	24	20	23	楕円形	<364	
C	588	P	G23	54	50	24	楕円形	<364	SH21
C	590	P	G23	50	28	36	不定形	<363	
C	593	P	G23	30	24	27	楕円形	>362	
C	594	P	G24	40	40	36	楕円形	—	
C	595	SD	H25～27	(870)	100	38	N13°W	>2·477·479·656	
C	597	P	G23	40	36	37	楕円形	—	
C	600	SK	G21·22	128	70	40	不定形	—	
C	601	SK	E26	78	40	19	長方形	>602	
C	602	SK	D26·E26	90	(88)	32	不定形	<601	
C	603	SK	E26	60	40	23	楕円形	—	
C	605	SK	E27	60	60	29	不定形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
C	606	SK	E27	80	38	24	不定形	—	
C	607	SK	D26·27	78	50	31	楕円形	—	
C	608	SK	E27	220	62	25	—	—	
C	609	P	D24	40	38	14	楕円形	>485	
C	610	SK	D24	106	50	37	不定形	>477 <485	
C	611	P	D24	24	20	24	楕円形	—	
C	612	SK	E24	60	56	14	楕円形	—	
C	616	SK	E27	60	34	11	不定形	>E1200	
C	617	P	F25	50	44	13	不定形	—	
C	618	P	G22	34	28	34	楕円形	<320	
C	625	P	H23	20	20	24	楕円形	<364	
C	626	P	G23	40	38	41	楕円形	—	
C	627	SK	G21·H21	80	60	31	楕円形	>200	
C	628	P	G21	44	60	57	不定形	<200	SH22
C	629	SK	G20·21	170	54	18	楕円形	>635 <199·203	
C	630	SK	G21	160	64	12	不定形	>636	
C	632	P	F17	34	24	40	不定形	>61	
C	633	SK	G17	96	76	51	楕円形	>42	
C	634	P	G16	24	24	41	円　形	<39	
C	635	SK	G20	130	54	7	長方形	<200·629	
C	636	SK	G21	110	98	22	不定形	<630	
C	637	SK	E18	70	54	20	楕円形	<86	
C	638	SK	F17	(100)	(80)	6	長方形	<85	
C	639	SK	E17·18 F17	250	180	20	不定形	>63 <640	
C	640	P	F17	40	40	20	楕円形	>639	
C	641	P	E17·F17	34	30	9	楕円形	>63	
C	642	SK	E17	196	100	5	長方形	>63·B156	
C	643	SK	F17	60	40	8	不定形	—	
C	644	P	F17	40	34	17	不定形	<59	
C	645	SK	E16·17 F16·17	146	120	10	不定形	>59·652	
C	646	SK	E16·F16	240	180	20	不定形	>647·650·654 <38·59·81·649	
C	647	SK	E16	(180)	94	9	不定形	>667 <38·646	
C	649	P	F16	30	30	44	楕円形	>646	
C	650	P	F16	34	30	24	楕円形	<646	
C	651	P	F18	24	24	17	円　形	<85	
C	652	P	E17·F17	30	24	—	楕円形	<645	
C	653	P	F16	24	24	19	円　形	<59	
C	654	P	F16	54	32	27	不定形	<646	
C	655	P	E18·F18	54	50	51	楕円形	>88	
C	656	SD	G26·27	(NS1300) (WE430)	38	31	N84°W	>479 <477·518·595	
C	657	P	E17	40	38	—	楕円形	<63	
C	661	SK	H24·25	106	78	27	楕円形	>475	
C	662	SK	F27	88	40	15	不定形	<E1100	
C	665	SI	F27	140	122	25	不定形	>666·E1100	
C	666	SD	G27·H27·I27	(1250)	100	8	N10°W	>2·E1100	
C	667	P	E16	30	30	61	不定形	<647	
C	668	P	G20	50	40	22	楕円形	<200	
D	1	SK	C27	—	—	23	不定形	>2	
D	2	SD	C26・27	(522)	(125)	43	N76°E	>4 <1	
D	3	SK	C27	—	45	6	不定形	—	
D	4	SD	C26	(158)	42	5	N15°W	<2	
D	5	SK	C26	70	25	9	楕円形	>6	
D	6	P	C26	—	28	7	楕円形	<5	
D	8	SD	B25・C25	(553)	320	89	N14°W	<9・15	
D	9	SK	C25	90	72	14	楕円形	>8・15	
D	10	P	C25	48	38	9	楕円形	—	
D	11	SK	B25 C24・25	81	74	17	楕円形	>13	
D	12	SK	C25	79	13	7	楕円形	—	
D	13	SK	B24・C24	97	—	17	楕円形	<11	
D	15	SD	C25	(800)	260	40	N14°W	>9 <8·65	
D	16	P	C24	43	40	19	円　形	—	
D	17	P	C21	18	16	5	円　形	—	
D	18	P	C24	27	25	13	円　形	—	
D	19	SK	B24	—	—	3	—	—	
D	20	P	B24	—	34	16	円　形	<21	
D	21	P	B24	39	34	15	円　形	>20 <33	
D	22	SK	C23	—	59	8	隅丸方形	<28	
D	23	SK	B23	—	58	10	隅丸方形	—	
D	24	SK	B23	99	73	13	隅丸方形	>28	
D	25	P	C24	27	26	7	円　形	—	
D	26	P	C24	27	26	7	円　形	—	
D	27	P	C21	34	17	27	楕円形	>29	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
D	28	SD	B23·C23·24	(900)	138	46	N15°W	>22 <24・68	
D	29	P	C21	—	34	37	楕円形	>40 <27	
D	30	SK	B22	62	44	7	楕円形	>31	
D	31	SD	B22	(120)	48	10	N22°W	>32 <30	
D	32	SD	B22·C22·23	(1600)	360	55	N24°W	<31·34·36·42·69	
D	33	SD	B22	(780)	120	32	N24°W	>21 <34	
D	34	SI	C22	68	20	20	楕円形	>32·33	
D	36	SD	C21	(760)	130	30	N19°W	>32·37 <40·41·43	
D	37	SD	A21·B21·22 C21·22·D22	(1500)	210	44	N24°W	<36・40・41・42・43	
D	39	P	C22	49	38	8	楕円形	—	
D	40	SD	C21·22	(690)	100	11	N72°E	>36·37 <29·41	
D	41	SK	C21·22	106	83	17	楕円形	>37	
D	42	P	C22	26	25	13	円　形	>32·37	
D	43	SK	D22	150	73	18	隅丸方形	>36·37	
D	44	SK	D21	168	86	29	隅丸方形	>72 <73	
D	45	SK	C21	75	61	9	楕円形	—	
D	46	SK	C21·D21	133	—	6	隅丸方形	<47·48	
D	47	SK	C21·D21	120	59	39	不定形	<46·48	
D	48	SK	C21	185	63	13	隅丸方形	>46·47	
D	51	P	B20	46	39	9	楕円形	—	
D	52	P	B20	37	36	8	円　形	—	
D	53	P	B20	29	29	9	円　形	—	
D	54	P	B20	39	35	10	円　形	—	
D	55	P	B20	49	45	36	楕円形	—	
D	57	SK	B20	—	82	7	—	—	
D	59	SK	A19·20·B19·20	83	74	12	楕円形	—	
D	60	SK	A19·B19	—	99	3	—	>67·70·71	
D	61	SK	A20	90	42	4	隅丸方形	—	
D	62	SK	A20	—	77	27	—	—	
D	63	P	A20	49	45	36	不定形	—	
D	64	P	A20	54	39	27	楕円形	—	
D	65	SK	C25	72	60	12	楕円形	>15	
D	66	P	B22	29	24	6	楕円形	—	
D	67	P	B19	39	39	40	円　形	—	
D	68	P	C23	26	26	24	—	>28	
D	69	SK	C22	85	75	44	不定形	>32	
D	70	P	B19	26	24	36	円　形	<60	
D	71	P	B19	42	36	14	楕円形	<60	
D	72	P	D21	57	—	19	楕円形	<44	
D	73	P	D21	43	21	30	不定形	>44	
D	74	P	B19	37	33	12	円　形	—	
B	1	SK	F11	120	76	13	長方形	—	
B	2	P	F11	44	36	25	楕円形	>24	
B	3	SK	E11	94	60	44	楕円形	—	
B	4	SK	E11	(288)	76	7	長方形	<5	
B	5	SK	E11	80	80	33	楕円形	>4	
B	6	P	E11	46	36	30	不定形	—	SH29
B	8	SK	E10·11	300	146	9	長方形	—	
B	9	P	E11·D11	40	30	41	楕円形	—	SH29
B	10	SK	D11	120	60	16	長方形	—	
B	11	P	D11	46	40	57	楕円形	>252	SH29
B	12	P	D11	46	40	54	円　形	—	SH29
B	13	P	D11	30	30	30	楕円形	<247	SH29
B	14	P	D10	30	26	14	楕円形	—	H146
B	15	P	D10	20	20	29	円　形	—	
B	16	SK	D10	(130)	65	5	長方形	—	
B	17	P	D11	50	41	31	楕円形	—	
B	18	SD	C10·11	(270)	(260)	43	N72°E	>460 <452	H180
B	20	SK	D12	(118)	(40)	23	長方形	>450 <23·254·443	
B	21	SK	E12·13	170	78	7	—	>24·33·159	
B	22	SK	D12·E12	300	80	6	長方形	—	
B	23	SD	D11～13 E11·12·F12	NS1000 WE680	46	26	N15°W	>20·24·254·446 <310·443	
B	24	SD	E12·F11·12	(718)	56	16	N75°E	>27·446 <2·21·23·159·253	
B	25	P	E12	46	30	48	楕円形	—	SH28
B	27	SK	E12	340	80	19	長方形	>24·255	
B	28	P	E12	24	20	19	楕円形	>30	
B	29	SK	D12·E12	330	80	7	長方形	>404·405	
B	30	P	E12	36	34	34	楕円形	<28	SH28
B	31	P	E13	30	26	26	円　形	—	
B	32	SK	E13	310	86	9	長方形	>409	
B	33	SK	E12·13	320	94	14	長方形	>71 <21	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
B	34	P	E13	28	24	34	円形	—	
B	35	P	E13	30	30	32	円形	—	
B	36	P	E13	20	20	13	円形	—	
B	37	P	E13·14	38	24	12	不定形	—	
B	38	P	E13	24	22	40	不定形	—	SH27
B	39	SK	E14	76	58	25	不定形	>46·C72	
B	41	P	E14	46	30	43	不定形	—	
B	42	P	E14	30	26	60	楕円形	—	SH27
B	43	P	E14	40	26	15	長方形	—	
B	44	P	E14	50	46	49	楕円形	—	SH27
B	45	P	E14	24	20	34	楕円形	—	
B	46	SD	D13·14·E13·14 F14	(700)	64	15	N77°E	<39·112·265	C72
B	47	SK	D14·E14	390	60	9	不定形	>425·426·427·429·430·459 <283·424	
B	49	P	D14	26	28	20	不定形	<266	
B	50	P	D14	36	34	25	不定形	—	
B	51	P	D14	40	40	28	楕円形	—	SH26
B	52	SD	B15·16 C13～15	(1850)	30	4	N13°W	>416·417 <96·310·414·447	
B	53	SD	B13·B14 C11～14	(1500)	40	11	N76°E	>451·535 <310·448	
B	55	P	C13	24	20	34	不定形	—	
B	57	P	C13·14	34	34	34	不定形	<237	
B	58	P	D13·14	46	36	44	不定形	>268	SH26
B	59	P	D14	34	30	38	不定形	—	
B	60	P	D14	24	18	38	不定形	—	
B	61	P	D14	40	24	35	不定形	—	
B	62	P	E14	26	24	17	不定形	—	
B	63	P	D14	20	20	29	不定形	—	
B	64	P	D14	30	30	53	円形	—	SH26
B	65	P	D14	30	20	32	不定形	<66	
B	66	SK	C14·D14	190	80	8	長方形	>65 <421·423·431	
B	67	P	C14	22	22	48	不定形	—	SA5
B	68	P	C14	26	26	15	円形	—	
B	69	P	C14	20	18	24	円形	—	
B	71	P	E12	30	24	32	楕円形	<21·33	
B	72	SK	D14·E14	246	90	5	長方形	>428	
B	73	P	E14	24	20	43	楕円形	—	
B	74	P	E14	24	24	42	円形	—	SH27
B	75	P	E14	26	26	36	円形	—	
B	76	P	E14	50	48	42	楕円形	—	SH24
B	77	P	E14	48	44	32	楕円形	—	SH24
B	78	P	E14·15	46	40	45	楕円形	—	SH27
B	79	SK	C15	90	50	41	不定形	—	
B	80	P	C15	28	20	14	楕円形	—	
B	81	P	C15	48	40	15	不定形	—	
B	82	SK	C15	76	74	40	不定形	—	
B	83	P	C16	20	20	57	円形	—	
B	84	SK	C15·16	70	66	35	円形	—	
B	85	P	D16	20	18	21	楕円形	—	
B	86	P	C15	30	28	32	円形	—	SH26
B	87	P	D15	30	28	33	楕円形	—	SH26
B	88	SK	D15	60	50	14	不定形	—	
B	90	SK	D15·E15	84	84	16	正方形	—	
B	92	P	E15	38	30	40	不定形	—	SH24
B	93	P	E15	24	24	9	円形	—	
B	94	SK	E15	(248)	126	11	不定形	<402	C33
B	96	SK	B16·C16	128	70	20	長方形	>52	
B	97	P	B16	26	22	14	楕円形	—	
B	98	P	B16	34	28	14	楕円形	—	
B	100	P	C16	56	30	12	不定形	—	
B	101	P	C16	30	26	47	楕円形	—	
B	103	P	C16	34	20	28	楕円形	—	SA5
B	104	SK	C16	60	50	39	不定形	—	
B	105	SK	C16·D16	68	68	19	楕円形	—	
B	106	P	D13	30	30	39	円形	—	SH26
B	107	P	D15	20	18	26	円形	—	
B	108	P	D14	30	30	9	不定形	—	
B	109	P	D14	44	42	42	楕円形	—	
B	110	P	E15	24	20	25	円形	—	
B	111	SD	E15·16	(280)	48	15	N14°W	—	C79
B	112	P	E14	24	20	11	楕円形	>46	
B	113	P	C15	28	20	26	楕円形	—	
B	114	P	C16	24	20	15	円形	—	
B	115	P	C16	28	20	41	楕円形	—	SA5
B	116	P	C16	34	30	41	楕円形	—	
B	118	SK	B16·C16	(400)	80	7	楕円形	>432 <434	
B	119	P	C17	28	28	17	楕円形	—	
B	120	SK	C17	68	42	7	長方形	—	
B	121	P	C17	24	18	18	楕円形	—	
B	123	SK	D16	106	76	29	長方形	<124	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
B	124	P	D16	50	44	63	楕円形	>123	
B	125	P	E16	36	34	46	楕円形	—	
B	126	P	E16	40	34	29	不定形	—	
B	127	SK	E16	66	60	28	不定形	—	
B	128	P	E16	42	(24)	34	不定形	<129	
B	129	SK	E16	128	100	31	長方形	>128 <420	
B	130	P	E16	20	20	16	不定形	—	
B	131	P	E16·17	28	20	32	不定形	—	
B	132	P	B16·17	(40)	40	26	不定形	—	
B	133	SK	B17	76	56	26	楕円形	—	
B	134	P	B17	26	24	11	楕円形	—	
B	135	P	B17	24	24	10	楕円形	—	
B	136	P	B17	32	26	23	楕円形	<308	
B	137	P	B17	40	36	44	楕円形	—	
B	138	P	B17	30	30	30	円　形	—	
B	140	SK	B17·18	200	(138)	22	不定形	>476 <477	
B	141	P	C17	38	30	52	楕円形	—	SH25
B	142	SK	C17	208	90	11	長方形	—	
B	143	P	C17	26	24	14	楕円形	—	
B	144	P	C17	20	18	19	楕円形	—	
B	145	P	C17	24	24	26	楕円形	—	SH25
B	146	SK	C17·D17	220	98	13	不定形	—	
B	147	SK	C17·D17	170	78	9	長方形	>312·461	
B	148	SK	D16·17	200	116	28	長方形	>505 <321	
B	150	SX	D17·E17	380	190	12	不定形	>190 <503	
B	151	P	D17	18	18	32	円　形	—	SA4
B	152	P	E17	24	20	14	楕円形	—	
B	153	P	E17	24	22	14	楕円形	—	
B	154	P	E17	24	24	19	円　形	—	
B	155	P	E17	36	32	20	楕円形	—	
B	156	SK	E17	(150)	68	17	長方形	<456·C642	
B	158	P	E17	20	18	12	楕円形	—	
B	159	SK	E12·13 F13	(310)	130	26	長方形	>24·C7 <21	
B	160	P	B18	38	30	17	楕円形	—	SH25
B	161	SK	B18	86	86	7	楕円形	—	
B	162	P	B18	30	26	17	楕円形	—	
B	163	P	B18	32	30	15	楕円形	—	
B	164	SK	B18·19	100	(70)	8	不定形	>486	
B	165	P	B18	30	28	34	楕円形	—	
B	166	P	B18	28	28	19	楕円形	—	
B	167	P	C17·18	48	40	16	不定形	—	
B	168	P	C18	36	30	49	楕円形	—	SH25
B	169	P	D18	20	18	21	楕円形	—	SA4
B	171	SK	D17·18	240	108	5	楕円形	>466·496 <190	
B	172	P	D18	22	22	32	楕円形	—	
B	173	P	D17	30	20	6	楕円形	—	
B	174	P	D18	22	20	33	不定形	—	SA4
B	175	P	D18	30	40	19	楕円形	—	
B	176	SK	D18	230	90	16	長方形	<190	
B	177	SK	C18·D18	320	108	17	長方形	>480 <178·190	
B	178	P	D18	40	30	25	楕円形	>177	SH25
B	179	P	E18	36	28	24	不定形	—	
B	183	P	D20	20	20	13	円　形	—	
B	184	P	D20	26	24	13	円　形	—	
B	185	P	D20	20	20	11	不定形	—	
B	186	P	D20	30	20	18	不定形	—	
B	187	P	D20	24	22	14	不定形	—	
B	188	SK	D20	(320)	70	24	不定形	>C164	
B	189	P	D20	30	28	20	不定形	—	
B	190	SD	D17·18	858	34	13	N75°E	>150・171·176·177·466·469 470・503	
B	191	P	D20	20	12	22	不定形	—	
B	192	P	D20	20	16	15	不定形	—	
B	193	SK	D20	150	70	21	長方形	>479 <473	
B	194	P	D20	20	20	18	円　形	—	
B	195	P	D20	30	26	15	楕円形	—	
B	197	SK	D20	160	78	14	長方形	>230	
B	198	P	C20	22	20	13	不定形	—	
B	199	P	C20	48	38	11	不定形	—	
B	200	P	C19·20	20	20	12	円　形	—	
B	201	P	C20	20	18	18	円　形	—	
B	202	P	C20	20	20	15	円　形	—	
B	204	P	C20	20	20	15	円　形	—	
B	205	P	C20	24	20	25	円　形	—	
B	206	P	C20	24	20	26	楕円形	—	
B	209	P	C20	38	30	28	楕円形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
B	212	P	C20	40	34	28	楕円形	<390	
B	213	SK	D20·21	160	74	22	長方形	—	
B	214	P	D20	42	34	16	楕円形	—	
B	216	P	D21	54	46	10	不定形	>222	
B	219	P	D20	20	20	20	円　形	—	
B	220	P	D21	24	22	16	楕円形	—	
B	222	P	D21	40	30	15	不定形	<216	
B	223	SK	D21	(120)	80	18	長方形	—	
B	224	SK	D21	180	80	26	長方形	—	
B	225	P	D21	30	28	13	楕円形	—	
B	226	SK	D21	(60)	(18)	15	不定形	—	
B	227	P	D21	24	20	15	不定形	—	
B	228	P	D21	25	20	6	円　形	—	
B	229	P	C20	50	50	15	円　形	—	
B	230	P	D20	26	(20)	13	不定形	<197	
B	231	P	C21	20	20	8	円　形	—	
B	234	SK	B21·C20·21	(126)	70	8	長方形	—	
B	235	P	B20	24	24	38	楕円形	—	
B	236	P	B20	30	28	26	不定形	—	
B	238	P	B19	54	46	21	不定形	>57	
B	240	SK	C18	120	106	25	不定形	<488	
B	241	P	C18	38	30	40	楕円形	—	SH25
B	242	P	C18	36	28	50	楕円形	—	
B	243	P	C18	28	26	33	楕円形	—	SH25
B	244	P	B18	36	24	42	楕円形	—	SH25
B	245	P	B18	34	30	45	不定形	—	
B	246	P	C19	30	28	29	楕円形	—	SH25
B	247	P	D11	14	14	36	円　形	>13	
B	248	P	D10	22	22	27	円　形	—	
B	249	P	C11	40	40	32	円　形	—	SH28
B	250	P	D11	30	20	9	楕円形	—	
B	251	P	D11	24	20	31	円　形	>252	
B	252	SK	D11·E11	418	96	6	長方形	>408 <11·251	
B	253	SK	F12	370	80	14	長方形	>24	
B	254	SK	D12	(80)	66	40	長方形	>20·439 <23·443	
B	255	P	E12	40	36	17	楕円形	<27	
B	256	P	D13	26	26	39	楕円形	—	SH26
B	257	P	D13	36	26	11	楕円形	—	
B	260	P	E13	38	34	48	楕円形	—	
B	261	P	E14	50	34	48	楕円形	—	
B	262	P	E14	20	20	25	楕円形	—	
B	263	P	E15	34	24	48	長方形	—	SH27
B	264	P	E15	36	30	54	楕円形	—	
B	265	P	D13·14	40	36	12	楕円形	>46	
B	266	P	D14	18	24	10	楕円形	>49	
B	267	P	D13·14	30	28	11	楕円形	—	
B	268	P	D13·14	30	(20)	46	不定形	<58	
B	269	P	C14	26	26	48	楕円形	—	
B	270	P	D14	28	28	41	不定形	—	SH26
B	271	P	C14	20	20	45	不定形	—	
B	272	P	C14	30	24	8	不定形	—	
B	273	P	C14	26	18	15	楕円形	—	
B	274	P	C14·15	40	30	50	楕円形	—	SA5
B	275	P	C15	38	26	16	楕円形	—	
B	276	P	C15	24	20	33	楕円形	—	SA5
B	277	P	C14	22	20	30	円　形	—	SA5
B	278	P	C15	18	18	39	不定形	<290	
B	279	P	E12	30	44	72	不定形	—	SH28
B	280	P	D15	40	36	44	不定形	—	SH27
B	282	P	E15	28	28	57	円　形	—	SH27
B	283	P	D14	30	26	24	円　形	>47	
B	284	SK	D14	100	88	42	楕円形	—	
B	285	P	D14	24	22	17	楕円形	—	
B	286	P	C15	20	20	14	円　形	—	
B	287	P	C15	30	30	10	楕円形	—	
B	288	P	C15	20	14	22	楕円形	—	
B	289	P	C15	28	28	48	楕円形	—	SA5
B	290	P	C15	20	16	35	不定形	>278	SA5
B	291	P	D15	20	20	26	楕円形	—	
B	292	P	C15	20	18	35	円　形	—	SA5
B	293	P	C16	26	18	10	不定形	—	
B	294	P	C16	38	30	37	楕円形	—	
B	296	P	B16	30	28	39	円　形	—	
B	297	P	C16	26	24	38	円　形	—	SA5
B	298	P	C16	22	18	17	楕円形	—	
B	299	P	C16	23	20	12	楕円形	—	
B	300	P	C16	50	34	11	楕円形	—	
B	303	P	C16	26	24	12	円　形	—	
B	304	P	C16	24	20	57	楕円形	—	
B	305	P	C17	32	30	18	楕円形	—	
B	307	P	E17	24	24	14	不定形	—	
B	308	P	B17	30	(20)	29	不定形	<136	SH25

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
B	310	SD	C12·13·D13·E13·F13	(160)	100	44	N16°W	>23·52·53·521·522	C10
B	311	P	C17	18	14	13	楕円形	—	
B	312	P	C17·D17	24	22	28	不定形	<147	
B	313	P	C17	18	18	25	楕円形	—	
B	314	P	C17	24	22	29	楕円形	—	SH25
B	315	P	E16	18	16	25	円形	—	
B	316	P	D16	20	18	13	円形	—	
B	318	P	D16	30	30	23	円形	—	
B	319	P	D16	18	16	23	円形	—	
B	320	P	D16·17	24	24	39	円形	—	
B	321	P	D17	40	32	43	楕円形	>148	
B	322	P	D17	28	20	17	楕円形	—	
B	323	P	E17	28	24	16	不定形	—	
B	324	P	D17	28	26	28	不定形	—	
B	325	P	D17	24	20	21	不定形	—	
B	326	SK	E18	248	150	22	不定形	>468·478 <C87	
B	327	SK	D17·18·E17·18	154	44	10	不定形	—	
B	328	SK	D17·E18	210	96	18	長方形	>469·500	
B	329	P	D18	34	30	14	円形	<469	SH25
B	330	P	D19	20	20	17	円形	—	
B	331	SK	D18·19	60	28	19	楕円形	<C109	
B	332	P	D18	24	26	25	楕円形	—	SA4
B	333	P	D18	36	28	45	楕円形	—	SA4
B	334	P	D18	38	34	38	楕円形	—	
B	335	P	D19	20	18	27	円形	—	SA4
B	336	P	D19	34	26	18	円形	—	
B	338	P	D19	34	24	14	不定形	—	
B	339	P	C19	30	28	26	楕円形	—	
B	340	P	D19	24	20	10	楕円形	—	
B	342	P	D19	26	24	10	円形	—	
B	344	P	D20	30	18	12	楕円形	—	
B	345	P	D20	20	18	15	楕円形	—	
B	346	P	C19	24	20	12	円形	—	
B	347	P	C18	48	44	50	不定形	—	SH25
B	348	P	C18	44	36	44	不定形	—	
B	349	P	C17	16	16	8	円形	—	
B	350	P	C17	32	28	9	楕円形	—	
B	351	P	B17	20	18	47	円形	—	
B	353	P	D19	40	22	14	不定形	—	
B	354	P	C18	38	30	28	楕円形	—	
B	355	P	B18	30	18	25	不定形	—	
B	356	SK	B18	120	100	12	不定形	>485 <519	
B	357	P	B18	40	30	13	楕円形	—	
B	358	P	C18	30	26	26	楕円形	—	
B	359	P	B19	26	24	25	正方形	—	
B	360	P	B19·20	36	26	24	楕円形	—	
B	361	P	B19	20	18	20	円形	—	
B	362	P	B19	30	28	20	円形	—	
B	363	P	B19	30	30	21	楕円形	—	
B	364	P	B19	20	16	18	楕円形	—	
B	365	P	B19	22	16	14	楕円形	—	
B	368	P	C19	28	22	19	楕円形	—	
B	369	SF	B18·19·C18·19	(258)	194	6	長方形	>530 <527·529	土間状・カマド跡
B	370	P	C18	20	18	12	楕円形	—	
B	371	P	C18	16	14	16	円形	—	
B	372	P	C18	12	10	13	円形	—	
B	373	P	B19	22	20	20	楕円形	—	SH25
B	375	P	C19	30	30	24	不定形	—	
B	376	P	B18	30	28	13	不定形	>527	
B	377	SK	B19	110	78	15	長方形	>378	
B	378	SK	B19	90	(60)	17	楕円形	<377	
B	379	P	B19	26	26	20	楕円形	—	
B	380	P	B19	24	22	22	楕円形	—	
B	381	P	B18	(30)	20	23	不定形	>487	
B	382	P	B20	34	30	24	楕円形	—	
B	383	P	C19·20	50	30	12	不定形	>514	
B	384	P	C20	38	36	27	楕円形	—	
B	385	SK	C20	60	40	20	楕円形	—	
B	387	SK	C20	60	50	55	楕円形	—	
B	388	P	C20	20	20	30	楕円形	—	
B	389	SK	C20·21	130	80	21	長方形	—	
B	390	SD	C20·21	(560)	40	4	N71°E	>212·481·482·516·548	D40
B	391	P	C21	24	20	5	円形	—	
B	392	ST	C18·19·D18·19	240	120	27	長方形	>530 <526	土間状
B	393	P	D17	24	24	21	円形	—	
B	394	P	D16	26	26	26	円形	—	
B	395	P	D16	30	30	18	円形	—	
B	396	P	D16	20	20	28	楕円形	—	
B	397	P	D16	58	54	45	楕円形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
B	401	P	E15	32	32	42	円形	—	SH24
B	402	P	E15	40	30	39	楕円形	<94·C33	SH24
B	403	P	D15	20	20	11	楕円形	—	
B	404	P	D12	(30)	(18)	28	円形	>405 <29	
B	405	P	D12	(30)	(30)	36	円形	<29·404	SH28
B	406	P	C12	30	(20)	22	円形	—	SH28
B	407	P	C14	20	20	21	不定形	—	
B	408	P	E11	48	40	66	円形	<252	SH29
B	409	P	E13	20	20	20	円形	<32	SA6
B	410	P	E12	20	20	24	円形	—	SA6
B	411	P	E12	20	20	27	円形	—	SA6
B	413	P	C12	36	30	24	楕円形	—	SH28
B	414	P	C13	38	30	14	楕円形	>52	
B	415	P	C12	54	46	6	楕円形	—	
B	416	P	B15	24	18	29	楕円形	<52	
B	417	P	B16	34	28	46	楕円形	<52	
B	418	P	C15	24	20	36	楕円形	—	SA5
B	419	P	C16	28	26	38	楕円形	—	SA5
B	420	P	E16	28	24	41	不定形	>129	
B	421	P	D14	34	24	37	不定形	>66	SH26
B	423	P	D14	34	28	53	不定形	>66	SH26
B	424	P	E14	20	20	40	楕円形	>47	
B	425	P	E14	20	20	38	楕円形	<47	
B	426	P	E14	20	20	45	円形	<47	
B	427	P	E14	18	18	45	円形	<47	
B	428	P	E14	32	32	40	円形	<72	SH27
B	429	P	D14	24	20	20	楕円形	<47	
B	430	P	D14	22	20	25	楕円形	<47	
B	431	SK	D14	80	58	10	不定形	>66	
B	432	P	B16	26	26	12	円形	<118	
B	433	P	C16	28	28	10	円形	—	
B	434	SK	C16·17	196	100	19	長方形	>118	
B	435	SK	B16·17·C16·17	(370)	78	9	長方形	<436	
B	436	SK	C17	200	120	12	長方形	>435 <554	
B	437	SK	D11·12	120	96	9	長方形	>450 <440	
B	438	SK	C12·D12	150	90	6	長方形	>440 <439	
B	439	SK	C12·D12	180	90	22	長方形	<254·438·440	
B	440	SK	C12·D12	170	112	18	長方形	>437·439 <438	
B	441	SK	C12·D12	200	90	29	長方形	—	
B	442	P	D12	44	44	33	円形	—	SH28
B	443	SK	D12	80	62	52	不定形	>23·254 <20	
B	445	P	E16	20	18	30	円形	—	
B	446	P	F12	30	30	70	円形	<23·24	
B	447	P	C13	40	38	43	楕円形	>52	
B	448	P	C13	36	26	24	楕円形	>53	
B	449	SK	C12	64	60	41	不定形	—	
B	450	P	D12	50	40	38	不定形	<20·437	SH28
B	451	P	C13	20	18	13	円形	<53	
B	452	P	D10·11	42	36	28	楕円形	>18	SH29
B	453	P	C11·D11	40	38	47	円形	—	SH29
B	454	P	E16	38	34	21	楕円形	—	
B	456	P	E17	28	26	37	楕円形	>156	
B	457	P	D16	22	33	39	円形	—	
B	458	P	D17	28	28	35	円形	—	
B	459	P	D14	28	24	19	楕円形	<47	
B	460	P	C11	46	46	45	楕円形	<18	
B	461	P	D17	26	26	23	楕円形	<147	
B	462	P	D18	40	30	17	不定形	<466	
B	463	P	D16	32	32	44	楕円形	—	
B	464	P	E17	48	26	23	不定形	—	
B	465	SK	D14	118	90	23	不定形	>531·532·533	
B	466	SK	D17·18	220	86	13	長方形	>462·500 <171·190·328	
B	467	SK	C18	64	30	29	不定形	—	
B	468	SK	E18	64	58	21	楕円形	<326	
B	469	SK	C18·D18	310	110	12	長方形	>329 <190	
B	470	P	D17	28	20	42	楕円形	<190	
B	472	P	D20	20	20	20	円形	—	
B	473	P	D20	24	24	17	円形	>193	
B	474	P	D17	26	26	17	円形	—	
B	475	P	D17	46	30	32	円形	—	
B	476	P	B17	38	30	14	楕円形	<140	
B	477	P	B17	24	20	21	楕円形	>140	
B	478	P	E18	24	14	30	不定形	<326	
B	479	P	D20	30	24	23	楕円形	<193	
B	480	P	C18	34	32	62	楕円形	<177	
B	481	P	C20	24	20	16	円形	<390·548	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
B	482	P	C20	50	40	32	不定形	<390	
B	483	P	B19	26	18	11	楕円形	—	
B	484	P	C19	26	20	37	楕円形	—	
B	485	P	B18	20	16	21	楕円形	<356	
B	486	P	B18·19	40	38	20	円　形	<164	SH25
B	487	P	B18·C18	30	28	24	不定形	<381	
B	488	P	C18	50	—	20	—	>240	
B	491	P	B18·19	28	22	13	楕円形	—	
B	492	P	B19	42	38	21	不定形	—	
B	493	P	B19	24	24	24	不定形	—	
B	495	P	C20	50	40	18	不定形	—	
B	496	P	D18	20	20	20	円　形	<171	
B	497	P	D19	30	18	49	楕円形	—	
B	498	P	D20	20	18	11	円　形	<548	
B	499	P	D20	20	20	13	円　形	<548	
B	500	P	D17	24	24	26	楕円形	<466·328	SH25
B	501	P	D18	26	24	21	円　形	—	
B	502	P	C19	28	34	21	楕円形	>530	
B	503	P	D17	20	20	19	円　形	<150・190	
B	504	P	D18	28	26	17	楕円形	—	
B	505	P	D17	58	54	42	不定形	<148	
B	507	P	C19	26	26	14	円　形	—	SH25
B	508	P	C19	30	20	19	楕円形	—	
B	509	P	B18·19	20	20	27	楕円形	>528	
B	510	P	B18	20	20	5	楕円形	—	
B	511	P	B17·18	32	30	22	円　形	—	
B	512	SK	D18·E18	(200)	124	13	不定形	<C109	
B	513	P	B18	28	24	22	楕円形	—	
B	514	P	C19·20	40	30	15	楕円形	<383	
B	515	P	C20	18	16	31	円　形	<548	
B	516	P	C20	20	20	17	円　形	<390·548·C109	
B	518	P	D18·E18	20	20	30	円　形	—	
B	519	P	E13	20	20	28	円　形	>356	SA6
B	520	P	E13	20	18	19	円　形	—	
B	521	SK	D13	210	56	10	不定形	<310	
B	522	SK	D13	134	(80)	15	不定形	<310	
B	523	P	D12	20	20	14	円　形	—	
B	524	P	D11	20	20	12	円　形	—	
B	526	P	C18	34	34	61	楕円形	>392	
B	527	SK	B18·19	110	110	21	楕円形	>369·528 <376	
B	528	P	B19	24	22	30	楕円形	<509·527	
B	529	SK	C18	98	96	29	不定形	>369	
B	530	ST	C18·19	400	190	11	不定形	<369·392·502	土間状
B	531	P	D14	30	24	55	不定形	<465·531	
B	532	P	D14	36	(36)	36	不定形	<465·531	
B	533	P	D14	36	24	30	不定形	<465	
B	535	P	C13	(30)	(10)	38	不定形	<53	
B	536	P	D15	30	26	47	円　形	—	
B	537	P	E13	36	33	49	円　形	—	SH27
B	538	P	C13	30	28	39	楕円形	—	
B	541	P	D17	26	26	20	楕円形	—	
B	542	P	D16	22	22	17	円　形	—	
B	543	P	E17	14	14	15	円　形	—	
B	546	P	D16·17·E16·17	20	20	20	円　形	—	
B	547	P	D20	30	20	22	楕円形	—	
B	548	SK	C20·D20	190	70	8	長方形	>481·498·499·515·516 <390	
B	549	P	B19	34	30	25	不定形	—	
B	550	P	C20	24	24	18	円　形	—	
B	551	P	C11·12	48	40	32	円　形	—	SH28
B	552	P	C15	20	20	11	円　形	—	
B	553	P	C16	34	30	34	楕円形	—	
B	554	P	C17	24	24	10	楕円形	>436	
B	555	P	C18	38	38	52	楕円形	—	
H	1	SQ	E8	NS 860 WE 160	NS 220 WE 00	—	—	—	中世土壁
H	2	SD	I2	(520)	(50)	39	N77°E	—	
H	3	P	I1	48	30	20	楕円形	—	
H	4	P	F1	32	30	40	円　形	>42	
H	5	SK	H2	110	70	7	楕円形	—	
H	6	SK	H2	170	111	12	隅丸方形	—	
H	7	P	H1	30	30	19	円　形	—	
H	8	P	H1	35	28	16	隅丸方形	—	
H	9	P	H1	26	22	7	楕円形	—	
H	10	P	H1	21	21	15	円　形	—	
H	12	SK	G1·H1	174	91	9	不定形	>13	
H	13	P	H1	—	25	32	隅丸方形	<12	
H	14	P	G1	23	21	15	円　形	—	
H	15	SK	G1	93	—	18	楕円形	<154	
H	18	SK	G1	—	—	18	不定形	>42	
H	20	SK	G1	110	—	25	楕円形	<21	
H	21	P	G1	39	27	25	楕円形	>20	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形 方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
H	22	P	G1	32	29	26	円形	—	
H	23	P	G1	27	24	13	楕円形	—	
H	24	P	G1	23	21	30	円形	—	
H	25	P	G1	34	32	13	円形	—	
H	26	P	G1	38	29	24	楕円形	—	
H	27	P	G1	28	23	31	楕円形	—	
H	28	P	G1	32	22	17	楕円形	—	
H	29	P	G1	20	20	22	円形	—	
H	30	SK	H1·2·G1·2	98	50	6	楕円形	—	
H	31	P	G2	32	26	16	円形	—	
H	32	P	G2	22	—	15	円形	<33	
H	33	P	G2	24	20	17	楕円形	>32	
H	34	SK	G2	68	27	6	楕円形	<35・153	
H	35	P	G2	45	32	45	楕円形	>34	
H	36	P	G2	34	30	19	円形	—	
H	37	P	G2	27	26	30	円形	—	
H	38	SK	G2	82	63	39	楕円形	—	
H	39	P	G2	40	34	24	楕円形	—	
H	40	SK	G2	66	60	34	円形	—	
H	41	SK	G2	—	192	27	不定形	>155·43 <173	
H	42	SD	F1	(1200)	70	43	N12°E	>43·157·161·162 <4·18·44	
H	43	SD	F1	(WE 870) (NS 1400)	250	50	N70°E N16°W	>61 <41·42·44·79·155·169	
H	44	SD	F1	(WE 850) (NS 1300)	110	40	N70°E N16°W	>42·43	
H	45	SD	E1·F1	(600)	40	43	N13°W	—	
H	47	P	E1	50	42	8	楕円形	—	
H	48	SK	E2	—	127	28	楕円形	>166	
H	49	P	E2·F2	—	28	35	楕円形	<51	
H	51	P	E2	40	39	20	円形	>49	
H	52	P	E2	31	30	21	円形	—	
H	53	P	E2	40	35	19	楕円形	—	
H	54	P	E2	40	38	48	円形	>55	
H	55	P	E2·3	30	—	26	円形	<54	
H	56	P	G3·H3	54	44	17	楕円形	—	
H	60	P	G3	44	30	11	円形	—	
H	61	SD	D3·E3·G3·F3 H3	(1700)	85	40	N15°W	>149 <43·71·77·79	
H	62	P	F3	—	20	26	楕円形	<63	
H	63	P	F3	32	22	19	楕円形	>62	
H	64	P	F3	28	22	33	楕円形	—	
H	65	P	F3	32	24	48	楕円形	—	
H	66	P	F3	79	45	9	楕円形	>67·68	
H	67	P	F3	—	45	11	円形	<66·68	
H	68	P	F3	—	38	15	楕円形	>67 <66	
H	69	SK	F3·4	98	—	13	円形	<82	
H	71	SK	E3	88	—	12	楕円形	>61 <177	
H	73	P	E3	41	32	20	円形	—	
H	75	SE	G4	134	130	171	円形	<79	
H	76	P	G4	—	35	2	楕円形	—	
H	77	SK	G4	136	42	16	不定形	—	
H	78	P	G4·F4	34	30	27	円形	—	
H	79	SD	F5·F6·E6 G3～5	(2000)	180	48	N57°E	>43·61·75·80·118	
H	80	SD	G3·4·F4·5	(800)	30	24	N65°E	>179 <79	
H	81	P	F4	32	27	22	楕円形	—	
H	82	SK	F3·4	82	74	39	楕円形	>69	
H	83	P	F4	38	31	18	楕円形	—	
H	85	P	E4	42	35	43	楕円形	—	
H	86	P	E4	24	23	7	円形	>87	
H	87	P	E4	38	28	26	円形	<86	
H	88	P	E4·5	26	18	13	楕円形	—	
H	89	P	I1	35	33	24	円形	—	
H	90	P	H1	27	25	40	円形	—	
H	91	P	H2	25	21	16	楕円形	—	
H	92	P	H2	25	21	16	楕円形	—	
H	93	P	H2	31	30	19	円形	—	
H	94	P	H2	40	33	20	楕円形	—	
H	95	P	H2	42	32	13	円形	—	
H	96	P	G2・H2	28	23	26	楕円形	—	
H	99	P	H2	32	30	22	円形	—	
H	100	P	H2	26	25	19	円形	>101	
H	101	P	H2	—	22	19	楕円形	<100·102	
H	102	P	H2	25	23	19	円形	>101	
H	103	P	H2	36	23	7	隅丸方形	—	
H	104	P	G1·2	26	22	13	楕円形	—	
H	105	P	G2	37	28	12	楕円形	—	
H	106	P	F3	23	22	10	円形	—	
H	110	P	E5	34	24	19	楕円形	—	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形方位（溝）	切り合い関係（>切る、<切られる）	備考
				長さ	幅	深さ			
H	111	SK	D5	—	—	11	—	—	
H	112	SK	D5	130	98	46	不定形	—	
H	113	P	D5	47	40	8	楕円形	—	
H	114	P	D5·6·E5·6	78	59	8	楕円形	—	
H	117	P	E6	29	20	8	楕円形	—	
H	118	SD	E6	1300	70	7	N19°W	<79	
H	119	P	E6	25	25	4	円　形	—	
H	120	P	E6	25	22	6	楕円形	—	
H	121	P	E6	27	20	15	楕円形	—	
H	122	P	E6	27	20	15	楕円形	—	
H	123	P	D6·E6	37	32	10	楕円形	—	
H	124	P	D6	38	32	25	楕円形	—	
H	125	SK	D6	—	113	25	楕円形	>126	
H	126	SD	D5·6	(400)	(80)	14	N77°E	<125·128	
H	128	SD	D6·7·E7·F7	(1050)	105	35	N18°W	>126	
H	133	SK	C8·D8	—	36	9	隅丸方形	—	
H	134	SK	F9	—	—	17	楕円形	—	
H	135	SD	E8·9·10 F8·10·11	WE 950 (NS 1750)	50	15	N63°E N29°W	>180 <136	
H	136	SD	C10·D10 E7～10·F7	(WE 1500) (NS 680)	40	20	N70°E N10°W	>135·144·179·180·145	
H	137	P	D9	36	30	10	楕円形	—	
H	139	SK	F10	—	—	24	楕円形	—	
H	142	P	E10	—	53	15	楕円形	—	
H	144	SK	D10	148	68	12	隅丸方形	<136	
H	145	SD	D9·E9	(305)	80	26	N15°E	<136	
H	146	P	D10	35	29	14	楕円形	—	
H	147	SD	C8·9·D7·8	(1200)	70	40	N71°E	>179	
H	148	P	G3	43	40	17	楕円形	<149	
H	149	P	G3	46	—	10	円　形	>148 <61	
H	150	P	G4	52	22	10	楕円形	—	
H	151	P	E2	28	24	18	楕円形	—	
H	153	P	G2	22	17	30	楕円形	>34	
H	154	P	G1	29	27	52	円　形	>15	
H	155	SK	F2·G2	—	—	10	不定形	>43 <41	
H	156	P	H2	25	25	15	円　形	—	
H	157	P	E1	—	30	4	楕円形	<42	
H	160	P	F1	30	30	45	円　形	—	
H	161	P	F1	25	24	18	円　形	<42	
H	162	P	G1	—	—	37	楕円形	<42	
H	165	P	E3	56	—	26	楕円形	—	
H	166	SK	E2	—	82	12	楕円形	<48	
H	167	SK	G3	121	82	33	不定形	—	
H	168	P	F3	46	30	13	楕円形	>169	
H	169	P	G3	24	22	8	円　形	>43 <168·170	
H	170	P	G3	17	14	26	円　形	>169	
H	171	P	E1	29	28	16	円　形	—	
H	172	P	G1·2	20	20	30	円　形	—	
H	173	P	G2	80	76	34	円　形	>41	
H	174	P	E3	40	35	23	不定形	—	
H	175	P	E3	31	26	48	楕円形	—	
H	176	SI	C10	96	50	—	楕円形	>179<180	
H	177	P	E3	52	44	28	楕円形	>61·71	
H	178	P	E8	80	52	21	不定形	—	
H	179	SD	C9·D7～9 E7·8·F7·8	(WE 1300) (NS 500)	70	16	N74°E N20°W	<136·147·176·180	
H	180	SD	C10·D8～10 E8·F8	(WE 1500) (NS 800)	160	17	N75°E N10°W	>176·179·181 <135·136	B18
H	181	SD	D8·9	750	11	11	N75°E	>180	

第５表　掘立柱建物跡遺構一覧

遺構名	地区	桁行柱間数	梁行柱間数	柱形式	桁行長(m)	梁行長(m)	床面積(㎡)	柱穴平均サイズ（cm）			桁行柱間平均(m)	梁行柱間平均(m)	主軸方位	推定時期
								長軸	短軸	深さ				
SH1	A	2	1	側柱	6.60	3.12	20.59	37.60	34.80	56.20	3.30	3.12	N81°E	中世後期～中世末期
SH2	A	2	1	側柱	7.08	3.48	25.06	58.33	47.67	31.67	3.54	3.48	N72°E	中世後期～中世末期
SH3	F	2	2	総柱	5.88	3.72	21.87	50.25	45.75	38.63	2.94	1.86	N72°E	中世後期～中世末期
SH4	F	3	2	総柱	8.82	4.68	40.84	52.60	44.40	32.80	4.41	2.34	N17°W	中世末期
SH5	F	3	2	側柱	6.42	3.48	22.34	56.50	47.25	51.63	3.21	3.48	N26°W	近世前期
SH6	F	2	2	側柱	4.98	3.78	18.82	51.43	48.57	55.43	2.49	1.89	N24°W	中世後期～中世末期
SH7	G	5	3	総柱	9.48	5.64	53.47	53.57	52.33	39.13	1.89	1.88	N18°W	中世後期
SH8	G	3	2	総柱	6.36	4.32	27.48	32.90	28.58	23.83	2.12	2.16	N75°E	中世後期
SH9	G・E	3	2	総柱	6.18	5.40	33.37	41.11	33.80	28.70	2.06	2.70	N18°W	中世後期
SH10	G	2	1	側柱	6.12	2.82	17.26	37.20	31.67	23.83	3.06	2.82	N16°W	中世後期
SH11	G	3	3	総柱	7.20	5.82	41.90	37.50	30.00	18.75	2.40	1.94	N22°W	中世末期～近世前期
SH12	E	3	2	側柱	3.84	3.06	11.75	45.75	38.75	34.13	1.28	1.53	N75°E	中世後期以降
SH13	E	4	3	総柱	10.50	6.48	68.04	32.67	30.00	24.40	2.62	2.16	N70°E	中世後期
SH14	E	3	3	総柱	7.80	5.16	40.25	42.44	34.67	29.89	2.60	1.72	N17°W	中世後期
SH15	E	1	1	側柱	4.80	3.42	16.42	51.00	39.00	32.75	4.80	3.42	N77°E	中世末期～近世前期
SH16	E	1	1	側柱	3.90	2.40	9.36	46.00	36.00	58.67	3.90	2.40	N75°E	中世後期～中世末期
SH17	E	1	1	側柱	1.86	1.80	3.35	34.00	31.00	44.00	1.86	1.80	N48°W	近世前期
SH18	E	3	2	総柱	5.76	3.78	21.77	61.30	48.20	48.10	1.92	1.89	N21°W	中世後期
SH19	E	2	2	総柱	5.58	5.04	28.12	41.33	36.44	37.67	2.79	2.52	N13°W	中世末期
SH20	E	2	1	側柱	3.84	2.34	8.99	53.00	47.67	37.17	1.92	2.34	N12°W	中世後期以降
SH21	C	2	1	側柱	4.80	2.76	13.25	49.33	44.67	33.17	2.40	2.76	N18°W	中世後期
SH22	C	2	1	側柱	6.60	2.52	16.63	53.33	42.33	43.67	3.30	2.52	N72°E	中世後期
SH23	C	2	2	側柱	3.48	3.00	10.44	39.20	31.60	30.40	1.74	1.50	N22°W	中世後期
SH24	B・C	3	3	総柱	6.60	5.16	34.06	38.80	35.86	34.80	2.20	1.72	N68°E	中世後期
SH25	B	4	3	総柱	7.32	6.00	43.92	32.70	28.00	30.29	1.83	2.00	N13°W	中世後期
SH26	B	4	1	側柱	6.54	1.14	7.46	32.80	29.80	39.90	1.64	1.14	N78°E	中世後期
SH27	B	4	1	側柱	6.48	1.20	7.78	34.40	31.10	47.40	1.62	1.20	N77°E	中世後期
SH28	B	5	1	側柱	10.32	1.68	17.34	39.00	35.20	37.10	2.06	1.68	N14°W	中世後期
SH29	B	3	1	側柱	6.72	1.26	8.47	42.25	36.25	44.12	2.24	1.26	N14°W	中世後期

第６表　柱穴列遺構一覧

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形	切り合い関係（>切る、<切られる）	時期	備考
				長さ	幅	深さ				
A	77	P	P42	56	36	21	不定形	—	中世後期	SA1
A	78	P	P42	50	40	31	不定形	—	中世後期	SA1
A	160	P	P42	54	32	34	不定形	—	中世後期	SA1
A	69	P	O42	(50)	40	22	不定形	—	中世後期	SA2
A	125	P	P43	42	42	32	円形	<116	中世後期	SA2
A	192	P	O44	40	38	40	円形	<116	中世後期	SA2
A	206	P	O42	40	36	20	円形	<116	中世後期	SA2
C	28	P	G15	40	40	33	円形	—	中世後期	SA3
C	535	P	F16	40	40	48	楕円形	>41	中世後期	SA3
C	552	P	F16	48	(28)	26	不定形	<27	中世後期	SA3
C	554	P	F17	34	34	29	楕円形	—	中世後期	SA3
C	577	P	F17	50	42	21	円形	<541	中世後期	SA3
B	151	P	D17	18	18	32	円形	—	中世後期	SA4
B	169	P	D18	20	18	21	楕円形	—	中世後期	SA4
B	174	P	D18	22	20	33	不定形	—	中世後期	SA4
B	332	P	D18	24	26	25	楕円形	—	中世後期	SA4
B	333	P	D18	36	28	45	楕円形	—	中世後期	SA4
B	335	P	D19	20	18	27	円形	—	中世後期	SA4
B	67	P	C14	22	22	48	不定形	—	中世後期	SA5
B	103	P	C16	34	20	28	楕円形	—	中世後期	SA5
B	115	P	C16	28	20	41	楕円形	—	中世後期	SA5
B	274	P	C14·15	40	30	50	楕円形	—	中世後期	SA5
B	276	P	C15	24	20	33	楕円形	—	中世後期	SA5
B	277	P	C14	22	20	30	円形	—	中世後期	SA5
B	289	P	C15	28	28	48	楕円形	—	中世後期	SA5
B	290	P	C15	20	16	35	不定形	>278	中世後期	SA5
B	292	P	C15	20	18	35	円形	—	中世後期	SA5
B	297	P	C16	26	24	38	円形	—	中世後期	SA5
B	418	P	C15	24	20	36	楕円形	—	中世後期	SA5
B	419	P	C16	28	26	38	楕円形	—	中世後期	SA5
B	409	P	E13	20	20	20	円形	<32	中世後期	SA6
B	410	P	E12	20	20	24	円形	—	中世後期	SA6
B	411	P	E12	20	20	27	円形	—	中世後期	SA6
B	519	P	E13	20	20	28	円形	>356	中世後期	SA6

第7表　井戸跡遺構一覧

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形	切り合い関係（>切る、<切られる）	時期
				長さ	幅	深さ			
A	228	SE	O40·P40	124	116	268	円形	<118	近世前期
F	34	SE	P51	136	130	160	円形	—	近世中期以降
F	134	SE	Q48·49	230	188	188	隅丸方形	>308・312	近世中期
F	151	SE	P45	190	130	400	楕円形	—	中世末期
F	233	SE	O50	210	188	252	円形	>50	近世以降
F	370	SE	O49·P49	170	150	120	円形	>146·162·176·220 267·268 <128	中世後期以降
G	27	SE	J44·45	264	200	154	円形	>50·250　<28・33	中世後期
G	472	SE	K41	320	312	460	円形	>302	近世中期
G	473	SE	M42·43	—	—	—	円形	—	中世
G	482	SE	L41	150	129	150	楕円形	<302	中世前期～後期
E	109	SE	I37·38	230	220	150	円形	—	中世後期以降
E	112	SE	J37	370	250	290	楕円形	—	中世後期
E	656	SE	I40·41	230	210	160	円形	>2	中世末期～近世前期
E	1075	SE	H32·I32	370	350	383	円形	>520	近世前期～中期
E	1099	SE	F28	370	270	560	不整形	>406·1117·1134	江戸後期～幕末
H	75	SE	G4	134	130	171	円形	<79	中世前期

第8表　水溜め状遺構一覧

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			平面形	切り合い関係（>切る、<切られる）	時期
				長さ	幅	深さ			
A	117	SP	O41·42	320	270	104	楕円形	—	中世末期～近世
A	118	SP	P39·40 O39·40 Q40	698	358	120	不定形	>49・95・134·196 232·282 <122	近世中期以降
F	175	SP	P49·50 Q49·50	410	340	55	正方形	>132・162 <367	中世末期～近世末期
F	330	SP	R49	150	(90)	100	不定形	>54	中世後期～近世中期
F	380	SP	O45·46 P45·46	324	310	51	不定形	>313・314・368 <166・315	中世後期
F	396	SP	N49	168	84	54	不定形	<128	中世後期
E	653	SP	H40	200	80	84	長方形	>2	中世後期
E	655	SP	G40·41 H40·41	356	240	88	不定形	>1·2・55	中世後期～近世
E	867	SP	L38	110	88	120	楕円形	>1030 <858	中世前期

第９表　溝跡遺構一覧

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			方位	切り合い関係（>切る、<切られる）	時期	備考
				長さ	最大幅	深さ				
A	1	SD	Q36·37 P38～40 O40～43 N43·44	(1600)	95	40	N76°E	>9・225 <50・147・185	中世後期～近世後期	F65
A	11	SD	R36	(610)	170	36	N15°W	>134 <12・14・95	中世	
A	20	SD	R37	(270)	24	4	N15°W	<21・153	不明	
A	88	SD	P39	(158)	66	5	N10°W	<95・186	中世	
A	95	SD	Q36～39 P39～41	(800)	90	30	N63°E	>11・47・85・88・105・202 <118・183	中世末期～近世後期	
A	116	SD	O42～44	(1370)	75	13	N78°E	>125・139・173・190 192・206・238	近世前期以降	F50
A	123	SD	O41·42 P41·42 Q42	(1370)	60	9	N10°W	<177	中世後期～近世後期	
A	134	SD	R37 Q37～41	(760)	50	28	N80°E	>35・79・96・97・98・112 137・149・150・151 152・156・200・221・235 <11・34・36・99・114 118・155・236	中世末期～近世	
A	139	SD	N44·O44	(500)	50	3	N10°W	<116	近世	
A	147	SD	P38·Q38	(260)	86	10	N10°W	>1 <95	中世	
A	173	SD	N44·P44 O44	(660)	50	5	N15°W	<116・163・195	中世後期～近世後期	
F	15	SD	Q52·R52	(520)	70	14	N20°E	<50	近世	
F	16	SD	S51	(280)	48	12	N25°E	<5・6	近世	
F	50	SD	O44·45·50 N45～50 M48·49 P50 Q50·51 R51·52	(WE 2500) (NS 3000)	200	43	N73°E N25°W	>15・63・70・128・129 <176・206・233・351・362 363・364・379・406	近世前期以降	A116
F	54	SD	R49～51 S51·52 T52	(2200)	170	21	N65°W	>110・174・261・316 325・326・327・356・358 <30・105・297・317・330	中世後期	
F	65	SD	M45～48 L48～50 N44·45	(3700)	(300)	100	N70°E	>203 <206・375・406	中世後期～近世後期	A1
F	70	SD	P50 Q50·51 R50～52 S52·T52	(3700)	(200)	40	N30°W	<50・105・176・177	中世後期～末期	
F	128	SD	N47～49 O47～50	(WE 1150) (NS 950)	120	23	N68°E N15°W	>269・294・321・370 371・372・373・374 383・384・385・386 387・396・399 <50・64・176・181・182 183・243・244・283 284・285・286・334	中世後期～末期	
F	132	SD	Q49·50 R49·50	420	300	14	N35°E	>360・365 <175	中世	
F	146	SD	P47·48 Q47	(200)	120	10	N20°W	>245・259・268・300 340・343・344・347・352 389・390 <178・267・370・397	中世	
F	162	SD	P49	(330)	51	6	N15°W	<163・175・267・370	中世	
F	165	SD	P46·Q46	(290)	38	7	N30°W	<166	中世	
F	166	SD	P45～47 Q46·47	(956)	220	14	N15°W	>165・380 <150・315	中世末期～近世	
F	167	SD	P47·Q47	(170)	110	13	N70°E	<335	中世末期～近世	
F	174	SD	R50	(290)	(230)	26	N80°W	<54・320	中世	
F	176	SD	O50·P50	(210)	116	15	N60°E	>70・50・128・268 <370	中世末期～近世	
F	203	SD	L50	(60)	50	6	N20°W	<65	不明	
F	206	SD	N46	(190)	80	33	N10°W	>50・65	近世	
F	220	SD	P49·50	(260)	30	7	N15°W	<370	中世～近世	
F	406	SD	M47·N47	(250)	34	16	N15°W	>50・65・408	近世	
G	1	SD	K43·46·47 L43～46	(2250)	300	50	N70°E	<1・2・19・20・21	中世後期	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			方位	切り合い関係（>切る、<切られる）	時期	備考
				長さ	最大幅	深さ				
G	3	SD	K46·47	(280)	68	11	N50°E	<2	近世	
G	4	SD	J47 K46·47	(220)	30	8	N56°E	<2	中世	
G	7	SD	J46·47	(74)	21	9	N63°E	>6 <8	不明	
G	8	SD	J46·47	(70)	40	15	N60°E	>7	近世	
G	10	SD	J46	(110)	33	6	N52°E	—	近世	
G	12	SD	J46	(72)	31	7	N45°E	—	近世	
G	19	SD	K46	(380)	70	16	N18°W	>1 <18	中世	
G	31	SD	J45	(100)	20	12	N65°E	>31	中世	
G	186	SD	I43 J43	(430)	50	25	N66°E	<172・185・189・268	近世	
G	190	SD	I43	(520)	28	33	N65°E	<191・192・262・283	近世	
G	193	SD	I42·43	568	30	17	N68°E	—	中世	
G	195	SD	I42·43	(630)	21	29	N68°E	>260・261・263・264 267	中世後期～近世	
G	196	SD	I43	600	22	22	N67°E	>265 <197	中世後期～近世	
G	205	SD	I42·43 H43	(440)	30	12	N67°E	>219 <217・218・258・259 270	中世後期～近世	
G	208	SD	H42·43	300	30	26	N65°E	<207・258	近世	
G	221	SD	H42·I42	(190)	20	6	N63°E	>258	近世	
G	232	SD	H42	(224)	26	11	N69°E	>212	近世	
G	237	SD	H42	(240)	24	14	N65°E	<238	近世	
G	301	SD	J41 K41·42 L43	(2100)	100	40	N12°W	>302・493・503・504 505・506・509・511 515・516	中世末期～近世後期	
G	302	SD	J41·42 K41 L41·42 M41	(2150)	350	30	N15°W	>303・481・482・485 486・490・491・492 495・496・507・508 510・511・512・517 <301・341・472・484 487・489・493	中世末期～近世前期	
G	303	SD	M40·41	(700)	22	22	N67°E	<302	近世	
G	493	SD	M41·42	(550)	40	18	N58°E	>302 <301	中世～近世	
E	1	SD	G41 H41·I41 J41	(1400)	100	60	N13°W	>2 <655	中世末期～近世後期	G301
E	2	SD	G41 H40·41・I41 J41	(1200)	(110)	9	N12°W	>652 <1・5・653・655・656 668	中世後期～近世	G301
E	50	SD	H39·40	(524)	40	14	N78°E	<51・66・614・615・668・ 1150	中世	
E	139	SD	G33～36 F36	(WE 1160) (NS 450)	250	32	N67°E N09°W	>185・697・702・703 705・735 <174・211・696・704 1269	中世末期～近世	
E	210	SD	I34·35 J35	780	52	12	N17°W	>541	中世	
E	211	SD	G34·H34	610	40	6	N15°W	>139・185・1156	中世～近世	
E	213	SD	F34·G34	580	40	16	N18°W	—	近世	
E	216	SD	H35·I35	(510)	40	15	N15°W	<1261	中世～近世	
E	222	SD	G35·36H36	390	50	14	N16°W	>221 <175・675・676	近世	
E	228	SD	H34·I34	280	30	11	N73°E	—	近世	
E	234	SD	E33	(330)	50	31	N16°W	<233	近世	
E	238	SD	H34 I33·34	340	50	11	N72°E	—	近世	
E	246	SD	E33～35 F32·33	(1500)	150	31	N70°E	<232	中世末期～近世後期	
E	247	SD	E32～34 F32	(730)	200	31	N80°E	>248 <233	中世末期～近世後期	
E	271	SD	I30·J30	(530)	28	4	N12°W	>266 <748・749	近世	
E	281	SD	H33·34 I33	350	40	8	N75°E	—	中世～近世	
E	371	SD	C29 D27～29	(850)	130	35	N74°E	<1144・1228	中世～近世	
E	393	SD	C27～29	(650)	(270)	25	N73°E	>1230	中世～近世	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			方　位	切り合い関係	時　期	備　考
				長さ	最大幅	深さ		（>切る、<切られる）		
E	406	SD	F28·29 E29～31	(NS650) (WE700)	90	29	N13°E N78°E	>313・314・335・350・366 767・768・934・935 <349・351・403・423・762 1021・1042・1099	中世後期～ 末期	
E	407	SD	E29～31 F29～31	(1800)	200	17	N63°E	>322・323・364・389・408 409・932・942・944・946 950・952・955・956・965 966・967・1052・1053 1054・1055・1056・1208 1272・1273 <346・421・423・931 1036	中世末期～ 近世前期	
E	420	SD	F29～31 G28	(750)	150	37	N81°E	>293・302・751・752 933・999・1033・1034 <294・296・423・745 1134・1209	中世末期～ 近世前期	
E	439	SD	H29·30	(316)	70	10	N66°E	>741・743・744 <742	近世	
E	474	SD	I33·34	420	36	27	N77°E	>521	中世	
E	475	SD	I33·34	466	28	29	N72°E	—	中世	
E	476	SD	I33·34	(240)	38	16	N78°E	>521	中世	
E	477	SD	I34	100	30	28	N77°E	—	中世	
E	478	SD	I34	120	30	23	N66°E	—	近世	
E	519	SD	G31·32 H31·32 I31·32 J31·32	(NS 1459) (WE 426)	120	6	N06°E	>1077·1177 <520・1076・1176	中世末期～ 近世後期	
E	520	SD	D30·31 E31 F31·32 G31·32 H32·I32 J32·33	3500	300	40	N19°W	>519・1220 <762・1075・1076・1239 1264	近世前期～ 近世後期	
E	521	SD	D31·32 E31·32 F32 G32·33 H32·33 I32·J33 K33·34	3470	270	50	N16°W	>561・1067 <474・476・562・563 566・567	中世末期～ 近世後期	
E	537	SD	I35 J35	476	40	13	N16°W	—	近世	
E	538	SD	I35·J35	(650)	36	17	N15°W	<1262	中世	
E	539	SD	I35·J35	420	40	14	N16°W	—	中世	
E	542	SD	I35·J35	700	28	15	N18°W	—	中世～近世	
E	547	SD	J34	450	56	11	N76°W	>551・708・709 <1171	中世～近世	
E	566	SD	I33·34	(210)	38	16	N74°E	>521	近世	
E	567	SD	I33·34	(170)	40	18	N78°E	>521	近世	
E	569	SD	G30·31 H29～31	(1000)	300	32	N75°E	>433・1038・1049・1100 1133・1135・1223 1232・1237 <514・1236	中世末期～ 近世前期	
E	571	SD	G29	138	60	7	N06°E	—	不明	
E	581	SD	G30	260	60	3	N09°W	>1201・1202	中世	
E	669	SD	H36·37 I36·37	(640)	40	12	N15°W	>161 <153・166	中世	
E	845	SD	K36	(300)	74	19	N80°E	>769・814・985・986 <1065・1198	中世	
E	1091	SD	H29·I29	(590)	46	10	N06°W	—	不明	
E	1092	SD	I28·29	(320)	70	8	N75°E	<1240	不明	
E	1100	SD	D26 E26·27 F26～28 G27·28 H27·28 I27·28	2200	400	40	N16°W	>1210・1212・1213 1214・1215・1216 1219・C662・C665 C666 <1083・1142	中世後期 以降	
E	1133	SD	G28·29 H28·29	(600)	70	21	N80°W	>1226 <569・1142	中世後期 以降	
E	1135	SD	D27 E27·28 F28·G28 H28	(1800)	38	17	N15°W	<569	中世後期 以降	

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			方位	切り合い関係（>切る、<切られる）	時期	備考
				長さ	最大幅	深さ				
E	1200	SD	C26·27 D26·27 E27	(600)	500	120	N16°W	<C616	中世後期以降	
C	1	SD	F12	(70)	50	30	N15°W	—	中世	
C	7	SD	F13	(NS 220) (WE 120)	60	8	N85°E N15°W	<10・B159	中世	
C	10	SD	F13	(400)	56	44	N120°W	>7	中世	B310
C	27	SD	F14～16 G14～16	(NS 450) (WE 750)	90	54	N74°E N14°W	>552・553 <26・35・537・551	中世	
C	72	SD	E14·F14	(490)	110	12	N9°W	>538 <67・539・B39		中世　B46
C	79	SD	E15·16 F16	(214)	24	8	N9°W	—	不明	B111
C	364	SD	G23·H23	(500)	36	13	N12°W	>583・584・586・587・625 <357・588	中世	
C	474	SD	C23 D23·24 E23·24 F24·25 G25 H25·26 I26	(2900)	200	90	N24°W	>477 <510	中世後期～近世中期	D32
C	475	SD	D22～24 E23·24 F24 G24·25 H25	(2650)	200	42	N24°W	<661	中世後期～近代	
C	477	SD	C23·24 D23·24 E24 F25 G25·26 H25·26	(2325)	110	37	N30°W	<474・478・485・595・610 656	中世後期	D28
C	478	SD	D25·26 E25·26 F25·26 G25·26	(WE900) (NS1650)	70	34	N75°E N18°W	>477・479 <515	中世末期～近世前期	
C	479	SD	C25·26 D25·26 E25·26 F26 G26·27 H26·27 I26·27	(2950)	200	90	N23°W	>521・522・524 <478・526・529・595・656	中世後期～近世後期	D8
C	514	SD	E25·F25	(550)	50	10	N97°E	<510	中世	
C	595	SD	H25～27	(870)	100	38	N13°W	>2・477・479・656	中世	
C	656	SD	G26·27	(NS1300) (WE430)	38	31	N84°W	>479 <477・518・595	中世	
C	666	SD	G27·H27 I27	(1250)	100	8	N10°W	>2・E1100 <647	中世～近世前期	
D	2	SD	C26・27	(522)	(125)	43	N76°E	>4 <1	中世	
D	4	SD	C26	(158)	42	5	N15°W	<2	中世	
D	8	SD	B25・C25	(553)	320	89	N14°W	<9・15	中世後期	
D	15	SD	C25	(800)	260	40	N14°W	>9 <8・65	近世以降	
D	28	SD	B23 C23·24	(900)	138	46	N15°W	>22・24・68	中世後期	
D	31	SD	B22	(120)	48	10	N22°W	>32 <30	近世前期	
D	32	SD	B22 C22·23	(1600)	360	55	N24°W	<31・34・36・42・69	中世後期～末期	
D	33	SD	B22	(780)	120	32	N24°W	>21 <34	近世	
D	36	SD	C21	(760)	130	30	N19°W	>32・37 <40・41・43	中世後期～末期	
D	37	SD	A21 B21·22 C21·22 D22	(1500)	210	44	N24°W	<36・40・41・42・43	中世後期	
D	40	SD	C21·22	(690)	100	11	N72°E	>36·37 <29・41	中世後期	
B	18	SD	C10·11	(270)	(260)	43	N72°E	>460 <452	中世後期	H180

地区	遺構番号	遺構種類	グリッド	大きさ（cm）			方　位	切り合い関係	時　期	備　考
				長さ	最大幅	深さ		（>切る、<切られる）		
B	23	SD	D11～13 E11・12 F12	NS1000 WE680	46	26	N15°W	>20・24・254・446 <310・443	中世～近世	
B	24	SD	E12 F11・12	(718)	56	16	N75°E	>27・446 <2・21・23・159・253	中世	
B	46	SD	D13・14 E13・14 F14	(700)	64	15	N77°E	<39・112・265	中世	C72
B	52	SD	B15・16 C13～15	(1850)	30	4	N13°W	>416・417 <96・310・414・447	中世	
B	53	SD	B13・14 C11～14	(1500)	40	11	N76°E	>451・535 <310・448	中世	
B	111	SD	E15・16	(280)	48	15	N14°W	—	中世	C79
B	190	SD	D17・18	858	34	13	N75°E	>150・171・176・177 466・469・470・503	中世	
B	310	SD	C12・13 D13・E13 F13	(160)	100	44	N16°W	>23・52・53・521・522	中世	C10
B	390	SD	C20・21	(560)	40	4	N71°E	>212・481・482・516 548	中世	D40
H	2	SD	I2	(520)	(50)	39	N77°E	—	中世	
H	42	SD	F1	(1200)	70	43	N12°E	>43・157・161・162 <4・18・44	中世後期	
H	43	SD	F1	(WE 870) (NS 1400)	250	50	N70°E N16°W	>61 <41・42・44・79・155・169	中世後期	
H	44	SD	F1	(WE 850) (NS 1300)	110	40	N70°E N16°W	>42・43	中世後期	
H	45	SD	E1・F1	(600)	40	43	N13°W	—	中世	
H	61	SD	D3・E3 G3・F3 H3	(1700)	85	40	N15°W	>149 <43・71・77・79	中世後期	
H	79	SD	F5・6 E6 G3～5	(2000)	180	48	N57°E	>43・61・75・80・118	中世前期～後期	
H	80	SD	G3・4 F4・5	(800)	30	24	N65°E	>179 <79	中世前期	
H	118	SD	E6	1300	70	7	N19°W	<79	中世	
H	126	SD	D5・6	(400)	(80)	14	N77°E	<125・128	中世	
H	128	SD	D6・7 E7・F7	(1050)	105	35	N18°W	>126	中世後期	
H	135	SD	E8～10 F8・10・11	WE 950 (NS 1750)	50	15	N63°E N29°W	>180 <136	中世後期	
H	136	SD	C10・D10 E7～10 F7	(WE 1500) (NS 680)	40	20	N70°E N10°W	>135・144・145・179・180	中世後期	
H	145	SD	D9・E9	(305)	80	26	N15°E	<136	中世後期	
H	147	SD	C8・9 D7・8	(1200)	70	40	N71°E	>179	中世後期	
H	179	SD	C9 D7～9 E7・8 F7・8	(WE 1300) (NS 500)	70	16	N74°E N20°W	<136・147・176・180	中世後期	
H	180	SD	C10 D8～10 E8・F8	(WE 1500) (NS 800)	160	17	N75°E N10°W	>176・179・181 <135・136	中世後期	B18
H	181	SD	D8・9	750	11	11	N75°E	>180	中世後期	

第10表　遺構出土遺物破片数

遺構番号	遺構名	遺構種別	古墳時代～古代			中世														近世				近代	石製品・鉄製品・木製品	合計破片数
						白磁系陶器						中国磁器				土師器皿										
			須恵器	土師器	灰釉陶器	山茶碗・皿（均質手）	山茶碗・皿（荒肌手）	片口鉢	その他	古瀬戸	常滑陶器	青磁	白磁	染付	瀬戸美濃（大窯）	非ロクロ皿	ロクロ皿	土師器鍋	瓦質土器	瀬戸美濃（連房）	肥前	唐津	常滑陶器	陶磁器		
A112	SH1	P				2																			1（木）	3
A232	SH1	P				3														1						4
A164	SH2	P				1														1						2
A187	SH2	P															1			2						3
A89	SH2	P																		1						1
F314	SH3	P				1																				1
F350	SH3	SK				1									1											2
F364	SH3	P	1																	1						2
F147	SH4	P				5																				5
F290	SH4	P				1																				1
F294	SH4	P				1																				1
F335	SH4	P				1																				1
F99	SH4	SK													1											1
F142	SH5	P					1	1																		2
F226	SH5	P		1		3				2					1		1									8
F82	SH5	SK				3														2						5
F136	SH6	P							1	1										1						3
F243	SH6	P				1														1					1（木）	3
F81	SH6	SK				1																				1
G150	SH7	P				1																				1
G179	SH7	P				4																				4
G187	SH7	P				2																				2
G211	SH7	P				4																				4
G217	SH7	P				2																				2
G226	SH7	P				5																		1		6
G228	SH7	P		1		4																				5
G259	SH7	P				3																				3
G263	SH7	P				9														1						10
G272	SH7	P				2				1																3
G277	SH7	P				2																				2
G279	SH7	P				6																				6
G94	SH7	P				7																				7
G122	SH8	P				3		1																		4
G123	SH8	P				5																				5
G136	SH8	P																		1						1
G158	SH8	P				1																				1
G271	SH8	P				1																				1
G41	SH8	P																		1						1
E1004	SH9	P				2																				2
E1007	SH9	P				4																				4
G361	SH9	P				1																				1
G497	SH9	P				1																				1
G336	SH10	SK								1																1
G481	SH10	P				5											7			2						14
G307	SH11	P				1																				1
G310	SH11	P				2														1						3
G328	SH11	P				1																				1
G441	SH11	P				1																				1
G453	SH11	P				1											1			1						3
G458	SH11	P				1																				1
E53	SH12	P				1																				1
E65	SH12	P				2														3						5
E659	SH12	P	1			2																				3
E661	SH12	P				8		1																		9
E184	SH13	P				2																				2
E187	SH13	P				2																				2
E704	SH13	P																		1						1
E730	SH13	P				6																				6
E735	SH13	P				5				1																6
E799	SH14	P				7																				7
E809	SH14	P				2														1						3
E820	SH14	P				2																				2
E847	SH14	P				2																				2
E849	SH14	P				3																				3
E779	SH14 SH15	SK				4																				4
E560	SH15	P				1																				1
E235	SH16	P				1																				1
E1022	SH17	P				1																				1
E1035	SH18	P				7				1					1											9
E1203	SH18	SK				4				1										1						6
E1209	SH18	P				1																				1
E296	SH18	SK				3									1											4
E310	SH18	SK				2																				2
E753	SH18	SK				7										10		10		2						29
E1201	SH19	P				3																				3
E277	SH19	P				4														1						5
E745	SH19	P				1																				1
E952	SH19	P				1																				1
E999	SH19	P				2																				2
E1228	SH20	P				1																				1
C40	SH23	P				5					3															8
B401	SH24	P				1																				1
B402	SH24	P				1																				1
B77	SH24	P				1																				1
C18	SH24	P				1																				1
B160	SH25	P				1																				1
B168	SH25	P				1																				1
B178	SH25	P				3																				3
B241	SH25	P				2																				2
B246	SH25	P				2																				2
B308	SH25	P				2																				2
B329	SH25	P									3															3
B347	SH25	P				2					1															3
B500	SH25	P				2																				2
B106	SH26	P				1																				1
B256	SH26	P				1																				1
B421	SH26	P				1																				1
B64	SH26	P									1															1
B86	SH26	P								1																1
B87	SH26	P									1															1
B44	SH27	P				1																				1
B78	SH27	P				1																				1
B30	SH28	P				2																				2
B442	SH28	P				1																				1
B12	SH29	P				3																				3
B13	SH29	P									1															1
B408	SH29	P				2																				2
B453	SH29	P				1																				1
A160	SA1	P				1																				1
A77	SA1	P																		1						1

遺構番号	遺構名	遺構種別	古墳時代～古代			中世														近世				近代	石製品・鉄製品・木製品	合計破片数
						白磁系陶器						中国磁器				土師器皿										
			須恵器	土師器	灰釉陶器	山茶碗・皿（均質手）	山茶碗・皿（荒肌手）	片口鉢	その他	古瀬戸	常滑陶器	青磁	白磁	染付	瀬戸美濃（大窯）	非ロクロ皿	ロクロ皿	土師器鍋	瓦質土器	瀬戸美濃（遠房）	肥前	唐津	常滑陶器	陶磁器		
A192	SA2	P				2		1		1		1					1			1				1		8
A206	SA2	P																		1						1
B151	SA4	P																		1						1
B333	SA4	P				1																				1
B103	SA5	P				1																				1
B411	SA6	P				1																				1
C2	土壇	SQ	1			7														32						40
H1	土壇	SQ		5	2	219		3		1	10	2			1					11						254
A228	SE1	SE	1			5				1	3				3		1			14					2（木）	30
F134	SE2	SE	2			13				1							1			11			2		1（石）	31
F151	SE3	SE		6	1	46				26	1				5		3			64			4	1	2（石）	159
F233	SE4	SE	2		9	8				5	2						2			20			1			49
F34	SE5	SE	5	2		27			1	2					1	1	21			528				5	1（木）	594
F370	SE6	SE	3	2		4				1							1									11
G27	SE7	SE	1			203		2		4	3				1		4			6				13		237
G472	SE8	SE		3		60	4			17	8				6		4	1		300			62	27	2（石）	494
G482	SE9	SE	1	1		121		2		4					1		4			7				1		142
E109	SE10	SE				64				2	3									1			17			87
E112	SE11	SE	1	9		748		23	6	11	29						1			7					3（石）	838
E656	SE12	SE		2		19				4	1				1	1				9			2	1	3（木）	41
E1075	SE13	SE	2	4		53		1		13	4				7	1	11			65			1	2	1（木）	167
E1099	SE14	SE				11		1		3	8				2					199			13	36	13（木）	286
H75	SE15	SE	5		1	24					12	1			1					1			12			57
F380		SE			1	3				1	1									2				1		9
A118	SP1	SP	14	40		335		9	1	61	38	1			30	1	50	8		152			448	252	1（石）	1441
A117	SP2	SP	3	6		539		7		11	4				13	7	8	2		1386			14	11	1（石）	2012
F175	SP3	SP	14	7		59		1		2										7			6	1		97
F330	SP4	SP	1	1		6		1																		9
E653	SP5	SK	1			7				2	1															11
E655	SP6	SP	1	1		21		1		2					1		1			5			4			37
E867	SP7	SP				28				1										1						30
B369	土間状	ST	3	3		234		3		4	1					11	4			1			1			265
B392	土間状	ST		9		154		1		3	6					8	1									182
B530	土間状	ST		1		21				1	2					1	1			2						29
G44	土間状	ST	2	1		86														3						92
G317	土間状	ST	1			7														4						12
E130	土間状	ST				4				2																6
E221	土間状	ST				19														2						21
E317	土間状	ST				9				1						1	1			2						14
E512	土間状	ST	2	2		179		2		7		1			3		4			23			6	12		241
E769	土間状	ST	1			147		1		3	1				1	2				1						157
E825	土間状	ST				47		1		2																50
E858	土間状	ST				64										2				2						68
A1		SD	5	6		417		15	3	15	7	1		2	10	5	11	2		109			11	2		621
A11		SD				61		1		2					2		11	1		3						81
A88		SD				4																				4
A95		SD	1	1		176		5		8	2				7		8	4		350			35	14	1（金）	612
A116		SD	6			43				3	2				7	3		4		46			8	4		126
A123		SD		3		25				2	1				1			1		27			4	3		67
A134		SD	1			140				6					6	2	6	2		25			7	2		197
A139		SD																		1						1
A147		SD				33		1		1	2									2				1		40
B18		SD				14				1	2				1				1	1						20
B23		SD				70				1	2					1				4				1		79
B24		SD				1					1															2
B46		SD		1		14				1	1					29							2			48
B52		SD				15																				15
B53		SD		2		44				1	1					3								1		52
B310	C10	SD				1																		1		2
B389		SD				6		1												1						8
C7		SD				1					2															3
C27		SD		2	2	80				6	1									1						92
C72	B46	SD		1		11				1										2						15
C364		SD	1			2																				3
C474		SD		2		79		3		12	30				6	3	21			161			33	19	1（石）	370
C475		SD	4			102		7		28	103	1			7	3	15			442	2		401	118	3（石）	1236
C477		SD				14				1	1				1					19			1	6		43
C478		SD	2	1		14		1	1		3				5		3			54	1			2		87
C479		SD	1	8		102		7		17	92	1			22		28	28		147			7	10	2（石） 2（金）	474
C595		SD				8				2							1			11			2	2		26
C656		SD																		2						2
D8		SD									2															2
D15		SD				5									1					4						10
D28		SD		1		16		1			3					1				1			1			24
D32		SD	5	11		123				9	12				7	2	1	3		25			29	9	1（石）	237
D33		SD	5	2		150		2	1	24	38				7		6	1		74	1		36	52		399
D36		SD	3	8		125		1		7	4									3				2		153
D37		SD	3			106		1		3	7					6				5				1		132
D40		SD				1																				1
E1	G301	SD	3			59		5		12	20				15		6			212			111	7	1（木）	451
E2	G302	SD	2	2		85		2		15	3				2		1			86			27	8		233
E139		SD				20				1					2	1				2			1	1		28
E210		SD				11																				11
E211		SD				2														1						3
E213		SD				6														5				1		12
E216		SD	1			5														1						7
E222		SD				2																				2
E234		SD																		3				1		4
E238		SD				2																				2
E246		SD				50		2		2	4				3		4			74			7	58		204
E247		SD				47		1		2					1					22			1	12		86
E271		SD																						1		1
E281		SD		1		1														2						4
E371		SD				2									2					1						5
E393		SD				17				4					1	1	2			7						32
E406		SD						1								1	1			1						4
E407		SD	1			23				2	1						3			4			18	1		53
E420		SD	2	1		18				1					1					1						24
E474		SD				3														1						4
E475		SD				2																				2
E476		SD		1						1																2
E477		SD																		2				1		3
E478		SD				2																				2
E50		SD																							1（石）	1
E519		SD	1	5		117		1			1		1		9	2	22	10		93			41	6		309
E520		SD	12	14	1	320		14		130	41				79	8	43	14		749			274	75	1（金）	1775
E521		SD	9	14	2	349		3		30	30				28	16	23	24		461			184	227		1400
E537		SD				4																		1		5
E538		SD				6		1																		7
E539		SD		2		11																				13
E542		SD				5														1						6
E547		SD				6														1				1		8
E566		SD				9		1																		10

遺構番号	遺構名	遺構種別	古墳時代～古代			中世														近世				近代	石製品・鉄製品・木製品	合計破片数
						白磁系陶器						中国磁器			土師器皿											
			須恵器	土師器	灰釉陶器	山茶碗・皿（均質手）	山茶碗・皿（荒肌手）	片口鉢	その他	古瀬戸	常滑陶器	青磁	白磁	染付	瀬戸美濃（大窯）	非ロクロ皿	ロクロ皿	土師焙烙	瓦質土器	瀬戸美濃（遠州）	肥前	唐津	常滑陶器	陶磁器		
E569		SD	1	7		55		2		11	1				2	2	6	1		300			32	174	2（金）	596
E581		SD				3																				3
E668		SD				3				1										1						5
E845		SD				45														1						46
E1100（E1200）		SD	2	1		54		1		9	3				2		7	2		78			12	3		174
E1133		SD				2														1				1		4
E1135		SD			1					6					2					13			3	3		28
F15		SD	2																					2		4
F50		SD	70	79	4	334		1	6	55	18	1			17	1	49	2		368	1		340	107	2（石）	1455
F54		SD	11	6		60				10					1									1		89
F65		SD	45	47	1	306		2		63	13	1			19	7	63	6		519			486	102	1（石）	1680
F70		SD	22	21		216	1	6		28	5				6		7			16			2	3		333
F128		SD	17	43		162		2		19	3				6	7	12	10		68			32	5		386
F132		SD	2	5		52		2		2	2					1		1		1				3		71
F146		SD	6	3		37														1			1	1		49
F162		SD		1		1																				2
F165		SD				3																				3
F166		SD	6	9	2	145				3	2	2			14	1	15	5		54			1	1	1（石）	261
F167		SD	1	1		9				1					1			1					3	1		18
F174		SD	1	4	1	27		1																		34
F176		SD	17	1		20				5					1					12			2			58
F206		SD		3	17	9				8	2						2			67			17			125
F220		SD	1			4											1	1					1			8
F406		SD				1														3						4
G1		SD	5	4		239				13	1	1			5		3			36				7	1（石）	315
G4		SD																								0
G19		SD				1																				1
G31		SD				1																				1
G186		SD	1			12				1					1					10				16		41
G190		SD																		1				1		2
G193		SD				8											1							1		10
G195		SD				6											1			1			1			9
G196		SD		1		4														5						10
G205		SD				3														1						4
G208		SD																						1		1
G221		SD				1														1						2
G301		SD	13	17	1	226		11		31	31	1	2	1	18	4	67	7		816	1	2	221	53	4（石）	1527
G302		SD				38		1		5					1		2	1		62			3	1		114
G493		SD	1			9									2					8			4			24
H2		SD				4				2	1															7
H42		SD				9					2															11
H43		SD				24				1	3				1											29
H44		SD		1		47				3	6									5						62
H61		SD	1			22					2				1											26
H79		SD				49		1		2	10									1			1		1（石）	65
H126		SD				4																				4
H135		SD	1			1																				2
H136		SD				1														1						2
H147		SD				2																				2
A133		SI				8		1		2	5						1			41			6		1（石）	65
A177		SI																		1						1
D34		SI	1	2		12				1	4									7				2		29
E153		SI		1		38		3				1								19			83	22		167
E159		SI		1		37				3					2					17			1		1（石）	62
E189		SI				1																				1
E233		SI		1		46		1		2	5				2		1			258	1		32	157		506
E824		SI				3																				3
E830		SI				1																				1
E866		SI				3														5						8
G182		SI				7														3						10
G485		SI																		17				1		18
A9		SK				1														1						2
A12		SK				16														5						21
A27		SK				4														1						5
A36		SK																					6			6
A45		SK				1																				1
A48		SK				1																				1
A59		SK				3									1					1						5
A67		SK				3											1	1		4						9
A105		SK				2														14						16
A124		SK	5	9		70		1		6					6		7	60		14						178
A136		SK				5									1					1						7
A138		SK				4														2						6
A144		SK				1														2						3
A153		SK				18											1			1						20
A155		SK		2		13																				15
A175		SK															1									1
A182		SK																		1				1		2
A189		SK				1														2						3
A211		SK				1					1				1		2									5
A213		SK																		1						1
B1		SK				3																				3
B4		SK				3																				3
B5		SK				9										1										10
B10		SK				4																				4
B20		SK				5					1															6
B21		SK				14																				14
B22		SK				12																				12
B27		SK		2		19					2					1										24
B32		SK	1			3																				4
B33		SK	2			6					1	1														10
B66		SK				4					1															5
B72		SK				2																				2
B79		SK				2																				2
B82		SK				1																				1
B94	C33	SK				2																				2
B96		SK		1		4										1	1			1						8
B104		SK				1																				1
B118		SK				31											1									32
B156		SK				7										1										8
B159		SK				20																				20
B164		SK				3																				3
B171		SK				19					1					2	1									23
B176		SK				21														1						22
B177		SK			1	91		1			1					7	2									103
B180	C133	SK				85		2		1	5	1				5										99
B188		SK				1																				1
B197		SK				1																				1
B223	C405	SK		2		12				1	1	1														17
B224		SK				3				1	2									1						7
B232		SK				2																				2
B234		SK				2																				2
B239		SK				7																				7

遺構番号	遺構名	遺構種別	古墳時代～古代			中世														近世				近代	石製品・鉄製品・木製品	合計破片数
						白磁系陶器						中国磁器				土師器皿										
			須恵器	土師器	灰釉陶器	山茶碗・皿（均質手）	山茶碗・皿（荒肌手）	片口鉢	その他	古瀬戸	常滑陶器	青磁	白磁	染付	瀬戸美濃（大窯）	非ロクロ皿	ロクロ皿	土師器鍋	瓦質土器	瀬戸美濃（遠州）	肥前	唐津	常滑陶器	陶磁器		
B240		SK				1																				1
B252		SK				22																				22
B253		SK				3					1															4
B254		SK				13																				13
B326		SK		4		30					1					1										36
B328		SK	1			28					2					2				3						36
B356		SK				6																				6
B377		SK				3					1															4
B378		SK				12										1										13
B435		SK				2																				2
B437		SK		1		6												1								8
B438		SK		1		12												1								14
B441		SK				10										1										11
B465		SK				6																				6
B467		SK				1																				1
B469		SK				21		3			3					4										31
B512		SK			1	6											1									8
B527		SK				5											1									6
B529		SK			1	1																				2
C12		SK				2					1															3
C25		SK				1										2										3
C32		SK				3																				3
C33	B94	SK				2																				2
C38		SK		1		13					1	1														16
C39		SK				7					2															9
C41		SK				3				1																4
C42		SK				25																				25
C43		SK				2					1					1							1			5
C50		SK				1																				1
C53		SK				4					1															5
C59		SK				22					3	1														26
C61		SK				1					1															2
C63		SK				24																				24
C75		SK				1																				1
C84		SK				34		1	1		1					2				1			1			41
C85		SK				56		2		2	7					3				1						71
C86		SK				9					2					1										12
C87		SK				14				1						1										16
C89		SK				5																				5
C91		SK				2																				2
C93		SK				11		1			1	1														14
C107		SK				4																				4
C108		SK				2																				2
C109	B471	SK		1		2																				3
C125		SK				3																				3
C127		SK				5		1																		6
C133	B180	SK		2		30		2																		34
C143		SK				14											1			2						17
C160		SK				5																				5
C164		SK				3																				3
C166		SK				7														1						8
C200		SK		4		28		2			2												3			39
C320		SK	1																	1						2
C363		SK				3																				3
C407		SK				2														1						3
C418		SK				3																				3
C423		SK									1															1
C441		SK				1				1	1															3
C448		SK				2		2												1						5
C450		SK																					1			1
C453		SK				1											1			2						4
C485		SK																					1			1
C507		SK				1		1												4				2		8
C515		SK																		1						1
C518		SK				1														7						8
C521		SK				3					1				1		3			1						9
C523		SK	1			1														3				5		10
C524		SK				1				1										1						3
C526		SK				1		1												1						3
C541		SK				2																				2
C607		SK				1																				1
C629		SK				4		1			3					1										9
C630		SK		1																						1
C633		SK										1														1
C636		SK				3					1															4
C639		SK	1			25				1	1															28
C642		SK	1			12		1		1	1															16
C645		SK				4																				4
C646		SK		1		27				1	1						1									31
C647		SK		3		15					1															19
C661		SK																		1						1
D24		SK				1																				1
D30		SK				1																				1
D41		SK				8														3				2		13
D43		SK				2					1															3
D44		SK				10				2																12
D46		SK	1			3																				4
D48		SK				4																				4
D49		SK				14				1	1						2									18
D57		SK				2																				2
D65		SK																		2						2
D69		SK				1		1												1			1			4
E5		SK				1														5			143			149
E8		SK		1		2				1										1			2			7
E10		SK																		1			1			2
E25		SK				1				1							1			1						4
E27		SK				3											1									4
E33		SK				3															1					4
E36		SK				1																				1
E40		SK				2																				2
E250		SK				20				1						1				2						24
E262		SK				2																				2
E294		SK													1					1						2
E318		SK				5														1			12			18
E339		SK				3														1						4
E351		SK				4																				4
E355		SK		1		3																				4
E361		SK				1																				1
E370		SK				2														1						3
E381		SK				1																				1
E382		SK				1														1						2
E391		SK				4				1							1			1						7
E392		SK				2											1							1		4
E394		SK																		1						1

遺構番号	遺構名	遺構種別	古墳時代～古代			中世														近世				近代	石製品・鉄製品・木製品	合計破片数
			須恵器	土師器	灰釉陶器	白瀬系陶器				古瀬戸	常滑陶器	中国磁器			瀬戸美濃（大窯）	土師器皿		土師器鍋	瓦質土器	瀬戸美濃（遠州）	肥前	唐津	常滑陶器	陶磁器		
						山茶碗・皿（均質手）	山茶碗・皿（荒肌手）	片口鉢	その他			青磁	白磁	染付		非ロクロ皿	ロクロ皿									
E43		SK				2														1						3
E45		SK				3														1						4
E51		SK		1																						1
E54		SK				9														1						10
E55		SK				1																				1
E60		SK													1											1
E66		SK				2														1						3
E68		SK				1														1						2
E81		SK	1			8																	2			11
E98		SK				3														1						4
E100		SK				7																				7
E104		SK				3																				3
E978		SK				3																				3
E1006		SK				2																				2
E1016		SK				5														1						6
E1017		SK				8																				8
E1076		SK				1									1		1			12						15
E1081		SK																		4						4
E1083		SK				1														2						3
E1086		SK																		2				1		3
E1101		SK			2	7		1		1	24	1			21	9	35	4		388			18	48		559
E1106		SK				6											1			1						8
E1108		SK		1		10				2										2						15
E1113		SK				1																				1
E1117		SK				1				1										12			2	7		23
E1132		SK				1																				1
E1134		SK				9																				9
E1140		SK				1																	1			2
E1142		SK				2																				2
E115		SK																		1						1
E120		SK		1		2																				3
E127		SK		1		2																				3
E129		SK				6														3						9
E132		SK				8									2									1		11
E135		SK				40				1																41
E142		SK				8	2																			10
E143		SK				3																				3
E146		SK				4														1						5
E170		SK				2				1																3
E174		SK				1																				1
E175		SK				11																				11
E176		SK				1																				1
E178		SK				5														1						6
E190		SK				1																				1
E194		SK		1		4																				5
E212		SK																		1				1		2
E215		SK				3														3				1		7
E219		SK				3														2			2			7
E220		SK				4																				4
E225		SK				3														1						4
E232		SK				1																				1
E244		SK				11																				11
E248		SK				1									1											2
E249		SK								1							1			4			1			7
E402		SK				1														1				1		3
E403		SK				2																				2
E410		SK								1																1
E421		SK				5																				5
E423		SK				4				1							1			4						10
E436		SK				7									2					12				1		22
E446		SK				5																				5
E448		SK				4																				4
E462		SK				1																				1
E473		SK				2										5				3						10
E495		SK				2										1										3
E514		SK				3																				3
E522		SK				1				54																55
E543		SK						1		1																2
E550		SK				2																		1		3
E552		SK				7														2				1		10
E554		SK				3																				3
E559		SK																						1		1
E564		SK				4																				4
E573		SK	1			6														2				1		10
E576		SK				1																				1
E577		SK													1					1						2
E578		SK				3				1										1						5
E603		SK				9														1						10
E606		SK				34		1												1						36
E607		SK				5				5										11			1	2		24
E610		SK				1		1												1						3
E613		SK				1														2				1		4
E621		SK																		1						1
E623		SK				3																				3
E626		SK	1			6									1					9						17
E627		SK				5				1																6
E629		SK	1			7																				8
E650		SK																		3						3
E669		SK				1														1				1		3
E681		SK				1																				1
E683		SK																					3			3
E689		SK				2														1						3
E690		SK				1																				1
E699		SK								1										5						6
E700		SK				13					1				1											15
E701		SK				2																				2
E723		SK				3																				3
E724		SK																					1			1
E760		SK								1										3				2		6
E778		SK				4		1												1						6
E781		SK																		1						1
E782		SK				3																				3
E795		SK				2																				2
E814		SK				22				4										6						32
E829		SK				3																				3
E831		SK				40				1																41
E859		SK				1																				1
E863		SK				1																				1
E868		SK				4																				4
E892		SK				1																				1
E894		SK				12																				12
E899		SK				4				1																5
E916		SK				4									1											5
E936		SK													1											1

遺構番号	遺構名	遺構種別	古墳時代～古代			中世														近世				近代	石製品・鉄製品・木製品	合計破片数
						白瀬系陶器						中国磁器				土師器皿										
			須恵器	土師器	灰釉陶器	山茶碗・皿（均質手）	山茶碗・皿（荒肌手）	片口鉢	その他	古瀬戸	常滑陶器	青磁	白磁	染付	瀬戸美濃（大窯）	非ロクロ皿	ロクロ皿	土師器鍋	瓦質土器	瀬戸美濃（遠州）	肥前	唐津	常滑陶器	陶磁器		
E938		SK				1																				1
E965		SK				4																				4
E969		SK				1																				1
E1069		P				1																				1
E1172		SK				5											1									6
E1224		SK				3												1		7			1			12
E1225		SK				11																				11
E1227		SK				5														1						6
E1231		SK		1							1				6					3						11
E1241		SK				1																				1
F16		SK	1	4																						5
F47		SK				2																		1		3
F62		SK	2																							2
F63		SK	1	7																			2			10
F64		SK				12		1							2	3	1			8				1		28
F97		SK				5																				5
F105		SK	1			4																				5
F108		SK				2									1					1						4
F117		SK																		1						1
F129		SK																		1						1
F150		SK	5			17					1	1			5		6			21				1	1（金）	58
F156		SK																		2			4			6
F157		SK				1											1						2			4
F161		SK																					1			1
F163		SK																		1						1
F171		SK				3																				3
F173		SK				2		1		2																5
F177		SK	2																							2
F182		SK																					2			2
F187		SK				1																				1
F193		SK	1	1		3														1						6
F211		SK	2			5																				7
F212		SK				1																				1
F213		SK																		1			4			5
F215		SK																		1			5			6
F223		SK								1																1
F225		SK				2																				2
F239		SK															1									1
F246		SK				1																				1
F248		SK				2																				2
F259		SK				1														3						4
F312		SK		1		1																				2
F315		SK				2				3										3						8
F321		SK				2																				2
F324		SK	1			1																				2
F340		SK	5	10	2	34									1	1	3							2		58
F352		SK				12				1																13
F353		SK		1	3	4				1							1			13				1		24
F387		SK		1																						1
F408		SK			1	2														1				1		5
G2		SK				6																				6
G18		SK				10				1										5				2		18
G20		SK				2																				2
G23		SK				2																				2
G28		SK				21											2			1				2		26
G46		SK				4																				4
G50		SK				12					1															13
G68		SK																						2		
G86		SK																		2						2
G93		SK				11														1						12
G108		SK				1																				1
G117		SK				2																				2
G139		SK																		1						1
G166		SK				1																				1
G178		SK				1														2						3
G202		SK				2																				2
G250		SK				1																				1
G268		SK	1	1		38									1		2			5				7	1（金） 1（木）	57
G319		SK				1														1						2
G341		SK				2									1		1			1						5
G342		SK				3									1											4
G343		SK				11							1							7				1		20
G354		SK				7									1					2			1			11
G356		SK				2														2			46	1		51
G373		SK				1																				1
G395		SK				3																				3
G415		SK																					1	1		2
G436		SK								1																1
G480		SK				2																				2
G483		SK				1																				1
G484	埋設穴	SK				3					2															5
G489	埋設穴	SK				5														2						7
G490	埋設穴	SK				5											2			2						9
G491		SK																		1						1
H6		SK				6																				6
H112		SK				1																				1
H20		SK						1																		1
H30		SK				1																				1
H41		SK						1							2											3
H77		SK				2																				2
H125		SK									2															2
H134		SK				1																				1
H144		SK				1																				1
H155		SK				10														1						11
H167		SK				1																				1
A31		P																		2						2
A34		P				21				1										6						28
A35		P	1			3									1		2									7
A42		P				4														1						5
A47		P				2																				2
A55		P																					1			1
A58		P	1			1																				2
A61		P				1														1						2
A64		P																		2						2
A65		P				2																				2
A68		P				1														1						2
A74		P				1																				1
A76		P				1																				1
A81		P	1														1									2
A87		P				2																				2
A91		P													1											1
A96		P																		1						1
A103		P				1																				1

遺構番号	遺構名	遺構種別	古墳時代～古代			中世														近世				近代	石製品・鉄製品・木製品	合計破片数
			須恵器	土師器	灰釉陶器	白瀬系陶器				古瀬戸	常滑陶器	中国磁器			土師器皿					瀬戸美濃（大窯）	肥前	唐津	常滑陶器	陶磁器		
						山茶碗・皿（均質手）	山茶碗・皿（荒肌手）	片口鉢	その他			青磁	白磁	染付		非ロクロ皿	ロクロ皿	土師器鍋	瓦質土器	瀬戸美濃（遠州）						
A104		P													1					1						2
A106		P				1																				1
A107		P																		1						1
A108		P				2																				2
A110		P				5																				5
A114		P																		2						2
A127		P																		1						1
A137		P				1																				1
A140		P													1											1
A141		P				5														1						6
A143		P				1																				1
A151		P				3																				3
A156		P		1		1																				2
A159		P				9																				9
A161		P				10						1					1			1						13
A171		P																		1						1
A179		P				1																				1
A181		P				1																				1
A184		P				9																				9
A185		P				1																				1
A193		P				540														1						541
A194		P																		1						1
A198		P															1									1
A200		P																		1						1
A201		P				1														1						2
A204		P				1																				1
A208		P				1																				1
A209		P				1														2						3
A210		P				4				1	1				1	1		6								14
A216		P																		2						2
A218		P				1				1																2
A219		P				2																				2
A229		P				1																				1
B35		P														1										1
B37		P				1																				1
B50		P				1																				1
B59		P				4																				4
B61		P				1																				1
B62		P				1																				1
B98		P				1																				1
B109		P				1																				1
B110		P				1																				1
B114		P				1																				1
B126		P				3																				3
B128		P				28					2						1						1			32
B131		P				2																				2
B135		P				2																				2
B137		P				3																				3
B138		P				1																				1
B140		P		1		19				1	1					3							1			26
B142		P		1		7																				8
B154		P								1																1
B165		P				3										1										4
B166		P														2	1									3
B185		P				1		1																		2
B186		P									1															1
B202		P				1																				1
B209		P				1		1		1																3
B212		P				1																				1
B220		P				1																				1
B222		P				2																				2
B225	C406	P				1																				1
B236		P				3																				3
B238		P				2																				2
B245		P				2																				2
B247		P				1																				1
B261		P				2																				2
B268		P				1																				1
B287		P				1																				1
B313		P				1				1																2
B320		P				2		1																		3
B322		P				1																				1
B324		P				7					1															8
B336		P				1																				1
B339		P				3					1															4
B340		P				1																				1
B354		P				6																				6
B359		P				2																				2
B360		P				2		1			1															4
B363		P				1																				1
B368		P				1																				1
B384		P				1																				1
B387		P													1			1								2
B390		P				6														2						8
B393		P				2																				2
B395		P				1																				1
B396		P				2																				2
B415		P				1																				1
B424		P				1																				1
B447		P				1																				1
B458		P				1																				1
B463		P		1		3																				4
B475		P				48																				48
B477		P				1				1																2
B482		P				1																				1
B493		P				2																				2
B496		P				1																				1
B520		P				5																				5
B526		P				1																				1
B528		P				1																				1
B538		P				3																				3
B541		P				1																				1
B543		P	1																							1
C14		P				1																				1
C16		P				1																				1
C26		P				1																				1
C47		P				2																				2
C52		P				1																				1
C62		P				1																				1
C92		P				1																				1
C117		P			1	8										1										10
C198		P				1					1															2
C202		P				9																				9
C216		P				2																				2

遺構番号	遺構名	遺構種別	古墳時代～古代			中世														近世				近代	石製品・鉄製品・木製品	合計破片数
						白瀬系陶器						中国磁器				土師器皿										
			須恵器	土師器	灰釉陶器	山茶碗・皿（均質手）	山茶碗・皿（荒肌手）	片口鉢	その他	古瀬戸	常滑陶器	青磁	白磁	染付	瀬戸美濃（大窯）	非ロクロ皿	ロクロ皿	土師器鍋	瓦質土器	瀬戸美濃（遠房）	肥前	唐津	常滑陶器	陶磁器		
C218		P				1																				1
C222		P				1																				1
C244		P				3																				3
C251		P				1																				1
C256		P																		1						1
C293		P				2																				2
C294		P				3																				3
C298		P									2															2
C302		P				1																				1
C309		P				1																				1
C312		P				2																				2
C318		P				1																				1
C378		P									1															1
C403		P				4											1			1						6
C433		P															1			1						2
C489		P																					1			1
C533		P				1																				1
C539		P				1																				1
C543		P				3																				3
C548		P				2																				2
C549		P				1																				1
C567		P				1																				1
C568		P				4																				4
C569		P															1			11			1	8		21
C586		P				2																				2
C597		P																						5		5
C632		P				5		1																		6
D26		P				2																				2
D29		P				1														1						2
D55		P				1																				1
D63		P				1																				1
D67		P				3																				3
E9		P																							1（石）	1
E19		P	1	2		1														2					1（石）	7
E21		P				3																				3
E30		P				2																				2
E32		P				1																				1
E35		P				1											1			1						3
E39		P				1																				1
E41		P				4									2		2			6						14
E57		P																		1						1
E69		P				1		1																		2
E88		P				5																				5
E93		P				2																				2
E94		P				3																				3
E99		P				2																				2
E111		P				1																				1
E762		P				1																				1
E766		P				1																				1
E768		P				1																				1
E770		P																1								1
E780		P				5																				5
E791		P				1																				1
E806		P				4																				4
E144		P				4																				4
E161		P																		2						2
E183		P				1																				1
E193		P																					1			1
E201		P				1																				1
E206		P				1																				1
E261		P				3									1								1			5
E270		P				1																				1
E273		P	1			3																				4
E275		P				1																				1
E278		P															2									2
E290		P				1																				1
E299		P				5																				5
E307		P				2														1						3
E308		P				1																				1
E312		P				2																				2
E314		P				2																				2
E319		P				2																				2
E322		P				1																				1
E323		P				7														2						9
E324		P				1																				1
E325		P								1																1
E335		P				2				1							1			1						5
E336		P				1																				1
E344		P													1											1
E346		P				1																				1
E347		P				1																				1
E354		P								1																1
E358		P				1																				1
E362		P																					1			1
E364		P				1																				1
E367		P				1														1						2
E368		P		1		1														1						3
E375		P				6																				6
E376		P				2																				2
E377		P				1																				1
E404		P				10																				10
E411		P				1																				1
E425		P				2																				2
E426		P				2																				2
E444		P				2																				2
E445		P				2																				2
E451		P				2		1												1						4
E459		P									1									3						4
E460		P				2																				2
E479		P				7			1																	8
E493		P				1																				1
E501		P				1				1																2
E509		P				1											2			4				1		8
E526		P				1																				1
E527		P				1																				1
E534		P		1		1										1										3
E545		P				4																				4
E548		P				2																				2
E599		P				1				1																2
E600		P				1																				1
E601		P																		1						1
E616		P				1																				1
E635		P																		1						1
E637		P																		1						1

遺構番号	遺構名	遺構種別	古墳時代～古代			中世														近世				近代	石製品・鉄製品・木製品	合計破片数
			須恵器	土師器	灰釉陶器	白磁系陶器				古瀬戸	常滑陶器	中国磁器			瀬戸美濃（大窯）	土師器皿		土師器鍋	瓦質土器	瀬戸美濃（遠州）	肥前	唐津	常滑陶器	陶磁器		
						山茶碗・皿（均質手）	山茶碗・皿（荒肌手）	片口鉢	その他			青磁	白磁	染付		非ロクロ皿	ロクロ皿									
E639		P				1																				1
E640		P				1																				1
E644		P				1																				1
E651		P				2																				2
E672		P				1																				1
E673		P				3																				3
E691		P				2														1						3
E694		P				7														2						9
E703		P				4																				4
E706		P																							1（金）	1
E707		P								1							2									3
E727		P				3																				3
E732		P																					1			1
E743		P				2				1										1				1		5
E812		P				4																				4
E822		P				4																				4
E827		P				2																				2
E828		P				4																				4
E835		P				2																				2
E841		P				2																				2
E848		P				1																				1
E854		P				1																				1
E855		P				3																				3
E860		P				1														4						5
E876		P				3																				3
E880		P				2																				2
E881		P				3																				3
E897		P				1																				1
E930		P				4				1																5
E932		P				3																				3
E940		P				1																				1
E946		P				2				1																3
E959		P				1											1									2
E970		P				2																				2
E975		P				2						1														3
E987		P				1																				1
E989		P				2				1																3
E997		P				3																				3
E1005		P															1									1
E1010		P				13														1						14
E1015		P				3																				3
E1026		P				5																				5
E1029		P				32		1		1						1										35
E1031		P				4																				4
E1043		P				1																				1
E1048		P				4																				4
E1056		P														1										1
E1060		P				6																	1			7
E1074		P																							2（木）	2
E1077		P				1				4										1						6
E1084		P				1																				1
E1123		P				1																				1
E1129		P				2																				2
E1137		P													1											1
E1169		P				5																				5
E1189		P				1																				1
E1192		P				2											1									3
E1196		P				2																				2
E1197		P				1																				1
E1202		P								1													1			2
E1208		P				4																				4
E1221		P									1									1						2
E1235		P				4																				4
E1240		P				7																				7
E1245		P				3					1															4
E1249		P				2																				2
E1250		P				5																				5
E1254		P				3														1						4
E1264		P				1														1						2
E1265		P																		1						1
F6		P				1																				1
F10		P	1			1																				2
F19		P	1																							1
F25		P		1																						1
F30		P	1	1		2																				4
F31		P				1											1									2
F51		P				1				1													1			3
F74		P																		1						1
F100		P				1																				1
F103		P				1																				1
F107		P				4																				4
F115		P				1																				1
F137		P				1																				1
F144		P				1																	2			3
F149		P				1																				1
F164		P				1																				1
F181		P				1																				1
F186		P																		1						1
F195		P																		2						2
F196		P				1																				1
F197		P				1																		1		2
F216		P				3												1								4
F217		P				1														2						3
F218		P				1																				1
F219		P				1																				1
F229		P				1																				1
F252		P				1																				1
F255		P				1									1					1						3
F260		P																		1						1
F264		P				1																				1
F276		P				1																				1
F289		P													1											1
F291		P				1									1					1			15			18
F303		P				5																				5
F304		P								1																1
F313		P																		1						1
F316		P				1																				1
F317		P				1																				1
F318		P				4																				4
F320		P				1																	1			2
F322		P				1																				1
F341		P		1		3														2						6
F360		P				1																				1
F361		P								1																1

遺構番号	遺構名	遺構種別	古墳時代～古代			中世														近世				近代	石製品・鉄製品・木製品	合計破片数
						白瓷系陶器						中国磁器				土師器皿										
			須恵器	土師器	灰釉陶器	山茶碗・皿(均質手)	山茶碗・皿(荒肌手)	片口鉢	その他	古瀬戸	常滑陶器	青磁	白磁	染付	瀬戸美濃(大窯)	非ロクロ皿	ロクロ皿	土師器鍋	瓦質土器	瀬戸美濃(登窯)	肥前	唐津	常滑陶器	陶磁器		
F368		P				1														1						2
F373		P	2																							2
F389		P				3																				3
F394		P				1																				1
G9		P				1																				1
G13		P				1																		1		2
G38		P				2																				2
G39		P				6	1																			7
G40		P				1																				1
G42		P				4														2						6
G43		P				2																				2
G66		P				1																				1
G80		P																		1						1
G83		P				2			1																	3
G91		P				1																				1
G97		P				1																				1
G105		P				1																				1
G106		P				1																				1
G107		P				2																				2
G110		P				1																				1
G111		P				1														1						2
G124		P				1																				1
G129		P				2																				2
G131		P																		1						1
G134		P				7																				7
G142		P				2														1						3
G143		P				3														4						7
G151		P				10																				10
G153		P		1		2																				3
G167		P				4																				4
G176		P		2		3																				5
G191		P														1								1		2
G200		P				2																				2
G204		P				3														1						4
G206		P				2																				2
G207		P				2																				2
G218		P		1		3																				4
G231		P				1																				1
G253		P				4																				4
G262		P				2																				2
G274		P				2									1					1						4
G276		P				2																				2
G280		P				1																				1
G286	柱痕跡出土	P				7																				7
G331		P				1																				1
G339		P				1																				1
G364		P				2																				2
G365		P				1																				1
G366		P				1																				1
G370		P				1									1											2
G371		P													1					3				1		5
G377		P				1																				1
G378		P				1																				1
G380		P				4																				4
G383		P				1																				1
G384		P				4														1				1		6
G385		P				4																				4
G388		P				3																				3
G393		P		1		15																				16
G396		P				3														1						4
G401		P				3																				3
G413		P				2														1						3
G431		P				1											4	1		2						8
G440		P				1																				1
G445		P									1															1
G447		P				1																				1
G448		P				1																				1
G449		P				1																				1
G477		P				2																				2
G509		P				1														6						7
G517		P	1			1														3			1			6
H4		P				1																				1
H21		P				1																				1
H36		P																			1					1
H66		P				21																				21
H99		P				1																				1
H110		P				1																				1
H114		P				7																				7
H161		P				6																				6
H169		P								1																1
H173		P				2		1																		3
A53		SX				5									1		1						2			9
A146		SX				2																				2
A158		SX				17														1						18
B150		SX	3			33						1														37
E1078		SX				8				1	2				3					32			9	11		66
F366		SX			8																		103	8		119
F375		SX																					64			64

第４章　遺物

第１節　遺物の概要

今回の調査では、土器・土製品、石器・石製品、木製品、金属製品・銭貨など、上恵土城跡から11,963点、浦畑遺跡から20,776点出土した（接合後の遺物破片数）。土器が全体の99.2％を占めており、中世以降の陶磁器が主体である。石器・石製品は全体の0.5％で大半は硯・砥石・石臼である。木製品は全体の0.2％で、柱穴・井戸跡から出土した柱根・曲物類である。金属製品は鉄砲玉、煙管などが出土した。

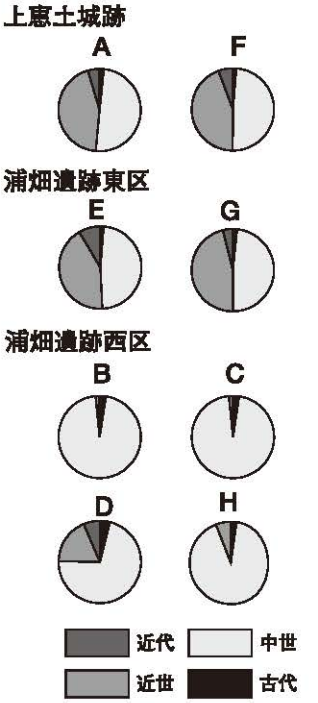
各地区での概要は、第11表、第15図にまとめた。上恵土城跡（Ａ・Ｆ地区）では、中世47％、近世が43％、浦畑遺跡東区（Ｇ・Ｅ地区）では、中世48％、近世43％と、やや中世の遺物の割合が多い。浦畑遺跡西区（Ｃ・Ｄ・Ｂ・Ｈ地区）では、中世68％、近世25％と中世の遺物が多くなっている。特にＢ地区では中世が94％、Ｈ地区では中世が92％と、圧倒的に中世の遺物が多い。

本報告では、土器・土製品が1,316点、石器・石製品45点、木製品20点、金属製品・銭貨９点、合計1,390点を掲載した。掲載した遺物は、①残りがよく全容が把握できるもの、②ある程度残りがよく図示できる遺物、③細片であるが時期や性格の特定が可能な遺物とした。原則として①は完形品実測、②は反転実測、③は破片実測で図示した。遺物実測図は図版編に掲載してある。遺構図（図版編Ｐ10～Ｐ101）に掲載してある出土遺物は基本的に1/6縮小で図示した。

また、各遺物の種別、器種については第12表～第15表、土器・土製品の部位名称については第16図に示したように統一した。各遺物の詳細については、遺物観察表に記載した。

第11表　地区別遺物出土量

地区		上恵土城跡		浦畑遺跡東区		浦畑遺跡西区				合計
		A	F	E	G	B	C	D	H	
古代	須恵器	36	255	49	27	11	13	18	7	416
	土師器	69	276	85	34	30	27	24	6	551
中世	灰釉陶器	0	49	2	1	3	3	0	3	61
	白瓷系陶器	2650	1775	3982	1439	1455	988	599	476	13364
	土師器	226	241	329	120	105	123	22	0	1166
	常滑陶器	66	50	127	47	33	273	72	48	716
	古瀬戸陶器	122	246	385	79	20	76	47	10	985
	中国磁器	6	5	5	6	4	6	0	3	35
	大窯陶器	94	86	218	42	2	42	15	6	505
	瓦質土器	0	0	0	0	1	0	0	0	1
近世	連房陶磁器	2243	1197	3370	1350	18	913	126	19	9236
	肥前磁器	0	1	2	1	0	3	1	1	9
	唐津磁器	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	常滑陶器	542	1104	1075	340	5	453	67	13	3599
	瓦器	2	1	3	1	0	1	0	2	10
近代	陶磁器	291	250	897	141	3	177	68	0	1827
古代～近世	石器・石製品	20	35	35	9	34	13	2	1	149
	木製品	12	5	28	0	0	0	1	0	46
	金属製品・銭貨	5	3	11	28	0	5	8	1	61
合計		6384	5579	10603	3667	1724	3116	1070	596	32739



第15図　各地区の時期別土器出土量構成比

第12表　土器・土製品分類

時代	種別	器種名		用途	産地
古代	縄文土器	深鉢		調理具	
	弥生土器	深鉢・甕・壺		調理具	
	須恵器	杯身・碗・杯蓋・盤・高杯		供膳具	
		甑		調理具	
		鉢・壺・瓶・はそう・甕		貯蔵具	
	土師器	甕		調理具	
		焼塩土器・暗文土器		供膳具	
	灰釉陶器	碗・皿		供膳具	猿投 東濃 美濃・関
		瓶・壺		貯蔵具	
中世	白瓷系陶器（均質手・北部系）（荒肌手・南部系）	A碗・K碗 A皿・K皿		供膳具	北部系（東濃）
		A片口鉢・K片口鉢		調理具	
		瓶・壺・水注		貯蔵具	南部系（尾張）
		入子		化粧具	
		陶丸・その他		不明	
	土師器	杯・皿	非ロクロ皿（かわらけ・手捏）	供膳具	
			Aロクロ皿（荒肌手） Kロクロ皿（均質手）		
			灯明皿	灯火具	
		鍋・釜	伊勢型鍋・煮沸具・羽釜	調理具	
			茶釜	喫茶具	
		瓦器風呂など		喫茶具	
	常滑陶器	片口鉢		調理具	常滑
		壺・甕		貯蔵具	
	古瀬戸陶器	碗	天目茶碗・平碗・浅碗・小杯	喫茶具	瀬戸美濃
		皿	緑釉小皿・折縁皿・腰折皿	供膳具	
			卸皿・底卸目皿・稜花皿		
			端反皿・その他		
		大皿	卸目付大皿・折縁深皿		
			直縁大皿・洗		
		鉢	片口鉢・柄付片口・擂鉢・小鉢	調理具	
		鍋・釜	内耳鍋・外耳鍋・蓋（釜）・茶釜		
		瓶・壺	仏花瓶	神仏具	
		瓶子・四（三）耳壺・有耳壺 双耳小壺・筒型容器		貯蔵具	
		水注・小瓶・水滴・茶入 祖母懐母		喫茶具	
		甕・桶		貯蔵具	
		仏餉具・仏具・香炉・燭台・合子・その他		神仏具	
	中国磁器	青磁・白磁・染付			中国
	瀬戸美濃大窯陶器	碗	天目茶碗	喫茶具	瀬戸美濃
			丸碗・平碗・筒型碗・小杯	供膳具	
		皿	端反皿・稜花皿・稜皿・菊皿 丸皿・志野丸皿・折縁皿・輪禿皿 腰折皿・鉄絵皿・緑釉小皿	供膳具	
			灯明皿	灯火具	
		大皿・鉢	大皿・向付類 擂鉢	供膳具	
			擂鉢	調理具	
		瓶・壺	徳利・小瓶・水注・茶入	貯蔵具 喫茶具	
		仏餉具・仏具・香炉・その他		神仏具	
	瓦質土器	瓦器風呂など		喫茶具	

第13表　木製品分類

時代	種別	器種名		用途
中・近世	木製品	柱根		建築材
		部材		
		曲物	円形曲物・底板	容器
			手桶側板	
		挽物	碗	

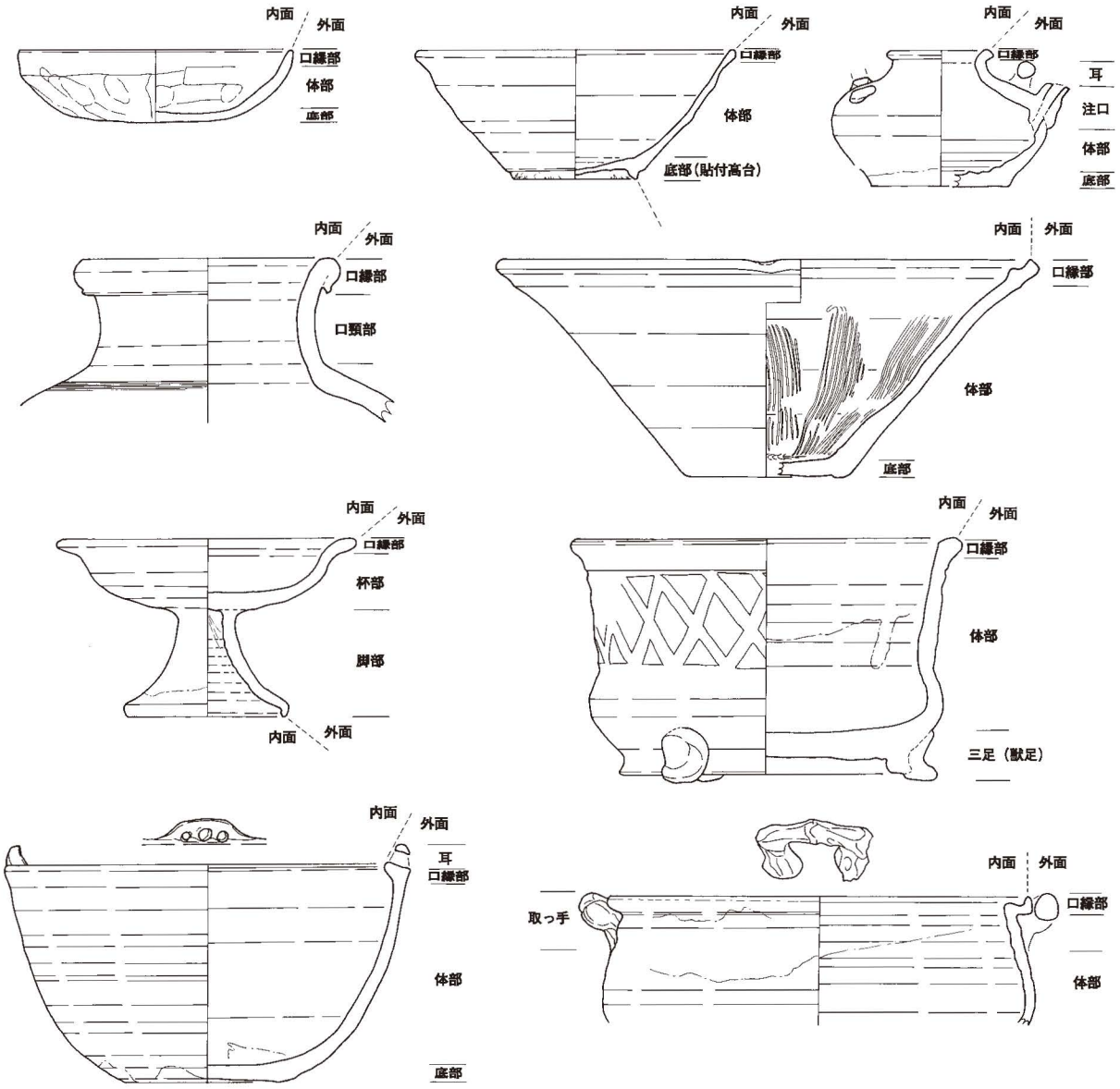
時代	種別	器種名		用途	産地
近世	瀬戸美濃連房陶器	天目茶碗		喫茶具	瀬戸美濃
		丸碗・平碗・端反碗・尾呂茶碗・ 腰錆茶碗・腰錆湯呑・腰折碗 鎧茶碗・鎧湯呑・刷毛目茶碗 筒型茶碗・掛け分け碗・せんじ・ 柳茶碗・染付丸碗 景次茶碗・広東碗・箱形湯呑	供膳具	
		卸皿		調理具	
		丸皿・志野丸皿・反皿・折縁皿 折縁鉄絵皿・鉄絵皿・輪禿皿 袋皿・摺絵皿・菊皿・型打ち皿 白磁型打ち皿・染付皿 染付深皿・その他		供膳具	
		大皿・黄瀬戸鉢・折縁鉢 折縁鉄絵鉢・鉄絵鉢		供膳具	
		擂鉢・片口・練鉢・手水鉢 染付鉢		調理具	
		植木鉢・深鉢・煙硝擂		生活具	
		徳利・有耳壺・水注・急須 汁次・銚子・水滴・小瓶 蓋（瓶・壺）		貯蔵具 喫茶具	
		花瓶（仏花瓶）・花生（筒型）		祭祀具	
		水甕・半胴甕・銭甕		貯蔵具	
		土鍋・蓋（鍋・釜）・行平（鍋）		調理具	
		茶釜		喫茶具	
		灯明皿（油皿）・灯明皿（受皿）		灯火具	
		秉燭・灯明具・灯明台・燭台			
		火入・瓶掛		暖房具	
		十能			
		香炉		神仏具	
		仏餉具			
		鬢盥		化粧具	
		合子・段重		貯蔵具	
		戸車・灯籠・渡瓶（しびん）		その他	
		匣鉢		窯道具	
	瀬戸美濃連房磁器	広東碗・端反碗・染付丸碗 箱形湯呑		供膳具	瀬戸美濃
	肥前磁器	染付碗・染付皿			肥前
	唐津磁器	碗・皿			唐津
	常滑陶器	甕		貯蔵具	常滑
		竈（クド）		調理具	
		火鉢		暖房具	
	瓦器	焜炉・七厘・火消し壺		暖房具	
	瓦	軒丸瓦・軒平瓦 軒桟瓦・陶器瓦		その他	
	土製品	土人形		神仏具	

第14表　石器・石製品分類

時代	種別	器種名	用途
縄文から古代	石器	磨製石鏃・打製石鏃	狩猟具 武器
		剥片	素材
		磨製石包丁・打製石包丁	農具
		粗製刃器	
		打製石斧	
中・近世	石製品	硯	発火具
		くぼみ石	調理具
		敷石	建築材
		紡錘車	紡織具
		石鍋	調理具
		石版	文房具
		砥石	工具
		上臼・下臼	調理具

第15表　金属製品分類

時代	種別	器種名	用途
中・近世	金属製品	鉄砲玉	武器
		和鋏	工具
		煙管	雑具
		馬具（金具）	馬具



第16図　土器・土製品の部位名称

第２節　土器・土製品

上恵土城跡・浦畑遺跡から出土した土器・土製品は、接合後の遺物破片数で32,482点である。種別は、須恵器、古代土師器、灰釉陶器、白瓷系陶器、中世土師器、中国磁器、古瀬戸陶器、常滑陶器、瀬戸美濃大窯陶器、瀬戸美濃連房陶磁器などに分けられる。各種別の分類・年代観は、既存の研究（注１）に従い、第3表・第12表に示した。各遺物については次のとおりである。

須恵器　416点出土した。どれも破片状態の出土であり、確認できた器種は少ない。器種は杯身、無台杯、有台杯、鉢、壺、甕などである。胎土や色調、型式的特徴から美濃須衛古窯跡群と猿投古窯跡群をはじめとする複数の生産地の製品が入ってきていることと思われるが、破片での出土のため判断は困難であった。図示したのは、上恵土城跡から出土した甕の１点である。

古代土師器　551点出土した。須恵器の出土状況と同じく極端な破片状態の出土であった。確認できた器種として、甕（長胴甕）がある。大半は摩滅が著しい。図示したのは、上恵土城跡から出土した甕の１点である。

灰釉陶器　60点出土した。どれも破片状態の出土であったが、確認できた器種は、碗・皿・壺である。碗と壺（猿投産）の２点を図示した。

白瓷系陶器　13,364点出土した。従来より「山茶碗」「灰釉系陶器」「白瓷系陶器」などと呼称されているが、本報告書は「白瓷系陶器」という用語を用いる。白瓷系陶器の分類は「均質手」と「荒肌手」という見た目と肌触りを主とした分類とした。均質手白瓷系陶器は胎土が均質で精良な東濃型（北部系）で、時期分類は窯式名で述べる。観察表ではＫの略号を用いた（例えば、Ｋ碗）。荒肌手白瓷系陶器は、胎土が荒肌で大粒な砂粒が含まれる瀬戸以南の尾張型（南部系）で、時期分類は型式名で述べる。観察表では、Ａの略号を用いた（例えば、Ａ碗）。本報告書では、碗・皿・片口鉢など均質手白瓷系陶器360点、荒肌手白瓷系陶器16点を図示した。

中国磁器　35点出土した。どれも破片状態の出土であったが、確認できた器種は、青磁碗・白磁小杯・白磁口禿皿・染付皿であった。青磁はどれも龍泉窯系とみられる。体部外面に鎬連弁文や連弁文を施すものが確認できた。青磁碗９点を含む16点を図示した。

中世土師器　1,166点出土した。回転台を用いて作られた素焼きの土師器皿を、「ロクロ土師器皿」という用語を用いた。胎土が均質で精良なものを「均質手ロクロ土師器皿」とし、観察表ではＫの略号を用いた（例えば、Ｋロクロ皿）。胎土が荒肌で大粒な砂粒が含まれものを「荒肌手ロクロ土師器皿」とし、観察表ではＡの略号を用いた（例えばＡロクロ皿）。

　またロクロを使用せず、手捏ねの土師器皿は、「非ロクロ土師器皿」とし、観察表では非ロクロ皿と表記した。土師器皿の内、明らかに煤が付着し、灯明具として使用されていたものは、灯明皿に分類した。土師器皿、土師器鍋など80点を図示した。

古瀬戸陶器　985点出土した。瀬戸の窯業地を中心に生産された中世の施釉陶器である。天目茶碗・茶釜など茶道具、平碗・縁釉小皿・腰折皿など供膳具、折縁深皿、卸目付大皿、擂鉢など調理具を確認した。器種や用途について、第12表のとおり分類した。碗・皿・鉢など103点を図示した。

常滑陶器　4,315点出土した。常滑陶器の中では、中世のものと近世のものがある。中世のものを「中世常滑」と表記し、観察表にも使用した。近世のものは「近世常滑」と表記し、観察表にも使用した。出土量は中世より近世の方が多く出土した。器種や用途について、第12表のとおり分類し、中世の常滑陶器では片口鉢・壺・甕、近世の常滑陶器では、甕・カマド・火鉢・焜炉の器種を確認した。壺・甕・カマド・火鉢など中世常滑34点を図示し、近世常滑16点を図示した。

瀬戸美濃大窯陶器　505点出土した。本遺構では、天目茶碗・茶入れなど茶道具、平碗・端反皿・稜皿など供膳具、擂鉢の調理具を確認した。器種や用途について、第12表のとおり分類した。碗・皿・鉢など56点を図示した。

瀬戸美濃連房陶磁器　白瓷系陶器についで多く、9,236点出土した。瀬戸産・美濃産とある中で本遺構では美濃産が８割ほど占める。確認した器種も豊富で、天目茶碗の茶道具、碗・皿など供膳具、練鉢・片口・擂鉢など調理具、水甕・半胴甕など貯蔵具、灯明具・燭台など灯火具、鬢盥など化粧具を確認した。その他第12表のとおり分類し、590点を図示した。

その他中近世陶磁器　前述した中近世陶磁器の他に、中世の瓦質土器、肥前磁器、唐津磁器があり、42点を図示した。

本報告では、上恵土城跡（Ａ・Ｆ地区）、浦畑遺跡東区（Ｇ・Ｅ地区）、浦畑遺跡西区（Ｃ・Ｄ・Ｂ・Ｈ地区）の各地区別に遺構出土遺物、遺物包含層遺物別に掲載した。

上恵土城跡（Ａ地区）　遺構出土遺物

Ａ１　溝跡（第151図－１～20）

１～８は白瓷系陶器の碗である。１と２は明和１号窯式で、３～５は大畑大洞４号窯式、６は大畑大洞東１号窯式、７と８は脇之島３号窯式に属する。９と10は白瓷系陶器の皿で、白土原１号窯式に属する。11と12は同じく白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に分類した。13～15は白瓷系陶器の片口鉢である。13は第10型式に属する。14と15は荒肌手であるが、時期は不明である。16と18は古瀬戸の柄付片口と折縁深皿である。柄付片口の内面には、重ね焼き時のトチン痕が3箇所に認められ、時期は中期に分類した。折縁深皿の時期は後Ⅰ期に分類した。17は瀬戸美濃大窯の灯明皿である。19と20は土師器の荒肌手ロクロ皿と伊勢鍋である。20の伊勢鍋の外面には斜め方向のハケを認め、口縁部から体部上方にかけて煤の付着が認められた。口縁部の端部分が若干内湾している。

Ａ11　溝跡（第151図－21～23）

21と22は瀬戸美濃大窯の仏具と灯明皿である。仏具の外面脚部から内面にかけて鉄釉が施されている。灯明皿は内面に４条の沈線が認められる。23は土師器の荒肌手ロクロ皿である。器厚は底部が厚く、体部の立ち上がりに伴い若干薄くなる。口縁部はやや外反する。

Ａ32　ピット（第152図－24）

24は、瀬戸美濃連房の擂鉢である。体部から口縁部の破片の出土のため擂目が一部のみしか確認できなかった。口縁部の形状より第１段階の時期に分類した。

Ａ95　溝跡(第152図－25～27)

25～27は瀬戸美濃連房である。25の反皿は口縁部を指で押さえ成形し、波状を呈している。26の筒型碗は、体部から口縁部にかけての破片で、鉄釉が施されている。27は鉄絵湯呑で、体部から口縁部にかけて鉄絵が施されている。

Ａ105　溝跡(第152図－28～30)

28は白瓷系陶器の皿で、白土原１号窯式に属する。29は瀬戸美濃連房の小杯である。外面体部中位から内面にかけて灰釉が施されている。30も同じく、瀬戸美濃連房の有耳壺である。外面から内面口縁部にかけて灰釉が施されている。

Ａ112　柱穴(第152図－31)

31は、ＳＨ１の柱穴から出土した白瓷系陶器の碗である。大洞東１号窯式に属する。

Ａ116　溝跡(第152図－32～36)

32～36は全て瀬戸美濃連房である。32は染付皿で、呉須による菊花文様が描かれ、灰釉が全面に施されている。33は深鉢である。底部から体部にかけての立ち上がりに伴い若干薄手になり口縁付近で丸みを帯びている。34は糸目土瓶である。１単位7条の回転糸目による沈線が施されている。35は香炉である。底部は欠損しているが、外面から内面口縁部にかけて灰釉が施され、内面に煤の付着が認められた。36は丸形三足双耳の土鍋である。外面底部から内面口縁部下方にかけて煤の付着が認められた。

Ａ117　水溜め状遺構(第152図－37～42)

37は、瀬戸美濃連房の仏餉具である。脚部外面中位より内面にかけて灰釉が施されている。38は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。39は古瀬戸の縁釉小皿である。口縁部に鉄釉が施させている。40は白瓷系陶器の碗で、大洞東1号窯式に属する。41は瀬戸美濃連房の徳利である。体部には2箇所窪みがあり、外面に鉄釉、内面に灰釉が施されている。42は瓦質火鉢である。体部上方は欠損しており、火入れ口が認められた。

Ａ118　水溜め状遺構(第153～155図－43～100)

43は白瓷系陶器の碗で、生田２号窯式に属する。44と45は、白瓷系陶器の皿である。44は白土原１号窯式に、45は生田２号窯式に属する。46と47は、古瀬戸の碗と有耳壺である。有耳壺には、外面から内面口縁部にかけて灰釉が施されている。48と49は中世の常滑陶器である。ともに破片状態で、自然釉が外面に認められる。第６Ａ型式に分類した。50は瀬戸美濃大窯の天目茶碗である。口縁部に天目茶碗の特有のくびれが認められ、外面体部下方から内面にかけて鉄釉が施されている。51と52は、土師器で荒肌手ロクロ皿と均質手ロクロ皿である。51の皿の外面体部から内面にかけて煤の付着が認められる。53から98まで(85の瓦器を除いて)は、瀬戸美濃連房である。53は丸碗で、内外面ともに鉄釉が施されている。54は小杯である。55は丸碗で、外面に文様が認められる。56は広東碗で、呉須

による梅花文の染付が付され、光沢のある透明釉が施されている。57は箱形湯呑で、同じく呉須による菊花つなぎの染付が外面に付され、内面底部中央には梅花文の染付が付されている。58は反皿で、体部から口縁部にかけて若干外反している。59と60は菊皿で、内外ともに丸ノミ削ぎが施されている。口縁部付近に緑釉、その上に灰釉が施されている。61は摺絵皿で、外面の高台内は露胎で、体部から内面にかけて灰釉が施され、円錐ピン痕が2箇所内面に認められる。62も摺絵皿で、61と同様の釉が施されている。63は襞皿で、口縁部が波状な形状を呈している。64は染付皿で、内面底部中央に花文が呉須で付されている。65は片口で、口径10㎝程度の形状から煙硝擂の可能性もあるが、擂痕が認められないため、小型の片口と考えた。66は擂鉢である。内面の口縁部から５㎝ほど入ったところで段が認められることから、第3段階の時期と考えられる。１単位17本で擂目がはっきりと残存していた。67は片口で、体部上方は欠損状態であるが、内面底部に重ね焼きの痕跡が一部認められる。68と69は練鉢である。ともに内面底部から体部立ち上がりにかけて、重ね焼きのため一部釉が拭い取られている。70と71は鉄絵鉢である。70の内面には、柳の絵柄が施されている。72から78は、徳利である。72は、体部上方に重ね焼きのトチン痕が3箇所認められ、口頸内部から内面体部上方にかけて、絞り込み痕が認められる。73や77も同様に絞り込み痕が認められる。79は水注の蓋である。80は、蓋物の蓋で内外面ともに灰釉が施されている。81は耳付水注で、取っ手が２箇所あり、注口にある取っ手は一部欠損していた。82は灯明受皿で、口縁部一部に煤の付着が認められる。83は落とし蓋で、厚みがあるためか重みを感じる。つまみを確認したので蓋と判断した。重ね焼き痕が1箇所認められた。84は灯籠の頭の部分である。内面は空洞となっており、外面のみに鉄釉が施されている。85は瓦器の瓦質七厘で、脚部の表面一部が剥離している。86は土鍋である。口縁部の板状双耳に三穴を確認した。87は土鍋の蓋である。外面のみ灰釉が施されている。88は茶釜である。89は十能で、取っ手上部から下部にかけて貫通穴が認められる。これは、熱による割れを防ぐためと考えられる。90は香炉である。獣足部分から外面体部そして内面口縁部にかけて飴釉が施されている。91と92は茶釜の蓋と釜の一対のものである。両取っ手に貫通穴が認められた。93は火鉢で底部に貼り付けの足が確認できた。何足あるかは確定できない。外面体部に緑釉の流しかけがあり、その上に灰釉が施されている。94は窯道具の一つで、匣鉢である。外面の体部と底部の境目に指頭痕を確認した。95は火入れで、内面の底部から体部にかけて煤の付着が認められた。96は行平の蓋である。97は仏餉具で、脚部内面に絞り込み痕が、体部の内面には貫入（釉にみられる細かい亀裂）が認められた。98は器種不明である。外面と内面の一部に鉄釉が施されている。99は連房窯磁器の土鍋である。100は近世常滑陶器の火鉢である。肉厚で、薄い部分でも厚みが２㎝ほどある。口縁部に縁帯を、内面には指頭痕を確認した。内面上部のみ煤の付着が認められることから、内面中位よりやや上まで灰をおき、炭を入れて暖をとっていたものと考えられる。

A123　溝跡（第156図―101）

101は瀬戸美濃連房の擂鉢である。14条４㎝幅の擂目が内面底部から内面体部にかけて認められる。内外面には錆釉が施された第３段階の時期にあたるものである。

Ａ124　土坑（第156図－102～106）

102は白瓷系陶器の碗で、生田２号窯式に属する。103は土師器の荒肌手ロクロ皿である。器厚は底部で厚く、体部の立ち上がりに伴い若干薄くなる。口縁部はやや外反する。内面口縁部で煤の付着が認められることから、灯明皿と考えられる。104と105は、土師器の均質手ロクロ皿である。103と同じく、内面口縁部で煤の付着が認められる。105は煤の付着は認められなかった。106は瀬戸美濃連房の志野丸皿である。内面底部中央に鉄釉の文様が描かれ、内外面に長石釉が施されている。

Ａ133　集石遺構（第156図－107～114）

107は古瀬戸の直縁大皿である。口縁部が真直ぐ延びている。108は中世の常滑陶器で、外面に自然釉がみられる。縁帯の上下の幅が４㎝あり口縁部と接地していることから、第10型式に属し、15世紀前半の時期のものと考えられる。109は土師器の均質手ロクロ皿である。内面口縁部から底部にかけて煤の付着が認められることから、灯明皿と考えられる。110は、瀬戸美濃連房の丸碗である。外面の体部上方に鉄絵の文様が描かれている。内面には、底部付近に2条、口縁部付近に1条の輪文が認められる。111と112は練鉢である。内面底部に一部釉が拭いとられている。113は瀬戸美濃連房の鬢盥である。細長い形状を呈したものが多いが、幅が大きく稀なものである。側面を欠損しているが、残存部分からほぼ垂直に立ち上がることが確認できる。外面底部には布目痕が認められる。114は近世常滑陶器の甕の体部破片である。

Ａ134　溝跡（第156図－115～117）

115と116は白瓷系陶器の碗である。115は大谷洞14号窯式に、116は生田２号窯式に属する。117は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。

Ａ139　溝跡（第157図－118）

118は瀬戸美濃連房の徳利である。底部のみ露胎で、外面体部から内面にかけて灰釉が施されている。

Ａ144　土坑（第157図－119）

119は瀬戸美濃連房の柳茶碗である。底部のみ露胎で、外面体部から内面にかけて灰釉が施されている。外面体部に鉄釉で柳の文様が描かれ、外面の高台脇から内面にかけて灰釉が施されている。

Ａ147　溝跡（第157図－120）、**Ａ153　土坑**（第157図－121）

120は白瓷系陶器の碗で、大畑大洞４号窯式に属する。121は瀬戸美濃連房の折縁輪禿鉢である。内面底部の釉が、輪状に拭い取られている。

Ａ194　ピット（第157図－123）、**Ａ209　ピット**（第157図－122）、**Ａ210　ピット**（第157図－124）

123は瀬戸美濃連房の片口である。体下部は欠損している。122は瀬戸美濃連房の丸碗である。内外面の鉄釉の上に灰釉が二度がけされている。124は白瓷系陶器の碗で、生田２号窯式に属する。口縁部分が内湾し、端部が尖っている。

Ａ211　土坑（第157図－125）

125は、土師器の均質手ロクロ皿である。内面口縁部から底部にかけて煤の付着が認められる。

Ａ228　井戸跡（第157図－126～135）

126と127は、白瓷系陶器の碗と皿である。126は脇之島３号窯式に、127は明和１号窯式以降に属する。128は瀬戸美濃大窯の甕である。129は土師器の均質手ロクロ皿である。内面口縁部から底部にかけて煤の付着が認められる。130は瀬戸美濃連房の天目茶碗である。口縁部に天目茶碗の特有のくびれが認められ、外面体部下方から内面にかけて鉄釉が施され、灰釉が上がけされている。131は瀬戸美濃連房の丸碗である。内外面に鉄釉が施され、口縁部に飴釉がつけがけされている。132は瀬戸美濃連房の尾呂茶碗である。体部下方がやや丸味を帯び、上方がやや開き気味に立ち上がる。高台周辺に錆釉他の部分に飴釉が施され、口縁には、ウノフ釉がつけかけされている。133と134は瀬戸美濃連房の菊皿である。ともに内面型打ちによる菊花文様が描かれている。外面体部から内面体部にかけて銅緑釉が、外面底部以外は全面に灰釉が施されている。135は瀬戸美濃連房の折縁鉢である。外面体部中位に4条の沈線が、内面体部上方と下方に7条の沈線が認められ、緑釉が流しかけられている。内面底部から立ち上がる部分に釉を拭い取った箇所がみられる。

Ａ232　柱穴（第157図－136）

136は、瀬戸美濃大窯の天目茶碗である。外面下方に錆釉が、上方から内面にかけて錆化粧が認められる。大窯第3段階の時期と思われる。

上恵土城跡（Ｆ地区）　遺構出土遺物

Ｆ６　ピット（第158図－137）、**Ｆ15　溝跡**（第158図－138）、**Ｆ19　ピット**（第158図－139）

137は、白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。138は、灰釉陶器の碗である。139は、須恵器の杯身である。

Ｆ34　井戸跡（第158・159図－140～165）

140～142は、ともに土師器である。140と141は荒肌手のロクロ皿で、内面に煤の付着が認められる。142は均質手のロクロ皿である。143～165は全て瀬戸美濃連房の陶器である。143、144、145、146は丸碗で、高台周辺を除いて灰釉、あるいは鉄釉が施されている。147はせんじで、器形は高台から緩やかに立ち上がり、体部上方からほぼ垂直に立ち上がる。高台内も含めて全面に灰釉が施され、体部上方の一部に「吹きつけ」あるいは「刷毛がけ」による緑釉が認められる。148はせんじ掛け分け碗である。147と同様な形状をしており、灰釉と鉄釉を「つけがけ」することにより掛け分けを呈している。149は、掛け分け碗である。底部付近は器厚があり、緩やかに立ち上がり口縁部にはほぼ直立する。150は小杯で、高台周辺を除いて灰釉が施されている。151は端反小杯で、口縁部では外反しており、体部中位から内面中位にかけて長石釉が施されている。152～155は摺絵皿で 、摺絵技法による鉄絵（154のみ呉須）の草花文が認められ、高台周辺を除いて灰釉が施されている。156は型打皿で、左右両端部分が欠損している。残存の口縁形状から推測するとやや立ち上がっていくと思われる。向

付のような用途であったと考えられる。157は摺絵向付で、口縁部分が欠損している。内面底面には、摺絵技法による鉄絵の草花文が認められる。158は片口で、体部下方がやや丸味を帯び、上方は若干外反しているもののほぼ直立し、口縁端部は丸く収まる。口縁の1箇所を切り込み細長い片口部を接合する。高台周辺を除いて錆釉が施され、内面に重ね焼き痕が3箇所みられる。159も片口で、体部下方がやや丸味を帯び、158の片口よりも緩やかに立ち上がる。高台周辺を除いて飴釉が施されている。160は菓子鉢で、口縁部が波状を呈しており、全面に鉄釉が施されている。161は輪禿折縁鉢で、内面下方で釉の拭い取りが認められる。162は双耳壺で、外面体部上方に4条の沈線が認められる。高台周辺を除いて鉄釉が施されている。163は徳利である。体部中央にへこみが2箇所認められる。164は火入れで、高台から体部下方から上方にかけてすぐ直立し、口縁部は欠損している。内面全体に煤の付着が認められる。165は片口で、底部から体部下方にあたる上方にかけては欠損している。内面にトチン痕が認められる。

Ｆ50　溝跡（第159・160図－166～189）

166～168は白瓷系陶器の碗である。166は大畑大洞４号窯式に、167と168は脇之島３号窯式・生田２号窯式に属する。170は中国磁器の青磁碗である。内面に印が認められ、太宰府Ⅰ類に属する。171と172は、土師器の均質手ロクロ皿である。171の方は内面口縁部付近に煤の付着が認められる。169と173～184は、瀬戸美濃連房の陶器である。169は丸碗で、高台付近からやや斜めに立ち上がり、口縁端部で丸く収まり、高台周辺を除いて灰釉が施されている。173は筒型碗で、高台下方より斜めに立ち上がり、すぐ直立する。ほぼ全面に鉄釉が施されている。174は鉄絵湯呑で、体部は丸味を帯び、口縁端部は内面に向けてやや尖っている。175は染付深皿で、呉須による文様が描かれほぼ全面に灰釉が施されている。176は鉄絵鉢である。177は擂鉢で、擂目単位12本が認められ、口縁部付近は欠損している。178は練鉢で体部上方は欠損していた。高台周辺を除いて長石釉が施されている。179は鉢で内面にトチン痕が認められた。180は徳利で体部中位には２箇所へこみが認められる。181は有耳壺で、耳部が１箇所の出土だが双耳か四耳壺などの可能性があるため、有耳壺と判断した。内面に3つの指頭痕が認められる。182は深鉢で、呉須による文様が描かれ、ほぼ全面に灰釉が施されている。183は染付小杯で、呉須の染付の上から厚めの長石釉が全面に施されている。184は鍋蓋である。外面のみ灰釉が施されている。185は肥前磁器の碗の蓋である。呉須の染付の上から透明釉が全面に施されている。186は加工円盤である。187は瓦器の十能で、取っ手部分に1つの穴が認められる。炭や灰など受ける外面は丸味を帯びている。188と189は近世の常滑陶器である。一般に赤物といわれるもので、188は縁帯が残存している。

Ｆ54　溝跡（第160図－190・191）

190は白瓷系陶器の碗で大畑大洞４号窯式に、191は白瓷系陶器の皿で明和１号窯式以降に属する。

Ｆ65　溝跡（第161～163図－192～239）

192は古代土師器の甕である。外面体部上方と内面口縁部にかけてハケが認められる。内面体部には指頭痕が確認できる。193は灰釉陶器の碗である。194～201は白瓷系陶器の碗である。その中の194

～197は明和１号窯式に、198は大畑大洞４号窯式に、199は大谷洞14号窯式に、200は大洞東１号窯式に、201は生田２号窯式に属する。202は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。203は白瓷系陶器の碗で、大洞東１号窯式に属する。204と205は、白瓷系陶器の皿であり、明和１号窯式以降に属する。206は古瀬戸の天目茶碗で、口縁部にくびれがやや外反し、天目茶碗の特有の器形が認められる。体部上方から内面にかけて錆釉が施されている。207は古瀬戸の平碗で、高台付近は欠損して存在しないが、体部から口縁部にかけて斜めに真っ直ぐ立ち上がる。口縁端部は丸く収まる。208は古瀬戸の有耳壺で、外面口剄部下方に細い沈線４条が認められ、外面から内面にかけて古瀬戸釉が施されており、所々に露胎部がみられる。209は古瀬戸の縁釉小皿で、灰釉の緑釉が施されている。210は中国磁器の青磁碗である。外面高台脇から体部立ち上がりにかけて、鎬連弁文が認められ、全面に青磁釉が施されている。211は古瀬戸の腰折皿である。高台脇から緩やかに立ち上がり体部下方からやや外反する。外面体部下方から内面にかけて灰釉が施されている。212は、瀬戸美濃大窯の天目茶碗を転用した加工円盤である。213～217は土師器で、均質手ロクロ皿である。213と215は内面一部に煤の付着が認められる。218～220は瀬戸美濃連房の陶器である。218は柳茶碗で、外面体部下方に鉄釉による文様の上から、灰釉が全面に施されている。219は染付丸碗で、呉須による文様の上から灰釉が全面に施されている。220は広東碗で、呉須による文様の上から灰釉が全面に施されている。内面口縁部・体部下方に輪文が認められる。221は連房窯磁器の染付湯呑である。内面底部中央に印花文が認められる。222～231は瀬戸美濃連房の陶器である。222と223は灰釉の丸碗と小碗である。224は腰錆湯呑で、外面体部に３条の沈線が認められ、鉄釉の上に灰釉をつけがけしている。225は小杯で、高台周辺を除いて灰釉が施されている。226は志野鉄絵皿で、体部でやや内湾する。内面に鉄釉で蘭竹文が描かれ、全面に長石釉が施されている。227は鉄絵折縁皿で、口縁がやや外反する。226と同じく内面に鉄釉で蘭竹文が描かれ、外面体部中位から内面口縁部に灰釉が施されている。228は灯明皿(尾呂)で、外面底部は碁笥底を呈し、煤の付着が認められる。229は擂鉢で、口縁部は丸味を帯び、肥厚している。内面口縁部下方に弱い段が認められることから、第３段階の時期のものである。単位14本の擂目が認められる。230は灯明皿の受皿である。231は灯明皿の油皿である。重ね焼き痕がみられる。232は連房窯磁器で染付碗である。233～238は瀬戸美濃連房の陶器である。233は擂鉢で、口縁部は丸味を帯び、肥厚を呈している。内面口縁部下方に弱い段が認められることから、第3段階の時期のものである。単位16本の擂目が認められる。234は、十能で錆釉が全面に施されている。235は練鉢で全面に黄瀬戸釉が施されている。236は片口である。237は火鉢で、外面体部上方に獅子の彫り跡が認められる。238は十能で、鉄釉が施されている。239は近世の常滑陶器の鉢で、口縁部に若干縁帯が認められる。体部が比較的真直ぐ斜めに立ち上がる器形から、火鉢の可能性もある。

Ｆ70　溝跡(第163～164図－240～257)

240～247は白瓷系陶器の碗である。240～243は明和１号窯式に、244～246は大畑大洞４号窯式に、247は大洞東１号窯式に属する。248は荒肌手白瓷系陶器の片口鉢で、外面体部に回転削り・ヘラ削りが、内面に横方向の板ナデが認められる。249も荒肌手白瓷系陶器の片口鉢で、底部のみの破片である。248と249ともに時期は不明である。250は古瀬戸の天目茶碗である。体部下方は露胎部で、上方から鉄釉が施されている。251は古瀬戸の底卸目皿で内面底部には４条の沈線が認められる。252は古

瀬戸の大皿である。253は古瀬戸の片口小瓶で、外面口剄部下方には棒状工具による２条の沈線が認められる。254は瀬戸美濃大窯の端反皿で、高台脇から緩やかに立ち上がり体部下方からやや外反する。外面体部下方から内面にかけて灰釉が施され、口縁端部は丸く収まる。255は、土師器の均質手ロクロ皿である。256は古瀬戸の擂鉢で、内面に単位9本の擂目が認められる。257は中世の常滑陶器である。

Ｆ99　柱穴（第164図－258）、**Ｆ105　土坑**（第164図－259）

258は白瓷系陶器の皿で、口縁先端部がやや内湾している。生田２号窯式に属する。259は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。

Ｆ128　溝跡（第164図－260～264）

260は白瓷系陶器の皿で、内面に稜線がはっきり認められる。生田２号窯式に属する。261は古瀬戸の釜である。262は土師器で均質手ロクロ皿である。263は瀬戸美濃大窯の灯明皿である。264は瀬戸美濃大窯の擂鉢である。内面に単位15本の擂目が認められ、錆釉が施されている。

Ｆ132　溝跡（第164図－265・266）、**Ｆ134　井戸跡**（第164図－267）

265は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。266は白瓷系陶器の片口鉢で、第９型式に属する。267は擂鉢で、口縁部は丸味を帯び、肥厚している。擂目が若干認められるが遺物下方欠損のため詳細は把握できなかった。

Ｆ137　井戸跡（第164図－269）、**Ｆ146　性格不明遺構**（第164図－270）

269は白瓷系陶器の碗で、生田２号窯式に属する。270は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。

Ｆ150 土坑（第164図－268）

268は中国磁器の青磁碗である。外面体部立ち上がりにかけて、鎬連弁文が認められ、青磁釉が施されている。

Ｆ151　井戸跡（第165図－271～276）

271は土師器の均質手ロクロ皿である。口縁部に煤の付着が認められる。272は瀬戸美濃大窯の灯明皿で、稜が明瞭にみられ、重圏皿ともいわれる。273～278は瀬戸美濃連房の陶器である。273は有耳壺で双耳が残存し、その位置関係から三耳壺である可能性が高い。外面から内面口縁部にかけて黄瀬戸釉が施されている。274は仏花瓶で、体部中位に稜が入り、口頸部上方が緩やかに外反する。内面体部に絞り込み痕が認められる。施釉は二度がけで、体部中位から底部にかけて鉄釉が施され、上方にかけては灰釉がつけがけされている。275は土瓶で、注口は斜めに延びほぼ完形で残存する。276は染付蕎麦猪口で、呉須による文様が描かれ、灰釉が施されている。全体に貫入が入る。

Ｆ156　土坑（第165図－277）、**Ｆ165　土坑**（第165図－278）

277は瀬戸美濃連房の小皿で、口径７㎝で口縁に若干の煤のようなものが認められることから、後に灯明皿に転用したものと考えられる。278は小杯である。

Ｆ166　溝跡（第165図－279～286）

279は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。280は古瀬戸の天目茶碗で、口縁部の下方でくびれが認められ、体部中位で鉄釉が、下方で錆釉が施されている。281は古瀬戸の小壷で、体部は丸味を帯びて口縁部付近では直立し、さらに上がる傾向をみせる。外面に鉄釉が施されている。282は古瀬戸の釜の落とし蓋である。底部には回転糸切り痕が認められ、内外面ともに錆釉が施されている。283は古瀬戸の天目茶碗を転用した加工円盤である。284は瀬戸美濃連房の志野反皿である。削りだし高台の端部はやや尖り、体部から口縁部にかけて緩やかに外反する。内面には円錐ピン痕が認められ、全面に長石釉が施されている。285は青磁碗で、13世紀後半の時期のものである。286は志野鉄絵皿で、肥厚な体部で口縁端部は丸く収まる。内面に鉄釉で蘭竹文が描かれ、全面に長石釉が施されている。

Ｆ167　溝跡（第165図－287）、**Ｆ174　溝跡**（第165図－288・289）

287は、白瓷系陶器の碗で、大洞東１号窯式に属する。288は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。289は均質手白瓷系陶器の片口鉢である。時期は不明である。

Ｆ175　水溜め状遺構（第165図－290～293）

290は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。291は荒肌手白瓷系陶器の片口鉢である。高台脇から体部に立ち上がるところで欠損している。時期は不明である。292は須恵器の甕の口頸部分である。293は摺絵皿である。内面底面には摺絵技法による鉄絵の草花文が認められ、灰釉が施されている。

Ｆ176　溝跡（第165図－294・295）

294は染付湯呑で、外面体部上方において呉須による文様が描かれ、体部中位から口縁部にかけて内外面ともに長石釉をつけがけしている。高台付近は露胎である。295は古瀬戸の擂鉢で、単位８本の擂目が認められ、錆釉が施されている。

Ｆ206　溝跡（第166図－296～303）

296～303は300だけを除いて、瀬戸美濃連房の陶器である。300は磁器である。296は広東碗で江戸末期・幕末のころのものである。広東碗の中でも器高が低い。297は片口で、底部はかなり厚手で体部中位にかけてやや薄くなり、口縁部でやや内湾する。298は小杯である。299は擂鉢でハケ単位28本の擂目が内面底部から体部にかけて認められた。300は磁器の徳利で、外面の鉄釉で描かれた文字から（伏）見村ではないかと想像され、近世末から近代の時期と考えられる。301は土瓶で、外面に鉄釉で帆かけ舟と思われる文様が描かれ、高台付近を除いて長石釉が施されている。302は仏餉具で、脚部底部で広がり、体部から口縁部にかけて緩やかに内湾している。脚部の内面には絞り込み痕が認め

られた。303は瓶掛で、外面に獅子の顔面が描かれ、印花文や５・６条の沈線が認められる。体部上方から口縁部にかけて内外面に呂宋釉が流しかけされている。幕末の時期のものと思われる。

Ｆ218　ピット（第166図－304）、**Ｆ220　溝跡**（第166図－305）

304と305はともに白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。

Ｆ226　ピット（第166図－306・307）、**Ｆ229　柱穴**（第166図－308）

306は、土師器の非ロクロ皿である。307は、古瀬戸の縁釉小皿で口縁部に灰釉がつけがけされている。308は、土師器の均質手ロクロ皿である。

Ｆ233　井戸跡（第166図－309）、**Ｆ264　ピット**（第166図－310）

309は瀬戸美濃連房の銚子である。注口部分が一部残存しており、灰釉が施されている。310は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。

Ｆ315　土坑（第166図－311）、**Ｆ330　水溜め状遺構**（第166図－312・316）

311は白瓷系陶器の皿で、白土原１号窯式に属する。312は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。316は白瓷系陶器の片口鉢で、第６型式に属する。

Ｆ340　土坑（第166図－313）、**Ｆ352　土坑**（第166図－315）

313は、土師器の荒肌手ロクロ皿である。315は白瓷系陶器の碗で、生田２号窯式に属する。

Ｆ370　井戸跡（第166図－314）

314は白瓷系陶器の碗で、生田２号窯式に属する。内面に明瞭な稜線が存在し、口縁端部が内湾している。

浦畑遺跡東区（Ｇ地区）　遺構出土遺物

Ｇ1　溝跡（第167図－317～319）

317は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。口縁端部が面取りされている。318は古瀬戸の擂鉢で、単位12本の擂目が認められる。内面はかなり摩滅しており使い込んだものと考えられる。319は古瀬戸の卸皿である。

Ｇ27　井戸跡（第167図－320～327）

320は白瓷系陶器の碗で、大谷洞14号窯式に属する。321～325は白瓷系陶器の碗で、大洞東１号窯式に属する。326は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。327は古瀬戸の折縁深皿で、内面に薄い鉄釉が施されている。

G44　土間状遺構（第167図－328～330）

328は白瓷系陶器の碗で、大洞東1号窯式に属する。329と330は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。

G50　土坑（第167図－331～332）

331は白瓷系陶器の碗で、大洞東1号窯式に属する。332は均質手の白瓷系陶器の碗であるが、底部が欠損しているため、型式・時期は不明である。

G122　柱穴（第167図－333）

333は荒肌手の白瓷系陶器の片口鉢で、高台は貼り付けで成形され、外面体部下方では下からの板ナデが認められる。口縁部が欠損していたため、時期・型式は不明である。

G186　溝跡（第167図－334）

334は瀬戸美濃連房の折縁鉄絵皿である。体部上方から口縁部にかけてやや外反し、端部は丸く収まる。内面には鉄釉で蘭竹文が描かれ、高台付近を除いて黄瀬戸釉が施されている。

G187　柱穴（第167図－335）、**G221　柱穴**（第167図－336）、**G228　柱穴**（第167図－337）

335は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。336と337は白瓷系陶器の碗で、生田２号窯式に属する。内面に明瞭な稜線が存在し、口縁端部が内湾している。

G259　柱穴（第167図－338）、**G272　柱穴**（第167図－339）、**G279　柱穴**（第167図－340）

338は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。339は古瀬戸の擂鉢で単位９本の擂目が認められる。内外面に錆釉が施されている。340は白瓷系陶器の碗で、生田２号窯式に属する。内面に明瞭な稜線が存在し、口縁端部が内湾している。

G301　溝跡（第167～171図－341～432）

341は、土師器の非ロクロ皿である。342と343は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式と大谷洞14号窯式に属する。344は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。345は古瀬戸の縁釉小皿で、口縁端部がやや外反し、灰釉が流しかけられている。346は白瓷系陶器の片口鉢で、高台は欠損しており、体部上方から斜めに立ち上がり口縁部は丸く肥大しながら収まる。形状から第8型式に属する。347～351は古瀬戸である。347は縁釉小皿で、口縁部に灰釉が流しかけられ、内面４箇所に釉の拭い取り痕が認められる。348は折縁深皿で、口縁端部では面取りが施され、丸味を帯びながら外反している。口縁から体部上方にかけて灰釉が施されている。349～351はいずれも後Ⅳ新の時期の擂鉢で、内外面に錆釉が施されている。352～357は、土師器の荒肌手ロクロ皿である。352と355と356は内面に煤の付着が認められる。後に灯明皿として転用したと考えられる。358～360は中国磁器である。358は青磁碗で内面に押印花文が認められ、太宰府Ⅳ類に属し、14世紀前半のものと考えられる。359は白磁小杯で、体部から口縁部端部にかけて外反している。全面に白磁釉が施されている。360は染

付皿で、内面には呉須による文様の絵柄や外面高台脇付近には輪文が認められる。361は中世の常滑陶器の甕で、縁帯の下部が延びており、８型式に属する。362は瀬戸美濃大窯の白天目茶碗である。口縁部下方のくびれがやや小さく端部は丸く収まる。時期は大窯第１段階（1530年前後）と考えられる。高台付近を除いて灰釉が施されている。363～427まで全て、瀬戸美濃連房の陶器である。363～367は、天目茶碗で、体部はほぼ直線的に開くが、体部上方から大きく内傾する。口縁部付近ではややくぼみがあり、口縁部は短く外反し玉縁状になる。どれも高台付近を除いて鉄釉が施されている。368～371は丸碗で、どれも高台付近を除いて鉄釉や灰釉が施されている。372は腰錆茶碗で、高台付近を除いて鉄釉が施され、体部上方から口縁部にかけて内外面に、灰釉が化粧がけされている。373は摺絵丸碗で、外面体部上方には摺絵技法による呉須の草花文が認められる。374は柳茶碗で、外面体部下方に鉄釉薬による文様が描かれ、灰釉が施されている。375は柳湯呑である。374と同じく鉄絵による文様が描かれている。376と378は丸皿で、高台付近を除いて灰釉が施されている。377と379と381は、反皿で底部から斜めに立ち上がり、体部で緩やかに外反し、玉縁状に丸く収まる。377にはトチン痕が３箇所認められる。380は志野丸皿で、内面に鉄釉による文様が描かれ、長石釉が全面に施されている。382と383は折縁皿で、体部で緩やかに外反し、口縁端部は短く内傾する。体部上方から口縁にかけて灰釉が流しかけられている。384～387は折縁鉄絵皿で、折縁皿と同じ器形をしながら、内面に鉄釉で蘭竹文が描かれ、高台付近を除いて灰釉が施されている。388～390は志野鉄絵皿で、内面に文様が描かれ、全面に長石釉が施されている。391と393と394は摺絵皿で、内面底部に摺絵技法による鉄釉の草花文が認められる。392は摺絵型打皿で、向付のような用途であったと思われる。395は染付深皿で、呉須による文様が内外面に描かれ、全面に透明釉が施されている。396は水滴である。397は染付小瓶で、呉須による文様が体部に描かれ、全面に灰釉が施されている。398は折縁鉄絵鉢で口縁部は外反し、端部は玉縁状に丸く収まる。内面には鉄釉による文様が描かれ、灰釉が施されている。399と401は掛け分け向付で、錆釉に灰釉をつけがけしている。400は、ロクロ成形後に内型を押しあてた変形山型の小皿である。高台はロクロによる削り込みによるもので、円形を呈している。402は台付皿である。403は筒向付で、外面体部に呉須による文様が体部に描かれ、全面に長石釉が施されている。404と405は擂鉢で、単位19本と10本の擂目が認められる。406は片口で、口縁部が内傾し肥厚した片口部を有する。半球状の体部を有し、削りだし高台で、高台付近を除いて灰釉が施されている。407は練鉢で、口縁部が短く外折して垂れ、高台付近を除いて灰釉が施されている。内面底部に円錐ピン痕が３箇所認められる。408は汁次の注口部分である。409は壺である。410は釜の体部上方部分である。411は鉢で、内面に布目痕が認められる。412は花生で、体部成形において丸状工具による削ぎが見られる。黄釉の上に鉄釉をつけがけしている。413は灰釉の有耳壺である。414は練鉢で、底部が欠損しており、体部からやや丸味を帯びながら立ち上がり器厚は若干薄い。口縁部が短く玉縁状に丸く収まる。内面底部付近に拭い取りの跡が認められる。415は水甕で、断面方形の削りだし高台を有し、体部下方に稜が入り、上方はやや外反気味に立ち上がる。高台付近を除いて灰釉が施され、緑釉を流しかけている。416と417は鍋蓋である。418は茶入れ蓋でつまみ部分が欠損しているが、外面に緑釉を流しかけている。419は灯明皿の油皿である。やや上げ底で、体部はほぼ直線的に口縁端部はやや角張っている。外面に煤の付着が認められる。420は灯明皿の受皿である。421～423は香炉で、有足（三足）が認められる。体部下方に稜が入り、上方はやや直線的に立ちあがる。424と

425は、窯道具の匣鉢である。中に陶磁器など入れて使用したと思われる。426は窯道具の輪ドチンである。窯業で使用された道具である。427は大皿のような器型をしているが器種は定かでない。428は連房窯磁器の土鍋である。429は唐津磁器の中皿である。内面に８条の放射状の沈線と円錐ピン痕が認められる。430は唐津磁器の皿で、断面方形の削りだし高台を有し、内面に梅花の絵柄が描かれている。431は肥前磁器の染付小杯で、呉須による絵柄が外面体部に描かれ、全面に透明釉が施されている。432は瓦の陶器丸瓦で、外面に錆釉が施されている。瓦に釉が施されていることから、武家の屋敷であったかもしれない。

Ｇ302　溝跡（第172図－433～437）

433は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。434は白瓷系陶器の片口鉢で、第７型式に属する。435は瀬戸美濃連房の碗である。436は瀬戸美濃大窯の小天目茶碗で、体部はほぼ直線的に開くが、体部上方から大きく内傾する。口縁部付近ではややくぼみがあり、口縁部は短く外反し玉縁状になる。どれも高台付近を除いて鉄釉が施されている。437は菊皿で、内外面共丸ノミ削ぎによる菊花文様が描かれ、口縁はヘラ削りが施されている。底部以外は全面灰釉が施されている。

Ｇ328　柱穴（第172図－438）、**Ｇ336　柱穴**（第172図－439）

438は白瓷系陶器の碗で、生田窯式に属する。内面に明瞭な稜線が存在し、口縁端部が内湾している。439は古瀬戸後期の擂鉢である。

Ｇ370　ピット（第172図－440・441）、**Ｇ380　ピット**（第172図－442）

440は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。441は古瀬戸の小天目茶碗で、口縁部から体部にかけて緑釉が施されている。442は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。

Ｇ385　ピット（第172図－443）、**Ｇ393　ピット**（第172図－444）

443と444は白瓷系陶器の碗で、前者は白土原１号窯式に、後者は大畑大洞４号窯式に属する。

Ｇ436 土坑（第172図－445）、**Ｇ441　柱穴**（第172図－446）、**Ｇ453　柱穴**（第172図－447）

445は、古瀬戸の卸皿で、内面底部には棒状工具による卸目が認められる。446は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。447は、土師器の均質手ロクロ皿である。

Ｇ472　井戸跡（第172・173図－448～470）

448は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。449は白瓷系陶器の碗で、大洞東1号窯式に属する。450は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。451は古瀬戸後期の祖母懐壷である。452と453は瀬戸美濃連房の天目茶碗で、ともに底部を欠損している。体部上方から大きく内傾する。口縁部付近ではややくぼみがあり、口縁部は短く外反し玉縁状になる。454は中世常滑陶器の甕で、口縁部縁帯の形状から第10型式に属する。455～470は瀬戸美濃連房の陶器である。455は鉄絵丸碗で内外面ともに鉄絵が描かれ、全面に灰釉が施されている。456は丸碗である。457と458は広東碗で、い

ずれも高台は外側が高く、ほぼ直立し、体部はわずかに丸味をもって開く。体部には呉須による文様が描かれ、内面底部中央には印花文がみられる。459は箱形湯呑で、457と458と同じく体部には呉須による文様が描かれ、内部底面には印花文がみられる。全面に灰釉が施されている。460と461は小杯で、ともに高台付近を除いて灰釉が施されている。462は灯明皿の油皿である。463は卸皿で、内面に棒状工具による刺突列が認められる。464は菊皿で、丸ノミ削ぎによる菊花文様が描かれ、底部以外は全面灰釉が施され、内面体部にかけて銅緑釉が流しかけられている。465は擂鉢で、単位22本の擂目が認められる。466は練鉢で、体部からやや丸味を帯びながら立ち上がり器厚は若干薄い。口縁部は欠損しており、内面底部付近に拭い取りの跡が2ヶ所認められる。467は十能である。取っ手部分は貼り付けによるもので、中央部分に貫通穴が認められる。468は戸車で、直径7.2㎝幅1.5㎝の円柱形で中央に1.7㎝の穿孔がある。摩擦面が認められる。469と470は碗を転用した加工円盤である。

Ｇ481　柱穴（第173図－471～473）

471は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。472と473は土師器の荒肌手ロクロ皿である。473の内面口縁部には、煤の付着が認められたことから、灯明皿と考えられる。

Ｇ482　井戸跡（第173図－474～479）、**Ｇ484　埋設穴**（第173図－480）

474と475は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。476と477は白瓷系陶器の碗で、大畑大洞４号窯式に属する。478は均質手白瓷系陶器の片口鉢である。時期は不明である。479は土師器の均質手ロクロ皿である。480は中世の常滑陶器で、15～16世紀のものと考えられる。481は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。

Ｇ485　集石遺構（第173・174図－483～486）

483は連房窯磁器の土鍋で、灰釉が施されている。484は瀬戸美濃連房の瓦質羽釜である。485は瀬戸美濃連房の十能で、内面に棒状工具を使った横位のナデが明確に認められる。486は瀬戸美濃連房の半胴甕である。

Ｇ486　土坑（第173図－481）、**Ｇ490　埋設穴**（第173図－482）

481は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。482は白瓷系陶器の碗で、大谷洞14号窯式に属する。

浦畑遺跡東区（Ｅ地区）　遺構出土遺物

Ｅ１　溝跡（第174～176図－487～523）

487は白瓷系陶器の碗で、生田２号窯式に属する。内面に明瞭な稜線が存在し、口縁端部が内湾している。488は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。489は白瓷系陶器の皿で、生田２号窯式に属する。490は古瀬戸の有耳壺で、口頸部下方に印花文様の貼り付けが認められる例は珍しく、特注品と考えられる。491は中世の常滑陶器の甕で15～16世紀のものと考えられる。492は古瀬戸の仏具で、削り出しによる台部がみられ、体部中位で内傾し、口縁端部は丸く収まる。493は瀬戸美濃大

窯の折縁皿で、丸ノミによる削ぎが認められる。494は土師器の均質手ロクロ皿である。口縁部内面下方に三条の沈線が明確に認められる。497～521（515を除く）は瀬戸美濃連房の陶器である。495は小碗である。496は瀬戸美濃大窯の甕である。497は腰錆湯呑で、体部下方が丸味を帯び、上方は直線的に立ち上がる。高台付近を除いて錆釉が施され、灰釉が体部中位までつけがけされている。498と499は小杯である。500は丸碗で、口径14.8㎝・器高10.7㎝程ある大きいものである。501は碗で、口縁部に呉須で刷毛がけされている。502は丸皿である。503は丸碗で高台付近を除いて灰釉が施され、鉄釉が体部下方まで付けがけされている。口縁部にはウノフ釉が化粧がけされている。504は染付湯呑で、体部下方が丸味を帯び、上方は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。505は折縁鉄絵鉢で、岐阜県笠原村（現岐阜県土岐郡笠原町）で量産されたことから「笠原鉢」とよばれるものである。断面逆台形の高台を有し体部が直線的に開き、口縁部は外反する。内面には鉄釉で文様が描かれ全面に灰釉が施されている。506は鉄絵丸皿、507は折縁鉄絵皿で、ともに内面に鉄釉で蘭竹文が描かれ、高台付近を除いて灰釉が施されている。508は摺絵皿で、内面底部に摺絵技法による鉄釉の草花文が認められる。円錐ピン痕が２箇所あった。509と510は擂鉢で、単位16本と18本の擂目が認められる。511は灯明具でロクロ成形されたやや上げ底の受け皿と芯立部を接合している。512は灯明皿の受皿である。513と514は香炉で体部下方に稜が入り、上方は直線的に立ち上がり、口縁端部が内部に張り出している。外面体部から内面口縁部にかけて灰釉が施されている。515は中世常滑陶器の甕で、墨書が認められる。516と517は片口で、体部からやや丸味を帯びながら立ち上がり器厚は若干薄い。口縁端部は外に若干張り出している。518は鬢盥で、平底で体部はほぼ直立する。破片状態のため平面形がつかめないが、楕円形を呈するものと考えられる。519は徳利である。端部の丸い削り出し高台を有し、体部は全体に丸味を帯びる。高台付近を除いて灰釉が施されている。520は瓶で、口頸部はやや長く内面に絞り込み痕が認められる。521は壺である。522と523は近世常滑陶器の火鉢で、前者は体部中位から内傾し、後者はほぼ斜めに直線的に立ち上がる。後者の煤の付着が内面上方に認められる。

Ｅ２　溝跡（第176図－524～530）

524は古瀬戸の卸皿である。525～530は瀬戸美濃連房の陶器である。525～527は小杯で、全て高台付近を除いて灰釉が施されている。528は染付小杯で、呉須による文様が描かれ、高台付近を除いて灰釉が施されている。529は仏餉具で脚部は比較的肥厚であり、内部に絞り込み痕が認められる。530は碗蓋である。外面口縁部に呉須による文様が描かれ、灰釉が施されている。

Ｅ８　土坑（第176図－531）、**Ｅ30　ピット**　（第176図－532）

531は徳利で、端部の丸い削り出し高台を有し、体部は全体に丸味を帯びる。高台付近を除いて灰釉が施されている。532は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。

Ｅ41　ピット（第176図－533～536）

533は瀬戸美濃大窯の天目茶碗で、体部はほぼ直線的に開くが、体部上方から大きく内傾する。口縁部付近ではややくぼみがあり、口縁部は短く外反し玉縁状になっている。 内外面に鉄釉が施され

ている。534～536は瀬戸美濃連房の陶器である。534は摺絵丸碗で、外面体部上方には摺絵技法による鉄釉の草花文が認められる。535は汁次で、外面口縁部下方に４条の沈線が認められる。灰釉の上に緑釉が流しかけられている。536は折縁輪花皿で、体部中位から若干外反し、口縁端部は内傾している。口縁部に指押さえして成形している部分が3箇所認められる。

Ｅ54　土坑（第177図－538）、**Ｅ60　土坑**（第177図－537）

538は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。537は瀬戸美濃大窯の擂鉢で、単位12本の擂目が認められる。

Ｅ109　井戸跡（第177図－539～541）

539と540は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。541は古瀬戸の緑釉小皿で、口縁部付近に灰釉が施されている。

Ｅ112　井戸跡（第177・178図－542～567）

542は土師器の羽釜で、内外面にハケ目や外面のみ煤の付着が認められる。543～552は白瓷系陶器の碗である。543は白土原 1号窯式に、547は明和１号窯式に属する。544～546と548～552は、大谷洞14号窯式に属する。553と556は白瓷系陶器の皿で、白土原 1号窯式に属する。554と555、557～561は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。562は碗蓋で、563は陶丸である。564～567は白瓷系陶器の片口鉢で、564は第9～10型式に、565は第６型式に、566は第8型式に、567は第10型式に属する。571と574は、古瀬戸の折縁深皿である。575は中世の常滑陶器で第5型式に属する。

Ｅ130　土間状遺構（第178図－568～570、572・573）

568は白瓷系陶器の碗で、大畑大洞４号窯式に属する。569は古瀬戸の折縁皿である。570は白瓷系陶器の碗である。底部が欠損しているため、時期は不明である。572と573は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。

Ｅ135　土坑（第178図－579）、**Ｅ153　土坑**（第178図－576～578、580・581）

579は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。576は瀬戸美濃連房の向付蓋で、復興織部といわれるものである。タタラ成形で笠部内面に布目痕が残っている。錆釉で文様が描かれ、全面に透明釉、笠部の一方に緑釉が施されている。577と578は近世常滑陶器の甕である。580は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。581は肥前磁器の染付皿で、呉須による文様が描かれ透明釉が施されている。

Ｅ159　集石遺構（第179図－582・583）、**Ｅ172　ピット**（第179図－584）

582は瀬戸美濃連房の染付皿で、内外面に呉須による文様が描かれ、透明釉が施されている。583は灯明皿の油皿である。584は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。

Ｅ178　土坑（第179図－585～587）、**Ｅ183　ピット**（第179図－588）、
Ｅ221　土間状遺構（第179図－589）

585～587は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。588は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。589は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。

Ｅ233　集石遺構（第179～181図－590～613）

590は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。591～606は瀬戸美濃連房の陶器である。591は天目茶碗で体部はほぼ直線的に開くが、体部上方から大きく内傾する。口縁部付近ではややくぼみがあり、口縁部は短く外反し玉縁状になっている。592は染付碗で、外面に呉須による文様が、内外面には輪文が施されている。体部から口縁部にかけて若干外反している。593は染付小杯で、呉須による絵柄が描かれ、外面底面中央に印花文が認められる。594は絵瀬戸大皿である。595は染付小杯で、体部が8個の面を持つように若干角張っている。596は染付小瓶である。597は徳利の底部部分である。598～600は鉄絵深皿で、外面や内面底部中央にも文様が鉄釉で描かれ、全面に灰釉が施されている。601は白磁型打皿である。ロクロ成形後内型を押しあて、方形の形状を有した小皿である。602は台付灯明受皿で、桟部の一ヶ所がＵ字形にカットされ底部を除き灰釉が施されている。603は擂鉢である。604は甕で、体部上方には４条の沈線が認められる。605は行平鍋で、体部下方には煤の付着が認められる。606は土鍋の底部破片である。607は連房窯磁器の染付湯呑で呉須による絵柄が描かれ、全面に灰釉が施されている。608は仏餉具で脚部破片である。609は連房窯磁器の染付小瓶で、呉須による文様が描かれ、全面に長石釉が施されている。610は染付小壺、611は肥前磁器の染付襞皿である。612は瓦質陶器の鍋で、内外面に煤の付着が認められる。613は近世の常滑陶器の角型火鉢である。

Ｅ246　溝跡（第181・182図－614～624）

614と615は土師器の荒肌手ロクロ皿である。616～618は瀬戸美濃連房の陶器である。616は尾呂茶碗で、体部下方は丸味を帯び、上方からほぼ直立する。高台周辺に錆釉、他の部分には飴釉が施されている。617は染付碗で、外面に呉須による文様が、内外面には輪文が施されている。体部から口縁部にかけて若干外反している。618は擂鉢で、単位16本の擂目が認められる。619は肥前磁器の染付小杯である。外面の絵柄に長石釉が施されている。620～622は連房窯磁器の染付碗で、内外面に呉須による文様が描かれ、全面に透明釉が施されている。623は練鉢で、口縁部がやや内傾し、端部が短く外に垂れ、高台付近を除いて灰釉が施されている。内面底部に拭い取り痕が認められる。624は徳利である。

Ｅ247　溝跡（第182図－625）、**Ｅ250　土坑**（第182図－626）、**Ｅ317　土間状遺構**（第182図－627）

625は連房窯磁器の染付碗蓋である。626は白瓷系陶器の碗で、生田２号窯式に属する。627は瀬戸美濃連房の志野丸皿である。全面に長石釉が施され、内面にトチン痕3箇所が認められる。

Ｅ344　ピット（第182図－630）、**Ｅ393　溝跡**（第182図－633・634）、
Ｅ407　溝跡（第182図－628・629）

630・633は白瓷系陶器の碗で、630は生田２号窯式に、633は脇之島３号窯式に属する。634は古瀬

戸の縁釉小皿で、口縁部に灰釉が施されている。628は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。629は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。

Ｅ420　溝跡（第182図－631・632）、**Ｅ423　土坑**（第182図－636）

631は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。632は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。636は土師器の均質手ロクロ皿である。内外面の口縁部に煤の付着が認められる。

Ｅ446　土坑（第182図－640）、**Ｅ451　ピット**（第182図－637）

640は瀬戸美濃連房の徳利で、体部上方内面には絞り込み痕が認められる。637は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。

Ｅ459　ピット（第182図－639）、**Ｅ491　土坑**（第182図－638）、**Ｅ501　土坑**（第182図－641）

639は白瓷系陶器の皿で、白土原１号窯式に属する。638は瀬戸美濃大窯の天目茶碗で、高台上方には錆釉や、体部上方から内面にかけて鉄釉が施されている。641は古瀬戸の茶釜で、全面に錆釉が施されている。

Ｅ512　土間状遺構（第182・183図－642～650）

642～644、647・648は白瓷系陶器の碗で、642・643・647・648は脇之島３号窯式に属する。645は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。646は古瀬戸の天目茶碗で、体部上方から内面にかけて鉄釉が施されている。649と650は古瀬戸の直縁大皿と擂鉢である。

Ｅ519　溝跡（第183図－651～655）

651は中国磁器の白磁小杯で、16世紀頃のものと考えられる。652は土師器の均質手ロクロ皿である。653は土製の人形である。654は瀬戸美濃連房の折縁鉢で、高台から丸味を帯びて立ち上がり口縁は短く外折している。内面に釉の拭い取り痕が認められる。655は瀬戸美濃連房の折縁鉄絵皿で、体部下方が丸味を帯び、口縁部がやや外折している。底部内面には鉄絵の蘭竹文が描かれ、緑釉が流しかけられている。

Ｅ520　溝跡（第183～188図－656～766）

656～659は白瓷系陶器の碗で、656・657・659は大洞東1号窯式に、658は生田２号窯式に属する。660は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。661～663は古瀬戸の天目茶碗でともに高台付近は欠損しており、体部上方にかけては鉄釉が施されている。664と665は古瀬戸の縁釉小皿で、口縁部内外面に灰釉が施されている。666は古瀬戸の擂鉢で、擂目が摩耗した状態で、かなり使用されていたと考えられる。667は古瀬戸の香炉である。胴部下端に三足がつけられ、体部下方で丸味を帯び、上方にかけて直線的に立ち上がり、口縁部にかけてやや外反している。内部下方を除いて鉄釉が施されている。668は古瀬戸の天目茶碗を転用した加工円盤である。669～682は瀬戸美濃大窯の陶器である。669～673は天目茶碗で、体部下方から内面にかけて鉄釉が施されているものが多く、下方は露胎部か錆釉が施さ

れている。674は志野丸皿で、全面に長石釉が施され内面底部に輪トチン痕が3箇所認められた。675は輪禿皿である。676～679は灯明皿で体部が緩やかにやや内傾しながら立ち上がり、内面に明瞭な稜が入っている。680は志野筒向付で、体部外面に鉄釉の文様が描かれ、全面に長石釉が施されている。681と682は擂鉢で、単位15本と12本の擂目が認められる。683～685は土師器の均質手ロクロ皿である。684は内面に煤の付着が認められる。686～758は瀬戸美濃連房の陶器である。686～690は天目茶碗で体部下方から内面にかけて鉄釉が施されているものが多く、下方は露胎か錆釉が施されている。691の緑釉天目茶碗は、体部はほぼ直線的に開くが、体部上方から大きく内傾する。口縁部付近ではややくぼみがあり、口縁部は短く外反し玉縁状になる。高台付近を除いて緑釉が施されている。連房第1段階の1630年代寛永期のものと考えられる。692～696、698と699は丸碗でどれも高台付近を除いて鉄釉や灰釉が施されている。697は摺絵碗で、外面体部上方には摺絵技法による鉄釉の草花文が認められる。700は尾呂茶碗で、体部下方は丸味を帯び、上方からほぼ直立する。高台周辺に錆釉、他の部分には飴釉が施され、口縁内外面にウノフ釉がつけかけされている。701は刷毛目碗で高台脇からやや丸味を帯びながら立ち上がる。体部内外面に白化粧土を用いて牡丹文が描かれ、高台を除いて灰釉が施されている。702は鎧茶碗で、体部下方で稜が入り口縁部にかけて直線的に立ち上がる。外面体部には回転施文による文様が描かれている。703は柳茶碗で、高台脇からやや斜めに直線的に立ち上がり、口縁端部でやや内傾する。体部上方に鉄釉による文様が描かれ、全面に灰釉が施されている。704～706は染付碗で、呉須による文様が描かれ、透明釉か灰釉が施されている。707と709は広東碗で、いずれも高台は外側が高く、ほぼ直立し体部はわずかに丸味をもって開く。呉須による文様が描かれ、透明釉が施されている。708は染付端反碗である。710と711は箱形湯呑で、体部下方に稜が入り、口縁部にかけて直線的に立ち上がる。外面体部に呉須による菊花つなぎの絵柄が描かれ全面に透明釉が施されている。712は湯呑である。713と716は灰釉を施した小杯である。714と715は志野丸皿で、長石釉が全面に施されている。717は反皿、718と719は丸皿である。720は総織部皿で、体部上方から内折し、口縁部にかけて外折する。口縁部にかけて緑釉が施されている。721は反皿で、内面体部には鉄釉で文様が描かれ、長石釉が全面に施されている。ねずみ志野皿ともいわれる。722は志野鉄絵丸皿で、高台から丸味を帯びて立ち上がり、内面に鉄釉で蘭竹文が描かれ、高台付近を除いて長石釉が施されている。723は菊皿で、内外面ともに丸ノミ削ぎによる菊花文様が描かれている。口縁にはヘラ削りがなされ、外面底部以外は全面灰釉が施されている。724は志野鉄絵皿で高台から丸味を帯びて立ち上がり内面に鉄釉で文様が描かれ、長石釉が施されている。725は摺絵輪禿皿で、内面底部には摺絵技法による鉄釉の草花文が認められる。726は鉄絵深皿で内外面に鉄釉で文様が描かれ、灰釉が施されている。727は向付蓋で、復興織部といわれるものである。タタラ成形で笠部内面に布目痕が残っている。錆釉で文様が描かれ、全面に透明釉、笠部の一方に緑釉が施されている。728は染付碗蓋である。729と731～733は擂鉢で、単位8～17本の擂目が認められる。729については口縁部破片のため確認できなかった。734は御深井の壺で、735は壺の蓋である。736は小壺で、高台から体部にかけてやや外反しながら立ち上がり上方で丸味を帯び、口縁部で再び外反している。内面を除いて、灰釉が施されている。737は灰釉の双耳壺である。738と739は仏餉具で、杯部下方の張りが強く脚端部は折り返され先端が尖っている。脚部内面を除いて前者は灰釉、後者は鉄釉が施されている。740は筒型花生で体部上方から内面上方にかけて鉄釉が、下方には錆釉が施されている。741は小瓶である。742は志野鉄絵鉢で底部から丸味を帯びながら立ち上がり、上方ではほぼ直線

的に立ち上がる。内外面に鉄釉で文様が描かれ、全面に長石釉が施されている。743は志野鉄絵壺で外面に鉄釉で絵柄がつけられ、742と同様に長石釉が施されている。744は練鉢で、体部からやや丸味を帯びながら立ち上がり器厚は若干薄い。口縁端部は外反している。内面底部付近に拭い取りの痕跡が3箇所認められる。745～748は土鍋で、745～747は外面底部に煤の付着が認められる。749～751は土瓶である。752は鍋蓋で外面に鉄釉が施されている。753と754は灯明皿で、前者は桟部の1箇所がU字形にカットされ底部を除き鉄釉が施されている。755と756は灯明皿の油皿で、後者は外面体部と内面口縁部に煤の付着が認められる。757は秉燭である。758は戸車で中央に1.5㎝程度の穿孔があり、内面に摩擦面を確認した。759は瓦器の火鉢で、口縁直下の二方獅子頭を貼り付け取っ手にしている。口縁部にかけてミガキが認められる。760～762は、窯道具の匣鉢である。763は合子の蓋で、764と765は合子である。766は近世の常滑陶器のカマドである。

Ｅ521　溝跡（第189・190図－767～798）

767と768は土師器の荒肌手ロクロ皿である。769と770は古瀬戸の天目茶碗で、体部上方から内面にかけて鉄釉が施されて、下方においては露胎となる。771と772は古瀬戸の縁釉小皿と擂鉢である。773と775と776は、瀬戸美濃大窯の陶器である。773は灯明皿で体部から口縁部にかけて緩やかに外反し、内面に明瞭な稜が入る。774と777は土師器の均質手ロクロ皿である。775は丸皿で、内面底部中央に印花文が認められる。776は端反皿で、775と同様に印花文が認められる。778～794は、瀬戸美濃連房の陶器である。778は小杯で、779は丸碗である。780は復興織部の蓋である。削りだしのつまみが成形され、外面に鉄釉で文様が描かれている。長石釉が内面を除いて施され、緑釉が化粧がけされている。781は腰錆茶碗で、高台付近を除いて鉄釉が施され、体部上方から口縁部にかけて内外面に、灰釉がつけがけされている。782は端反皿で、783は染付碗である。784は染付小杯で、呉須による文様が外面体部に描かれ、透明釉が施されている。785と786は型打皿で、ロクロ成形後内型を押しあて、方形の形状を有した小皿である。高台を除いて、前者は白磁釉が、後者は透明釉が施されている。787は折縁鉄絵皿で、体部で緩やかに外反し、口縁端部は短く内傾する。内面には鉄釉で蘭竹文が描かれている。788は赤織部向付で、タタラ型打ち成形で内面に布目痕が残っている。鉄釉で文様が描かれ、全面に長石釉が施されている。789は練鉢で、体部からやや丸味を帯びながら立ち上がり器厚は若干薄い。内面底部付近に拭い取りの跡が3箇所認められる。790は仏餉具で、杯部下方の張りが強く脚端部は折り返され先端が尖っている。脚部内面を除いて鉄釉が施されている。791は鬢盥で、平底を呈し体部はほぼ直立する。体部には摺絵技法による草花文が認められ、灰釉が施されている。792は片口で、体部は円柱状を呈し、肥厚している片口部を有する。793は植木鉢で、794は十能である。795は近世の常滑陶器で火鉢と思われる。底部からやや広がりながら立ち上がり、縁帯部分が外に張り出している。796は瓦器の瓦質鍋である。797は灯明皿で、内面に明瞭な稜が入る。798は土鍋で、外面体部に銅緑釉が流しかけられている。復興織部の土鍋と思われる。

Ｅ538　溝跡（第190図－800）、**Ｅ543　土坑**（第190図－799）、**Ｅ545　ピット**（第190図－801）

800は白瓷系陶器の片口鉢で、内面に煤の付着が認められ、第６～７型式に属する。799は古瀬戸の天目茶碗で体部上方から内面にかけて鉄釉が下方は露胎となっている。801は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。

Ｅ569　溝跡（第191図－802～813）

802は白瓷系陶器の皿で、内外面の口縁部に煤の付着が認められ、浅間窯下1号窯式に属する。804は瀬戸美濃大窯の耳付き水注で、底面を除いて鉄釉が施されている。803、805～813は瀬戸美濃連房の陶器である。803は染付小杯である。805と806は広東碗で、いずれも高台は外側が高く、ほぼ直立し体部はわずかに丸味をもって開く。呉須による文様が描かれ、灰釉が施されている。807は箱形湯呑で、体部下方に稜が入り、口縁部にかけて直線的に立ち上がる。外面体部に呉須による菊花つなぎの絵柄が描かれ全面に灰釉が施されている。808は染付小瓶である。809は鬢盥で、平底を呈し体部はほぼ直立する。体部には摺絵技法による草花文が認められ、灰釉が施されている。810は染付深皿である。811は復興織部の蓋である。削りだしのつまみが成形され、外面に鉄釉で文様が描かれている。長石釉が内面を除いて施され、緑釉が化粧がけされている。812は染付小杯で、813は片口である。

Ｅ650　土坑（第191図－814）、**Ｅ653　水溜め状遺構**（第191図－815）

814は掛け分け向付で、錆釉の上に灰釉が施されている。815は中世の常滑陶器の甕で、焼成中に不具合になったもので、13～14世紀のものと考えられる。

Ｅ655　水溜め状遺構（第191図－816～818）、**Ｅ656　井戸跡**（第191図－819）

816は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。817と818は古瀬戸の天目茶碗で、819は瀬戸美濃大窯の天目茶碗である。

Ｅ754　ピット（第191図－820）、**Ｅ762　ピット**（第191図－821）

820は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。821は白瓷系陶器の碗で、底面に「一」という墨書が認められ、生田２号窯式に属する。

Ｅ769　土間状遺構（第191図－822～828）、**Ｅ795　土坑**（第192図－829）

822～824は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。826は白瓷系陶器の碗で、大畑大洞４号窯式に属する。827は古瀬戸の天目茶碗で体部下方には錆釉、上方には鉄釉が施されている。828は、瀬戸美濃大窯の茶入れで、825は瀬戸美濃連房の丸皿である。829は白瓷系陶器の碗で、窯洞１号窯式に属する。

Ｅ806　ピット（第192図－830）、**Ｅ814　土坑**（第192図－833・836）、**Ｅ822　ピット**（第192図－834）

830は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。833は古瀬戸の擂鉢の破片である。836は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。834は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。

Ｅ825　土間状遺構（第192図－831）、**Ｅ827　ピット**（第192図－832）、
Ｅ858　土間状遺構（第192図－840）

831と832は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。840は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。

Ｅ867　水溜め状遺構（第192図－835・837）、**Ｅ938　土坑**（第192図－838）

835と837は白瓷系陶器の碗で、前者は明和１号窯式に、後者は白土原1号窯式に属する。838は、835と同様に明和１号窯式に属する。

Ｅ965　土坑（第192図－839）、**Ｅ969　土坑**（第192図－843）、**Ｅ975　ピット**（第192図－841）

839と843は白瓷系陶器の碗で、前者は大洞東１号窯式に、後者は明和１号窯式に属する。841は中国磁器で、青磁碗である。

Ｅ999　土坑（第192図－842）、**Ｅ1014　土坑**（第192図－844・846）

842は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。844は瀬戸美濃連房の片口で、846は白瓷系陶器の碗で、大洞東１号窯式に属する。

Ｅ1031　ピット（第192図－847）、**Ｅ1035　ピット**（第192図－845・848）

845と847は白瓷系陶器の碗で、前者は大洞東1号窯式に、後者は脇之島３号窯式に属する。848は古瀬戸の縁釉小皿で、口縁部内外面に灰釉が施され、内面に煤の付着が認められる。

Ｅ1075　井戸跡（第192図－849～862）

849は土師器の非ロクロ皿（かわらけ）で、外面体部に指頭圧痕が明確に認められる。850は白瓷系陶器の碗で、生田２号窯式に属する。851は古瀬戸の天目茶碗で体部下方は欠損している。852は土師器の均質手ロクロ皿で、内面口縁部に煤の付着が認められる。853～863は（859は除く）瀬戸美濃連房の陶器である。853と855は丸皿で、854は鉄絵碗である。856は反皿で、内面にトチン痕が３箇所認められた。857と858は菊皿で、丸ノミ削ぎによる菊花文様が描かれている。口縁にはヘラ削りがなされ、外面底部以外は全面灰釉が施されている。859は瀬戸美濃大窯の擂鉢で、口縁部のみのため擂目の詳細は確認できなかった。860は尾呂茶碗で、体部下方は丸味を帯び、上方からほぼ直立する。高台を除いて飴釉が施され、口縁内外面にウノフ釉がつけがけされている。861は折縁鉄絵皿で、体部は丸味を帯び立ち上がり、口縁部は外反する。内面に鉄釉で蘭竹文が描かれ、高台付近を除いて灰釉が施されている。862は赤織部向付で、タタラ型打ち成形で内面に布目痕が残っている。鉄釉で文様が描かれ、全面に長石釉が施されている。

Ｅ1078　土坑（第193図－863～866）

863は古瀬戸の天目茶碗で、器厚があり口縁部下方で内傾する。864～866は瀬戸美濃連房の陶器である。864は天目茶碗で体部下方では錆釉が、上方から内面にかけて鉄釉が施されている。865は染付碗である。866は蕎麦猪口で、体部はやや広がるように直線的に立ち上がり、口縁端部で細く丸く収まる。外面体部には呉須による文様が描かれ全面に灰釉が施されている。

Ｅ1099　井戸跡（第193・194図－867～887）

867は瀬戸美濃連房の尾呂茶碗で、体部下方は丸味を帯び、上方からほぼ直立する。高台を除いて

飴釉が施され、口縁内外面にウノフ釉がつけがけされている。868は灰釉の丸碗である。869は古瀬戸の緑釉小皿で、口縁部内外面に灰釉が施されている。870～887は瀬戸美濃連房の陶器である。870は柳茶碗で、体部がやや丸味をもって開き、鉄釉の文様が施されている。872は染付碗である。871と873と874は広東碗で、いずれも高台は外側が高く、ほぼ直立し体部はわずかに丸味をもって開く。呉須による文様が描かれ、透明釉が施されている。875は小杯である。876は白磁型打皿である。ロクロ成形後内型を押しあて、方形の形状を有した小皿である。877は染付皿、878は染付深皿で、いずれも内面には呉須による文様が描かれている。879は擂鉢で、単位15本の擂目が認められる。880は徳利である。881は練鉢で、口縁部が短く外折して垂れ、高台付近を除いて灰釉が施されている。口縁部から緑釉が流しかけられている。内面底部に拭い取り痕が認められる。882は植木鉢で底部中央に穿孔がみられる。883と884は灯明皿で、前者は受皿、後者は油皿である。885は灯明台で、桟部の1箇所がU字形にカットされ底部を除き灰釉が施されている。886は土瓶で、呉須による絵が描かれ、体部下方を除いて灰釉が施されている。外面底部には煤の付着が認められる。887は胴丸型中甕で、体部中位に数条の沈線が巡っている。高台周辺を除き柿釉が施され、体部上方に灰釉が流しかけられる。

E1100　溝跡（第194・195図－888～903）

888は白瓷系陶器の碗で、脇之島3号窯式に属する。889は古瀬戸の天目茶碗で底部は欠損している。内外面ともに飴釉が施されている。890は古瀬戸の鉢で、全面に錆釉が施されている。891は瀬戸美濃大窯の擂鉢で、単位12本の擂目や片口部が認められる。892は瀬戸美濃大窯の灯明皿で、内面に明瞭な稜線が認められる。口縁端部は尖っている。893と894はともに土師器で、前者は荒肌手のロクロ皿で、後者は均質手のロクロ皿である。895～903は瀬戸美濃連房の陶器である。895は染付碗で、呉須による文様が描かれ、灰釉が施されている。896と897は広東碗で、いずれも高台は外側が高く、ほぼ直立し体部はわずかに丸味をもって開く。呉須による文様が描かれ、透明釉や灰釉が施されている。898は天目茶碗で底部は欠損している。内外面ともに鉄釉が施されている。899は丸碗で、900は丸皿である。901は擂鉢で、単位13本の擂目が内面底部や体部に認められる。902は段重で底部は上げ底になっており、体部下方に稜が入り、直線的に上へ立ち上がる。底部を除いて灰釉が施されている。
903は、鉢の口縁部の破片である。外面に2条、内面に3条の沈線が認められる。

E1117　土坑（第195図－904）、**E1123　ピット**（第195図－905）、**E1135　溝跡**（第195図－906・907）

904は瀬戸美濃連房の擂鉢で、口縁部の破片である。擂目が部分的に削られ何本の単位で成形されたか確認できなかった。905は白瓷系陶器の墨書がある碗で、脇之島3号窯式に属する。906は志野染付丸碗で、907は丸碗である。ともに外面体部や内面底部に呉須による文様が描かれ、長石釉や灰釉が施されている。

E1200　溝跡（第195図－908・909、914・915）、**E1221　ピット**（第195図－913）

908と909は瀬戸美濃連房の鉄絵皿と湯呑である。914は白瓷系陶器の皿で、内面口縁部に煤の付着が認められる。白土原1号窯式に属する。915は瀬戸美濃連房の灯明油皿である。913は丸皿で、トチン痕が3箇所認められる。

Ｅ1222（Ｃ665）　ピット（第195図－911）、**Ｅ1224　土坑**（第195図－912）

911は瀬戸美濃連房の腰錆茶碗で、高台付近を除いて錆釉を施され、体部上方から口縁部にかけて内外面に、灰釉がつけがけされている。912は瀬戸美濃連房の丸碗である。

Ｅ1225　土坑（第195図－910）、**Ｅ1227　土坑**（第195図－916・917）、**Ｅ1231　土坑**（第195図－918）

910は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。916・917は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。918は瀬戸美濃大窯の丸碗である。

浦畑遺跡西区（Ｃ地区）　遺構出土遺物

Ｃ2　土壁（第196図－919～921）

919～921はいずれも瀬戸美濃連房の陶器である。919は広東碗で、高台は外側が高く、ほぼ直立し体部はわずかに丸味をもって開く。呉須による文様が描かれ、透明釉や灰釉が施されている。920は合子で、体部下方に明瞭な稜が入り、直線的に上へ立ち上がる。底部を除いて灰釉が施されている。921は茶道具の瓶掛で、湯を沸かすための小型の火鉢である。高台は断面方形を呈しており、底部から体部にかけて丸みを帯びている。外面体部には印花文が認められ、二方に獅子頭を貼り付け把手にしている。内面には煤の付着、底部には墨書が認められる。それは「濃州　長谷川氏　申年　極月吉日　□□」ではないかと考えられる。濃州（美濃國）の長谷川氏に1800年代前半の申年（1800年、1812年、1824年、1836年、1848年かと考えられる。）、極月（12月）に献上したものか、下賜したものかもしれない。

Ｃ７　溝跡（第196図－922）、**Ｃ27　溝跡**（第196図－923）、**Ｃ32　土坑**（第196図－924）

922は中世常滑陶器の甕で、縁帯の下部が短く延びており、第6Ａ型式に分類した。923は白瓷系陶器の皿で、底面に墨書が認められ、明和１号窯式以降に属する。924は白瓷系陶器碗で、明和１号窯式に属する。

Ｃ38　土坑（第196図－925・926）、**Ｃ40　ピット**（第196図－927）、**Ｃ41　土坑**（第196図－928）

925は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。926は中国磁器の青磁碗の破片である。体部には鎬連弁文が認められる。927は常滑陶器の甕で、外面に押印文が認められる。928は、古瀬戸の折縁深皿で、体部下方ではやや丸みを帯び、緩やかに立ち上がり口縁部にかけてやや外反する。内面にトチン痕４箇所が認められた。

Ｃ63　土坑（第196図－930）、**Ｃ72　溝跡**（第196図－931）、**Ｃ84　土坑**（第196図－932）

930は白瓷系陶器の碗で、大谷洞14号窯式に属する。931は古瀬戸の縁釉小皿で、口縁部内外面に灰釉が施されている。932は白瓷系陶器の皿で、底部に墨書が認められ、明和１号窯式以降に属する。

Ｃ85　土坑（第196図－933）、**Ｃ117　溝跡**（第196図－934）、**Ｃ198　土坑**（第196図－935・938）

933は白瓷系陶器の片口鉢で、第7型式に属する。934と938は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。935は中世常滑陶器の甕で、縁帯部が外に張り出し、第5型式に分類した。

Ｃ200　土坑（第196図―936・937）、**Ｃ222　ピット**（第196図―939）

936と937は白瓷系陶器の碗と片口鉢で、明和１号窯式と第6型式に属する。939は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。

Ｃ474　溝跡（第197図―940～949）

940と941は、白瓷系陶器の碗と皿で、大洞東1号窯式と明和１号窯式以降に属する。942～949はいずれも瀬戸美濃連房の陶器である。942は柳茶碗で体部がやや丸味をもって開き、鉄釉の文様が施されている。943は柳箱形湯呑で、体部下方に明瞭な綾が入り、ほぼ直線的に立ち上がる。942と同様に鉄釉の文様が施されている。944は鉢である。945は土鍋で外面底部に煤の付着が認められる。946は香炉で底部に三足の獣足があり、体部下方に明瞭な綾が入る。口縁部内面側に端部が尖る。947は仏餉具で、脚部は比較的肥厚であり、杯部下方の張りが強くやや内湾しながら立ち上がる。脚部内面を除いて鉄釉が施されている。948は掛け花生で体部に縦の削りが明瞭に見られ、体部上方に掛け穴が認められる。949は中世常滑陶器の甕で、縁帯部が外に張り出し、端部は短く下方に垂れている。第6Ｂ型式に属する。

Ｃ475　溝跡（第197～200図―950～1004）

950～953は白瓷系陶器の碗である。950と951は明和１号窯式に、952は大洞東1号窯式に属する。953は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。954は土師器で、均質手のロクロ皿である。955は中国磁器の青磁碗の破片である。体部には雷文帯が認められる。957は常滑陶器の片口鉢で片口部が残存している。口縁部に沈線が認められる。第６Ｂから７型式に属する。956・958～1000はいずれも瀬戸美濃連房の陶器である。956・958～962は丸碗である。962は鉄絵丸碗で、体部に鉄釉で文様が描かれている。964は漆黒釉の大碗である。高台から緩やかに広がり立ち上がっている。965は腰錆茶碗で、体部中位に３条の沈線が認められる。高台付近を除いて錆釉を施され、体部上方から口縁部にかけて内外面に、灰釉がつけがけされている。966は摺絵碗で、外面体部上方には摺絵技法による呉須の草花文が認められる。967は鎧茶碗で体部下方で稜が入り口縁部にかけて直線的に立ち上がる。外面体部には回転施文が認められる。968～971は柳茶碗で、体部がやや丸味をもって開き気味に立ち上がり、鉄釉の文様が施されている。972と973と977は染付碗である。974と975は広東碗で、いずれも高台は外側が高く、ほぼ直立し体部はわずかに丸味をもって開く。呉須による文様が描かれ、灰釉や透明釉が施されている。976は箱形湯呑で、体部下方に稜が入り、口縁部にかけて直線的に立ち上がる。外面体部に呉須による菊花つなぎの絵柄が描かれ全面に透明釉が施されている。978は腰錆湯呑である。体部中位に４条の沈線が認められる。高台付近を除いて鉄釉を施され、体部上方から口縁部にかけて内外面に、灰釉がつけがけされている。979は鉄釉が施された湯呑である。980と981は丸皿で、981は長石釉が施されている。982は染付碗蓋である。983～986は摺絵皿で、内面底部には摺絵技法による鉄釉や呉須の草花文が認められる。987は折縁鉄絵鉢で、底部から丸味を帯びながらゆるやかに立ち上がり、口縁部は短く外反し玉縁状となる。内面に鉄釉で文様が描かれ、全面に灰釉が施されている。988は花瓶で、体部下方から中央にかけて内湾し、中位から外反し丸みを帯びる。口頸部付近は欠損している。989は掛け分けの仏花瓶である。990は燭台で、台部に稜が明瞭に入った筒状

に延びた棹部を有し、口縁部は欠損している。991は鬢盥で、平底で体部はほぼ直立する。体部に摺絵技法による鉄釉の草花文が認められる。992は染付小瓶で、呉須による草花文が描かれ、灰釉が施されている。993は擂鉢で、単位13本の擂目が内面底部や体部に認められる。994は糸目土瓶蓋である。995と996と999は片口では、体部からやや丸味を帯びながら立ち上がり半球状となる。口縁端部は外に若干張り出し丸みを帯びている。995と999は片口部が残存している。997は鉢で体部上方でややくびれ、口縁部にかけて外反する。口縁端部は短く外へ張り出している。998は土鍋で、外面底部に煤の付着が認められる。1000はカンテラで、体部一方に注口部、他方に取っ手が付けられているが、やや欠損している。1001は肥前磁器の染付皿である。1002は近世常滑陶器で、角型火鉢の底部角の破片である。1003は肥前磁器の仏餉具で、1004は瓦の軒桟瓦である。

Ｃ477　溝跡（第200図－1005～1007）、**Ｃ478　溝跡**（第200図－1008～1013）

1005は、土師器の非ロクロ皿（かわらけ）で、外面体部に指頭痕が明確に認められる。1006と1007は、白瓷系陶器の皿と碗で、ともに白土原１号窯式に属する。1008は均質手白瓷系陶器の陶丸である。1009～1011はいずれも瀬戸美濃連房の陶器である。1009は丸皿で、1010は小杯である。1011は香炉で底部に三足の獣足があり、体部下方で明瞭な稜が入り、ほぼ直線的に立ち上がる。外面体部中央に丸のみ削りによる文様が描かれている。1012は肥前磁器の碗で、染付の文様が描かれている。1013は摺絵皿で、内面底部には摺絵技法による鉄釉の草花文が認められる。

Ｃ479　溝跡（第200～202図－1014～1061）

1014～1022は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。1023と1024は白瓷系陶器の碗で、前者は大洞東１号窯式に、後者は生田２号窯式に属する。1025～1029は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。1030と1031は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。1032～1034は天目茶碗で、胴部はほぼ直線的に開くが、体部上方から大きく内傾する。口縁部付近ではややくぼみがあり、口縁部は短く外反し玉縁状になる。体部下方から内面にかけて鉄釉が施され、下方の露胎部は錆釉が施されている。1035は中国磁器の青磁碗で、外面体部に鎬連弁文、内面底部に草花文が認められる。13世紀～14世紀頃のものと考えられる。1036は瀬戸美濃大窯の擂鉢で、擂目の摩耗が著しく、かなり使用されていたと考えられる。1037は瀬戸美濃大窯の灯明皿で、内面に明瞭な稜が存在し、内外面に錆釉が認められる。1038～1041は、土師器の荒肌手ロクロ皿で、1042～1044は均質手ロクロ皿である。1045～1061は瀬戸美濃連房の陶器である。1045と1046は天目茶碗でともに高台付近は欠損しており、体部上方にかけては鉄釉や緑釉が施されている。1047と1048は丸碗や染付碗である。1049は丸皿で、1050は甕の蓋である。1051～1053は摺絵皿で、内面底部では摺絵技法による草花文が認められ、灰釉が施されている。1054は折縁鉄絵皿で、高台から丸味を帯びて立ち上がり、口縁部にかけて外反する。内面底部に鉄釉で蘭竹文が描かれ、高台付近を除いて灰釉が施されている。1055は溲瓶で、天井部に付けられる取っ手が一部欠損している。ロクロ成形で天井部に貼り付け蓋をし、体部上方の１箇所を切り抜き口頸部を接合しているが、口頸部上方は欠損している。1056は有耳壺で、高台から体部にかけて直線的に立ち上がり体部上方で丸味を帯び、口縁部で内湾している。外面体部上方に２条の沈線が認められる。1057と1058は土鍋である。1059は灯明皿で内面底部に明瞭な稜が入る。1060は秉燭で

ある。1061は仏餉具で、杯部下方の張りが強く脚部は外反している。脚部内面を除いて鉄釉が施されている。1065は火鉢である。

Ｃ485　土坑（第202図－1062）、**Ｃ539　ピット**（第202図－1063）、**Ｃ567　ピット**（第202図－1064）

1062は白瓷系陶器の碗で、白土原１号窯式に属する。1063と1064は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。

Ｃ595　溝跡（第202図－1066）、**Ｃ614　溝跡**（第202図－1067～1071）

1066は菊皿で、丸ノミ削ぎによる菊花文様が描かれている。外面底部以外は全面灰釉が施され、銅緑釉が流しかけられている。1067と1069は白瓷系陶器の碗で、前者は生田２号窯式に、後者は明和１号窯式に属する。1068は白瓷系陶器の皿で、白土原 1号窯式に属する。1070は中世常滑陶器の甕で、縁帯の形状から第6Ｂ型式に分類した。1071は中国磁器の青磁碗で、外面体部に鎬連弁文が認められ、13世紀のものと考えられる。

Ｃ629　土坑跡（第202図－1072・1073）、**Ｃ631　ピット**（第202図－1074・1075）
Ｃ639　土坑跡（第202図－1076）

1072は土師器の非ロクロ皿で、外面体部下方に指頭痕が、口縁部に板ナデによる成形が明瞭に認められる。1073は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。1074～1076は白瓷系陶器で、1074は碗で明和１号窯式に、1075と1076は皿で明和１号窯式以降に属する。

浦畑遺跡西区（Ｄ地区）　遺構出土遺物

Ｄ15　溝跡（第203図－1077・1081）、**Ｄ28　溝跡**（第203図－1078・1079・1082）

1077は瀬戸美濃大窯の擂鉢で、底面は欠損しているため擂目は確認できなかった。1081は瀬戸美濃連房の丸碗である。1078と1079は中世常滑陶器甕の体部破片で、型式・時期については不明である。1082は非ロクロ皿の破片である。

Ｄ32　溝跡（第203図－1083～1095）

1083～1086は白瓷系陶器の碗で、1083～1085は大洞東1号窯式に、1086は脇之島３号窯式に属する。1087～1091は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。1092は古瀬戸の折縁深皿で、体部上方のみの破片である。1093は瀬戸美濃大窯の落とし蓋である。1094と1095は瀬戸美濃連房の丸碗と型打ち皿である。型打皿は、ロクロ成形後内型を押しあて、三角の形状を有した小皿である。高台を除いて灰釉が施されている。

Ｄ33　溝跡（第203・204図－1096～1117）

1096は古瀬戸の卸皿で、底部に明瞭な卸目が認められる。1097は白瓷系陶器の碗で、白土原１号窯式に属する。1098と1099は瀬戸美濃大窯の擂鉢で、単位13本と12本の擂目が認められる。1100は瀬戸美濃大窯の水注である。体部一方に注口部、他方に取っ手が付けられているが、一部欠損している。

1101は土師器の均質手ロクロ皿である。1102～1112は瀬戸美濃連房の陶器である。1102と1103は広東碗で、いずれも高台は高くほぼ直立し、体部はわずかに丸味をもって開く。呉須による文様が描かれ、透明釉が施されている。内面底部中央に印花文が認められる。1104と1107は摺絵皿で、内面底部には摺絵技法による鉄釉の草花文が認められ、高台を除いて灰釉が施されている。1105は碗蓋で、呉須による文様が内外面に描かれ、透明釉が施されている。1106は染付皿で、体部は丸味を帯びて立ち上がり玉縁状に収まる。呉須による文様が内面に描かれ、灰釉が施されている。1108は鉄絵深皿である。1109は掛け分け花瓶で、口頸部と体部の境に耳が付けられている。1110は徳利で、体部に３箇所にへこみが認められる。1111は灯明受皿である。桟部の１箇所がＵ字形にカットされ底部を除き錆釉が施されている。1112は壺である。1113と1114は肥前磁器の碗蓋と染付皿である。

Ｄ36　溝跡（第204図－1115～1117）、**Ｄ37　溝跡**（第204図－1118～1120）、
Ｄ63　ピット（第204図－1121）

1115と1116は白瓷系陶器の碗で、大洞東1号窯式属する。1117は白瓷系陶器の墨書のある皿で、明和１号窯式以降に属する。1118は白瓷系陶器の碗で、脇之島３号窯式に属する。1119は古瀬戸の大皿で、体部立ち上がり途中で欠損している。1120は中世常滑陶器甕の体部破片である。1121は白瓷系陶器の碗で、大谷洞14号窯式に属する。

浦畑遺跡西区（Ｂ地区）　遺構出土遺物

Ｂ18　溝跡（第205図－1122～1125）

1122と1123は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。1122の外面体部に煤の付着が認められる。1124は古瀬戸の擂鉢で、口縁部の破片である。1125は中世瓦質土器の瓦器風炉である。また奈良火鉢ともいわれる。体部下方は欠損しており、中位部で丸味を帯び口縁部にかけて内傾する。外面体部に印花文が認められる。風炉は茶の湯で釜の湯を沸かすための火鉢状の道具である。県内では神岡町の江馬氏館跡、郡上市大和町の東氏館跡、関市の山王遺跡などから出土している。

Ｂ21　土坑（第205図－1126）、**Ｂ46　溝跡**（第205図－1127・1128）、**Ｂ106　ピット**（第205図－1129）

1126と1127は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式と大洞東1号窯式に属する。1128と1129は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。

Ｂ118　土坑（第205図－1130）、**Ｂ135　ピット**（第205図－1131）、**Ｂ225　ピット**（第205図－1132）

1130は白瓷系陶器の碗で、内面に線刻が認められるが、時期は不明である。1131は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。1132は白瓷系陶器の碗で、大洞東1号窯式に属する。

Ｂ246　ピット（第205図－1133）、**Ｂ247　ピット**（第205図－1134）、**Ｂ320　ピット**（第205図－1135）

1133～1135は、白瓷系陶器の碗である。1133は大洞東１号窯式に、1134は明和１号窯式に、1135は脇之島３号窯式に属する。

Ｂ324　ピット（第205図－1140）、**Ｂ328　ピット**（第205図－1136・1137）、
Ｂ329　ピット（第205図－1142・1143）

1140は、中世の常滑陶器甕の体部破片である。1136と1137は白瓷系陶器の皿と碗で、1136は明和１号窯式以降に、1137は大洞東１号窯式に属する。1142と1143は中世の常滑陶器甕の体部破片である。

Ｂ356　土坑（第205図－1144）、**Ｂ369　カマド跡**（第205・206図－1145～1155）

1144は白瓷系陶器の碗で、大谷洞14号窯式に属する。1145～1150は白瓷系陶器の碗である。1145は窯洞１号窯式に、1146と1149と1150は大洞東１号窯式に、1147は大谷洞14号窯式に、1148は脇之島３号窯式に属する。1151は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。1152は古瀬戸の折縁深皿で、口縁部の破片である。1153は古瀬戸の縁釉小皿で、口縁部内外面に灰釉が施されている。1154は古瀬戸の天目茶碗で、体部はほぼ直線的に開くが、口縁部下方からやや内傾する。外面口縁部付近ではややくぼみがあり、口縁部は短く外反し玉縁状になる。高台付近は錆釉、高台より上方は鉄釉が施されている。1155は中世常滑陶器甕の体部破片である。

Ｂ377　土坑（第206図－1156・1157）、**Ｂ378　土坑**（第206図－1158）

1156は白瓷系陶器の片口鉢で、口縁部は欠損している。時期は不明である。1157は中世常滑陶器の体部破片である。1158は白瓷系陶器の碗で、大畑大洞４号窯式に属する。

Ｂ392　土間状遺構（第206図－1159・1160）、**Ｂ395　ピット**（第206図－1161）

1159は土師器の非ロクロ皿で、体部上方からやや外反し、口縁部で短く内傾する。1160と1161は白瓷系陶器の碗で、大洞東１号窯式と明和１号窯式に属する。

Ｂ438　土坑（第206図－1162）、**Ｂ441　土坑**（第206図－1163）、**Ｂ467　土坑**（第206図－1164）

1162～1164は白瓷系陶器の碗である。1162は内面底部に煤の付着が認められる。大洞東１号窯式に属する。1163は明和１号窯式に、1164は白土原１号窯式に属する。

Ｂ477　ピット（第206図－1165～1168）、**Ｂ526　ピット**（第206図－1169）

1165と1166は白瓷系陶器の碗で、大谷洞14号窯式と大洞東1号窯式に属する。1167は古瀬戸の大皿である。1168は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。1169は白瓷系陶器の碗で、明和１号窯式に属する。

Ｂ530　土間状遺構（第206図－1170～1176）、**Ｂ546　ピット**（第206図－1177）

1170は土師器の非ロクロ皿で、体部上方からやや外反している。外面一部に煤の付着が認められる。1171～1174は白瓷系陶器の碗である。1171は大谷洞14号窯式に、1172は大洞東1号窯式に属する。1173と1174の時期は不明である。1175は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。1176は古瀬戸の天目茶碗で、底部は欠損している。1177は白瓷系陶器の碗で、大谷洞14号窯式に属する。

浦畑遺跡西区（Ｈ地区）　遺構出土遺物

Ｈ１　土壁（第207図－1178～1190）

1178～1183は白瓷系陶器の碗である。1178は白土原 1号窯式に、1179と1181は明和 1 号窯式に、1180は大谷洞14号窯式に、1182は脇之島 3 号窯式に、1183は生田 2 号窯式に属する。1184は白瓷系陶器の皿で、外面体部に煤の付着が認められる。白土原 1 号窯式に属する。1185は中国磁器の青磁で、外面体部に鎬連弁文が認められる。1186は均質手白瓷系陶器の片口鉢で、口縁端部に 1 条の沈線が認められる。時期は不明である。1187と1188は中世常滑陶器甕の体部破片である。1189と1190は瀬戸美濃連房の柳茶碗と灯明皿である。

Ｈ２　溝跡（第207図－1191）、**Ｈ20　土坑**（第207図－1192・1193）

1191は白瓷系陶器の皿で、窯洞 1 号窯式に属する。1192は白瓷系陶器の碗で、生田 2 号窯式に属する。1193は均質手白瓷系陶器の片口鉢で、口縁部破片である。時期は不明である。

Ｈ42　溝跡（第207図－1195・1196）、**Ｈ43　溝跡**（第207図－1194）、
Ｈ44　溝跡（第207図－1197～1200）

1195と1196は中世常滑陶器甕の体部破片である。1194は瀬戸美濃連房の天目茶碗で、底部は欠損している。1197と1200は、古瀬戸の天目茶碗である。1198は土師器の均質手ロクロ皿である。1199は古瀬戸の折縁鉢で、体部下方から広がりながら立ち上がり、口縁端部は短く外反する。内外面体部上方から灰釉が施されている。

Ｈ61　溝跡（第207図－1201・1202）、**Ｈ75　溝跡**（第207・208図－1203～1212、1214・1215）

1201は白瓷系陶器の碗で、明和 1 号窯式に属する。1202・1214は白瓷系陶器の皿で、生田 2 号窯式に属する。1203～1207は白瓷系陶器の碗で、1203～1205は丸石3号窯式に、1206～1207は窯洞 1 号窯式に属する。1208～1210は白瓷系陶器の皿で、窯洞 1 号窯式に属する。1211は猿投産灰釉陶器の三筋壺である。体部から口頸部の破片である。1212は中世常滑陶器の甕である。1215は中国磁器の青磁碗で、外面体部に鎬連弁文が認められる。

Ｈ79　溝跡（第208図－1213・1216）、**Ｈ112　土坑**（第208図－1217）、**Ｈ126　溝跡**（第208図－1218）

1213は白瓷系陶器の碗で、脇之島 3 号窯式に属する。1216は古瀬戸の擂鉢で、擂目がかなり摩耗しているため、擂目の単位は確認できなかった。1217と1218はともに白瓷系陶器の碗で、明和 1 号窯式と大畑大洞 4 号窯式に属する。

上恵土城跡（Ａ・Ｆ地区）　遺物包含層出土遺物

Ａ・Ｆ地区　遺物包含層（第208・209図－1219～1233）

1219は白瓷系陶器の碗で、生田 2 号窯式に属する。1220は均質手白瓷系陶器の小杯で、時期は不明である。1221は荒肌手白瓷系陶器の片口鉢で、口縁部破片である。時期は不明である。1222は古瀬戸の卸皿で、体部は緩やかに立ち上がり、途中で欠損している。1223は古瀬戸の天目茶碗を転用した加

工円盤である。1224は瀬戸美濃大窯の擂鉢である。1225は土師器の荒肌手ロクロ皿で、1226～1229は均質手ロクロ皿で、内外面の口縁や体部に煤の付着が認められる。1230と1231は摺絵皿で、内面底部には摺絵技法による呉須の草花文が認められる。1232は染付皿で、1233は深鉢である。

浦畑遺跡東区（Ｇ・Ｅ地区）　遺物包含層出土遺物

Ｇ・Ｅ地区　遺物包含層（第209～211図―1234～1277）

1234～1241は白瓷系陶器の碗である。1234は窯洞１号窯式に、1235と1237は大洞東１号窯式に、1236と1238～1241は脇之島３号窯式に属する。1242～1245は白瓷系陶器の皿で、明和１号窯式以降に属する。1246は荒肌手白瓷系陶器の片口鉢である。時期は不明である。1247は古瀬戸の天目茶碗で底部は欠損している。1248は古瀬戸の平碗である。1249は古瀬戸の卸皿で、口縁端部が短く内傾している。1250は古瀬戸の縁釉小皿で、口縁部内外面に灰釉が施されている。1251は古瀬戸の直縁大皿で、底部に三足が認められる。1252は古瀬戸の水注で、口縁部は欠損している。1253は中国磁器の青磁で、有蓋壺の破片である。俗に酒会壺といわれ、外面に鎬連弁文が認められる。13～14世紀のものと考えられる。1254は中国磁器の白磁口禿皿である。1255～1259は瀬戸美濃大窯である。1255は小天目茶碗で、口縁部下方にくびれが認められる。1256は天目茶碗で底部は欠損している。1257は擂鉢である。1258と1259は灯明皿で、内面に明瞭な稜が認められる。1260は瀬戸美濃連房の小天目茶碗である。1261は土師器の均質手ロクロ皿で、内外面口縁部に煤の付着が認められる。1262～1277は瀬戸美濃連房の陶器である。1262は丸碗でどれも高台付近を除いて鉄釉が施されている。1263は掛け分け碗で、高台から体部立ち上がりに稜が入り、ほぼ直線的に立ち上がる。鉄釉の上に灰釉をつけがけしている。1264は柳茶碗で、高台脇から丸味を帯びながら立ち上がり、口縁端部でやや内傾する。体部に鉄釉による文様が描かれ、全面に灰釉が施されている。1265は広東碗で、高台は高くほぼ直立し、胴部はわずかに丸味をもって開く。呉須による文様が外面体部に、内面底部に印花文が描かれている。1266は小杯で、1267は皿である。1268は丸皿のごく小さい皿である。1269は志野丸皿で、高台付近を除いて長石釉が施されている。1270と1271は反皿で、前者は内面体部に鉄釉で文様が描かれ、長石釉が全面に施されている。ねずみ志野皿ともいわれる。後者は内面底部に煤の付着が認められ、トチン痕が2箇所認められる。1272は折縁鉄絵皿で、高台から丸味を帯びて立ち上がり、口縁部にかけて外反する。内面に鉄釉で蘭竹文が描かれ、高台付近を除いて灰釉が施されている。1273は白磁の型打ち皿で、ロクロ成形後内型を押しあて、方形の形状を有した小皿である。1274は灯明受皿である。1275は十能で器厚はかなり薄い。内外面とも錆釉が施されている。1276は秉燭である。1277は仏餉具で、杯部下方の張りが強く脚端部は折り返され先端が尖っている。脚部内面を除いて灰釉が施されている。

浦畑遺跡西区（Ｃ・Ｄ・Ｂ・Ｈ地区）　遺物包含層出土遺物

Ｃ・Ｄ・Ｂ・Ｈ地区　遺物包含層（第212・213図―1278～1316）

1278は土師器の非ロクロ皿で、丸味を帯びて立ち上がり、体部に明瞭な指頭痕が認められる。1279～1285は白瓷系陶器の碗である。1279～1281は白土原１号窯式に、1282は明和１号窯式に属する。1283は大畑大洞４号窯式に、1284と1285は大谷洞14号窯式に属する。1286～1290は白瓷系陶器の皿で、1286は白土原１号窯式に、1287～1290は明和１号窯式以降に属する。1291は古瀬戸の天目茶碗で、口

縁部の破片である。1292と1293は古瀬戸の平碗である。1294と1295は古瀬戸の卸皿と筒型容器で、いずれも底部の破片である。1296と1297は中世常滑陶器で、壺と甕である。1298は中国磁器の青磁折縁皿で、外面体部に鎬連弁文が認められる。1299と1300は土師器の均質手ロクロ皿で、1299は外面口縁部に煤の付着が認められる。1301～1314は瀬戸美濃連房の陶器である。1301は鎧湯呑で、外面体部に回転施文（長６、短19を１単位）が認められる。1302は天目茶碗で、1303は丸碗である。1304は掛け分け碗で、片面に鉄釉が施された後、灰釉がつけがけされている。1305は、箱形湯呑で体部下方で明瞭な稜が入り、ほぼ直線的に立ち上がる。外面体部には菊花つなぎの文様が描かれて、全面に灰釉が施されている。1306は小杯で、1307は卸皿である。1308は輪禿皿で、内面底部に印花文が認められる。1309は摺絵皿で、内面底部には摺絵技法による鉄釉の草花文が認められる。1310は染付皿で、1311は稜花皿である。1312は合子の蓋で、1313は灯明受皿である。1314は仏餉具で、杯部下方の張りが強く脚端部は折り返され先端が尖っている。脚部内面を除いて飴釉が施されている。1315と1316は近世の常滑陶器で、俗に赤物といわれるものである。1315は角形炬燵で、縁帯部は方形で張り出しており、内面に明瞭な指ナデの調整が認められる。縁の部分で支えられるようにできており、熱を受ける底部や体部が周囲にふれないようにしたものと考えられる。1316は移動式カマドで、中の穴が一部欠損しながらも残存し、底部は空洞となっている。中に薪を入れ調理した施設と考えられ、18世紀後半から19世紀にかけて存在したものである。

第３節　木製品

上恵土城跡（Ａ・Ｆ地区）、遺構出土遺物（Ａ・Ｆ地区）

Ａ112　柱穴（第214図－2001）、**Ａ150　柱穴**（第214図－2002）、**Ａ221　柱穴**（第214図－2003）

柱根は掘立柱建物に使用されていた柱の地下部分が残存したものである。2001～2003は、いずれもＳＨ１の柱穴から出土した柱根で、芯持材である。2001は南東角の柱穴から出土したもので、上端や中心部分が腐食している。底面は腐食し、一部が欠損している。加工痕は確認できなかった。2002は、南側中央の柱穴から出土した柱根である。上端が腐食し、底部の一部が欠損状態であったが、底面は多数の加工痕が見られ、全体的に良好な状態で出土した。2003は、南側西隅の柱穴から出土した柱根である。上端が腐食しているものの、底面は加工痕が若干認められる。

Ａ228　井戸跡（第214図－2004・2005）

2004は曲物底板の２片である。２片ともに、周辺部に側板との接地面が明確に存在する。2005も同じく曲物底板である。周辺部１㎝程に側板の支え箇所と思われる痕跡がある。底板表面（内側）には線状痕が数十本存在し、裏面にも黒い漆痕と見られるものが若干認められる。

Ｆ34　井戸跡（第214図－2006）

2006は桶の部材である。片方に取っ手と考えられる部分が存在し、他方は欠損していて確認はできなかった。

Ｆ243　柱穴（第214図－2007）

2007はＳＨ５南東隅の柱穴から出土した柱根で、芯持材である。木の上端中央部が欠損しているが、下方にかけての外面は比較的良好に残存している。底部の加工痕は確認できなかった。詳細は、自然科学分析で後述するが、時期は中世のものである。

浦畑遺跡東区（Ｇ・Ｅ地区）　遺構出土遺物

Ｇ268　ピット（第215図－2008）

2008は柱根で、芯持材である。木の上端中央部が欠損し、空洞になっている。下方にかけての外面は良好に残存している。底部の加工痕は確認できなかった。

Ｅ656　井戸跡（第215図－2009）

2009は漆器碗である。一部高台が残存しており、丸味を帯びて立ち上がり、体部中位で欠損している。内外面ともに黒漆が施され、内面には朱色の漆がある。

Ｅ1075　井戸跡（第215・216図－2010～2014）

2010～2014は曲物底板である。2010は３枚の木片によってつくられている。2010-Ａは断面の２箇所に竹釘の痕跡や外面端部に加工痕がある。2010-Ｂの中央の木片においても、断面の２箇所に竹釘の痕跡がある。2010-Ｃの外面の端部に加工痕があった。2011は２枚の木片によってつくられている。中央２箇所に４㎝ほどの竹釘が存在し、両端を削り刺さるように工夫し接合していた。表面・裏面ともに同方向の線状痕が明確に認められる。2012は、底板表面（内側）の外周ライン内側が１～２㎝幅で削られている。２片に割れているが同一の部材である。2013については、竹釘の痕跡や外面端部に加工痕は確認できなかった。底板の右にある竹片は、側板を束ねてしばっていたものと考えられる。2014は３枚の木片によってつくられ、ほぼ完形となる。表面に黒い漆がある。

Ｅ1099　井戸跡（第216・217図－2015～2020）

2015～2017は曲物底板である。2015は表面・裏面ともに直線的な線状痕があり、厚さが1.1㎝あることから、後にまな板として転用したと考えられる。2016は断面に竹釘の痕跡があり、外面側面にも加工痕が認められる。2017は底板の一方から竹釘が割れて出ている。竹釘等の接合痕が一箇所確認できたが、もう一方は確認できなかった。2018は手桶側板である。2018－Ａ～Ｆまで桶の側板が丸くつながるが、完形とはいかない。体部下方に側板を束ねていたかのような木の皮の痕跡が明確に確認できた。2019は建築部材で、墨書が認められた。『字浦畑　九百七拾四□』と書かれていると思われる。この文字からすると近世末～近代のものと考えられる。2020はV字を呈した建築部材である。一枚木でできており、左側体部中位に切り込み口が認められる。何かの部材と組み合わされて使用されていたと考えられる。

第４節　石器・石製品

上恵土城跡・浦畑遺跡（全地区）　遺構包含層出土遺物（全地区）

石器（第218～220図－3001～3018）

3001と3002はともに石鏃である。3001の先端は鋭角に尖っており、3002は破損したものと考えられる。下呂石でできている。3003と3004と3007は粗製刃器である。いわゆる打製石包丁で、刃部に抉りは有しない。3005と3006は剥片である。3008～3018は打製石斧で、縁辺から粗めの調整を施して形状を整え、長軸の一端に刃部をつくりだしている。

石製品（第221～226図－3019～3045）

3019～3023は硯である。いずれも破片状態であるが、後に砥石に転用している。3021は近世の井戸跡Ｇ472から出土した硯である。3023は裏面に「巳之霜月」という線刻文字が確認できた。3024は紡錘車で、3025は石版である。3026は石鍋に使用した石と考えられる。3027～3034は砥石である。3027は研磨面が5面あり、置砥石と手持ち砥石の両方として使用したと考えられる。3028と3029は破片であるが、3面の研磨面を確認できた。3030は4面に多数の擦痕がある。3031と3032は不定形の形状を呈しており、折損状態であるが、擦痕が認められる。3033は研磨面が5面あり、表裏面に擦痕が多数認められる。3034は荒砥石で、金属製品の初期研磨に用いられることが多く、生産にかかわる砥石といえる。3035～3045は石臼である。3035・3038・3040・3042・3043は上臼で、3036・3037・3039・3041・3044・3045は下臼である。いずれも花崗岩よりできており、芯棒孔が存在していたものが多い。近世末から近代にかけてのものと思われる。

第５節　金属製品・銭貨

金属製品（第227図－4001～4005）

4001は中世後期以降の溝跡Ａ95から出土した鉄砲玉である。表面にくぼみが有り、鉛玉である。遺物の時期は断定できないが、戦乱の世の中を想像させる興味深いものである。4002は、和鋏で近世から近代にかけてのものと考えられる。4003と4004は煙管（キセル）で、4003は吸口部分、4004は雁首部分である。4005Ａと4005Ｂは一対か一体のものの可能性が高い。馬具鎧の金具かもしれないが、不明である。

銭貨（第228図－4006～4009）

4006は寛永通寶で延宝年間のものである。4007は文久永寶で、裏面に青海波の文様が鋳出されている。時期は19世紀から幕末にかけてのものである。4008は龍一銭銅貨で近代のものである。4009は天保通寶で弘化２年のものと思われる。

注1「白瓷系陶器、常滑陶器、古瀬戸、瀬戸美濃大窯、瀬戸美濃連房」の分類は、いずれも次の分類と年代観に従った。

白瓷系陶器

藤沢良祐　1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要第3号』　三重県埋蔵文化センター

常滑陶器

中野晴久他　1997『瓷器系中世陶器の生産』　財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター

赤羽一郎他　1984『常滑焼～中世窯の様相～』　ニューサイエンス社

古瀬戸

藤沢良祐他　1996『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その生産と流通～』
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター

1996『概説　中世の土器・陶磁器』　中世土器研究会編

瀬戸美濃大窯

藤沢良祐他　1986「瀬戸大窯発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』　Ⅴ 瀬戸市民俗資料館

1986『概説　中世の土器・陶磁器』

1997『瀬戸美濃系大窯とその周辺』　財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター

1998『瀬戸市史　陶磁史篇一』　瀬戸市史編纂委員会

2001『瀬戸大窯とその周辺』　財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター

瀬戸美濃連房

藤沢良祐他　1998「瀬戸市史　陶磁史篇一」　瀬戸市史編纂委員会

2002「財団法人瀬戸市埋蔵文化センター企画展　江戸時代の瀬戸窯」

2003「財団法人瀬戸市埋蔵文化センター企画展　江戸時代の美濃窯」

2004「財団法人瀬戸市埋蔵文化センター企画展　江戸時代の瀬戸・美濃窯」

また、分類にあたっては、白瓷系陶器、土師器皿、古瀬戸、瀬戸美濃大窯、瀬戸美濃連房については、愛知学院大学　藤沢良祐氏の御教示を得た。常滑陶器は、常滑市民俗資料館　中野晴久氏から御教示を得た。

中国磁器の分類については、以下の文献を参考にした。

長谷部楽爾他　1995「日本出土の中国陶磁」　平凡社版

瓦器については、以下の文献を参考にした。

菅原正明　1989「西日本における瓦器生産の展開」『国立歴史民俗博物館研究報告19集』

1990「白鳳」　都立学校遺跡調査会

第16表　土器・土製品観察表

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 底径	法量(cm) 最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
1	P38	A1	白瓷系陶器	K碗	(14.3)	5.2	5.5	—	1.5	8.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	151	—
2	P39	A1	白瓷系陶器	K碗	(14.1)	4.9	(4.8)	—	3.0	4.9	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	151	—
3	O40	A1	白瓷系陶器	K碗	13.7	4.7	4.4	—	6.5	7.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大畑大洞 4号窯式	151	29
4	O41	A1	白瓷系陶器	K碗	(13.2)	5.2	(5.0)	—	4.8	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大畑大洞4号窯式	151	29
5	Q37	A1	白瓷系陶器	K碗	(15.4)	5.2	4.5	—	3.2	12.0	(内面) 静止指ナデ・回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大畑大洞4号窯式	151	—
6	Q38	A1	白瓷系陶器	K碗	(12.5)	3.9	2.9	—	6.0	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	151	—
7	O42	A1	白瓷系陶器	K碗	(13.1)	3.5	4.0	—	1.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	151	—
8	N44	A1	白瓷系陶器	K碗	(13.7)	3.4	4.0	—	5.8	10.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	151	29
9	O42	A1	白瓷系陶器	K皿	8.3	1.9	4.3	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			白土原1号窯式	151	29
10	P40	A1	白瓷系陶器	K皿	8.6	1.7	4.0	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			白土原1号窯式	151	—
11	O41	A1	白瓷系陶器	K皿	(8.6)	1.5	4.1	—	5.8	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	151	—
12	O42	A1	白瓷系陶器	K皿	8.2	1.1	5.0	—	10.6	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 板目・回転糸切り痕			明和1号窯式以降	151	—
13	Q38	A1	白瓷系陶器	A片口鉢	(27.8)	—	—	—	0.3	—	(内面) 回転ナデ・回転ケズリ (外面) 回転ナデ・板ナデ			第10型式	151	—
14	N43	A1	白瓷系陶器	A片口鉢	—	—	(11.1)	—	—	1.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転ケズリ・貼付高台			—	151	—
15	P38	A1	白瓷系陶器	A片口鉢	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転ケズリ・削出高台			—	151	—
16	O40	A1	古瀬戸	柄付片口	—	—	9.8	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ・指ナデ (外面) 回転ナデ・擦痕 回転糸切り痕	灰釉	円錐ピン痕	中期	151	—
17	O42	A1	瀬戸美濃大窯	灯明皿	(11.3)	2.2	(3.9)	—	3.0	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	151	—
18	N43	A1	古瀬戸	折縁深皿	(32.0)	—	—	—	0.9	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ			後Ⅰ期	151	29
19	O42	A1	土師器	Aロクロ皿	(11.2)	2.3	(6.6)	—	0.8	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	151	—
20	P40	A1	土師器	伊勢鍋	(24.0)	—	—	—	0.6	—	(内面) 横ナデ・縦方向板ナデ (外面) 横ナデ・ハケ		煤付着	—	151	—
21	R37	A11	瀬戸美濃大窯	仏具	—	—	4.5	—	—	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	鉄釉		第1段階	151	29
22	—	A11	瀬戸美濃大窯	灯明皿	(10.4)	—	4.8	—	4.3	6.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		4条の沈線	—	151	—
23	R37	A11	土師器	Aロクロ皿	(10.0)	2.3	(5.4)	—	2.0	3.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	151	—
24	R39	A32	瀬戸美濃連房	擂鉢	—	—	—	—	0.6	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		連房第1段階	152	—
25	P40	A95	瀬戸美濃連房	反皿	(12.6)	3.0	(5.6)	—	0.7	3.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第2段階	152	—
26	P39	A95	瀬戸美濃連房	筒形碗	8.8	—	—	—	8.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		連房第3段階	152	29
27	P39	A95	瀬戸美濃連房	鉄絵湯呑	(8.6)	5.0	3.4	9.1	5.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	152	29
28	Q38	A105	白瓷系陶器	K皿	8.0	1.8	3.7	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		口縁煤付着	白土原1号窯式	152	—
29	R38	A105	瀬戸美濃連房	小杯	6.2	3.5	2.8	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	152	—
30	Q38	A105	瀬戸美濃連房	有耳壺	7.4	—	—	—	7.2	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		連房第3段階	152	—
31	—	A112	白瓷系陶器	K碗	—	—	(4.6)	—	—	1.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			大洞東1号窯式	152	—
32	O42	A116	瀬戸美濃連房	染付皿	10.6	2.6	5.6	—	10.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須		連房第3段階	152	29
33	Q43	A116	瀬戸美濃連房	深鉢	(15.6)	5.0	(7.8)	—	0.6	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	152	29
34	—	A116	瀬戸美濃連房	土瓶	(8.9)	—	—	—	3.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	回転糸目	連房第3段階	152	31
35	O43	A116	瀬戸美濃連房	香炉	(11.0)	—	—	—	2.1	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		連房第3段階	152	—
36	—	A116	瀬戸美濃連房	土鍋	(38.0)	15.7	23.3	—	5.0	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ		三足 産地不明	時期不明	152	—
37	O41	A117	瀬戸美濃連房	仏餉具	—	—	5.0	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		連房第2段階	152	29
38	O42	A117	白瓷系陶器	K皿	7.8	1.3	5.0	—	6.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	152	—
39	O42	A117	古瀬戸	緑釉小皿	8.9	2.0	3.8	—	11.7	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	鉄釉		後Ⅳ期	152	29
40	O41	A117	白瓷系陶器	K碗	(12.0)	3.0	(2.5)	—	3.7	5.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	152	—
41	—	A117	瀬戸美濃連房	徳利	—	—	6.1	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉・鉄釉		—	152	—
42	O42	A117	瓦器	瓦質火鉢	—	—	18.0	—	—	6.0			産地不明	—	152	29
43	南北ベルト	A118	白瓷系陶器	K碗	(10.0)	2.5	3.4	—	2.0	6.0	(内面) コテナデ・回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	153	—
44	南北ベルト	A118	白瓷系陶器	K皿	8.5	1.5	4.7	—	8.5	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			白土原1号窯式	153	—
45	—	A118	白瓷系陶器	K皿	7.4	1.8	4.8	—	6.0	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	153	—
46	南北ベルト	A118	古瀬戸	碗	—	—	5.4	—	—	8.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・削出高台	灰釉		後Ⅳ古	153	—
47	—	A118	古瀬戸	有耳壺	(14.0)	—	—	—	1.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		後Ⅳ期	153	29
48	P41	A118	常滑（中世）	甕	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ		自然釉	第6A型式 13世紀後半	153	—
49	P41	A118	常滑（中世）	甕	—	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ		自然釉	第6A形式 13世紀後半	153	—

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・様式	掲図図版	写真図版
50	P40	A113	瀬戸美濃大窯	天目茶碗	(11.7)	8.4	3.8	—	—	10.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉		第3段階	153	29
51	P40	A113	土師器	Aロクロ皿	—	—	(5.9)	—	—	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ		内外面煤付着	—	153	—
52	P40	A113	土師器	Kロクロ皿	(8.0)	2.0	4.3	—	5.0	10.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	153	—
53	P40	A113	瀬戸美濃進房	丸皿	—	—	3.5	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉		進房第1段階	153	31
54	—	A113	瀬戸美濃進房	小杯	4.8	2.7	2.9	5.2	11.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		進房第3段階	153	—
55	南北ベルト	A113	瀬戸美濃進房	丸皿	(11.1)	6.2	(3.8)	—	2.5	1.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		進房第3段階	153	31
56	—	A113	瀬戸美濃進房	広東碗	—	—	6.2	—	—	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須		進房第3段階	153	31
57	—	A113	瀬戸美濃進房	菊皿湯呑	(7.6)	5.9	3.4	—	0.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	瀬戸釉・呉須	線花つなぎ	進房第3段階	153	30
58	—	A113	瀬戸美濃進房	反皿	(12.6)	3.0	(5.8)	—	4.5	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		進房第1段階	153	—
59	—	A113	瀬戸美濃進房	菊皿	(13.7)	3.7	(7.0)	—	0.5	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉・緑釉	丸ハ削ぎ	進房第1段階	153	30
60	P40	A113	瀬戸美濃進房	菊皿	(12.4)	3.3	(4.7)	—	3.0	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・緑釉	丸ハ削ぎ	進房第2段階	153	31
61	P41	A113	瀬戸美濃進房	損除皿	(14.8)	2.8	(8.6)	—	1.5	4.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 貼付高台	灰釉・呉須	円錐ピン痕	進房第2段階	153	31
62	—	A113	瀬戸美濃進房	損除皿	—	—	7.1	—	—	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須		進房第2段階	153	—
63	—	A113	瀬戸美濃進房	皿	7.5	1.9	3.0	—	9.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		進房第2段階	153	30
64	南北ベルト	A113	瀬戸美濃進房	梨付皿	—	—	4.4	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須		進房第3段階	153	—
65	—	A113	瀬戸美濃進房	片口	(9.9)	4.5	4.9	—	3.5	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		進房第3段階	153	29・31
66	P40	A113	瀬戸美濃進房	擂鉢	34.6	14.2	14.6	—	8.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 回転糸切り痕		17本4.5cm	進房第3段階	153	30
67	—	A113	瀬戸美濃進房	片口	—	—	(10.2)	—	—	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉	重ね焼き痕	進房第3段階	154	—
68	南北ベルト	A113	瀬戸美濃進房	練鉢	—	—	(15.5)	—	—	3.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉	拭い取り痕	進房第3段階	154	—
69	P40	A113	瀬戸美濃進房	練鉢	(35.0)	17.0	(17.3)	—	2.5	1.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		進房第3段階	154	—
70	P40	A113	瀬戸美濃進房	鉄絵鉢	13.3	5.7	7.0	—	8.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		進房第3段階	154	30
71	P40	A113	瀬戸美濃進房	鉄絵鉢	(14.8)	5.9	5.4	—	4.0	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		進房第3段階	154	30
72	—	A113	瀬戸美濃進房	徳利	4.2	—	—	—	11.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉	絞り込み痕 円錐ピン痕	進房第3段階	154	—
73	—	A113	瀬戸美濃進房	徳利	(4.0)	—	—	—	2.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	長石釉・鉄釉	絞り込み痕 重ね焼き痕	進房第3段階	154	—
74	—	A113	瀬戸美濃進房	徳利	—	—	10.5	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉		進房第2段階	154	—
75	P40	A113	瀬戸美濃進房	徳利	—	—	6.4	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		進房第3段階	154	—
76	P40	A113	瀬戸美濃進房	徳利	—	—	7.8	—	—	9.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・鉄釉		進房第3段階	154	—
77	P41	A113	瀬戸美濃進房	徳利	2.0	19.7	6.2	—	12.0	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉	絞り込み痕	進房第3段階	154	30
78	P40	A113	瀬戸美濃進房	徳利	—	—	10.9	—	—	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		進房第3段階	154	31
79	P40	A113	瀬戸美濃進房	水注の蓋	(8.8)	2.7	つまみ径 2.1	8.9	4.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		進房第3段階	154	—
80	P40	A113	瀬戸美濃進房	蓋物蓋	(10.4)	1.3	—	10.9	4.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		進房第3段階	154	—
81	P39	A113	瀬戸美濃進房	耳付水注	4.7	5.9	5.3	8.7	7.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	鉄釉	取手貼付	進房第1段階	154	30
82	P40	A113	瀬戸美濃進房	灯明皿	6.9	1.3	2.9	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		進房第3段階	154	31
83	P40	A113	瀬戸美濃進房	落とし蓋	(12.0)	2.4	6.0	—	2.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			進房第3段階	154	29
84	P40	A113	瀬戸美濃進房	灯籠の笠	—	7.7	—	7.3	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		進房第1~3段階	154	30
85	—	A113	瓦器	瓦質七厘	—	—	(19.0)	—	—	2.7	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台		瓦質	—	154	—
86	P39	A113	瀬戸美濃進房	土鍋	23.2	13.6	9.6	—	7.5	9.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		進房第3段階	155	31
87	南北ベルト	A113	瀬戸美濃進房	土鍋の蓋	10.4	2.3	つまみ径 1.4	12.5	12.0	11.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		進房第3段階	155	—
88	Q40	A113	瀬戸美濃進房	茶釜	—	—	(13.0)	20.0	—	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		進房第3段階	155	31
89	P39	A113	瀬戸美濃進房	十能	—	—	—	13.0	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉	取手貼付	進房第3段階	155	29
90	P39	A113	瀬戸美濃進房	香炉	(11.5)	5.7	(10.8)	—	3.5	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台	灰釉	三足	進房第2段階	155	30
91	—	A113	瀬戸美濃進房	茶壺蓋	9.2	2.9	つまみ径 2.0	11.9	11.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ			進房第1~3段階	155	30
92	—	A113	瀬戸美濃進房	茶壺	11.3	—	—	—	5.7	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			進房第1~3段階	155	30
93	P40	A113	瀬戸美濃進房	火鉢	—	—	(15.2)	—	—	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・緑釉・鉄釉		進房第3段階	155	31
94	—	A113	瀬戸美濃進房	匣鉢	—	—	(17.5)	—	—	4.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・蓋痕痕			進房第1~3段階	155	31
95	P40	A113	瀬戸美濃進房	火入れ	—	—	(5.1)	—	—	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	掻打ち	内面煤付着	時期不明	155	31
96	—	A113	瀬戸美濃進房	行平蓋	14.6	2.1	つまみ径5.6	—	12.0	3.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉・鉄釉		幕末~進房第3段階	155	—
97	—	A113	瀬戸美濃進房	仏餉具	—	—	4.4	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉	絞り込み痕	進房第3段階	155	30
98	—	A113	瀬戸美濃進房	不明	(11.6)	4.9	5.2	12.4	5.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ヘラケズリ	鉄釉		進房第3段階	155	—
99	P40	A113	進房窯廃器	土鍋	(20.4)	—	—	23.0	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	長石釉・鉄釉 呉須	取手貼付・櫛目	進房第3段階	155	—
100	P40	A113	常滑（近世）	火鉢	(34.2)	12.9	24.0	—	2.5	10.3	(内面) 回転ナデ・蓋痕痕 (外面) 回転ナデ		鉄付着 工具によるケズリ 炭を入れ上に 炭を入れる 家畜用・土間用	18世紀後半	155	—
101	O41	A123	瀬戸美濃進房	擂鉢	—	—	(15.1)	—	—	2.1	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ	鉄釉	14本4cm	進房第3段階	156	—
102	—	A124	白磁系陶器	X碗	(10.0)	2.7	1.6	—	2.8	6.5	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	156	—
103	—	A124	土師器	Aロクロ皿	(10.8)	2.3	3.7	—	1.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内面煤付着	—	156	29
104	—	A124	土師器	Kロクロ皿	(10.5)	2.2	(4.5)	—	3.2	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内面煤付着	—	156	—
105	P42	A124	土師器	Kロクロ皿	(11.1)	2.2	(4.6)	—	2.2	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	156	—
106	—	A124	瀬戸美濃進房	志野丸皿	(11.9)	2.4	(8.4)	—	1.5	3.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 貼付高台	長石釉・鉄釉		進房第1段階	156	—
107	—	A133	古瀬戸	直縁大皿	—	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉・錆釉		後II期	156	—
108	—	A133	常滑（中世）	壺	—	—	—	—	1.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ		自然釉	第10型式 15世紀前半	156	—

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
109	—	A133	土師器	Kロクロ皿	(8.9)	2.4	3.7	—	5.5	10.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内面煤付着	—	156	—
110	R36	A133	瀬戸美濃連房	丸碗	(12.4)	8.3	5.0	—	0.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第1段階	156	—
111	—	A133	瀬戸美濃連房	擂鉢	—	—	(13.9)	—	—	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	156	—
112	R36	A133	瀬戸美濃連房	擂鉢	—	—	(11.6)	—	—	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	拭い取り痕	連房第3段階	156	—
113	R36	A133	瀬戸美濃連房	[illegible]	長10.0	—	短7.2	—	—	10.0	(内面) ナデ (外面) 回転ケズリ	灰釉	側面貼付 布目圧痕 産地不明	連房第2段階	156	—
114	S36	A133	常滑(近世)	甕	—	—	—	—	—	—	(内面) 指ナデ (外面) 指ナデ			—	156	—
115	Q39	A134	白瓷系陶器	K碗	(12.0)	3.5	(3.9)	—	2.0	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台			大谷洞14号窯式	156	—
116	R37	A134	白瓷系陶器	K碗	(11.4)	2.9	4.2	—	4.5	6.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	156	—
117	R37	A134	白瓷系陶器	K皿	(8.0)	1.0	5.0	—	5.5	6.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	156	—
118	—	A139	瀬戸美濃連房	徳利	—	—	5.9	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		連房第3段階	157	—
119	R38	A144	瀬戸美濃連房	筒茶碗	9.8	5.0	3.9	—	6.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	157	29
120	—	A147	白瓷系陶器	K碗	(14.0)	4.6	(4.2)	—	1.8	1.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台			大畑大洞4号窯式	157	—
121	R37	A153	瀬戸美濃連房	折縁輪禿鉢	—	—	8.0	—	—	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・削出高台	灰釉	拭い取り痕	連房第2段階	157	—
122	—	A209	瀬戸美濃連房	丸碗	(12.0)	6.0	—	—	1.8	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉	円錐ピン痕	連房第2段階	157	—
123	O44	A194	瀬戸美濃連房	片口	(19.8)	—	—	—	1.8	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		連房第3段階	157	—
124	—	A210	白瓷系陶器	K碗	(9.9)	2.2	(3.5)	—	2.5	2.3	(内面) コテナデ・回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	157	—
125	—	A211	土師器	Kロクロ皿	(8.7)	2.1	(4.4)	—	2.3	3.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		煤付着	—	157	—
126	P41	A228	白瓷系陶器	K碗	(12.0)	2.4	(4.2)	—	1.5	2.6	(内面) コテナデ・回転ナデ (外面) 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	157	31
127	P41	A228	白瓷系陶器	K皿	8.2	1.3	4.5	—	8.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	157	31
128	P41	A228	瀬戸美濃大窯	甕	(22.0)	—	—	—	1.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		第3〜4段階	157	31
129	P41	A228	土師器	Kロクロ皿	(9.5)	2.3	4.2	—	4.5	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内外面煤付着	—	157	31
130	P41	A228	瀬戸美濃連房	天目茶碗	(11.0)	6.9	5.2	—	2.3	7.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉		連房第1段階	157	30
131	P41	A228	瀬戸美濃連房	丸碗	(13.0)	7.7	5.9	—	2.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉・飴釉		連房第1段階	157	29
132	P41	A228	瀬戸美濃連房	尾呂茶碗	(12.4)	—	—	—	1.8	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	飴釉・鉄釉 ウノフ釉		連房第2段階	157	—
133	—	A228	瀬戸美濃連房	菊皿	13.8	3.8	8.0	—	8.0	10.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉・銅緑釉	型打ち	連房第2段階	157	30
134	—	A228	瀬戸美濃連房	菊皿	(13.9)	3.2	6.2	—	4.0	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉・銅緑釉	型打ち	連房第2段階	157	—
135	P41	A228	瀬戸美濃連房	折縁鉢	(28.4)	8.8	(14.0)	—	7.8	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・緑釉	拭い取り痕 7条の波状沈線	連房第1段階	157	30
136	—	A232	瀬戸美濃大窯	天目茶碗	(10.9)	—	—	—	3.0	—	(内面) ナデ (外面) ナデ・回転ケズリ	錆釉		第3段階	157	29
137	P51	F6	白瓷系陶器	K碗	—	—	(4.6)	—	—	4.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	158	—
138	S52	F15	灰釉陶器	碗	—	—	(8.4)	—	—	4.1	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台			—	158	—
139	Q51	F19	須恵器	坏身	(14.0)	3.6	(7.1)	—	3.5	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			坏身B	158	—
140	P49	F34	土師器	Aロクロ皿	(9.0)	2.1	5.2	—	6.5	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	158	—
141	P51	F34	土師器	Aロクロ皿	10.6	2.0	6.3	—	10.0	10.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内面煤付着	—	158	33
142	P51	F34	土師器	Kロクロ皿	9.0	1.9	4.6	—	8.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	158	33
143	P51	F34	瀬戸美濃連房	丸碗	10.3	6.8	3.9	—	8.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第2段階	158	32
144	P51	F34	瀬戸美濃連房	丸碗	(10.0)	8.7	4.4	—	5.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉		連房第2段階	158	33
145	P51	F34	瀬戸美濃連房	丸碗	13.0	5.8	5.0	—	7.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	158	—
146	P51	F34	瀬戸美濃連房	丸碗	(10.9)	4.5	3.8	—	5.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第3段階	158	—
147	P51	F34	瀬戸美濃連房	せんじ碗	(10.0)	5.4	3.4	10.2	2.9	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・緑釉		連房第2段階	158	32
148	P51	F34	瀬戸美濃連房	せんじ 掛け分け碗	(10.6)	5.2	(5.3)	—	3.6	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	158	—
149	P51	F34	瀬戸美濃連房	掛け分け碗	(9.7)	5.6	4.2	—	1.0	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	158	—
150	P51	F34	瀬戸美濃連房	小杯	(7.1)	4.2	3.5	—	4.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第3段階	158	—
151	P51	F34	瀬戸美濃連房	端反小杯	8.6	4.4	3.4	—	10.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	長石釉		連房第1段階	158	33
152	P51	F34	瀬戸美濃連房	摺絵皿	12.6	3.1	7.2	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 貼付高台	灰釉・鉄釉	円錐ピン痕	連房第2段階	158	33
153	P51	F34	瀬戸美濃連房	摺絵皿	12.3	3.1	6.7	—	10.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 貼付高台	灰釉・鉄釉	円錐ピン痕	連房第2段階	158	32
154	P51	F34	瀬戸美濃連房	摺絵皿	(13.2)	3.7	(10.2)	—	0.3	4.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 削出高台	灰釉・呉須	円錐ピン痕	連房第2段階	158	32
155	P51	F34	瀬戸美濃連房	摺絵皿	(12.6)	3.3	(6.9)	—	2.3	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉	円錐ピン痕	連房第2段階	158	—
156	P51	F34	瀬戸美濃連房	型打皿	—	(3.5)	5.5	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第1段階	158	32
157	P51	F34	瀬戸美濃連房	摺絵向付鉢	—	—	5.4	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	158	—
158	P51	F34	瀬戸美濃連房	片口	13.8	10.2	7.5	16.5	8.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	錆釉	煤付着	連房第2段階	159	33
159	P51	F34	瀬戸美濃連房	片口	17.8	9.2	9.0	20.1	6.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	飴釉		連房第2段階	159	32
160	P51	F34	瀬戸美濃連房	菓子鉢	(22.4)	5.2	(11.9)	—	2.0	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		連房第2段階	159	—
161	P51	F34	瀬戸美濃連房	折縁鉢 (輪禿)	(21.2)	5.4	8.8	—	2.6	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第2段階	159	32

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	掲図図版	写真図版
162	P51	F34	瀬戸美濃進房	京耳壺	(8.4)	12.2	(9.0)	12.8	3.0	2.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉	4条の沈線	進房第2段階	159	33
163	P51	F34	瀬戸美濃進房	鉢形	—	—	6.8	12.4	—	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		進房第3段階	159	33
164	P51	F34	瀬戸美濃進房	火入れ	—	—	5.8	9.0	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉	内面鐵付着	進房第2段階	159	33
165	P51	F34	瀬戸美濃進房	片口	—	—	(8.9)	—	—	3.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・削出高台	灰釉		—	159	—
166	M48	F50	白磁系陶器	K碗	—	—	4.3	—	—	6.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止糸ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大畑大洞4号窯式	159	—
167	P50	F50	白磁系陶器	K碗	(12.0)	2.6	4.4	—	0.8	6.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			鳥之島3号窯式	159	—
168	S52	F50	白磁系陶器	K碗	(12.4)	2.5	(5.6)	—	1.0	4.0	(内面) 静止糸ナデ・回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	159	—
169	P50	F50	瀬戸美濃進房	丸皿	(12.4)	8.4	4.0	—	1.5	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		進房第3段階	159	—
170	N48	F50	中国磁器	青磁碗	—	—	(5.6)	—	—	1.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・ケズリ 削出高台	青磁釉	内面に印 太宰府Ⅰ類	12世紀後半	159	—
171	N47 TR1	F50	土師器	Kロクロ皿	(8.6)	1.7	(4.8)	—	5.8	5.9	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		煤付着	—	159	—
172	O50	F50	土師器	Kロクロ皿	(8.6)	1.9	(4.4)	—	4.5	5.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転糸切り痕			—	159	—
173	O45	F50	瀬戸美濃進房	鉄型碗	(9.2)	6.1	4.2	—	5.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉		進房第2段階	159	32
174	N45	F50	瀬戸美濃進房	鉄絵徳利	(10.5)	5.3	(3.8)	—	5.0	5.1	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・鉄釉		進房第3段階	159	32
175	O46	F50	瀬戸美濃進房	染付深皿	13.4	3.8	8.0	—	10.7	9.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須		進房第3段階	159	33
176	O46	F50	瀬戸美濃進房	鉄絵鉢	(15.0)	5.9	(8.6)	—	2.6	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		進房第3段階	159	32
177	N48	F50	瀬戸美濃進房	擂鉢	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉	12本2.7cm	進房第1—2段階	160	—
178	N46	F50	瀬戸美濃進房	鉢	—	—	(8.8)	—	—	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	長石釉		進房第3段階	160	—
179	N49	F50	瀬戸美濃進房	鉢	—	—	(8.9)	—	—	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	円錐ピン底	—	160	—
180	R52	F50	瀬戸美濃進房	徳利	—	—	5.8	9.6	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ	鉄釉		進房第3段階	160	—
181	R51	F50	瀬戸美濃進房	有耳壺	(10.0)	—	—	—	0.5	—	(内面) 回転ナデ・指頭痕 (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		進房第1—2段階	160	—
182	O45	F50	瀬戸美濃進房	深鉢	15.0	8.3	(8.8)	—	8.1	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・呉須		進房第3段階	160	—
183	N49	F50	瀬戸美濃進房	柄付小杯	(6.4)	3.3	2.5	—	4.2	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	長石釉・呉須		幕末進房第3段階	160	—
184	N45	F50	瀬戸美濃進房	鉢蓋	(13.8)	4.1	つまみ径 8.9	16.6	5.7	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		進房第3段階	160	—
185	P50	F50	民俗	柄付壺	9.5	2.7	つまみ径 3.6	—	6.0	10.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	瀬戸釉・呉須		進房第3段階	160	—
186	N49	F50	瀬戸美濃進房	加工円盤	—	—	5.4	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		進房第1段階	160	—
187	N45	F50	瓦器	土鍋	—	23.8	—	—	—	—	(内面) ナデ (外面) ナデ		産地不明	時期不明	160	33
188	O45	F50	常滑（近世）	壺	(62.0)	—	—	—	1.5	—	(内面) 指ナデ (外面) 指ナデ		赤物	18世紀後半	160	—
189	N47	F50	常滑（近世）	壺	—	—	(19.4)	—	—	2.5	(内面) 指ナデ・指頭痕 (外面) 指ナデ・ケズリ・指頭痕		赤物	—	160	—
190	S51	F54	白磁系陶器	K碗	—	—	6.2	—	—	6.1	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台			大畑大洞4号窯式	160	—
191	R50	F54	白磁系陶器	KⅢ	8.8	1.9	5.5	—	8.1	8.1	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	160	—
192	L49	F65	土師器	壺	—	—	—	—	1.0	—	(内面) ハケ (外面) ハケ			古代	161	—
193	N44	F65	灰釉陶器	碗	—	—	7.8	—	—	8.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台			—	161	—
194	M48	F65	白磁系陶器	K碗	(11.5)	5.0	4.6	—	5.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	161	34
195	L50	F65	白磁系陶器	K碗	—	—	4.5	—	—	7.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止糸ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	161	—
196	M47	F65	白磁系陶器	K碗	—	—	4.8	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ・静止糸ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台		自然釉	明和1号窯式	161	—
197	試掘	F65	白磁系陶器	K碗	(12.8)	5.6	(5.3)	—	4.2	4.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止糸ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	161	—
198	L50	F65	白磁系陶器	K碗	(13.1)	4.2	4.4	—	4.4	6.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大畑大洞4号窯式	161	—
199	M49	F65	白磁系陶器	K碗	(13.2)	—	—	—	0.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	161	—
200	L51	F65	白磁系陶器	K碗	13.2	4.0	4.2	—	7.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	161	34
201	L50	F65	白磁系陶器	K碗	11.0	2.7	5.3	—	6.5	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	161	—
202	試掘	F65	白磁系陶器	KⅢ	8.0	1.5	4.5	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止糸ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		墨書	明和1号窯式以降	161	—
203	M47	F65	白磁系陶器	K碗	—	—	(3.2)	—	—	2.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	161	—
204	L50	F65	白磁系陶器	KⅢ	3.0	1.4	5.2	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止糸ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	161	—
205	試掘	F65	白磁系陶器	KⅢ	3.3	1.4	5.0	—	11.5	12.0	(内面) 回転ナデ・静止糸ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	161	—
206	L49	F65	古瀬戸	天目茶碗	(13.1)	—	—	—	2.8	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		後Ⅳ古	161	—
207	M47	F65	古瀬戸	平碗	(14.1)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		後Ⅳ古	161	—
208	L50	F65	古瀬戸	有耳壺	(11.4)	—	—	—	3.0	—	(内面) 回転ナデ・指頭痕 (外面) 回転ナデ	古瀬戸	4条の沈線	後Ⅰ—Ⅱ期	161	34
209	N44	F65	古瀬戸	柄付小皿	(9.1)	2.6	(4.8)	—	2.3	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		後Ⅳ新	161	—
210	M47	F65	中国磁器	青磁碗	—	—	4.3	—	—	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	青磁釉	鎬蓮弁文 太宰府Ⅱ類	13世紀後半	161	34
211	N45	F65	古瀬戸	折縁皿	(11.9)	3.0	(4.5)	—	3.5	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		後Ⅳ新	161	—

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
212	M43	F65	瀬戸美濃大窯	加工円盤	—	—	4.3	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉		第1段階	161	—
213	M45	F65	土師器	Kロクロ皿	8.4	1.9	4.9	—	3.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		鉄付着	—	161	34
214	N45	F65	土師器	Kロクロ皿	(10.2)	2.5	(4.5)	—	3.1	3.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	161	—
215	M46	F65	土師器	Kロクロ皿	(8.3)	2.0	4.2	—	4.5	6.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内面鉄付着	—	161	—
216	M46	F65	土師器	Kロクロ皿	7.9	1.7	3.8	—	9.0	12.0	(内面) 回転ナデ・指頭痕 (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	161	34
217	M48	F65	土師器	Kロクロ皿	(9.4)	2.1	4.8	—	4.0	6.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	161	—
218	M47	F65	瀬戸美濃進房	柄茶碗	(12.2)	5.7	3.3	—	1.1	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		進房第3段階	161	—
219	M46	F65	瀬戸美濃進房	柄付丸碗	(11.6)	6.2	5.2	—	3.9	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・呉須		進房第3段階	161	34
220	N44	F65	瀬戸美濃進房	広東碗	(11.6)	6.3	(6.0)	—	1.3	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須		進房第3段階	161	34
221	N46	F65	進房廃棄器	柄付湯呑	7.4	5.6	3.6	7.5	6.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須		進房第3段階	161	34
222	M47	F65	瀬戸美濃進房	丸碗	—	—	4.4	—	—	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		—	161	—
223	M46	F65	瀬戸美濃進房	小碗	7.9	4.4	3.4	—	11.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		進房第2段階	161	—
224	M43	F65	瀬戸美濃進房	腰錆湯呑	9.2	5.4	4.4	—	11.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉・鉄釉	3条の沈線	進房第3段階	161	34
225	N46	F65	瀬戸美濃進房	小杯	5.3	3.1	3.1	5.6	10.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		進房第3段階	161	—
226	M43	F65	瀬戸美濃進房	志野鉄絵皿	(11.6)	2.3	(7.2)	—	1.2	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	長石釉		進房第1段階	162	—
227	M46	F65	瀬戸美濃進房	鉄絵折縁皿	(12.4)	2.6	(7.1)	—	4.6	3.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 貼付高台	灰釉		進房第1段階	162	34
228	M46	F65	瀬戸美濃進房	灯明皿 (尾呂)	10.9	2.8	5.0	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 蓄削痕	鉄釉	鉄付着	進房第2段階	162	34
229	M46	F65	瀬戸美濃進房	擂鉢	33.1	12.3	14.6	—	7.0	10.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	14本4.0cm	進房第3段階	162	33
230	M47	F65	瀬戸美濃進房	灯明皿	(6.8)	1.2	(3.4)	—	4.8	4.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		進房第3段階	162	—
231	試掘	F65	瀬戸美濃進房	灯明皿	(6.8)	1.4	2.6	—	5.3	6.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		進房第3段階	162	—
232	M47	F65	進房廃棄器	柄付鍋	(10.3)	5.7	4.1	—	3.1	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉・呉須		幕末進房第3段階	162	34
233	N44	F65	瀬戸美濃進房	擂鉢	(31.5)	13.5	(14.4)	—	1.0	1.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉	16本3.9cm	進房第3段階	162	—
234	M47	F65	瀬戸美濃進房	土鍋	(14.1)	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		進房第3段階	162	—
235	N44	F65	瀬戸美濃進房	鉢鉢	(28.3)	—	—	—	4.6	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	黄瀬戸・緑釉		進房第3段階	162	—
236	M48	F65	瀬戸美濃進房	片口	(19.9)	—	—	—	2.3	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		進房第3段階	162	—
237	M46	F65	瀬戸美濃進房	火鉢	(24.4)	—	(23.3)	—	3.0	5.3	(内面) 回転ナデ・板ナデ (外面) 回転ナデ・ミガキ		耳に貫通穴 体部全面文様	—	163	33
238	M43	F65	瀬戸美濃進房	土鍋	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉	取手張付	進房第3段階	163	33
239	M48	F65	常滑（近世）	鉢	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		12世紀後半	163	—
240	R51	F70	白瓷系陶器	K皿	13.9	5.3	5.1	—	8.0	10.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止糸切ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	163	35
241	R51	F70	白瓷系陶器	K碗	(11.6)	4.5	2.0	—	4.6	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止糸切ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	163	35
242	R51	F70	白瓷系陶器	K碗	(12.6)	4.3	4.0	—	2.2	3.0	(内面) 回転ナデ・静止糸切ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	163	—
243	R51	F70	白瓷系陶器	K碗	(14.0)	5.2	(5.0)	—	3.1	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	163	—
244	R51	F70	白瓷系陶器	K碗	(14.0)	4.9	4.4	—	1.3	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止糸切ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大畑大洞4号窯式	163	—
245	R51	F70	白瓷系陶器	K碗	(12.0)	4.5	(4.0)	—	4.8	5.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止糸切ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大畑大洞4号窯式	163	—
246	R51	F70	白瓷系陶器	K碗	(14.4)	5.2	(5.1)	—	3.5	4.0	(内面) 回転ナデ・静止糸切ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大畑大洞4号窯式	163	—
247	R51	F70	白瓷系陶器	K碗	(11.4)	2.8	(2.4)	—	4.2	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止糸切ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	163	—
248	R51	F70	白瓷系陶器	A片口鉢	(31.0)	31.0	(10.0)	—	2.6	1.0	(内面) 回転ナデ・板ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ ヘラケズリ・削出高台			第3型式	163	35
249	R51	F70	白瓷系陶器	A片口鉢	—	—	(11.0)	—	—	3.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・指ナデ 回転ケズリ・貼付高台			—	163	—
250	R51	F70	古瀬戸	天目茶碗	(12.8)	—	—	—	4.2	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		後Ⅱ期	164	35
251	R51	F70	古瀬戸	底錆目皿	—	—	(7.5)	—	—	2.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・削出高台	灰釉	同心円4条の沈線	中Ⅲ－Ⅳ期	164	—
252	P50	F70	古瀬戸	大皿	—	—	(13.0)	—	—	2.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ	灰釉		後Ⅳ期	164	35
253	P50	F70	古瀬戸	片口小鉢	(8.0)	—	—	9.8	3.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉	3条の横状沈線	後期	164	35
254	試掘	F70	瀬戸美濃大窯	端反皿	(11.0)	2.4	(6.0)	—	0.7	5.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台	灰釉		第1段階	164	—
255	P50	F70	土師器	Aロクロ皿	(9.0)	2.0	(4.4)	—	5.0	4.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	164	—
256	Q50	F70	古瀬戸	擂鉢	(32.9)	11.2	(10.0)	—	5.0	2.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉	9本2.2cm	後Ⅳ期	164	—
257	Q50	F70	常滑（中世）	壺	—	—	—	31.8	—	—	(内面) 回転ナデ・指頭痕 (外面) 回転ナデ・板ナデ			中世後半 15－16世紀	164	—
258	O48	F99	白瓷系陶器	K皿	(7.0)	1.7	(3.4)	—	2.5	1.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	164	—
259	T52	F105	白瓷系陶器	K碗	—	—	(5.0)	—	—	3.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止糸切ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	164	—
260	N49	F128	白瓷系陶器	K碗	(10.4)	2.5	3.6	—	1.3	12.0	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	164	—
261	N48	F128	古瀬戸	壺	—	—	(10.6)	—	—	3.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 回転糸切り痕	鉄釉	外面鉄付着	後Ⅳ期	164	—

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
262	O49	F128	土師器	Kロクロ皿	(9.4)	2.2	4.8	—	4.8	5.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	164	—
263	N47	F128	瀬戸美濃大窯	灯明皿	(10.0)	—	—	—	1.6	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			第1段階	164	—
264	N48	F128	瀬戸美濃大窯	擂鉢	(31.2)	—	—	—	1.4	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	錆釉	15本2.5cm	第3段階	164	—
265	R50	F132	白瓷系陶器	K皿	(8.6)	1.5	4.6	—	3.0	7.3	(内面) 回転ナデ・板目 (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	164	—
266	Q50	F132	白瓷系陶器	A片口鉢	(30.0)	—	—	—	0.8	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			第9型式	164	—
267	Q48	F134	瀬戸美濃連房	擂鉢	(36.0)	—	—	—	2.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	錆釉		連房第2段階	164	—
268	P48	F150	中国磁器	青磁碗	(15.5)	—	—	—	0.7	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	青磁釉	鎬蓮弁文 太宰府Ⅱ類	B—1 13世紀後半	164	—
269	O48	F137	白瓷系陶器	K碗	(12.0)	2.2	(4.6)	—	2.0	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	164	—
270	Q47	F146	白瓷系陶器	K碗	(12.0)	3.2	(3.8)	—	3.5	4.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	164	—
271	P45	F151	土師器	Kロクロ皿	8.0	1.9	4.5	—	11.7	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		煤付着	—	165	35
272	P45	F151	瀬戸美濃大窯	灯明皿	(10.0)	2.2	(4.5)	—	1.2	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			第1段階	165	—
273	P45	F151	瀬戸美濃連房	有耳壺	11.0	—	—	15.3	8.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	黄瀬戸釉		連房第2段階	165	35
274	P45	F151	瀬戸美濃連房	仏花瓶	(7.8)	—	—	—	5.2	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉・鉄釉	絞り込み痕	連房第2段階	165	35
275	P45	F151	瀬戸美濃連房	土瓶	8.2	10.4	6.6	16.6	8.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		連房第3段階	165	35
276	P45	F151	瀬戸美濃連房	染付 端反猪口	(5.8)	5.4	(4.8)	—	2.2	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 削出高台	灰釉・呉須		連房第3段階	165	35
277	M49	F156	瀬戸美濃連房	小皿	7.1	1.2	3.8	—	7.3	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉	灯明皿に転用	連房第3段階	165	—
278	P49	F163	瀬戸美濃連房	小杯	(8.1)	3.8	3.8	—	2.0	7.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	黄瀬戸釉		連房第2段階	165	—
279	P48	F166	白瓷系陶器	K碗	(13.1)	3.5	4.4	—	4.5	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	165	—
280	P45	F166	古瀬戸	天目茶碗	(12.6)	—	—	—	2.1	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉・錆釉		後Ⅳ期	165	—
281	P48	F166	古瀬戸	小壺	(3.7)	—	—	7.8	2.2	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		後Ⅲ～Ⅳ期	165	—
282	P46	F166	古瀬戸	盤類	(12.7)	2.4	(6.2)	—	1.8	3.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	錆釉		後Ⅳ期	165	—
283	P46	F166	古瀬戸	加工円盤	—	—	5.3	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 回転糸切り痕 削出高台	灰釉		後Ⅳ期	165	—
284	P48	F166	瀬戸美濃連房	志野反皿	(16.9)	4.5	(7.0)	—	1.0	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	長石釉	円錐ピン痕	連房第1段階	165	35
285	P46	F166	中国磁器	青磁碗	—	—	(4.8)	—	—	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	青磁釉	鎬蓮弁文 太宰府Ⅱ類	13世紀後半	165	—
286	P46	F166	瀬戸美濃連房	志野鉄絵皿	11.7	2.7	6.5	—	6.0	10.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	長石釉		連房第1段階	165	35
287	P48	F167	白瓷系陶器	K碗	(12.1)	3.5	3.1	—	2.5	7.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕・貼付高台			大洞東1号窯式	165	—
288	R50	F174	白瓷系陶器	K碗	(12.7)	—	—	—	1.9	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			脇之島3号窯式	165	—
289	R50	F174	白瓷系陶器	K片口鉢	—	—	(11.0)	—	—	1.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 回転糸切り痕 貼付高台			—	165	—
290	Q49 TR4	F175	白瓷系陶器	K碗	(12.0)	3.8	4.4	—	3.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	165	—
291	Q50	F175	白瓷系陶器	K片口鉢	—	—	(12.7)	—	—	2.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 貼付高台			—	165	—
292	Q50	F175	須恵器	甕	(27.5)	—	—	—	2.8	—	(内面) 回転ナデ・叩き目 (外面) 回転ナデ			—	165	—
293	Q50	F175	瀬戸美濃連房	摺絵皿	(11.4)	2.8	(6.3)	—	5.8	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 貼付高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	165	—
294	O50	F176	瀬戸美濃連房	染付湯呑	(7.6)	4.0	3.3	—	4.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	長石釉・呉須		連房第3段階	165	—
295	P50	F176	古瀬戸	擂鉢	(28.3)	9.7	(9.8)	—	0.6	1.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	錆釉	8本2.4cm	後Ⅳ新	165	—
296	N46	F206	瀬戸美濃連房	広東碗	(10.7)	5.0	5.5	—	0.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉		連房第3段階	165	34
297	N45	F206	瀬戸美濃連房	片口	(17.0)	7.3	(7.7)	—	0.8	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第3段階	166	34
298	N46	F206	瀬戸美濃連房	小杯	5.4	3.0	3.0	—	11.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第3段階	166	34
299	N46	F206	瀬戸美濃連房	擂鉢	(33.6)	13.1	(12.4)	—	5.8	4.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	錆釉	28本4.0cm	連房第3段階	166	35
300	N46	F206	連房期磁器	徳利	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉・鉄釉		近代	166	—
301	N46	F206	瀬戸美濃連房	土瓶	8.8	10.6	(7.6)	14.6	8.5	3.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	長石釉・鉄釉	産地不明	連房第3段階	166	34
302	N46	F206	瀬戸美濃連房	仏餉具	(10.6)	5.4	5.7	—	5.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉？	絞り込み痕	連房第3段階	166	34
303	N46	F206	瀬戸美濃連房	瓶掛	(36.4)	18.2	(24.6)	—	5.4	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	呂宋釉	印花文	連房第3段階	166	34
304	O48	F218	白瓷系陶器	K碗	—	—	(4.0)	—	—	3.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	166	—
305	P49	F220	白瓷系陶器	K碗	(13.8)	3.3	(4.9)	—	3.5	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	166	—
306	P49	F226	土師器	赤ロクロ皿	(9.9)	1.4	(3.9)	—	3.5	4.5	(内面) 回転ナデ			2D	166	—
307	P48	F226	古瀬戸	縁釉小皿	(9.0)	2.5	(3.7)	—	2.1	1.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		後Ⅳ新	166	—
308	P47	F229	土師器	Kロクロ皿	—	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			—	166	—
309	O50	F233	瀬戸美濃連房	銚子	(15.9)	—	—	—	2.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉	御深井	連房第1段階	166	—
310	S51	F264	白瓷系陶器	K碗	(12.4)	2.8	(5.0)	—	2.2	3.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	166	—
311	O45	F315	白瓷系陶器	K皿	7.8	1.6	4.3	—	8.0	8.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			白土原1号窯式	166	—
312	R49	F330	白瓷系陶器	K碗	(14.5)	5.8	(5.4)	—	2.3	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・指ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式	166	—
313	P49	F340	土師器	Aロクロ皿	9.0	2.2	4.4	—	11.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	166	—
314	R49	F370	白瓷系陶器	K碗	(9.9)	2.7	(3.5)	—	3.5	4.5	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	166	—

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
315	P48	F352	白瓷系陶器	K碗	(10.5)	2.8	1.4	—	4.0	12.0	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			生田2号窯式	168	—
316	R51	F330	白瓷系陶器	A片口鉢	(29.8)	13.4	(12.0)	—	1.0	2.1	(内面) 回転ナデ・回転ケズリ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 貼付高台		産地不明	第5型式	166	—
317	K45	G1	白瓷系陶器	K碗	(12.0)	3.1	(3.8)	12.6	1.0	2.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	167	—
318	K47	G1	古瀬戸	擂鉢	—	—	(9.6)	—	—	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉	12本2.2cm	後II～IV期	167	36
319	K45	G1	古瀬戸	卸皿	—	—	—	—	—	2.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		中期	167	—
320	J46	G27	白瓷系陶器	K碗	—	—	(5.1)	—	—	2.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	167	—
321	J45	G27	白瓷系陶器	K碗	(11.7)	3.1	(3.8)	—	5.0	3.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	167	—
322	J45	G27	白瓷系陶器	K碗	—	—	(4.1)	—	—	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	167	—
323	J45	G27	白瓷系陶器	K碗	(13.0)	4.1	(3.7)	—	5.0	5.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	167	36
324	J45	G27	白瓷系陶器	K碗	—	—	(3.5)	—	1.6	0.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台			大洞東1号窯式	167	—
325	J45	G27	白瓷系陶器	K碗	—	—	(3.8)	—	—	2.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	167	—
326	J45	G27	白瓷系陶器	K碗	(13.5)	3.2	(5.0)	—	2.5	4.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	167	—
327	J45	G27	古瀬戸	折縁深皿	—	—	(13.0)	—	—	2.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台	鉄釉	三足	後II期	167	36
328	J44	G44	白瓷系陶器	K碗	(12.0)	3.7	4.0	—	2.6	6.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	167	—
329	J43	G44	白瓷系陶器	K皿	7.7	1.4	4.2	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	167	36
330	J43	G44	白瓷系陶器	K皿	7.6	1.1	5.4	—	8.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	167	—
331	J46	G50	白瓷系陶器	K碗	—	—	(4.0)	—	—	2.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	167	—
332	J45	G50	白瓷系陶器	K碗	(12.0)	—	—	—	1.2	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			—	167	—
333	K43	G122	白瓷系陶器	A片口鉢	—	—	(12.1)	—	—	2.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板ケズリ 貼付高台			時期不明	167	36
334	J42	G186	瀬戸美濃連房	折縁鉄釉皿	(12.6)	2.5	(7.0)	—	1.3	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	黄瀬戸釉		連房第1段階	167	—
335	I43	G187	白瓷系陶器	K碗	(11.8)	2.4	4.4	—	2.3	7.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	167	—
336	H43	G211	白瓷系陶器	K碗	(10.5)	2.2	(3.5)	—	3.4	3.5	(内面) コテナデ・静止指ナデ (外面) コテナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	167	—
337	H42	G228	白瓷系陶器	K碗	(10.7)	—	—	—	4.3	—	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ			—	167	—
338	H43	G259	白瓷系陶器	K皿	7.6	1.3	4.3	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	167	36
339	J43	G272	古瀬戸	擂鉢	—	—	(12.8)	—	—	1.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	錆釉	9本	後IV期	167	36
340	J43	G279	白瓷系陶器	K碗	(11.0)	2.5	(4.4)	—	1.8	3.8	(内面) コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	167	—
341	K42	G301	土師器	赤ロクロ皿	(11.1)	2.2	(4.5)	—	2.8	5.5	(内面) 横ナデ (外面) 横ナデ			IIC	167	—
342	L42	G301	白瓷系陶器	K碗	—	—	(4.8)	—	—	3.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	167	—
343	L42	G301	白瓷系陶器	K碗	(13.8)	4.8	(3.9)	—	1.5	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	167	—
344	M42	G301	白瓷系陶器	K皿	(8.7)	1.2	(5.6)	—	4.0	5.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	167	—
345	K42	G301	古瀬戸	灰釉小皿	10.3	2.3	4.1	—	6.5	10.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		後IV期	167	36
346	L42	G301	白瓷系陶器	K片口鉢	(30.3)	—	—	—	0.8	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ			第5型式	167	—
347	K41	G301	古瀬戸	灰釉小皿	(10.3)	2.6	4.2	—	3.6	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉	拭い取り痕	後IV新	167	—
348	K42	G301	古瀬戸	折縁深皿	(31.2)	—	—	—	2.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		後IV古	167	36
349	K41	G301	古瀬戸	擂鉢	—	—	9.1	—	—	3.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	錆釉		後IV新	167	36
350	L42	G301	古瀬戸	擂鉢	—	—	(9.8)	—	—	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	錆釉	8本2.2cm	後IV新	167	—
351	K43	G301	古瀬戸	擂鉢	—	—	(9.3)	—	—	5.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	錆釉		後IV新	167	—
352	L42	G301	土師器	Aロクロ皿	(11.0)	2.4	5.4	—	3.0	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内面に煤付着	—	168	39
353	M42	G301	土師器	Aロクロ皿	(9.2)	2.4	4.5	—	5.3	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	168	36
354	M42	G301	土師器	Aロクロ皿	8.9	2.0	5.6	—	8.8	10.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	168	36
355	M42	G301	土師器	Aロクロ皿	(10.4)	2.4	5.0	—	2.3	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		口縁部 内面に煤付着	—	168	39
356	M42	G301	土師器	Aロクロ皿	8.4	2.1	4.5	—	6.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内面に煤付着	—	168	39
357	K41	G301	土師器	Aロクロ皿	(10.4)	2.4	5.3	—	3.0	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	168	36
358	K42	G301	中国磁器	青磁碗	—	—	5.4	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	青磁釉	押印花文 太宰府IV類	14世紀前半	168	39
359	L42	G301	中国磁器	白磁小杯	(6.4)	4.5	2.9	—	2.0	12.0	(内面) 回転ナデ・回転ケズリ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	白磁釉		C類群と同じ	168	39
360	L42	G301	中国磁器	染付皿	—	—	(8.2)	—	—	2.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	透明釉	中国	B1群	168	39

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	掲図図版	写真図版
361	J41	G301	骨董（中世）	壺	—	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ケズリ (外面) 回転ケズリ			第8様式	168	39
362	J41	G301	瀬戸美濃大窯	白天目茶碗	(12.4)	5.9	(4.9)	—	4.0	2.1	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		第1段階	168	37
363	L42	G301	瀬戸美濃進房	天目茶碗	(11.8)	6.7	5.2	—	2.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		進房第1段階	166	37
364	M42	G301	瀬戸美濃進房	天目茶碗	(11.7)	—	—	12.1	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		進房第1段階	163	—
365	M42	G301	瀬戸美濃進房	天目茶碗	(11.4)	—	—	—	1.7	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		進房第1段階	166	39
366	K41	G301	瀬戸美濃進房	天目茶碗	—	—	4.7	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		進房第1段階	163	39
367	K41	G301	瀬戸美濃進房	天目茶碗	(11.4)	7.6	5.0	11.6	0.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		進房第1段階	165	37.39
368	K41	G301	瀬戸美濃進房	丸碗	—	—	5.5	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・削出高台	鉄釉		進房第1段階?	168	39
369	M42	G301	瀬戸美濃進房	丸碗	(12.1)	7.9	5.3	—	2.6	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉		進房第1段階	165	36
370	K41	G301	瀬戸美濃進房	丸碗	(11.0)	6.7	4.7	—	3.1	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		進房第3段階	168	—
371	L42	G301	瀬戸美濃進房	丸碗	(11.0)	6.7	4.2	—	3.5	8.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		進房第3段階	165	35
372	L42	G301	瀬戸美濃進房	眼鏡茶碗	10.0	6.6	4.2	—	10.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・鉄釉		進房第2段階	168	37
373	K41	G301	瀬戸美濃進房	掛絵丸碗	(11.6)	7.2	4.8	—	5.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・呉須		進房第2段階	165	37
374	L42	G301	瀬戸美濃進房	清茶碗	(12.7)	6.3	4.6	—	1.6	9.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		進房第3段階	168	—
375	L42	G301	瀬戸美濃進房	清湯呑	(8.2)	—	—	—	3.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	長石釉・呉須		進房第3段階	163	—
376	L42	G301	瀬戸美濃進房	丸Ⅲ	(12.8)	2.7	(8.2)	—	4.5	5.7	(内面) ナデ (外面) ナデ・回転ケズリ	灰釉	重ね焼き痕	進房第1—2段階	168	—
377	K42	G301	瀬戸美濃進房	反Ⅲ	(13.4)	2.8	7.2	—	3.1	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	トチン痕3ヶ所	進房第1段階	168	—
378	M42	G301	瀬戸美濃進房	丸Ⅲ	(13.7)	3.1	8.1	—	3.5	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		進房第1段階	166	—
379	K41	G301	瀬戸美濃進房	反Ⅲ	(13.0)	3.6	(7.8)	—	2.2	2.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		進房第1段階	163	—
380	K41	G301	瀬戸美濃進房	志野丸Ⅲ	(12.4)	2.2	(8.4)	—	5.9	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	長石釉・鉄釉	円錐ピン痕	進房第1段階	168	36・39
381	L42	G301	瀬戸美濃進房	反Ⅲ	(12.9)	2.6	6.4	—	5.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	トチン痕3ヶ所	進房第1—2段階	168	—
382	L42	G301	瀬戸美濃進房	折縁Ⅲ	(12.3)	2.7	(5.1)	—	5.0	5.9	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	円錐ピン痕2ヶ所	進房第1段階	168	39
383	L42	G301	瀬戸美濃進房	折縁Ⅲ	(12.8)	2.9	5.6	—	2.3	7.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		進房第1段階	165	—
384	L42	G301	瀬戸美濃進房	折縁鉄絵Ⅲ	12.0	2.6	6.7	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	トチン痕	進房第1段階	169	37
385	M42	G301	瀬戸美濃進房	折縁鉄絵Ⅲ	(12.0)	3.0	(7.2)	—	5.4	4.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		進房第1段階	169	—
386	K42	G301	瀬戸美濃進房	折縁鉄絵Ⅲ	(12.2)	2.6	6.4	—	4.0	10.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉・黄瀬戸釉		進房第1段階	169	37
387	L42	G301	瀬戸美濃進房	折縁鉄絵Ⅲ	(12.0)	2.6	(6.8)	—	5.0	4.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		進房第1段階	169	—
388	L42	G301	瀬戸美濃進房	志野鉄絵Ⅲ	(11.5)	2.0	(7.2)	—	2.8	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	長石釉		進房第1段階	169	36
389	L42	G301	瀬戸美濃進房	志野鉄絵Ⅲ	(12.0)	2.6	(6.6)	—	1.3	4.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	長石釉		進房第1段階	169	36
390	L42	G301	瀬戸美濃進房	志野鉄絵Ⅲ	(11.9)	2.3	(5.6)	—	4.8	5.7	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	長石釉		進房第1段階	169	39
391	M42	G301	瀬戸美濃進房	掛絵Ⅲ	(13.7)	2.6	(7.0)	—	2.3	5.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・鉄釉		進房第2段階	169	39
392	K42	G301	瀬戸美濃進房	掛絵渥打Ⅲ	(13.0)	3.1	5.7	—	5.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・鉄釉		進房第2段階	169	37
393	L42	G301	瀬戸美濃進房	掛絵Ⅲ	(12.8)	2.8	6.7	—	3.5	7.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・粗ナデ 回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		進房第2段階	169	35
394	M42	G301	瀬戸美濃進房	掛絵Ⅲ	—	—	6.8	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉	円錐ピン痕3ヶ所	進房第2段階	169	—
395	K41	G301	瀬戸美濃進房	染付深Ⅲ	(13.4)	4.1	6.4	—	5.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	透明釉・呉須		幕末～近代	169	—
396	K41	G301	瀬戸美濃進房	水滴	—	—	3.2	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		進房第3段階	169	—
397	L42	G301	瀬戸美濃進房	染付小皿	—	—	3.6	5.7	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉	絞り込み痕	進房第3段階	169	38
398	L42	G301	瀬戸美濃進房	折縁鉄絵鉢	(39.0)	—	—	—	3.1	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		進房第1段階	169	37
399	L42	G301	瀬戸美濃進房	景け分け 角付	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台	灰釉・鉄釉	三足・掛け分け	進房第1段階	170	39
400	K41	G301	瀬戸美濃進房	型打ちⅢ	(10.0)	3.1	(5.8)	13.8	8.0	11.0	(内面) 削出高台	灰釉	変形山型	進房第1段階	170	36
401	L42	G301	瀬戸美濃進房	景け分け 角付	—	—	—	—	—	—	(内面) 粗ナデ (外面) 粗ナデ	灰釉・鉄釉	景け分け	進房第2段階	170	—
402	K42	G301	瀬戸美濃進房	合付Ⅲ	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		進房第3段階	170	—
403	L42	G301	瀬戸美濃進房	筒角付	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	長石釉・呉須		進房第3段階	170	—
404	L42	G301	瀬戸美濃進房	擂鉢	—	—	9.5	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	19本3.7cm	進房第1段階	170	—
405	L42	G301	瀬戸美濃進房	擂鉢	(36.0)	—	—	—	0.8	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	10本3.0cm	進房第3段階	170	—
406	L42	G301	瀬戸美濃進房	片口	19.5	—	(9.8)	—	10.0	1.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ	灰釉		進房第3段階	170	37
407	K41	G301	瀬戸美濃進房	練鉢	(18.0)	7.8	8.0	—	3.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	重ね焼き痕1ヶ所 円錐ピン痕3ヶ所	進房第3段階	170	38
408	L42	G301	瀬戸美濃進房	汁次	1.5	長（8.8）	2.9	2.4	—	—	(内面) 回転ナデ・粗ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		進房第2段階	170	—
409	L42	G301	瀬戸美濃進房	壺	—	—	10.8	—	—	7.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		進房第1段階	170	—
410	J41	G301	瀬戸美濃進房	壺	—	—	—	20.0	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		時期不明	170	—
411	K41	G301	瀬戸美濃進房	鉢	(23.8)	6.8	(13.0)	—	1.7	2.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・回転ケズリ ヘラケズリ・削出高台	灰釉		進房第1段階	170	—
412	K41	G301	瀬戸美濃進房	花生	—	—	7.5	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉・黄釉	丸状工具による削ぎ	進房第1段階	170	38
413	L42	G301	瀬戸美濃進房	有耳壺	(10.1)	—	—	—	1.8	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		進房第3段階	170	—
414	L42	G301	瀬戸美濃進房	練鉢	(33.3)	—	—	—	2.8	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉	試い取り痕	進房第2段階	170	—
415	L42	G301	瀬戸美濃進房	水滴	—	—	(13.5)	—	—	4.5	(内面) 回転ケズリ (外面) 回転ケズリ・削出高台	灰釉	重ね焼き痕	進房第3段階	171	37

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	掲図図版	写真図版
416	L42	G301	瀬戸美濃遺房	鉢蓋	—	つまみ径1.3	5.4	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	鉄釉		遺房第1—2段階	171	—
417	L42	G301	瀬戸美濃遺房	鉢蓋	7.3	つまみ径1.6	2.8	—	7.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	鉄釉	貼付取手	遺房第2段階	171	—
418	K42	G301	瀬戸美濃遺房	茶入れ蓋	6.0	(1.6)	3.6	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	緑釉		遺房第3段階	171	35
419	K42	G301	瀬戸美濃遺房	灯明皿	9.8	2.3	4.5	—	10.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉	外面鐵付着	遺房第3段階	171	39
420	L42	G301	瀬戸美濃遺房	灯明皿	6.2	1.5	3.2	—	6.0	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		遺房第3段階	171	—
421	K41	G301	瀬戸美濃遺房	香炉	—	—	(9.7)	—	—	3.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉・緑釉	三足	遺房第2段階	171	—
422	L42	G301	瀬戸美濃遺房	香炉	(10.2)	6.4	8.0	—	1.8	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉	三足・丸ノミによる文様	遺房第2段階	171	35
423	L42	G301	瀬戸美濃遺房	香炉	10.0	—	—	—	2.1	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		遺房第3段階	171	—
424	L42	G301	瀬戸美濃遺房	匣鉢	—	—	(17.3)	18.2	—	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ハケ目 指頭圧目・削出高台	鉄釉	重ね焼き痕	—	171	—
425	K42	G301	瀬戸美濃遺房	匣鉢	15.7	11.0	14.8	—	7.0	12.0	(内面) 回転ナデ・細線紙 (外面) 回転ナデ	灰釉	自然釉	—	171	35
426	K41	G301	瀬戸美濃遺房	問どちん	9.1	5.2	9.2	9.2	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		自然釉・三足	—	171	—
427	M42	G301	瀬戸美濃遺房	不明	—	—	13.8	—	—	7.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉	丸ノミによる削ぎ	—	171	—
428	L42	G301	遺房縄確番	土師	(22.0)	11.7	(8.0)	—	4.2	2.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉	紐付着	遺房第3段階	171	—
429	L42	G301	唐津	中皿	—	—	(10.0)	—	—	2.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台		円錐ピン痕 放射状沈線（8本）	近世	171	—
430	K42	G301	唐津	皿	—	—	6.3	—	—	8.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・鉄釉	描鉄梅花	18—19世紀前半	171	37
431	K41	G301	肥前	染付小杯	(7.0)	4.6	2.8	—	5.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉		遺房第3段階	171	38
432	L42	G301	瓦	陶器丸瓦	—	—	最大厚3.2	—	—	—	(内面) ナデ・回転ケズリ (外面) ナデ	鉄釉	内面に鐵付着 9mmの釘穴	時期不明	171	39
433	M42	G302	白瓷系陶器	K碗	—	—	(3.8)	—	—	3.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台			明和1号窯式	172	—
434	J41	G302	白瓷系陶器	A片口鉢	(27.1)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ			第7型式	172	—
435	J41	G302	瀬戸美濃遺房	碗	(11.1)	4.1	3.8	—	3.3	11.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		遺房第3段階	172	—
436	L41 TR3	G302	瀬戸美濃大窯	小天目茶碗	(8.0)	—	—	—	1.6	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		第3—4段階	172	—
437	M41	G302	瀬戸美濃遺房	菊皿	(13.8)	3.4	(7.2)	—	1.0	3.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	丸ノミによる削ぎ	遺房第1段階	172	—
438	L40	G328	白瓷系陶器	K碗	(12.7)	2.1	(4.9)	—	1.0	3.5	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ			生田2号窯式	172	—
439	M41	G336	古瀬戸	瓶鉢	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		後期	172	—
440	K39	G370	白瓷系陶器	K碗	(13.4)	—	—	—	3.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			脇之島3号窯式	172	—
441	K39	G370	古瀬戸	小天目茶碗	(8.4)	—	—	—	1.1	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	緑釉		後IV期	172	—
442	K39	G380	白瓷系陶器	KIII	(8.9)	1.2	5.2	—	3.8	8.1	(内面) 回転ナデ・静止糸ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	172	—
443	K39	G385	白瓷系陶器	KIII	7.8	1.8	5.0	—	10.5	12.0	(内面) 回転ナデ・静止糸ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			白土原1号窯式	172	—
444	K39	G393	白瓷系陶器	K碗	—		(5.0)	—	—	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大畑大洞4号窯式	172	—
445	L39	G436	古瀬戸	鉢III	—	—	(8.0)	—	—	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉	棒状工具 による押目	中期	172	—
446	L39	G441	白瓷系陶器	K碗	(13.2)	—	—	—	0.6	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			明和1号窯式	172	—
447	M40	G453	土師器	Kロクロ皿	(8.0)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			—	172	—
448	J41	G472	白瓷系陶器	K碗	—	—	5.5	—	—	8.0	(内面) 回転ナデ・静止糸ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	172	—
449	J41	G472	白瓷系陶器	K碗	—	—	(2.7)	—	—	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	172	—
450	K41	G472	白瓷系陶器	KIII	(8.6)	1.7	4.4	—	4.0	9.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	172	—
451	K41	G472	古瀬戸	祖母懐壺	—	—	(10.9)	—	—	1.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			後期	172	—
452	K41	G472	瀬戸美濃遺房	天目茶碗	11.2	—	—	—	0.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		遺房第1段階	172	—
453	K41	G472	瀬戸美濃遺房	天目茶碗	(11.0)	—	—	—	2.4	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		遺房第1段階	172	—
454	K41	G472	常滑（中世）	甕	(23.2)	—	—	—	0.9	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		第10型式	172	—
455	K38	G472	瀬戸美濃遺房	鉄絵丸碗	(14.7)	—	—	—	2.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		遺房第3段階	172	38
456	K41	G472	瀬戸美濃遺房	丸碗	(11.3)	7.5	5.2	—	3.0	10.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		遺房第1段階	172	35
457	K41	G472	瀬戸美濃遺房	広東碗	—	—	(7.0)	—	—	0.9	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	長石釉・呉須		遺房第3段階	172	—
458	K41	G472	瀬戸美濃遺房	広東碗	—	—	6.5	—	—	9.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須		遺房第3段階	172	—
459	K41	G472	瀬戸美濃遺房	箱形湯呑	—	—	(3.0)	—	—	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須	雑花つなぎ	遺房第3段階	172	38
460	K41	G472	瀬戸美濃遺房	小杯	6.6	3.7	3.9	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		遺房第2段階	172	38
461	K41	G472	瀬戸美濃遺房	小杯	6.2	3.6	3.7	—	10.8	10.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		遺房第3段階	172	38
462	K41	G472	瀬戸美濃遺房	灯明皿	7.2	1.9	3.5	—	7.0	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		遺房第3段階	172	—
463	K41	G472	瀬戸美濃遺房	鉢III	—	1.3	—	7.7	—	—	(内面) 指ナデ (外面) 指ナデ	鉄釉	棒状工具による 縦突列	遺房第3段階	172	—
464	K41	G472	瀬戸美濃遺房	菊皿	—	—	8.5	—	—	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉・緑釉	丸ノミによる 削ぎ トチン痕2ヶ所	遺房第1段階	172	—
465	K41	G472	瀬戸美濃遺房	瓶鉢	—	—	14.0	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	22本5.0cm	遺房第3段階	172	—
466	K41	G472	瀬戸美濃遺房	鉢鉢	—	—	(15.8)	—	—	2.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台			遺房第3段階	173	—
467	K41	G472	瀬戸美濃遺房	十能	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ (外面) ナデ	鉄釉	取手貼付	遺房第3段階	173	—
468	K41	G472	瀬戸美濃遺房	戸車	長（7.2）	幅（1.5）	—	—	6.0	6.0			自然釉	遺房第3段階	173	—
469	K41	G472	瀬戸美濃遺房	加工円盤	—	—	5.6	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉		遺房第1段階	173	—
470	K41	G472	瀬戸美濃遺房	加工円盤	—	—	4.6	—	—	10.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉	底部に印あり	遺房第2段階	173	—
471	M41	G481	白瓷系陶器	K碗	—	—	(4.4)	—	—	1.0	(内面) 回転ナデ・静止糸ナデ (外面) 回転ナデ・板目 貼付高台			明和1号窯式	173	—

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・窯式	挿図図版	写真図版
472	M41	G481	土師器	Aロクロ皿	—	—	4.2	—	—	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	173	—
473	M41	G481	土師器	Aロクロ皿	(12.0)	2.1	(6.0)	—	1.2	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内面に煤付着	—	173	—
474	L41	G482	白瓷系陶器	K碗	—	—	5.0	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	173	—
475	L41	G482	白瓷系陶器	K碗	(14.4)	5.2	5.2	—	1.4	5.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	173	—
476	L41	G482	白瓷系陶器	K碗	(14.8)	4.8	(5.2)	—	1.5	1.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大畑大洞4号窯式	173	—
477	L41	G482	白瓷系陶器	K碗	(14.5)	5.1	5.0	—	0.9	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台		墨書	大畑大洞4号窯式	173	—
478	L41	G482	白瓷系陶器	K片口鉢	—	—	(13.5)	—	—	1.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・ナデ 回転ケズリ・貼付高台			—	173	—
479	L44	G482	土師器	Kロクロ皿	(9.0)	2.2	(4.4)	—	4.0	4.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	173	—
480	M41	G484	常滑(中世)	甕	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ・粘土積痕 (外面) 回転ナデ・斜めのハケ目			15~16世紀	173	—
481	L41	G486	白瓷系陶器	K皿	(8.0)	1.2	(4.2)	—	2.0	3.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	173	—
482	M41	G490	白瓷系陶器	K碗	—	—	(4.8)	—	—	2.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	173	—
483	L41	G485	連房窯磁器	土鍋	(21.0)	—	—	—	3.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		連房第3段階	173	—
484	L41	G485	瀬戸美濃連房	瓦質羽釜	(22.0)	—	—	27.2	1.3	—	(内面) 指ナデ・指頭痕 (外面) 指ナデ・板ナデ 剥離痕		産地不明	時期不明	173	38
485	L41	G485	瀬戸美濃連房	十能	—	—	—	—	—	—	(外面) ナデ・ケズリ	鉄釉	棒状工具を使った横ナデ	連房第3段階	173	38
486	L41	G485	瀬戸美濃連房	半胴甕	—	—	(18.8)	—	—	5.7	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		連房第3段階	174	—
487	I41	E1	白瓷系陶器	K碗	(10.0)	2.5	(3.2)	—	3.8	3.6	(内面) 回転コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	174	41
488	I41	E1	白瓷系陶器	K皿	8.2	1.5	5.5	—	6.6	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	174	41
489	I41	E1	白瓷系陶器	K皿	7.4	1.2	4.8	—	7.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	174	41
490	I41	E1	古瀬戸	有耳壺	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉	貼花文	後期	174	40
491	I41	E1	常滑(中世)	甕	—	—	14.4	—	—	2.0	(内面) 横方向板ナデ (外面) 横方向板ナデ 斜め方向板ナデ			15~16世紀	174	41
492	I41	E1	古瀬戸	仏具	(9.5)	4.4	4.4	—	3.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台			後IV新	174	40
493	I41	E1	瀬戸美濃大窯	折縁皿	(11.2)	2.7	5.8	—	1.5	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台		丸ノミによる削ぎ	第4段階前	174	40
494	I41	E1	土師器	Kロクロ皿	(9.2)	2.6	4.5	—	1.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		3条の沈線	—	174	—
495	I41	E1	瀬戸美濃連房	小碗	8.4	3.4	4.6	—	6.0	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		連房第2段階	174	—
496	I41	E1	瀬戸美濃大窯	甕	—	—	(15.0)	—	—	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ			時期不明	174	40
497	I41	E1	瀬戸美濃連房	腰錆湯呑	(9.5)	5.9	4.4	—	2.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・錆釉		連房第3段階	174	40
498	I41	E1	瀬戸美濃連房	小杯	5.2	3.0	2.7	—	7.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	174	—
499	I41	E1	瀬戸美濃連房	小杯	5.8	3.3	(2.8)	—	7.2	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	174	—
500	I41	E1	瀬戸美濃連房	丸碗	(14.8)	10.7	6.8	—	5.5	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第2段階	174	40
501	I41	E1	瀬戸美濃連房	碗	(11.6)	6.7	4.3	—	0.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉呉須		連房第3段階	174	—
502	H41	E1	瀬戸美濃連房	丸皿	(12.5)	2.8	7.1	—	3.4	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第1段階	174	—
503	I41	E1	瀬戸美濃連房	丸碗	(12.0)	7.8	5.8	—	3.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉 うのふ釉		連房第1段階	174	40
504	I41	E1	瀬戸美濃連房	蓋付湯呑	(7.4)	6.1	3.7	—	3.0	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉・呉須		連房第3段階	175	—
505	I41	E1	瀬戸美濃連房	折縁鉄絵鉢	(24.8)	5.3	13.8	—	5.0	7.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第1段階	175	40
506	J41	E1	瀬戸美濃連房	鉄絵丸皿	(11.2)	2.8	(7.0)	—	4.0	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第1段階	175	—
507	J41	E1	瀬戸美濃連房	折縁鉄絵皿	11.6	2.6	7.1	—	9.0	9.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第1段階	175	40
508	I41	E1	瀬戸美濃連房	鉄絵皿	(12.8)	3.0	7.0	—	1.3	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉	円錐ピン痕	連房第2段階	175	—
509	I41	E1	瀬戸美濃連房	擂鉢	(36.4)	14.7	10.0	—	2.1	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	16本2.5cm	連房第1段階	175	40
510	I41	E1	瀬戸美濃連房	擂鉢	(32.2)	—	—	—	2.6	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	錆釉	18本4.0cm	連房第2段階	175	—
511	I41	E1	瀬戸美濃連房	灯明具	—	—	6.3	—	—	8.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	飴釉		連房第2段階	175	40
512	I41	E1	瀬戸美濃連房	灯明皿	(6.5)	1.8	(3.4)	—	5.9	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	錆釉		連房第3段階	175	—
513	I41	E1	瀬戸美濃連房	香炉	(11.8)	7.2	11.6	—	4.6	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉	三足	連房第1段階	175	—
514	I41	E1	瀬戸美濃連房	香炉	(10.4)	—	(9.9)	—	2.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉	三足	連房第2段階	175	—
515	I41	E1	常滑(近世)	甕	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ		墨書	18世紀以降	175	41
516	I41	E1	瀬戸美濃連房	片口	(19.1)	10.3	9.6	—	3.0	9.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	錆釉		連房第2段階	175	40
517	I41	E1	瀬戸美濃連房	片口	(20.8)	10.7	10.2	—	1.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	175	—
518	I41	E1	瀬戸美濃連房	[illegible]	—	3.4	短(3.3)	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉	側面貼付	連房第2段階	175	—
519	I41	E1	瀬戸美濃連房	徳利	—	—	7.8	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第2段階	176	40
520	I41	E1	瀬戸美濃連房	瓶	3.2	—	—	—	2.2	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉	絞り込み痕	連房第3段階	176	—

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	掲図図版	写真図版
521	I41	E1	瀬戸美濃連房	壺	—	—	11.2	—	—	10.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第3段階	176	—
522	I41	E1	常滑（近世）	厨丸系火鉢	—	—	(20.0)	—	—	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ		三足	18世紀後半	176	41
523	I41	E1	常滑（近世）	火鉢	(34.2)	10.6	(18.7)	11.2	5.0	0.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ		内面煤付着	18世紀後半	176	41
524	G40	E2	古瀬戸	鉢II	—	—	(7.2)	—	—	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		—	176	—
525	H41	E2	瀬戸美濃連房	小杯	5.4	2.8	2.9	5.8	11.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	176	41
526	H41	E2	瀬戸美濃連房	小杯	5.0	2.9	2.8	5.5	10.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	176	41
527	H41	E2	瀬戸美濃連房	小杯	4.9	2.8	2.8	5.8	11.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	176	41
528	H41	E2	瀬戸美濃連房	染付小杯	6.1	4.2	2.5	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	176	41
529	I41	E2	瀬戸美濃連房	仏餉具	—	—	4.5	—	—	10.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉	底り込み底	連房第2段階	176	—
530	H41	E2	瀬戸美濃連房	硯蓋	(10.4)	2.8	つまみ径 4.2	—	—	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ つまみ剥り出し	灰釉・鉄釉 呉須		連房第3段階	176	—
531	I41	E2	瀬戸美濃連房	鉢II	—	—	6.0	10.7	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	176	—
532	J39	E30	白磁系陶器	K碗	(14.5)	5.2	(5.5)	—	1.6	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	176	—
533	I39	E41	瀬戸美濃大窯	天目茶碗	10.3	—	—	—	0.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		第4段階	176	—
534	I39	E41	瀬戸美濃連房	擂鉢丸胴	(12.0)	7.0	5.2	—	5.3	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	176	42
535	I39	E41	瀬戸美濃連房	汁次	5.1	—	—	—	12.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉・鉄釉	4条の沈線	連房第1段階	176	42
536	I39	E41	瀬戸美濃連房	折縁輪花II	13.2	3.2	6.6	—	6.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	円錐ピン底	連房第1段階	176	42
537	—	E80	瀬戸美濃大窯	擂鉢	—	—	(8.0)	—	—	4.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		12本3.0cm	—	177	—
538	G40	E54	白磁系陶器	KIII	(9.2)	1.2	(4.8)	—	4.5	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	177	—
539	I38	E109	白磁系陶器	K碗	10.8	2.5	3.6	—	6.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	177	42
540	I37	E109	白磁系陶器	K碗	(13.8)	3.5	(5.0)	—	0.8	3.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	177	—
541	I37	E109	古瀬戸	灰釉小II	(10.3)	1.9	(5.0)	—	1.4	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		後期	177	—
542	J37	E112	土師器	羽釜	(21.1)	—	—	—	2.0	—	(内面) ナデ・ハケ目 (外面) ナデ・ハケ目		外面に煤付着	—	177	—
543	J37	E112	白磁系陶器	K碗	(14.6)	4.6	4.9	—	3.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止指ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			白土原1号窯式	177	—
544	J37	E112	白磁系陶器	K碗	13.3	4.2	3.5	—	8.0	8.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 貼付高台		自然釉	大谷洞14号窯式	177	—
545	J37	E112	白磁系陶器	K碗	13.1	4.2	4.0	—	8.5	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	177	—
546	J37	E112	白磁系陶器	K碗	12.8	4.3	4.3	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	177	—
547	J37	E112	白磁系陶器	K碗	14.0	5.2	(4.8)	—	7.2	5.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台		墨書	明和1号窯式	177	42
548	J37	E112	白磁系陶器	K碗	13.4	4.6	5.1	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	177	42
549	J37	E112	白磁系陶器	K碗	12.9	4.3	4.0	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止指ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	177	42
550	J37	E112	白磁系陶器	K碗	13.1	4.0	3.7	—	11.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	177	42
551	J37	E112	白磁系陶器	K碗	13.5	3.9	4.2	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止指ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	177	—
552	J37	E112	白磁系陶器	K碗	(12.7)	4.1	(4.6)	—	4.0	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	177	—
553	J37	E112	白磁系陶器	KIII	(8.0)	1.8	4.0	—	5.5	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	自然釉		白土原1号窯式	177	—
554	J37	E112	白磁系陶器	KIII	8.7	1.5	5.2	—	11.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	177	—
555	J38	E112	白磁系陶器	KIII	8.4	1.1	5.1	—	8.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	177	—
556	J37	E112	白磁系陶器	KIII	(8.5)	1.5	(5.3)	—	3.2	5.8	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	墨書		白土原1号窯式	177	41
557	J37	E112	白磁系陶器	KIII	7.7	1.3	4.9	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕	墨書		明和1号窯式以降	177	41
558	J37	E112	白磁系陶器	KIII	8.0	1.1	4.9	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕	墨書		明和1号窯式以降	177	41
559	J37	E112	白磁系陶器	KIII	8.5	1.6	4.5	—	6.1	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台	墨書		明和1号窯式以降	177	41
560	J37	E112	白磁系陶器	KIII	—	—	5.7	—	—	6.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	墨書		明和1号窯式以降	177	41
561	J37	E112	白磁系陶器	KIII	(9.0)	1.0	5.7	—	5.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台	墨書		明和1号窯式以降	177	41
562	J37	E112	白磁系陶器	K碗蓋	(10.6)	3.2	(4.7)	(10.8)	2.0	2.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			—	177	—
563	J37	E112	白磁系陶器	陶丸	2.0	—	—	—	—	—	(外面) 漆塗底			—	177	—
564	—	E112	白磁系陶器	A片口鉢	—	—	(12.0)	—	—	2.8	(内面) 回転ナデ (外面) 静止指ナデ・回転ケズリ 貼付高台			第9～10型式	177	41

掲載番号	グリッド	遺構番号	種別	器種	法量（cm）				口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
					口径	器高	底径	最大径								
565	J37	E112	白瓷系陶器	K片口鉢	(26.3)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ			第6型式	177	—
566	J37	E112	白瓷系陶器	K片口鉢	(27.0)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			第8型式	177	—
567	J37	E112	白瓷系陶器	A片口鉢	(29.8)	—	—	—	1.3	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ			第10型式	178	41
568	H36	E130	白瓷系陶器	K碗	—	—	(4.0)	—	—	3.3	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大畑大洞4号窯式	178	—
569	G36	E130	古瀬戸	折縁皿	—	—	—	—	0.6	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		後期	178	—
570	G36	E130	白瓷系陶器	K碗	(13.2)	—	—	—	—	1.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			—	178	—
571	J37	E112	古瀬戸	折縁深皿	(26.7)	—	—	—	1.6	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		中Ⅰ期	178	—
572	G37	E130	白瓷系陶器	K皿	(8.4)	1.2	5.0	—	5.8	6.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	178	—
573	G37	E130	白瓷系陶器	K皿	(8.0)	—	4.2	—	1.0	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	178	—
574	J37	E112	古瀬戸	折縁深皿	(26.2)	—	—	—	1.9	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		中Ⅱ期	178	—
575	J37	E112	常滑（中世）	甕	(23.9)	4.2	—	—	1.4	—	(内面) 回転ナデ・指ナデ 回転ケズリ (外面) 回転ナデ		自然釉・押印文	第6型式	178	41
576	H36	E153	瀬戸美濃連房	内付蓋 復興織部	長9.8	1.9	つまみ径 3.0	—	12.0	12.0	(内面) 布目痕 (外面) タタラ成形 ヘラによる面取り	透明釉・鉄釉 緑釉		連房第3段階	178	42
577	H36	E153	常滑（近世）	甕	—	—	16.5	—	—	12.0	(内面) ナデ (外面) 回転ケズリ		工具による タテ方向ケズリ 貯蔵具 灰・鉄物	18世紀	178	—
578	I36	E168	常滑（近世）	甕	—	—	20.0	—	—	12.0	(内面) ナデ・指頭痕・輪積痕 (外面) 不明		赤物・貯蔵具 灰・鉄物	18～19世紀	178	—
579	G36	E135	白瓷系陶器	K皿	8.3	1.2	5.0	—	6.5	6.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	178	—
580	H36	E153	白瓷系陶器	K碗	—	—	4.4	—	—	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			脇之島3号窯式	178	—
581	H36	E153	肥前	染付皿	—	—	(13.2)	—	—	1.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・削出高台	透明釉		連房第3段階	178	—
582	G38	E159	瀬戸美濃連房	染付皿	13.2	3.4	7.8	—	10.6	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	透明釉・呉須		連房第3段階	179	42
583	G38	E159	瀬戸美濃連房	灯明皿	7.7	1.6	4.4	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		連房第3段階	179	—
584	E35	E172	白瓷系陶器	K碗	—	—	5.2	—	—	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 指ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台		自然釉	明和1号窯式	179	—
585	G35	E178	白瓷系陶器	K碗	12.0	4.6	5.0	—	9.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台		自然釉	明和1号窯式	179	42
586	G35	E178	白瓷系陶器	K碗	—	—	5.3	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・指ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	179	—
587	G35	E178	白瓷系陶器	K碗	(13.6)	5.3	(4.5)	—	2.2	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	179	—
588	H34	E183	白瓷系陶器	K碗	(12.8)	3.5	4.2	—	5.6	7.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	179	—
589	G36	E221	白瓷系陶器	K皿	(8.6)	1.2	4.1	—	2.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	179	—
590	E33	E233	白瓷系陶器	K碗	—	—	4.4	—	—	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	179	—
591	E33	E233	瀬戸美濃連房	天目茶碗	(11.1)	—	—	—	3.1	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		連房第1段階	179	—
592	E33	E233	瀬戸美濃連房	染付碗	10.8	5.8	3.4	—	6.5	3.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・削出高台	透明釉		連房第3段階	179	—
593	E33	E233	瀬戸美濃連房	染付小杯	6.9	4.3	3.3	—	10.0	9.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	透明釉		連房第3段階	179	42
594	E33	E233	瀬戸美濃連房	絵瀬戸大皿	—	—	(12.8)	—	—	3.3		灰釉・鉄釉		連房第3段階	179	—
595	E33	E233	瀬戸美濃連房	染付小杯	(6.5)	4.5	2.8	—	3.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・削出高台	透明釉	8個の面を持つ	連房第3段階	179	—
596	E33	E233	瀬戸美濃連房	染付小瓶	—	—	2.6	3.8	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	長石釉		連房第3段階	179	—
597	E33	E233	瀬戸美濃連房	徳利	—	—	10.4	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		—	179	—
598	E34	E233	瀬戸美濃連房	鉄絵深皿	(14.2)	6.0	(7.2)	—	4.4	5.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	179	—
599	E33	E233	瀬戸美濃連房	鉄絵深皿	(13.8)	5.2	(7.2)	—	4.3	3.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第3段階	179	—
600	E33	E233	瀬戸美濃連房	鉄絵深皿	(14.4)	4.6	(7.6)	—	5.7	5.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	179	—
601	E33	E233	瀬戸美濃連房	型打皿	(8.1)	2.4	3.8	—	5.5	12.0		白磁釉	型打ち	連房第3段階	179	42
602	E33	E233	瀬戸美濃連房	台付灯 明受皿	(6.5)	4.2	4.0	—	4.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		連房第3段階	180	42
603	E34	E233	瀬戸美濃連房	擂鉢	—	—	(13.5)	—	—	5.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ	錆釉		連房第3段階	180	—
604	E33	E233	瀬戸美濃連房	甕	(19.0)	—	—	—	2.8	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	4条の沈線	連房第3段階	180	—
605	F32	E233	瀬戸美濃連房	行平鍋	(19.2)	—	—	—	1.9	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉	煤付着	連房第1段階	180	—
606	E33	E233	瀬戸美濃連房	土鍋	—	—	(9.3)	—	—	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ	灰釉		連房第3段階	180	—
607	E34	E233	連房磁器	染付湯呑	(9.2)	5.6	3.7	—	2.5	10.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第3段階	180	43
608	E33	E233	瀬戸美濃連房	仏飯具	—	—	4.3	—	—	12.0	(内面) 回転ケズリ (外面) 回転ケズリ	灰釉		連房第3段階	180	—
609	E33	E233	連房磁器	染付小瓶	—	—	2.1	3.0	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	長石釉		連房第3段階	180	—
610	E33	E233	瀬戸美濃連房	染付小壺	—	—	4.4	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	透明釉		連房第3段階	180	42
611	E33	E233	肥前	染付輪皿	9.6	2.3	4.8	—	3.0	9.8	(内面) 回転ナデ (外面) 削出高台	透明釉		連房第3段階	180	—
612	E33	E233	瓦器	瓦質鍋	(34.0)	—	—	—	1.9	—	(内面) ナデ (外面) ナデ		内外面に煤付着 産地不明	不明	180	—
613	E33	E233	常滑（近世）	角型火鉢	長（44.4）	—	—	—	—	—	(外面) 板造り・口縁張り出し		清洲城下に 長方形の物有り	19世紀	181	43
614	F32	E246	土師器	Aロクロ皿	(10.8)	2.2	4.9	—	3.5	9.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	181	43
615	F32	E246	土師器	Aロクロ皿	11.1	2.5	4.5	—	6.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	181	43
616	F32	E246	瀬戸美濃連房	尾呂茶碗	(10.3)	7.3	(4.0)	—	2.5	1.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	錆釉・鉄釉		連房第2段階	181	42
617	E33	E246	瀬戸美濃連房	染付碗	(12.6)	5.6	(4.4)	—	0.6	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉		連房第3段階	181	43

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	掲図図版	写真図版
618	F32	E246	瀬戸美濃進房	擂鉢	(35.2)	14.9	(9.5)	—	2.1	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	16本2.7cm	進房第1段階	181	—
619	E33	E246	肥前	染付小杯	(6.8)	4.8	3.2	—	2.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉		進房第3段階	181	—
620	E33	E246	進房窯磁器	染付碗	(10.7)	5.8	3.7	—	3.5	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉		進房第3段階	181	43
621	E34	E246	進房窯磁器	染付碗	10.6	5.9	4.2	—	7.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉		進房第3段階	181	43
622	E33	E246	進房窯磁器	染付碗	(10.9)	3.9	(4.3)	—	1.9	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉		進房第3段階	181	43
623	F32	E246	瀬戸美濃進房	擂鉢	(38.5)	15.4	11.9	—	3.5	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・削出高台	灰釉		進房第3段階	182	—
624	F33	E246	瀬戸美濃進房	仏具	3.8	—	9.5	—	12.0	7.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		進房第3段階	182	—
625	E33	E247	進房窯磁器	染付碗蓋	9.5	3.1	つまみ径3.9	—	10.2	2.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ	透明釉		進房第3段階	182	43
626	F31	E250	白変系陶器	K碗	(10.4)	2.1	(4.0)	—	2.0	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	182	—
627	D30	E317	瀬戸美濃進房	志野丸皿	11.8	2.3	7.0	—	8.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 削出高台	長石釉		進房第1段階	182	—
628	F30	E407	白変系陶器	K碗	(14.0)	8.2	(4.1)	—	1.5	2.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	182	—
629	E31	E407	白変系陶器	KIII	(3.0)	1.2	(4.8)	—	4.0	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		墨書	明和1号窯式以降	182	—
630	E30	E344	白変系陶器	K碗	9.7	2.6	4.3	—	9.7	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	182	42
631	G28	E420	白変系陶器	K碗	13.2	5.3	5.4	—	7.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・磨ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	182	42
632	F31	E420	白変系陶器	KIII	8.4	1.2	5.2	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		墨書	明和1号窯式以降	182	—
633	D29	E393	白変系陶器	K碗	11.3	3.4	4.4	—	12.0	12.0	(内面) コテナデ (外面) 回転ナデ・コテナデ 回転糸切り痕			鳥之島3号窯式	182	42
634	D28	E395	古瀬戸	小皿	(10.5)	2.2	(5.0)	—	2.6	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		後IV古	182	—
635	F31	E495	白変系陶器	K碗	(13.6)	5.1	4.8	—	3.9	12.0	(内面) 回転ナデ・静止磨ナデ (外面) 回転ナデ・磨ナデ 回転糸切り痕		自然釉	大畑大洞4号窯式	182	—
636	F29	E423	土師器	Kロクロ皿	8.3	2.2	4.8	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内外面口縁部に煤付着	—	182	—
637	I35	E451	白変系陶器	K碗	(12.0)	3.5	(4.8)	—	3.2	4.2	(内面) コテナデ (外面) 回転ナデ・コテナデ 回転糸切り痕			鳥之島8号窯式	182	—
638	G34	E491	瀬戸美濃大窯	天目茶碗	(12.3)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉・鉄釉		第3段階	182	—
639	I35	E459	白変系陶器	KIII	8.3	1.7	5.1	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止磨ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		墨書	白土原1号窯式	182	—
640	I30	E446	瀬戸美濃進房	仏具	—	—	7.7	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉	絞り込み底	進房第2段階	182	—
641	G30	E501	古瀬戸	茶壺	(12.6)	—	—	19.4	3.8	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		後IV期	182	42
642	G31	E512	白変系陶器	K碗	11.6	2.9	4.3	—	7.5	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			鳥之島8号窯式	182	43
643	G31	E512	白変系陶器	K碗	12.1	3.3	4.2	—	11.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			鳥之島3号窯式	183	43
644	G31	E512	白変系陶器	K碗	(12.4)	—	—	—	4.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			—	182	—
645	G31	E512	白変系陶器	KIII	(9.0)	1.2	5.4	—	1.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止磨ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	182	—
646	G31	E512	古瀬戸	天目茶碗	(12.1)	—	—	—	2.3	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		後IV古	182	—
647	G31	E512	白変系陶器	K碗	13.1	3.3	4.3	—	11.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			鳥之島3号窯式	182	43
648	G31	E512	白変系陶器	K碗	12.8	3.1	(4.0)	—	6.5	4.5	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			鳥之島3号窯式	182	43
649	G31	E512	古瀬戸	直壺大II	(36.2)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ	灰釉	工具を使用したナデ	後II期	183	—
650	G31	E512	古瀬戸	擂鉢	—	—	(10.3)	—	—	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	183	—
651	J32	E519	中国磁器	白磁小杯	(7.4)	3.0	(2.5)	—	2.5	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	白磁釉		E群16世紀頃	183	—
652	I32	E519	土師器	Kロクロ皿	(10.4)	2.4	4.8	—	4.0	7.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	183	—
653	H32	E519	土製品	土人形	—	—	—	—	—	—	(内面) 磨ナデ (外面) 磨ナデ			—	183	—
654	I32	E519	瀬戸美濃進房	折縁鉢	(33.5)	7.1	18.5	—	2.8	8.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・緑釉	拭い取り底	進房第1段階	183	43
655	I32	E519	瀬戸美濃進房	折縁鉢蓋II	12.5	2.9	7.4	—	10.5	7.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	緑釉		進房第1段階	183	—
656	D31	E520	白変系陶器	K碗	(12.5)	3.4	2.9	—	2.8	7.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	183	—
657	I32	E520	白変系陶器	K碗	(12.5)	4.0	(4.4)	—	2.8	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			大洞東1号窯式	183	—
658	F31	E520	白変系陶器	K碗	(10.7)	2.1	(4.1)	—	4.0	4.2	(内面) コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	183	—
659	I32	E520	白変系陶器	K碗	(12.2)	2.3	3.6	—	3.6	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	183	—
660	F31	E520	白変系陶器	KIII	7.7	1.6	4.7	—	11.5	12.0	(内面) 回転ナデ・静止磨ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	183	—
661	J31	E520	古瀬戸	天目茶碗	(11.0)	—	—	—	2.3	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		II期後半	183	43
662	—	E520	古瀬戸	天目茶碗	(12.0)	—	—	—	0.7	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		後IV古	183	—
663	—	E520	古瀬戸	天目茶碗	(12.0)	—	—	—	2.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		後IV新	183	—
664	H32	E520	古瀬戸	緑釉小II	10.0	2.4	5.0	—	5.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		後IV古	183	—
665	F31	E520	古瀬戸	緑釉小II	9.5	2.4	4.3	—	6.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		後IV新	183	—
666	G32	E520	古瀬戸	擂鉢	—	—	(11.1)	—	—	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		後IV古	183	—
667	I32	E520	古瀬戸	壺が	(18.7)	10.4	12.0	—	4.5	9.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	彫文・獣足 (3)	後IV新	183	44

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・様式	掲図図版	写真図版
668	—	E520	古瀬戸	加工円盤	—	1.5	4.0	4.6	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉・鉄釉			183	—
669	—	E520	瀬戸美濃大窯	天目茶碗	(11.4)	7.0	(4.8)	—	0.7	4.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		第1段階	183	—
670	I32	E520	瀬戸美濃大窯	天目茶碗	(11.6)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉・鉄釉		第1段階	183	—
671	I32	E520	瀬戸美濃大窯	天目茶碗	(12.0)	5.7	(4.8)	—	1.0	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉・鉄釉		第2段階	183	43
672	F31	E520	瀬戸美濃大窯	天目茶碗	(11.6)	—	—	—	0.7	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		第4段階前	183	—
673	—	E520	瀬戸美濃大窯	天目茶碗	(12.4)	—	—	—	2.1	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		第4段階	183	—
674	I32	E520	瀬戸美濃大窯	志野丸皿	11.7	2.4	6.9	—	11.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	長石釉	重ね焼き痕	第4段階後半	184	—
675	J33	E520	瀬戸美濃大窯	輪花皿	(9.8)	2.0	(5.8)	—	3.8	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		第3段階後期	184	—
676	J32	E520	瀬戸美濃大窯	灯明皿	(11.2)	2.7	(4.6)	—	2.0	5.0	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			第1段階	184	—
677	I33	E520	瀬戸美濃大窯	灯明皿	(9.8)	2.4	(4.2)	—	1.7	5.0	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			第3段階	184	—
678	—	E520	瀬戸美濃大窯	灯明皿	9.9	2.3	4.6	—	7.8	12.0	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	184	—
679	I33	E520	瀬戸美濃大窯	灯明皿	(10.6)	2.1	(8.0)	—	5.0	5.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			第3段階	184	—
680	I33	E520	瀬戸美濃大窯	志野筒向付	(6.5)	7.2	4.7	6.8	3.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	長石釉・鉄釉		第4段階後半	184	44
681	—	E520	瀬戸美濃大窯	擂鉢	—	—	(9.6)	—	—	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	鉄釉	15本2.8cm	第3～4段階	184	—
682	—	E520	瀬戸美濃大窯	擂鉢	(33.0)	—	—	—	1.4	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	12本2.0cm	第3段階	184	—
683	F31	E520	土師器	Kロクロ皿	8.2	1.6	4.3	—	10.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	184	43
684	G32	E520	土師器	Kロクロ皿	7.6	1.7	4.6	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内面煤付着	—	184	—
685	I32	E520	土師器	Kロクロ皿	(10.4)	2.6	6.1	—	5.0	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	184	43
686	I32	E520	瀬戸美濃進房	天目茶碗	(11.8)	7.4	5.0	—	2.5	9.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		進房第1段階	184	—
687	J32	E520	瀬戸美濃進房	天目茶碗	10.9	7.6	4.6	—	7.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		進房第1段階	184	44
688	J32	E520	瀬戸美濃進房	天目茶碗	(12.3)	7.2	4.3	—	5.4	8.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		進房第1段階	184	—
689	J32	E520	瀬戸美濃進房	天目茶碗	(12.2)	—	—	—	1.6	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		進房第1段階	184	—
690	I30	E520	瀬戸美濃進房	天目茶碗	(12.0)	—	—	—	1.8	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		進房第1段階	184	—
691	I32	E520	瀬戸美濃進房	瀬戸天目茶碗	(11.8)	3.6	4.4	12.1	1.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	長石釉・鉄釉		進房第1段階 1630寛永期	184	44
692	F31	E520	瀬戸美濃進房	丸碗	(13.5)	8.3	6.5	—	3.3	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	御深井	進房第1段階	184	—
693	E31	E520	瀬戸美濃進房	丸碗	10.3	6.4	5.1	—	8.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・ナデ 回転ケズリ 削出高台	鉄釉		進房第1段階	184	—
694	I32	E520	瀬戸美濃進房	丸碗	(11.6)	6.9	5.3	—	4.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		進房第1段階	184	—
695	J32	E520	瀬戸美濃進房	丸碗	(12.6)	7.5	4.5	(12.7)	5.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		進房第1段階	184	—
696	J32	E520	瀬戸美濃進房	丸碗	(11.7)	7.8	4.5	—	1.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・削出高台	灰釉		進房第2段階	184	—
697	F31	E520	瀬戸美濃進房	鎬絵碗	(10.7)	7.4	4.6	—	4.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		進房第2段階	184	—
698	F31	E520	瀬戸美濃進房	丸碗	(9.5)	5.3	3.2	—	5.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		進房第3段階	184	—
699	—	E520	瀬戸美濃進房	丸碗	—	—	5.3	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		進房第1段階	184	—
700	I32	E520	瀬戸美濃進房	尾呂茶碗	(12.3)	7.4	5.0	—	4.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉・鉄釉 ウノフ釉		進房第2段階	184	—
701	G32	E520	瀬戸美濃進房	刷毛目碗	13.1	6.4	4.5	—	8.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉	白泥粘土の刷毛目茶碗	進房第3段階	185	45
702	—	E520	瀬戸美濃進房	鉄茶碗	(7.9)	5.8	4.4	—	2.6	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉・鉄釉	長3短12・17を1単位とする回転施文・沈線	進房第3段階	185	45
703	F31	E520	瀬戸美濃進房	銅茶碗	12.7	7.2	4.8	—	7.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		進房第3段階	185	45
704	F31	E520	瀬戸美濃進房	染付碗	9.7	4.5	3.7	—	8.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉		進房第3段階	185	—
705	G32	E520	瀬戸美濃進房	染付碗	10.2	5.4	4.5	—	7.6	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉		進房第3段階	185	45
706	H32	E520	瀬戸美濃進房	染付碗	11.5	5.9	4.8	—	7.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		進房第3段階	185	—
707	F31	E520	瀬戸美濃進房	広東碗	11.6	6.4	(5.1)	—	11.5	1.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉・呉須		進房第3段階	185	45
708	G32	E520	瀬戸美濃進房	染付端反碗	10.1	5.9	4.2	—	8.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉		進房第3段階	185	—
709	F31	E520	瀬戸美濃進房	広東碗	10.2	5.8	4.5	—	7.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉・呉須		進房第3段階	185	45
710	E31	E520	瀬戸美濃進房	箱形湯呑	(8.5)	5.4	2.9	—	3.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	透明釉・呉須	梅花つなぎ	進房第3段階	185	—
711	G31	E520	瀬戸美濃進房	箱形湯呑	6.7	5.9	3.6	—	10.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉・呉須	梅花つなぎ	進房第3段階	185	45
712	G32	E520	瀬戸美濃進房	湯呑	9.7	4.8	(8.1)	—	8.8	8.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	長石釉・鉄釉		進房第1～2段階	185	—
713	I32	E520	瀬戸美濃進房	小杯	(7.2)	5.0	4.3	—	3.4	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		進房第1段階	185	—
714	I32	E520	瀬戸美濃進房	志野丸皿	(11.5)	2.5	6.7	—	5.2	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	長石釉		進房第1段階	185	—
715	I30	E520	瀬戸美濃進房	志野丸皿	(11.2)	2.5	(6.0)	—	3.7	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	長石釉		進房第1段階	185	—
716	H32	E520	瀬戸美濃進房	小杯	8.5	3.8	3.5	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		進房第3段階	185	—
717	J33	E520	瀬戸美濃進房	反皿	(14.7)	3.0	7.3	—	5.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		進房第1段階	185	—
718	G32	E520	瀬戸美濃進房	丸皿	7.8	2.0	4.0	—	7.0	7.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		進房第3段階	185	—
719	G32	E520	瀬戸美濃進房	丸皿	(7.2)	1.3	3.9	—	4.2	6.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		進房第3段階	185	—

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量（cm）				口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
					口径	器高	底径	最大径								
720	J32	E520	瀬戸美濃連房	[illegible]	(15.0)	—	—	—	1.1	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	緑釉		連房第1段階	185	—
721	F31	E520	瀬戸美濃連房	反皿	(15.0)	3.5	6.5	—	4.3	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第1段階	185	44
722	J33	E520	瀬戸美濃連房	志野鉄絵 丸皿	11.4	2.4	6.5	—	11.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	長石釉		連房第1段階	185	44
723	—	E520	瀬戸美濃連房	菊皿	(13.9)	3.9	(7.6)	—	1.8	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉	丸ノミ削ぎ	連房第1段階	185	—
724	F31	E520	瀬戸美濃連房	志野鉄絵皿	(13.0)	3.0	8.1	—	2.9	8.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	長石釉	重ね焼き痕	連房第1段階	185	—
725	G32	E520	瀬戸美濃連房	[illegible]絵輪禿皿	11.8	2.9	5.8	—	6.2	7.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	185	—
726	G32	E520	瀬戸美濃連房	鉄絵深皿	—	—	—	—	7.0	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・錆釉	重ね焼き痕	連房第3段階	186	—
727	E31	E520	瀬戸美濃連房	[illegible]織部 向付蓋	長9.7	1.7	つまみ径 2.4	—	9.0	—	(内面) 布目痕 (外面) タタラ成形 ヘラによる面取り	透明釉・鉄釉 緑釉		連房第3段階	186	45
728	G32	E520	瀬戸美濃連房	染付碗蓋	8.7	2.7	つまみ径 3.8	—	8.0	2.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉		連房第3段階	186	—
729	—	E520	瀬戸美濃連房	擂鉢	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	錆釉		連房第1段階	186	—
730	I32	E520	瀬戸美濃連房	鉢	(14.9)	9.4	9.5	15.8	4.0	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台	飴釉		連房第1～3段階	186	—
731	I32	E520	瀬戸美濃連房	擂鉢	31.3	12.5	(9.1)	—	10.0	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	錆釉	8本3.0cm	連房第1段階	186	44
732	I32	E520	瀬戸美濃連房	擂鉢	(34.4)	—	—	—	1.6	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	錆釉	15本2.5cm	連房第1段階	186	—
733	G31	E520	瀬戸美濃連房	擂鉢	(33.6)	13.2	(12.5)	—	2.3	4.7	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	17本4.3cm	連房第3段階	186	—
734	G32	E520	瀬戸美濃連房	壺	(7.4)	8.2	10.8	14.8	3.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉	御深井	連房第1段階	186	44
735	G32	E520	瀬戸美濃連房	壺の蓋	7.0	2.4	つまみ径 1.4	8.4	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	187	—
736	G32	E520	瀬戸美濃連房	小壺	7.6	8.2	7.2	11.1	8.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	187	44
737	G31	E520	瀬戸美濃連房	双耳壺	6.8	8.3	5.6	9.3	10.6	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第3段階	187	45
738	G32	E520	瀬戸美濃連房	仏餉具	12.5	8.6	8.6	—	8.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板ナデ 回転ケズリ	灰釉		連房第2段階	187	44
739	G32	E520	瀬戸美濃連房	仏餉具	12.9	7.6	6.8	—	7.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	絞り込み痕	連房第2段階	187	44
740	F31	E520	瀬戸美濃連房	筒型花生	(7.6)	—	—	—	5.2	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	錆釉・鉄釉		連房第1段階	187	—
741	F31	E520	瀬戸美濃連房	小瓶	2.2	5.1	2.5	3.5	12.0	12.0	(外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		連房第3段階	187	—
742	I32	E520	瀬戸美濃連房	志野鉄絵鉢	(16.5)	7.9	(12.2)	—	2.5	2.7	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	長石釉		連房第1段階	187	—
743	I33	E520	瀬戸美濃連房	志野鉄絵壺	—	—	7.7	10.5	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	長石釉		連房第1段階	187	44
744	J32	E520	瀬戸美濃連房	捏鉢	(30.2)	15.6	(14.0)	—	5.5	5.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・削出高台	灰釉	拭い取り痕 3ヶ所	連房第3段階	187	—
745	G31	E520	瀬戸美濃連房	土鍋	(17.5)	9.0	7.0	—	3.3	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	錆釉	外面煤付着 拭い取り痕	連房第3段階	187	—
746	G31	E520	瀬戸美濃連房	土鍋	(20.6)	11.1	(8.0)	—	5.0	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	内外面に煤付着	連房第3段階	187	—
747	G31	E520	瀬戸美濃連房	土鍋	21.0	—	—	21.6	9.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	外面に煤付着	連房第3段階	187	45
748	F31	E520	瀬戸美濃連房	土鍋	(22.8)	—	—	—	4.8	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・指ナデ 回転ケズリ	錆釉		連房第3段階	187	—
749	G32	E520	瀬戸美濃連房	土瓶	12.0	13.7	(6.9)	20.4	6.6	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	錆釉	内外面煤付着 拭い取り痕	連房第3段階	188	45
750	J32	E520	瀬戸美濃連房	土瓶	(12.2)	—	—	—	5.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ			連房第3段階	188	—
751	G31	E520	瀬戸美濃連房	土瓶	(9.0)	11.2	(7.6)	14.5	5.5	3.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		連房第3段階	188	—
752	F31	E520	瀬戸美濃連房	鍋蓋	7.8	3.3	つまみ径 1.6	11.0	9.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		連房第3段階	188	—
753	F31	E520	瀬戸美濃連房	灯明皿	6.9	1.4	3.2	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		連房第3段階	188	45
754	F31	E520	瀬戸美濃連房	灯明皿	6.4	1.4	2.1	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		連房第3段階	188	45
755	F31	E520	瀬戸美濃連房	灯明油皿	9.8	1.8	4.0	—	6.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		連房第3段階	188	—
756	G32	E520	瀬戸美濃連房	灯明油皿	9.6	—	—	—	7.2	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉	内外面に煤付着	連房第3段階	188	—
757	G32	E520	瀬戸美濃連房	[illegible]	—	5.0	3.3	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台	飴釉		連房第3段階	188	—
758	F31	E520	瀬戸美濃連房	戸車	長5.6	幅1.3	—	—	6.0	6.0	(内面) 摩擦面痕跡有り (外面) 摩擦面痕跡有り 回転糸切り痕		自然釉	連房第3段階	188	—
759	F31	E520	瓦器	火鉢	(27.8)	—	—	—	3.0	—	(内面) 回転ナデ・ミガキ (外面) 回転ナデ・ミガキ		瓦質5条の沈線	連房第3段階	188	—
760	J32	E520	瀬戸美濃連房	匣鉢	(16.8)	9.4	16.0	—	4.5	3.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転糸切り痕		沈線	—	188	—
761	E31	E520	瀬戸美濃連房	匣鉢	(19.5)	8.5	17.6	19.9	5.6	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			連房第3段階	188	45
762	I32	E520	瀬戸美濃連房	匣鉢	(19.2)	8.9	(15.4)	—	5.2	5.7	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			連房第1段階	188	45
763	J33	E520	瀬戸美濃連房	合子の蓋	4.9	—	7.0	—	10.0	10.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・削出高台	灰釉		連房第1段階	188	—
764	G32	E520	瀬戸美濃連房	合子	6.2	3.4	4.0	7.2	6.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第3段階	188	—
765	G32	E520	瀬戸美濃連房	合子	(10.4)	6.6	6.6	11.2	2.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第3段階	188	45
766	F31	E520	常滑（近世）	カマド (移動式)	25.6	20.5	(19.5)	33.0	8.0	2.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ		風炉と同じ 上に穴タイプ	—	188	—
767	H32	E521	土師器	非ロクロ皿	(9.8)	2.0	(5.0)	—	3.6	4.0	(内面) 静止指ナデ (外面) 静止指ナデ			ⅡC	189	—
768	H32	E521	土師器	非ロクロ皿	(8.1)	1.7	(3.3)	—	2.5	3.9	(内面) ナデ (外面) ナデ			ⅡC	189	—
769	I33	E521	古瀬戸	天目茶碗	(11.7)	6.5	4.6	—	4.0	11.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台			後Ⅳ古	189	—
770	F32	E521	古瀬戸	天目茶碗	(11.1)	—	—	—	2.3	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		後Ⅳ古	189	—
771	G32	E521	古瀬戸	緑釉小皿	(9.4)	2.7	4.0	—	5.0	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	鉄釉・緑釉		後Ⅳ新	189	—
772	I33	E521	古瀬戸	擂鉢	—	—	9.4	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	錆釉	10本2.5cm	後Ⅳ期	189	—
773	G33	E521	瀬戸美濃大窯	灯明皿	(10.4)	2.2	4.6	—	2.7	8.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	鉄釉		第1段階	189	46
774	H32	E521	土師器	Kロクロ皿	8.1	1.7	4.1	—	7.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		煤付着	—	189	46
775	H32	E521	瀬戸美濃大窯	丸皿	(10.0)	2.0	4.6	—	2.8	7.9	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	印花文	第1段階	189	—
776	G32	E521	瀬戸美濃大窯	端反皿	8.5	2.0	4.7	—	8.0	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉	印花文	第1段階後半	189	46
777	H33	E521	土師器	Kロクロ皿	7.1	1.5	3.6	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	189	—

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
778	J35	E521	瀬戸美濃連房	小杯	6.0	3.8	3.2	—	11.0	11.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	189	—
779	F32	E521	瀬戸美濃連房	丸碗	(12.8)	6.1	4.0	—	1.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・削出高台	鉄釉		連房第3段階	189	—
780	F32	E521	瀬戸美濃連房	復興織部蓋	(19.4)	3.8	つまみ径 7.5	—	2.5	11.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	長石釉・鉄釉 緑釉	志野織部	連房第3段階	189	46
781	I33	E521	瀬戸美濃連房	腰錆茶碗	(10.5)	6.8	4.8	—	3.0	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	189	—
782	J33	E521	瀬戸美濃連房	端反皿	(14.4)	3.2	8.2	—	2.0	11.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第1段階	189	—
783	F32	E521	瀬戸美濃連房	染付碗	(10.6)	5.4	3.6	—	1.8	10.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉		連房第3段階	189	—
784	G33	E521	瀬戸美濃連房	染付小杯	6.7	4.8	2.8	—	8.0	8.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉		連房第3段階	189	—
785	G33	E521	瀬戸美濃連房	型打皿	(8.0)	2.3	4.0	—	2.4	5.4		白磁釉	型打ち	連房第3段階	189	46
786	H33	E521	瀬戸美濃連房	型打皿	(8.4)	2.2	3.6	—	5.0	8.0	(外面) 回転ナデ	透明釉・呉須	型打ち	連房第3段階	189	46
787	K33	E521	瀬戸美濃連房	折縁鉄絵皿	13.4	2.9	7.3	—	8.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	御深井釉		連房第1段階	189	46
788	K33	E521	瀬戸美濃連房	赤織部向付	—	3.0	—	—	—	—		長石釉・鉄釉	タタラ型打ち 白化粧土	連房第1段階	189	—
789	I33	E521	瀬戸美濃連房	練鉢	35.6	20.0	17.7	—	11.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉	拭い取り痕5ヶ所	連房第3段階	190	46
790	H33	E521	瀬戸美濃連房	仏飯具	(10.7)	4.8	6.4	—	5.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	絞り込み痕	連房第2段階	190	46
791	I33	E521	瀬戸美濃連房	鬢盥	長12.9	4.6	短5.4	13.3	8.0	11.0		灰釉	側面貼付	連房第2段階	190	46
792	F32	E521	瀬戸美濃連房	片口	(16.0)	—	—	18.2	4.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		連房第1段階	190	—
793	H33	E521	瀬戸美濃連房	植木鉢	(16.2)	—	—	—	2.2	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		連房第3段階	190	—
794	I33	E521	瀬戸美濃連房	十能	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ (外面) ナデ・回転糸切り痕	鉄釉		連房第3段階	190	—
795	G33	E521	常滑（近世）	火鉢	(34.8)	12.6	22.7	—	4.5	7.0	(内面) 回転ナデ・離砂痕 (外面) 回転ナデ			19世紀前半	190	—
796	H33	E521	瓦器	瓦質鍋	(30.0)	—	—	—	1.0	—	(内面) ナデ・指ナデ (外面) ナデ・指頭痕			—	190	—
797	F33	E521	瀬戸美濃連房	灯明皿	(10.0)	2.0	(5.3)	—	1.6	4.3	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			連房第1段階	190	—
798	G33	E521	瀬戸美濃連房	土鍋	(14.2)	4.6	6.6	14.4	4.0	6.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	御深井釉	外面煤付着	連房第3段階	190	—
799	J35	E543	古瀬戸	天目茶碗	(12.4)	6.8	4.6	—	4.6	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		後Ⅲ期	190	—
800	I35	E538	白瓷系陶器	A片口鉢	—	—	(13.0)	—	—	2.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 貼付高台		内外面煤付着	第6〜7型式	190	—
801	J35	E545	白瓷系陶器	K碗	(13.7)	4.7	4.8	13.9	5.9	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	190	—
802	G32	E569	白瓷系陶器	K皿	7.4	2.0	3.6	7.6	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内外面煤付着	浅間窯下1号窯式	191	—
803	H30	E569	瀬戸美濃連房	小杯	(8.1)	3.7	3.0	—	5.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 回転糸切り痕	灰釉		連房第3段階	191	—
804	G31	E569	瀬戸美濃大窯	耳付水注	4.5	5.8	5.8	10.2	6.5	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転ケズリ 回転糸切り痕	鉄釉		第3〜4段階	191	46
805	G31	E569	瀬戸美濃連房	広東碗	11.8	6.8	6.4	—	8.5	11.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須		連房第3段階	191	46
806	H29	E569	瀬戸美濃連房	広東碗	(11.3)	6.6	(6.1)	—	2.0	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須		連房第3段階	191	46
807	G31	E569	瀬戸美濃連房	筒型湯呑	7.4	5.6	3.3	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須	菊花つなぎ	連房第3段階	191	46
808	H29	E569	瀬戸美濃連房	染付小瓶	—	—	2.5	3.7	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	長石釉・呉須		連房第3段階	191	—
809	G31	E569	瀬戸美濃連房	鬢盥	長12.8	4.0	短4.2	—	—	—	(内面) 指ナデ (外面) 指ナデ	灰釉・鉄釉		連房第2段階	191	46
810	H30	E569	瀬戸美濃連房	染付深皿	15.3	6.6	9.2	—	6.8	9.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	191	46
811	H30	E569	瀬戸美濃連房	織部蓋	14.0	2.7	つまみ径 5.5	—	8.7	7.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	長石釉 鉄釉・緑釉		連房第3段階	191	46
812	H30	E569	瀬戸美濃連房	染付小杯	7.0	4.7	3.2	—	6.0	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	長石釉・呉須		連房第3段階	191	—
813	H29	E569	瀬戸美濃連房	片口	(21.1)	11.0	7.6	—	3.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台			連房第3段階	191	—
814	I39	E650	瀬戸美濃連房	掛け分け 向付	(13.5)	3.8	7.7	—	5.0	12.0	(内面) ナデ (外面) ナデ	灰釉・錆釉	三足	連房第1段階	191	—
815	H40	E653	常滑（中世）	甕	—	—	—	—	—	1.0	(内面) ナデ (外面) ヘラケズリ			13〜14世紀	191	—
816	G40	E655	白瓷系陶器	K碗	11.5	3.0	3.3	—	8.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	191	47
817	H40	E655	古瀬戸	天目茶碗	(11.7)	—	—	—	2.6	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		後Ⅲ期	191	47
818	G41	E655	古瀬戸	天目茶碗	(12.0)	—	—	—	2.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		後Ⅳ古	191	47
819	I41	E656	瀬戸美濃大窯	天目茶碗	(12.2)	—	—	—	1.2	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		第2段階	191	—
820	D29	E754	白瓷系陶器	K皿	8.3	1.0	5.8	—	11.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	191	—
821	E31	E762	白瓷系陶器	K碗	(11.1)	2.6	4.0	—	2.1	7.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		墨書	生田2号窯式	191	—
822	K36	E769	白瓷系陶器	K皿	8.8	1.3	4.4	8.9	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		自然釉	明和1号窯式以降	191	47
823	K36	E769	白瓷系陶器	K皿	7.7	1.2	4.6	7.8	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	191	—
824	K36	E769	白瓷系陶器	K皿	8.6	1.5	4.8	8.8	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・静止指ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	191	—
825	K36	E769	瀬戸美濃連房	丸皿	12.2	2.9	6.8	—	12.0	8.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第1段階	191	—
826	K36	E769	白瓷系陶器	K碗	(12.1)	5.1	(5.0)	—	2.8	1.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台			大畑大洞4号窯式	191	—
827	K36	E769	古瀬戸	天目茶碗	(12.4)	—	—	—	3.3	—	(内面) 回転ナデ・回転ケズリ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉・錆釉		後Ⅲ期	191	47
828	K36	E769	瀬戸美濃大窯	茶入れ	(6.2)	—	—	8.4	3.1	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		第3段階	191	—
829	K35	E795	白瓷系陶器	K碗	—	—	5.0	—	—	6.1	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			窯洞1号窯式	192	—
830	K36	E806	白瓷系陶器	K皿	(8.0)	8.2	4.5	—	2.4	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板ナデ 回転糸切り痕		墨書	明和1号窯式以降	192	—
831	L36	E826	白瓷系陶器	K皿	7.8	1.0	5.4	—	10.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止指ナデ 板目・回転糸切り痕		墨書	明和1号窯式以降	192	—
832	L36	E827	白瓷系陶器	K皿	(8.8)	1.1	(5.2)	—	4.5	5.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		墨書	明和1号窯式以降	192	—
833	K35	E814	古瀬戸	擂鉢	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	錆釉		後Ⅳ古	192	—
834	L36	E822	白瓷系陶器	K碗	(11.2)	3.0	(2.3)	—	2.9	2.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台			脇之島3号窯式	192	—

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量（cm）				口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
					口径	器高	底径	最大径								
835	M36	E867	白瓷系陶器	K碗	13.6	5.9	(4.4)	—	7.0	1.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	192	—
836	K36	E814	白瓷系陶器	K碗	(13.0)	5.0	4.6	—	3.5	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止指ナデ 指ナデ・回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	192	—
837	L36	E867	白瓷系陶器	K碗	(13.1)	5.6	5.6	—	1.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			白土原1号窯式	192	—
838	D30	E938	白瓷系陶器	K碗	—	—	4.6	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・指ナデ 回転糸切り痕 貼付高台		自然釉	明和1号窯式	192	—
839	G30	E966	白瓷系陶器	K碗	(12.0)	4.4	(3.3)	—	3.3	2.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台			大洞東1号窯式	192	—
840	L36	E858	白瓷系陶器	K碗	(14.3)	3.0	(5.8)	—	1.5	2.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	192	—
841	E30	E975	中国磁器	青磁碗	—	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	青磁釉	龍泉	—	192	—
842	F29	E999	白瓷系陶器	K碗	13.1	3.1	(3.5)	—	6.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	192	—
843	L37	E969	白瓷系陶器	K碗	—	—	(6.0)	—	—	4.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・指ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	192	—
844	L36	E1014	瀬戸美濃連房	片口	(21.2)	8.8	10.6	—	1.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第1段階	192	—
845	F30	E1035	白瓷系陶器	K碗	—	—	(3.0)	—	—	5.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台		重ね焼き痕	大洞東1号窯式	192	—
846	K37	E1014	白瓷系陶器	K碗	(12.2)	3.0	3.4	—	3.0	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	192	—
847	L38	E1031	白瓷系陶器	K碗	(13.2)	3.7	(4.4)	—	3.3	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	192	—
848	F30	E1035	古瀬戸	緑釉小皿	(11.0)	2.7	(5.8)	—	2.0	3.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内面煤付着	後IV新	192	—
849	H32	E1075	土師器	赤ロクロ皿	7.7	1.6	2.0	—	12.0	12.0	(内面) 指ナデ (外面) 指ナデ・指頭圧痕			IID	192	—
850	I32	E1075	白瓷系陶器	K碗	10.5	2.9	4.3	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	192	—
851	H32	E1075	古瀬戸	天目茶碗	(12.0)	—	—	—	1.3	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		後IV新	192	—
852	H32	E1075	土師器	Kロクロ皿	11.0	2.7	5.0	—	3.7	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内面に煤付着	—	192	—
853	H32	E1075	瀬戸美濃連房	丸皿	(9.0)	1.9	(4.5)	—	4.8	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・蓄情痕	鉄釉		連房第2段階	192	—
854	H32	E1075	瀬戸美濃連房	鉄絵碗	(14.2)	—	—	—	0.8	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	長石釉		連房第1段階	192	—
855	H32	E1075	瀬戸美濃連房	丸皿	12.5	2.9	7.2	—	11.7	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	重ね焼き痕	連房第1段階	192	—
856	I32	E1075	瀬戸美濃連房	反皿	(12.0)	2.7	5.8	—	5.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第1段階	192	—
857	H32	E1075	瀬戸美濃連房	菊皿	14.3	3.7	6.4	—	10.0	12.0	(外面) 削出高台	灰釉・銅緑釉		連房第1段階	192	—
858	H32	E1075	瀬戸美濃連房	菊皿	12.7	3.2	5.7	—	9.7	12.0	(外面) 削出高台	灰釉・銅緑釉		連房第2段階	192	47
859	H32	E1075	瀬戸美濃大窯	擂鉢	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	錆釉		第1段階	192	—
860	H32	E1075	瀬戸美濃連房	尾呂茶碗	(11.6)	7.1	6.0	—	4.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	飴釉・ウノフ釉		連房第2段階	192	—
861	H32	E1075	瀬戸美濃連房	折縁鉄絵皿	13.2	2.9	6.6	—	8.4	11.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第1段階	192	47
862	H32	E1075	瀬戸美濃連房	織部向付	長12.5	(3.6)	短11.8	—	6.8	5.9		長石釉・鉄釉	タタラ型打ち 半環足四足	連房第1段階	192	47
863	J31	E1078	古瀬戸	天目茶碗	(11.9)	7.0	3.1	—	4.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉・錆釉		後II期	193	—
864	J31	E1078	瀬戸美濃連房	天目茶碗	(12.1)	7.6	4.0	—	1.0	7.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		連房第1段階	193	—
865	J31	E1078	瀬戸美濃連房	染付碗	9.7	5.0	4.2	—	6.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	透明釉		連房第3段階	193	—
866	J31	E1078	瀬戸美濃連房	蕎麦猪口	(7.4)	5.6	(4.3)	—	1.0	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		連房第3段階	193	—
867	F28	E1099	瀬戸美濃連房	尾呂茶碗	(11.3)	6.7	4.6	—	2.2	6.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・飴釉 ウノフ釉		連房第2段階	193	—
868	F28	E1099	瀬戸美濃連房	丸碗	(10.5)	7.2	5.3	—	4.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第1段階	193	—
869	F28	E1099	古瀬戸	緑釉小皿	(10.2)	2.5	4.9	—	5.3	6.1	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		後II期	193	—
870	F28	E1099	瀬戸美濃連房	柄茶碗	(11.3)	6.0	4.2	—	2.3	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	193	—
871	F28	E1099	瀬戸美濃連房	広東碗	(11.2)	6.5	6.0	—	4.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉		連房第3段階	193	47
872	F28	E1099	瀬戸美濃連房	染付碗	(12.0)	6.4	4.2	—	2.1	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	透明釉		連房第3段階	193	—
873	F28	E1099	瀬戸美濃連房	広東碗	10.4	6.5	5.6	—	6.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	透明釉・呉須		連房第3段階	193	47
874	F28	E1099	瀬戸美濃連房	広東碗	(10.4)	6.1	5.5	—	1.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・呉須		連房第3段階	193	—
875	F28	E1099	瀬戸美濃連房	小杯	6.5	3.3	3.2	—	11.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	193	—
876	F28	E1099	瀬戸美濃連房	型打皿	(9.0)	2.3	4.3	—	5.0	12.0	(内面) 指ナデ (外面) 指ナデ	白磁釉	型打ち白磁生焼け	連房第3段階	193	—
877	F28	E1099	瀬戸美濃連房	染付皿	10.7	2.7	5.7	—	12.0	12.0	(外面) 回転ナデ	灰釉		連房第3段階	193	—
878	F28	E1099	瀬戸美濃連房	染付深皿	(13.1)	3.4	8.4	—	5.1	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉	輪トチン痕	連房第3段階	193	—
879	F28	E1099	瀬戸美濃連房	擂鉢	(33.5)	15.8	10.2	—	5.8	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	錆釉	15本3.8cm	連房第1段階	193	—
880	F28	E1099	瀬戸美濃連房	徳利	3.9	—	—	11.4	12.0	—	(外面) 回転ナデ	鉄釉	絞り込み痕	連房第2段階	193	47
881	F28	E1099	瀬戸美濃連房	練鉢	(35.4)	19.5	17.4	—	4.0	10.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・緑釉		連房第3段階	194	47
882	F28	E1099	瀬戸美濃連房	植木鉢	30.6	15.2	18.6	—	7.0	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	長石釉		連房第3段階	194	47
883	F28	E1099	瀬戸美濃連房	灯明皿	7.1	2.7	3.3	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		連房第3段階	194	—
884	F28	E1099	瀬戸美濃連房	灯明皿	8.2	1.4	4.7	—	9.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		連房第2段階	194	—
885	F28	E1099	瀬戸美濃連房	灯明台	(7.4)	5.1	4.8	—	1.0	10.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・ケズリ	灰釉		連房第3段階	194	—
886	F28	E1099	瀬戸美濃連房	土瓶	(9.6)	12.6	8.1	17.2	4.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉・呉須	外面煤付着	連房第3段階	194	—

掲載番号	グリッド	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
887	F28	E1099	瀬戸美濃連房	胴丸型中壺	33.0	29.4	20.0	35.6	7.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台	灰釉・柿釉	7個の目跡 拭い取り痕	連房第3段階	194	48
888	F27	E1100	白瓷系陶器	K碗	12.1	3.0	4.6	—	6.0	6.0	(内面) コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	194	—
889	H27	E1100	古瀬戸	天目茶碗	(12.2)	—	—	—	1.4	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	飴釉		後IV古	194	48
890	E27	E1100	古瀬戸	鉢	(24.3)	15.8	9.3	—	2.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 回転糸切り痕	錆釉		後IV期	194	48
891	F28	E1100	瀬戸美濃大窯	擂鉢	(32.0)	—	—	—	1.6	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	12本3.2cm	第4段階	194	48
892	F27	E1100	瀬戸美濃大窯	灯明皿	(10.6)	3.0	(4.6)	—	1.5	3.2	(内面) コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			第3段階	194	48
893	G27	E1100	土師器	Aロクロ皿	9.5	2.4	4.7	—	9.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	194	48
894	E27	E1100	土師器	Kロクロ皿	(11.9)	2.4	6.4	—	2.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	194	48
895	H27	E1100	瀬戸美濃連房	端反碗	9.6	5.0	3.8	—	6.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第3段階	195	—
896	G27	E1100	瀬戸美濃連房	広東碗	11.7	6.8	(5.2)	—	3.0	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉・呉須		連房第3段階	195	48
897	H27	E1100	瀬戸美濃連房	広東碗	(10.6)	5.7	(5.4)	—	4.0	1.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須		連房第3段階	195	—
898	H27	E1100	瀬戸美濃連房	天目茶碗	(12.0)	—	—	—	2.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		連房第1段階	195	48
899	H27	E1100	瀬戸美濃連房	丸碗	11.2	7.4	4.9	—	6.2	11.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第1段階	195	48
900	E27	E1100	瀬戸美濃連房	丸皿	9.2	2.0	5.1	—	7.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ	灰釉		連房第1段階	195	—
901	C27	E1100	瀬戸美濃連房	擂鉢	—	—	(9.5)	—	—	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ 回転糸切り痕	錆釉	13本	連房第1段階	195	—
902	D27	E1100	瀬戸美濃連房	段皿	11.1	3.7	8.5	—	6.4	8.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		連房第2段階	195	48
903	I27	E1100	瀬戸美濃連房	鉢	—	—	—	—	0.6	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉	内面3条の沈線 外面2条の沈線	連房第1段階	195	—
904	G28	E1117	瀬戸美濃連房	擂鉢	(32.0)	—	—	—	1.1	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		連房第3段階	195	—
905	L36	E1123	白瓷系陶器	K碗	12.2	3.0	4.4	—	9.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		墨書	脇之島3号窯式	195	—
906	G28	E1135	瀬戸美濃連房	志野染付 丸碗	11.1	6.2	4.6	—	7.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	長石釉		連房第3段階	195	—
907	G28	E1135	瀬戸美濃連房	丸碗	—	—	4.2	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉・呉須		連房第3段階	195	—
908	D27	E1200	瀬戸美濃連房	鉄絵皿	(11.2)	2.4	(6.2)	—	2.8	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	長石釉		連房第1段階	195	—
909	D26	E1200	瀬戸美濃連房	湯呑	7.1	4.3	3.0	—	10.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	195	—
910	K36	E1225	白瓷系陶器	K皿	8.1	1.3	4.3	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	195	—
911	F27	E1222 (C665)	瀬戸美濃連房	腰錆茶碗	(10.2)	6.5	4.5	—	1.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・錆釉		連房第3段階	195	—
912	G28	E1224	瀬戸美濃連房	丸碗	(11.0)	7.3	4.5	—	4.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第1段階	195	—
913	K36	E1221	瀬戸美濃連房	丸皿	12.0	3.1	6.9	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台		トチン痕3ヶ所	連房第1段階	195	—
914	D26	E1200	白瓷系陶器	K皿	8.8	2.1	4.8	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内外面煤付着	白土原1号窯式	195	—
915	D27	E1200	瀬戸美濃連房	灯明油皿	6.9	2.0	3.4	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	195	—
916	K36	E1237	白瓷系陶器	K碗	(13.7)	4.5	4.9	—	4.5	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	195	—
917	K36	E1227	白瓷系陶器	K碗	(15.0)	4.5	(5.0)	—	1.0	3.2	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	195	—
918	H30	E1231	瀬戸美濃大窯	丸碗	(10.0)	—	—	—	4.1	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	錆釉		第1段階	195	—
919	H26	C2	瀬戸美濃連房	広東碗	10.9	6.3	5.4	—	9.0	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須		連房第3段階	196	50
920	H26	C2	瀬戸美濃連房	合子	7.1	3.9	4.6	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第2段階	196	50
921	H26	C2	瀬戸美濃連房	瓶掛	(13.8)	11.4	11.6	18.7	5.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄錆釉	墨書	連房第3段階	196	50
922	F13	C7	常滑(中世)	甕	(39.0)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			第6A型式	196	—
923	F16	C27	白瓷系陶器	K皿	—	—	4.2	—	—	7.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		墨書	明和1号窯式以降	196	—
924	F15	C32	白瓷系陶器	K碗	14.4	5.2	5.6	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	196	—
925	F16	C38	白瓷系陶器	K碗	—	—	5.0	—	—	6.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・ヘラナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	196	—
926	F16	C38	中国磁器	青磁碗	(15.0)	—	—	—	1.2	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ		鎬蓮弁文 龍泉	13世紀後半	196	50
927	F16	C40	常滑(中世)	甕	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ・横ナデ 叩き目 (外面) 回転ナデ		押印文	第5~6A型式	196	—
928	F16	C41	古瀬戸	折縁深皿	(22.0)	6.4	11.0	—	4.3	12.0	(内面) 回転ケズリ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉	トチン痕4ヶ所	中IV期	196	50
929	F16	C59	白瓷系陶器	K碗	—	—	5.0	—	—	7.1	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台		内面に自然釉	明和1号窯式	196	—
930	F17	C63	白瓷系陶器	K碗	(14.0)	4.5	(5.1)	—	1.8	1.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	196	—
931	F14	C72	古瀬戸	縁釉小皿	(11.5)	2.7	(5.7)	—	3.3	5.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		後II期	196	50
932	G18	C84	白瓷系陶器	K皿	8.2	1.4	5.3	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台		墨書	明和1号窯式以降	196	—
933	E18	C85	白瓷系陶器	K片口鉢	(29.2)	—	—	—	1.6	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			第7型式	196	—
934	G19	C117	白瓷系陶器	K碗	(14.2)	5.8	4.8	—	2.0	6.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	196	—
935	G20	C198	常滑(中世)	甕	(38.9)	—	—	—	0.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		第5型式	196	—
936	G20	C200	白瓷系陶器	K碗	—	—	(5.3)	—	—	2.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	196	—

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
937	G20	C200	白瓷系陶器	K片口鉢	(28.0)	—	—	—	0.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			第6型式	196	—
938	G20	C198	白瓷系陶器	K碗	—	—	(4.2)	—	—	10.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	196	—
939	G21	C222	白瓷系陶器	K皿	(8.0)	1.0	(5.6)	—	3.4	4.2	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	196	—
940	D23	C474	白瓷系陶器	K碗	(12.2)	3.5	(3.7)	—	3.5	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	197	50
941	H25	C474	白瓷系陶器	K皿	7.8	1.2	5.0	—	11.3	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	197	50
942	H25	C474	瀬戸美濃連房	柳茶碗	(12.3)	5.1	3.6	—	2.6	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉・透明釉		連房第3段階	197	—
943	H26	C474	瀬戸美濃連房	柳箱型湯呑	(8.0)	5.8	4.4	—	2.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	197	—
944	H26	C474	瀬戸美濃連房	鉢	19.4	11.8	(11.2)	—	6.7	3.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉・飴釉	三足	連房第3段階	197	—
945	H26	C474	瀬戸美濃連房	土鍋	20.2	9.7	7.5	21.2	8.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉	外面煤付着	連房第3段階	197	—
946	H25	C474	瀬戸美濃連房	香炉	10.1	5.7	7.2	—	8.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉	三足	連房第2段階	197	50
947	H25	C474	瀬戸美濃連房	仏餉具	(10.3)	5.0	6.3	—	3.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		連房第2段階	197	50
948	H25	C474	瀬戸美濃連房	掛け花生	8.8	18.2	8.8	10.5	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ・縦のケズリ	灰釉		連房第1段階	197	50
949	H26	C474	常滑(中世)	甕	(42.0)	—	—	—	2.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			第6B型式	197	50
950	G24	C475	白瓷系陶器	K碗	(14.2)	5.8	5.4	—	4.5	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	197	—
951	G24	C475	白瓷系陶器	K碗	13.4	5.3	(5.2)	—	8.5	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	197	—
952	E24	C475	白瓷系陶器	K碗	(11.8)	3.3	3.1	—	5.1	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			大洞東1号窯式	197	—
953	D23	C475	白瓷系陶器	K皿	8.5	1.0	6.0	—	9.8	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	197	—
954	H25	C475	土師器	Kロクロ皿	7.2	2.1	3.5	—	10.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	197	51
955	H25	C475	中国磁器	青磁碗	(13.9)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ		雷文帯・蓮弁	C群・15世紀	197	51
956	G24	C475	瀬戸美濃連房	丸碗	(10.8)	7.5	5.6	—	5.0	10.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第1段階	197	—
957	G24	C475	常滑(中世)	片口鉢	(35.2)	12.8	(18.0)	35.6	1.2	4.0	(内面) 横ナデ (外面) ナデ・指頭痕			II類第6B~7型式	197	51
958	I26	C475	瀬戸美濃連房	丸碗	10.1	6.3	3.8	—	10.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・緑釉		連房第2段階	197	51
959	F24	C475	瀬戸美濃連房	丸碗	(9.5)	6.2	4.0	—	4.3	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第2段階	197	—
960	I25	C475	瀬戸美濃連房	丸碗	12.1	6.5	4.3	—	6.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 回転糸切り痕 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	197	52
961	I26	C475	瀬戸美濃連房	丸碗	(9.0)	6.2	3.1	—	2.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	197	—
962	I26	C475	瀬戸美濃連房	丸碗	(9.4)	5.3	3.4	9.8	5.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	197	—
963	H25	C475	瀬戸美濃連房	鉄絵丸碗	(9.5)	5.0	3.5	—	2.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	197	—
964	I26	C475	瀬戸美濃連房	大碗	16.3	4.9	6.8	—	8.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	淡緑釉		連房第2~3段階	198	51
965	F24	C475	瀬戸美濃連房	腰錆茶碗	(10.1)	6.6	4.5	—	2.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・コテナデ 回転ケズリ・削出高台	灰釉・錆釉	3条の沈線	連房第2段階	198	51
966	E24	C475	瀬戸美濃連房	鉄絵碗	(10.1)	6.1	4.1	—	3.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須		連房第2段階	198	—
967	I25	C475	瀬戸美濃連房	鎧茶碗	(8.2)	6.6	4.6	—	3.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉・錆釉	回転施文	連房第3段階	198	52
968	I26	C475	瀬戸美濃連房	柳茶碗	12.0	5.4	3.8	—	7.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	198	52
969	H25	C475	瀬戸美濃連房	柳茶碗	(13.0)	6.0	3.4	—	2.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	198	—
970	I26	C475	瀬戸美濃連房	柳茶碗	12.4	5.4	4.4	—	7.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	198	—
971	H25	C475	瀬戸美濃連房	柳茶碗	(12.8)	5.9	4.0	—	5.0	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	198	—
972	I26	C475	瀬戸美濃連房	染付碗	10.0	5.1	4.4	—	6.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第3段階	198	52
973	E24	C475	瀬戸美濃連房	染付碗	(11.0)	5.0	3.7	—	3.6	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉	13本4.4cm	連房第3段階	198	—
974	H25	C475	瀬戸美濃連房	広東碗	(10.6)	5.9	(5.6)	—	5.0	1.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・呉須		連房第3段階	198	—
975	I26	C475	瀬戸美濃連房	広東碗	11.6	5.6	5.9	—	8.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	透明釉・呉須		連房第3段階	198	53
976	H25	C475	瀬戸美濃連房	筒形湯呑	(7.0)	5.1	3.2	—	2.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	透明釉・呉須		連房第3段階	198	—
977	D23	C475	瀬戸美濃連房	染付碗	(11.1)	5.2	3.7	—	5.3	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	長石釉		連房第3段階	198	—
978	I26	C475	瀬戸美濃連房	腰錆湯呑	(9.4)	5.6	4.7	—	3.7	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉	4条の沈線	連房第3段階	198	—
979	D23	C475	瀬戸美濃連房	湯呑	(9.6)	4.8	4.8	—	2.1	7.7	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		連房第1段階	198	—
980	H25	C475	瀬戸美濃連房	丸皿	7.6	1.5	3.0	—	6.0	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		連房第3段階	198	—
981	F24	C475	瀬戸美濃連房	丸皿	(12.3)	5.9	7.6	—	3.8	8.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	長石釉		連房第2段階	198	—
982	D23	C475	瀬戸美濃連房	染付碗蓋	9.8	2.7	つまみ径 3.7	—	7.6	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉		連房第3段階	198	—
983	F24	C475	瀬戸美濃連房	鉄絵皿	(12.6)	5.8	(8.0)	—	5.5	5.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	198	51
984	I26	C475	瀬戸美濃連房	鉄絵皿	(12.6)	3.5	7.0	—	4.7	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	198	51
985	I26	C475	瀬戸美濃連房	鉄絵皿	(17.6)	3.5	(10.0)	—	3.5	5.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・呉須		連房第2段階	198	—
986	I26	C475	瀬戸美濃連房	鉄絵皿	12.0	2.9	6.2	—	8.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 回転糸切り痕 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	198	51

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
987	F24	C475	瀬戸美濃連房	折縁鉄絵鉢	(35.6)	9.0	17.0	—	2.2	9.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第1段階	199	51
988	H25	C475	瀬戸美濃連房	花瓶	—	—	(8.7)	9.0	—	5.0	(内面) 回転ナデ・回転ケズリ (外面) 回転ケズリ	鉄釉	波状沈線3条	連房第1段階	199	51
989	G24	C475	瀬戸美濃連房	仏花瓶	—	—	6.6	6.0	—	9.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板ナデ	灰釉・鉄釉	掛け分け	連房第2段階	199	—
990	G24	C475	瀬戸美濃連房	燭台	—	—	6.3	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・指頭痕 回転糸切り痕	灰釉・鉄釉		連房第1段階	199	51
991	I26	C475	瀬戸美濃連房	瓶蓋	—	3.9	短3.5	—	—	—	(内面) ナデ (外面) ナデ	灰釉・鉄釉	側面貼付	連房第2段階	199	—
992	E24	C475	瀬戸美濃連房	染付小瓶	—	—	(4.2)	6.3	—	1.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		連房第3段階	199	52
993	F24	C475	瀬戸美濃連房	擂鉢	33.9	14.8	12.6	—	7.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 回転糸切り痕	錆釉	13本	連房第2段階	199	51
994	D23	C475	瀬戸美濃連房	糸目土瓶蓋	7.2	2.5	つまみ径 1.7	10.0	7.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉	回転糸目24本	連房第3段階	199	—
995	G24	C475	瀬戸美濃連房	片口	(16.2)	7.5	7.8	—	2.0	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	トチン痕3ヶ所	連房第3段階	199	—
996	I26	C475	瀬戸美濃連房	片口	24.5	13.3	11.6	—	6.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	拭い取り痕3ヶ所	連房第2段階	199	51
997	H25	C475	瀬戸美濃連房	鉢	(18.9)	8.8	(10.8)	—	4.0	3.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・緑釉		連房第2段階	199	51
998	E24	C475	瀬戸美濃連房	土鍋	(15.8)	4.8	8.0	17.8	3.6	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	長石釉 御深井釉・鉄釉	外面煤付着 取手貼付	連房第3段階	199	—
999	F24	C475	瀬戸美濃連房	片口	(19.7)	11.4	9.8	22.2	4.3	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	トチン痕3ヶ所	連房第3段階	199	52
1000	E33	C475	瀬戸美濃連房	カンテラ	4.3	2.4	2.4	—	11.5	8.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台	灰釉		連房第3段階	200	53
1001	F24	C475	肥前	染付皿	(10.2)	2.9	5.8	—	3.9	10.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	透明釉		19世紀前半	200	52
1002	G24	C475	常滑(近世)	角型火鉢	—	—	—	—	—	—	(内面) 板造り (外面) 板造り			19世紀	200	54
1003	I26	C475	肥前	仏飯具	7.3	6.0	4.2	—	6.7	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	透明釉・呉須		19世紀前半	200	52
1004	E23	C475	瓦	軒桟瓦	—	—	—	—	—	—			型形成	連房第3段階	200	—
1005	E24	C477	土師器	非ロクロ皿	(13.2)	1.8	(4.9)	—	4.0	4.0	(内面) 指ナデ (外面) 指ナデ・指頭痕			IId	200	—
1006	D24	C477	白瓷系陶器	K皿	8.3	1.9	5.1	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・指ナデ (外面) 回転ナデ・指ナデ 板目・回転糸切り痕			白土原1号窯式	200	—
1007	E24	C477	白瓷系陶器	K碗	—	—	(5.0)	—	—	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			白土原1号窯式	200	—
1008	F25	C478	白瓷系陶器	K陶丸	2.0	—	—	—	12.0	—	(外面) 指頭痕			—	200	—
1009	F25	C478	瀬戸美濃連房	丸皿	(11.6)	2.1	6.3	—	1.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	重ね焼き痕	連房第2段階	200	—
1010	F25	C478	瀬戸美濃連房	小杯	(7.7)	4.0	3.2	—	5.3	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第2段階	200	—
1011	F25	C478	瀬戸美濃連房	香炉	(11.3)	6.4	(8.0)	—	2.5	3.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	黄瀬戸釉	丸ノミによる 削ぎ 三足	連房第2段階	200	—
1012	G26	C478	肥前	碗	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	透明釉・呉須		—	200	—
1013	G25	C478	瀬戸美濃連房	鉄絵皿	(12.2)	2.3	6.1	—	3.6	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	200	—
1014	G26	C479	白瓷系陶器	K碗	(13.7)	5.6	4.4	—	2.5	11.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 貼付高台			明和1号窯式	200	—
1015	H27	C479	白瓷系陶器	K碗	(14.2)	5.2	5.2	—	5.0	10.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	200	—
1016	I27	C479	白瓷系陶器	K碗	(14.3)	6.0	4.7	—	2.8	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	200	—
1017	I27	C479	白瓷系陶器	K碗	(14.0)	6.0	(5.0)	—	2.0	3.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 貼付高台			明和1号窯式	200	—
1018	I27	C479	白瓷系陶器	K碗	13.8	6.3	5.2	—	10.5	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	200	52
1019	I27	C479	白瓷系陶器	K碗	13.3	5.9	5.1	—	7.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	200	52
1020	I27	C479	白瓷系陶器	K碗	14.0	5.6	5.0	—	7.3	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止指ナデ 指ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台		重ね焼き痕 自然釉	明和1号窯式	200	—
1021	I27	C479	白瓷系陶器	K碗	13.5	5.5	5.0	—	6.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止指ナデ 指ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台		重ね焼き痕	明和1号窯式	200	52
1022	I27	C479	白瓷系陶器	K碗	13.6	5.5	5.3	—	7.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・静止指ナデ 指ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台		重ね焼き痕 自然釉	明和1号窯式	200	52
1023	H27	C479	白瓷系陶器	K碗	(11.9)	3.3	3.9	—	4.8	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 貼付高台			大洞東1号窯式	200	—
1024	I27	C479	白瓷系陶器	K碗	9.5	1.7	3.7	—	9.0	12.0	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	200	—
1025	D25	C479	白瓷系陶器	K碗	11.8	3.1	4.9	—	10.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	200	52
1026	E26	C479	白瓷系陶器	K碗	12.4	3.2	4.2	—	6.2	10.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	200	—
1027	F26	C479	白瓷系陶器	K碗	(11.4)	3.0	4.1	—	4.5	8.0	(内面) コテナデ (外面) 回転ナデ・コテナデ 回転糸切り痕		墨書	脇之島3号窯式	200	—
1028	H27	C479	白瓷系陶器	K碗	11.2	2.8	4.2	—	7.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	200	52
1029	H27	C479	白瓷系陶器	K碗	(12.1)	3.0	4.8	—	4.5	6.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	200	—
1030	E36	C479	白瓷系陶器	K皿	8.6	1.5	5.6	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	200	—
1031	I27	C479	白瓷系陶器	K皿	8.2	1.4	3.8	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	200	—
1032	F26	C479	古瀬戸	天目茶碗	(11.4)	6.3	3.6	—	3.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉・錆釉		後IV新	201	52
1033	F26	C479	古瀬戸	天目茶碗	(11.9)	—	—	—	1.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉・錆釉		後IV新	201	52

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
1034	H27	C479	古瀬戸	天目茶碗	(11.3)	6.0	3.5	—	3.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉・錆釉		後IV新	201	—
1035	I27	C479	中国磁器	青磁碗	—	—	6.4	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ・削出高台	青磁釉	鎬蓮弁文 草花文・龍泉	B群？ 13世紀～14世紀	201	53
1036	E26	C479	瀬戸美濃大窯	擂鉢	—	—	9.3	—	—	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・擂目痕 回転糸切り痕	錆釉		—	201	53
1037	E26	C479	瀬戸美濃大窯	灯明皿	9.5	2.3	4.0	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	錆釉		第4段階	201	53
1038	D26	C479	土師器	Aロクロ皿	9.9	2.3	4.5	—	11.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	201	53
1039	E26	C479	土師器	Aロクロ皿	10.1	2.2	4.6	—	10.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	201	—
1040	F26	C479	土師器	Aロクロ皿	9.3	2.4	4.4	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	201	—
1041	F26	C479	土師器	Aロクロ皿	10.0	2.2	4.6	—	6.6	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	201	—
1042	F26	C479	土師器	Kロクロ皿	10.2	2.6	5.5	—	6.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	201	53
1043	F26	C479	土師器	Kロクロ皿	9.3	2.2	4.5	—	8.5	8.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	201	—
1044	G26	C479	土師器	Kロクロ皿	8.9	2.4	4.1	—	6.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・指頭痕 回転糸切り痕			—	201	—
1045	H27	C479	瀬戸美濃連房	天目茶碗	(11.6)	—	—	12.0	3.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		連房第1段階	201	—
1046	I27	C479	瀬戸美濃連房	天目茶碗	(11.8)	—	—	12.2	3.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	長石釉・緑釉 鉄釉		連房第1段階	201	53
1047	F26	C479	瀬戸美濃連房	丸碗	11.2	7.1	5.7	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第1段階	201	53
1048	F26	C479	瀬戸美濃連房	染付碗	10.4	7.2	5.7	—	11.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第2段階	201	53
1049	F26	C479	瀬戸美濃連房	丸皿	(9.3)	1.6	4.4	—	5.0	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 蓄積痕	灰釉		連房第2段階	201	—
1050	D26	C479	瀬戸美濃連房	壺蓋	(13.8)	—	—	17.2	1.5	1.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ			連房第3段階	201	—
1051	D26	C479	瀬戸美濃連房	摺絵皿	12.4	3.1	7.0	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉	円錐ピン痕3ヶ所	連房第2段階	201	53
1052	E26	C479	瀬戸美濃連房	錆絵皿	13.0	2.8	7.6	—	10.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第2段階	201	—
1053	F26	C479	瀬戸美濃連房	摺絵皿	13.6	3.3	7.8	—	9.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	201	53
1054	I27	C479	瀬戸美濃連房	折縁鉄絵皿	11.3	2.3	6.0	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第1段階	201	53
1055	I27	C479	瀬戸美濃連房	花瓶	—	15.0	(13.3)	—	—	4.8	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	201	53
1056	F26	C479	瀬戸美濃連房	有耳壺	—	—	7.0	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・錆釉	2条の沈線	連房第2段階	201	53
1057	H27	C479	瀬戸美濃連房	土鍋	20.9	10.4	7.2	—	10.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		連房第3段階	202	53
1058	H27	C479	瀬戸美濃連房	土鍋	24.3	22.4	8.4	24.5	9.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		連房第3段階	202	—
1059	H27	C479	瀬戸美濃連房	灯明皿	(9.1)	1.9	(5.4)	—	1.3	3.0	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	錆釉		連房第1段階	202	—
1060	H27	C479	瀬戸美濃連房	茶入	5.2	4.3	3.8	6.1	12.0	11.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉	軸孔有り	連房第3段階	202	53
1061	H27	C479	瀬戸美濃連房	仏飯具	(8.4)	5.8	5.5	—	5.5	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		連房第2段階	202	53
1062	E24	C485	白瓷系陶器	K碗	(12.6)	5.1	(3.3)	—	4.2	3.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			白土原1号窯式	202	—
1063	F22	C539	白瓷系陶器	K皿	(8.7)	1.3	5.6	—	5.8	6.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	202	—
1064	E19	C567	白瓷系陶器	K皿	8.1	1.7	4.3	—	6.5	7.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	202	—
1065	F26	C479	瀬戸美濃連房	火鉢	(19.2)	13.1	(11.6)	21.4	5.5	5.5	(内面) 回転ナデ・指ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉・鉄釉	棒状工具による 穿孔あり 重ね焼き痕 三足	連房第3段階	202	—
1066	H27	C595	瀬戸美濃連房	蓋皿	12.7	3.1	5.2	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	黄瀬戸釉・銅緑釉		連房第1段階	202	54
1067	F26	C614	白瓷系陶器	K碗	(11.0)	2.9	4.2	—	5.2	6.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	202	—
1068	G26	C614	白瓷系陶器	K皿	7.6	1.3	4.9	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			白土原1号窯式	202	—
1069	G26	C614	白瓷系陶器	K碗	14.4	5.6	4.8	—	8.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	202	54
1070	E26	C614	常滑（中世）	甕	(53.8)	—	—	—	0.2	—	(内面) 回転ナデ・縦方向板ナデ (外面) 回転ナデ・横ナデ	鉄釉	第6B型式	202	—	—
1071	F26	C614	中国磁器	青磁碗	(16.2)	—	—	—	2.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	青磁釉	鎬蓮弁文 同安	B—1	202	54
1072	G20	C629	土師器	赤ロクロ皿	11.7	3.7	7.0	—	12.0	12.0	(内面) 手ひねり形成し 板横ナデ・指頭痕 (外面) 手ひねり形成し 板横ナデ・指頭痕 板目			II B	202	54
1073	G20	C629	白瓷系陶器	K碗	(13.6)	6.1	4.8	—	4.0	6.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	202	54
1074	G21	C631	白瓷系陶器	K碗	—	—	5.4	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	202	54
1075	G21	C631	白瓷系陶器	K皿	(8.1)	1.2	(5.3)	—	2.2	2.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	202	—
1076	E17	C639	白瓷系陶器	K皿	(8.2)	1.4	5.5	—	4.5	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	202	—
1077	B25	D15	瀬戸美濃大窯	擂鉢	—	—	(9.2)	—	—	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	錆釉		—	203	—
1078	B23	D26	常滑（中世）	甕	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ・粘土痕 (外面) ナデ・ケズリ・粘土痕		自然釉	12世紀末 第2～3型式	203	—
1079	B23	D28	常滑（中世）	壺	—	—	—	—	—	—	(内面) 横ナデ (外面) 横ナデ・指頭痕			不明	203	—

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	掲図図版	写真図版
1080	B22	D32	白瓷系陶器	K碗	(12.7)	3.3	(3.7)	—	2.7	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	203	—
1081	C25	D15	瀬戸美濃系陶器	丸皿	(10.2)	—	—	—	1.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		連房第2段階	203	—
1082	C25	D26	土師器	赤ロクロII	(10.2)	1.6	(5.8)	—	1.0	4.5	(内面) ナデ (外面) ナデ			IIB	203	—
1083	B22	D32	白瓷系陶器	K碗	11.6	3.3	3.0	—	7.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	203	55
1084	B22	D32	白瓷系陶器	K碗	(11.6)	3.3	3.5	—	5.5	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	203	55
1085	B22	D32	白瓷系陶器	K碗	(11.8)	3.2	3.6	—	2.5	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	203	—
1086	B22	D32	白瓷系陶器	K碗	(12.4)	2.9	4.2	—	1.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島8号窯式	203	55
1087	B22	D32	白瓷系陶器	KIII	8.2	1.1	5.0	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止痕ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	203	55
1088	B22	D32	白瓷系陶器	KIII	7.9	1.3	5.9	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止痕ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	203	55
1089	C25	D32	白瓷系陶器	KIII	8.0	1.0	5.0	—	11.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	203	55
1090	B22	D32	白瓷系陶器	KIII	8.6	1.3	5.3	—	5.7	7.6	(内面) 回転ナデ・静止痕ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	203	—
1091	B22	D32	白瓷系陶器	KIII	8.0	1.1	5.5	—	8.1	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	203	—
1092	B22	D32	古瀬戸	折縁深II	(35.0)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		後II期	203	55
1093	C22	D32	瀬戸美濃大窯	落とし蓋	(12.0)	2.9	(4.8)	—	2.5	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	203	—
1094	C22	D32	瀬戸美濃連房	丸皿	(9.8)	6.8	3.8	—	3.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		連房第2段階	203	—
1095	C22	D32	瀬戸美濃連房	型打ちII	—	—	5.3	—	2.0	12.0	(内面) 磨ナデ (外面) 磨ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第1段階	203	—
1096	B22	D33	古瀬戸	鉢II	—	—	7.8	—	—	12.0	(外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		中期	203	—
1097	B22	D33	白瓷系陶器	K碗	(14.3)	5.6	5.6	—	3.5	6.5	(内面) 回転ナデ・静止痕ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕・貼付高台			白土原1号窯式	203	—
1098	C22	D33	瀬戸美濃大窯	擂鉢	—	—	8.4	—	—	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	鉄釉	13本3.2cm	不明	203	55
1099	C22	D33	瀬戸美濃大窯	擂鉢	—	—	(10.0)	—	—	2.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	鉄釉	12本2.4cm	不明	204	—
1100	C22	D33	瀬戸美濃大窯	水注	—	—	4.5	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 基部底		横位2条の沈線	不明	204	55
1101	C25	D33	土師器	Kロクロ II	(9.1)	2.6	(4.8)	—	5.2	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	204	—
1102	C33	D33	瀬戸美濃連房	広東碗	(20.0)	5.8	5.4	—	0.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	遠明釉・呉須		連房第3段階	204	55
1103	C25	D33	瀬戸美濃連房	広東碗	(9.4)	5.5	4.6	—	3.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	遠明釉・呉須		連房第3段階	204	—
1104	C32	D33	瀬戸美濃連房	鎬鉢II	(13.6)	3.2	7.6	—	1.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	204	55
1105	C25	D33	瀬戸美濃連房	碗蓋	8.4	2.1	つまみ径3.1	—	6.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	遠明釉・呉須		連房第3段階	204	—
1106	C25	D33	瀬戸美濃連房	鉢付II	10.6	2.9	5.4	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	204	55
1107	C22	D33	瀬戸美濃連房	皿鉢II	(11.5)	2.8	(6.8)	12.0	4.0	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉	重ね焼き痕	連房第2段階	204	—
1108	C25	D33	瀬戸美濃連房	鉢絵深II	15.0	5.8	7.7	—	8.0	10.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		連房第3段階	204	55
1109	C23	D33	瀬戸美濃連房	摺り分け花瓶	—	—	(7.0)	7.4	—	4.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉・鉄釉	絞り込み痕	連房第2段階	204	55
1110	C22	D33	瀬戸美濃連房	仏具	—	—	5.7	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		連房第3段階	204	55
1111	C23	D33	瀬戸美濃連房	灯明II	9.5	2.9	4.4	—	7.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉	重ね焼き痕	連房第3段階	204	55
1112	C33	D33	瀬戸美濃連房	壺	—	—	9.7	—	—	10.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		連房第3段階	204	—
1113	C22	D33	肥前	碗蓋	8.6	2.5	つまみ径3.2	—	9.0	11.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	遠明釉・呉須		連房第3段階	204	—
1114	C23	D33	肥前	染付II	(10.2)	2.9	5.8	—	3.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	遠明釉		連房第3段階	204	—
1115	C21	D36	白瓷系陶器	K碗	(11.0)	3.3	(3.5)	—	1.5	1.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	204	—
1116	A21	D36	白瓷系陶器	K碗	—	—	(3.4)	—	—	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	204	—
1117	C21	D36	白瓷系陶器	KIII	(8.0)	1.1	(4.8)	—	2.0	5.7	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		墨書	明和1号窯式以降	204	—
1118	C21	D37	白瓷系陶器	K碗	—	—	4.6	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	204	—
1119	A21	D37	古瀬戸	大II	—	—	(10.5)	—	—	2.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉・鉄釉		後I～II期	204	—
1120	A21	D37	陶器（中世）	壺	—	—	—	—	—	—	(内面) 横ナデ (外面) 横ナデ			第6A～8型式	204	—
1121	A20	D63	白瓷系陶器	K碗	12.8	3.6	(3.6)	—	9.0	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・貼付高台			大谷洞14号窯式	204	55
1122	C11	B18	白瓷系陶器	KIII	(8.0)	1.0	(4.6)	—	2.5	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		外面煤付着	明和1号窯式以降	205	—
1123	C11	B18	白瓷系陶器	KIII	8.4	1.0	6.0	—	10.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	205	—
1124	C11	B18	古瀬戸	擂鉢	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		後IV新	205	—
1125	C11	B18	瓦質土器	瓦器風炉	33.8	—	—	40.0	—	—	(内面) 磨ナデ (外面) 回転ナデ		波状口縁 印花文・2条の突帯	14～16世紀	205	56
1126	E13	B21	白瓷系陶器	K碗	—	—	4.2	—	—	5.0	(内面) 回転ナデ・静止痕ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	205	—
1127	D13	B46	白瓷系陶器	K碗	12.4	2.9	3.0	—	7.2	7.1	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	205	56
1128	E14	B46	白瓷系陶器	KIII	8.2	1.2	6.0	—	7.0	8.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	205	56

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	掲図図版	写真図版
1129	D13	B108	白瓷系陶器	KIII	8.5	1.4	5.6	—	12.0	11.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	205	—
1130	C16	B118	白瓷系陶器	K碗	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ		内面に鐵銹あり	—	205	—
1131	B17	B126	白瓷系陶器	KIII	8.5	1.0	5.2	—	6.5	6.5	(内面) 回転ナデ・静止痕ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	205	—
1132	D21	B225	白瓷系陶器	K碗	(12.6)	3.2	(3.8)	—	2.8	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	205	—
1133	C19	B246	白瓷系陶器	K碗	—	—	4.0	—	—	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	205	—
1134	D11	B247	白瓷系陶器	K碗	—	—	(4.0)	—	—	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台		自然釉	明和1号窯式	205	—
1135	D16	B320	白瓷系陶器	K碗	(12.5)	3.2	5.2	—	5.5	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島8号窯式	205	—
1136	D17	B328	白瓷系陶器	KIII	8.3	1.1	4.8	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止痕ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式	205	—
1137	D17	B328	白瓷系陶器	K碗	—	—	2.8	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	205	—
1138	D17	B328	常滑（中世）	甕	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ・指頭痕 (外面) ナデ			第5～8型式	205	—
1139	D18	B329	白瓷系陶器	K碗	—	—	4.0	—	—	6.0	(内面) 回転ナデ・静止痕ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕・貼付高台			大畑大洞4号窯式	205	—
1140	D17	B324	常滑（中世）	壺	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ (外面) ナデ			第9～11型式	205	—
1141	D18	B329	常滑（中世）	壺	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ (外面) ナデ			第6A～8型式	205	—
1142	D18	B329	常滑（中世）	甕	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ・指頭痕 (外面) ナデ			第9～11型式	205	—
1143	D18	B329	常滑（中世）	壺	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ (外面) ナデ			第9～11型式	205	—
1144	B18	B356	白瓷系陶器	K碗	(12.4)	3.2	3.8	—	0.7	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台		内面鐵付着	大谷洞14号窯式	205	—
1145	C18	B369	白瓷系陶器	K碗	—	—	(6.0)	—	—	3.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・指ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			綿洞1号窯式	205	—
1146	B18	B369	白瓷系陶器	K碗	(12.0)	3.1	(3.0)	—	4.4	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	205	56
1147	C18	B369	白瓷系陶器	K碗	—	—	(3.0)	—	—	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	205	—
1148	C18	B369	白瓷系陶器	K碗	12.1	2.9	4.2	—	6.7	6.1	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	205	56
1149	C18	B369	白瓷系陶器	K碗	12.5	2.9	3.3	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	205	56
1150	東西ベルト南	B369	白瓷系陶器	K碗	(13.4)	3.3	3.2	—	1.2	6.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	205	—
1151	C18	B369	白瓷系陶器	KIII	(8.8)	1.2	(5.3)	—	1.5	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		自然釉	明和1号窯式以降	205	—
1152	C18	B369	古瀬戸	折縁瓶H	(34.0)	—	—	—	0.3	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		後Ⅳ新	205	56
1153	C18	B369	古瀬戸	卸皿小H	11.0	2.7	5.1	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			後Ⅳ古	206	56
1154	C18	B369	古瀬戸	天目茶碗	(11.8)	8.8	3.2	—	2.9	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 貼付高台	鉄釉・錆釉		後Ⅱ期	206	56
1155	C18	B369	常滑（中世）	壺	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ・指頭痕 (外面) ナデ・ハケ			第4～6A型式	206	—
1156	B19	B377	白瓷系陶器	K片口鉢	—	—	(13.9)	—	—	1.8	(内面) 回転ナデ (外面) ナデ・ケズリ・貼付高台			大洞東1号窯式	206	—
1157	B19	B377	常滑（中世）	甕	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ (外面) ナデ			第5～7型式	206	—
1158	B19	B378	白瓷系陶器	K碗	—	—	(3.8)	—	—	5.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大畑大洞4号窯式	206	—
1159	東西ベルト南	B392	土師器	赤ロクロH	16.2	—	—	—	1.0	—	(内面) ナデ (外面) ナデ			ⅡC	206	—
1160	C18	B392	白瓷系陶器	K碗	13.0	3.6	3.4	—	4.2	9.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	206	56
1161	D16	B396	白瓷系陶器	K碗	—	—	(3.9)	—	—	2.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	206	—
1162	D12	B432	白瓷系陶器	K碗	11.6	3.8	2.9	—	10.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台		内面鐵付着	大洞東1号窯式	206	56
1163	D12	B441	白瓷系陶器	K碗	—	—	(4.6)	—	—	4.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	206	—
1164	C18	B467	白瓷系陶器	K碗	—	—	(5.8)	—	—	3.5	(内面) 回転ナデ・静止痕ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			白土原1号窯式	206	—
1165	B17	B477	白瓷系陶器	K碗	11.8	3.1	3.8	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	206	56
1166	B18	B477	白瓷系陶器	K碗	—	—	(3.0)	—	—	4.1	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	206	—
1167	B18	B477	古瀬戸	大H	—	—	(19.0)	—	—	1.5	(内面) 回転ケズリ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		中期	206	—
1168	B18	B477	白瓷系陶器	KIII	8.3	1.0	4.9	—	7.0	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	206	—
1169	C18	B526	白瓷系陶器	K碗	(13.0)	6.0	(5.0)	—	0.3	4.0	(内面) 回転ナデ・静止痕ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	206	—
1170	C18	B530	土師器	赤ロクロH	8.4	2.5	3.2	—	12.0	12.0	(内面) ナデ・指頭痕 (外面) ナデ・指頭痕		外面鐵付着	ⅡB	206	56

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
1171	C18	B530	白瓷系陶器	K碗	—	—	(3.0)	—	—	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	206	56
1172	C18	B530	白瓷系陶器	K碗	—	—	(3.0)	—	—	2.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	206	—
1173	C18	B530	白瓷系陶器	K碗	(11.8)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			—	206	—
1174	C18	B530	白瓷系陶器	K碗	(12.1)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			—	206	—
1175	C18	B530	白瓷系陶器	K皿	—	—	5.2	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	206	—
1176	C18	B530	古瀬戸	天目茶碗	(12.0)	—	—	—	1.3	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉・錆釉		後IV古	206	56
1177	E17	B546	白瓷系陶器	K碗	—	—	(3.0)	—	—	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	206	—
1178	D10	H1	白瓷系陶器	K碗	—	—	(5.0)	—	—	3.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			白土原1号窯式	207	57
1179	D8	H1	白瓷系陶器	K碗	—	—	(5.0)	—	—	5.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	207	—
1180	D10	H1	白瓷系陶器	K碗	(11.8)	3.8	(3.8)	—	0.7	3.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	207	—
1181	E7	H1	白瓷系陶器	K碗	—	—	(5.6)	—	—	3.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	207	—
1182	D8	H1	白瓷系陶器	K碗	—	—	(5.0)	—	—	2.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	207	—
1183	D10	H1	白瓷系陶器	K碗	(10.1)	2.2	(3.1)	—	1.5	4.0	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	207	—
1184	D10	H1	白瓷系陶器	K皿	(9.0)	1.7	(5.2)	—	1.2	2.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転糸切り痕		外面煤付着 内面自然釉	白土原1号窯式	207	57
1185	D10	H1	中国磁器	青磁	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	青磁釉	鎬蓮弁文・龍泉	B—1	207	—
1186	D10	H1	白瓷系陶器	A片口鉢	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ (外面) ナデ・指頭痕		沈線	第9型式	207	—
1187	E7	H1	常滑(中世)	甕	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ (外面) ナデ			第6A～8型式	207	—
1188	D9	H1	常滑(中世)	甕	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ (外面) ナデ			第6A～8型式	207	57
1189	D9	H1	瀬戸美濃連房	柄茶碗	(12.0)	—	—	—	2.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉・鉄釉		連房第3段階	207	57
1190	D9	H1	瀬戸美濃連房	灯明皿	(7.9)	1.5	4.8	—	4.5	6.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			連房第1段階	207	—
1191	I2	H2	白瓷系陶器	K皿	(8.9)	1.9	(5.0)	—	2.0	1.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			窯洞1号窯式	207	—
1192	G1	H20	白瓷系陶器	K碗	(11.0)	—	—	—	1.9	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			生田2号窯式	207	—
1193	G1	H20	白瓷系陶器	A片口鉢	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			第5型式	207	—
1194	H3	H43	瀬戸美濃連房	天目茶碗	(12.1)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ	鉄釉		連房第1段階	207	—
1195	F1	H42	常滑(中世)	甕	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ・粘土痕・指頭痕 (外面) ナデ・叩き目		押印文	第2～3型式	207	—
1196	F1	H42	常滑(中世)	甕	—	—	—	—	—	—	(内面) 板ナデ・粘土痕 (外面) ナデ			第2～5型式	207	—
1197	F2	H44	古瀬戸	天目茶碗	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ケズリ	鉄釉		II－III期	207	57
1198	F3	H44	土師器	Kロクロ皿	9.5	2.6	4.9	—	11.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	207	57
1199	F1	H44	古瀬戸	折縁鉢	(24.2)	6.1	10.7	—	2.8	6.2	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		後I期	207	57
1200	F2	H44	古瀬戸	天目茶碗	(12.2)	—	—	—	2.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		後IV新	207	57
1201	H3	H61	白瓷系陶器	K碗	(13.5)	5.3	(4.5)	—	5.2	3.6	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	207	57
1202	H3	H61	白瓷系陶器	K皿	(7.8)	0.9	(3.6)	—	2.0	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	207	—
1203	G4	H75	白瓷系陶器	K碗	—	—	(5.5)	—	—	5.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			丸石3号窯式	207	—
1204	G4	H75	白瓷系陶器	K碗	14.8	5.8	6.8	15.0	12.0	11.3	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台		墨書・自然釉	丸石3号窯式	207	57
1205	G4	H75	白瓷系陶器	K碗	(15.0)	5.0	(5.9)	—	1.8	4.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			丸石3号窯式	208	—
1206	G4	H75	白瓷系陶器	K碗	13.9	5.6	5.4	14.3	—	—	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			窯洞1号窯式	208	57
1207	G4	H75	白瓷系陶器	K碗	(14.6)	5.4	5.9	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			窯洞1号窯式	208	—
1208	G4	H75	白瓷系陶器	K皿	(8.4)	2.1	4.1	—	3.5	7.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			窯洞1号窯式	208	57
1209	G4	H75	白瓷系陶器	K皿	7.8	2.3	3.7	8.3	6.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			窯洞1号窯式	208	57
1210	G4	H75	白瓷系陶器	K皿	8.9	2.1	4.6	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		墨書	窯洞1号窯式	208	57
1211	G4	H75	灰釉陶器	三筋壺	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ		自然釉 首部と肩に 沈線3本ずつ 宗教用品か？	猿投	208	57
1212	G4	H75	常滑(中世)	甕	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ・指頭痕 (外面) ナデ			中世後半 15—16世紀	208	—
1213	F5	H79	白瓷系陶器	K皿	(10.5)	4.0	3.9	—	1.0	11.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	208	—
1214	G4	H76	白瓷系陶器	K皿	(7.3)	1.0	3.7	7.6	—	—	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	208	—
1215	G4	H75	中国磁器	青磁碗	—	—	(5.2)	—	—	1.5	(内面) 回転ナデ (外面) 削出高台	青磁釉	鎬蓮弁文・龍泉	B—1	208	57
1216	H3	H79	古瀬戸	擂鉢	—	—	(9.8)	—	—	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・指頭痕 回転糸切り痕	錆釉		後IV古	208	57

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 底径	法量(cm) 最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
1217	D5	H112	白瓷系陶器	K碗	—	—	(4.9)	—	—	4.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	208	—
1218	D6	H126	白瓷系陶器	K碗	(12.0)	4.6	(4.5)	—	1.3	3.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大畑大洞4号窯式	208	—
1219	Q33	—	白瓷系陶器	K碗	(9.9)	2.3	3.2	—	5.0	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			生田2号窯式	208	—
1220	試掘	—	白瓷系陶器	K小杯	(7.9)	2.6	3.3	—	4.9	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			第5型式	208	—
1221	P43	—	白瓷系陶器	A片口鉢	(25.0)	—	—	—	0.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			第10型式	208	—
1222	R38	—	古瀬戸	卸皿	—	—	(6.6)	—	—	2.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		格子卸目	後Ⅱ～Ⅳ期	208	—
1223	表採	—	古瀬戸	加工円盤	—	—	4.3	—	—	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	鉄釉		後Ⅱ～Ⅳ期	208	—
1224	Q39	—	瀬戸美濃大窯	擂鉢	(27.2)	—	—	—	0.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	錆釉		第4段階	208	—
1225	P43	—	土師器	Aロクロ皿	(9.4)	2.0	5.4	—	3.4	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	208	—
1226	R38	—	土師器	Kロクロ皿	(8.8)	1.9	3.4	—	3.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内外面口縁煤付着	—	208	—
1227	N49	—	土師器	Kロクロ皿	(7.7)	2.0	4.1	—	1.6	9.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内面煤付着	—	208	—
1228	P42	—	土師器	Kロクロ皿	(11.0)	2.5	(5.8)	—	5.3	4.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内面煤付着	—	208	—
1229	P40	—	土師器	Kロクロ皿	(8.4)	2.2	4.3	—	2.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内外面煤付着	—	208	—
1230	P39	—	瀬戸美濃連房	摺絵皿	—	—	8.1	—	—	6.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須		連房第2段階	209	—
1231	試掘	—	瀬戸美濃連房	摺絵皿	(11.6)	2.5	6.0	—	2.8	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	209	—
1232	表採	—	瀬戸美濃連房	輪禿皿	(15.2)	3.9	8.8	—	4.0	9.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第3段階	209	—
1233	試掘	—	瀬戸美濃連房	擂鉢	(14.1)	5.2	8.0	—	2.2	10.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	209	—
1234	J35	—	白瓷系陶器	K碗	14.4	5.8	5.3	—	7.1	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台		内外に自然釉	篠洞1号窯式	209	—
1235	H32	—	白瓷系陶器	K碗	(11.6)	2.9	3.2	—	1.0	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台		墨書	大洞東1号窯式	209	—
1236	—	TR5	白瓷系陶器	K碗	—	—	(3.4)	—	—	4.6	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		墨書	脇之島3号窯式	209	—
1237	K38	—	白瓷系陶器	K碗	(12.5)	2.9	3.6	—	5.0	7.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大洞東1号窯式	209	—
1238	—	TR7	白瓷系陶器	K碗	11.9	4.0	4.8	—	6.8	7.2	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	209	—
1239	G40	—	白瓷系陶器	K碗	12.0	3.7	4.3	—	11.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	209	48
1240	G40	—	白瓷系陶器	K碗	12.0	2.9	4.5	—	6.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	209	48
1241	K37	—	白瓷系陶器	K碗	(12.4)	3.3	4.0	—	3.7	7.2	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			脇之島3号窯式	209	—
1242	表採	—	白瓷系陶器	K皿	(8.5)	1.7	5.1	—	3.8	6.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	209	—
1243	G36	—	白瓷系陶器	K皿	8.2	1.5	4.5	—	9.4	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		墨書	明和1号窯式以降	210	48
1244	I33	—	白瓷系陶器	K皿	(7.6)	0.7	5.0	—	5.8	6.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		墨書	明和1号窯式以降	210	—
1245	J38	—	白瓷系陶器	K皿	(9.0)	1.2	(5.0)	—	3.0	1.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		墨書	明和1号窯式以降	210	—
1246	G32	—	白瓷系陶器	A片口鉢	—	—	(10.7)	—	—	1.1	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 回転糸切り痕 貼付高台			—	210	—
1247	試掘	TR5	古瀬戸	天目茶碗	(12.0)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	鉄釉		後Ⅳ期	210	—
1248	G32	—	古瀬戸	平碗	(16.0)	6.4	6.0	—	2.4	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		後Ⅳ新	210	49
1249	試掘	TR2	古瀬戸	卸皿	(8.6)	1.8	(4.8)	9.7	3.5	5.9	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		後Ⅱ期	210	—
1250	—	TR7	古瀬戸	緑釉小皿	10.2	2.6	4.6	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	鉄釉		後Ⅱ期	210	48
1251	—	TR7	古瀬戸	直縁大皿	(28.2)	8.8	(13.0)	—	0.9	3.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉	三足	後Ⅳ古	210	49
1252	J33	—	古瀬戸	水注	—	—	5.7	—	—	6.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	鉄釉・錆釉		後Ⅳ期	210	48
1253	—	TR6	中国磁器	青磁有蓋壺？	—	—	—	—	—	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	青磁釉	鎬文様 (俗に酒会壺と呼ばれる) 龍泉	13～14世紀初	210	49
1254	J43	—	中国磁器	白磁口禿皿	(11.9)	—	—	—	1.1	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	白磁釉	太宰府Ⅸ類	13～14世紀前半	210	—
1255	I32	—	瀬戸美濃大窯	小天目茶碗	(8.0)	3.6	2.3	—	2.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	鉄釉		第3段階	210	49
1256	G32	—	瀬戸美濃大窯	天目茶碗	(11.3)	—	—	—	2.5	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉・錆釉		第3段階	210	49
1257	表採	—	瀬戸美濃大窯	擂鉢	—	—	(8.3)	—	—	2.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	錆釉		第1段階	210	—
1258	試掘	TR5	瀬戸美濃大窯	灯明皿	(8.7)	1.7	(2.5)	—	1.4	3.5	(内面) 回転ナデ・コテナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			第1段階	210	—
1259	H30	—	瀬戸美濃大窯	灯明皿	(9.8)	2.9	(4.8)	—	0.6	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			第4段階	210	49
1260	H30	—	瀬戸美濃連房	小天目茶碗	(8.7)	—	—	—	4.3	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		連房第1段階	210	—
1261	—	TR5	土師器	Kロクロ皿	8.0	1.7	4.8	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		内外面煤付着	—	210	—
1262	I39	—	瀬戸美濃連房	丸碗	(13.5)	8.0	7.4	—	4.5	7.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第1段階	211	49

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	最大径	口縁残存率(X/12)	底部残存率(X/12)	成形・調整	釉薬	備考	時期・型式	挿図図版	写真図版
1263	E33	—	瀬戸美濃連房	掛け分け碗	(10.4)	4.9	4.0	—	5.9	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	211	49
1264	—	TR5	瀬戸美濃連房	柄茶碗	(13.3)	5.6	4.0	—	2.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第3段階	211	—
1265	G33	—	瀬戸美濃連房	広東碗	11.3	6.5	5.5	—	10.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・呉須		連房第3段階	211	49
1266	I28	—	瀬戸美濃連房	小杯	6.0	3.4	2.9	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	211	49
1267	—	TR3	瀬戸美濃連房	皿	(7.2)	2.4	2.6	—	3.5	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	灰釉		—	211	—
1268	H30	—	瀬戸美濃連房	丸皿	6.3	1.6	2.4	—	9.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	灰釉		連房第3段階	211	49
1269	表採	—	瀬戸美濃連房	志野丸皿	(11.7)	2.4	(8.0)	—	1.0	2.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	長石釉		連房第1段階	211	—
1270	I29	—	瀬戸美濃連房	反皿	(15.6)	3.6	(6.8)	—	2.8	3.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第1段階	211	49
1271	試掘	TR2	瀬戸美濃連房	反皿	(12.9)	2.7	6.9	—	4.2	6.1	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉	内面煤付着 トチン痕	連房第1段階	211	—
1272	試掘	TR2	瀬戸美濃連房	折縁鉄絵皿	(12.0)	2.6	6.9	—	3.1	7.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第1段階	211	—
1273	H29	—	瀬戸美濃連房	型打皿	8.0	2.4	3.7	—	11.8	12.0		白磁釉	タタラ型打ち	連房第3段階	211	49
1274	表採	—	瀬戸美濃連房	灯明皿	(11.9)	2.0	(6.1)	—	2.1	2.1	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	錆釉		連房第3段階	211	—
1275	表採	—	瀬戸美濃連房	十能	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ (外面) ナデ・回転ケズリ	錆釉		—	211	—
1276	I41	—	瀬戸美濃連房	秉燭	4.9	5.8	4.8	6.0	9.0	7.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕	鉄釉		連房第2段階	211	49
1277	E34	—	瀬戸美濃連房	仏飯具	7.3	4.3	3.7	—	8.1	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		連房第3段階	211	49
1278	C19	—	土師器	非ロクロ皿	(8.1)	1.3	(3.9)	—	4.0	5.0	(内面) ナデ (外面) 回転ナデ・網圧痕			II D	212	—
1279	D18	—	白瓷系陶器	K碗	—	—	(6.0)	—	—	4.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			白土原1号窯式	212	—
1280	E12	—	白瓷系陶器	K碗	—	—	(4.8)	—	—	5.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			白土原1号窯式	212	—
1281	表採	—	白瓷系陶器	K碗	—	—	5.7	—	—	6.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			白土原1号窯式	212	—
1282	—	TR2	白瓷系陶器	K碗	(14.8)	5.9	4.6	—	5.5	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			明和1号窯式	212	—
1283	I26	—	白瓷系陶器	K碗	(13.0)	4.7	4.0	—	2.5	10.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ・板目 回転糸切り痕 貼付高台			大畑大洞4号窯式	212	—
1284	D17	—	白瓷系陶器	K碗	(12.8)	4.1	(4.0)	—	1.8	3.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台			大谷洞14号窯式	212	—
1285	E12	—	白瓷系陶器	K碗	(12.4)	3.6	(4.0)	—	1.1	4.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台		自然釉	大谷洞14号窯式	212	—
1286	—	TR2	白瓷系陶器	K皿	8.3	1.5	4.8	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			白土原1号窯式	212	—
1287	B12	—	白瓷系陶器	K皿	(8.0)	1.1	(4.7)	—	2.5	3.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	212	—
1288	D18	—	白瓷系陶器	K皿	(7.6)	1.2	4.5	—	4.3	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	212	—
1289	—	—	白瓷系陶器	K皿	8.0	1.2	5.7	—	10.0	12.0	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	212	—
1290	表採	—	白瓷系陶器	K皿	(8.5)	1.2	6.0	—	3.4	6.5	(内面) 回転ナデ・静止指ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			明和1号窯式以降	212	—
1291	B12	—	古瀬戸	天目茶碗	(12.0)	—	—	—	1.6	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		後IV古	212	—
1292	C13	—	古瀬戸	平碗	(14.2)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	灰釉		後II期	212	—
1293	E15	—	古瀬戸	平碗	(13.0)	—	—	—	1.0	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ			後II期	212	—
1294	表採	—	古瀬戸	卸皿	—	—	(8.0)	—	—	2.0	(外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			後期	212	56
1295	表採	—	古瀬戸	筒形容器	—	—	(10.0)	—	—	3.0	(内面) 回転ナデ・ヘラ削り (外面) 回転ケズリ 回転糸切り痕 削出高台	灰釉		後II期―後IV新	212	56
1296	—	—	常滑（中世）	甕	—	—	(16.0)	—	—	2.0	(内面) ナデ (外面) 板ナデ			第5～7型式	212	56
1297	—	TR2	常滑（中世）	甕	(40.0)	—	—	—	2.0	—	(内面) ナデ・横位指ナデ 押圧痕 (外面) ナデ			第6A型式	212	54
1298	—	TR2	中国磁器	青磁折縁皿	(11.0)	—	—	—	1.4	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ	青磁釉	鎬蓮弁文 龍泉	B群	212	—
1299	—	—	土師器	Kロクロ皿	7.8	1.9	3.8	—	12.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕		外面に煤付着	—	212	—
1300	G27	—	土師器	Kロクロ皿	(10.7)	2.3	(5.4)	11.0	3.6	5.8	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ 回転糸切り痕			—	212	—
1301	—	—	瀬戸美濃連房	筒湯呑	7.8	5.5	3.5	—	9.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉	長6短19を単位とする回転施文 円錐ピン痕3ヶ所	連房第3段階	212	—
1302	—	—	瀬戸美濃連房	天目茶碗	(12.5)	—	—	—	0.4	—	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ	錆釉		連房第1段階	212	—
1303	H25	—	瀬戸美濃連房	丸碗	11.3	7.8	5.3	—	6.5	6.5	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第1段階	212	—
1304	I26	—	瀬戸美濃連房	掛け分け碗	(10.2)	5.0	4.2	10.4	2.0	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	213	54
1305	I25	—	瀬戸美濃連房	箱形湯呑	(7.2)	5.9	3.5	—	5.5	10.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉・呉須		連房第3段階	213	—
1306	—	TR1	瀬戸美濃連房	小杯	5.0	3.1	2.4	—	10.2	12.0	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉		連房第3段階	213	—
1307	—	—	瀬戸美濃連房	卸皿	—	—	—	—	—	—	(内面) ナデ (外面) 回転ナデ・ケズリ	錆釉	棒状工具による卸目	連房第2～3段階	213	—
1308	—	TR1	瀬戸美濃連房	輪禿皿	(13.9)	3.2	(6.0)	—	1.0	3.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・ 回転ケズリ 削出高台		印花文	連房第1段階	213	—
1309	—	TR1	瀬戸美濃連房	摺絵皿	(13.2)	3.0	7.9	—	5.0	7.4	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・回転ケズリ 削出高台	灰釉・鉄釉		連房第2段階	213	54
1310	I25	—	瀬戸美濃連房	染付皿	10.4	2.2	5.1	—	9.0	8.3	(内面) 回転ナデ (外面) 回転ナデ・削出高台	灰釉		連房第3段階	213	54

掲載番号	グリット	遺構番号	種別	器種	法量（cm）				口縁残存率（X/12）	底部残存率（X/12）	成形・調整	釉薬	備考	時期・様式	掲図図版	写真図版
					口径	器高	底径	最大径								
1311	表採	—	瀬戸美濃進房	被花皿	—	—	(6.9)	—	—	—	（内面）回転ナデ （外面）回転ナデ 回転糸切り痕 貼付高台	長石釉	被花文	進房第1段階	213	—
1312	H25	—	瀬戸美濃進房	合子の蓋	9.6	2.3	つまみ径 1.6	—	6.7	12.0	（内面）端部回転ナデ 中央部ナデ・回転ケズリ （外面）回転ナデ・つまみ貼付	灰釉	蓋書	進房第1段階	213	—
1313	—	—	瀬戸美濃進房	灯明皿	6.9	1.5	2.5	—	11.0	12.0	（内面）回転ナデ （外面）回転ナデ	灰釉		進房第3段階	213	54
1314	I25	—	瀬戸美濃進房	仏餉具	(11.5)	5.0	4.9	—	5.5	3.5	（内面）回転ナデ （外面）回転ナデ・回転ケズリ	鉄釉		進房第3段階	213	—
1315	H27	—	常滑（江世）	角瓶胴部	—	—	—	—	—	—	（内面）板造り （外面）板造り		炭櫃	19世紀	213	54
1316	I25	—	常滑（江世）	カマド （移動式）	47.2	34.8	(42.8)	—	11.5	3.5	（内面）ナデ・指頭痕 （外面）面取り		赤物明治20年代 中にまきを入れる 名古屋城三ノ丸で 出土例	19世紀末	213	54

第17表　木製品観察表

掲載番号	実測番号	器種	遺構層位	時期	法量(cm) 長さ	厚さ	幅	形態・特徴	木取り	樹種	挿図図版	写真図版
2001	A1	柱根	A112	中世	26.5	7.1	6.8	中心部分からやや腐食し、中央の一部が欠損している。底部に加工痕は見られなかった。	丸木芯持ち	クリ	214	58
2002	A2	柱根	A150	中世	54.1	10.6	11.3	比較的良好な状態で出土した柱根である。底部は多数の削った加工痕がある。	丸木芯持ち	クリ	214	58
2003	A3	柱根	A221	—	57.2	10.4	14.8	柱根の下側・底部に2ヶ所加工の痕があり、高さ等を調整したと考えられる。	丸木芯持ち	クリ	214	58
2004	A5	曲物底板	A228	近世	(16.8)	0.7	(4.7)	曲物底板の周辺部に側板との接地面がある。	板目	ヒノキ	214	58
2005	A4	曲物底板	A228	近世	19.5	1.2	(12.5)	曲物底板と考えられ、周辺部１㎝程に側板の支え箇所と考えられる部分があり、一段下がっている。 底板表面には線状痕（３～５㎝）が数十本存在する。 底板裏面にも黒い漆痕と見られるものが残っており、線状痕も表面と同様に見られる。	板目	ヒノキ	214	58
2006	F1	桶	F34 4層	近世	19.0	1.1	3.3	桶の部材の把っ手と考えられる。 片方に把っ手のような部分があり、他方一部欠損している。	柾目	ヒノキ	214	58
2007	F2	柱根	F243	中世	(45.8)	11.8	12.0	木の中央部分が欠損しており、胴部中央から底部にかけては残存状態は良好である。 上部の表皮から木部にかけて腐食し、削れ欠損している状態である。	丸木芯持ち	クリ	214	58
2008	G1	柱根	G268	中世	(31.0)	10.3	11.5	中心部分だけ腐食したため、空洞になっている。 底部の方に加工痕は見当たらなかった。	丸木芯持ち	クリ	215	60
2009	E1	漆器椀	E656	近世	—	—	底径7.2	残存状態は悪いが漆塗りの痕が明瞭に残っている。 内外とも黒漆に朱色の絵が施されている。	板目	トチノキ	215	58
2010	E3	曲物底板	E1075 14層	近世	17.4	1.5	16.7	三つの部材は同じ箇所の３点ではなくて、木目から違う所から作成したものと考えられる。 厚さが1.5㎝あり頑丈になっている。 中央部から側の間2ヶ所に竹釘があり、接合してあった痕跡がある。 側板には加工痕があった。	板目	ヒノキ	215	59
2011	E2	曲物底板	E1075 14層	近世	18.3	1.5	18.4	円形の曲物底板で厚さが1.5㎝程あり、しっかりしている。 残存状態も良好である。 ２枚の木片を２本の竹釘で接合している。 竹釘は４㎝くらいで、中央に節目があり、両端を削り刺さるように工夫し、接合してある。 表面・裏面ともに2～5㎝程度の線状痕が見られる。	板目	ヒノキ	215	59
2012	E4	曲物底板	E1075 16層 最下層	近世	(18.5)	0.8	(14.1)	表面に線状痕が残る。 その長さは２～４㎝程度でやや浅い。 中央部が一部分やや腐食している。 円形部の外周ライン内側にかけて、やや削られている。	板目	ヒノキ	215	59
2013	E5	曲物底板	E1075 16層 最下層	近世	18.2	0.5	(6.5)	曲物底板で厚さは、今まで出土してきたものと比べると薄く0.5㎝程である。 また、側板を束ねたと考えられる竹片が９片出土し、幅は0.5～0.7㎝程度で残存状態は若干悪い。	板目	ヒノキ	215	59
2014	E6	曲物底板	E1075 16層 最下層	近世	18.7	0.6	19.4	表面に黒い漆が見られる。（点々としたもので当初は全面にあったものと考えられる） 周辺部は削られ稜線が見られる。	板目	ヒノキ	216	59
2015	E10	曲物底板	E1099 5層	近世 後期	18.6	1.1	(14.1)	表面・裏面に線状痕が見られる。（2～15㎝） まな板などに使用した可能性がある。 側面に加工痕や整形した痕跡が見られる。	板目	ヒノキ	216	59
2016	E9	曲物底板	E1099 5層	近世 後期	18.2	1.1	(7.1)	側面には竹釘が２ヶ所中に入っており、加工痕も10ヶ所程見られる。	板目	ヒノキ	216	59
2017	E11	曲物底板	E1099 5層	近世 後期	18.4	1.2	17.0	曲物底板に竹釘が割れてでている。板２片をうまく結合し、もう片方上方にも竹釘があると予想される。	板目	ヒノキ	216	60
2018-A	E7A	手桶側板	E1099 5層	近世 後期	(16.1)	0.9	9.1	側板は２つに割れているが、接合でき一枚板である。 下側に側板と束ねたような木の皮の痕跡が見られる。 内側には５本の加工痕が見られた。	柾目	ヒノキ	216	59
2018-B	E7B	手桶側板	E1099 5層	近世 後期	21.1	0.9	9.8	側板は一枚で、底部付近に側板を束ねる木の皮の痕跡が見られる。内側には２本の加工痕が見られた。	柾目	ヒノキ	216	59
2018-C	E7C	手桶側板	E1099 5層	近世 後期	19.8	0.6	5.4	A・Bの側板との接合する面はないが、同一の手桶側板と考えられる。 下側の方が幅が狭く、上方口縁部の方が広い。 底部にはA・Bと同様束ねる木の皮のような痕跡が見られる。	柾目	ヒノキ	216	59

掲載番号	実測番号	器種	遺構層位	時期	法量(cm) 長さ	厚さ	幅	形態・特徴	木取り	樹種	挿図図版	写真図版
2018-D	E7D	手桶側板	E1099 5層	近世後期	20.1	0.7	4.3	C・Eと接合出来そうではあるが、確実とはいえない。ただ底部の束ねる木の皮の痕跡のラインから隣り合わせの可能性が高い。	柾目	ヒノキ	216	59
2018-E	E7E	手桶側板	E1099 5層	近世後期	(13.5)	7.0	5.1	EもDと同様に底部の束ねる木の皮の痕跡のラインから隣り合わせの可能性が高い。桶側板として利用のため、曲げて作成したものと考えられる。	柾目	ヒノキ	216	59
2018-F	E7F	手桶側板	E1099 5層	近世後期	20.6	8.4	0.6	上方・下方に木の皮などで束ねられた痕跡がある。	柾目	ヒノキ	216	59
2018-G	E7G	手桶側板	E1099 5層	近世後期	21.2	0.7	6.2	上方・下方に何かで束ねられた痕跡がある。	柾目	ヒノキ	216	59
2018-H	E7H	手桶側板	E1099 5層	近世後期	21.2	0.6	8.1	上方・下方に束ねれた痕跡が少しだけ残っている。	柾目	ヒノキ	216	59
2019	E12	部材	E1099 5層	幕末～明治初期	(19.5)	0.4	(2.9)	木の皮に墨書が入っている。板からはがれたものと考えられる。他の部材を見て、はがれた痕跡がないか調べたが確認できなかった。	木皮	不明	216	60
2020	E8	部材	E1099 F28 5層	—	58.9	3.2	41.7	一枚木でできており、Vの字に接合出来る。上端に部材を組み込んで、何かに使用したものと考えられる。また、中央・片方の脚の一部分に加工痕がある。これも何かの部材を組んでいたと考えられる。	丸木芯持ち	クリ	217	60

第18表　石器・石製品観察表

掲載番号	実測番号	グリット	遺構番号	内容	石材	法量 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	残存状況	備考	挿図図版	写真図版
3001	3178	I36	—	石鏃	チャート	1.50	1.00	0.35	0.2	完形		218	—
3002	3179	D12	—	石鏃	下呂石	(2.00)	1.40	0.35	0.6	先端欠損		218	—
3003	2164	S52	F50	粗製刃器	ホルンフェルス	8.80	3.55	1.00	33.3	完形	腹面に擦痕がかすかに残る 打製ⅡA類	218	—
3004	2173	—	F65	粗製刃器	ホルンフェルス	10.65	3.50	1.00	49.7	完形	刃こぼれ両端部挟り有り 打製ⅡB類	218	—
3005	5141	F24	C474	剥片	チャート	2.90	2.40	0.63	5.0	—	素材剥片	218	—
3006	4453	H33	—	剥片	チャート	2.15	1.50	0.40	0.6	—	素材剥片	218	—
3007	6034	C22	D32	粗製刃器	ホルンフェルス	11.65	4.40	1.30	92.2	一部欠損	背面刃部に自然面を残す 刃部表裏先端部摩耗	218	—
3008	2172	P45	F166	打製石斧	ホルンフェルス	(9.45)	4.30	1.60	88.9	基部欠損		218	—
3009	4440	H32	E50	打製石斧	砂岩	(10.80)	5.20	1.50	98.3	基部欠損	短冊形	218	—
3010	4437	J37	E112	打製石斧	泥岩	(10.60)	4.90	1.60	116.8	下半欠損	有肩形	218	—
3011	3172	J41	G301	打製石斧	ホルンフェルス	12.50	2.20	2.30	188.6	完形	裏面に刃こぼれ	219	—
3012	3175	L42	G301	打製石斧	ホルンフェルス	11.70	3.65	1.70	95.0	完形	短冊形	219	—
3013	5149	—	C450	打製石斧	ホルンフェルス	13.80	4.00	1.25	89.3	完形	短冊形	219	—
3014	5145	I26	C475	打製石斧	ホルンフェルス	11.30	3.40	1.00	47.6	完形	背面に自然面が残る 短冊形	219	—
3015	1153	Q40	—	打製石斧	ホルンフェルス	13.00	3.90	1.90	129.8	完形	刃部線状痕背面に自然面 短冊形	220	—
3016	4450	F32	—	打製石斧	ホルンフェルス	(7.30)	4.10	0.80	31.7	刃部欠損	短冊形	220	—
3017	4451	G39	—	打製石斧	ホルンフェルス	14.90	3.90	1.60	131.5	完形	背面に自然面が残る 短冊形刃こぼれ	220	—
3018	4455	J33	—	打製石斧	ホルンフェルス	13.70	4.75	1.70	121.1	完形	裏面に自然面残る	220	—
3019	4459	TR9	—	硯	粘板岩	(2.20)	(3.80)	(0.65)	7.0	断形	使用法　手持ち 砥石に転用 裏面擦痕有り	221	61
3020	4046	I40	E19	硯	粘板岩	(7.90)	5.50	1.03	58.7	折損	使用法 手持ち 欠損（先端）砥石に転用 表・裏・側面擦痕有り	221	61
3021	3176	K41	G472	硯	凝灰岩	(9.10)	(6.20)	(0.80)	68.5	断形	使用法　手持ち 砥石に転用　仕上げ砥 不定形折損	221	61
3022	5142	H25	C475	硯	粘板岩	(8.40)	(4.80)	(0.70)	37.4	折損	使用法　手持ち 砥石に転用　仕上げ砥	221	61
3023	5152	TR1	—	硯	粘板岩	7.50	3.50	1.15	55.1	断形	砥石に転用 裏面に「巳之霜月」 線刻文字有り	221	61
3024	4456	J35	—	紡錘車	滑石	3.80	3.80	1.50	33.5	一部欠損	上部に擦痕 円板に一方の面の中央から高く突出	221	61
3025	4443	G31	E569	石板	粘板岩	(8.90)	(6.5)	0.40	44.2	断形	折損接合 明治以降	221	61
3026	5150	D12	—	石鍋	滑石	(3.20)	(2.05)	1.30	11.4	断形	表・裏面擦痕有り	221	61

第19表　石製品（砥石）観察表

掲載番号	実測番号	グリット	遺構番号	内容	石材	法量 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	研磨面	残存状況	使用法	形状	溝	備考	挿図図版	写真図版
3027	1044	O42	A117	砥石	凝灰岩	(7.10)	(4.00)	1.00	51.20	5面	折損	置き 手持ち	方形	有	正面右上に浅い溝2本有り 研磨されている 裏面右端に幅3mm、深さ1.5mmの深い溝	222	61
3028	3174	K42	G301	砥石	凝灰岩	(5.30)	(5.00)	1.00	33.30	3面	折損	手持ち	方形	無し	表面裏面化 擦痕有り	222	61
3029	4436	J37	E112	砥石	凝灰岩	(6.50)	5.60	1.20	69.20	3面	両端折損	置き	方形	無し	表・裏・側面擦痕有り	222	61
3030	4438	J37	E112	砥石	凝灰岩	(13.70)	3.30	2.90	201.10	4面	両端折損	置き	方形	7本	4面に多数の擦痕有り	222	61
3031	5144	I25	C475	砥石	泥岩	(10.50)	(5.70)	2.00	158.60	4面	折損	手持ち	不定形	無し	4面に擦痕残る	222	61
3032	8043	F5	H79	砥石	凝灰岩	(7.1)	(6.45)	(1.35)	38.10	1面	折損	手持ち	不定形	無し	裏面のみ剥離	222	61
3033	1154	表採	—	砥石	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	(10.00)	5.80	2.20	156.00	5面	折損	手持ち	方形	8本	表面に溝有り 裏面擦痕有り	222	61
3034	2170	P45	F151	砥石	砂岩	(37.5)	(10.5)	8.30	3647.00	4面	折損	置き	不定形	無し	4面に擦痕残る 研磨され1面は鏡面化	223	61

第20表　石製品（石臼）観察表

掲載番号	実測番号	グリット	遺構番号	内容	石材	法量 臼径(cm)	擂径(cm)	器高(cm)	質量(g)	残存状況	部位	芯棒孔	溝	挿図図版	写真図版
3035	1151	P41	A118	石臼	花崗岩	(36.0)	(27.0)	5.90	1613.0	折損	上臼	有り	有り	224	—
3036	1152	R36	A133	石臼	花崗岩	(36.0)	—	4.90	1823.0	折損	下臼	有り	有り	224	—
3037	2163	N49・Q49	F50・F134	石臼	花崗岩	(35.0)	—	7.50	12500.0	完形	下臼	有り	6～7本	225	62
3038	2171	P45	F151	石臼	花崗岩	(36.0)	(28.0)	7.20	6353.0	折損	上臼	有り	4～9本	225	62
3039	3173	K41	G301	石臼	花崗岩	(33.0)	—	4.00	2297.0	折損	下臼	有り	5本	225	—
3040	3177	J41	G472	石臼	花崗岩	(40.0)	(31.0)	6.50	2550.0	折損	上臼	無し	9本	225	—
3041	4445	F28	E1099	石臼	花崗岩	(34.0)	—	7.40	5183.0	折損	下臼	有り	6本	226	—
3042	5146	H27	C479	石臼	花崗岩	(28.0)	(22.0)	7.60	2280.0	折損	上臼	有り	有り	226	—
3043	5147	H27	C479	石臼	花崗岩	—	(28.0)	9.20	2932.0	折損	上臼	有り	有り	226	—
3044	4442	K33	—	石臼	花崗岩	(35.0)	—	5.10	5333.0	折損	下臼	有り	7本	226	62
3045	4462	表採	—	石臼	花崗岩	(34.0)	—	6.60	5216.0	折損	下臼	有り	7本	226	—

第21表　金属製品観察表

掲載番号	実測番号	グリット	遺構番号	内容	法量 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	残存状況	備考	挿図図版	写真図版
4001	1162	P40	A95	鉄砲玉	1.10	1.10	1.10	7.2	完存	表面にくぼみ３ヶ所有り　鉛玉	227	62
4002	2196	P46	F150	和鋏	13.85	2.50	0.76	19.4	完存	刃部分　錆で接着	227	62
4003	4471	F31	E520	煙管	(8.50)	1.08	1.08	5.2	折損	木管は炭化、表面緑青	227	62
4004	4474	I40	E706	煙管	(6.35)	0.90	0.90	3.3	折損	表面緑青	227	62
4005-A	5153-1	D25	C479	馬具？	(6.30)	3.10	0.50	13.1	—	一対のものか？	227	62
4005-B	5153-2	D25	C479	馬具？	(6.85)	3.00	0.40	12.3	—	鐙の金具？ 全面緑青	227	62

第22表　銭貨観察表

掲載番号	実測番号	グリット	遺構番号	銭文	法量 銭径(cm)	内径(cm)	銭厚(cm)	質量(g)	残存状況	初鋳年他	挿図図版	写真図版
4006	3194	I43	G268	寛永通寶	2.50	1.80	0.13	3.1	完存	1674年以降～19世紀後半 緑青	228	62
4007	4472	H30	E569	文久永寶	2.50	2.00	0.09	0.9	折損	青海波文　肉薄緑青 19世紀～幕末	228	62
4008	4473	H30	E569	龍一銭銅貨	2.70	2.40	0.14	5.5	完存	明治６～21年 緑青	228	62
4009	6035	H25	—	天保通寶	(長) 4.80 (短) 3.20	(長) 4.40 (短) 2.80	0.23	19.4	完存	本座広郭 弘化２年以降(富百)	228	62

第５章　自然科学分析

第１節　放射性炭素年代測定

１．はじめに

浦畑遺跡において、掘立柱建物跡内に位置するカマド跡や土間状遺構で炭化材が出土した。炭化材を分析することで、住居の生活年代が推測できる可能性があることから、炭化材の加速器質量分析法（ＡＭＳ法）による放射性炭素年代測定を実施した。分析は、山形秀樹（パレオ・ラボ）が担当した。なお、上恵土城跡からは測定可能な炭化材が出土せず、分析はできなかった。

２．試料

試料は、浦畑遺跡東区の土間状遺構Ｅ130から採取した炭化材１点、土間状遺構Ｅ512から採取した炭化材１点、浦畑遺跡西区の掘立柱建物跡ＳＨ25内に位置する土間状遺構Ｂ530から採取した炭化材１点の計３点である。

３．方法

試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨（グラファイト）に調整した後、加速器質量分析計（ＡＭＳ）にて測定した。

測定された^{14}Ｃ濃度について同位体分析効果の補正を行い、^{14}Ｃ濃度の補正値（基準値-25.0‰）を用いて、同位体分析効果による測定誤差を補正した^{14}Ｃ年代値を算出した。

算出した^{14}Ｃ年代値について、暦年代較正を行った。暦年代較正とは、大気中の^{14}Ｃ濃度が一定で半減期が5,568年として算出された^{14}Ｃ年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}Ｃ濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Ｃの半減期5,730±40年）を較正し、より正確な年代を求めるために、^{14}Ｃ年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のＵ-Ｔｈ年代と^{14}Ｃ年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて^{14}Ｃ年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて^{14}Ｃ年代を暦年代に較正した年代を算出するものである。

４．結果

各試料の同位体分析効果の補正値（δ^{13}Ｃ‰）、同位体分析効果による測定誤差を補正した^{14}Ｃ年代、^{14}Ｃ年代を暦年代に較正した年代を第23表に示した。

^{14}Ｃ年代値（yrBP）の算出は、^{14}Ｃの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した^{14}Ｃ年代誤差（±１σ）は、計数値の標準偏差σに基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。これは、試料の^{14}Ｃ年代が、その^{14}C年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

^{14}Ｃ年代を暦年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3（CALIB 3.0のバージョンアップ版）を使用し

た。なお、暦年代較正値は^{14}C年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、１σ暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその１σ暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。１σ暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示した。

第23表　放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果

測定番号	試　料	δ^{13}C$_{PDB}$ (‰)	^{14}C年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正値	１σ暦年代範囲
PLD - 2015 (AMS)	炭化材 E130	－24.8	450±25	calAD1440	calAD1425-1455（100%）
PLD - 2461 (AMS)	炭化材 E512	－27.1	540±25	calAD1440	calAD1335-1340（12.1%） calAD1400-1425（87.9%）
PLD - 1147 (AMS)	炭化材 E530	－24.0	620±30	calAD1316 calAD1355 calAD1385	calAD1300-1325（42.4%） calAD1345-1370（38.3%） calAD1300-1325（19.3%）

５．考察

① 浦畑遺跡東区の土間状遺構Ｅ130について

出土遺物は白瓷系陶器４点と古瀬戸陶器１点などで、遺構の時期は出土遺物等から中世後期（14～15世紀）と考えた。炭化材の放射性炭素年代測定結果のＡＤ 1,425－1,455は、出土遺物の時期よりやや遅れる。双方の結果より、遺構の時期は、中世後期でも末期（15～16世紀）に近い可能性が高い。

② 浦畑遺跡東区の土間状遺構Ｅ512について

出土遺物は白瓷系陶器181点と古瀬戸陶器７点などで、遺構の時期は出土遺物等から中世後期（14～15世紀）と考えた。炭化材の放射性炭素年代測定結果はＡＤ 1,400－1,425は、白瓷系陶器の脇之島３号窯式の時期と合致した。

③ 浦畑遺跡西区の掘立柱建物跡ＳＨ25内に位置する土間状遺構Ｂ530について

出土遺物は白瓷系陶器21点と古瀬戸陶器１点などで、遺構の時期は出土遺物等から中世後期（14～15世紀）と考えた。炭化材の放射性炭素年代測定結果のＡＤ 1,300－1,325は、白瓷系陶器の大谷洞14号窯式の時期に合致した。

引用文献

中村俊夫　『放射性炭素年代測定法の基礎.日本先史時代の^{14}C年代』、p.3-20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J.　「Extended ^{14}C Database and Revised CALIB3.0 ^{14}C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35,」 p.215-230.

Stuiver,M., Reimer,P.J., Bard,E., Beck,J.W., Burr,G.S., Hughen,K.A., Kromer,B., McCormac,F.G., v.d. Plicht,J., and Spurk,M.　「INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40,」 p.1041-1083.

第２節　花粉化石群集

１．はじめに

上恵土城跡から井戸跡６基・水溜め状遺構６基・溝跡30条、浦畑遺跡東区から井戸跡９基・水溜め状遺構３基・埋設穴遺構５基・溝跡70条、浦畑遺跡西区から井戸跡１基・溝跡55条を確認した。井戸跡・水溜め状遺構・埋設穴遺構・溝跡は、その埋土に植物の花粉化石が残っている可能性が高く、当時の遺跡周辺の植生が明らかになると考えられるため、花粉化石群集の分析を行った。分析は、新山雅広（パレオ・ラボ）が担当した。

２．試料

試料は、上恵土城跡６点、浦畑遺跡東区５点の計11点である。

〈上恵土城跡〉

Ａ地区	井戸跡Ａ228（近世）	埋土最下層から採取した黒褐色砂混じり粘土
	水溜め状遺構Ａ118（近世）	埋土最下層から採取した黒褐色砂混じり粘土
Ｆ地区	溝跡Ｆ65（中世）	埋土最下層から採取した黒褐色シルト質粘土
	井戸跡Ｆ330（中世）	埋土最下層から採取した黒褐色砂混じり粘土
	井戸跡Ｆ34（近世）	埋土最下層から採取した黒褐色砂混じりシルト質粘土
	井戸跡Ｆ151（近世）	埋土最下層から採取した黒褐色砂混じり粘土

〈浦畑遺跡東区〉

Ｇ地区	埋設穴遺構Ｇ483（中世）	埋土から採取した灰黄色粗砂混じり粘土で褐鉄鉱が認められる
	埋設穴遺構Ｇ490（中世）	埋土から採取した黒褐色砂礫混じり粘土で最大径10㎜の礫を含む
	井戸跡G472（近世）	埋土最下層から採取した黒褐色粗砂混じり粘土でひげ根状植物遺体を多く含む。
Ｅ地区	井戸跡Ｅ112（中世）	埋土最下層から採取した黒褐色ないし黒色の砂混じり粘土
	井戸跡Ｅ1075（近世）	底部埋土から採取した黒褐色砂混じり粘土

３．方法

花粉化石の抽出は、試料約２～３ｇを10%水酸化カリウム処理（湯煎約15分）による粒子分離、傾斜法による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理（約30分）による珪酸塩鉱物などの溶解、アセトリシス処理（氷酢酸による脱水、濃硫酸1に対して無水酢酸９の混液で湯煎約５分）の順に物理･化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、重液分離（臭化亜鉛を比重2.1に調整）による有機物の濃集を行った。プレパラート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入した。検鏡は、プレパラート全面を走査し、その間に出現した全ての種類について同定･計数した。その計数結果をもとにして、各分類群の出現率を樹木花粉は樹木花粉総数を基数とし、草本花粉およびシダ植物胞子は花粉･胞子総数を基数として百分率で算出した。ただし、クワ科、バラ科、マメ科は樹木と草本のいずれをも含む分類群であるが、区別が困難なため、

ここでは便宜的に草本花粉に含めた。なお、複数の分類群をハイフンで結んだものは分類群間の区別が困難なものである。

４．結果

上恵土城跡の試料で同定された分類群数は、樹木花粉26、草本花粉25、形態分類で示したシダ植物胞子２である。浦畑遺跡東区の試料で同定された分類群数は、樹木花粉14、草本花粉12、形態分類で示したシダ植物胞子２である。その結果は、第24表・第25表の花粉化石産出一覧表、第17図・第18図の花粉化石分布図に示した。また、産出した花粉化石は写真図版63～65に掲載した。試料名は遺構名を使用した。上恵土城跡と浦畑遺跡は隣接していることから、ここでは、遺跡別ではなく、中世試料と近世試料とに分けて花粉化石群集を記載する。

花粉化石群集の記載

［中世試料（Ｆ65、Ｆ330、Ｇ483、Ｇ490、Ｅ112）］

Ｆ65(溝)は、樹木花粉の占める割合は約34％であり、産出個数はやや少ない。その中で、クリ属とコナラ亜属が17～18％程度で比較的高率である。また、マツ属複維管束亜属は10％弱であるが、マツ属を含めると20％近くを占める。比較的目立つのは、スギ属、ハンノキ属、エノキ属－ムクノキ属、サカキ属－ヒサカキ属などであり、４～８％程度である。草本花粉は、イネ科が40％近くを占めて高率であり、アリノトウグサ属、オオバコ属、ヨモギ属などが４～７％程度で比較的目立つ。他は、ソバ属などが低率で出現する。

Ｆ330、Ｇ483、490、Ｅ112は花粉化石が殆ど産出せず、花粉化石分布図に示すことができなかった。Ｆ330はイネ科のみ、Ｇ483はマツ属とガマ属、Ｇ490はコウヤマキ属、イネ科、クワ科とシダ植物胞子、Ｅ112はアブラナ科のみ僅かに産出した。

［近世試料（Ａ228、Ａ118、Ｆ151、Ｆ34、Ｇ472、Ｅ1075の６点）］

樹木花粉の占める割合は、30～70％前後であり、Ｇ472、Ｅ1075は産出個数がやや少ない。G472を除き、マツ属複維管束亜属ないしマツ属が最も多産する傾向であり、他の５点を合わせると、50～70％程度を占める。比較的高率なのは、コナラ亜属、クリ属、スギ属である。コナラ亜属、クリ属は10％前後であるが、コナラ亜属はＡ118では30％程度を占める。スギ属はＡ118、Ｆ151が20％程度を占めるのに対して、Ａ228、Ｆ34、Ｅ1075は殆どないし全く出現しない。他では、試料によるばらつきがあるが、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ハンノキ属などが比較的目立つ。草本花粉では、イネ科が高率な傾向であり、20～30％前後を占める。他は、試料によるばらつきがあるが、カヤツリグサ科、クワ科、ソバ属、アブラナ科、他のバラ科、アリノトウグサ属などが比較的目立ち、ガマ属、サジオモダカ属などが一部試料で出現する。Ｇ472の樹木花粉は、クリ属が比較的多産し、ハンノキ属、コナラ亜属、マツ属複維管束亜属、スギ属、アカガシ亜属なども産出した。草本花粉は、イネ科が若干目立ち、セリ科、ヨモギ属、タンポポ亜科が僅かに産出した。Ｅ1075の樹木花粉は、マツ属複維管束亜属が多産し、スギ属、ブナ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、カキ属などが僅かに産出した。草本花粉は、イネ科が多産し、ソバ属、アリノトウグサ属が若干目立った。他に、カヤツリグサ科、クワ科、アカザ科－ヒユ科、マメ科が僅かに産出した。

第24表　花粉化石産出一覧（上恵土城跡）

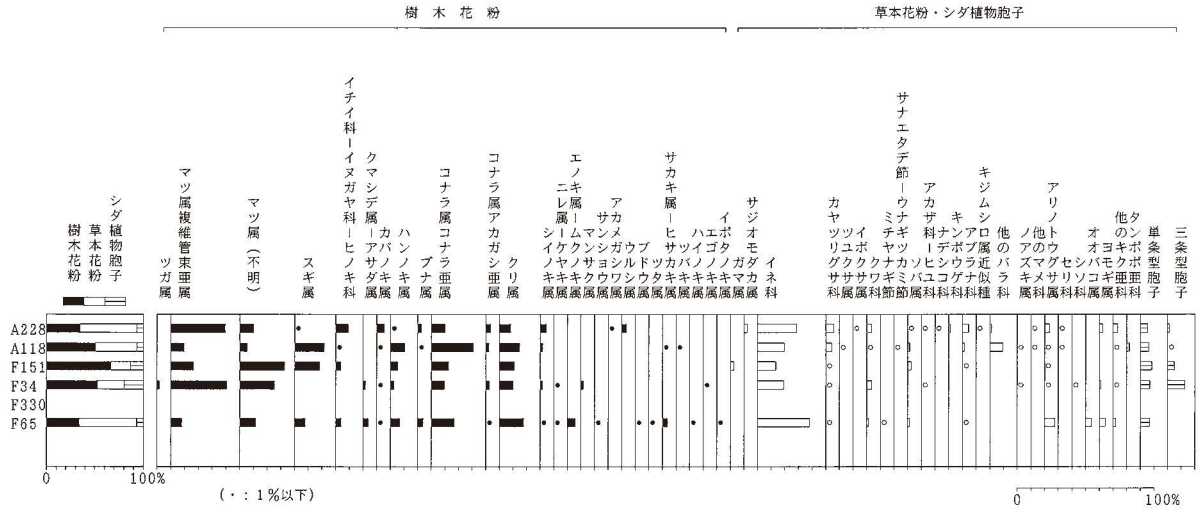
和　　名	学　　名	中　世		近　世			
		F65	F330	A118	A228	F34	F151
樹木							
ツガ属	Tsuga	—	—	—	—	4	—
マツ属複維管束亜属	Pinus subgen. Diplpxylon	8	—	20	43	88	18
マツ属（不明）	Pinus (unknown)	12	—	11	11	55	36
スギ属	Cryptomeria	8	—	45	1	—	20
イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科	T.－C.	4	—	1	10	—	4
クマシデ属―アサダ属	Carpinus－Ostrya	4	—	—	—	4	—
カバノキ属	Betula	1	—	1	6	1	—
ハンノキ属	Alnus	7	—	22	1	6	6
ブナ属	Fagus	4	—	1	3	—	—
コナラ属コナラ亜属	Quercus subgen. Lepidobalanus	17	—	64	11	21	14
コナラ属アカガシ亜属	Quercus subgen. Cyclobalaopsis	1	—	5	4	6	—
クリ属	Castanea	18	—	31	9	22	12
シイノキ属	Castanopsis	1	—	4	5	4	—
ニレ属―ケヤキ属	Ulmus－Zelkova	1	—	—	—	1	—
エノキ属―ムクノキ属	Celtis－Aphananthe	6	—	—	—	—	—
マンサク属	Hamamelis	—	—	—	—	4	—
サンショウ属	Zanthoxylum	1	—	—	—	—	—
アカメガシワ属	Mallotus	—	—	—	1	—	—
ウルシ属	Rhus	—	—	—	4	—	—
ブドウ属	Vitis	1	—	—	—	—	—
ツタ属	Parthenocissus	1	—	—	—	—	—
サカキ属―ヒサカキ属	Cleyera－Eurya	4	—	1	—	—	—
ツバキ属	Camellia	—	—	1	—	—	—
ハイノキ属	Stmplocos	1	—	—	—	—	—
エゴノキ属	Styrax	—	—	—	—	1	—
イボタノキ属	Ligustrum	1	—	—	—	—	—
草本							
ガマ属	Typha	—	—	—	—	4	—
サジオモダカ属	Alisma	—	—	—	—	—	7
イネ科	Gramineae	114	1	79	80	22	90
カヤツリグサ科	Cyperanceae	1	—	4	18	1	19
ツユクサ属	Commelina	—	—	—	1	—	—
イボクサ属	Aneilema	—	—	—	—	—	1
クワ科	Moraceae	4	—	15	1	—	11
ミチヤナギ節	Polygonum sect.Avicularia	1	—	—	—	—	—
サナエタデ節―ウナギツカミ節	Polygonum sect. Persicaria－Echinocaulon	—	—	4	—	—	
ソバ属	Fagopyrum	4	—	—	6	4	1
アカザ科―ヒユ科	Chenopodiaceae－Amaranthaceae	—	—	4	—	—	1
ナデシコ科	Caryophyllaceae	—	—	—	—	—	1
キンポウゲ科	Ranunculaceae	—	—	—	—	—	4
アブラナ科	Cruciferae	2	—	—	5	1	14
キジムシロ属近以種	cf.Potentilla	—	—	—	—	—	1
他ノバラ科	other Rosaceae	—	—	—	39	—	4
ノアズキ属	Dunbaria	—	—	2	4	—	—
他のマメ科	other Leguminosae	—	—	—	1	—	1
アリノトウグサ属	Haloragis	22	—	1	4	1	11
セリ科	Umbelloferae	—	—	—	1	—	1
シソ科	Labiatae	—	—	1	—	—	—
オオバコ属	Plantago	12	—	—	—	—	—
ヨモギ属	Artemisia	13	—	5	—	—	8
他のキク亜科	other Tubuliflorae	6	—	4	4	—	11
タンポポ亜科	Liguliflorae	—	—	—	8	—	—
シダ植物							
単条型胞子	Monolete spore	20	—	29	26	14	17
三条型胞子	Trilete spore	—	—	52	1	8	4
樹木花粉	Arboreal pollen	101	0	217	207	110	109
草本花粉	Nonarboreal pollen	179	1	115	176	33	186
シダ植物胞子	Spores	20	0	81	27	22	21
花粉・胞子総数	Total pollen & Spores	300	1	413	410	165	316
不明花粉	Unknown pollen	68	0	5	18	24	12

T.－C.は Taxaceae－Cephalotaxaceae - Cupresaceae を示す

第25表　花粉化石産出一覧（浦畑遺跡東区）

和　名	学　名	中世 G483	中世 G490	中世 E112	近世 G472	近世 E1075
樹木						
ツガ属	Tsuga	—	—	—	—	1
マツ属複維管束亜属	Pinus subgen. Diplpxylon	—	—	—	3	20
マツ属（不明）	Pinus (unknown)	1	—	—	2	3
コウヤマキ属	Sciadopitus	—	1	—	—	—
スギ属	Cryptomeria	—	—	—	3	1
サワグルミ属―クルミ属	Pterocarya－Juglans	—	—	—	—	1
カバノキ属	Betula	—	—	—	1	—
ハンノキ属	Alnus	—	—	—	5	—
ブナ属	Fagus	—	—	—	—	2
コナラ属 コナラ亜属	Quercus subgen. Lepidobalanus	—	—	—	4	2
コナラ属 アカガシ亜属	Quercus subgen. Cyclobalopsis	—	—	—	2	1
クリ属	Castanea	—	—	—	18	—
シイノキ属	Castanopsis	—	—	—	1	—
カキ属	Diospyros	—	—	—	—	2
草本						
ガマ属	Typha	1	—	—	—	—
イネ科	Gramineae	—	1	—	6	19
カヤツリグサ科	Cyperanceae	—	—	—	—	1
クワ科	Moraceae	—	1	—	—	1
ソバ属	Fagopyrum	—	—	—	—	3
アカザ科―ヒユ科	Chenopodiaceae－Amaranthaceae	—	—	—	—	1
アブラナ科	Cruciferae	—	—	1	—	1
マメ科	Leguminosae	—	—	—	—	—
アリノトウグサ属	Haloragis	—	—	—	—	3
セリ科	Umbelloferae	—	—	—	1	—
ヨモギ属	Artemisia	—	—	—	1	—
タンポポ亜科	Liguliflorae	—	—	—	1	—
シダ植物						
単条型胞子	Monolete spore	—	4	—	5	2
三条型胞子	Trilete spore	—	—	—	—	1
樹木花粉	Arboreal pollen	1	1	0	39	33
草本花粉	Nonarboreal pollen	1	2	1	9	29
シダ植物胞子	Spores	0	4	0	5	3
花粉・胞子総数	Total pollen & Spores	2	7	1	53	65
不明花粉	Unknown pollen	1	1	0	2	7

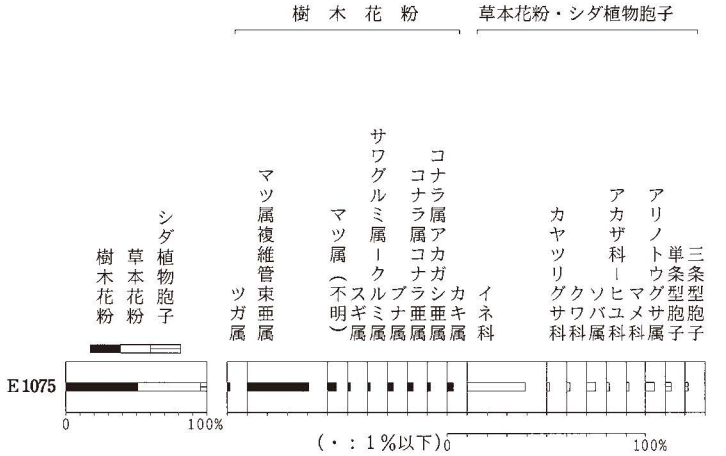
T.－C.はTaxaceae－Cephalotaxaceae－Cupresaceaeを示す



（樹木花粉は樹木花粉総数，草本花粉・胞子は総花粉・胞子数を基数として百分率で算出した）

第17図　花粉化石分布図（上恵土城跡）

近世：A228（井戸）、A118（溝状溜井）、F151（井戸）、F34（井戸）　中世：F330（井戸）、F65（溝）



（出現率は総花粉・胞子数を基数として百分率で算出した）

第18図　花粉化石分布図（浦畑遺跡）

５．考察

［中世の古植生などの推定］

上恵土城跡の北側に存在した溝跡Ｆ65の花粉組成から中世の森林植生について述べる。周辺には、針葉樹のマツ属複維管束亜属、落葉広葉樹のコナラ亜属、クリ属の優占する森林が成立していたと予想される。クリ属は虫媒花であり、おそらく遺跡付近に多くみられたであろう。他に、主要な要素として、針葉樹ではスギ属、落葉広葉樹ではハンノキ属、エノキ属ームクノキ属などが混じっていたと考えられる。常緑については、サカキ属ーヒサカキ属が生育していたが、アカガシ亜属、シイノキ属は殆どみられなかったようである。

草本類についてみると、ソバ属の出現から、Ｆ65（溝）付近でソバ栽培が行われていたと考えられる。比較的目立つアリノトウグサ属、オオバコ属、ヨモギ属は、ソバ栽培が行われるような畑地や、あるいは路傍といった乾き気味の場所に生育していたのであろう。多産するイネ科については、属まで絞り込むことは困難であるが、ススキ、シバといった草地優占種である可能性が考えられる。

なお、Ｆ330、Ｅ112は、花粉化石を殆ど産出しなかった。花粉化石は、水成堆積物であれば良好に保存されるが、花粉化石が殆ど産出しないことから、Ｆ330、Ｅ112の埋土は水成環境で安定して堆積したものとは考え難い。Ｆ330、Ｅ112は井戸であるが、常時滞水していたのではないと推定される。

浦畑遺跡東区に存在した甕の埋設穴遺構Ｇ483、Ｇ490は、いずれも産出した花粉化石は非常に少なく、古植生の推定はできなかった。花粉化石が保存されていないことから、これらの遺構埋土は、水成堆積物の可能性は低いと予想される。なお、Ｇ483は湿地性草本のガマ属を産出したが、安定した水付きの場ではなく、乾燥気味になるとことが多かったのであろう。

［近世の古植生などの推定］

上恵土城跡に存在したＡ228、Ａ118、Ｆ151、F34周辺では、マツ属複維管束亜属が林分を拡大し、卓越するようになったと予想される。また、コナラ亜属、クリ属も引き続き、主要な要素であっただろう。他では、針葉樹のスギ属、イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科、落葉広葉樹のハンノキ属も主要な要素であったと思われるが、試料により、出現率にばらつきがある。これは、井戸跡埋土という狭

い堆積盆の試料であるため、周辺丘陵部からの飛来花粉の集積に、各井戸跡で差異が出てしまった可能性が考えられる。常緑については、アカガシ亜属やシイノキ属などがみられたが、あまり多くはなかったであろう。

草本類についてみると、Ｆ34を除く試料でソバ属が出現しており、各井戸跡の付近でソバ栽培が行われていたと考えられる。また、Ａ228付近では、水生植物（抽水植物）のサジオモダカ属が生育するような水位の低い湿地ないし水溜りも存在していたと予想される。なお、サジオモダカ属はいわゆる水田雑草であり、イネ科も比較的高率であることから、水田であった可能性も考えられる。Ｆ151付近には、ガマ属が生育するような湿地的環境もみられたであろう。

浦畑遺跡東区に存在したＧ472、Ｅ1075では、いずれの試料も産出した花粉化石は少なく、安定して水が張るような井戸ではなかった可能性が考えられる。浦畑遺跡東区周辺の森林植生については、いずれの試料からも産出した針葉樹のマツ属複維管束亜属、スギ属、落葉のコナラ亜属、常緑のアカガシ亜属などが構成要素であり、Ｇ472付近には、虫媒花のクリ属が局地的に多く見られた可能性が考えられる。

栽培状況については、Ｅ1075からカキ属、ソバ属が産出しており、付近でカキノキやソバが栽培されていた可能性が考えられる。なお、比較的多産するイネ科については、属まで絞り込むことは困難であるが、ススキ、シバなどが人の干渉を強く受けるような場所に、アリノトウグサ属などと共に草地を構成していた可能性が考えられる。

第３節　樹種同定

１．はじめに

上恵土城跡、浦畑遺跡東区、浦畑遺跡西区で検出した掘立柱建物跡、カマド施設、土間状遺構、井戸跡から炭化材や木製品が出土した。これらの炭化材や木製品の樹種を分析することによって、当時の周辺の土地事情・植生が明らかにできると考えられるため、樹種同定を行った。分析は、植田弥生（パレオ・ラボ）が担当した。

２．試料

浦畑遺跡西区で検出した掘立柱建物跡ＳＨ25の付随するカマド施設から出土した炭化材５点、浦畑遺跡東区の土間状遺構Ｅ130から出土した炭化材１点、井戸跡Ｅ656から出土した漆器椀の破片１点、上恵土城跡の土坑352から出土した炭化材１点、掘立柱建物跡ＳＨ１の柱穴から出土した柱根３点、掘立柱建物跡ＳＨ６の柱穴から出土した柱根１点、井戸跡Ａ228から出土した曲物の底１点、井戸跡Ｆ34から出土した手桶の取っ手１点の計14点である。

３．方法

樹種同定は、炭化材の３方向の断面を走査電子顕微鏡で拡大し、材組織の特徴を元に同定を行った。横断面（木口）は材の軸方向に直角な平滑面を手で割り作る。接線断面（板目）は年輪線に接する平行

な縦断面であり、放射断面（柾目）は樹芯を通り年輪に直交する縦断面であり、片刃の剃刀を各方向に沿って軽くあて弾くように割り面を出す。この３断面の試料を直径１㎝の真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製　JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った。

炭化していない木製品については、材の３方向を見定めて剃刀を用いて薄い切片を剥ぎ取り、スライドガラスに並べ、ガムクロラールで封入し、永久プレパラート（材組織標本）を作製した。そして光学顕微鏡を用いてこの材組織を40～400倍に拡大して観察を行った。

同定した炭化材の残り破片は財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターに、材組織標本はパレオ・ラボに保管されている。

４．結果

①　浦畑遺跡西区の掘立柱建物跡ＳＨ25の付随するカマド施設から出土した炭化材

樹種同定結果の一覧を、第26表に示した（写真図版66・67）。

掘立柱建物跡の西側に付随するカマド施設から検出された分類群は、針葉樹のモミ属･ヒノキ･アスナロ、落葉広葉樹のコナラ節･クリであった。遺構・遺物と分析された樹種は、カマド部分の石の組み場付近（Ｂ369①）からはアスナロとコナラ節、土間部分（Ｂ530-①46･47･48）から採取された炭化材はすべてヒノキであり、土間部分の南半分に隣接する土坑（Ｂ392①）からはモミ属とクリであった。

第26表　ＳＨ25掘立柱建物跡のカマド施設から出土した炭化材の樹種同定結果

遺　構	樹　種	時　期	備　考
B369①石の組み場近く	アスナ	中世前期	2.5×4.5破片
B530-①46	コナラ	中世前期	放射方向の径3.5cm破片
B530-①47	ヒノキ	中世前期	直径約5cm芯持ち丸木破片
			年代測定試料 PLD-1146
B530-①48	ヒノキ	中世前期	放射方向の径3.5cm破片
B392-①グリットG	モミ属	中世前期～後期	破片
	クリ	中世前期～後期	直径約4cm丸木破片

同定された樹種の材組織記載

モミ属　*Abies* マツ科　写真図版66 1a-1d（B392①）

仮道管・放射柔細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はゆるやかである。放射柔細胞の壁は厚く、放射断面において細胞壁に数珠状肥厚が見られる。分野壁孔は小型のスギ型やヒノキ型で、１分野に１～５個ありその配置は雑然としている。炭化材の場合は、写真１dのように細胞壁表面で割れた断面では数珠状肥厚は確認できないが分野壁孔は孔口の大きさが不揃いで雑然と配置している。放射組織の細胞高は比較的高い。

モミ属は常緑高木で、暖帯から温帯下部の山地に普通に見られるモミ、温帯上部の高山に生育するウラジロモミ・シラベ・アオモリトドマツ、北海道の山地に生育するトドマツの５種がある。いずれの材組織も類似しており区別はできない。材質はやや軽軟で腐りやすい。

ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa* Endl. 写真図版66 2a-2c(530-①48)　3a-3b(530-①46)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は少なく、仮道管の肥厚も目立たない。分野壁孔は孔口がやや斜めに細く開いたヒノキ型で、１分野におもに２個が水平に整然と配列する。

ヒノキは本州の福島県以南・四国・九州のやや乾燥した尾根や岩上に生育し、材は耐久性・切削性・割裂性にすぐれる。

アスナロ　*Thujopsis dolabrata sieb.* et Zucc.　ヒノキ科　写真図版67 4a-4c(B392①)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はゆるやかである。分野壁孔は小さなヒノキ型で、１分野に２～６個ある。

アスナロは日本特産で１属１種である。本州・四国・九州の温帯の山中に生育する常緑高木である。材質は良いがヒノキよりやや劣る。

コナラ属コナラ亜属コナラ節　*Quercus. subgen. Quercus sect. Prinus*　ブナ科　写真図版67 5a-5c(B392①)

年輪の始めに中型の管孔が配列し除々に径を減じ、晩材部では薄壁･角形で小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にチロースがある。放射組織は単列と広放射組織がある。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木で、カシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。材は乾燥すると割れや狂いが出やすい欠点があるが、堅く丈夫なほうである。

クリ　*Castanea crenata Sieb.* et Zucc.　ブナ科　写真図版67 6a-6c(B392①)

年輪の始めに大型の管孔が配列し除々に径を減じてゆき、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく交互状である。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に生育の落葉高木である。材は粘りがあり耐朽性にすぐれている。

② 浦畑遺跡東区と上恵土城跡から出土した炭化材

樹種同定結果の一覧を、第27表に示した(写真図版68・69)。

第27表　出土した炭化材・木製品の樹種同定結果

試　料	遺　跡　区	地区	遺　構　・　遺　物	樹　　種	時期
1	浦畑遺跡東区	E	土間状遺構(E130)・炭化材	マツ属複維管束亜属	中世
8	浦畑遺跡東区	E	井戸跡(E656)漆器椀の破片	トチノキ	近世
2	上恵土城跡	F	土坑(F352)・炭化材	マツ属、ツバキ属、不明広葉樹	中世
3	上恵土城跡	A	柱穴(A221)・柱根	クリ	中世
4	上恵土城跡	A	柱穴(A112)・柱根	クリ	中世
5	上恵土城跡	A	柱穴(A150)・柱根	クリ	中世
6	上恵土城跡	F	柱穴(F243)・柱根	クリ	中世
7	上恵土城跡	A	井戸跡(A228)曲物の底	ヒノキ	近世
9	上恵土城跡	F	手桶の取っ手	ヒノキ	近世

浦畑遺跡東区の土間状遺構Ｅ130から出土した炭化材は、マツ属維管束亜属･マツ属･ツバキ属・不明広葉樹であった。井戸跡Ｅ656から出土した漆器椀の破片はトチノキであった。

以下に同定された樹種の材組織を記載する。

マツ属複維管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科　写真図版68 1a-1c（樹種試料１）

垂直と水平の樹脂道がある針葉樹材。分野壁孔は窓状、放射組織の上下端には放射仮道管がありその有縁壁孔対や内壁に突起状の肥厚の痕跡が見られる。この肥厚の痕跡が認められることから、マツ属の複維管束亜属と同定される。

トチノキ *Aesculus turbinata* Blume トチノキ科　写真図版69 5a-5b（樹種試料８）

漆器片で横断面の切片は作成できなかったが、道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔にらせん肥厚があり、放射組織は単列同性で層階状に配列し、道管と放射組織の壁孔はやや大きく円形で交互状に密在する特徴が観察された。

上恵土城跡の掘立柱建物跡ＳＨ１・ＳＨ６の柱穴から出土した柱根４点は、すべてクリであった。近世井戸跡から出土した曲物の底と手桶の取っ手はヒノキであった。

以下に同定された樹種の材組織を記載する。

試料２は保存が悪く放射仮道管内壁の肥厚の有無が不明瞭であったため、マツ属とした（写真図版69－8）。マツ属には、５葉松のヒメコマツなどが属する単維管束亜属と、３葉松のアカマツとクロマツが属する複維管束亜属がある。

ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa* Endl. 写真図版68 2a-2c（樹種試料7）　3a-3b（樹種試料９）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は少なく、仮道管の肥厚も目立たない。分野壁孔の輪郭は丸く、孔口はやや斜めに細く開き、壁孔縁は厚いヒノキ型、１分野に主に２個ある。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　ブナ科　写真図版68－69 4a-4b（樹種試料４）

年輪の始めに大型の管孔が配列し、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は単列同性である。

ツバキ属 *Camellia* ツバキ科　写真図版69 6a-6c（樹種試料１）

非常に小型の管孔が主に単独で均一に散在する散孔材。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は横棒数が10本ほどの階段穿孔、内腔にはかすかならせん肥厚がある。放射組織は上下端に方形・直立細胞がある異性、１～３細胞幅、結晶を含む膨らんだ細胞があり、道管との壁孔は階段状である。

不明広葉樹　unknown　broad-leaved tree 写真図版69　7a-7c（樹種試料１）

やや小型の管孔が単独または２～３個が複合して散在しているが、節部であるためか年輪界は不明瞭で、散孔材か環孔材の一部なのか不明である。道管は単穿孔、放射組織は主に５～８細胞幅の紡錘形である。

５．考察

①　浦畑遺跡西区から出土した炭化材の樹種同定結果より

当遺跡のカマド施設から出土した炭化材樹種は、針葉樹のモミ属･ヒノキ･アスナロ、落葉広葉樹のコナラ節･クリの合計５分類群であった。

山茶碗窯（13世紀）では燃料材として、マツ属複維管束亜属（アカマツまたはクロマツ）が多く、コナラ節やクヌギ節なども使われている（植田、2001a、2001b、2001cなど）。これれの樹種は里山に普通に生育することから、集落内でも燃料材として使用されていたのではないかと推測された。しかし今回調査した炭化材の樹種構成は、調査点数が少ない事もあるのかも知れないが、窯業活動の燃料材樹種構成とは異なりマツ属複維管束亜属は検出されず、複数種類の針葉樹材が多く検出された。検出された炭化材は、燃料材と共に道具類の一部であったのだろうか。

岐阜県内では、中世の江馬氏館跡（神岡町）の屋内カマド跡付近から出土した炭化材の樹種調査がある。これらは、竈付近や土坑などからまとまって出土したもので燃料材と考えられており、ヒノキ属･マツ属複維管束亜属･コウヤマキの針葉樹や、クリ･コナラ節･モチノキ属などの広葉樹が検出され、特にヒノキ属･クリ･コナラ節の出土が目立っていた（辻ほか、1996）。江馬氏館跡と当遺跡では、主要樹種の構成に類似性が見られる。当遺跡は、出土遺物や16世紀後半にはすぐ南東部に上恵土城が造られることから、地方有力者の屋敷跡であった可能性も高い。出土炭化材の樹種構成の類似性は、この時代の有力者の屋敷内で使われる事の多い樹種利用を反映しているのかも知れない。

② 浦畑遺跡東区と上恵土城跡から出土した炭化材・木製品の樹種同定結果より

中世または近世と思われる試料は、炭化材にはマツ属が目立ち、柱根はすべてクリであり、樹種利用に選択性があったことの表れとも受け止められる。マツは燃料材の代表的樹種であり、クリは耐久性に優れ柱根によく利用されている樹種であり、一般的事例とも符号する。また、近世の木製品３点も、それぞれの器種と樹種の関係が一般的樹種利用と非常によく一致していた。

引用文献

植田弥生 2001a　「K-3・K-G-21の出土炭化材の樹種同定」P.108-114
『三好根浦特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』三好町教育委員会。
植田弥生 2001b　「K-G-66・96出土炭化材の樹種同定」P.82-86
『北部畑総南工区曽和地内発掘調査報告書』三好町教育委員会。
植田弥生 2001c　「広久手18・20・30号窯跡出土炭化材の樹種同定」P.235-246
『広久手18・20・30号窯跡』財団法人 瀬戸市埋蔵文化財センター。
辻　誠一郎・藤根　久・吉川昌伸・村田泰輔 1996
「江馬氏下館の園池堆積物から得られた古環境資料と木炭の樹種」P.147-162
『江馬氏城館跡Ⅱ-下館跡門前地区と庭園の調査-』神岡町教育委員会 富山大学人文学部考古学研究室。

第６章　総括

今回の調査で、上恵土城跡では、中世後期から末期（15世紀から16世紀）の掘立柱建物跡５棟や溝跡など、近世（17世紀から19世紀）の掘立柱建物跡１棟や井戸跡・水溜め状遺構などを確認した。浦畑遺跡東区では、中世後期から末期（15世紀から16世紀）の掘立柱建物跡11棟や井戸跡６基、土間状遺構８基など、近世の掘立柱建物跡３棟や井戸跡3基、礫の入った溝跡７条などを確認した。浦畑遺跡西区では、中世前期～末期（13世紀から16世紀）の掘立柱建物跡９棟やカマド施設、土塁、地境溝の間にある道と考えられる硬化面などを確認した。西区では近世の遺構は、ほとんど確認できなかった。

本章では、中世前期から近世後期にかけて遺構の変遷を概観し、各地区・各種別ごとに遺物の分析を行う。その上で当遺跡の性格を考え、総括としたい。

第１節　遺構の変遷

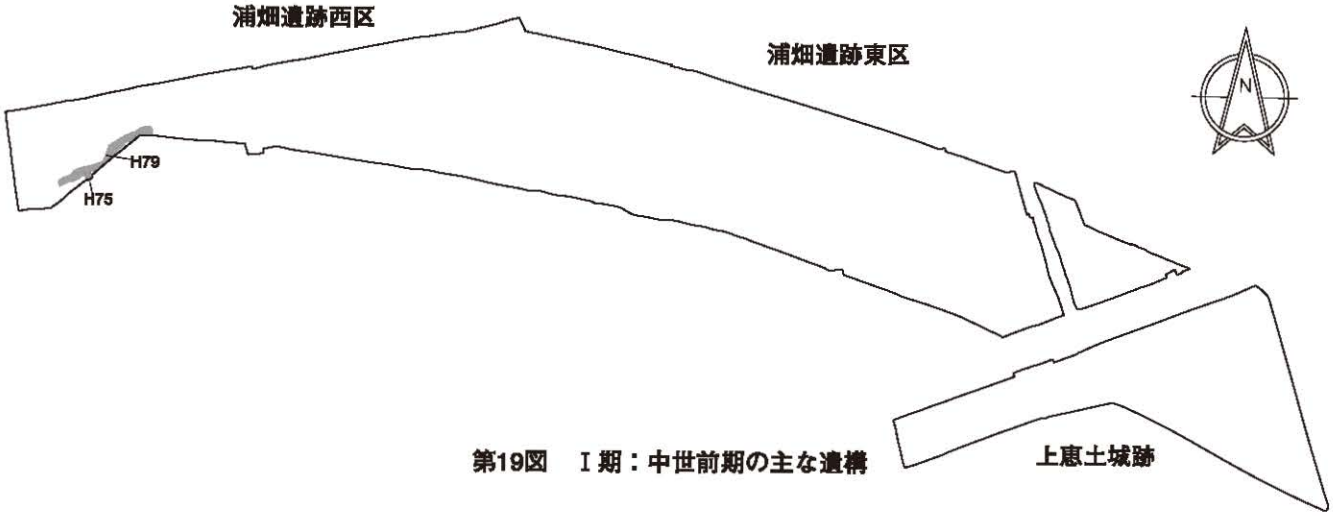
当遺跡は主に遺構の切り合い関係や出土遺物から６つの時期区分（Ⅰ期：中世前期、Ⅱ期：中世後期、Ⅲ期：中世末期、Ⅳ期：近世前期、Ⅴ期：近世中期、Ⅵ期：近世後期）を行った。ここでは時期区分に従って、遺構の変遷を明らかにしようと試みた。第19図から第22図が各時期の遺構図である。しかし、Ⅳ期からⅥ期の遺構図は、細分が難しいため、第22図にまとめた。

Ⅰ期：中世前期（11世紀後半～13世紀中葉）　　第19図

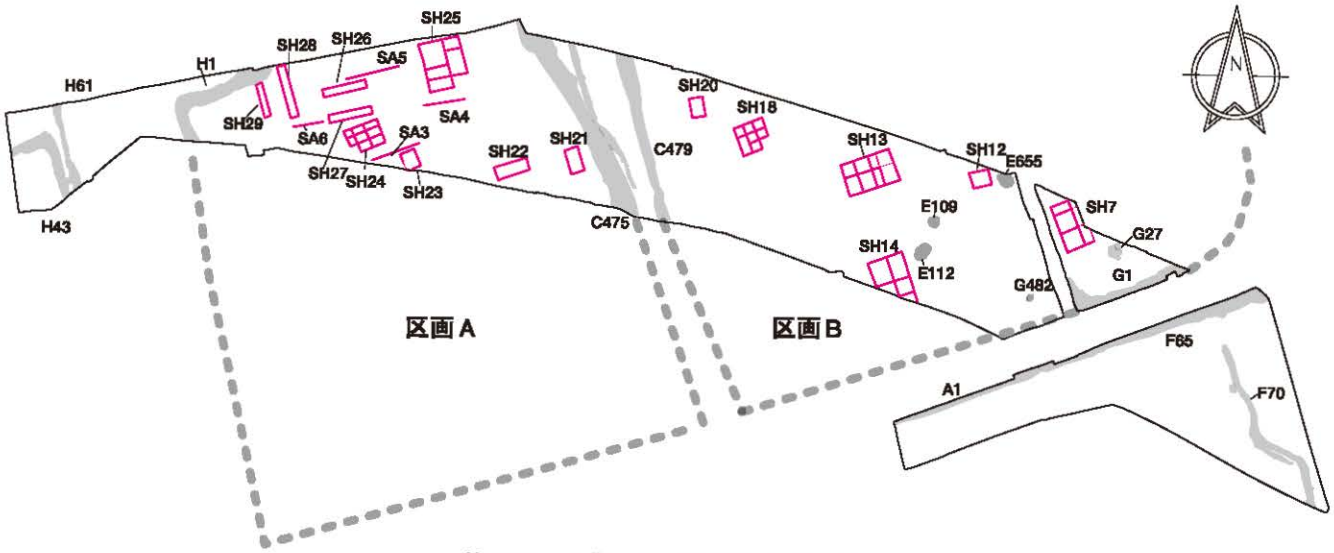
当期に該当する遺構は、浦畑遺跡西区の西端に位置する井戸跡Ｈ75である。出土遺物は、丸石３号窯式や窯洞１号窯式の白瓷系陶器の碗、猿投産である灰釉陶器の三筋壺、青磁碗など確認できた。浦畑遺跡・上恵土城跡から出土しなかった時期の遺物である。当遺跡の初現の遺構と考えられる。さらに調査区外の南側には、当期に該当する遺構が存在していたかもしれない。浦畑遺跡西区の西端は中位段丘面の西端に位置し、北には木曽川が流れ、南には可児川が流れ、当遺跡では最も高い位置にある。当期においては木曽川が見下ろせる位置にあったと思われる。

Ⅱ期：中世後期（13世紀後半～15世紀後半）　　第20図

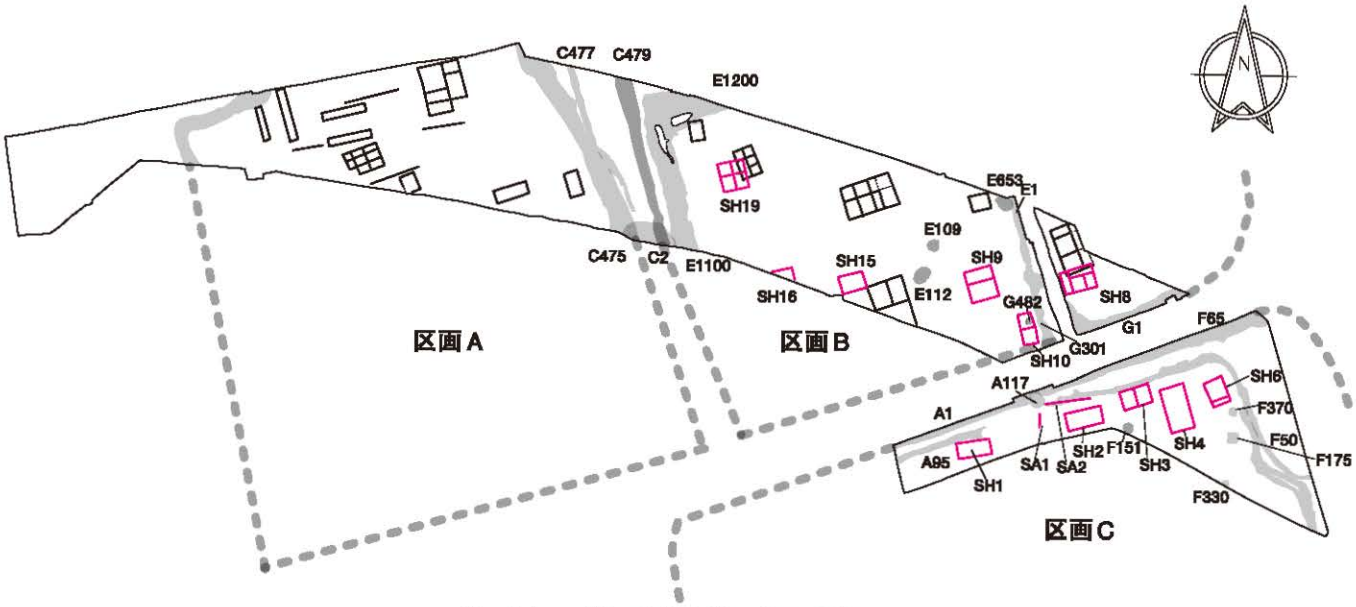
当期は屋敷地もしくは集落が形成された時期である。浦畑遺跡西区では、土塁がＨ区中央南から北へ延び、ほぼ直角に東北東に延びるのを確認した。その内側にはカマド施設や土間状遺構が付随するＳＨ25をはじめ、細長いＳＨ28やＳＨ29が存在する。またＳＨ26とＳＨ27は主軸方向がほぼ同じであることや、柱間がほぼ一致することから同一の建物跡の可能性もある。そうすると、ＳＨ25・ＳＨ28・ＳＨ29とほぼ同じ主軸方向となり、並びを考えた建物と考えられる。遺物はいずれの遺構も古瀬戸後期のものや大谷洞14号窯式や大洞東１号窯式の白瓷系陶器が出土しており、時期も室町時代前半で一致する。ＳＨ25～29の掘立柱建物跡の周りをＳＡ４～６が存在する。ＳＨ21～24やＳＡ３については、若干ＳＨ25～29の主軸方向より少し東を向き異なる様相をみせていることや、遺構の立地位置、



第19図　Ⅰ期：中世前期の主な遺構

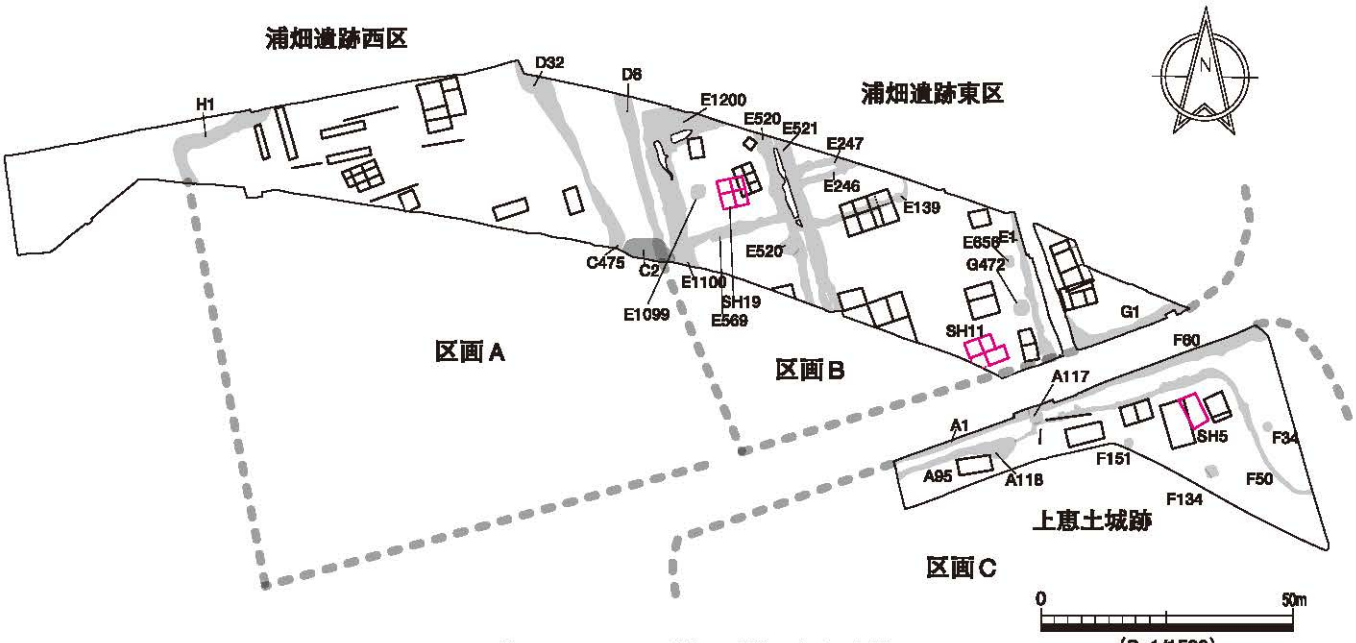


第20図　Ⅱ期：中世後期の主な遺構



第21図　Ⅲ期：中世末期の主な遺構

0　50m
(S=1/1500)



第22図　Ⅳ～Ⅵ期：近世の主な遺構

埋土、出土遺物の時期が15世紀のものもあることから、ＳＨ25～ＳＨ29の建物跡群より、後に形成されたものと考えられる。以上のＳＨ21～29を囲むかのように土塁と南南東方向に溝跡Ｃ475が存在する。とすると室町時代前半に、区画80ｍ四方の屋敷地もしくは集落地が存在していたのではないかと考えられる。ただ、生活に必要な井戸跡は確認できなかった。一つ考えられることは、土塁が東北東に延びていることからもっと調査区外の北側に建物跡や井戸跡が存在しているかもしれないことである。そうすれば、井戸跡が確認でなかった不自然さが解消できる。浦畑遺跡西区と東区の境付近には、溝跡Ｃ475の10ｍ程東側に硬い岩盤の基盤層を約60㎝掘り込んだ溝跡Ｃ479が存在していた。地境溝Ｃ475とＣ479の間には硬化面が南北に続いて確認できたことから、室町時代前半より道としての機能を有していたかもしれない。

浦畑遺跡東区では桁行５間×梁行３間の掘立柱建物跡ＳＨ７をはじめ、桁行５間×梁行３間のＳＨ13と当遺跡の掘立柱建物跡の中でもかなり大きな建物跡や土間状遺構が確認でき、しかも古瀬戸後期の天目茶碗など茶道具の遺物や香炉類や中世土師器も出土していることから武家の屋敷跡とも考えられる。他にＳＨ９、ＳＨ10、ＳＨ12、ＳＨ13、ＳＨ14、ＳＨ18、ＳＨ20の掘立柱建物跡を確認しており、建物跡ごとの間隔幅が20ｍ程離れ、ほぼ100ｍ弱ぐらいの方形の区画に立地しており、区画90～100ｍの屋敷地もしくは集落地の様相を見せている。

上恵土城跡では、北側に位置する中世後期の溝跡Ａ１・Ｆ65や東側に位置する溝跡Ｆ70が確認できた。浦畑遺跡東区の南側にも溝跡Ｇ１が確認できたことから、この間に道が存在し現在に至っているとも考えられる。この時期（Ⅱ期）に築城されていたかは不明であるが、この城跡の掘立柱建物跡は室町時代後半の時期のものが多く、Ⅱ期末頃からⅢ期を中心に存在したものと考えられる。

Ⅲ期：中世末期（16世紀前半～後半）　第21図

当期は浦畑遺跡では、屋敷地もしくは集落地が浦畑遺跡西区から東区へ広がり、上恵土城跡では、城館跡が形成された時期である。屋敷地もしくは集落地が浦畑遺跡西区から東区へ広がったと考えら

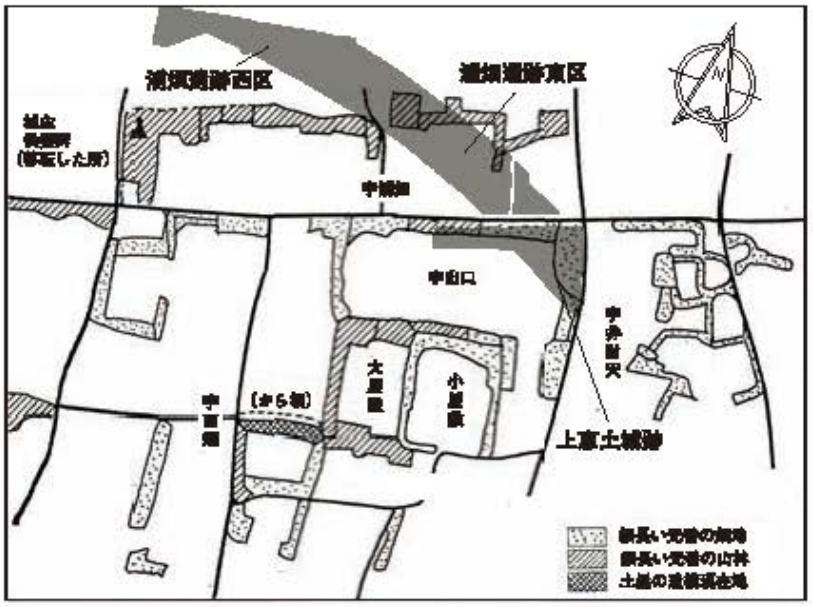
れる根拠は、

①ＳＨ８、ＳＨ９、ＳＨ10、ＳＨ11、ＳＨ15、ＳＨ16、ＳＨ19の掘立柱建物跡が当時期に該当していいること。

②地境溝跡Ｅ１・Ｇ301が造られ、埋土から天目茶碗、香炉など大窯の遺物や中世土師器Ⅲ（ロクロ）など室町時代後半の遺物が確認できたこと。

である。

一方上恵土城跡では、ＳＨ１～４、６が存在する建物跡からは大窯の遺物や白瓷系陶器の碗（脇之島３号窯式や生田２号窯式など）、中世土師器Ⅲ、溝跡Ａ95の溝跡からの鉄砲玉などが出土したことから、室町時代後半及び戦国期に生活が営まれていたと考えられる。しかもＦ65溝跡（堀跡と推定される）の南側と溝跡Ｆ50との間では、遺構が殆ど見つからなかった。この場所は、ＳＨ１～４、６の建物跡を囲んでいることや上恵土城跡周辺の細長い地割りの部位と一致することから（第23図）、上恵土城跡を囲む土塁の基底部と考えられる（第３章遺構編第３節上恵土城跡Ｆ65遺構記述）。建物跡に関しては、主軸の向きがほぼ同じで、一連の建物群とみられる。また溝跡（堀跡）・土塁に沿って立てられていることや、ＳＨ１・２の調査区外南には掘立柱建物跡が存在し（2003御嵩町教育委員会調査報告）、主軸の向きもほぼ同じであることから城館跡と考えられる。



第23図　同遺跡調査区と上恵土城跡周辺の細長い地割り
（「御嵩町史　通史編　上」を引用改変）

確認した遺構配置や上恵土城跡周辺の細長い地割り（第23図）から、この上恵土城跡の区画は100ｍ四方の城館跡であり、南側城館中心部『大屋敷・小屋敷』に至る。それは、前述した溝跡Ｃ475と溝跡Ｃ479の10ｍ幅間には硬化面が確認できたことから、室町時代後半（戦国時代）には、後に中山道となる道から上恵土城跡への進入道が存在していたとも考えられる。その後、1582年６月に時の金山城主（可児郡兼山町）の森長可は上恵土城（城主、長谷川五郎右衛門）を攻めて、ひとたまりもなく全滅したと『金山記』に記されていることから、上恵土城は廃絶したと考えられる。

Ⅳ期：近世前期（17世紀前半～後半）　　第22図

当期は、浦畑遺跡の屋敷・集落が衰退し、林地や畑地となり、上恵土城跡でも城館が廃絶し、17世紀後半より建物が構築された時期である。浦畑遺跡西区では、近世前期の遺物が溝跡Ｃ474・Ｃ475・

Ｃ479の上層で出土したものの、西区全体では殆ど出土しなかったこと、花粉化石分析による近世の古植生の結果から（第５章、第２節参照）、クリ属等がみられる森林地やカキノキ・ソバなどの畑地であったと考えられる。浦畑遺跡東区ではＳＨ11、ＳＨ15、ＳＨ16、ＳＨ17の掘立柱建物跡を確認し、近世井戸跡Ｅ1099・Ｅ1075・Ｇ472が近世前期～後期にかけて確認できていることから、再び集落を形成されたと考えられる。

上恵土城跡では、近世陶器：瀬戸美濃連房第１段階の遺物（17世紀前半）が全体に比べて少ない。それは、上恵土城が16世紀末に廃城になったことにより、建物が存在しない空白の時期があったものと考えられる。

Ⅴ：近世中期（17世紀末葉～18世紀前半）　第22図

当期は、浦畑遺跡東区と上恵土城跡で、区画溝を伴った集落が形成された時期である。浦畑遺跡西区は、近世前期と変わらずクリ属等がみられる森林地やカキノキ・ソバなどの畑地であったと考えられる。浦畑遺跡東区では、引き続きＳＨ11、ＳＨ15、ＳＨ19の掘立柱建物跡が存在し、その周囲に溝跡Ｅ520・Ｅ521・Ｅ１・Ｅ139、近世井戸跡Ｅ1099・Ｅ1075・Ｇ472が近世前期～後期にかけて存在していることから、より区画溝を伴った集落を形成していたと考えられる。当地区南側には、柱穴と考えられる遺構が多く確認されたが、攪乱に切られ建物跡を確認できなかった。建物が存在していた可能性もある。

上恵土城跡では、近世陶器：瀬戸美濃連房第２～３段階の遺物は多く確認できた。井戸跡Ｆ151や井戸跡Ｆ34も確認でき、枝分かれしていた中近世溝跡Ｆ70も近世溝跡Ｆ50に収束した。このことから、より明確になった区画溝が存在する集落跡が形成されたと考えられる。近世時期では土塁想定部下より近世井戸跡が確認できたことにより、土塁が取り除かれた可能性がある。

Ⅵ期：近世後期（18世紀後半～19世紀後半）　第22図

当期は、浦畑遺跡東区と上恵土城跡で、区画溝を伴った集落が継続して存在した時期である。浦畑遺跡西区は、近世前期～中期と変わらない様相と考えられる。浦畑遺跡東区では、建物跡の周囲に、Ｅ520・Ｅ521・Ｅ１・Ｅ139をはじめ、さらにＥ246・Ｅ247・Ｅ569など区画溝が細分化されたと考えられる。屋敷・畑地の区画が進み、南側の道沿いに集落を形成していったのではないかと考えられる。

上恵土城跡でも、井戸跡Ｆ151や井戸跡Ｆ34が引き続き存在し、近世溝Ｆ50が区画溝の機能と同時に、上層埋土より礫や瀬戸美濃連房第３段階の遺物を多く確認したことから、排水機能をより持つようになったと考えられる。より明確になった区画溝を周囲とする集落跡が形成されていたと考えられる。

第２節　遺物の分析

本節では出土遺物を上恵土城跡・浦畑遺跡東区・浦畑遺跡西区ごとと時期ごとや産地・器種ごとに計量し、その結果から推定されることを述べてみたい。

遺物の計量方法について

計量方法にはいろいろあるが、当遺跡では口縁部計測識別法、破片数計測方法、残存底部計測識別法の３つを使用して計量を行った。１つ目の口縁部計測識別法として、本報告では円周５㎜単位、放射線30度単位で多重の同心円を12分割し、残存する口縁周の長さ（口縁残存率1.5とは、1.5/12にあたり、この場合口縁部は円周45°残存していることとなる。）を復元した。口縁周の長さで割ったものを個体数として算出する方法を用いた。口縁残存率は小数点第１位まで求め、0.3/12以下（約10°）の破片は分類や口径の判断が困難のため、計量の対象から除外した。以上の口縁部計測識別法を口縁部が残存する中近世陶器全ての遺物において実施した。

２つ目の破片数計測方法は、口縁部や体部破片の接合後の破片数を全てカウントする方法である。各破片から時期を求めるには限界があるため、時期判断については困難のため除外した。

３つ目の残存底部計測識別法は、白瓷系陶器の碗・皿については、時期ごとに底部の形状が異なるため時期分類を実施した。残存底部周を４分割し、残存する底部周の長さ（口縁残存率0.5、これは2/4残存していることになる。１となるときは完形となる。）から底部残存率を復元した。

以上の３つの計量方法を実施したが、次のような課題があった。均質手白瓷系陶器の皿の明和１号窯式以降の口縁部・底部形態の分類が困難であるため、明和１号窯式以降としたり、それぞれ分類の際に微妙に時期がどちらかに決定できない場合があったりするなど客観性に乏しいため、方法の限界性がつきまとう。よりよいデータの信頼性を高めていくのだが、今回の遺物の計量は遺跡の性格付けの一手段であり、あくまでの概観把握を目的としていることを留意したい。

各地区の時期別遺物量の変化

当遺跡の出土遺物は大半が中世から近世に属するため、ここでは12世紀末以降の遺物の概要を述べたい。第３表に示したように、中世の時期（12世紀から16世紀までの約500年間）を３期に分けた。その時期に該当する各地区別の白瓷系陶器の碗・皿の型式分類を示したのが第28表である。Ⅰ期～Ⅲ期に該当する型式は次のとおりである。

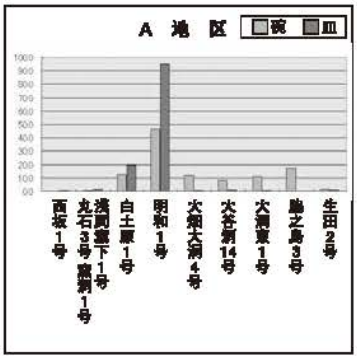
Ⅰ期：中世前期（平安時代末期～鎌倉時代前半、11世紀後半～13世紀中葉）
　　白瓷系陶器の碗・皿（第３～６型式、西坂１号窯式～白土原１号窯式）
Ⅱ期：中世後期（鎌倉時代後半～室町時代前半、13世紀後半～15世紀前半）
　　白瓷系陶器の碗・皿（第７～10型式、明和１号窯式～大洞東１号窯式）
Ⅲ期：中世末期（室町時代後半及び（応仁の乱後）戦国・安土桃山時代、15世紀後半～16世紀後半）
　　白瓷系陶器の碗・皿（第11型式、脇之島３号窯式・生田２号窯式）

第28表から、Ⅰ期にあたる白瓷系陶器では、浅間窯下１号窯式～白土原１号窯式の型式の出土比率が、他の地区に比べＨ地区が極めて多い。特に棒グラフＨ計測地点全体を参照されたい。浦畑遺跡西区（Ｂ・Ｃ・Ｄ地区）でもＤ地区はⅠ期の遺物は少ないが、Ｂ・Ｃ地区は比較的他の地区に比べてⅠ期の遺物が多いことから、屋敷地もしくは集落の発祥は、浦畑遺跡西端から始まったことが白瓷系陶器の分類結果からもいえよう。

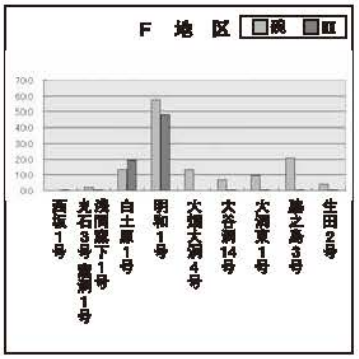
第28表　白瓷系陶器（碗・皿）の地区・窯式別出土量（底部残存率より算出）

上高土城跡

窯式	A 地区		
	碗	皿	合計
西坂１号	0.0	0.5	0.5
浅間窯下1号 丸石３号 窯洞１号	0.3	1.4	1.7
白土原１号	12.2	19.2	31.4
明和１号	46.4	94.9	141.3
大畑大洞4号	11.9	0.3	12.2
大谷洞14号	8.5	0.8	9.3
大洞東１号	10.9	0.3	11.2
臨之島3号	17.3	0.0	17.3
生田２号	1.3	0.9	2.2

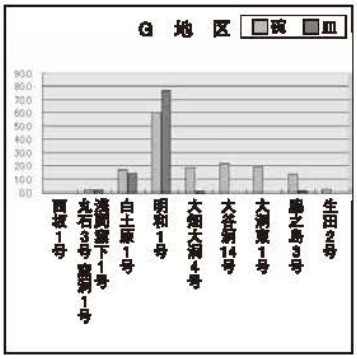


窯式	F 地区		
	碗	皿	合計
西坂１号	0.0	0.5	0.5
浅間窯下1号 丸石３号 窯洞１号	2.2	0.5	2.7
白土原１号	13.7	19.5	33.2
明和１号	57.8	48.5	106.3
大畑大洞4号	13.7	0.0	13.7
大谷洞14号	6.9	0.3	7.2
大洞東１号	9.5	0.5	10.0
臨之島3号	20.6	0.5	21.1
生田２号	4.4	0.3	4.7

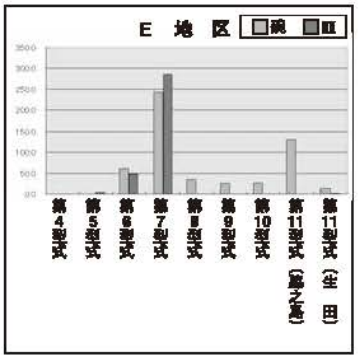


浦畑東

窯式	G 地区		
	碗	皿	合計
西坂１号	0.0	0.0	0.0
浅間窯下1号 丸石３号 窯洞１号	1.8	1.5	3.3
白土原１号	16.9	14.3	31.2
明和１号	60.4	77.0	137.4
大畑大洞4号	18.6	0.5	19.1
大谷洞14号	21.8	0.0	21.8
大洞東１号	18.8	0.0	18.8
臨之島3号	13.3	0.9	14.2
生田２号	2.4	0.0	2.4

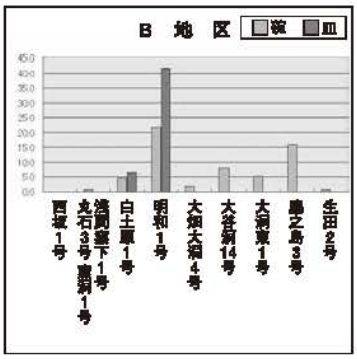


窯式	E 地区		
	碗	皿	合計
第４型式	0.0	0.0	0.0
第５型式	0.0	3.7	3.7
第６型式	61.5	48.4	109.9
第７型式	243.7	286.5	530.2
第８型式	34.3	0.0	34.3
第９型式	25.5	0.3	25.8
第10型式	27.2	0.0	27.2
第11型式（臨之島）	130.5	0.5	131.0
第11型式（生　田）	12.7	0.8	13.5

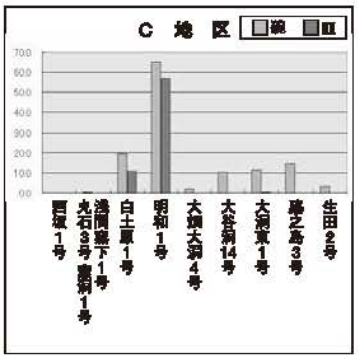


浦畑西

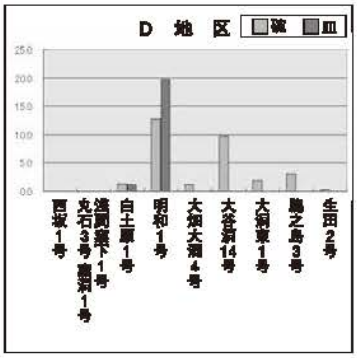
窯式	B 地区		
	碗	皿	合計
西坂１号	0.0	0.0	0.0
浅間窯下1号 丸石３号 窯洞１号	0.8	0.0	0.8
白土原１号	4.6	6.5	11.1
明和１号	21.9	41.6	63.5
大畑大洞4号	1.9	0.0	1.9
大谷洞14号	8.2	0.0	8.2
大洞東１号	5.3	0.0	5.3
臨之島3号	15.9	0.0	15.9
生田２号	0.6	0.0	0.6



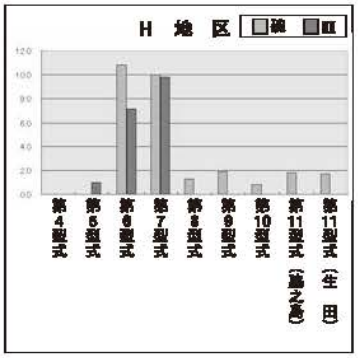
窯式	C 地区		
	碗	皿	合計
西坂１号	0.0	0.0	0.0
浅間窯下1号 丸石３号 窯洞１号	0.5	0.0	0.5
白土原１号	19.4	10.8	30.2
明和１号	64.9	56.9	121.8
大畑大洞4号	2.1	0.0	2.1
大谷洞14号	10.2	0.0	10.2
大洞東１号	11.4	0.3	11.7
臨之島3号	14.7	0.0	14.7
生田２号	3.3	0.0	3.3



窯式	D 地区		
	碗	皿	合計
西坂１号	0.0	0.0	0.0
浅間窯下1号 丸石３号 窯洞１号	0.0	0.0	0.0
白土原１号	1.3	1.1	2.4
明和１号	12.8	19.7	32.5
大畑大洞4号	1.1	0.0	1.1
大谷洞14号	9.7	0.0	9.7
大洞東１号	1.9	0.0	1.9
臨之島3号	3.0	0.0	3.0
生田２号	0.3	0.0	0.3



窯式	H 地区		
	碗	皿	合計
第４型式	0.0	0.0	0.0
第５型式	0.0	1.0	1.0
第６型式	10.8	7.1	17.9
第７型式	10.0	9.8	19.8
第８型式	1.3	0.0	1.3
第９型式	1.9	0.0	1.9
第10型式	0.8	0.0	0.8
第11型式（臨之島）	1.8	0.0	1.8
第11型式（生　田）	1.7	0.0	1.7



Ⅱ期の時期にあたる白瓷系陶器の碗・皿（第７～10型式、明和１号窯式～大洞東１号窯式）については、どの地区にも多く出土している。特に明和１号窯式の白瓷系陶器の碗・皿は多く普及したと思われる。また大畑大洞４号窯式～大洞東１号窯式まで出土しており、生活が連綿と営まれていたと考えられる。ただ皿の分類は先述のとおり、明和１号窯式以降とし、時期幅は限定できないため、明確に時期は判断できないことを補足したい。

Ⅲ期の時期にあたる白瓷系陶器の碗・皿（脇之島３号窯式・生田２号窯式）については、Ｆ地区・Ｅ地区が全体に比べ多く出土していることから、中世末（15世紀後半～戦国期の初期）に上恵土城跡及び浦畑遺跡東区に城館跡・集落跡が存在したことを裏付ける一つの根拠となりえよう。

第29表は、大窯陶器の時期分類と器種分類を行ったものである。大窯陶器とは以下の既存の研究より、次の年代観とした（注２）。

大窯第１段階（1480～1530年）、大窯第２段階（1530～1560年）、大窯第３段階（1560～1590年）、大窯第４段階（1590～1610年）　（注２）財団法人瀬戸市文化財保護センター研究紀要第10号をもとにした。

この結果から、浦畑遺跡西区（Ｈ・Ｂ・Ｃ・Ｄ地区）は、Ｃ区を除いて、全体に比べ大変出土量が少ない。中世末にはこの地区では屋敷・集落が衰退していたのであろう。しかし、Ｃ区にはやや大窯期の遺物が出土していることは、溝跡Ｃ475と溝跡Ｃ479から出土したものが多いことから、南側の城館に通じる道跡に併行して走る溝が機能していたとも考えられる。全体を通じて、上恵土城跡（Ａ・Ｆ地区）と浦畑遺跡東（Ｅ地区）からの出土が大変多いことから、中世末期には城館跡、集落・屋敷跡が存在していた根拠の一つとしてあげよう。特に上恵土城跡（Ａ・Ｆ地区）は大窯第２～４段階の皿類や鉢類が多い。第１節の遺構の変遷で前述した『金山記』には1580年代にひとたまりもなく全滅したと記されていることから、おおよそ出土遺物の時期と一致する。ただ大窯第４段階の時期が合致しないが、後に建物が立てられ生活が営まれたたか、後に混入したか、または分類上の問題かは定かではない。

第30表は、中世末期の時期に出土した地区別遺物の組成である。

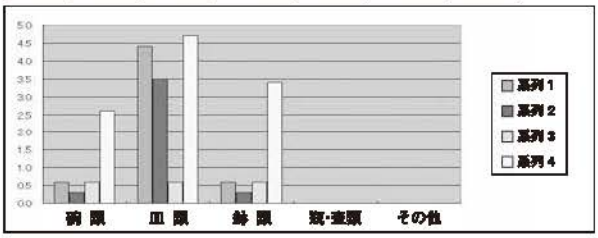
中世末に入る遺物として、白瓷系陶器の碗・皿（第11型式、脇之島３号窯式・生田２号窯式）、古瀬戸後期、常滑陶器10・11型式、瀬戸美濃大窯、土師器皿等である。

産地組成のうち中世末期で最も多いのはどの地区も、白瓷系陶器の碗・皿で以下、中世土師器皿、古瀬戸、瀬戸美濃大窯、常滑の順におおよそなる。全体に占める割合は、白瓷系陶器の碗・皿が64％、21％、８％、６％、１％である。白瓷系陶器の碗・皿が最も多いのは生産地を有する美濃地方の中世集落と同じ様相であると言える。また土師器皿が全体の21％、特に上恵土城跡では31％と浦畑遺跡より比率が高く、これは城館跡と屋敷もしくは集落との違いであろう。というのは、「土師器皿の機能は具体的には、飲食器としては一度使うと汚れが染みこむので、再使用しないのが原則で清浄の象徴として伝統的な儀式や宴会の膳等のハレの場で使われた。」「土師器皿の階層による使用の違いは階層性の重要な指標である。」（1991年小野正敏：『城館出土の陶磁器が表現するもの』参照）とされ、武家屋敷とは断定できないが、その可能性が極めて高い。ちなみに福井県一乗谷における土師器皿の比率は、朝倉氏武家屋敷は50％前後とされている。岐阜県においても同様なことが考えられ、16世紀初頭に守護所であったとされる岐阜市城之内遺跡でも同様な高い比率が明らかにされている。そこで上恵

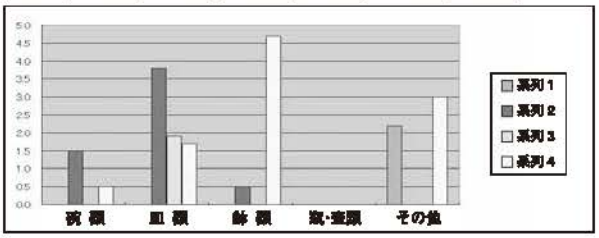
第29表　大窯の地区・段階別出土量（口縁部残存率より算出）

上高土城跡

段階	A 地 区					
	碗 類	皿 類	鉢 類	瓶・壺類	その他	合 計
1	0.6	4.4	0.6	0.0	0.0	5.6
2	0.3	3.5	0.3	0.0	0.0	4.1
3	0.6	0.6	0.6	0.0	0.0	1.8
4	2.6	4.7	3.4	0.0	0.0	10.7

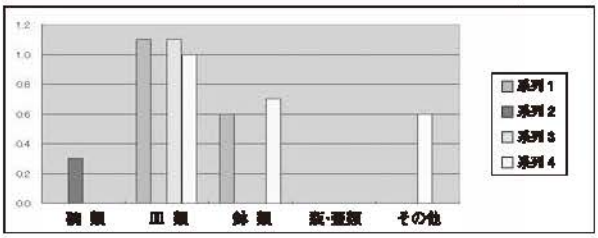


段階	F 地 区					
	碗 類	皿 類	鉢 類	瓶・壺類	その他	合 計
1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	2.2
2	1.5	3.8	0.5	0.0	0.0	5.8
3	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9
4	0.5	1.7	4.7	0.0	3.0	9.9

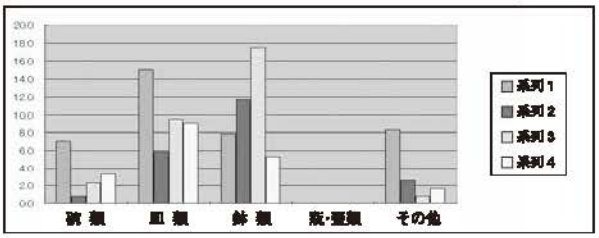


浦畑東

段階	G 地 区					
	碗 類	皿 類	鉢 類	瓶・壺類	その他	合 計
1	0.0	1.1	0.6	0.0	0.0	1.7
2	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
3	0.0	1.1	0.0	0.0	0.6	1.7
4	0.0	1.0	0.7	0.0	0.0	1.7

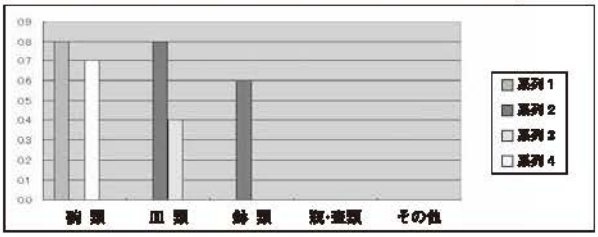


段階	E 地 区					
	碗 類	皿 類	鉢 類	瓶・壺類	その他	合 計
1	7.1	15.0	7.9	0.0	8.3	38.3
2	0.8	5.9	11.7	0.0	2.6	21.0
3	2.3	9.5	17.5	0.0	0.8	30.1
4	3.3	9.1	5.3	0.0	1.6	19.3

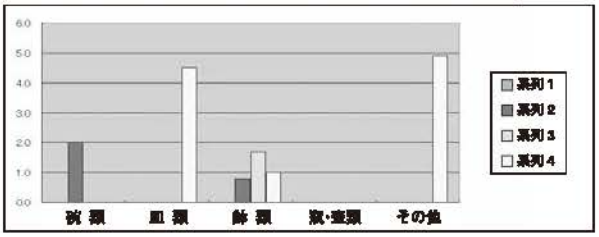


浦畑西

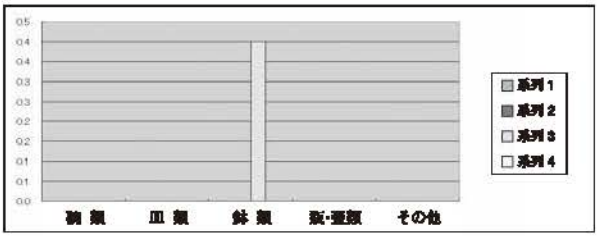
段階	B 地 区					
	碗 類	皿 類	鉢 類	瓶・壺類	その他	合 計
1	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
2	0.0	0.8	0.6	0.0	0.0	1.4
3	0.7	0.4	0.0	0.0	0.0	1.1
4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



段階	C 地 区					
	碗 類	皿 類	鉢 類	瓶・壺類	その他	合 計
1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	2.0	0.0	0.8	0.0	0.0	2.8
3	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	1.7
4	0.0	4.5	1.0	0.0	4.9	10.4



段階	D 地 区					
	碗 類	皿 類	鉢 類	瓶・壺類	その他	合 計
1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.4
4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



段階	H 地 区					
	碗 類	皿 類	鉢 類	瓶・壺類	その他	合 計
1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

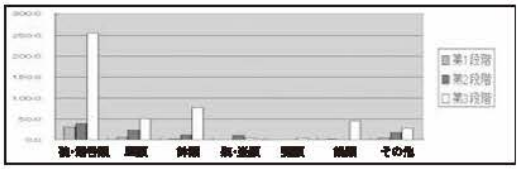
第30表　中世末期の地区別遺物・産地組成

産地・型式 ＼ 地区名	上恵土城跡		浦畑遺跡東区		浦畑遺跡西区				全地区
	(A地区)	(F地区)	(G地区)	(E地区)	(C地区)	(D地区)	(B地区)	(H地区)	
底部残存率計　白瓷系陶器(11型式藤之島・生田)(データを12倍し口縁部残存率と合致)	234.0	309.6	199.2	1734.0	216.0	39.6	198.0	42.0	2972.4
口縁部残存率計　古瀬戸(後期)	27.6	42.1	44.4	210.2	30.3	6.3	4.1	2.3	367.3
口縁部残存率計　常滑陶器(10～12型式)	11.1	12.2	0.4	8.1	29.3	0.0	1.0	0.7	62.8
口縁部残存率計　瀬戸美濃大窯	49.2	39.3	12.5	148.5	19.5	0.4	4.6	1.9	275.9
口縁部残存率計　中世土師器皿	157.1	168.1	83.6	465.2	67.0	6.1	35.6	8.7	991.4
合　計	479.0	571.3	340.1	2566.0	362.1	52.4	243.3	55.6	4669.8
中世土師器皿の他全出土遺物との量比率	33%	29%	25%	18%	18%	12%	15%	16%	21%
	31%		19%		16%				

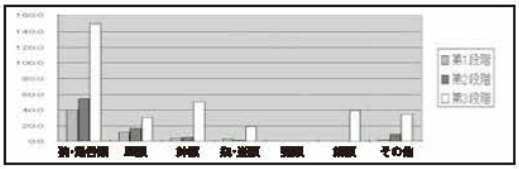
第31表　連房陶器の地区・段階別出土量(口縁部残存率より算出)

上恵土城跡

段階	A 地 区							
	碗・湯呑類	皿類	鉢類	瓶・壺類	甕類	鍋類	その他	合計
第1段階	30.8	5.3	1.7	0.0	0.0	0.8	3.5	42.1
第2段階	38.9	22.8	11.2	10.7	0.0	0.0	17.6	101.2
第3段階	255.6	50.3	77.0	3.9	4.0	45.1	27.4	463.3

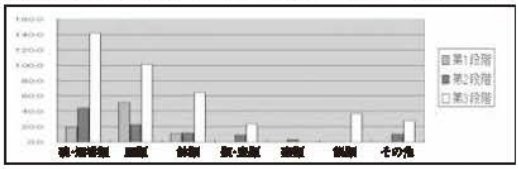


段階	F 地 区							
	碗・湯呑類	皿類	鉢類	瓶・壺類	甕類	鍋類	その他	合計
第1段階	40.1	11.7	4.3	3.0	0.0	0.0	2.2	61.3
第2段階	54.8	16.7	4.9	1.0	0.0	0.0	9.3	86.7
第3段階	149.4	30.6	50.4	18.6	0.0	39.2	34.6	322.8

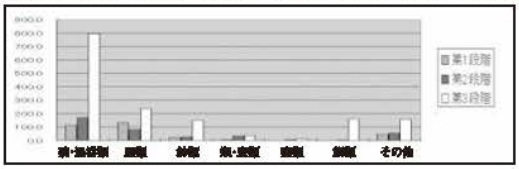


浦畑東

段階	G 地 区							
	碗・湯呑類	皿類	鉢類	瓶・壺類	甕類	鍋類	その他	合計
第1段階	19.1	51.4	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9
第2段階	44.3	22.8	12.0	9.4	3.2	0.0	10.5	102.2
第3段階	141.8	101.3	64.3	23.7	0.0	37.1	27.9	396.1

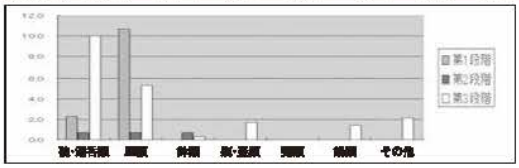


段階	E 地 区							
	碗・湯呑類	皿類	鉢類	瓶・壺類	甕類	鍋類	その他	合計
第1段階	114.5	134.9	22.3	7.0	0.0	0.0	45.0	323.7
第2段階	168.6	83.0	24.7	33.1	6.7	3.3	55.4	374.8
第3段階	795.0	238.1	150.2	34.4	13.0	159.3	157.8	1547.8

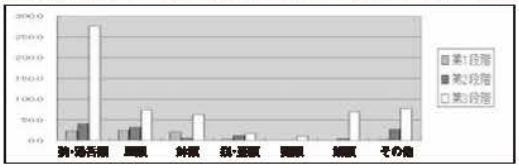


浦畑西

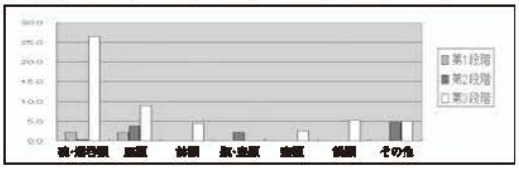
段階	B 地 区							
	碗・湯呑類	皿類	鉢類	瓶・壺類	甕類	鍋類	その他	合計
第1段階	2.3	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0
第2段階	0.7	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1
第3段階	10.0	5.3	0.3	1.7	0.0	1.4	2.1	20.8



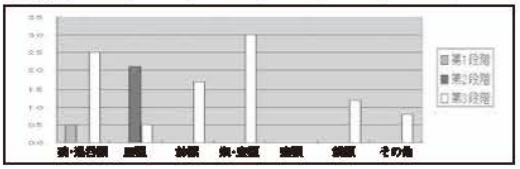
段階	C 地 区							
	碗・湯呑類	皿類	鉢類	瓶・壺類	甕類	鍋類	その他	合計
第1段階	23.0	23.5	20.4	3.0	0.0	0.0	2.2	72.1
第2段階	40.4	31.5	4.5	11.3	0.0	4.0	27.0	118.7
第3段階	274.9	73.0	62.2	16.4	9.3	68.7	76.1	580.6



段階	D 地 区							
	碗・湯呑類	皿類	鉢類	瓶・壺類	甕類	鍋類	その他	合計
第1段階	2.2	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3
第2段階	0.3	3.8	0.0	2.1	0.0	0.0	4.7	10.9
第3段階	26.5	8.9	4.4	0.0	2.5	5.3	5.0	52.6



段階	H 地 区							
	碗・湯呑類	皿類	鉢類	瓶・壺類	甕類	鍋類	その他	合計
第1段階	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
第2段階	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1
第3段階	2.5	0.5	1.7	3.0	0.0	1.2	0.8	9.7



土城跡と浦畑遺跡の土師器皿の出土量と全体比率を見ると明らかに上恵土城跡（Ａ・Ｆ地区）の土師器皿の比率が31％と高く、朝倉氏武家屋敷とまではいかないまでも、武家屋敷が存在していたことの裏付けとなりえよう。若干浦畑遺跡東区も高く、西側に向けて低くなる傾向を示している。当遺跡の土師器皿の中で煤の付着が認められたもの、大部分は飲食器として使用されていたと思われる。上恵土城跡の土師器皿の比率が31％と高いのは、ハレの場を意識できた階層の人々の居住空間であったことが考えられる。

第31表は、瀬戸美濃連房（第１～３段階）の時期分類と器種（用途別組成）分類を行ったものである。

浦畑遺跡西区（Ｈ・Ｂ・Ｃ・Ｄ地区）は、Ｃ区を除いて、全体に比べ大変出土量が少ない。遺構からの出土はごくわずかで、殆どが遺物包含層の出土である。時期別から考察すると近世前期から中期（第１・２段階）の遺物は、近世後期に比べて少なく、近世後期にかけては大変多くなる。このことから、中世末期より若干衰退した時期があって、やがて近世になり、徐々に再び集落を形成されていったとも考えられる。

また、器種（用途別組成）ごとの分類から考察すると、浦畑遺跡東区・上恵土城跡では碗や湯呑み類・皿類の供膳具がかなり多い。次に、鉢や瓶・壺・甕類の調理具や貯蔵具が次に多い。さらに、その他についても全地区ともに増加している。これは、灯火具・神仏具などが増加してきたのである。近世において、供膳具以外の器種が豊富になることであり、灯火具・神仏具などを使用する生活様式へ変化したことが考えられる。

第３節　まとめ

今回の調査では、中世（前期～末期）から近世（前期～後期）の遺構の変遷をたどることができ、遺構・遺物の面から上恵土城跡と浦畑遺跡東区と西区に形成時期が異なることや16世紀末から17世紀初頭にかけての両遺跡の変換期にあったことが推測された。ここで、中近世の城館跡や集落跡について、歴史的背景・遺構・遺物・地理的要因の四観点から分析したことを述べてまとめとしたい。

上恵土城跡が城館跡の一部であると考える根拠は

①現在に残り、「出口」「大屋敷」「小屋敷」など城を思わせる小字名と細長い地割りの存在。

②主軸の向きが一定でしかも溝に沿って立てられている一連の掘立柱建物跡の屋敷の存在。

③屋敷を囲む溝跡の存在と堀と考えられる溝跡、そして土塁が存在したと考えられる基底部の存在。

④文献の記載とそれを裏付ける同時代の遺物の出土。

（白瓷系陶器：脇之島３号窯式・生田２号窯式、常滑陶器、瀬戸美濃大窯、土師器皿、鉄砲玉）

⑤天目茶碗や香炉・土師器皿など生活雑器と区別される遺物の器種の確認。

⑥中位段丘面上にあり周囲から標高も高く、北側の木曽川、南に可児川に挟まれている要所である。

近くに旧東山道、中山道や犬山街道がある交通路の要所である可能性が高いこと。

以上の６点である。

上恵土城は16世紀に築城されたかもしれないが、白瓷系陶器（脇之島３号窯式・生田２号窯式以前）の出土も多くあることから、14世紀ごろから建物が建ち、16世紀には城館としての機能を有していったのだろう。そして、16世紀末に廃絶した。その後、18～19世紀には、再び区画溝を整備した中で近世集落となっていったと考えられる。

浦畑遺跡東区と西区では、集落の形成時期が異なっていた。中世集落の拡がりは、今までの遺構や遺物の変遷から、浦畑遺跡西区、西端で建物や井戸跡などの確認により、人の営みが存在し、やがて東へ集落が拡がっていく様相を見せた。

その要因の一つは、旧犬山街道が上恵土城跡に接するように存在し、城館の周囲が栄えるようになったためであろうと思われる。もう一つは地下水位の高さであろうか。井戸跡の分布状況からでも分かるように、上恵土城跡と浦畑遺跡東区特に南側に集中して井戸が確認できた。それは、建物群が形成された事実と同時に、地下水位が高いという水が得られやすい地理的要因があったのだろう。その点から浦畑遺跡西区では東区より若干標高が高いが、土層が厚く、地下水位が地盤から低いのが衰退の道をたどったかもしれない。従って林地などクリの木など草地になったと思われる。水回りの面で浦畑遺跡東区や上恵土城跡の方がよい土地事情があったと推測される。

当遺跡の中近世の城館跡や集落跡の変遷や様相について述べてきたが、今回の調査によって御嵩町上恵土周辺において、平安末期から江戸時代末期にかけての城館跡や集落跡の変遷・様相について伺い知ることができ、貴重な資料を得ることができた。

引用・参考文献

赤羽一郎　1984　『常滑焼～中世窯の様相～』　ニューサイエンス社

井川祥子　1997　「15世紀後半から16世紀前葉の土師器皿～中濃地域を中心として～」『美濃の考古学』第２号美濃の考古学刊行会

宇野隆夫　1992　「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗資料館研究報告』第40集

小野正敏　1991　『城館出土の陶磁器が表現するもの』『中世の城と考古学』

2002　『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会

小野木学　1997　「美濃地方における中世前期の土師器皿の様相」『美濃の考古学』第２号美濃考古学会刊行会

江戸遺跡研究会　2001　『図説　江戸考古学研究辞典』　柏書房

可児町　1980　『可児町史　通史編』

岐阜県教育委員会　2004　『岐阜県中世城館跡総合調査報告書』第３集

群馬県教育委員会　2000　「中世城館跡に見る版築土塁」『研究紀要18号』

埼玉県歴史資料館　1992　『研究紀要』第14号「城館跡等にみられる土塁の覚書」

財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　1996　『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界　～その生産と流通～』

財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　1997　『瀬戸美濃系大窯とその周辺』

財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　2001　『瀬戸大窯とその周辺』
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　2002　『財団法人瀬戸市埋蔵文化センター企画展 江戸時代の瀬戸窯』
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　2003　『財団法人瀬戸市埋蔵文化センター企画展 江戸時代の美濃窯』
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　2004　『財団法人瀬戸市埋蔵文化センター企画展 江戸時代の瀬戸・美濃窯』
財団法人岐阜県文化財保護センター　1995　『下巾上遺跡』
財団法人岐阜県文化財保護センター　2001　『佐口遺跡』
財団法人岐阜県文化財保護センター　2002　『徳山陣屋跡』
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター　2004　『深渡Ａ地点遺跡』
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター　2005　『柿田遺跡』
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター　2005　『重竹遺跡・上西田遺跡』
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター　2005　『土岐口西山３・４号古窯跡』
菅原正明　1989　『西日本における瓦器生産の展開』『国立歴史民俗博物館研究報告19集』
瀬戸市史編纂委員会　1998　『瀬戸市史　陶磁史篇一～五』
瀬戸市民俗資料館　1986　「瀬戸大窯発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』
田口昭二　1983　『考古学ライブラリー17 美濃焼』　ニューサイエンス社
　　2001　『美濃焼とは　古代から江戸時代まで』
中世土器研究会編　1996　『概説　中世の土器・陶磁器』
都立学校遺跡調査会　1990　『白鳳』
中野晴久　1997　『瓷器系中世陶器の生産』　財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
長谷部楽爾　1995　『日本出土の中国陶磁』　平凡社版
藤沢良祐　1994　「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要第３号』　三重県埋蔵文化センター
藤沢良祐　1986　「古瀬戸」『概説　中世の土器・陶磁器』
御嵩町　1992　『御嵩町史　通史編　上』
御嵩町教育委員会　2003　『上恵土城址』
三輪茂雄　1978　『石臼探訪』　産業技術センター

報告書抄録

ふ り が な	かみえどじょうあと・うらはたいせき
書　　名	上 恵 土 城 跡 ・ 浦 畑 遺 跡
シ リ ー ズ 名	岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第101集
編 著 者 名	鵜飼高男、小野木学、藤岡比呂志
編 集 機 関	財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター
所　在　地	〒502-0003　岐阜市三田洞東１－26－１　TEL. 058－237－8550
発 行 年 月 日	西暦2006年3月16日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
かみえどじょうあと 上恵土城跡	ぎふけんかにぐん 岐阜県可児郡 みたけちょう かみえどでぐち 御嵩町 上恵土出口	21512	07317	35° 25′ 57″	137° 04′ 33″	20010829～ 20030306 1,685㎡	一般国道21号可児御嵩バイパス建設
うらはたいせき 浦畑遺跡	ぎふけんかにぐん 岐阜県可児郡 みたけちょう かみえどうらはた 御嵩町 上恵土浦畑	21512	09631	35° 25′ 57″	137° 04′ 33″	20010528～ 20031209 6,255㎡	

所収遺跡名	種　別	主な時代	主　な　遺　構	主な遺物	特記事項
上恵土城跡	城館跡 集落跡	中世 近世	掘立柱建物跡６棟 柱穴列２状・井戸跡14基・水溜め状遺構９基・溝跡30条・土坑100基・ピット365基	白瓷系陶器 古瀬戸陶器・常滑陶器・中国磁器・大窯陶器・土師器皿・連房陶磁器・木製品	中世掘立柱建物跡５棟や堀跡と考えられる溝跡を確認。
浦畑遺跡	集落跡	中世 近世	掘立柱建物跡23棟・カマド跡１基・柱穴列４条・土塁２・井戸跡９基・水溜め状遺構３基・土間状遺構10基・溝跡125条・土坑627基・ピット1855基	白瓷系陶器 古瀬戸・常滑陶器 中国磁器・大窯 土師器皿 連房陶磁器 木製品	中世のカマドをもつ掘立柱建物跡や土塁、埋設穴５基を確認。

要約

上恵土城跡は、鎌倉時代後期から江戸時代にかけての遺構・遺物を確認した。室町時代後期を中心に掘立柱建物跡５棟や井戸跡、城館を囲む溝跡も確認した。遺物は中世土師器・瀬戸美濃大窯陶器が見つかった。中世城館の存在を裏付ける重要な事例となる

浦畑遺跡は、鎌倉時代前期から江戸時代にかけての遺構・遺物を確認した。土塁、地境溝、掘立柱建物跡23棟や井戸跡を確認した。西端から徐々に東南に集落が拡大し、上恵土城跡周辺の中近世集落の変遷を解明する事例となった。

「長谷川氏」と墨書が入った近世陶器（瓶掛）が出土した。上恵土城主に「長谷川五郎右衛門」という人物がいたことが文献で残されている。両者を関係づける史料はないが、「長谷川氏」という文字は上恵土城主の子孫を想像させる興味深い遺物であり、注目される。

岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書　第101集

上恵土城跡・浦畑遺跡

（本文編）

2006年3月16日

編集・発行　財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター
岐阜市三田洞東1-26-1

印　　刷　ヨツハシ株式会社

上恵土城跡（かみえどじょうあと）・浦畑（うらはた）遺跡

（本文編）

２００６

財団法人岐阜県教育文化財団

上原土城跡調査区全景（東から）

浦畑遺跡調査区全景（西から）

浦畑遺跡より出土：「長谷川氏」と墨書が入った瓶掛

浦畑遺跡：中世の土壇跡（北から）

上原土城跡・浦畑遺跡より出土：中近世陶器